アジアの経済・経営Ａ

2019-4020000409-01

王　効平

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・１時限　　試験時間割：2019/07/24　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

20世紀末の「アジア金融（通貨）危機」の発生を契機に、アジアの経済発展に対する見方が大きく揺らぎ、「世界経済の成長センター」、「東アジアの奇跡」から一転「世界経済不況の震源地」、「幻のアジア経済成長」、「コネ資本主義」などへ、マスコミ界に留まらず、学術界においても評価が180度の転換を見せていた時期があった。
しかし、東アジア経済は危機発生3年後に奇跡的な回復を見せ、しばしば崩壊説の対象になっていた中国経済も様々な課題に直面しながらも好景気を持続させてきた。特にリーマンショックによる世界不況が起こった後でも、アジア経済は堅調な成長を見せてきている。従って、欧米発の固定観念や既存の理論に立脚したアジア論や一部マスコミによる短絡な評価に翻弄されずに、アジア経済発展の歴史、共通の開発モデル、構造的特徴（強みと弱み）を捉えるべく、実地調査を踏まえた客観的な調査分析が求められる。
本講義は上記のような問題意識を持って担当者の長年にわたる東アジア（ASEAN、NIESと日・中・韓からなる地域）経済に関する実地調査研究の経験、自らの分析視角を生かして、当該地域の経済開発の背景、経済成長・経済構造の特徴を伝えていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

アジア経済発展の歴史、背景、実情についての基本的な知識を身に着けることができる。(知識・理解)

具体的な経済開発政策の成功、失敗の事例を通して、アジア経済のダイナミズム、課題を説明することができる。(知識・理解)

アジアの経済・経営の諸課題解決の歴史と経験を学ぶことによって、国際経済のみならず、日本の地域経済の諸課題解決のヒントを学ぶことができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

＊教科書を採用しないが、必要に応じて参考資料を事前に配布する。これらを活用し、事前学習して講義に臨むこと。
＊講義中における小テストの実施または課題を課す予定、しっかりと復習すること。
＊グローバル的視野を養うため、国内外の報道や媒体を通して基本情報を吸収してもらいたい。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

＊評価基準
①アジア経済に関する知識を正確に広く吸収し、独自の見解を述べられるか否か。
②課題レポートの完成度（論理的展開、独自の見解の有無）・課題レポートや小テストの成績。
＊評価方法
①定期試験（60%）
②課題レポート・小テスト（40%）
③講義中に教員の問題提起への自主発言・見解の発表に一定の点数を付加する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

プリント資料の配布

◎－－－　参考書　－－－◎

末広昭著『新興アジア経済論――キャッチアップを超えて』岩波書店、2014年　ISBN 978-4-000-28742-5
岩崎育夫著『現代アジア政治経済学入門』東洋経済新報社、2016年　ISBN 978-4-492-44250-2
ウェブNEWS（東アジア地域全般）
必要に応じて随時指定

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

１.「国際経済学」、「国際経営論」、「アジア経済論」など関連する科目を受講した上での履修か、同時履修が望ましい。
２.私語厳禁。
３.質疑は随時受け付ける。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　東アジア経済・経営分析の枠組み
２　東アジア政治・経済・社会状況の概観
３　経済成長の軌跡・特徴
４　経済高成長の要因分析Ⅰ
５　経済高成長の要因分析Ⅱ
６　グローバル化の影響の検証Ⅰ：貿易統計の利用
７　グローバル化の影響の検証Ⅱ：投資統計の利用
８　域内経済相互依存度に関する検証
９　アジア金融危機発生の真因
１０　アジア金融危機の影響
１１　アジア金融危機の対応策
１２　アジア地域包括的FTA締結の必要性
１３　アジア地域包括的FTA締結の可能性、進捗
１４　現存する重要な課題の提起
１５　総合質疑応答

アジアの経済・経営Ａ

2019-4020000409-01

王　効平

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.アジア経済発展の歴史、背景、実情についての基本的な知識を身に着けることができる。　(A-1)

2.具体的な経済開発政策の成功、失敗の事例を通して、アジア経済のダイナミズム、課題を説明することができる。　(A-2)

3.アジアの経済・経営の諸課題解決の歴史と経験を学ぶことによって、国際経済のみならず、日本の地域経済の諸課題解決のヒントを学ぶことができる。(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.アジア経済発展の歴史、背景、実情についての基本的な知識を身に着けることができる。　(A-1)

2.具体的な経済開発政策の成功、失敗の事例を通して、アジア経済のダイナミズム、課題を説明することができる。　(A-2)

3.アジアの経済・経営の諸課題解決の歴史と経験を学ぶことによって、国際経済のみならず、日本の地域経済の諸課題解決のヒントを学ぶことができる。(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

アジアの経済・経営Ａ

2019-4020000409-01

王　効平

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.アジア経済発展の歴史、背景、実情についての基本的な知識を身に着けることができる。　(A-1)

2.具体的な経済開発政策の成功、失敗の事例を通して、アジア経済のダイナミズム、課題を説明することができる。　(A-2)

3.アジアの経済・経営の諸課題解決の歴史と経験を学ぶことによって、国際経済のみならず、日本の地域経済の諸課題解決のヒントを学ぶことができる。(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.アジア経済発展の歴史、背景、実情についての基本的な知識を身に着けることができる。　(A-1)

2.具体的な経済開発政策の成功、失敗の事例を通して、アジア経済のダイナミズム、課題を説明することができる。　(A-2)

3.アジアの経済・経営の諸課題解決の歴史と経験を学ぶことによって、国際経済のみならず、日本の地域経済の諸課題解決のヒントを学ぶことができる。(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

アジアの経済・経営Ｂ

2019-4020000410-01

王　効平

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・１時限　　試験時間割：2020/01/16　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

　前期の「アジア経済・経営A」など関係科目を受講した上で、特に比較経営の視点から、東アジア型の経営システムの特徴を中心に学んでいく。共通の尺度（枠組み）でもって異なる文化背景を有する企業グループの企業統治の特性を概観したうえ、経営目標、経営戦略、経営組織、管理方式などの企業経営の内部特性に焦点を絞っていく。
　後半ではグローバル化の急進展に伴う経営現地化の進展と課題、国際合弁・国際事業提携に見られる経営摩擦の課題に触れる。担当教員が実施してきたヒアリング調査を踏まえた複数のケース（アジア進出の日系企業とアジア現地系企業の事例）を取り上げ、活きた教材によってアジア型経営に対する理解を更に深めて行く。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営学および会計学をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。(知識・理解)

経営学および会計学の知識を用いて企業活動を説明することができる。(知識・理解)

経営学および会計学の知識を用いて企業のあるべき経営管理を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

＊指定したまたは講義中配布した参考資料の事前予習が望ましい。
＊講義中に小テストを複数回実施する、または課題を課す予定、講義済みの内容をしっかりと復習すること。
＊グローバル的視野を養うため、国内外の報道・媒体を通して独自で国際情勢に関する基本情報を吸収してもらいたい。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

＊評価基準
①アジア経済に関する知識を広く正確に吸収し、独自の見解を述べられるか否か。
②課題レポートの完成度（論理的展開、独自の見解の有無）・課題レポートや小テストの成績。
＊評価方法
①定期試験（60%）
②課題レポート・小テスト（40%）
③講義中に教員の問題提起への自主発言・見解の発表に一定の点数を付加する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

8月に刊行される予定の書物を使用する予定

◎－－－　参考書　－－－◎

王効平ほか著『日中韓企業の経営比較』税務経理協会、2005　ISBN 4-419-04630-9
王効平著『華人系資本の企業経営』日本経済評論社、2001　ISBN 4-8188-1342-7

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1「国際経済学」、「国際経営論」、「アジア経済論」、「アジアの経済・経営A」など関連の科目を受講した上での履修か同時履修が望ましい。
2 私語厳禁。
3 質疑は随時受け付ける。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　経営比較の枠組み
2　コンテェーンジェーシー理論の視点
3　東アジア域内、特に日中（中華）企業間経営システム比較に焦点を絞る理由
4　企業統治について
5　経営目標について
6　経営戦略について
7　経営組織について
8　管理様式について
9　経済グローバル化との関連
10 経営現地化の進展と課題
11 アジア進出日系企業の事例（ケースⅠ）
12 中華系企業の事例 （ケースⅡ）
13 国際事業提携と経営摩擦
14 日・中華合弁事業の事例（ケースⅢ）
15 総合質疑

アジアの経済・経営Ｂ

2019-4020000410-01

王　効平

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.経営学および会計学をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.経営学および会計学の知識を用いて企業活動を説明することができる。(A-2)

3.経営学および会計学の知識を用いて企業のあるべき経営管理を説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.経営学および会計学をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.経営学および会計学の知識を用いて企業活動を説明することができる。(A-2)

3.経営学および会計学の知識を用いて企業のあるべき経営管理を説明することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

アジアの経済・経営Ｂ

2019-4020000410-01

王　効平

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.経営学および会計学をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.経営学および会計学の知識を用いて企業活動を説明することができる。(A-2)

3.経営学および会計学の知識を用いて企業のあるべき経営管理を説明することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.経営学および会計学をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.経営学および会計学の知識を用いて企業活動を説明することができる。(A-2)

3.経営学および会計学の知識を用いて企業のあるべき経営管理を説明することができる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

意思決定会計論

2019-4020000620-01

飛田　努

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・１時限　　試験時間割：2020/01/25　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は「経営分析論」で学んだ知識を基礎として，企業の意思決定において会計情報（特に管理会計情報）がいかに活用されているのかについて学習します。具体的には（1）企業経営の仕組みへの理解，（2）会計情報を読み解くという「経営分析論」の学習内容に加えて，（3）企業経営者や管理者が意思決定を行う際に必要となる会計情報を「事業や事業部の存続・廃止」，「設備投資」，「資金繰り（キャッシュ・フロー分析）」という3つの側面を中心に講義します。また，これらの考え方は企業価値評価を行う際にも用いられるので，基礎的な企業価値評価に関する理論についても講義します。
そのため，講義は2回あるいは3回で1つのテーマを取り上げます。初めの1回で理論の解説，次の1回ないしは2回でケーススタディやVTR，例題を解くことを通じて会計情報が企業経営者や管理者の意思決定にとって有用であるのかについて講義します。若干応用的な論点が含まれますが，実際に企業や金融機関などで会計情報がどのように用いられているのかを意識しながら，講義を進めていきます。
なお，意思決定会計論は，経営分析論や管理会計論と同様に会計学と経営学の学際的領域ではありますが，財務諸表の作成や会計制度への理解よりも，企業経営の現場で用いられる「会計情報をどう読むか」に重点を置いた講義を行うので，会計学を学んだことがない学生でも積極的に受講してください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

特に管理会計論を中心とした企業経営者や管理者が意思決定する際に用いる会計情報がいかに作成され，利用されるのかについて基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，企業活動がどのように行われているのかを説明することができる。(知識・理解)

企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，いかに経営管理がおこなれているのかを説明することができる。(知識・理解)

特に設備投資意思決定計算やキャッシュ・フロー計算で用いられる技法を用いて，企業の財務活動を説明することができる。(知識・理解)

講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。(技能)

講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。(技能)

理論への理解や計算問題演習を主体的に学ぶことができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回講義の予習・復習の範囲を提示するので，必ず予習・復習をすること。予習は事前に指定する範囲を30分程度，復習は講義内容の理解のみならず，計算問題演習等を踏まえて60分程度行うこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として期末試験で評価を行う。試験では「事業や事業部の存続・廃止」，「設備投資」，「資金繰り」という講義内で取り上げる3つの視点について出題し，それぞれについて基礎的な理論への理解がなされているのかについて出題する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

松村勝弘・松本敏史・篠田朝也・西山俊一『新訂版財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』Bkc（ISBN 978-4939051562）

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講義は「経営分析論」や「管理会計論」とあわせて履修することが望ましい。
積極的な発言が評価点につながることもあるので，発言を求められた際には積極的に発言してください。
なお，講義内で計算を行うことがあるので電卓を持参してください。定期試験において携帯電話や電子辞書の電卓機能を使用することは認めません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　講義ガイダンス
第2回　ROEは株主と経営者を結ぶ紐帯
第3回　損益分岐点分析・直接原価計算（1）
第4回　損益分岐点分析・直接原価計算（2）
第5回　業務的意思決定（1）
第6回　業務的意思決定（2）
第7回　業務的意思決定（3）
第8回　付加価値分析
第9回　設備投資意思決定計算（1）
第10回　設備投資意思決定計算（2）
第11回 キャッシュ・フロー分析（1）
第12回 キャッシュ・フロー分析（2）
第13回 キャッシュ・フロー分析（3）
第14回 企業価値の測定
第15回 講義のまとめ

意思決定会計論

2019-4020000620-01

飛田　努

◎経営:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.特に管理会計論を中心とした企業経営者や管理者が意思決定する際に用いる会計情報がいかに作成され，利用されるのかについて基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，企業活動がどのように行われているのかを説明することができる。　(A-2)

3.企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，いかに経営管理がおこなれているのかを説明することができる。　(A-2)

4.特に設備投資意思決定計算やキャッシュ・フロー計算で用いられる技法を用いて，企業の財務活動を説明することができる。　(A-3)

5.講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。　(B-1)

6.講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。　(B-2)

7.理論への理解や計算問題演習を主体的に学ぶことができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3

1.特に管理会計論を中心とした企業経営者や管理者が意思決定する際に用いる会計情報がいかに作成され，利用されるのかについて基本的な知識を身につけている。　(A-2)

2.企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，企業活動がどのように行われているのかを説明することができる。　(A-2)

3.企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，いかに経営管理がおこなれているのかを説明することができる。　(A-2)

4.特に設備投資意思決定計算やキャッシュ・フロー計算で用いられる技法を用いて，企業の財務活動を説明することができる。　(A-2)

5.講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。　(A-3)

6.講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。　(A-3)

7.理論への理解や計算問題演習を主体的に学ぶことができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

意思決定会計論

2019-4020000620-01

飛田　努

◎貿易:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.特に管理会計論を中心とした企業経営者や管理者が意思決定する際に用いる会計情報がいかに作成され，利用されるのかについて基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，企業活動がどのように行われているのかを説明することができる。　(A-2)

3.企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，いかに経営管理がおこなれているのかを説明することができる。　(A-2)

4.特に設備投資意思決定計算やキャッシュ・フロー計算で用いられる技法を用いて，企業の財務活動を説明することができる。　(A-3)

5.講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。　(B-1)

6.講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。　(B-2)

7.理論への理解や計算問題演習を主体的に学ぶことができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.特に管理会計論を中心とした企業経営者や管理者が意思決定する際に用いる会計情報がいかに作成され，利用されるのかについて基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，企業活動がどのように行われているのかを説明することができる。　(A-2)

3.企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，いかに経営管理がおこなれているのかを説明することができる。　(A-2)

4.特に設備投資意思決定計算やキャッシュ・フロー計算で用いられる技法を用いて，企業の財務活動を説明することができる。　(A-3)

5.講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。　(B-1)

6.講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。　(B-2)

7.理論への理解や計算問題演習を主体的に学ぶことができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

意思決定会計論

2019-4020000620-02

篠原　巨司馬

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：2020/01/21　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は経営するためにどのように会計を利用していくかという問題を扱う。
これまで試験などを受けて，成績を測定し何ができて何ができてないかを把握し勉強が足りない部分を見つけ重点的に取り組むというようなことをした経験があるだろう。あるいは体力を測ったりスポーツの技能をデータで確認（シュート成功率は何%，インターセプト何本とかです）し，どの能力が高くどの能力が足りないかということを把握してより自分を高めるためのトレーニングをするというような経験があるだろう。
経営もこれと同じで，自分の能力を測ったり，外部の環境の中で自社がどのような位置にいるかといった経営情報を把握することで次にやるべき取り組みを見出すことが肝要となる。
そのような経営情報の一つに管理会計情報がある。
本講義では，この管理会計情報をどのように測定するかという側面と，その情報をいかに利用し組織をコントロールするかという側面と両面からアプローチする。後者に関しては，組織成員への影響プロセスについての最先端の研究を適宜紹介しながら議論していきたい。
また講義では主にケーススタディを通して理論を学ぶ。
なお，本講義は，会計と名前がついているが，会計だけでなくマーケティング論，戦略論，生産管理論，労務管理論など経営全体に対する総合的な理解が必要である。適宜補足はするが，それらに触れたことがない場合は，追加的に学習する必要があるだろう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

管理会計の用語を理解している(知識・理解)

管理会計情報を分析できる(知識・理解)

管理会計情報から課題を発見できる(知識・理解)

意思決定の問題を発見できる(技能)

意思決定問題の解決のための情報を作れる(技能)

会社情報に対するアンテナを張っている(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

教科書を読んでくることを前提に話を進める。
また，各自でウェブサイトや新聞，ニュース等から現代企業の経営の問題について常にアンテナを張り情報を得ること。
時間外学習としてエッセイやレポートを執筆してもらう。
目安として毎週２時間程度は意思決定会計に関わる問題について取り組むことを推奨する。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

上記到達目標すべてに達しているかどうかを基準とする。

評価方法は以下の通りである。
期中のエッセイ・レポート(複数回を予定)50%
期末テスト50%

◎－－－　テキスト　－－－◎

上總康行『ケースブック管理会計』新世社
ISBN978-4-88384-211-7

◎－－－　参考書　－－－◎

櫻井通晴『管理会計〔第六版〕』同文館出版
ISBN 978-4495161460

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

２年から受講できるが，経営の総合的な見方を必要とするため，ある程度経営の全体像を学んでから受講することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. ガイダンス
　（「管理会計論」の振り返り：管理会計のフレームワーク）
2. 戦略とマネジメント・コントロール
3. ケーススタディ：会計による戦略マネジメント
4. 直接原価計算
5. 事業セグメント利益管理
6. バリューチェーンマネジメントと会計
7. 購買管理会計
8. 生産管理会計
9. 品質管理会計
10. 販売管理会計
11. 管理会計のフロンティア（１）
12. 管理会計のフロンティア（２）
13. 管理会計のフロンティア（３）
14. ケーススタディ
15. 振り返り

意思決定会計論

篠原　巨司馬

2019-4020000620-02

◎経営:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.管理会計の用語を理解している　(A-1)

2.管理会計情報を分析できる　(A-2)

3.管理会計情報から課題を発見できる　(A-3)

4.意思決定の問題を発見できる　(B-1)

5.意思決定問題の解決のための情報を作れる　(B-2)

6.会社情報に対するアンテナを張っている　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3

1.管理会計の用語を理解している　(A-2)

2.管理会計情報を分析できる　(A-2)

3.管理会計情報から課題を発見できる　(A-3)

4.意思決定の問題を発見できる

5.意思決定問題の解決のための情報を作れる

6.会社情報に対するアンテナを張っている

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

意思決定会計論

2019-4020000620-02

篠原　巨司馬

◎貿易:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.管理会計の用語を理解している　(A-1)

2.管理会計情報を分析できる　(A-2)

3.管理会計情報から課題を発見できる　(A-3)

4.意思決定の問題を発見できる　(B-1)

5.意思決定問題の解決のための情報を作れる　(B-2)

6.会社情報に対するアンテナを張っている　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.管理会計の用語を理解している　(A-1)

2.管理会計情報を分析できる　(A-2)

3.管理会計情報から課題を発見できる　(A-3)

4.意思決定の問題を発見できる　(B-1)

5.意思決定問題の解決のための情報を作れる　(B-2)

6.会社情報に対するアンテナを張っている　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

応用経営財務論「14台以前」

2019-4020000396-01

水野　博志

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・２時限　　試験時間割：2020/01/16　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

経営財務論Ｂ（応用経営財務論）として、実践株式投資論を考える。実践株式投資というのは、株式投資を長く続け、成功するための株式投資論である。

株式投資に関しては、短期的な利益を目的としたハウツーものの株式投資論は山のようにある。しかし、長く成功してきた株式投資家はアメリカの大富豪、ウォーレン・バフェットくらいで、一時的に成功しても長くは続いたことは聞いたことがない。むしろ失敗例が尽きない。

はじめに株式の評価について勉強する。株は将来の配当の予想、金利とその企業のリスクによって決まってくるがいずれも客観性がない。そのために激しく変動するといえる。企業のリスクに関しては、個別企業のリスクだけでなく、市場リスクとの連動性が重要である。その考えをポートフォリオ理論を通じて学ぶ。

短期の株価変動は、株式の需給によって説明される。とりわけ激しい株価変動は企業の業績見通しが変化したというより、大量の資金が激しく動いていることに原因がある。この視点は激しい株価変動に対処する上で、極めて重要である。

実際の株価の動きを理解するためには、理論的枠組みを勉強するばかりでなく、マーケットの構造を見る必要がある。日本の市場の特徴は個人投資家の層が薄く、なかなか増大しないことにある。その理由を、わたし自身が行った3回の調査によって明らかにし、個人投資家を増やすためには正しい株式投資教育が必要であることを指摘する。

株式投資のリスクは極めて大きく、リスクを減らす方法を考える。わたし自身の株式投資を通じた経験をお話しする。最後に株式投資の意義について様々な角度から検討する。極めて難しい日本経済の中で、株式投資をすることによって情報に敏感になることの重要性を指摘する。

最後に稲盛和夫氏の「働き方」を紹介し、株式投資と「働くこと」の関連について考えてみる。

この講義の大きな特徴は、毎回授業のはじめに受講者に株価の動きと経済ニュースをスマートフォンで検索してもらい、わたしがそれを解説することにある。株価は全ての情報を反映し、その動きを知ることによって、世界経済、日本経済の動きが身近になる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

株式変動について理解できる。(知識・理解)

株価トレンドについて説明できる。(知識・理解)

株式投資の基本的考えを説明できる。(知識・理解)

毎日の株価動向に興味を持つようになる。(知識・理解)

株価について説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習・復習として特に重要なのは、日経Webで、株式市場を中心にしたマーケットの動きを見ることである。毎日、株価、外国為替、ニュースを検索するのに30分程度の時間が必要と思われる。日経Webにはマーケットの動きに対する解説が書かれているのでそれを読むこと。さらに高度な予習・復習としては、「エコノミスト」や「東洋経済」によって、日経Webの記事よりも長いトレンドで経済を見る目を養うことである。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

試験の成績によって評価する。

出席を含む平常点を考慮して行うが、ゼミのように出席が悪ければ単位が取れないということはない。4年生の場合、しばしば就職活動で授業に出れない場合があるが、試験の結果が良ければ全く問題はない。

試験では株価についての理解度、日本の株式市場について理解度、リスクの下げ方、銘柄選定についての理解度をテストする。ただし、レポート提出、小テストのようなものは一切ない。

◎－－－　テキスト　－－－◎

水野博志著『日本の個人投資家』愛育社、2008、2800円、ISBN978-4-7500-0341-2

◎－－－　参考書　－－－◎

矢口新著『生き残りのディーリング』パンローリング、2007、2800円　ISBN 978-4-7500-0341-2
内藤忍著『内藤忍の資産設計塾』自由国民社、2008、1700円　ISBN 978-4-426-10510-5
稲盛和夫著『働き方』　ISBN 978-4-8379-2310-7

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

経営財務論Ｂ（応用経営財務論）ということで、経営財務論Ａ（基礎経営財務論）の履修者が望ましいが、履修しなかったとしても、株式投資に興味があれば十分である。他方、経営財務論Ａ（基礎経営財務論）を履修した人は、この講義を是非履修して頂きたい。授業では、わたし自身のビジネス、株式投資の体験も語るので、講義は非常に実践的である。わたしは単なる知識の伝授ではなく、感動を与える授業を目指している。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　株式の評価式（配当還元モデル）
2　株価はなぜ激しく変動するのか
3　ポートフォリオ理論
4　短期の株価変動と株式市場の均衡(1)
5　短期の株価変動と株式市場の均衡(2)
6　日本の株価のトレンド
7　日本の株式市場の特徴
8　日本の株式市場の構造
9　個人投資家のアンケート調査
　ネット取引前
10　個人投資家のアンケート調査
　ネット取引開始直後
11　個人投資家のアンケート調査
　ネット取引普及期
12　個人投資家とネット取引
13　長期国際分散投資
14　短期リスク・ヘッジの方法
15　稲盛和夫氏の「働き方」と株式投資

応用経営財務論「14台以前」

水野　博志

2019-4020000396-01

◎経営

1.株式変動について理解できる。　(A-1)

2.株価トレンドについて説明できる。　(A-2)

3.株式投資の基本的考えを説明できる。　(A-3)

4.毎日の株価動向に興味を持つようになる。　(A-4)

5.株価について説明できる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

応用経営診断論

2019-4020000611-01

遠藤　真紀

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・５時限　　試験時間割：2020/01/16　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

経営診断は，各種経営学理論と実際の経営とを橋渡しする機能を有している。つまり経営における経営学理論の活用法を考える事に他ならない。企業の「持続的な成長」には，経済や社会の環境変化に対応し，経営革新や新分野進出などによる「経済的価値の創造（利潤の追求）」が必要である。また人間性や社会性および環境問題等への配慮を重視した「社会的価値の創造（社会貢献）」も必要である。更にコーポレートガバナンス等を意識した経営方針の確立も重要である。一方，企業経営だけでなく，福祉活動等を推進するＮＰＯや第３セクターなど，これまで経営の対象とされてこなかった医療，福祉，農林水産業など，新たな産業分野の経営診断も必要となっている。

このように企業等経営体の活動内容が複雑かつ多岐にわたるようになり，経営診断も高度化・総合化されている。応用経営診断論では，経営診断で学習した経営の基本や経営診断の体系を踏まえ，具体的な診断・支援（含むコンサルティング）理論や技法として，各種システムや業種別の分析および診断手法等についての理解を図っていく。また事例研究やビデオ演習等を通じて，経営診断の基礎的技法の習得や経営実践（だけでなく社会生活）における「ものの観方・考え方」についての涵養を図る。

基本的にはテキストを中心に講義を進めるが，事例研究や演習等も交えて理解を深めていく。テキストだけでなく，講義内容や関係する経営学各科目の復習および経済・社会などの時事問題等への好奇心も必要である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。(知識・理解)

経営システム・経営管理システム・業務システム等について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。(知識・理解)

製造業・卸売業・小売業等々，業種・業態の本質について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。(知識・理解)

診断事例演習等を通じて，具体的な診断項目や診断技法等を理解し，説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

主にテキストを利用するので，講義の前後にテキストを読み，予習・復習を行うこと（１～２時間程度）。また指示された演習課題やレポートへ積極的に取り組むこと（１～２時間程度）。

具体的な企業・店舗および商品等を事例として取り上げて解説するため，その企業・店舗を訪問したり，その商品等を実際に利用したりすることで，講義内容をより一層理解する事ができる。

経営診断には幅広い経営学の知識が必要なため，講義前後にテキストを参照の上，関係する経営学関連科目の予習・復習を行うことで，より経営診断の理解が促進されるとともに，各経営学関連科目への興味も合わせて増すことができる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：テキストおよび事例研究や演習等を通じて講義した内容について，十分な理解があり，経営のあり方や経営診断の基本だけでなく診断項目や診断技法についても，自らのことばで説明できること。指示された演習課題やレポートは，主体的に取り組み，課題や設問に対して，自らの考えを空欄なくすべて解答していること。
評価方法・割合：定期試験（60%），演習課題・レポート（30%）および課題等への取り組み度合いや授業への貢献度（10%）を総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

岸川善光著『経営診断要論』同文舘出版，2007年，3,564円（税込），ISBN978-4-495-37721-2

◎－－－　参考書　－－－◎

岸川善光編著『ケースブック経営診断要論』同文舘出版，2,808円（税込）　ISBN 978-4-495-37661-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

自身が経営コンサルタントや経営者になりたいかどうかに関係なく，将来，ビジネスマンとして活躍するためには，企業経営だけでなく経済や社会の動きそのものに興味を持っている必要がある。経営診断は，経営学の各理論を活用するため，できるだけ多くの経営学関連科目を履修する（している）ことが望ましい。

なお「経営診断論（前期）」と「応用経営診断論（後期）」は独立した科目として開講され講義が進められるが，連続して学ぶことで，より内容の理解が促進されるため，一連の科目として履修することが期待される。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　講義の目的と進め方
２　経営診断論のレビュー（前期科目の確認）
３　経営システムの診断
４　－環境・戦略・組織への適合診断
５　－顧客・インターフェイス・内部適合の診断
６　診断事例演習④
７　経営管理システムの診断
８　－人的資源管理・財務管理システムの診断
９　－情報管理・法務管理システムの診断
１０　診断事例演習⑤
１１　業務システムの診断
１２　業種別の診断
１３　－製造・卸売・小売・サービス等
１４　診断事例演習⑥
１５　講義のまとめ

応用経営診断論

2019-4020000611-01

遠藤　真紀

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。　(A-1)

2.経営システム・経営管理システム・業務システム等について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。　(A-2)

3.製造業・卸売業・小売業等々，業種・業態の本質について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。　(A-2)

4.診断事例演習等を通じて，具体的な診断項目や診断技法等を理解し，説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。　(A-1)

2.経営システム・経営管理システム・業務システム等について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。　(A-2)

3.製造業・卸売業・小売業等々，業種・業態の本質について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。　(A-2)

4.診断事例演習等を通じて，具体的な診断項目や診断技法等を理解し，説明できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

応用経営診断論

2019-4020000611-01

遠藤　真紀

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。　(A-1)

2.経営システム・経営管理システム・業務システム等について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。　(A-2)

3.製造業・卸売業・小売業等々，業種・業態の本質について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。　(A-2)

4.診断事例演習等を通じて，具体的な診断項目や診断技法等を理解し，説明できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。　(A-1)

2.経営システム・経営管理システム・業務システム等について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。　(A-2)

3.製造業・卸売業・小売業等々，業種・業態の本質について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。　(A-2)

4.診断事例演習等を通じて，具体的な診断項目や診断技法等を理解し，説明できる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

オペレーションズリサーチ

2019-4020000405-01

福山　博文

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・３時限　　試験時間割：2020/01/25　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　オペレーションズリサーチ（Operations Research、略してＯＲ）は、経営・政策上で生じた問題を科学的に解決する方法や、合理的な意思決定をするための理論と方法を研究する学問領域です。問題が生じた場合、企業の経営者や政府の政策担当者は、いろいろな代替案のうちから、あらかじめ決められた選考基準に基づき採決します。そこで、問題の根本にある法則を数式などで表現し、理論を展開していくことにより明確で合理的な解答を見出す必要があります。このための基礎を与えてくれるのがＯＲです。
　本講義では、資源配分における問題解決のための数理的手法と意思決定の方法を学びます。まず、ＯＲと意思決定とはどういうものなのかを講義し、それからＯＲの基本的なツール（道具）である線形計画法や動的計画法ならびにその応用理論について解説します。
　高度な数学的知識は必要ではありません。講義をきちんときいて練習問題を真剣に解いていけば数学の苦手な人でも大丈夫だと思います。もし、わからない事があれば、遠慮なく、授業終了後、あるいはオフィスアワーに、研究室を訪れるなりして質問して下さい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

様々な数理手法を学び、科学的な思考を身に着ける。(知識・理解)

オペレーションズリサーチが、いつ、どこでどのように始まったか説明できるようになる。(技能)

線形計画法は、どのような問題を解決するために用いられるか説明できるようになる。(技能)

授業で紹介した例題の意味を理解し、解答できるようになる。(技能)

不確定要素が存在するときに、どのような考え方をすれば良いか説明することができるようになる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・前回の講義の内容を復習してから、授業に出席すること（30分）。
・配布資料がある場合には、事前に読んでおくこと。（20分）
・事後には授業の内容と小テストの問題を復習すること。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・商学や経営学の勉強に必要な数学の基礎知識を習得し、現実の問題に応用できるかどうかを評価基準とする。

評価方法
・原則として定期試験を70%、課題レポート及び小テスト30%による。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　テキストは用いません。ノート中心の講義です。

◎－－－　参考書　－－－◎

・　　田畑吉雄『経営科学入門』牧野書店　ISBN 4-7952-0135-8
・　　藤田勝康『ExcelによるＯＲ演習』日科技連　ISBN 4-8171-5033-5
・　　福田治朗・児玉正憲・中道博『ＯＲ入門』多賀出版　ISBN 4-8115-2204-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1.「オペレーションズリサーチ」は、3年次で履修することが望ましい。
2.受講に際しては、ルート（平方根）の計算ができる電卓を持参すること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．オペレーションズリサーチとは（１）
２．オペレーションズリサーチとは（２）
３．線形計画法（１）
４．線形計画法（２）
５．線形計画法（３）
６．ゲームの理論（１）
７．ゲームの理論（２）
８．ゲームの理論（３）
９．動的計画法（１）
１０．動的計画法（２）
１１．動的計画法（３）
１２．決定理論（１）
１３．決定理論（２）
１４．決定理論（３）
１５．決定理論（４）、まとめ

オペレーションズリサーチ

2019-4020000405-01

福山　博文

◎経営:A-1,B-2

1.様々な数理手法を学び、科学的な思考を身に着ける。　(A-1)

2.オペレーションズリサーチが、いつ、どこでどのように始まったか説明できるようになる。　(B-2)

3.線形計画法は、どのような問題を解決するために用いられるか説明できるようになる。　(B-2)

4.授業で紹介した例題の意味を理解し、解答できるようになる。　(B-2)

5.不確定要素が存在するときに、どのような考え方をすれば良いか説明することができるようになる。　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,B-2

1.様々な数理手法を学び、科学的な思考を身に着ける。　(A-1)

2.オペレーションズリサーチが、いつ、どこでどのように始まったか説明できるようになる。　(B-2)

3.線形計画法は、どのような問題を解決するために用いられるか説明できるようになる。　(B-2)

4.授業で紹介した例題の意味を理解し、解答できるようになる。　(B-2)

5.不確定要素が存在するときに、どのような考え方をすれば良いか説明することができるようになる。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

オペレーションズリサーチ

2019-4020000405-01

福山　博文

◎貿易:A-1,B-2

1.様々な数理手法を学び、科学的な思考を身に着ける。　(A-1)

2.オペレーションズリサーチが、いつ、どこでどのように始まったか説明できるようになる。　(B-2)

3.線形計画法は、どのような問題を解決するために用いられるか説明できるようになる。　(B-2)

4.授業で紹介した例題の意味を理解し、解答できるようになる。　(B-2)

5.不確定要素が存在するときに、どのような考え方をすれば良いか説明することができるようになる。　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

会計学特論

2019-4020000619-01

池田　健一

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・４時限　　試験時間割：2020/01/20　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

2010年3月期の年度の連結財務諸表から、所定の条件を満たす日本の
上場企業に対して、国際財務報告基準（ＩＦＲＳ）の任意適用が認められています。2019年１月時点で、日本電波工業、ＨＯＹＡ、住友商事をはじめ199社が任意適用を選択しています。
業種別にみると電気機器が最も多く、医薬品、情報、通信業、卸売業、サービス業も多数の企業が任意適用を行っています。
また、日本企業の財務報告の透明性を高め、国際的に信頼できるようにするため、日本の会計ルールに国際財務報告基準（ＩＦＲＳ）を採り入れる動きが継続しています。
そこで本講義では、国際財務報告基準や日本の会計ルールに関心を持つ受講生に、連結会計、税効果会計、外貨換算会計、キャッシュ・フロー計算書を含む、さまざまなテーマについて理解を深めてもらうことを目標とします。
なお、講義では、国際財務報告基準についての学習が中心となりますが、一部の論点については日本の会計ルールも学習します。
授業は、テキストの重要論点について基礎的な内容から説明していき、各テーマの概要を理解してもらおうと考えています。また、授業中に短いレポートを作成してもらったり各テーマに関する練習問題を解いてもらうことも検討しています。
講義で重要な論点に関する概要を理解した上で、復習としてテキストや参考文献を使って学習を深めていってもらえればと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

他の講義で学んだ会計学の知識を活用して講義の内容の理解を深めることができる。(知識・理解)

講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。(知識・理解)

IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。(知識・理解)

講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。(知識・理解)

講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

シラバスに示された学習項目について事前に教科書に目を通しておく
ようにしてください（めやす30分）。また、授業終了時に教科書の各章末の練習問題を解答するようにしてください（めやす15分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で学習した各テーマの内容が十分に理解できているかを成績評価の基準とします。
成績評価の方法は定期試験の成績を９割、平常点１割（提出された課題に基づいて評価を行う）を目安として総合的に評価します。ただし、講義期間中に提出課題がなかった場合は、定期試験の成績に基づいて評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

桜井久勝編著『テキスト国際会計基準　新訂版』白桃書房
ISBN 978-4-561-35218-1

◎－－－　参考書　－－－◎

広瀬義州著『ＩＦＲＳ財務会計入門』中央経済社　ISBN 978-4-502-08580-2
古賀智敏監修『国際会計基準と日本の会計実務』同文舘
ISBN 978-4495166441

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「簿記原理（または簿記入門Ⅰ・Ⅱ）」の単位を修得してから受講してください。「財務会計論」や「会社簿記（または会社簿記Ⅰ・Ⅱ）」等も履修済み（または受講中であること）が望ましい。きちんと出席して学習していくことができる人を希望します。
講義中は学生としてのマナーを守り静かに受講してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　オリエンテーションおよびリース[1]
２　リース[2]
３　従業員給付［1］
４　従業員給付［2］
５　外貨換算会計[1]
６　外貨換算会計[2]
７　借入コスト
８　資産の減損
９　無形資産
１０　投資不動産
１１　連結財務諸表[1]
１２　連結財務諸表[2]
１３　持分法など
１４　公正価値測定
１５　後期のまとめ

なお、講義日程や諸事情により授業計画が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

会計学特論

2019-4020000619-01

池田　健一

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.他の講義で学んだ会計学の知識を活用して講義の内容の理解を深めることができる。　(A-1)

2.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。　(A-2)

3.IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。　(A-3)

4.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。　(A-2)

5.講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.他の講義で学んだ会計学の知識を活用して講義の内容の理解を深めることができる。　(A-1)

2.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。　(A-2)

3.IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。　(A-3)

4.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。　(A-2)

5.講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

会計学特論

2019-4020000619-01

池田　健一

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.他の講義で学んだ会計学の知識を活用して講義の内容の理解を深めることができる。　(A-1)

2.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。　(A-2)

3.IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。　(A-3)

4.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。　(A-2)

5.講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

会計学特論

2019-4020000619-02

渡辺　剛

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・３時限　　試験時間割：2019/08/01　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、制度会計を取り上げます。制度会計とは、法令に従って行われる会計であり、具体的には、会社法、金融商品取引法、税法という法律の枠内で行われる会計です。
本講義では、制度会計の全体像を把握した後、制度会計（税務会計は除く）において資産、負債、資本、収益、費用の会計処理がどのように行われているのかを概観します。ただし、その全てを網羅的、体系的にみていくのではなく、とりわけ最近制度変更が行われた部分を重点的に取り上げます。たとえば、資産会計では、棚卸資産の評価、有価証券の時価評価、減損会計、資本会計では株主資本等変動計算書の作成、損益会計では、収益の認識基準などを取り上げる予定です。
現在、会計基準のコンバージェンス(統合)と呼ばれる動きが進んでいます。その動向次第で制度会計は大きく変わることになります。本講義では、できるだけ最新の情報を取り入れて進めていく予定です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

(1)制度会計の概要を把握し、会計学の法律的側面に関する理解を深めることができるようになる。(知識・理解)

(2)現行制度における財務会計の特徴を説明することができる。(知識・理解)

(3)財務会計の今後の検討課題およびその企業への影響を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、次回の講義テーマを告知しますので、事前にテキストを読んで予習してきて下さい(30分)。また、憶えるべきことが多く出ますので毎回復習が必要です(60分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

制度会計に対する理解度を評価の基準とし、定期試験の結果によって評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

桜井久勝『財務会計講義(第19版)』中央経済社(2018年)
ISBN：978-4-502-26641-6。なお、第20版が出版された場合は第20版を用います。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講義は、受講者に会計学および簿記の基礎知識がすでにあることを前提として進めます。したがって、「簿記原理」をはじめとして「会計学総論」および「財務会計論」、ならびに「会社簿記Ⅰ・Ⅱ」を履修した後に受講することが望ましいです（本講義は3年次以上で受講することが望ましいです）。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス―講義内容の概説
２　制度会計の概要
３　制度会計の計算構造の特徴
４　資産会計(1)―棚卸資産
５　資産会計(2)―有価証券
６　資産会計(3)―固定資産
７　負債会計(1)―負債の意義
８　負債会計(2)―引当金
９　資本会計(1)―資本の意義
１０　資本会計(2)―株主資本等変動計算書の意義
１１　資本会計(3)―株主資本等変動計算書の作成
１２　損益会計(1)―損益の計上基準
１３　損益会計(2)―収益の新計上基準の概要
１４　損益会計(3)―収益の新計上基準の特徴
１５　会計基準のコンバージェンス

会計学特論

2019-4020000619-02

渡辺　剛

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.(1)制度会計の概要を把握し、会計学の法律的側面に関する理解を深めることができるようになる。　(A-1)

2.(2)現行制度における財務会計の特徴を説明することができる。　(A-2)

3.(3)財務会計の今後の検討課題およびその企業への影響を説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.(1)制度会計の概要を把握し、会計学の法律的側面に関する理解を深めることができるようになる。　(A-1)

2.(2)現行制度における財務会計の特徴を説明することができる。　(A-2)

3.(3)財務会計の今後の検討課題およびその企業への影響を説明することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

会計学特論

2019-4020000619-02

渡辺　剛

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.(1)制度会計の概要を把握し、会計学の法律的側面に関する理解を深めることができるようになる。　(A-1)

2.(2)現行制度における財務会計の特徴を説明することができる。　(A-2)

3.(3)財務会計の今後の検討課題およびその企業への影響を説明することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

会計学特論

2019-4020000619-03

渡辺　剛

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：2020/01/27　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、連結会計を取り上げます。
金融商品取引法会計におけるディスクロージャーが連結財務諸表中心となったことに加えて、会社法においても連結財務諸表の開示が求められることから、今や連結会計が制度会計の中心であるといわれています。連結財務諸表の作成は、個別財務諸表の作成にはない連結会計固有の手続を必要とするため、わかりづらいものとなっています。また、包括利益概念が連結財務諸表に導入されるなど、連結会計が大きく変動しつつあります。
本講義では、できるだけ平易に連結会計を説明し、その概要が理解できるようにすることを目的としています。また、近年、会計基準のコンバージェンス（統合）の動きが加速していることから、会計基準の改定が頻繁に行われています。本講義では、連結財務諸表の作成のみならず、随時それらの動向も取り上げる予定です。
毎回、次回の講義テーマを告知しますので、事前にテキストを読んで予習してきて下さい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

(1)連結会計の必要性を説明することができる。(知識・理解)

(2)企業グループの財政状態および経営成績を説明することができる。(知識・理解)

(3)会計基準のコンバージェンスをはじめとする国際的な会計の動向を理解することによって、今後の財務会計の課題を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義は計算問題が中心になりますので、必ず復習してください(60分)。また、毎回、次回の講義テーマを告知しますので、事前にテキストを読んで予習してきて下さい(30分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

連結会計の概要に関する理解度ならびに基礎的な連結貸借対照表および連結損益計算書等が作成できることを評価の基準とし、その達成度を定期試験の結果によって評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

桜井久勝『財務会計講義(第19版)』中央経済社(2018年)
ISBN：978-4-502-26641-6。なお、第20版が出版された場合は第20版を用います。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講義は、受講者に会計学および簿記の基礎知識がすでにあることを前提として進めます。したがって、必ず「簿記原理」を履修した後に受講して下さい。また、「会計学総論」および「財務会計論」、ならびに「会社簿記Ⅰ・Ⅱ」または「会社簿記」を履修した後に受講することが望ましいです（本講義は3年次以上で受講することが望ましいです）。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス－講義内容の概説
２　連結財務諸表の意義
３　連結財務諸表作成の一般基準
４　連結貸借対照表の作成基準
５　連結貸借対照表の作成(1)完全子会社
６　連結貸借対照表の作成(2)非完全子会社
７　連結損益計算書の作成基準
８　連結損益計算書の作成(1)完全子会社
９　連結損益計算書の作成(2)非完全子会社
１０　連結損益計算書の作成(3)ダウンストリーム
１１　連結損益計算書の作成(4)アップストリーム
１２　連結損益計算書の作成(5)アップストリーム
１３　連結株主持分等変動計算書の意義
１４　連結株主持分等変動計算書の作成
１５　セグメント情報の意義

会計学特論

2019-4020000619-03

渡辺　剛

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.(1)連結会計の必要性を説明することができる。　(A-1)

2.(2)企業グループの財政状態および経営成績を説明することができる。　(A-2)

3.(3)会計基準のコンバージェンスをはじめとする国際的な会計の動向を理解することによって、今後の財務会計の課題を説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.(1)連結会計の必要性を説明することができる。　(A-1)

2.(2)企業グループの財政状態および経営成績を説明することができる。　(A-2)

3.(3)会計基準のコンバージェンスをはじめとする国際的な会計の動向を理解することによって、今後の財務会計の課題を説明することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

会計学特論

2019-4020000619-03

渡辺　剛

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.(1)連結会計の必要性を説明することができる。　(A-1)

2.(2)企業グループの財政状態および経営成績を説明することができる。　(A-2)

3.(3)会計基準のコンバージェンスをはじめとする国際的な会計の動向を理解することによって、今後の財務会計の課題を説明することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

会計学特論

2019-4020000619-04

飯塚　雄基

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・２時限　　試験時間割：2020/01/23　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この授業では，公認会計士による財務諸表監査の意義と特徴について講義を行います。
　そもそも財務諸表監査とは何でしょうか。監査の最も基本的なルールを定める監査基準には，「財務諸表の監査の目的は，経営者の作成した財務諸表が，一般に公正妥当と認められる企業会計の基準準拠して，企業の財政状態，経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているかどうかについて，監査人が自ら入手した監査証拠に基づいて判断した結果を意見として表明することにある」と定められています。この一文は，財務諸表監査の意義を端的に説明するものですが，これを一読して理解できる初学者の方は少ないのではないでしょうか。この一文を理解するためには，監査はなぜ必要なのか，監査とは何か，財務諸表監査と財務諸表以外の監査は何が異なるのか，公認会計士による監査とそうでない監査は何が異なるのか，監査のルールは国や時代によって異なるのかなど，監査の基本的な事項を「比較」の観点から理解することが重要です。また，監査の理解をさらに深めるためには，公認会計士の仕事や監査の手続，監査の証拠などを「具体例」を用いて理解することも重要です。
　以上のように，この授業では，「比較」と「具体例」をキーワードに，公認会計士による財務諸表監査の意義と特徴を講義していきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

財務諸表監査の意義と特徴を説明できる。(知識・理解)

監査基準の概要を説明できる。(知識・理解)

財務諸表監査の知識を用いて，現在の監査基準の課題を自ら考えることができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業で用いられる専門用語について参考書等を読んでその意味を理解しておくこと（30分）。
　授業後に配布資料や参考書を読んで，授業の内容が理解できているか復習すること（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　到達目標の達成度を評価の基準とします。具体的には，原則として定期試験によって評価します（8割）。ただし，小テストやレポート，参加態度などを加味します（2割）。
　小テストは授業の最後に実施しますが，そのフィードバックとして次回の冒頭に解答の解説をします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

鳥羽至英他『財務諸表監査』国元書房，2015年。　ISBN 4765805638
盛田良久他『スタンダードテキスト監査論（第4版）』中央経済社，2016年。　ISBN 4502197017
長吉眞一他『監査論入門（第3版）』中央経済社，2016年。　ISBN 450218571X

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①本講義は「監査論」の履修を前提としているので，「監査論」を先に履修することを推奨します。
②会計士監査の理解のためには，会計の基礎的な知識も必要ですので，「簿記原理」または「財務会計論」を履修済みであることが望ましいでしょう。
③各回の講義は，前回の内容を前提に進めていきますので，欠席しないように心がけてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　監査の意義
第2回　監査の現状と課題
第3回　財務諸表監査の特徴
第4回　財務諸表監査の歴史
第5回　財務諸表監査のアプローチ
第6回　監査基準の意義
第7回　監査基準の目的
第8回　監査人の独立性
第9回　監査人の正当な注意
第10回　立証命題と監査証拠
第11回　監査手続と試査
第12回　監査実施のPDCAサイクル
第13回　監査報告書の意義と記載事項
第14回　限定付適正意見と除外事項
第15回　追記情報の意義

会計学特論

2019-4020000619-04

飯塚　雄基

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.財務諸表監査の意義と特徴を説明できる。　(A-1)

2.監査基準の概要を説明できる。　(A-2)

3.財務諸表監査の知識を用いて，現在の監査基準の課題を自ら考えることができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.財務諸表監査の意義と特徴を説明できる。　(A-1)

2.監査基準の概要を説明できる。　(A-2)

3.財務諸表監査の知識を用いて，現在の監査基準の課題を自ら考えることができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

会計学特論

2019-4020000619-04

飯塚　雄基

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.財務諸表監査の意義と特徴を説明できる。　(A-1)

2.監査基準の概要を説明できる。　(A-2)

3.財務諸表監査の知識を用いて，現在の監査基準の課題を自ら考えることができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

長束　航

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

企業会計に関する調査・報告・討論をグループ活動によって行うというプロセスを通じて、会計専門職となるための資格試験（公認会計士試験、税理士試験、日商簿記検定試験1級など）に合格するための会計学の知識を身につけることはもとより、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を身につけ、将来会計専門職として活躍するための人間力を身につけることを目標とする。主として財務会計論および監査論の分野の研究を行う予定である。また、公認会計士試験や税理士試験などの高度な資格試験に合格するためのリテラシー修得も目標とする。

なお、皆で切磋琢磨しあって資格試験（特に公認会計士試験）合格を目指す状況を醸成するため、ゼミ生同士の親睦を深めるための行事を積極的に行うが、企画から運営までゼミ生全員で協力して行うので、これらの行事については原則として全員参加が前提となる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。(知識・理解)

将来、会計専門職として活躍するために、様々なことを主体的に学修する姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

グループ単位で調査・報告を行ってもらうので、そのための準備を授業前に行う必要がある（調査・報告担当回に5時間程度）。担当回以外においても討論の準備のための予習が必要となる（1時間程度）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

研究報告の内容、討論に対する参加態度、共同研究における積極性と協調性、レポート等の評価項目毎の評点を総合して成績を判定する。概ね研究報告の内容40%、討論に対する参加態度30%、共同研究における積極性と協調性20%、レポート10%の割合で評点を算出する。これらの評価項目については、会計学の基本的知識を用いて企業活動を把握・考察できるようになっているかどうか、将来会計専門職として活躍するために会計学の基本的知識その他の能力を主体的に学修する姿勢を持っているどうかを単位認定の判断基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

広瀬義州『財務会計』第13版　中央経済社／ISBN978-4502163418
桜井久勝『財務諸表分析』第7版　中央経済社／ISBN978-4502223518
その他必要と思われるテキストは適宜指定する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①ゼミ活動には積極的に参加すること。
②勉学および将来会計専門職として活躍するための活動に、可能なかぎりの時間を投入すること。
③正当な理由なく欠席しないこと（正当な理由がある場合には事前に連絡・相談すること）。なお、無断欠席は、「討論に対する参加態度」および「共同研究における積極性と協調性」の減点対象となる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス
２　レジュメ・論文の作成方法
３　ゼミの進め方
４～１５
　会計学の基礎的論点に関する調査・報告・討論

会計基礎ゼミナール「CA」

2019-4020000250-01

長束　航

◎経営:A-1,C-2

1.会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。　(A-1)

2.将来、会計専門職として活躍するために、様々なことを主体的に学修する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,C-2

1.会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。　(A-1)

2.将来、会計専門職として活躍するために、様々なことを主体的に学修する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

会計基礎ゼミナール「CA」

2019-4020000250-01

長束　航

◎貿易:A-1,C-2

1.会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。　(A-1)

2.将来、会計専門職として活躍するために、様々なことを主体的に学修する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,C-2

1.会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。　(A-1)

2.将来、会計専門職として活躍するために、様々なことを主体的に学修する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

会計士監査論

2019-4020000428-01

飯塚　雄基

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・２時限　　試験時間割：2020/01/23　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この授業では，公認会計士による財務諸表監査の意義と特徴について講義を行います。
　そもそも財務諸表監査とは何でしょうか。監査の最も基本的なルールを定める監査基準には，「財務諸表の監査の目的は，経営者の作成した財務諸表が，一般に公正妥当と認められる企業会計の基準準拠して，企業の財政状態，経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているかどうかについて，監査人が自ら入手した監査証拠に基づいて判断した結果を意見として表明することにある」と定められています。この一文は，財務諸表監査の意義を端的に説明するものですが，これを一読して理解できる初学者の方は少ないのではないでしょうか。この一文を理解するためには，監査はなぜ必要なのか，監査とは何か，財務諸表監査と財務諸表以外の監査は何が異なるのか，公認会計士による監査とそうでない監査は何が異なるのか，監査のルールは国や時代によって異なるのかなど，監査の基本的な事項を「比較」の観点から理解することが重要です。また，監査の理解をさらに深めるためには，公認会計士の仕事や監査の手続，監査の証拠などを「具体例」を用いて理解することも重要です。
　以上のように，この授業では，「比較」と「具体例」をキーワードに，公認会計士による財務諸表監査の意義と特徴を講義していきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

財務諸表監査の意義と特徴を説明できる。(知識・理解)

監査基準の概要を説明できる。(知識・理解)

財務諸表監査の知識を用いて，現在の監査基準の課題を自ら考えることができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業で用いられる専門用語について参考書等を読んでその意味を理解しておくこと（30分）。
　授業後に配布資料や参考書を読んで，授業の内容が理解できているか復習すること（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　到達目標の達成度を評価の基準とします。具体的には，原則として定期試験によって評価します（8割）。ただし，小テストやレポート，参加態度などを加味します（2割）。
　小テストは授業の最後に実施しますが，そのフィードバックとして次回の冒頭に解答の解説をします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

鳥羽至英他『財務諸表監査』国元書房，2015年。　ISBN 4765805638
盛田良久他『スタンダードテキスト監査論（第4版）』中央経済社，2016年。　ISBN 4502197017
長吉眞一他『監査論入門（第3版）』中央経済社，2016年。　ISBN 450218571X

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①本講義は「監査概論」の履修を前提としているので，「監査概論」を先に履修することを推奨します。
②会計士監査の理解のためには，会計の基礎的な知識も必要ですので，「簿記原理」または「財務会計論」を履修済みであることが望ましいです。
③各回の講義は，前回の内容を前提に進めていきますので，欠席しないように心がけてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　監査の意義
第2回　監査の現状と課題
第3回　財務諸表監査の特徴
第4回　財務諸表監査の歴史
第5回　財務諸表監査のアプローチ
第6回　監査基準の意義
第7回　監査基準の目的
第8回　監査人の独立性
第9回　監査人の正当な注意
第10回　立証命題と監査証拠
第11回　監査手続と試査
第12回　監査実施のPDCAサイクル
第13回　監査報告書の意義と記載事項
第14回　限定付適正意見と除外事項
第15回　追記情報の意義

会計士監査論

2019-4020000428-01

飯塚　雄基

◎経営

1.財務諸表監査の意義と特徴を説明できる。　(A-1)

2.監査基準の概要を説明できる。　(A-2)

3.財務諸表監査の知識を用いて，現在の監査基準の課題を自ら考えることができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

会計情報システム論

2019-4020000618-01

平川　茂

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・１時限　　試験時間割：2019/07/26　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代における会計情報の作成は、その大部分がコンピューターによって行われている。そこで作成される会計情報は、さまざまな形に加工されて企業経営に活かされている。そのため、将来ビジネス社会で活動するためには、コンピューターを利用した会計情報の作成、加工および利用に関する知識が不可欠であるといっても過言ではない。
本講義では、表計算ソフトを用いて、基本的なコンピューター会計の知識を提供することを目的としている。本講義では、主に財務会計分野に関するコンピューター会計の知識について説明する。進め方としては、前半は講義形式による説明を行い、後半は表計算ソフトを操作して課題作成に取り組んでもらう。課題は、いくつかの条件を満たしたシミュレーションが中心である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

表計算ソフトを使って損益計算書を作成することができる。(知識・理解)

損益計算書を読んで、営業の動向を読み取ることができる。(知識・理解)

損益計算書を読んで、予算と実績の差異の原因を理解することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前の学習として、簿記および財務会計に関する書物を熟読しておくこと（60分）。
事後の学習として、表計算ソフトの操作を再確認しておくとともに、講義で取り扱ったシミュレーションについて、実際に電卓を用いて行うことができるようにしておくこと（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験65%、提出課題35%の割合で評価する。
定期試験は、財務会計分野におけるコンピューター会計の知識と、会計データの活用について十分に理解しているかどうかが評価の基準である。またシミュレーションについて、なぜそのように考えたのかについても論述してもらう。
提出課題は、毎回講義の後半で作成し提出する課題が、所定の要件を満たしたうえでどの程度できているかで評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

河合久他『コンピューター会計システム入門』創成社
ISBN 978-4-7944-1406-9

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「簿記原理」または「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」他、主に財務会計分野に属する科目で学ぶ範囲について本講義では積極的に取り扱う。そのため、各科目の復習をしておくことが望ましい。
毎回講義時に、提出課題をメール添付によって提出してもらう。そのため、大学のwebメールを使用できるようにしておくこと。大学のアドレス以外から課題を送ることは認めない。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．ガイダンス
２．現金出納帳の作成（１）
３．現金出納帳の作成（２）
４．売掛金集計表の作成
５．目標売上高の計算
６．予算実績管理表の作成
７．月次損益計算書の作成
８．定額法による減価償却費の計算
９．定率法による減価償却費の計算
１０．決算予測（１）
１１．決算予測（２）
１２．資金繰り表の作成
１３．売上・利益シミュレーション（１）
１４．売上・利益シミュレーション（２）
１５．まとめ

会計情報システム論

2019-4020000618-01

平川　茂

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.表計算ソフトを使って損益計算書を作成することができる。　(A-1)

2.損益計算書を読んで、営業の動向を読み取ることができる。　(A-2)

3.損益計算書を読んで、予算と実績の差異の原因を理解することができる。(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3

1.表計算ソフトを使って損益計算書を作成することができる。

2.損益計算書を読んで、営業の動向を読み取ることができる。　(A-2)

3.損益計算書を読んで、予算と実績の差異の原因を理解することができる。(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

会計情報システム論

2019-4020000618-01

平川　茂

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.表計算ソフトを使って損益計算書を作成することができる。　(A-1)

2.損益計算書を読んで、営業の動向を読み取ることができる。　(A-2)

3.損益計算書を読んで、予算と実績の差異の原因を理解することができる。(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

会計情報システム論

2019-4020000618-02

平川　茂

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　　試験時間割：2020/01/21　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代における会計情報の作成は、その大部分がコンピューターによって行われている。そこで作成される会計情報は、さまざまな形に加工されて企業経営に活かされている。そのため、将来ビジネス社会で活動するためには、コンピューターを利用した会計情報の作成、加工および利用に関する知識が不可欠であるといっても過言ではない。
本講義では、表計算ソフトを用いて、基本的なコンピューター会計の知識を提供することを目的としている。本講義では、主に管理会計分野および経営財務分野に関するコンピューター会計の知識について説明する。進め方としては、前半は講義形式による説明を行い、後半は表計算ソフトを操作して課題作成に取り組んでもらう。課題は、いくつかの条件を満たしたシミュレーションが中心である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

表計算ソフトを使って損益分岐点を計算することができる。(知識・理解)

損益分岐点売上から、新規出店に関する意思決定の妥当性を説明することができる。(知識・理解)

損益分岐点売上から、新規出店に関する現状分析をすることができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前の学習として、管理会計に関する書物を熟読しておくこと（60分）。
事後の学習として、表計算ソフトの操作を再確認しておくとともに、講義で取り扱ったシミュレーションについて、実際に電卓を用いて行うことができるようにしておくこと（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験65%、提出課題の出来35%の割合で評価する。
定期試験は、管理会計および経営財務の分野に関連するコンピューター会計の知識と、会計データの活用について十分に理解しているかどうかが評価の基準である。またシミュレーションについて、なぜそのように考えたのかについても論述してもらう。
提出課題は、毎回講義の後半で作成し提出する課題が、所定の要件を満たしたうえでどの程度できているかで評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない

◎－－－　参考書　－－－◎

河合久他『コンピューター会計システム入門』創成社
ISBN 978-4-7944-1406-9

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「簿記原理」または「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」他、管理会計、経営財務の分野に属する範囲について本講義では積極的に取り扱う。そのため、各科目の復習をしておくことが望ましい。
毎回講義時に、提出課題をメール添付によって提出してもらう。そのため、大学のwebメールを使用できるようにしておくこと。大学のアドレス以外から課題を送ることは認めない。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．ガイダンス
２．損益分岐点の計算
３．販売価格と販売数量のシミュレーション
４．金利の計算（単利と複利）
５．積立預金の計算
６．ローン返済のシミュレーション
７．損益分岐点をグラフにしてみる
８．設備投資の採算性の計算
９．最適発注量の計算（１）
１０．最適発注量の計算（２）
１１．セールス・ミックス（１）
１２．セールス・ミックス（２）
１３．投資の判断（１）
１４．投資の判断（２）
１５．まとめ

会計情報システム論

2019-4020000618-02

平川　茂

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.表計算ソフトを使って損益分岐点を計算することができる。　(A-1)

2.損益分岐点売上から、新規出店に関する意思決定の妥当性を説明することができる。　(A-3)

3.損益分岐点売上から、新規出店に関する現状分析をすることができる。(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3

1.表計算ソフトを使って損益分岐点を計算することができる。

2.損益分岐点売上から、新規出店に関する意思決定の妥当性を説明することができる。　(A-3)

3.損益分岐点売上から、新規出店に関する現状分析をすることができる。(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

会計情報システム論

2019-4020000618-02

平川　茂

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.表計算ソフトを使って損益分岐点を計算することができる。　(A-1)

2.損益分岐点売上から、新規出店に関する意思決定の妥当性を説明することができる。　(A-3)

3.損益分岐点売上から、新規出店に関する現状分析をすることができる。(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

会計情報システム論Ⅰ

2019-4020000425-01

平川　茂

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・１時限　　試験時間割：2019/07/26　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代における会計情報の作成は、その大部分がコンピューターによって行われている。そこで作成される会計情報は、さまざまな形に加工されて企業経営に活かされている。そのため、将来ビジネス社会で活動するためには、コンピューターを利用した会計情報の作成、加工および利用に関する知識が不可欠であるといっても過言ではない。
本講義では、表計算ソフトを用いて、基本的なコンピューター会計の知識を提供することを目的としている。本講義では、主に財務会計分野に関するコンピューター会計の知識について説明する。進め方としては、前半は講義形式、後半は表計算ソフトを操作して課題作成に取り組んでもらう。課題は、いくつかの条件を満たしたシミュレーションが中心である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

表計算ソフトを使って損益分岐点を計算することができる。(知識・理解)

損益計算書を読んで、営業の動向を読み取ることができる。(知識・理解)

損益計算書を読んで、予算と実績の差異の原因を理解することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前の学習として、簿記および財務会計に関する書物を熟読しておくこと（60分）。
事後の学習として、表計算ソフトの操作を再確認しておくとともに、講義で取り扱ったシミュレーションについて、実際に電卓を用いて行うことができるようにしておくこと（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験65%、提出課題35%の割合で評価する。
定期試験は、財務会計分野におけるコンピューター会計の知識と、会計データの活用について十分に理解しているかどうかが評価の基準である。またシミュレーションについて、なぜそのように考えたのかについても論述してもらう。
提出課題は、毎回講義の後半で作成し提出する課題が、所定の要件を満たしたうえでどの程度できているかで評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない

◎－－－　参考書　－－－◎

河合久他『コンピューター会計システム入門』創成社
ISBN 978-4-7944-1406-9

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「簿記原理」または「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」他、管理会計および経営財務に関連する科目で学ぶ範囲について本講義では積極的に取り扱う。そのため、各科目の復習をしておくことが望ましい。
毎回講義時に、提出課題をメール添付によって提出してもらう。そのため、大学のwebメールを使用できるようにしておくこと。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．ガイダンス
２．現金出納帳の作成（１）
３．現金出納帳の作成（２）
４．売掛金集計表の作成
５．目標売上高の計算
６．予算実績管理表の作成
７．月次損益計算書の作成
８．定額法による減価償却費の計算
９．定率法による減価償却費の計算
１０．決算予測（１）
１１．決算予測（２）
１２．資金繰り表の作成
１３．売上・利益シミュレーション（１）
１４．売上・利益シミュレーション（２）
１５．まとめ

会計情報システム論Ⅰ

2019-4020000425-01

平川　茂

◎経営

1.表計算ソフトを使って損益分岐点を計算することができる。　(A-1)

2.損益計算書を読んで、営業の動向を読み取ることができる。　(A-2)

3.損益計算書を読んで、予算と実績の差異の原因を理解することができる。(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

会計情報システム論Ⅱ

2019-4020000426-01

平川　茂

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　　試験時間割：2020/01/21　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代における会計情報の作成は、その大部分がコンピューターによって行われている。そこで作成される会計情報は、さまざまな形に加工されて企業経営に活かされている。そのため、将来ビジネス社会で活動するためには、コンピューターを利用した会計情報の作成、加工および利用に関する知識が不可欠であるといっても過言ではない。
本講義では、表計算ソフトを用いて、基本的なコンピューター会計の知識を提供することを目的としている。本講義では、主に管理会計分野および経営財務分野に関するコンピューター会計の知識について説明する。進め方としては、前半は講義形式による説明を行い、後半は表計算ソフトを操作して課題作成に取り組んでもらう。課題は、いくつかの条件を満たしたシミュレーションが中心である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

表計算ソフトを使って損益分岐点を計算することができる。(知識・理解)

損益分岐点売上から、新規出店に関する意思決定の妥当性を説明することができる。(知識・理解)

損益分岐点売上から、新規出店に関する現状分析をすることができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前の学習として、管理会計に関する書物を熟読しておくこと（60分）。
事後の学習として、表計算ソフトの操作を再確認しておくとともに、講義で取り扱ったシミュレーションについて、実際に電卓を用いて行うことができるようにしておくこと（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験65%、提出課題の出来35%の割合で評価する。
定期試験は、管理会計および経営財務の分野に関連するコンピューター会計の知識と、会計データの活用について十分に理解しているかどうかが評価の基準である。またシミュレーションについて、なぜそのように考えたのかについても論述してもらう。
提出課題は、毎回講義の後半で作成し提出する課題が、所定の要件を満たしたうえでどの程度できているかで評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない

◎－－－　参考書　－－－◎

河合久他『コンピューター会計システム入門』創成社
ISBN 978-4-7944-1406-9

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「簿記原理」または「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」他、管理会計、経営財務の分野に属する範囲について本講義では積極的に取り扱う。そのため、各科目の復習をしておくことが望ましい。
毎回講義時に、提出課題をメール添付によって提出してもらう。そのため、大学のwebメールを使用できるようにしておくこと。大学のアドレス以外から課題を送ることは認めない。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．ガイダンス
２．損益分岐点の計算
３．販売価格と販売数量のシミュレーション
４．金利の計算（単利と複利）
５．積立預金の計算
６．ローン返済のシミュレーション
７．損益分岐点をグラフにしてみる
８．設備投資の採算性の計算
９．最適発注量の計算（１）
１０．最適発注量の計算（２）
１１．セールス・ミックス（１）
１２．セールス・ミックス（２）
１３．投資の判断（１）
１４．投資の判断（２）
１５．まとめ

会計情報システム論Ⅱ

2019-4020000426-01

平川　茂

◎経営

1.表計算ソフトを使って損益分岐点を計算することができる。　(A-1)

2.損益分岐点売上から、新規出店に関する意思決定の妥当性を説明することができる。　(A-2)

3.損益分岐点売上から、新規出店に関する現状分析をすることができる。(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

監査概論

2019-4020000427-01

井上　修

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・２時限　　試験時間割：2019/07/29　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

監査とは，依頼人の求めに応じて、被監査対象とは独立の立場にある者が，被監査対象の行為とある判断規準との間の合致の程度を確かめるために，証拠を客観的に入手・評価し，その結果を依頼人に対して報告する一連の行為である。
本講義は，職業会計人（公認会計士、税理士など）をめざす者はもとより、企業に就職する者，自ら企業を興そうとする者など，ビジネスの世界で生きていこうとする者全員にとって有益となると思われる。本学科において会計学を専攻している学生はもちろん，その他の学問を専攻している学生も積極的に受講してほしい。
本講義を担当する教員は監査を独占業務とする公認会計士であり，監査実務に従事してきた者である。そのため，本講義はその監査実務経験を活かして，監査現場において具体的にどのような課題が存在しているのかについて解説していく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

監査の意義とその必要性について理解し，説明できるようにすること。

監査が必要となるその経済的背景について理解し，説明できるようにすること。

粉飾決算の事例についてその原因を理解し，その解決方法を自ら提案できるようになること。

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習は毎回各章の該当箇所を熟読してくること。その際に，わからない専門用語があればインターネットなどを使用して事前に調べてくること。
講義の復習は，講義中に指示したラインマーカーの箇所について，理解と説明を心がけて再度読み込むこと。また，章末問題の該当箇所についても実際に解答を書き出してみること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として定期試験により評価する。ただし、授業中ミニテストを実施する場合もある（最大10点程度）。監査全般に関する基本的な理解ができているかどうかを単位認定の判断基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

盛田良久 (編集)『はじめてまなぶ監査論』中央経済社/ ISBN4502220418

◎－－－　参考書　－－－◎

内藤文雄『財務諸表監査の考え方』税務経理協会／ ISBN4419043156
山浦久司『会計監査論』第５版　中央経済社／ ISBN9784502280900
八田進二編著『新版　監査論を学ぶ』同文舘出版／ ISBN4495169726

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

財務諸表監査を理解するためには、財務諸表の作成プロセスや会計ディスクロージャー制度を理解している必要がある。したがって、「簿記原理」、「会計学総論」および「財務会計論」を履修済みであることが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．ガイダンス
2．監査実務のイメージ
3．財務諸表監査制度の成立とその目的
4．経済社会を支える財務情報
5．監査を要請する法律
6．監査を担当する専門家
7．監査を取り巻く組織
8．監査基準（目的基準と一般基準）
9．監査の実施①
10．監査の手続②
11．監査結果の報告①
12．監査結果の報告②
13．社会を揺るがす経済事件①
14．社会を揺るがす経済事件②
15．会社以外のさまざまな監査

監査概論

2019-4020000427-01

井上　修

◎経営

1.監査の意義とその必要性について理解し，説明できるようにすること。

2.監査が必要となるその経済的背景について理解し，説明できるようにすること。

3.粉飾決算の事例についてその原因を理解し，その解決方法を自ら提案できるようになること。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

井上　修

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・２時限　　試験時間割：2019/07/29　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

監査とは，依頼人の求めに応じて，被監査対象とは独立の立場にある者が，被監査対象の行為とある判断規準との間の合致の程度を確かめるために，証拠を客観的に入手・評価し，その結果を依頼人に対して報告する一連の行為である。
本講義は，職業会計人（公認会計士、税理士など）をめざす者はもとより，企業に就職する者，自ら企業を興そうとする者など，ビジネスの世界で生きていこうとする者全員にとって有益となると思われる。本学科において会計学を専攻している学生はもちろん，その他の学問を専攻している学生も積極的に受講してほしい。
本講義を担当する教員は監査を独占業務とする公認会計士であり，監査実務に従事してきた者である。そのため，本講義はその監査実務経験を活かして，監査現場において具体的にどのような課題が存在しているのかについて解説していく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

監査の意義とその必要性について理解し，説明できるようにすること。(知識・理解)

監査が必要となるその経済的背景について理解し，説明できるようにすること。(知識・理解)

粉飾決算の事例についてその原因を理解し，その解決方法を自ら提案できるようになること。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習は毎回各章の該当箇所を熟読してくること。その際に，わからない専門用語があればインターネットなどを使用して事前に調べてくること。
講義の復習は，講義中に指示したラインマーカーの箇所について，理解と説明を心がけて再度読み込むこと。また，章末問題の該当箇所についても実際に解答を書き出してみること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として定期試験により評価する。ただし、授業中ミニテストを実施する場合もある（最大10点程度）。監査全般に関する基本的な理解ができているかどうかを単位認定の判断基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

盛田良久 (編集)『はじめてまなぶ監査論』中央経済社/ ISBN4502220418

◎－－－　参考書　－－－◎

内藤文雄『財務諸表監査の考え方』税務経理協会／ ISBN4419043156
山浦久司『会計監査論』第５版　中央経済社／ ISBN9784502280900
八田進二編著『新版　監査論を学ぶ』同文舘出版／ ISBN4495169726

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

財務諸表監査を理解するためには、財務諸表の作成プロセスや会計ディスクロージャー制度を理解している必要がある。したがって、「簿記原理」、「会計学総論」および「財務会計論」を履修済みであることが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．ガイダンス
2．監査実務のイメージ
3．財務諸表監査制度の成立とその目的
4．経済社会を支える財務情報
5．監査を要請する法律
6．監査を担当する専門家
7．監査を取り巻く組織
8．監査基準（目的基準と一般基準）
9．監査の実施①
10．監査の手続②
11．監査結果の報告①
12．監査結果の報告②
13．社会を揺るがす経済事件①
14．社会を揺るがす経済事件②
15．会社以外のさまざまな監査

監査論

2019-4020000616-01

井上　修

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.監査の意義とその必要性について理解し，説明できるようにすること。
(A-1)

2.監査が必要となるその経済的背景について理解し，説明できるようにすること。　(A-2)

3.粉飾決算の事例についてその原因を理解し，その解決方法を自ら提案できるようになること。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.監査の意義とその必要性について理解し，説明できるようにすること。
(A-1)

2.監査が必要となるその経済的背景について理解し，説明できるようにすること。　(A-2)

3.粉飾決算の事例についてその原因を理解し，その解決方法を自ら提案できるようになること。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

監査論

2019-4020000616-01

井上　修

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.監査の意義とその必要性について理解し，説明できるようにすること。
(A-1)

2.監査が必要となるその経済的背景について理解し，説明できるようにすること。　(A-2)

3.粉飾決算の事例についてその原因を理解し，その解決方法を自ら提案できるようになること。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

管理会計論

2019-4020000615-01

篠原　巨司馬

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：2019/07/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は経営するためにどのように会計を利用していくかという問題を扱う。
これまで試験などを受けて，成績を測定し何ができて何ができてないかを把握し勉強が足りない部分を見つけ重点的に取り組むというようなことをした経験があるだろう。あるいは体力を測ったりスポーツの技能をデータで確認（シュート成功率は何%，インターセプト何本など）し，どの能力が高くどの能力が足りないかということを把握してより自分を高めるためのトレーニングをするというような経験があるだろう。
経営もこれと同じで，自分の能力を測ったり，外部の環境の中で自社がどのような位置にいるかといった経営情報を把握することで次にやるべき取り組みを見出すことが肝要となる。そのような経営情報の一つに管理会計情報がある。
本講義では，この管理会計情報をどのように測定するかという側面と，その情報をいかに利用し組織をコントロールするかという側面と両面からアプローチする。後者に関しては，組織成員への影響プロセスについての最先端の研究を適宜紹介しながら議論していきたい。
なお，本講義は，会計と名前がついているが，会計だけでなくマーケティング論，戦略論，生産管理論，労務管理論など経営全体に対する総合的な理解が必要である。適宜補足はするが，それらに触れたことがない場合は，追加的に学習する必要があるだろう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

講義で扱ったそれぞれのトピックについて概要を説明できる(知識・理解)

企業の管理会計の具体的事例を挙げることができる(知識・理解)

企業経営のための管理会計の意義を説明できる(知識・理解)

文献や事例を用い建設的な議論ができる(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

教科書を読んでくることを前提に話を進める。
また，各自でウェブサイトや新聞，ニュース等から現代企業の経営の問題について常にアンテナを張り情報を得ること。
また時間外学習としてレポートやエッセイを執筆してもらう。
目安として毎週２時間程度は管理会計に関する課題や思考に励むことを推奨する。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

上記到達目標すべてに達しているかどうかを基準とする。

評価方法は以下の通りである。
期末テスト70%
議論への参加30%

◎－－－　テキスト　－－－◎

上總康行『管理会計論第二版』新世社
ISBN488384255X

◎－－－　参考書　－－－◎

櫻井通晴『管理会計〔第六版〕』同文館出版
ISBN 978-4495161460

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

経営の総合的な見方を必要とするため，ある程度経営の全体像を学んでから受講することが望ましい。
また教科書を事前に読むことは必須であり，講義中に議論に参加してもらう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. ガイダンス
2. 管理会計のフレームワーク（全体像）
3. 管理会計のフレームワーク（マネジメント・コントロール１）
4. 管理会計のフレームワーク（マネジメント・コントロール２）
5. 戦略管理会計（目標利益と中期経営計画１）
6. 戦略管理会計（目標利益と中期経営計画２）
7. 戦略管理会計（戦略分析会計１）
8. 戦略管理会計（戦略分析会計２）
9. 戦略管理会計（中期個別会計１）
10. 戦略管理会計（中期個別会計２）
11. 資本予算
12. 短期利益計画
13. 予算管理
14. ケーススタディ
15. 振り返り

管理会計論

2019-4020000615-01

篠原　巨司馬

◎経営:A-2,A-3,B-3

1.講義で扱ったそれぞれのトピックについて概要を説明できる　(A-2)

2.企業の管理会計の具体的事例を挙げることができる　(A-3)

3.企業経営のための管理会計の意義を説明できる　(A-2)

4.文献や事例を用い建設的な議論ができる　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3,B-3

1.講義で扱ったそれぞれのトピックについて概要を説明できる　(A-2)

2.企業の管理会計の具体的事例を挙げることができる　(A-3)

3.企業経営のための管理会計の意義を説明できる　(A-2)

4.文献や事例を用い建設的な議論ができる　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

管理会計論

2019-4020000615-01

篠原　巨司馬

◎貿易:A-2,A-3,B-3

1.講義で扱ったそれぞれのトピックについて概要を説明できる　(A-2)

2.企業の管理会計の具体的事例を挙げることができる　(A-3)

3.企業経営のための管理会計の意義を説明できる　(A-2)

4.文献や事例を用い建設的な議論ができる　(B-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

管理会計論Ⅰ

2019-4020000423-01

篠原　巨司馬

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：2019/07/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は経営するためにどのように会計を利用していくかという問題を扱う。
これまで試験などを受けて，成績を測定し何ができて何ができてないかを把握し勉強が足りない部分を見つけ重点的に取り組むというようなことをした経験があるだろう。あるいは体力を測ったりスポーツの技能をデータで確認（シュート成功率は何%，インターセプト何本など）し，どの能力が高くどの能力が足りないかということを把握してより自分を高めるためのトレーニングをするというような経験があるだろう。
経営もこれと同じで，自分の能力を測ったり，外部の環境の中で自社がどのような位置にいるかといった経営情報を把握することで次にやるべき取り組みを見出すことが肝要となる。そのような経営情報の一つに管理会計情報がある。
本講義では，この管理会計情報をどのように測定するかという側面と，その情報をいかに利用し組織をコントロールするかという側面と両面からアプローチする。後者に関しては，組織成員への影響プロセスについての最先端の研究を適宜紹介しながら議論していきたい。
なお，本講義は，会計と名前がついているが，会計だけでなくマーケティング論，戦略論，生産管理論，労務管理論など経営全体に対する総合的な理解が必要である。適宜補足はするが，それらに触れたことがない場合は，追加的に学習する必要があるだろう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

講義で扱ったそれぞれのトピックについて概要を説明できる(知識・理解)

企業の管理会計の具体的事例を挙げることができる(知識・理解)

企業経営のための管理会計の意義を説明できる(知識・理解)

文献や事例を用い建設的な議論ができる(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

教科書を読んでくることを前提に話を進める。
また，各自でウェブサイトや新聞，ニュース等から現代企業の経営の問題について常にアンテナを張り情報を得ること。
また時間外学習としてレポートやエッセイを執筆してもらう。
目安として毎週２時間程度は管理会計に関する課題や思考に励むことを推奨する。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

上記到達目標すべてに達しているかどうかを基準とする。

評価方法は以下の通りである。
期末テスト70%
議論への参加30%

◎－－－　テキスト　－－－◎

上總康行『管理会計論第二版』新世社
ISBN488384255X

◎－－－　参考書　－－－◎

櫻井通晴『管理会計〔第六版〕』同文館出版
ISBN 978-4495161460

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

２年から受講できるが，経営の総合的な見方を必要とするため，ある程度経営の全体像を学んでから受講することが望ましい。
また教科書を事前に読むことは必須であり，講義中に議論に参加してもらう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. ガイダンス
2. 管理会計のフレームワーク（全体像）
3. 管理会計のフレームワーク（マネジメント・コントロール１）
4. 管理会計のフレームワーク（マネジメント・コントロール２）
5. 戦略管理会計（目標利益と中期経営計画１）
6. 戦略管理会計（目標利益と中期経営計画２）
7. 戦略管理会計（戦略分析会計１）
8. 戦略管理会計（戦略分析会計２）
9. 戦略管理会計（中期個別会計１）
10. 戦略管理会計（中期個別会計２）
11. 資本予算
12. 短期利益計画
13. 予算管理
14. ケーススタディ
15. 振り返り

管理会計論Ⅰ

篠原　巨司馬

2019-4020000423-01

◎経営

1.講義で扱ったそれぞれのトピックについて概要を説明できる　(A-1)

2.企業の管理会計の具体的事例を挙げることができる　(A-2)

3.企業経営のための管理会計の意義を説明できる　(A-1)

4.文献や事例を用い建設的な議論ができる　(C-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

管理会計論Ⅱ

2019-4020000424-01

篠原　巨司馬

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：2020/01/21　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は経営するためにどのように会計を利用していくかという問題を扱う。
これまで試験などを受けて，成績を測定し何ができて何ができてないかを把握し勉強が足りない部分を見つけ重点的に取り組むというようなことをした経験があるだろう。あるいは体力を測ったりスポーツの技能をデータで確認（シュート成功率は何%，インターセプト何本とかです）し，どの能力が高くどの能力が足りないかということを把握してより自分を高めるためのトレーニングをするというような経験があるだろう。
経営もこれと同じで，自分の能力を測ったり，外部の環境の中で自社がどのような位置にいるかといった経営情報を把握することで次にやるべき取り組みを見出すことが肝要となる。
そのような経営情報の一つに管理会計情報がある。
本講義では，この管理会計情報をどのように測定するかという側面と，その情報をいかに利用し組織をコントロールするかという側面と両面からアプローチする。後者に関しては，組織成員への影響プロセスについての最先端の研究を適宜紹介しながら議論していきたい。
また講義では主にケーススタディを通して理論を学ぶ。
なお，本講義は，会計と名前がついているが，会計だけでなくマーケティング論，戦略論，生産管理論，労務管理論など経営全体に対する総合的な理解が必要である。適宜補足はするが，それらに触れたことがない場合は，追加的に学習する必要があるだろう。
「管理会計論Ⅱ」では前期で扱ってきた全社的な管理よりも，より個別の議論を扱っていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

管理会計に関する基礎的な知識を有する(知識・理解)

管理会計の知識を用い企業の課題発見ができる(技能)

管理会計の知識を用い企業の課題解決案を提示できる(技能)

管理会計に関する課題をディスカッションできる(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

教科書を読んでくることを前提に話を進める。
また，各自でウェブサイトや新聞，ニュース等から現代企業の経営の問題について常にアンテナを張り情報を得ること。
時間外学習としてエッセイやレポートを執筆してもらう。目安として毎週２時間程度は管理会計に関する課題や思考に励むことを推奨する。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

上記到達目標すべてに達しているかどうかを基準とする。

評価方法は以下の通りである。
期中のエッセイ・レポート(複数回を予定)50%
期末テスト50%

◎－－－　テキスト　－－－◎

上總康行『ケースブック管理会計』新世社
ISBN978-4-88384-211-7

◎－－－　参考書　－－－◎

櫻井通晴『管理会計〔第六版〕』同文館出版
ISBN 978-4495161460

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

２年から受講できるが，経営の総合的な見方を必要とするため，ある程度経営の全体像を学んでから受講することが望ましい。
また「管理会計論Ⅰ」と「管理会計論Ⅱ」はセットである。両方とも受講することで全体を学習できる。
「管理会計論Ⅰ」を受講せずに履修した場合、内容を理解するのが困難になる可能性がある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. ガイダンス
　（「管理会計論Ⅰ」の振り返り：管理会計のフレームワーク）
2. 戦略とマネジメント・コントロール
3. ケーススタディ：会計による戦略マネジメント
4. 直接原価計算
5. 事業セグメント利益管理
6. バリューチェーンマネジメントと会計
7. 購買管理会計
8. 生産管理会計
9. 品質管理会計
10. 販売管理会計
11. 管理会計のフロンティア（１）
12. 管理会計のフロンティア（２）
13. 管理会計のフロンティア（３）
14. ケーススタディ
15. 振り返り

管理会計論Ⅱ

2019-4020000424-01

篠原　巨司馬

◎経営

1.管理会計に関する基礎的な知識を有する　(A-2)

2.管理会計の知識を用い企業の課題発見ができる　(B-1)

3.管理会計の知識を用い企業の課題解決案を提示できる　(B-2)

4.管理会計に関する課題をディスカッションできる　(C-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

企業行動論

2019-4020000398-01

森田　泰暢

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・１時限　　試験時間割：2020/01/27　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では企業組織に関する理論について学びます。
IoTやロボット、人工知能などテクノロジーの進歩や変化もあり、我々の置かれる環境は急速に変化しています。個人は当事者意識をもって自ら動く必要性は増しており、組織も自社のみでは変化に対応しきれずコラボレーションを行いながら新たなイノベーションの可能性を探ろうとしています。本講義ではそのような時代背景を踏まえた際に、関連すると思われる組織理論をピックアップし、社会における柔軟な対応や分析の基盤となる力を身に付けることを目標とします。講義においては昨今の環境変化に対応しイノベーティブな組織的対応を行っている経営者に登壇を依頼しており、具体的な経営手法について学ぶ機会も設けています（「経営組織論」が基本的な理論についての内容で、本講義はやや応用的な内容になります。）

◎－－－　到達目標　－－－◎

本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業が現在とっている組織的な戦略や施策について説明できる(知識・理解)

本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業がうまく対応できなかった組織的な戦略や施策について説明できる(知識・理解)

本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディから課題を発見できる(技能)

本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディを分析し、その対応策について自身の考えを述べることができる(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義に関連した資料を配布するので、目を通して復習を行うこと（25分）。
最先端のテクノロジーや社会変化に関する情報に触れる機会を作り、ニュースや関連する記事を読むこと（35分）。
関連するニュース等において、学習した理論の適用ができないか試行してみること（30分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テスト（20%）×2回と定期試験（60%） で評価を行います。
小テストでは用語理解、理論の理解、簡単なケーススタディを用いた分析について問う予定です。
定期試験では、ケーススタディの分析を通じた課題発見と課題解決を主に問います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません。 講義はレジュメをもとに進めます。参考文献も各回提示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「経営組織論」（2単位）と併せて受講することが望ましいです。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. 組織管理の基礎的な理論
2. サービス組織
3. 組織間連携
4. オープンイノベーション
5. モチベーションとリーダーシップ
6. グループダイナミクス
7. 組織学習
8. 経験学習と熟達
9. 組織化とセンスメーキング
10. 心理的契約
11. 組織コミットメント
12. 場のマネジメント
13. 組織文化の浸透
14. 創造的正当化
15. まとめ

企業行動論

2019-4020000398-01

森田　泰暢

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2

1.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業が現在とっている組織的な戦略や施策について説明できる　(A-2)

2.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業がうまく対応できなかった組織的な戦略や施策について説明できる　(A-3)

3.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディから課題を発見できる　(B-1)

4.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディを分析し、その対応策について自身の考えを述べることができる　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2

1.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業が現在とっている組織的な戦略や施策について説明できる　(A-2)

2.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業がうまく対応できなかった組織的な戦略や施策について説明できる　(A-3)

3.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディから課題を発見できる　(B-1)

4.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディを分析し、その対応策について自身の考えを述べることができる　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

企業行動論

2019-4020000398-01

森田　泰暢

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2

1.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業が現在とっている組織的な戦略や施策について説明できる　(A-2)

2.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業がうまく対応できなかった組織的な戦略や施策について説明できる　(A-3)

3.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディから課題を発見できる　(B-1)

4.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディを分析し、その対応策について自身の考えを述べることができる　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2

1.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業が現在とっている組織的な戦略や施策について説明できる　(A-2)

2.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業がうまく対応できなかった組織的な戦略や施策について説明できる　(A-3)

3.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディから課題を発見できる　(B-1)

4.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディを分析し、その対応策について自身の考えを述べることができる　(B-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

企業戦略論

2019-4020000400-01

合力　知工

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　　試験時間割：2020/01/21　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本来、社会の一構成要素たる企業が、ここ半世紀、あたかも社会から独立しているかのように「非社会的な自己利益追求行動」を展開してきましたが、近年、それを見直し、企業とそれを取り巻く利害関係者（ステイクホルダー:株主・顧客・従業員・コミュニティなど）との関連性を踏まえた企業戦略が、世界的に注目され始めてきています。すなわち、経済的利益と社会的利益が相反するのではなく、相互の利益が創出されるような戦略を、企業は模索し始めているのです。
そのような企業の私的利益と社会的利益を同時に創出するには、経営理念が非常に重要であり、本講義では、経営理念に基づいた企業とそのステイクホルダーとの連携について具体的事例を紹介しながら深く考察していきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。(知識・理解)

環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。(知識・理解)

経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。(知識・理解)

企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。(知識・理解)

柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。(技能)

企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。(技能)

講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。(態度・志向性)

研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。(態度・志向性)

研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義は、テキストにしたがって進められますので、テキストの次回講義の部分を事前学習として読み込んでいく必要があります。
また、講義が終わった後に、必要に応じてリアクション・ペーパーを提出してもらい、それで講義の「振り返り」を行います。

＊事前学習：60分程度
事後学習：60分程度

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価方法：定期試験とリアクション・ペーパーにより評価します。
②割合：定期試験（80%）、リアクション・ペーパー（20%）
③評価基準：定期試験（設問に適切に解答できているかどうか）、リア
クション・ペーパー（課題に対して適切に答えられているかどうか）

なお、部活の公式大会出場、病気による欠席は考慮します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

合力知工著『「逆転の発想」の経営学－理念と連携が生み出す力－』2010、同友館、2,000円（税抜）、ISBN:9784496046353 を使用します。
テキストは毎回使用するので、必ず購入するようにしてください。
また、適宜VTRなど視聴覚教材を使用する予定ですが、教室の都合により、使用できない場合もあります。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

部活の大会出場や病気による欠席を認めるのは、本人の意思とは無関係に授業を受けられない（すなわち選択の余地がない）からです。就職活動の場合は、大学か会社かの選択は本人が決められるので、大学の授業を選択しなかった場合、原則的に、欠席扱いとなります。但し、個別に色々な事情があると思いますので、不明な場合は相談して確認するようにしてください。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 社員を大切にする経営
2 日本における経営理念の変遷
3 未来工業の企業戦略
4 西島の企業戦略
5 創業期及び発展期におけるホンダの企業戦略
6 日本理化学工業の企業戦略
7 伊那食品工業の企業戦略
8 CSR論（肯定論、否定論、アダム・スミスの『道徳感情論』、コールバーグの『道徳性発達理論』、CSV論
9 成果主義のメリットとデメリット、ヤオコーの企業戦略
10 ソーシャル・エンタープライズの可能性
11 地域企業の持続可能性
12 価値ある地域・企業・人の「取り組み」を支援（活性化）するための方策①金融の力
13 価値ある地域・企業・人の「取り組み」を支援（活性化）するための方策②デザインの力
14 価値ある地域・企業・人の「取り組み」を支援（活性化）するための方策③マーケティングの力
15 総括（企業と社会の関わり方）

企業戦略論

2019-4020000400-01

合力　知工

◎経営:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

6.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

7.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。　(C-1)

8.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

9.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

6.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

7.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。　(C-1)

8.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

9.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

企業戦略論

2019-4020000400-01

合力　知工

◎貿易:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

6.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

7.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。　(C-1)

8.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

9.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

6.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

7.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。　(C-1)

8.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

9.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

基礎経営財務論「14台以前」

2019-4020000395-01

水野　博志

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・２時限　　試験時間割：2019/07/24　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

実践経営学の中で経営財務を考える。実践経営学というのは、経営を成功させるための経営学である。この授業では、特に投資と資金調達を中心に、どのようにすれば投資と資金調達を成功させることができるかを考える。

この授業では失敗しない投資をするための財務の基礎を学ぶ。この基礎をマスターしておかないと、投資は必ず失敗するといっても過言ではない。投資は気合いで成功するものではなく、緻密な計画が必要で、それでも成功する保証はない。

投資に関しては、まずどれくらいの自己資金を持っているのかがポイントになる。借入比率が高い中で投資をすると投資の中身・収益性がよくても資金繰りで苦労することになる。したがって豊かな自己資金を持っているとして、投資案の評価並びに評価方法を学ぶ順序になる。その際、時間価値を考慮した割引現金法の概念は経済計算の必須事項である。同時に、不確実性（リスク）と危険回避の概念も必須である。投資の概念を理解した上で、現実に目を向ける。なぜ多くの巨大プロジェクトは失敗をしてきたのかを考える。さらに重要なのはどうすれば失敗を避けることができるかである。ここで重要なのはキャッシュフローの推定である。要するに、合理的推定について考える。

次に、資金調達の方法について学ぶ。調達方法は株式と負債に分けられるが、株式と負債の違い、それぞれの資本コストについて学ぶ。次に株式と負債の選択について考える。この問題に関して企業金融の基礎理論であるMM理論を解説し、それをベースに最適資本調達について考察する。さらに実務の中で、資本構成がどのように決まってくるのかを解説する。

最後に企業の目的と存続について考える。企業にとって重要なのは長期的に存続することである。この観点がないと単なる短期的な金儲けで終わってしまい、長期的には存続できない。京セラ会長の稲盛和夫氏の見解を紹介し、わたし自身の実務的なコメントを行う。

この講義の大きな特徴は、毎回受講者が授業のはじめに株価の動き、経済ニュースをスマートフォンで検索し、そのあとわたしが解説することにある。株価は全ての情報を反映し、その動きを知ることによって、世界経済、日本経済の動きが身近になるであろう。ダイナミックな株価の動きを感じ、世の中の一歩先に行く経営が求められている。そのような緊迫感をこの授業で感じてもらいたいと思う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業の投資と資金調達の基本を説明できる。(知識・理解)

起業の際のファイナンスの重要性を説明できる。(知識・理解)

投資を行う際のチェックポイントを判断できる。(知識・理解)

ファイナンスの際のポイントがわかる。(知識・理解)

日経平均株価の動きを日常的に考えるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習・復習として特に重要なのは、日経Webで、株式市場を中心にしたマーケットの動きをみることである。毎日、株価、外国為替、ニュースを検索するのに30分程度の時間が必要と思われる。日経Webにはマーケットの動きに対する解説が書かれているのでそれを読むこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

試験の成績によって評価する。

出席を含む平常点を考慮するが、ゼミのように出席が悪いと単位が取れないということはない。4年生の場合、しばしば就職活動で授業に出席できない場合があるが、試験の結果が良ければ全く問題はない。

試験では投資のリスクを下げる方法、そのための調達方法の理解度をテストする。また、日本経済、株価動向についての基本的な興味と理解度をテストする。ただし、レポート提出、小テストなどの課題は一切要求しない。

◎－－－　テキスト　－－－◎

ノート講義のためなし

◎－－－　参考書　－－－◎

冨山和彦、岸本光永編著『リーダーのための戦略思考』日本経済新聞出版社、2012、1500円　ISBN 978-4-532-31863-5
稲盛和夫著『心を高める、経営を伸ばす』（新装版）PHP研究所、2004、1000円　ISBN 4-569-63638-1
稲盛和夫著『アメーバ経営』日本経済新聞出版社、2006、1500円　ISBN 4-532-31295-7
水野博志著『企業財務の研究』近代文芸社、1995、3800円　ISBN4-7733-4990-5
水野博志著『財務的意思決定の分析』中央経済社、1996、4326円　ISBN4-502-33625-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

レポート提出はないが、分からない人は参考書で復習をしてもらいたい。評価ではテストのウェイトが高いが、出席しないでテストで良い結果を取ることはほとんどないので、よく出席するように。

授業では、わたし自身のビジネスの経験も語るので、講義は非常に実践的である。どうしたら成功するかに力点がある。わたしは単なる知識の伝授ではなく、感動を与える授業を目指している。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　実践経営学とは何か
2　実践経営学と実践経営財務論
3　財務の重要性
　株式と負債の本質的差異
　頭金＝株式の重要性
4　固定資産投資
5　キャッシュフローの推定のポイント
6　投資決定の方法
　回収期間法、IRR法
7　NPV法
　NPV法とIRR法
　再投資収益率の重要性
8　リスクと危険回避者の概念
9　不確実性と資本コスト
10　長期資本の調達
　社債の資本コスト
11　株式の資本コスト
12　平均資本コストとMM理論
13　現実的な条件下における
　企業の資本構成の決定
14　企業の目的と存続
　京セラ稲盛和夫の経営哲学
15　まとめ

基礎経営財務論「14台以前」

水野　博志

2019-4020000395-01

◎経営

1.企業の投資と資金調達の基本を説明できる。　(A-1)

2.起業の際のファイナンスの重要性を説明できる。　(A-2)

3.投資を行う際のチェックポイントを判断できる。　(A-3)

4.ファイナンスの際のポイントがわかる。　(A-4)

5.日経平均株価の動きを日常的に考えるようになる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

九州の経済・経営Ａ

2019-4020000411-01

中川　敬基

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・５時限　　試験時間割：2019/07/30　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

九州は、総面積が全国の11.8%、総人口が11.4%、域内総生産（GRP）が9.3%を占め、この他電力消費量や地方自治体財政規模などの主要経済指標も概ね全国の１割前後である。このため、一般的に九州はわが国の「１割経済」といわれる。
九州の個別産業をみると、もともと製造業が強く、現在も北九州市・大分市の鉄鋼・化学や長崎市・佐世保市などの造船に加え、自動車関連産業や半導体関連産業の立地が進んでおり、九州はシリコンアイランド・カーアイランドと呼称されることも多い。この他、環境産業などの新たな産業も台頭し、九州は全国的にみても多様な産業集積に恵まれた地域である。その一方で九州の産業は、全国に先んじた少子高齢化と人口減少の進展、ライフスタイルの変化、国境を越えた取引先の拡大などにより大きな影響を受けている。 九州で学ぶ学生にとって、九州の各産業や個別企業の動向を把握することは、九州を理解し生活する上で必要不可欠な事となる。
本講義では、九州をフィールドとするシンクタンク（研究機関）での実務経験を基に、九州の経済や企業の実態を講義する。特に、九州の各産業とそれを担う九州企業について、現状の把握と課題の分析を通じて、全国に対する九州の立ち位置や長所・短所、企業の事業戦略、業界の将来展望（取引構造の変化など）を明らかにすることを目的とする。そのためにまず、地域産業分析の視点を示した（１コマ）上で、九州の産業構造と地域産業政策を明示する（２コマ）。次に、ものづくり産業、ビジネスサービス産業などを中心に個別産業の現状と課題を分析し、将来の方向性を展望する（まとめを含めて11コマ）。
なお、九州の経済・経営を学ぶに当たっては、人口や面積、事業所数、従業者数、出荷額などの「統計・数字」による把握、ならびに計量的な分析も重視するほか、グローバルな環境変化やビジネスモデルの変遷等についても、合わせて説明します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

九州経済の位置、地域構造、主要産業について説明できる。(知識・理解)

九州経済の現状について、人口や産業規模などの「数字」の把握と計量的な分析によって説明できる。(知識・理解)

九州における産業別主要企業の事業内容について説明でき、マクロ経済の中で企業が進むべき方向性を思考できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

■予習
・授業内容の理解力を高めるため、積極的に普段の生活から雑誌や新聞、Web等を使って、地域経済や将来、自分が進みたい分野や業界等を調べる癖をつけておいてください。
■復習
・授業中に配布したレジュメを熟読してください。場合によっては、小テスト等を実施することがあります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

■評価基準
・各産業に関する歴史や特長、専門用語・企業名、数字の把握、ならびに計量的分析に関する授業理解度を評価の基準とする。
・九州の個別産業の現状と課題、将来展望について自分の言葉で説明できるかどうかを評価の基準とする。

■評価方法と割合
・評価基準の達成度を確認する定期試験：80%
・授業参加度、または場合によって実施する過去授業の復習となる小テストによる平常点：20%

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定テキストはない

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「九州の経済・経営Ａ」（前期）と「九州の経済・経営Ｂ」（後期）は、授業内容が異なる。このため、九州の産業や企業経営を理解するには、ＡとＢの両科目を通年で履修することが好ましい。
なお、教員の業務の都合上、年に数回、正規の時間での授業が実施不可能となることによる補講が発生する可能性がある。
基本的に授業計画に沿って進めるが、受講者の興味により、前後させる場合がある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．オリエンテーション
２．地域産業分析の視点
３．九州の産業構造とその変遷
４．地域産業政策の変遷と課題
５．ものづくり産業①（鉄鋼業〈一部建設業〉）
６．ものづくり産業②（化学産業）
７．ものづくり産業③（造船業）
８．ものづくり産業④（半導体産業）
９．ものづくり産業⑤（自動車産業１）
10. ものづくり産業⑤（自動車産業２）
11. ものづくり産業⑥（食料品・飲料産業）
12. ものづくり産業⑦（焼酎産業）
13. ビジネスサービス業①（金融業）
14. ビジネスサービス業②（物流業・不動産業）
15. まとめ

九州の経済・経営Ａ

2019-4020000411-01

中川　敬基

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.九州経済の位置、地域構造、主要産業について説明できる。　(A-1)

2.九州経済の現状について、人口や産業規模などの「数字」の把握と計量的な分析によって説明できる。　(A-2)

3.九州における産業別主要企業の事業内容について説明でき、マクロ経済の中で企業が進むべき方向性を思考できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.九州経済の位置、地域構造、主要産業について説明できる。　(A-1)

2.九州経済の現状について、人口や産業規模などの「数字」の把握と計量的な分析によって説明できる。　(A-2)

3.九州における産業別主要企業の事業内容について説明でき、マクロ経済の中で企業が進むべき方向性を思考できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

九州の経済・経営Ａ

2019-4020000411-01

中川　敬基

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.九州経済の位置、地域構造、主要産業について説明できる。　(A-1)

2.九州経済の現状について、人口や産業規模などの「数字」の把握と計量的な分析によって説明できる。　(A-2)

3.九州における産業別主要企業の事業内容について説明でき、マクロ経済の中で企業が進むべき方向性を思考できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.九州経済の位置、地域構造、主要産業について説明できる。　(A-1)

2.九州経済の現状について、人口や産業規模などの「数字」の把握と計量的な分析によって説明できる。　(A-2)

3.九州における産業別主要企業の事業内容について説明でき、マクロ経済の中で企業が進むべき方向性を思考できる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

九州の経済・経営Ｂ

2019-4020000412-01

中川　敬基

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・５時限　　試験時間割：2020/01/24　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

九州は、総面積が全国の11.8%、総人口が11.4%、域内総生産（GRP）が9.3%を占め、この他電力消費量や地方自治体財政規模などの主要経済指標も概ね全国の１割前後である。このため、一般的に九州はわが国の「１割経済」といわれる。
九州の個別産業をみると、もともと製造業が強く、現在も北九州市・大分市の鉄鋼・化学や長崎市・佐世保市などの造船に加え、自動車関連産業や半導体関連産業の立地が進んでおり、九州はシリコンアイランド・カーアイランドと呼称されることも多い。この他、環境産業などの新たな産業も台頭し、九州は全国的にみても多様な産業集積に恵まれた地域である。その一方で九州の産業は、全国に先んじた少子高齢化と人口減少の進展、ライフスタイルの変化、国境を越えた取引先の拡大などにより大きな影響を受けている。 九州で学ぶ学
生にとって、九州の各産業や個別企業の動向を把握することは、九州を理解し生活する上で必要不可欠な事となる。
本講義では、九州をフィールドとするシンクタンク（研究機関）での実務経験を基に、九州の経済や企業の実態を講義する。特に、九州の各産業とそれを担う九州企業について、現状の把握と課題の分析を通じて、全国に対する九州の立ち位置や長所・短所、企業の事業戦略、業界の将来展望（取引構造の変化など）を明らかにすることを目的とする。そのためにまず、授業の全体像をオリエンテーションで示した（１コマ）上で、生活サービス産業における個別産業の現状と課題を分析し、将来の方向性を展望する（まとめを含めて14コマ）。
なお、九州の経済・経営を学ぶに当たっては、人口や面積、事業所数、従業者数、出荷額などの「統計・数字」による把握、ならびに計量的な分析も重視するほか、グローバルな環境変化やビジネスモデルの変遷等についても、合わせて説明します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

九州経済の位置、地域構造、主要産業について説明できる。(知識・理解)

九州経済の現状について、人口や産業規模などの「数字」の把握と計量的な分析によって説明できる。(知識・理解)

九州における産業別主要企業の事業内容について説明でき、マクロ経済の中で企業が進むべき方向性を思考できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

■予習
・授業内容の理解力を高めるため、積極的に普段の生活から雑誌や新聞、Web等を使って、地域経済や将来、自分が進みたい分野や業界等を調べる癖をつけておいてください。
■復習
・授業中に配布したレジュメを熟読してください。場合によっては、小テスト等を実施することがあります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

■評価基準
・各産業に関する歴史や特長、専門用語・企業名、数字の把握、ならびに計量的分析に関する授業理解度を評価の基準とする。
・九州の個別産業の現状と課題、将来展望について自分の言葉で説明できるかどうかを評価の基準とする。

■評価方法と割合
・評価基準の達成度を確認する定期試験：80%
・授業参加度、または場合によって実施する過去授業の復習となる小テストによる平常点：20%

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定テキストはない

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「九州の経済・経営Ａ」（前期）と「九州の経済・経営Ｂ」（後期）は、授業内容が異なる。このため、九州の産業や企業経営を理解するには、ＡとＢの両科目を通年で履修することが好ましい。
なお、教員の業務の都合上、年に数回、正規の時間での授業が実施不可能となることによる補講が発生する可能性がある。
基本的に授業計画に沿って進めるが、受講者の興味により、前後させる場合がある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．オリエンテーション
２．生活サービス産業①（情報通信関連産業１）
３．生活サービス産業①（情報通信関連産業２）
４．生活サービス産業②（通信販売業）
５．生活サービス産業③（ドラッグストア）
６．生活サービス産業④（観光産業１）
７．生活サービス産業④（観光産業２）
８．生活サービス産業⑤（ホテル産業）
９．生活サービス産業⑥（大型小売店１）
10. 生活サービス産業⑥（大型小売店２）
11. 生活サービス産業⑦（外食産業１）
12. 生活サービス産業⑦（外食産業２）
13. 生活サービス産業⑧（コンビニエンスストア）
14. 生活サービス産業⑨（エネルギー関連産業）
15. まとめ（九州産業を担う企業）

九州の経済・経営Ｂ

2019-4020000412-01

中川　敬基

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.九州経済の位置、地域構造、主要産業について説明できる。　(A-1)

2.九州経済の現状について、人口や産業規模などの「数字」の把握と計量的な分析によって説明できる。　(A-2)

3.九州における産業別主要企業の事業内容について説明でき、マクロ経済の中で企業が進むべき方向性を思考できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.九州経済の位置、地域構造、主要産業について説明できる。　(A-1)

2.九州経済の現状について、人口や産業規模などの「数字」の把握と計量的な分析によって説明できる。　(A-2)

3.九州における産業別主要企業の事業内容について説明でき、マクロ経済の中で企業が進むべき方向性を思考できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

九州の経済・経営Ｂ

2019-4020000412-01

中川　敬基

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.九州経済の位置、地域構造、主要産業について説明できる。　(A-1)

2.九州経済の現状について、人口や産業規模などの「数字」の把握と計量的な分析によって説明できる。　(A-2)

3.九州における産業別主要企業の事業内容について説明でき、マクロ経済の中で企業が進むべき方向性を思考できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.九州経済の位置、地域構造、主要産業について説明できる。　(A-1)

2.九州経済の現状について、人口や産業規模などの「数字」の把握と計量的な分析によって説明できる。　(A-2)

3.九州における産業別主要企業の事業内容について説明でき、マクロ経済の中で企業が進むべき方向性を思考できる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

クリエイティブ社会論「（隔週講義）」

2019-4020000703-01

藤野　真

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・４時限, ５時限　　試験時間割：2020/01/21　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、クリエイティブ産業（特にゲーム業界）の産業史を技術の変遷とビジネスモデルの変化に焦点を当てて議論していきます。ゲーム業界はコンピュータの高度化、AIと呼ばれる人工知能、VRやAR、MRなどの技術の発展と共に変化してきました。

本講義は、このような技術の変遷とビジネス、そして社会との関係を俯瞰的に考えることができるようになることが一つの目的です。このような視点から技術の変化に目を向けることで将来的なビジネスのタネを探求する機会となることを期待しています。

本講義は実務経験がある教員がオムニバス形式で授業を一部を担当します。授業を担当される実務経験のある教員は以下のような授業を担当されます。

・ゲーム会社のトップマネジメント経験者によるゲーム産業・ゲーム企業のビジネスモデルに関する講義。
・ゲーム会社のトップマネジメントによるゲーム制作およびゲーム制作哲学に関する講義。
・ゲーム会社においてAIを研究するリサーチャーによるゲームとAIの現状と今後に関する講義。
・公的シンクタンクにおいて地元経済の振興に関連する業務を担当している職員によるeスポーツの振興と文化「化」に関する講義。
・ゲームエンジン開発会社において仮想と現実を研究する研究員によるリアルとリアリティに関する講義。
・ゲーム会社においてゲームおよびゲーム関連商品に関するUI/UXの設計を担当するディレクターによるUI/UXの設計に関する講義。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ゲーム産業（企業）の企業活動をコンピュータ技術との関連で説明することができる。(知識・理解)

ゲーム産業（企業）の各時代のビジネスモデルのおよびその経営管理について説明できる。(知識・理解)

経営学および会計学の専門的知識および理論を用いてゲーム産業（企業）の問題を発見し解決策を提案することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・コンシューマーゲームやソーシャルゲームなどを試遊し、そのゲームの面白さを分析する（60分）。

・授業内容の復習を行ってください（30-60分）。

・レポートの作成（60-90分）

・自分なりの時間外学習（30-60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義でのレポート（10%）×6回、定期試験（40%）で評価を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません。 講義はレジュメをもとに進めます。

◎－－－　参考書　－－－◎

日経BP社ゲーム産業取材班『日本ゲーム産業史』日経BP社　ISBN 978-4822272746
松尾 豊『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』KADOKAWA/中経出版　ISBN 978-4040800202

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

クリエイティブ・マネジメント・プログラムを目指す学生は必ず履修してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション
2. ゲームを作るということとは（1）
3. ゲームを作るということとは（2）
4. ゲーム産業の可能性について（1）
5. ゲーム産業の可能性について（2）
6. 現実と仮想(1)
7. 現実と仮想(2)
8. AIの変遷(1)
9. AIの変遷(2)
10. ゲーム産業の歴史と主要なプレイヤー
11. ゲームとUX/UI
12. ゲームとUX/UI
13. ゲーム産業のビジネスモデル(1)
14. ゲーム産業のビジネスモデル(2)
15. まとめ

＊ゲストスピーカーに登壇してもらう予定です。その関連で授業計画が前後することがあります。

◎－－－　URL　－－－◎

クリエイティブ・マネジメント・プログラム（福岡大学商学部）
(https://www.comm.fukuoka-u.ac.jp/creative_management/)

クリエイティブ社会論「（隔週講義）」

2019-4020000703-01

藤野　真

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.ゲーム産業（企業）の企業活動をコンピュータ技術との関連で説明することができる。　(A-1)

2.ゲーム産業（企業）の各時代のビジネスモデルのおよびその経営管理について説明できる。　(A-2)

3.経営学および会計学の専門的知識および理論を用いてゲーム産業（企業）の問題を発見し解決策を提案することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.ゲーム産業（企業）の企業活動をコンピュータ技術との関連で説明することができる。　(A-1)

2.ゲーム産業（企業）の各時代のビジネスモデルのおよびその経営管理について説明できる。　(A-2)

3.経営学および会計学の専門的知識および理論を用いてゲーム産業（企業）の問題を発見し解決策を提案することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

クリエイティブ社会論「（隔週講義）」

2019-4020000703-01

藤野　真

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.ゲーム産業（企業）の企業活動をコンピュータ技術との関連で説明することができる。　(A-1)

2.ゲーム産業（企業）の各時代のビジネスモデルのおよびその経営管理について説明できる。　(A-2)

3.経営学および会計学の専門的知識および理論を用いてゲーム産業（企業）の問題を発見し解決策を提案することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.ゲーム産業（企業）の企業活動をコンピュータ技術との関連で説明することができる。　(A-1)

2.ゲーム産業（企業）の各時代のビジネスモデルのおよびその経営管理について説明できる。　(A-2)

3.経営学および会計学の専門的知識および理論を用いてゲーム産業（企業）の問題を発見し解決策を提案することができる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ

2019-4020000706-01

篠原　巨司馬

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：月・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

ゲームなどコンテンツを作り販売する一連の流れをクリエイティブマネジメントプロセスとする。このクリエイティブマネジメントプロセスの中でも初期の段階である企画に焦点を当てた演習である。企画時に考慮すべき事項について学び実際に企画を行うことで企画プロセスの理解を深める。また企画の実現性について考えるために実際にアナログゲームの制作を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている(知識・理解)

新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている(知識・理解)

新商品開発のアイデアを独創性およびビジネス性の側面から検討できる(技能)

実際の新商品開発に関与した際に本講義で得た知識を元に主体的に進め方を提案できる(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業時間外の学習の目安は下記の通り
・毎回のゼミで出される課題への取り組み（60分/回）
・関連書の読書（60分/回）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・演習への参加度（20%）
・振り返りレポート(30%)
・制作課題のビジネス性やオリジナリティ（30%）
・最終プレゼンテーションの質 （20%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし

◎－－－　参考書　－－－◎

必要に応じて講義内で提示する

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミ形式で進めるため、主体性が求められます。2年基礎ゼミナールと並行して開講します。相互に関連しているので両方受講してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.クリエイティブマネジメントのプロセスについて
2.企画テーマの提示
3.アイデア創出の方法
4.アイデア創出のワークショップ
5.アイデアの相互評価
6.アイデアのプレゼンテーションとフィードバック（前半）
7.アイデアのプレゼンテーションとフィードバック（後半）
8.アイデアの収束と改善
9.コンセプトとは
10.コンセプトの構築
11.コンセプトの相互評価
12.コンセプトの改善およびチェック
13.アイデアの最終プレゼンテーション
14.本演習の振り返り
15.まとめ

なお参加者それぞれの課題の進度によって計画を変更することがある。

クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ

2019-4020000706-01

篠原　巨司馬

◎経営:A-1,A-2,B-1,C-3

1.新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている　(A-1)

2.新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている　(A-2)

3.新商品開発のアイデアを独創性およびビジネス性の側面から検討できる　(B-1)

4.実際の新商品開発に関与した際に本講義で得た知識を元に主体的に進め方を提案できる　(C-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,B-1,C-3

1.新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている　(A-1)

2.新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている　(A-2)

3.新商品開発のアイデアを独創性およびビジネス性の側面から検討できる　(B-1)

4.実際の新商品開発に関与した際に本講義で得た知識を元に主体的に進め方を提案できる　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ

2019-4020000706-01

篠原　巨司馬

◎貿易:A-1,A-2,B-1,C-3

1.新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている　(A-1)

2.新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている　(A-2)

3.新商品開発のアイデアを独創性およびビジネス性の側面から検討できる
(B-1)

4.実際の新商品開発に関与した際に本講義で得た知識を元に主体的に進め方を提案できる　(C-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ

2019-4020000707-01

篠原　巨司馬

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

ゲームなどコンテンツを作り販売する一連の流れをクリエイティブマネジメントプロセスとする。このクリエイティブマネジメントプロセスの中でも制作段階のマネジメントに焦点を当てた演習である。制作段階で発見すべき課題や品質と納期とコストとのバランスなどをどのように取っていくべきかを学ぶ。実際に、個人またはグループで制作活動を行うことで実践の中から理論へ接近する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている(知識・理解)

新商品開発プロセスについて理論的な側面から現状を分析できる(知識・理解)

新商品開発のアイデアを独創性およびビジネス性の側面から検討できる(技能)

実際の新商品開発に関与した際に本講義で得た知識を元に主体的に進め方を提案できる(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業時間外の学習の目安は下記の通り
・毎回のゼミで出される課題への取り組み（120分/回）
・関連書の読書（60分/回）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・演習への参加度（20%）
・振り返りレポート(30%)
・制作課題のビジネス性やオリジナリティ（30%）
・最終プレゼンテーションの質 （20%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし

◎－－－　参考書　－－－◎

必要に応じて講義内で提示する

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミ形式で進めるため、主体性が求められます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.クリエイティブマネジメント演習2の概要について
2.開発テーマの提示
3.チーム活動（1）
4.チーム活動（2）
5.チーム活動（3）
6.チーム活動（4）
7.チーム活動（5）
8.相互レビュー（中間）
9.チーム活動（6）
10.チーム活動（7）
11.チーム活動（8）
12.チーム活動（9）
13.チーム活動（10）
14.相互レビュー（最終）
15.講評

クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ

2019-4020000707-01

篠原　巨司馬

◎経営:A-1,A-2,B-1,C-3

1.新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている　(A-1)

2.新商品開発プロセスについて理論的な側面から現状を分析できる　(A-2)

3.新商品開発のアイデアを独創性およびビジネス性の側面から検討できる　(B-1)

4.実際の新商品開発に関与した際に本講義で得た知識を元に主体的に進め方を提案できる　(C-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,B-1,C-3

1.新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている　(A-2)

2.新商品開発プロセスについて理論的な側面から現状を分析できる　(A-1)

3.新商品開発のアイデアを独創性およびビジネス性の側面から検討できる　(B-1)

4.実際の新商品開発に関与した際に本講義で得た知識を元に主体的に進め方を提案できる　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ

2019-4020000707-01

篠原　巨司馬

◎貿易:A-1,A-2,B-1,C-3

1.新商品開発プロセスの基礎的な理解をしている　(A-1)

2.新商品開発プロセスについて理論的な側面から現状を分析できる　(A-2)

3.新商品開発のアイデアを独創性およびビジネス性の側面から検討できる　(B-1)

4.実際の新商品開発に関与した際に本講義で得た知識を元に主体的に進め方を提案できる　(C-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

経営管理各論

2019-4020000603-01

藤野　真

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・４時限　　試験時間割：2019/07/29　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

「経営管理各論」では、現代に至るさまざまな管理論を概括すると同時に、それら管理論が提起された理由を社会・企業（資本主義経済における企業）・組織・人間（人間観）に注意を払いながら学修していきたいと思います。また、それら管理論の発展の方向とその意味について考えていきたいと思います。

講義は、配布したレジュメに沿って行います。レジュメは、専門用語や重要語句が空欄になっています。また、まとめや小括にあたる部分は100～200字程度の文章を書き込む空欄を設けています。

講義では，おもに上記のような空欄を埋めるとともに、教員がおこなった説明などのメモをおこなってください。

レジュメを埋めればそれで学習が終わるわけではありません。レジュメを埋めることは学習を促進させる一つの手段でしかありません。したがって、主体的・自律的態度をもって講義に臨んでください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営管理の生成と発展を促した社会・経済の変化について説明することができる。(知識・理解)

企業活動における経営管理の役割について説明することができる。(知識・理解)

企業の経営管理の課題ついて説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・授業で学んだ理論や概念を学ぶ前提として、現在の社会がどんな社会なのか、どんな企業があるのかなどを知っておく必要があります。新聞を読んだり、ウェブを閲覧したり、ニュースを見たり、アルバイトをしながらアルバイト先を観察したりなどしてください（30-60分）。

・配布したレジュメを基に講義の要旨の復習を行ってください（30-60分）。講義の内容を深く理解できるかは復習にかかっています。

・授業で学んだ理論や概念を補助線に社会のことや企業のこと、企業経営のことを考えてください（60-90分）

・自分なりの時間外学習（30-60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

◎評価方法と評価割合
評価は、定期試験（80%）、小テスト（20%：2回）を総合して行い、60点以上を合格とします。

◎評価基準
既存の学説を踏まえたうえで、自身の考えを述べることができている解答であるかどうかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません。
講義はレジュメをもとに進めます。

◎－－－　参考書　－－－◎

参考書は講義のなかで適宜紹介していきます。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

（1）「経営管理各論」について意欲的に学習する意志がある学生の受講を希望します。
（2）注意したにも関わらず、著しく受講態度が悪い場合は、出席を遠慮してもらいます。
（3）部活・サークル活動による欠席はとくに配慮しません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション
２．経営管理の生成と発展（1）
　　企業の水平的拡大、企業の垂直的統合
３．経営管理の生成と発展（2）
　　ビッグ・ビジネス、内部化、職能別組織、経営階層と本社機能
４．組織の「組織的」行為と分業（1）
　分業における分担と再統合、水平分業、垂直分業
５．組織の「組織的」行為と分業（2）
　分業と分業の組み合わせ
６．組織の「組織的」行為と分業（3）
　　機能別分業の意味と機能別分業の調整・再統合
７．中間試験（１回目）
８．組織における管理の正当性（1）
　　権限による正統的支配と官僚制
９．組織における管理の正当性（2）
　　官僚制の意思決定、限定された合理性、組織学習
１０．組織における管理の正当性（3）
　　コミュニケーション・スタイル、階層（ヒエラルキー）
１１．組織における管理の正当性（４）
　　ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織
１２．中間試験（2回目）
１３．官僚制における意思決定とイノベーション（１）
　　ドミナント・デザイン、A-Uモデル
１４．官僚制における意思決定とイノベーション（２）
　　製品・工程イノベーション、経営者による意思決定

１５．まとめ

経営管理各論

2019-4020000603-01

藤野　真

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.経営管理の生成と発展を促した社会・経済の変化について説明することができる。　(A-1)

2.企業活動における経営管理の役割について説明することができる。　(A-2)

3.企業の経営管理の課題ついて説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.経営管理の生成と発展を促した社会・経済の変化について説明することができる。　(A-1)

2.企業活動における経営管理の役割について説明することができる。　(A-2)

3.企業の経営管理の課題ついて説明することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営管理各論

2019-4020000603-01

藤野　真

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.経営管理の生成と発展を促した社会・経済の変化について説明することができる。　(A-1)

2.企業活動における経営管理の役割について説明することができる。　(A-2)

3.企業の経営管理の課題ついて説明することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.経営管理の生成と発展を促した社会・経済の変化について説明することができる。　(A-1)

2.企業活動における経営管理の役割について説明することができる。　(A-2)

3.企業の経営管理の課題ついて説明することができる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

藤野　真

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　　試験時間割：2020/01/23　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

「経営管理概論」では、経営学科におかれている専門科目の中でも入門的な科目と位置付け、企業経営における「管理」とは何かということを学んでいきます。
講義は、配布したレジュメに沿って行います。レジュメは、専門用語や重要語句が空欄になっています。また、まとめや小括にあたる部分は100～200字程度の文章を書き込む空欄を設けています。
講義では、おもに上記のような空欄を埋めるとともに、教員がおこなった説明などのメモをおこなってください。
レジュメを埋めればそれで学習が終わるわけではありません。レジュメを埋めることは学習を促進させる一つの手段でしかありません。したがって、主体的・自律的態度をもって講義に臨んでください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業・経営・労働について理解すると同時に、それらを取り囲む社会・経済について基本的な知識を身についけている。(知識・理解)

企業とは何か、経営とは何か、労働とは何かについて経営学の知識を用いて説明することができる。(知識・理解)

企業、経営、労働についての課題を説明できる。(知識・理解)

企業、経営、労働についてその問題点を発見し解決策を提案することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・授業で学んだ理論や概念を学ぶ前提として、現在の社会がどんな社会なのか、どんな企業があるのかなどを知っておく必要があります。新聞を読んだり、ウェブを閲覧したり、ニュースを見たり、アルバイトをしながらアルバイト先を観察したりなどしてください（30-60分）。

・配布したレジュメを基に講義の要旨の復習を行ってください（30-60分）。講義の内容を深く理解できるかは復習にかかっています。

・授業で学んだ理論や概念を補助線に社会のことや企業のこと、企業経営のことを考えてください（60-90分）

・自分なりの時間外学習（30-60

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

◎評価方法と評価割合
評価は、定期試験（80%）、小テスト（20%：2回）を総合して行い、60点以上を合格とします。

◎評価基準
既存の学説を踏まえたうえで、客観的な根拠をもって自身の考えを述べることができている解答であるかどうかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社、2013、ISBN:978-4502-69860-6

◎－－－　参考書　－－－◎

経営学史学会編『経営学史事典（第2版）』文眞堂、2012　ISBN 978-4-8309-4723-0
参考書は講義中に適宜紹介していきます。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

（1）「経営管理概論」について意欲的に学習する意志がある学生の受講を希望します。
（2）注意したにも関わらず、著しく受講態度が悪い場合は、出席を遠慮してもらいます。
（3）部活・サークル活動による欠席はとくに配慮しません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション
2. 経営管理論とは何か？
   経営管理論を知る
   企業と社会の関係を考える
3. 企業とは何か？（第1章・第４章・第６章）
   企業を知る
   相対的に考えることを学ぶ
4. 会社（株式会社）とは何か？（第1章）
   会社を知る
   法制度を利用することを学ぶ
5. コーポレート・ガバナンス（第2章）
   コーポレート・ガバナンスを知る
   法制度と経済活動のずれを学ぶ
6. 中間試験（第1回目）
7. 経営とは何か？
   経営を知る
   対象が同じでも着眼点が変わることを学ぶ
8. 経営戦略論（第8章）
   戦略論を知る
   フレームワークとして理論を学ぶ
9. 経営学説史（第7章）
   経営学説を知る
   経営学説（理論）と社会の関係を学ぶ
10. 人的資源管理（第12章）
    人的資源管理を知る
    労働・労働力・労働者の管理を学ぶ
11. 日本的経営
    日本的経営を知る
    定説的理解と現実のズレを学ぶ
12. 企業の社会的責任（第16章）
    企業の社会的責任を知る
    普遍性と個別性を学ぶ
13. 中間試験（第2回目）
14. 労働とは何か？
    労働を知る
    「人間（らしい）」の労働を学ぶ
15. まとめ

経営管理概論「（16台以前）」

2019-4020000108-01

藤野　真

◎経営

1.企業・経営・労働について理解すると同時に、それらを取り囲む社会・経済について基本的な知識を身についけている。　(A-1)

2.企業とは何か、経営とは何か、労働とは何かについて経営学の知識を用いて説明することができる。　(A-2)

3.企業、経営、労働についての課題を説明できる。　(A-3)

4.企業、経営、労働についてその問題点を発見し解決策を提案することができる。　(A-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

藤野　真

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　　試験時間割：2020/01/23　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

「経営管理論」では、経営学科におかれている専門科目の中でも入門的な科目と位置付け、企業経営における「管理」とは何かということを学んでいきます。
講義は、配布したレジュメに沿って行います。レジュメは、専門用語や重要語句が空欄になっています。また、まとめや小括にあたる部分は100～200字程度の文章を書き込む空欄を設けています。
講義では、おもに上記のような空欄を埋めるとともに、教員がおこなった説明などのメモをおこなってください。
レジュメを埋めればそれで学習が終わるわけではありません。レジュメを埋めることは学習を促進させる一つの手段でしかありません。したがって、主体的・自律的態度をもって講義に臨んでください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業とは何か、経営とは何か、労働とは何かについて経営学の知識を用いて説明することができる。(知識・理解)

企業、経営、労働についての課題を説明できる。(知識・理解)

企業、経営、労働についてその問題点を発見し解決策を提案することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・授業で学んだ理論や概念を学ぶ前提として、現在の社会がどんな社会なのか、どんな企業があるのかなどを知っておく必要があります。新聞を読んだり、ウェブを閲覧したり、ニュースを見たり、アルバイトをしながらアルバイト先を観察したりなどしてください（30-60分）。

・配布したレジュメを基に講義の要旨の復習を行ってください（30-60分）。講義の内容を深く理解できるかは復習にかかっています。

・授業で学んだ理論や概念を補助線に社会のことや企業のこと、企業経営のことを考えてください（60-90分）

・自分なりの時間外学習（30-60

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

◎評価方法と評価割合
評価は、定期試験（80%）、小テスト（20%：2回）を総合して行い、60点以上を合格とします。

◎評価基準
既存の学説を踏まえたうえで、客観的な根拠をもって自身の考えを述べることができている解答であるかどうかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社、2013、ISBN:978-4502-69860-6

◎－－－　参考書　－－－◎

参考書は講義中に適宜紹介していきます。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

（1）「経営管理論」について意欲的に学習する意志がある学生の受講を希望します。
（2）注意したにも関わらず、著しく受講態度が悪い場合は、出席を遠慮してもらいます。
（3）部活・サークル活動による欠席はとくに配慮しません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション
2. 経営管理論とは何か？
   経営管理論を知る
   企業と社会の関係を考える
3. 企業とは何か？（第1章・第４章・第６章）
   企業を知る
   相対的に考えることを学ぶ
4. 会社（株式会社）とは何か？（第1章）
   会社を知る
   法制度を利用することを学ぶ
5. コーポレート・ガバナンス（第2章）
   コーポレート・ガバナンスを知る
   企業統治について学ぶ
6. 中間試験（第1回目）
7. 経営とは何か？
   経営を知る
   対象が同じでも着眼点が変わることを学ぶ
8. 経営戦略論（第8章）
   戦略論を知る
   フレームワークとして理論を学ぶ
9. 経営学説史（第7章）
   経営学説を知る
   経営学説（理論）と社会の関係を学ぶ
10. 人的資源管理（第12章）
    人的資源管理を知る
    労働・労働力・労働者の管理を学ぶ
11. 日本的経営
    日本的経営を知る
    定説的理解と現実のズレを学ぶ
12. 企業の社会的責任（第16章）
    企業の社会的責任を知る
    普遍性と個別性を学ぶ
13. 中間試験（第2回目）
14. 労働とは何か？
    労働を知る
    「人間（らしい）」の労働を学ぶ
15. まとめ

経営管理論「（17台以降）」

2019-4020000602-01

藤野　真

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.企業とは何か、経営とは何か、労働とは何かについて経営学の知識を用いて説明することができる。　(A-1)

2.企業、経営、労働についての課題を説明できる。　(A-2)

3.企業、経営、労働についてその問題点を発見し解決策を提案することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.企業とは何か、経営とは何か、労働とは何かについて経営学の知識を用いて説明することができる。　(A-1)

2.企業、経営、労働についての課題を説明できる。　(A-2)

3.企業、経営、労働についてその問題点を発見し解決策を提案することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営管理論「（17台以降）」

2019-4020000602-01

藤野　真

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.企業とは何か、経営とは何か、労働とは何かについて経営学の知識を用いて説明することができる。　(A-1)

2.企業、経営、労働についての課題を説明できる。　(A-2)

3.企業、経営、労働についてその問題点を発見し解決策を提案することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

藤野　真

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・４時限　　試験時間割：2019/07/29　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

「経営管理論」では、現代に至るさまざまな管理論を概括すると同時に、それら管理論が提起された理由を社会・企業（資本主義経済における企業）・組織・人間（人間観）に注意を払いながら学修していきたいと思います。また、それら管理論の発展の方向とその意味について考えていきたいと思います。
講義は、配布したレジュメに沿って行います。レジュメは、専門用語や重要語句が空欄になっています。また、まとめや小括にあたる部分は100～200字程度の文章を書き込む空欄を設けています。
講義では，おもに上記のような空欄を埋めるとともに、教員がおこなった説明などのメモをおこなってください。
レジュメを埋めればそれで学習が終わるわけではありません。レジュメを埋めることは学習を促進させる一つの手段でしかありません。したがって、主体的・自律的態度をもって講義に臨んでください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営管理の生成と発展を促した社会・経済の変化について説明することができる。(知識・理解)

企業活動における経営管理の役割について説明することができる。(知識・理解)

企業の経営管理の課題ついて説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・授業で学んだ理論や概念を学ぶ前提として、現在の社会がどんな社会なのか、どんな企業があるのかなどを知っておく必要があります。新聞を読んだり、ウェブを閲覧したり、ニュースを見たり、アルバイトをしながらアルバイト先を観察したりなどしてください（30-60分）。

・配布したレジュメを基に講義の要旨の復習を行ってください（30-60分）。講義の内容を深く理解できるかは復習にかかっています。

・授業で学んだ理論や概念を補助線に社会のことや企業のこと、企業経営のことを考えてください（60-90分）

・自分なりの時間外学習（30-60

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

◎評価方法と評価割合
評価は、定期試験（80%）、小テスト（20%：2回）を総合して行い、60点以上を合格とします。

◎評価基準
既存の学説を踏まえたうえで、客観的な根拠をもって自身の考えを述べることができている解答であるかどうかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません。
講義はレジュメをもとに進めます。

◎－－－　参考書　－－－◎

参考書は講義中に適宜紹介していきます。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

（1）「経営管理論」について意欲的に学習する意志がある学生の受講を希望します。
（2）注意したにも関わらず、著しく受講態度が悪い場合は、出席を遠慮してもらいます。
（3）部活・サークル活動による欠席はとくに配慮しません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション
２．経営管理の生成と発展（1）
　企業の水平的拡大、企業の垂直的統合
３．経営管理の生成と発展（2）
　ビッグ・ビジネス、内部化、職能別組織、経営階層と本社機能
４．組織の「組織的」行為と分業（1）
　分業における分担と再統合、水平分業、垂直分業
５．組織の「組織的」行為と分業（2）
　分業と分業の組み合わせ
６．組織の「組織的」行為と分業（3）
　機能別分業の意味と機能別分業の調整・再統合
７．中間試験（１回目）
８．組織における管理の正当性（1）
　権限による正統的支配と官僚制
９．組織における管理の正当性（2）
　官僚制の意思決定、限定された合理性、組織学習
１０．組織における管理の正当性（3）
　コミュニケーション・スタイル、階層（ヒエラルキー）
１１．組織における管理の正当性（４）
　ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織
１２．中間試験（2回目）
１３．官僚制における意思決定とイノベーション（１）
　ドミナント・デザイン、A-Uモデル
１４．官僚制における意思決定とイノベーション（２）
　製品・工程イノベーション、経営者による意思決定

１５．まとめ

経営管理論「（16台以前）」

2019-4020000109-01

藤野　真

◎経営

1.経営管理の生成と発展を促した社会・経済の変化について説明することができる。　(A-1)

2.企業活動における経営管理の役割について説明することができる。　(A-2)

3.企業の経営管理の課題ついて説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

三浦　隆之

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：通年：火・４時限　　試験時間割：2019/07/29　２時限,　2020/01/23　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　前期は、企業経営の根本について考える。
　現代の企業経営のすべては、伝統的な企業経営の延長線上において展開される。したがって、もし技術水準を落とさずに、より安い人件費で生産できるところがあれば、生産拠点の移転を検討するのは昔も今も自然である。また、もし競合他社よりも優れた性能やサービスを提供できるのであれば、より高い価格設定を検討するのは昔も今も自然である。
　ただし、企業経営がうまくいき、収益力が高まったとき、企業経営者の対応は一様ではない。たとえ収益力が高まっても、賃金と価格を相場水準で維持しようとする経営者もいる。そうすることで、当面の短期的な利益が保持できるからである。ところが、継続企業としての長期的な利益は、どうなるであろうか？
　継続企業としては、顧客の満足と従業員の満足を連関させたほうが理にかなっている。しかし、たとえば、低価格と高賃金を長期的な利益と連関させるためには、多様な費用節約の中から、どのような費用節約がとくに求められるのだろうか？
　アメリカ建国の父、ベンジャミン・フランクリンに端を発し、中国深圳市蛇口港湾地区の開発者、袁庚の標語として受け継がれた、"Time is money. Efficiency is life."という言葉の意味をヘンリー・フォードなどの近代経営の先駆的な事例から学ぶ。
　後期は、企業所有の根本について考える。
　企業資本を純粋に運用面だけでとらえれば、実際に企業経営に投下され運用されている実物資本の有用性・効率性の巧拙に注目しがちになるが、その資本をどのようにして調達したか、その資本は上場されているか否かは、企業経営の意思決定構造あるいは支配構造にとって決定的な重要性をもっている。最近のM&Aの動向もふまえながら、企業価値の多層化や経営者報酬の在り方についても考察する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業経営の根本について、深い認識をえる。(知識・理解)

講義の内容・本質を変えずに、自分の血となり肉となった認識を自分の言葉で説明できる。(知識・理解)

学んだことを自分の身の回りやニュースなどで話題になっている企業経営上の課題と結びつけて説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業前後におけるテキストの入念な読み込みが不可欠である。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験によって評価する。
　試験間際のつまみ食い的な棒暗記で合格点をとるのは至難の業である。
　日頃の地道な努力が、そのまま答案用紙に反映される。

◎－－－　テキスト　－－－◎

三浦隆之稿「研究こぼれ話」研究雑話『福岡大学研究推進部ニュース＆レポート』2015年12月、第20巻第4号、4-7頁。受講者は、各自あらかじめ下記サイトからダウンロードして下さい。https://fukuoka-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3616&item_no=1-&page_id=13&block_id=39
三浦隆之著『第４版・近代経営の基礎』創成社、2017年5月、4,100円。ISBN978-4-7944-2507-2
三浦隆之著『成長を買うM&Aの深層』創成社新書、2015年1月、800円。ISBN978-4-7944-5054-8

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

FUポータルの教員プロフィールにおける私のアドバイスを参照して下さい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
①　企業の存立条件
②　　〃
③　　〃
④　価格決定の基本
⑤　　〃
⑥　　〃
⑦　賃金決定の基本
⑧　　〃
⑨　　〃
⑩　分業の原理
⑪　　〃
⑫　　〃
⑬　規模の経済
⑭　　〃
⑮　　〃
後期
①　企業資本の二重性
②　　〃
③　　〃
④　創業者利得の概念
⑤　　〃
⑥　　〃
⑦　現金買収と株式買収
⑧　　〃
⑨　　〃
⑩　企業価値の三重性
⑪　　〃
⑫　　〃
⑬　現金報酬と株式報酬
⑭　　〃
⑮　　〃

経営学総論「（再）（16台以前）」

2019-4020000001-01

三浦　隆之

◎経営

1.企業経営の根本について、深い認識をえる。　(A-1)

2.講義の内容・本質を変えずに、自分の血となり肉となった認識を自分の言葉で説明できる。　(A-2)

3.学んだことを自分の身の回りやニュースなどで話題になっている企業経営上の課題と結びつけて説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

三浦　隆之

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・４時限　　試験時間割：2020/01/23　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

企業所有の根本について考える。
企業資本を純粋に運用面だけでとらえれば、実際に企業経営に投下され運用されている実物資本の有用性・効率性の巧拙に注目しがちになるが、その資本をどのようにして調達したか、その資本は上場されているか否かは、企業経営の意思決定構造あるいは支配構造にとって決定的な重要性をもっている。最近のM&Aの動向もふまえながら、企業価値の多層化や経営者報酬の在り方についても考察する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業経営の根本について、深い認識をえる。(知識・理解)

講義の内容・本質を変えずに、自分の血となり肉となった認識を自分の言葉で説明できる。(知識・理解)

学んだことを自分の身の回りやニュースなどで話題になっている企業経営上の課題に結びつけて説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業前後におけるテキストの入念な読み込みが不可欠である。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験によって評価する。
試験間際のつまみ食い的な棒暗記で合格点をとるのは至難の業である。
日頃の地道な努力が、そのまま答案用紙に反映される。

◎－－－　テキスト　－－－◎

三浦隆之稿「研究こぼれ話」研究雑話『福岡大学研究推進部ニュース＆レポート』2015年12月、第20巻第4号、4-7頁。受講者は、各自あらかじめ下記サイトからダウンロードして下さい。https://fukuoka-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3616&item_no=1-&page_id=13&block_id=39
三浦隆之著『第４版・近代経営の基礎』創成社、201７年5月、4,100円。ISBN978-4-7944-2507-2
三浦隆之著『成長を買うM&Aの深層』創成社新書、2015年1月、800円。ISBN978-4-7944-5054-8

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

FUポータルの教員プロフィールにおける私のアドバイスを参照して下さい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

① 企業資本の二重性
② 〃
③ 〃
④ 創業者利得の概念
⑤ 〃
⑥ 〃
⑦ 現金買収と株式買収
⑧ 〃
⑨ 〃
⑩ 企業価値の三重性
⑪ 〃
⑫ 〃
⑬ 現金報酬と株式報酬
⑭ 〃
⑮ 〃

経営学総論「（18・17台）」

三浦　隆之

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.企業経営の根本について、深い認識をえる。　(A-1)

2.講義の内容・本質を変えずに、自分の血となり肉となった認識を自分の言葉で説明できる。　(A-2)

3.学んだことを自分の身の回りやニュースなどで話題になっている企業経営上の課題に結びつけて説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

経営財務論A

2019-4020000387-01

水野　博志

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・２時限　　試験時間割：2019/07/24　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

実践経営学の中で経営財務を考える。実践経営学というのは、経営を成功させるための経営学である。この授業では、特に投資と資金調達を中心に、どのようにすれば投資と資金調達を成功させることができるかを考える。

この授業では失敗しない投資をするための財務の基礎を学ぶ。この基礎をマスターしておかないと、投資は必ず失敗するといっても過言ではない。投資は気合いで成功するものではなく、緻密な計画が必要で、それでも成功する保証はない。

投資に関しては、どれくらいの自己資金を持っているのかがポイントになる。借入比率が高い中で投資をすると投資の中身・収益性がよくても資金繰りで苦労することになる。したがって、豊かな自己資金を持っているとして、投資案の評価並びに評価方法を学ぶ順序になる。その際、時間価値を考慮した割引現金法の概念は経済計算の必須事項である。同時に、不確実性（リスク）と危険回避の概念も必須である。投資の概念を理解した上で、現実に目を向ける。なぜ多くの巨大プロジェクトは失敗をしてきたのかを考える。さらに重要なのはどうすれば失敗を避けることができるかである。ここで重要なのはキャッシュフローの推定である。要するに、合理的推定について考える。

次に、資金調達の方法について学ぶ。調達方法は株式と負債に分けられるが、株式と負債の違い、それぞれの資本コストについて学ぶ。次に株式と負債の選択について考える。この問題に関して企業金融の基礎理論であるMM理論を解説し、それをベースに最適資本調達について考察する。さらに実務の中で、資本構成がどのように決まってくるのかを解説する。

最後に企業の目的と存続について考える。企業にとって重要なのは長期的に存続することである。この観点がないと単なる短期的な金儲けで終わってしまい、長期的には存続できない。京セラ会長の稲盛和夫氏の見解を紹介し、わたし自身の実務的なコメントを行う。

この講義の大きな特徴は、毎回受講者が授業のはじめに株価の動き、経済ニュースをスマートフォンで検索し、そのあとわたしが解説することにある。株価は全ての情報を反映し、その動きを知ることによって、世界経済、日本経済の動きが身近になるであろう。ダイナミックな株価の動きを感じ、世の中の一歩先に行く経営が求められている。そのような緊迫感をこの授業で感じてもらいたいと思う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業の投資と資金調達の基本を説明できる。(知識・理解)

起業の際のファイナンスの重要性を説明できる。(知識・理解)

投資を行う際のチェックポイントを判断できる。(知識・理解)

ファイナンスの際のポイントがわかる。(知識・理解)

日経平均株価の動きを日常的に考えるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習・復習として特に重要なのは、日経Webで、株式市場を中心にしたマーケットの動きをみることである。毎日、株価、外国為替、ニュースを検索するのに30分程度の時間が必要と思われる。日経Webにはマーケットの動きに対する解説が書かれているのでそれを読むこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

試験の成績によって評価する。

出席を含む平常点を考慮するが、ゼミのように出席が悪いと単位が取れないということはない。4年生の場合、しばしば就職活動で授業に出席できない場合があるが、試験の結果が良ければ全く問題はない。

試験では投資のリスクを下げる方法、そのための調達方法の理解度をテストする。また、日本経済、株価動向についての基本的な興味と理解度をテストする。ただし、レポート提出、小テストなどの課題は一切要求しない。

◎－－－　テキスト　－－－◎

ノート講義のためなし

◎－－－　参考書　－－－◎

冨山和彦、岸本光永編著『リーダーのための戦略思考』日本経済新聞出版社、2012、1500円　ISBN 978-4-532-31863-5
稲盛和夫著『心を高める、経営を伸ばす』（新装版）、PHP研究所、2004、1000円　ISBN 4-569-63638-1
稲盛和夫著『アメーバ経営』日本経済新聞出版社、2006、1500円　ISBN 4-532-31295-7
水野博志著『企業財務の研究』近代文芸社、1995、3800円、ISBN4-7733-4990-5
水野博志著『財務的意思決定の分析』中央経済社、1996、4326円、ISBN4-502-33625-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

レポート提出はないが、分からない人は参考書で復習をしてもらいたい。評価ではテストのウェイトが高いが、出席しないでテストで良い結果を取ることはほとんどないので、よく出席するように。

授業では、わたし自身のビジネスの経験も語るので、講義は非常に実践的である。どうしたら成功するかに力点がある。わたしは単なる知識の伝授ではなく、感動を与える授業を目指している。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　実践経営学とは何か
2　実践経営学と実践経営財務論
3　財務の重要性
　株式と負債の本質的差異
　頭金＝株式の重要性
4　固定資産投資
5　キャッシュフローの推定のポイント
6　投資決定の方法
　回収期間法、IRR法
7　NPV法
　NPV法とIRR法
　再投資収益率の重要性
8　リスクと危険回避者の概念
9　不確実性と資本コスト
10　長期資本の調達
　社債の資本コスト
11　株式の資本コスト
12　平均資本コストとMM理論
13　現実的な条件下における
　企業の資本構成の決定
14　企業の目的と存続
　京セラ稲盛和夫の経営哲学
15　まとめ

経営財務論Ａ

2019-4020000387-01

水野　博志

◎経営:A-1,A-2,A-3,C-2

1.企業の投資と資金調達の基本を説明できる。　(A-1)

2.起業の際のファイナンスの重要性を説明できる。　(A-2)

3.投資を行う際のチェックポイントを判断できる。　(A-3)

4.ファイナンスの際のポイントがわかる。　(A-1)

5.日経平均株価の動きを日常的に考えるようになる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,C-2

1.企業の投資と資金調達の基本を説明できる。　(A-1)

2.起業の際のファイナンスの重要性を説明できる。　(A-2)

3.投資を行う際のチェックポイントを判断できる。　(A-3)

4.ファイナンスの際のポイントがわかる。　(A-1)

5.日経平均株価の動きを日常的に考えるようになる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営財務論Ａ

2019-4020000387-01

水野　博志

◎貿易:A-1,A-2,A-3,C-2

1.企業の投資と資金調達の基本を説明できる。　(A-1)

2.起業の際のファイナンスの重要性を説明できる。　(A-2)

3.投資を行う際のチェックポイントを判断できる。　(A-3)

4.ファイナンスの際のポイントがわかる。　(A-1)

5.日経平均株価の動きを日常的に考えるようになる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

経営財務論Ｂ

2019-4020000388-01

水野　博志

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・２時限　　試験時間割：2020/01/16　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

経営財務論Ｂ（応用経営財務論）として、実践株式投資論を考える。実践株式投資というのは、株式投資を長く続け、成功するための株式投資論である。

株式投資に関しては、短期的な利益を目的としたハウツーものの株式投資論は山のようにある。しかし、長く成功してきた株式投資家はアメリカの大富豪、ウォーレン・バフェットくらいで、一時的に成功しても長くは続いたことは聞いたことがない。むしろ失敗例が尽きない。実際、株式投資は非常に難しい。

はじめに株式の評価について勉強する。株は将来の配当の予想、金利とその企業のリスクによって決まってくるがいずれも客観性がない。そのために激しく変動するといえる。企業のリスクに関しては、個別企業のリスクだけでなく、市場リスクとの連動性が重要である。その考えをポートフォリオ理論を通じて学ぶ。

短期の株価変動は、株式の需給によって説明される。とりわけ激しい株価変動は企業の業績見通しが変化したというより、大量の資金が激しく動いていることに原因がある。この視点は激しい株価変動に対処する上で、極めて重要である。

実際の株価の動きを理解するためには、理論的枠組みを勉強するばかりでなく、マーケットの構造を見る必要がある。日本の市場の特徴は個人投資家の層が薄く、なかなか増大しないことにある。その理由を、わたし自身が行った3回の調査によって明らかにし、個人投資家を増やすためには正しい株式投資教育が必要であることを指摘する。

株式投資をするとすればどのようにすればよいのかを考えてみたい。長期は長期国際分散投資であり、短期は空売りを用いたペアトレードを紹介する。

最後に稲盛和夫氏の「働き方」を紹介し、株式投資の意義を考える。

この講義の大きな特徴は、毎回授業のはじめに受講者に株価の動きと経済ニュースをスマートフォンで検索してもらい、わたしがそれを解説することにある。株価は全ての情報を反映し、その動きを知ることによって、世界経済、日本経済の動きが身近になる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

株価について説明できる。(知識・理解)

株式変動について理解できる。(知識・理解)

株価トレンドについて説明できる。(知識・理解)

株式投資の基本的考えを説明できる。(知識・理解)

毎日の株価動向に興味を持つようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習・復習として特に重要なのは、日経Webで、株式市場を中心にしたマーケットの動きを見ることである。毎日、株価、外国為替、ニュースを検索するのに30分程度の時間が必要と思われる。日経Webにはマーケットの動きに対する解説が書かれているのでそれを読むこと。さらに高度な予習・復習としては、「エコノミスト」や「東洋経済」によって、日経Webの記事よりも長いトレンドで経済を見る目を養うことである。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

試験の成績によって評価する。

出席を含む平常点を考慮して行うが、ゼミのように出席が悪ければ単位が取れないということはない。4年生の場合、しばしば就職活動で授業に出れない場合があるが、試験の結果が良ければ全く問題はない。

試験では株価についての理解度、日本の株式市場について理解度、リスクの下げ方、銘柄選定についての理解度をテストする。ただし、レポート提出、小テストのようなものは一切ない。

◎－－－　テキスト　－－－◎

水野博志著『日本の個人投資家』愛育社、2008、2800円、ISBN978-4-7500-0341-2

◎－－－　参考書　－－－◎

矢口新著『生き残りのディーリング』パンローリング、2007、2800円　ISBN 978-4-7500-0341-2
内藤忍著『内藤忍の資産設計塾』（新版）、自由国民社、2008、1700円　ISBN 978-4-426-10510-5
稲盛和夫著『働き方』　ISBN 978-4-8379-2310-7

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

経営財務論Ｂ（応用経営財務論）ということで、経営財務論Ａ（基礎経営財務論）の履修者が望ましいが、履修しなかったとしても、株式投資に興味があれば十分である。他方、経営財務論Ａ（基礎経営財務論）を履修した人は、この講義を是非履修して頂きたい。授業では、わたし自身のビジネス、株式投資の体験も語るので、講義は非常に実践的である。わたしは単なる知識の伝授ではなく、感動を与える授業を目指している。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　株式の評価式（配当還元モデル）
2　株価はなぜ激しく変動するのか
3　ポートフォリオ理論
4　短期の株価変動と株式市場の均衡
5　短期の株価変動と株式市場の均衡
6　日本の株価のトレンド
7　日本の株式市場の特徴
8　日本の株式市場の構造
9　個人投資家のアンケート調査
　ネット取引前
10　個人投資家のアンケート調査
　ネット取引開始直後
11　個人投資家のアンケート調査
　ネット取引普及期
12　個人投資家とネット取引
13　長期国際分散投資
14　短期リスク・ヘッジの方法
15　稲盛和夫氏の「働き方」と株式投資

経営財務論Ｂ

2019-4020000388-01

水野　博志

◎経営:A-1,A-2,A-3,C-2

1.株価について説明できる。　(A-1)

2.株式変動について理解できる。　(A-2)

3.株価トレンドについて説明できる。　(A-3)

4.株式投資の基本的考えを説明できる。　(A-1)

5.毎日の株価動向に興味を持つようになる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,C-2

1.株価について説明できる。　(A-1)

2.株式変動について理解できる。　(A-2)

3.株価トレンドについて説明できる。　(A-3)

4.株式投資の基本的考えを説明できる。　(A-1)

5.毎日の株価動向に興味を持つようになる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営財務論Ｂ

水野　博志

2019-4020000388-01

◎貿易:A-1,A-2,A-3,C-2

1.株価について説明できる。　(A-1)

2.株式変動について理解できる。　(A-2)

3.株価トレンドについて説明できる。　(A-3)

4.株式投資の基本的考えを説明できる。　(A-1)

5.毎日の株価動向に興味を持つようになる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

経営史概論

2019-4020000112-01

今野　孝

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・１時限　　試験時間割：2020/01/27　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この講義は、これから商学部で経営関係諸科学を学んでいこうとする1年次生を対象とするものです。
　企業とその活動はたえず変化しています。同時に企業はそれが存在している社会と無関係に活動することはできません。したがって企業経営を理解するためには、企業そのものの歴史的変化とともに、その存立基盤である社会の歴史的変化を含めて理解することが必要です。それは現在の企業経営を分析・研究するうえで欠くことができない重要な視点です。
　経営史は、一言でいえば企業経営を歴史的に研究するものですが、この講義の目的は、単に企業経営に関する個々の歴史的事実を述べることにあるのではなく、現代の企業経営を理解する上で必要な基本的な知識と考え方を、歴史的視点から提供することにあります。
　この講義では、経営史学の成立とその背景、および経営史の方法について述べていきます。この講義をとおして、企業経営を歴史的視点から捉えることの意義について十分な理解を得ていただきたいと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営学の基本的な知識、及び人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。(知識・理解)

経営史学の方法について説明することができる。(知識・理解)

経営史学の誕生と発展、及びその背景となった経営活動の発展について説明することができる。(知識・理解)

企業経営を歴史的観点から分析し理解する意義を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業では講義内容の概要を記したプリントおよび関連資料等を事前に配付します。したがって、授業に出席する場合には必ず事前にそれらの内容を確認して理解しておくように努めてください。(30分)
　毎回授業開始時にはそれまでの講義内容に対する理解度を確認するために、レスポンス・アナライザを使用した小テストを実施しますので、毎回の復習も怠らないでください。(60分)
　また、講義の進行にあわせ、自学自習用の穴埋方式のプリントを数回配付します。解答例はFUポータルに掲載しますので、復習の意味で必ず自身でやって確認しておいてください。(20分)
　さらに、授業の内容に関連した課題でレポートを課すことがあります。これも必ず期限までに作成し提出してください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験の成績(70%)と平常点(30%)によって評価します。
　定期試験は基本的な事項を正確に理解しているかどうかが評価の基準です。試験の内容は、論述によって解答する問題が全体の8割程度を占めます。
　平常点は授業中に実施する小テストや課題レポート等の提出状況を数値化して評価するものです。遅刻や欠席によって小テストを受けることができなかった場合や課題を提出することができなかった場合は平常点が下がります。必然的に成績評価も低くなりますから注意してください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　特にテキストは指定しませんが、以下の参考書に掲げたものや、大学のテキスト向けに刊行されている多くの経営史のテキストには、いずれもこの講義に相当する内容が説明されているので、講義の理解を深めるために有効です。

◎－－－　参考書　－－－◎

三島　康雄『経営史学の展開』[増補版]（ミネルヴァ書房、昭和45年）。
米川　伸一『経営史学』―生誕・現状・展望―（東洋経済新報社、昭和48年）。
森本　壘『経営史学の形成と発展』(晃洋書房、1987年）。
中川敬一郎『比較経営史序説』（東京大学出版会、昭和56年）。
経営史学会編『経営史学の50年』（日本経済評論社、平成27年）ISBN978-4-8188-2376-1。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　毎回の講義のはじめ、あるいは必要に応じて講義の途中で、レスポンス・アナライザを使用した小テストを実施します。また、講義内容に関連したレポートの提出を求めることがあります。これらは遅刻や欠席をすると提出することができません。したがって極力遅刻や欠席をしないようにしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.はじめに
2.経済主体としての企業の出現
3.経営問題の発生と経営管理科学(1)
4.経営問題の発生と経営管理科学(2)
5.経営管理科学と教育
6.経営史学の誕生(1)
7.経営史学の誕生(2)
8.経営管理史(1)
9.経営管理史(2)
10.経営管理史(3)
11.企業者史学(1)
12.企業者史学(2)
13.企業者史学(3)
14.経営史の発展
15.まとめ

◎－－－　URL　－－－◎

経営史概論のページ
(http://imano.comm.fukuoka-u.ac.jp/imano/bh_intro.html)

経営史概論

2019-4020000112-01

今野　孝

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.経営学の基本的な知識、及び人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.経営史学の方法について説明することができる。　(A-1)

3.経営史学の誕生と発展、及びその背景となった経営活動の発展について説明することができる。　(A-2)

4.企業経営を歴史的観点から分析し理解する意義を説明することができる。(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.経営学の基本的な知識、及び人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.経営史学の方法について説明することができる。　(A-1)

3.経営史学の誕生と発展、及びその背景となった経営活動の発展について説明することができる。　(A-2)

4.企業経営を歴史的観点から分析し理解する意義を説明することができる。(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営史概論

2019-4020000112-01

今野　孝

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.経営学の基本的な知識、及び人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.経営史学の方法について説明することができる。　(A-1)

3.経営史学の誕生と発展、及びその背景となった経営活動の発展について説明することができる。　(A-2)

4.企業経営を歴史的観点から分析し理解する意義を説明することができる。(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

経営シミュレーション

2019-4020000406-01

福山　博文

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・３時限　　試験時間割：2019/07/31　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　シミュレーションとは、抽象的なシステムをモデルで表現し、その
モデルを使って実験を行うことですが、特に、本講義では、数学モデ
ルをコンピュータ上で扱うシミュレーションを学びます。つまり、解
決すべき問題が複雑すぎて解析が困難な場合に、コンピュータによっ
て模擬実験を行い、計画のもたらす結果を前もって知ることにより、
その計画の評価や検討を行い、問題を解決していくシミュレーション
の方法について学びます。
　「経営シミュレーション」と経営という言葉が付いているのは、問題解決と計画評価を経営に関するものに限定しているという意味です。
　本講義では、様々な場面を想定した、実践的なモデルの構築を行うことで、問題解決や意思決定を行う能力を身につけることを目指します。前半では乱数とその生成方法、モンテカルロシミュレーションについて解説します。モンテカルロシミュレーションでは、確率密度関数や確率分布関数などの理解が必要なので、確率理論の復習も行います。
　後半では、決定問題、待ち行列モデルなどを詳しく説明します。また、これらのモデルのアルゴリズム（問題を解く手順）の解説も行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営に関する問題をシミュレーションモデルとして表し、現実の経
営問題に応用できるようになる。(知識・理解)

変動量と統計について説明ができるようになる(技能)

疑似乱数の生成ができるようになる。(技能)

教科書の例題の幾つかを説明できるようになる。(知識・理解)

不確定要素が存在するときに、どのような考え方をすれば良いか説明することができるようになる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・前回の講義の内容を復習してから、授業に出席すること（30分）。
・配布資料がある場合には、事前に読んでおくこと。（20分）
・事後には授業の内容と小テストの問題を復習すること。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・商学や経営学の勉強に必要な数学の基礎知識を習得し、現実の問題に応用できるかどうかを評価基準とする。

評価方法
・原則として定期試験を70%、課題レポート及び小テスト30%による。

◎－－－　テキスト　－－－◎

荒木勉・栗原和夫『Excelで学ぶシミュレーション』実教出版、ISBN　4-407-02809-2

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・「経営シミュレーション」は、３年次で履修することが望ましい。
・Excelの基本的操作を習得していることを前提に講義を進めます。また、課題は、Excelを用いて完成させ, それを印刷して提出してもらいます。
・受講に際しては、ルート（平方根）の計算ができる電卓を持参すること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．シミュレーションとは（１）
２．変動量と統計（１）
３．変動量と統計（２）
４．擬似乱数の生成と検定（１）
５．擬似乱数の生成と検定（２）
６．擬似乱数の生成と検定（３）
７．計画の検討（１）
８．計画の検討（２）
９．計画の検討（３）
１０．決定問題（１）
１１．決定問題（２）
１２．待ち行列モデル（１）
１３．待ち行列モデル（２）
１４．待ち行列モデル（３）
１５．待ち行列モデル（４）、まとめ

経営シミュレーション

2019-4020000406-01

福山　博文

◎経営:A-1,B-2

1.経営に関する問題をシミュレーションモデルとして表し、現実の経営問題に応用できるようになる。　(A-1)

2.変動量と統計について説明ができるようになる　(B-2)

3.疑似乱数の生成ができるようになる。　(B-2)

4.教科書の例題の幾つかを説明できるようになる。　(A-1)

5.不確定要素が存在するときに、どのような考え方をすれば良いか説明することができるようになる。　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,B-2

1.経営に関する問題をシミュレーションモデルとして表し、現実の経営問題に応用できるようになる。　(A-1)

2.変動量と統計について説明ができるようになる　(B-2)

3.疑似乱数の生成ができるようになる。　(B-2)

4.教科書の例題の幾つかを説明できるようになる。　(A-1)

5.不確定要素が存在するときに、どのような考え方をすれば良いか説明することができるようになる。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営シミュレーション

2019-4020000406-01

福山　博文

◎貿易:A-1,B-2

1.経営に関する問題をシミュレーションモデルとして表し、現実の経営問題に応用できるようになる。　(A-1)

2.変動量と統計について説明ができるようになる　(B-2)

3.疑似乱数の生成ができるようになる。　(B-2)

4.教科書の例題の幾つかを説明できるようになる。　(A-1)

5.不確定要素が存在するときに、どのような考え方をすれば良いか説明することができるようになる。　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

経営診断論

2019-4020000610-01

遠藤　真紀

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・５時限　　試験時間割：2019/07/24　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

経営診断は，各種経営学理論と実際の経営とを橋渡しする機能を有している。つまり経営における経営学理論の活用法を考える事に他ならない。企業の「持続的な成長」には，経済や社会の環境変化に対応し，経営革新や新分野進出などによる「経済的価値の創造（利潤の追求）」が必要である。また人間性や社会性および環境問題等への配慮を重視した「社会的価値の創造（社会貢献）」も必要である。更にコーポレートガバナンス等を意識した経営方針の確立も重要である。一方，企業経営だけでなく，福祉活動等を推進するＮＰＯや第３セクターなど，これまで経営の対象とされてこなかった医療，福祉，農林水産業など，新たな産業分野の経営診断も必要となっている。
このように企業等経営体の活動内容が複雑かつ多岐にわたるようになり，経営診断も高度化・総合化されている。経営診断論では，新たな診断・支援を必要とする経営体の出現に対し，企業行動として求められる経営のあり方や，いかに経営理論を経営の実践に結びつけるのかについて学び，経営の基本や経営診断の体系等の理解を目的としている。また，診断や支援の基本的プロセスや基本的姿勢はいかにあるべきか，診断に必要な知識や能力はどのような内容であるか，など経営と経営診断の全体像の理解と経営学関連科目との関係についての理解を目指す。
基本的にはテキストを中心に講義を進めるが，事例研究やビデオ演習等も交えて理解を深めていく。テキストだけでなく，講義内容や関係する経営学各科目の復習および経済・社会などの時事問題等への好奇心も必要である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。(知識・理解)

経営診断の目的や特性など，経営診断の意義について理解し，説明できる。(知識・理解)

基本的な経営学理論を踏まえ，今日的な企業経営のあり方について理解し，説明できる。(知識・理解)

経営診断の枠組みやプロセスなど，経営診断の体系について理解し，説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

主にテキストを利用するので，講義の前後にテキストを読み，予習・復習を行うこと（１～２時間程度）。また指示された演習課題やレポートへ積極的に取り組むこと（１～２時間程度）。
具体的な企業・店舗および商品等を事例として取り上げて解説するため，その企業・店舗を訪問したり，その商品等を実際に利用したりすることで，講義内容をより一層理解する事ができる。
経営診断には幅広い経営学の知識が必要なため，講義前後にテキストを参照の上，関係する経営学関連科目の予習・復習を行うことで，より経営診断の理解が促進されるとともに，各経営学関連科目への興味も合わせて増すことができる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：テキストおよび事例研究や演習等を通じて講義した内容について，十分な理解があり，経営のあり方や経営診断の基本について，自らのことばで説明できること。指示された演習課題やレポートは，主体的に取り組み，課題や設問に対して，自らの考えを空欄なくすべて解答していること。
評価方法・割合：定期試験（60%），演習課題・レポート（30%）および課題等への取り組み度合いや授業への貢献度（10%）を総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

岸川善光著『経営診断要論』同文舘出版，2007年，3,564円（税込），ISBN978-4-495-37721-2

◎－－－　参考書　－－－◎

岸川善光編著『ケースブック経営診断要論』同文舘出版，2,808円（税込）　ISBN 978-4-495-37661-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

自身が経営コンサルタントや経営者になりたいかどうかに関係なく，将来，ビジネスマンとして活躍するためには，企業経営だけでなく経済や社会の動きそのものに興味を持っている必要がある。経営診断は，経営学の各理論を活用するため，できるだけ多くの経営学関連科目を履修する（している）ことが望ましい。
なお「経営診断論（前期）」と「応用経営診断論（後期）」は独立した科目として開講され講義が進められるが，連続して学ぶことで，より内容の理解が促進されるため，一連の科目として履修することが期待される。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　講義の目的と進め方
２　経営診断の意義
３　－環境変化と経営診断
４　－経営診断の定義・目的，特性・原則
５　診断事例演習①
６　経営診断の生成と発展
７　－合理性・人間性の診断
８　－システム性・条件適応性の診断
９　－戦略性・社会性の診断
１０　診断事例演習②
１１　経営診断の体系
１２　－フレームワーク，プロセス，対象領域
１３　－経営診断に関する知識・技法
１４　診断事例演習③
１５　講義のまとめ

経営診断論

2019-4020000610-01

遠藤　真紀

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。　(A-1)

2.経営診断の目的や特性など，経営診断の意義について理解し，説明できる。　(A-2)

3.基本的な経営学理論を踏まえ，今日的な企業経営のあり方について理解し，説明できる。　(A-2)

4.経営診断の枠組みやプロセスなど，経営診断の体系について理解し，説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。　(A-1)

2.経営診断の目的や特性など，経営診断の意義について理解し，説明できる。　(A-2)

3.基本的な経営学理論を踏まえ，今日的な企業経営のあり方について理解し，説明できる。　(A-2)

4.経営診断の枠組みやプロセスなど，経営診断の体系について理解し，説明できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営診断論

2019-4020000610-01

遠藤　真紀

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。　(A-1)

2.経営診断の目的や特性など，経営診断の意義について理解し，説明できる。　(A-2)

3.基本的な経営学理論を踏まえ，今日的な企業経営のあり方について理解し，説明できる。　(A-2)

4.経営診断の枠組みやプロセスなど，経営診断の体系について理解し，説明できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

経営診断論Ⅰ

2019-4020000403-01

遠藤　真紀

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・５時限　　試験時間割：2019/07/24　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

経営診断は，各種経営学理論と実際の経営とを橋渡しする機能を有している。つまり経営における経営学理論の活用法を考える事に他ならない。企業の「持続的な成長」には，経済や社会の環境変化に対応し，経営革新や新分野進出などによる「経済的価値の創造（利潤の追求）」が必要である。また人間性や社会性および環境問題等への配慮を重視した「社会的価値の創造（社会貢献）」も必要である。更にコーポレートガバナンス等を意識した経営方針の確立も重要である。一方，企業経営だけでなく，福祉活動等を推進するＮＰＯや第３セクターなど，これまで経営の対象とされてこなかった医療，福祉，農林水産業など，新たな産業分野の経営診断も必要となっている。

このように企業等経営体の活動内容が複雑かつ多岐にわたるようになり，経営診断も高度化・総合化されている。経営診断論Ⅰでは，新たな診断・支援を必要とする経営体の出現に対し，企業行動として求められる経営のあり方や，いかに経営理論を経営の実践に結びつけるのかについて学び，経営の基本や経営診断の体系等の理解を目的としている。また，診断や支援の基本的プロセスや基本的姿勢はいかにあるべきか，診断に必要な知識や能力はどのような内容であるか，など経営と経営診断の全体像の理解と経営学関連科目との関係についての理解を目指す。

基本的にはテキストを中心に講義を進めるが，事例研究やビデオ演習等も交えて理解を深めていく。テキストだけでなく，講義内容や関係する経営学各科目の復習および経済・社会などの時事問題等への好奇心も必要である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。(知識・理解)

経営診断の目的や特性など，経営診断の意義について理解し，説明できる。(知識・理解)

基本的な経営学理論を踏まえ，今日的な企業経営のあり方について理解し，説明できる。(知識・理解)

経営診断の枠組みやプロセスなど，経営診断の体系について理解し，説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

主にテキストを利用するので，講義の前後にテキストを読み，予習・復習を行うこと（１～２時間程度）。また指示された演習課題やレポートへ積極的に取り組むこと（１～２時間程度）。

具体的な企業・店舗および商品等を事例として取り上げて解説するため，その企業・店舗を訪問したり，その商品等を実際に利用したりすることで，講義内容をより一層理解する事ができる。

経営診断には幅広い経営学の知識が必要なため，講義前後にテキストを参照の上，関係する経営学関連科目の予習・復習を行うことで，より経営診断の理解が促進されるとともに，各経営学関連科目への興味も合わせて増すことができる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：テキストおよび事例研究や演習等を通じて講義した内容について，十分な理解があり，経営のあり方や経営診断の基本について，自らのことばで説明できること。指示された演習課題やレポートは，主体的に取り組み，課題や設問に対して，自らの考えを空欄なくすべて解答していること。
評価方法・割合：定期試験（60%），演習課題・レポート（30%）および課題等への取り組み度合いや授業への貢献度（10%）を総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

岸川善光著『経営診断要論』同文舘出版，2007年，3,564円（税込），ISBN978-4-495-37721-2

◎－－－　参考書　－－－◎

岸川善光編著『ケースブック経営診断要論』同文舘出版，2,808円（税込）　ISBN 978-4-495-37661-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

自身が経営コンサルタントや経営者になりたいかどうかに関係なく，将来，ビジネスマンとして活躍するためには，企業経営だけでなく経済や社会の動きそのものに興味を持っている必要がある。経営診断は，経営学の各理論を活用するため，できるだけ多くの経営学関連科目を履修する（している）ことが望ましい。

なお「経営診断論Ⅰ（前期）」と「経営診断論Ⅱ（後期）」は独立した科目として開講され講義が進められるが，連続して学ぶことで，より内容の理解が促進されるため，一連の科目として履修することが期待される。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　講義の目的と進め方
２　経営診断の意義
３　－環境変化と経営診断
４　－経営診断の定義・目的，特性・原則
５　診断事例演習①
６　経営診断の生成と発展
７　－合理性・人間性の診断
８　－システム性・条件適応性の診断
９　－戦略性・社会性の診断
１０　診断事例演習②
１１　経営診断の体系
１２　－フレームワーク，プロセス，対象領域
１３　－経営診断に関する知識・技法
１４　診断事例演習③
１５　講義のまとめ

経営診断論Ⅰ

2019-4020000403-01

遠藤　真紀

◎経営

1.学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。　(A-1)

2.経営診断の目的や特性など，経営診断の意義について理解し，説明できる。　(A-2)

3.基本的な経営学理論を踏まえ，今日的な企業経営のあり方について理解し，説明できる。　(A-2)

4.経営診断の枠組みやプロセスなど，経営診断の体系について理解し，説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

経営診断論Ⅱ

2019-4020000404-01

遠藤　真紀

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・５時限　　試験時間割：2020/01/16　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

経営診断は，各種経営学理論と実際の経営とを橋渡しする機能を有している。つまり経営における経営学理論の活用法を考える事に他ならない。企業の「持続的な成長」には，経済や社会の環境変化に対応し，経営革新や新分野進出などによる「経済的価値の創造（利潤の追求）」が必要である。また人間性や社会性および環境問題等への配慮を重視した「社会的価値の創造（社会貢献）」も必要である。更にコーポレートガバナンス等を意識した経営方針の確立も重要である。一方，企業経営だけでなく，福祉活動等を推進するＮＰＯや第３セクターなど，これまで経営の対象とされてこなかった医療，福祉，農林水産業など，新たな産業分野の経営診断も必要となっている。

このように企業等経営体の活動内容が複雑かつ多岐にわたるようになり，経営診断も高度化・総合化されている。経営診断論Ⅱでは，経営診断Ⅰで学習した経営の基本や経営診断の体系を踏まえ，具体的な診断・支援（含むコンサルティング）理論や技法として，各種システムや業種別の分析および診断手法等についての理解を図っていく。また事例研究やビデオ演習等を通じて，経営診断の基礎的技法の習得や経営実践（だけでなく社会生活）における「ものの観方・考え方」についての涵養を図る。

基本的にはテキストを中心に講義を進めるが，事例研究や演習等も交えて理解を深めていく。テキストだけでなく，講義内容や関係する経営学各科目の復習および経済・社会などの時事問題等への好奇心も必要である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。(知識・理解)

経営システム・経営管理システム・業務システム等について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。(知識・理解)

製造業・卸売業・小売業等々，業種・業態の本質について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。(知識・理解)

診断事例演習等を通じて，具体的な診断項目や診断技法等を理解し，説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

主にテキストを利用するので，講義の前後にテキストを読み，予習・復習を行うこと（１～２時間程度）。また指示された演習課題やレポートへ積極的に取り組むこと（１～２時間程度）。

具体的な企業・店舗および商品等を事例として取り上げて解説するため，その企業・店舗を訪問したり，その商品等を実際に利用したりすることで，講義内容をより一層理解する事ができる。

経営診断には幅広い経営学の知識が必要なため，講義前後にテキストを参照の上，関係する経営学関連科目の予習・復習を行うことで，より経営診断の理解が促進されるとともに，各経営学関連科目への興味も合わせて増すことができる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：テキストおよび事例研究や演習等を通じて講義した内容について，十分な理解があり，経営のあり方や経営診断の基本だけでなく診断項目や診断技法についても，自らのことばで説明できること。指示された演習課題やレポートは，主体的に取り組み，課題や設問に対して，自らの考えを空欄なくすべて解答していること。
評価方法・割合：定期試験（60%），演習課題・レポート（30%）および課題等への取り組み度合いや授業への貢献度（10%）を総合的に評価する

◎－－－　テキスト　－－－◎

岸川善光著『経営診断要論』同文舘出版，2007年，3,564円（税込），ISBN978-4-495-37721-2

◎－－－　参考書　－－－◎

岸川善光編著『ケースブック経営診断要論』同文舘出版，2,808円（税込）　ISBN 978-4-495-37661-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

自身が経営コンサルタントや経営者になりたいかどうかに関係なく，将来，ビジネスマンとして活躍するためには，企業経営だけでなく経済や社会の動きそのものに興味を持っている必要がある。経営診断は，経営学の各理論を活用するため，できるだけ多くの経営学関連科目を履修する（している）ことが望ましい。

なお「経営診断論Ⅰ（前期）」と「経営診断論Ⅱ（後期）」は独立した科目として開講され講義が進められるが，連続して学ぶことで，より内容の理解が促進されるため，一連の科目として履修することが期待される。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　講義の目的と進め方
２　経営診断論Ⅰのレビュー（前期科目の確認）
３　経営システムの診断
４　－環境・戦略・組織への適合診断
５　－顧客・インターフェイス・内部適合の診断
６　診断事例演習④
７　経営管理システムの診断
８　－人的資源管理・財務管理システムの診断
９　－情報管理・法務管理システムの診断
１０　診断事例演習⑤
１１　業務システムの診断
１２　業種別の診断
１３　－製造・卸売・小売・サービス等
１４　診断事例演習⑥
１５　講義のまとめ

経営診断論Ⅱ

2019-4020000404-01

遠藤　真紀

◎経営

1.学生にとって，最初に「企業を診断する」という行為になるのは，「就職する会社を選ぶ時」であろう。よって本科目の到達目標は「良い会社とは」という問いに対する自らの答えを導き出せるようになることである。　(A-1)

2.経営システム・経営管理システム・業務システム等について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。　(A-2)

3.製造業・卸売業・小売業等々，業種・業態の本質について理解し，経営のあり方や診断の基本について説明できる。　(A-2)

4.診断事例演習等を通じて，具体的な診断項目や診断技法等を理解し，説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

経営心理学

2019-4020000613-01

石橋　慶一

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　　試験時間割：2019/07/26　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　経営心理学は心理学の考え方を経営学に適用して人間を理解していこうとする学問です。経営活動をおこなうには組織を構成する個人やその集団の心の動き、行動の仕組みについて理解しなければなりません。
　授業では、経営心理学を学んでいく上で関連する諸理論について、特に動機づけに焦点をあてた理論を中心に学習します。さらにリーダーシップや意思決定のメカニズムについての基本的な内容についても併せて学習します。本授業を学習することにより組織の中の人間行動について理解します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

組織の中の人間の行動についての諸理論について説明できる。(知識・理解)

経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に現状を考えることができる。(知識・理解)

経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に企業における課題について説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業計画に記載のある項目について教科書や資料で予習をし、授業後には教科書やノートを確認し、確実に理解するようにしてください。（60分程度）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　原則として定期試験とレポートなどを考慮して評価します。評価の割合は定期試験70%、レポート30%程度の割合で評点を算出します。経営心理学の諸理論やリーダシップ、意思決定の基礎知識についての理解度を評価の基準とします。なお、レポートについては調べた内容について自分の見解を明確に記述しているかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中西晶著, 『マネジメントの心理学【第2版】経営心理学入門』, 日科技連出版社, 2014
ISBN978-4-8171-9518-0

◎－－－　参考書　－－－◎

特に指定はありません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

専門用語がたくさん出てきますので、わからない用語があれば調べて確実に理解するようにしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．講義の目的、経営心理学とは
２．テーラーの科学的管理法
３．ファヨールの管理過程論
４．メイヨの人間関係論
５．マネジメントと人間観
６．マズローの欲求階層説
７．マグレガーのX理論・Y理論
８．ハーズバーグの動機づけ－衛生理論
９．ポーター＆ローラーモデル、ローラーモデル、坂下モデル
１０．リーダーシップの本質
１１．PM理論
１２．リーダーシップと組織
１３．社会的存在としての企業
１４．意思決定のメカニズム
１５．意思決定論

経営心理学

2019-4020000613-01

石橋　慶一

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.組織の中の人間の行動についての諸理論について説明できる。　(A-1)

2.経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に現状を考えることができる。　(A-2)

3.経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に企業における課題について説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.組織の中の人間の行動についての諸理論について説明できる。　(A-1)

2.経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に現状を考えることができる。　(A-2)

3.経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に企業における課題について説明できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営心理学

2019-4020000613-01

石橋　慶一

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.組織の中の人間の行動についての諸理論について説明できる。　(A-1)

2.経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に現状を考えることができる。　(A-2)

3.経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に企業における課題について説明できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

経営心理学各論

2019-4020000614-01

石橋　慶一

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：2020/01/21　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　経営心理学は心理学の考え方を経営学に適用して人間を理解していこうとする学問です。経営活動をおこなうには組織を構成する個人やその集団の心の動き、行動の仕組みについて理解しなければなりません。
　後期の「経営心理学各論」では、前期の「経営心理学」で学習した経営心理学を学ぶ上で必要な諸理論を基にしながら、個人が所属する組織について学習します。組織が個人の行動をどのように規定しているのか、また個人が組織とどのように関わっているのかについていろいろな切り口を用いて説明します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

組織についての諸理論について説明できる(知識・理解)

経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に現状を考えることができる。(知識・理解)

経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に企業における課題について説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業計画に記載のある項目について、教科書や資料で予習をし、授業後には教科書やノートを確認し、確実に理解するようにしてください。（60分程度）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　原則として定期試験とレポートなどを考慮して評価します。評価の割合は定期試験70%、レポート30%程度の割合で評点を算出します。経営心理学の諸理論についての理解度を評価の基準とします。なお、レポートについては調べた内容について自分の見解を明確に記述しているかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中西晶著，『マネジメントの心理学【第2版】経営心理学入門』，日科技連出版社，2014
ISBN：978-4-8171-9518-0

◎－－－　参考書　－－－◎

特に指定はありません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

専門用語がたくさん出てきますので、わからない用語があれば調べて確実に理解するようにしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．講義の目的、高信頼組織とは何か
２．不測の事態の予防
３．組織的安全
４．組織の基本構造
５．組織戦略
６．組織形態
７．組織文化
８．エクセレントカンパニー
９．変革のキーパーソン
１０．個と組織の関係
１１．キャリアの考え方
１２．キャリア形成
１３．学習する組織
１４．ナレッジ・マネジメント
１５．事例研究，まとめ

経営心理学各論

2019-4020000614-01

石橋　慶一

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.組織についての諸理論について説明できる　(A-1)

2.経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に現状を考えることができる。　(A-2)

3.経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に企業における課題について説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.組織についての諸理論について説明できる　(A-1)

2.経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に現状を考えることができる。　(A-2)

3.経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に企業における課題について説明できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営心理学各論

2019-4020000614-01

石橋　慶一

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.組織についての諸理論について説明できる　(A-1)

2.経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に現状を考えることができる。　(A-2)

3.経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に企業における課題について説明できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.組織についての諸理論について説明できる　(A-1)

2.経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に現状を考えることができる。　(A-2)

3.経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に企業における課題について説明できる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

経営心理学Ａ

2019-4020000407-01

石橋　慶一

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　　試験時間割：2019/07/26　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　経営心理学は心理学の考え方を経営学に適用して人間を理解していこうとする学問です。経営活動をおこなうには組織を構成する個人やその集団の心の動き、行動の仕組みについて理解しなければなりません。
　経営心理学Aでは、経営心理学を学んでいく上で関連する諸理論について、特に動機づけに焦点をあてた理論を中心に学習します。さらにリーダーシップや意思決定のメカニズムについての基本的な内容についても併せて学習します。本授業を学習することにより組織の中の人間行動について理解します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

組織の中の人間の行動についての諸理論について説明できる。(知識・理解)

経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に現状を考えることができる。(知識・理解)

経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に企業における課題について説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業計画に記載のある項目について教科書や資料で予習をし、授業後には教科書やノートを確認し、確実に理解するようにしてください。（60分程度）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　原則として定期試験とレポートなどを考慮して評価します。評価の割合は定期試験70%、レポート30%程度の割合で評点を算出します。経営心理学の諸理論やリーダシップ、意思決定の基礎知識についての理解度を評価の基準とします。なお、レポートについては調べた内容について自分の見解を明確に記述しているかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中西晶著, 『マネジメントの心理学【第2版】経営心理学入門』, 日科技連出版社, 2014
ISBN978-4-8171-9518-0

◎－－－　参考書　－－－◎

特に指定はありません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

専門用語がたくさん出てきますので、わからない用語があれば調べて確実に理解するようにしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．講義の目的、経営心理学とは
２．テーラーの科学的管理法
３．ファヨールの管理過程論
４．メイヨの人間関係論
５．マネジメントと人間観
６．マズローの欲求階層説
７．マグレガーのX理論・Y理論
８．ハーズバーグの動機づけ－衛生理論
９．ポーター＆ローラーモデル、ローラーモデル、坂下モデル
１０．リーダーシップの本質
１１．PM理論
１２．リーダーシップと組織
１３．社会的存在としての企業
１４．意思決定のメカニズム
１５．意思決定論

経営心理学Ａ

2019-4020000407-01

石橋　慶一

◎経営

1.組織の中の人間の行動についての諸理論について説明できる。　(A-1)

2.経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に現状を考えることができる。　(A-2)

3.経営活動の様々な場面において心理学的な視点から得られた知識を基に企業における課題について説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

経営心理学Ｂ

2019-4020000408-01

石橋　慶一

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：2020/01/21　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　経営心理学は心理学の考え方を経営学に適用して人間を理解していこうとする学問です。経営活動をおこなうには組織を構成する個人やその集団の心の動き、行動の仕組みについて理解しなければなりません。
　後期の「経営心理学B」では、前期の「経営心理学A」で学習した経営心理学を学ぶ上で必要な諸理論を基にしながら、個人が所属する組織について学習します。組織が個人の行動をどのように規定しているのか、また個人が組織とどのように関わっているのかについていろいろな切り口を用いて説明します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

組織についての諸理論について説明できる(知識・理解)

経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に現状を考えることができる。(知識・理解)

経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に企業における課題について説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業計画に記載のある項目について、教科書や資料で予習をし、授業後には教科書やノートを確認し、確実に理解するようにしてください。（60分程度）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　原則として定期試験とレポートなどを考慮して評価します。評価の割合は定期試験70%、レポート30%程度の割合で評点を算出します。経営心理学の諸理論についての理解度を評価の基準とします。なお、レポートについては調べた内容について自分の見解を明確に記述しているかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中西晶著，『マネジメントの心理学【第2版】経営心理学入門』，日科技連出版社，2014
ISBN：978-4-8171-9518-0

◎－－－　参考書　－－－◎

特に指定はありません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

専門用語がたくさん出てきますので、わからない用語があれば調べて確実に理解するようにしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．講義の目的、高信頼組織とは何か
２．不測の事態の予防
３．組織的安全
４．組織の基本構造
５．組織戦略
６．組織形態
７．組織文化
８．エクセレントカンパニー
９．変革のキーパーソン
１０．個と組織の関係
１１．キャリアの考え方
１２．キャリア形成
１３．学習する組織
１４．ナレッジ・マネジメント
１５．事例研究，まとめ

経営心理学Ｂ

2019-4020000408-01

石橋　慶一

◎経営

1.組織についての諸理論について説明できる　(A-1)

2.経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に現状を考えることができる。　(A-2)

3.経営活動の様々な場面において組織と個人について得られた知識を基に企業における課題について説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

合力　知工

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・１時限　　試験時間割：2019/07/26　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　経営戦略の策定にとって最も重要なのは、その方法論よりもむしろ方法を生み出す土台となる「モノの見方」です。しかし、経営戦略を含む多くの経営学に関する研究が、この「土台」を飛ばして、その「上物」ばかりに焦点が当てられています。そこで、本講義では、まずこの「土台」に相当する「モノの見方」について、できる限り平易な表現をし、分かり易く説明していきます。
　また、元来、経営戦略とは、「ヒト・モノ・カネ・情報」という観点から、企業経営を円滑に促すような計画的・長期的方策を意味します。具体的に挙げれば「人事戦略」「ＣＳ（顧客満足）戦略」「物流戦略」「財務戦略」「広告戦略」など枚挙に暇がありませんが、本講義ではできるだけ多面的な角度から、「不確実な経営環境を背景に、企業はどのような戦略を打ち立て、業績を維持・成長させていくか」ということについて、事例を紹介しながら実践的に考察していきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。(知識・理解)

環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。(知識・理解)

経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。(知識・理解)

企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。(知識・理解)

柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。(技能)

企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。(技能)

講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。(態度・志向性)

研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。(態度・志向性)

研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義は、テキストにしたがって進められますので、テキストの次回講義の部分を事前学習として読み込んでいく必要があります。
　また、講義が終わった後に、必要に応じてリアクション・ペーパーを提出してもらい、それで講義の「振り返り」を行います。

＊事前学習：60分程度
　事後学習：60分程度

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価方法：定期試験とリアクション・ペーパーにより評価します。
②割合：定期試験（80%）、リアクション・ペーパー（20%）
③評価基準：定期試験（設問に適切に解答できているかどうか）、リア
　クション・ペーパー（課題に対して適切に答えられているかどうか）

　なお、部活の公式大会出場、病気による欠席は考慮します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

合力知工著『「逆転の発想」の経営学－理念と連携が生み出す力－』2010、同友館、2,000円（税抜）
ISBN:9784496046353 を使用します。
　テキストは毎回使用するので、必ず購入するようにしてください。
　また、適宜VTRなど視聴覚教材を使用しますが、教室の都合により、使用できない場合もあります。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　部活の大会出場や病気による欠席を認めるのは、本人の意思とは無関係に授業を受けられない（すなわち選択の余地がない）からです。就職活動の場合は、大学か会社かの選択は本人が決められるので、大学の授業を選択しなかった場合、原則的に、欠席扱いとなります。但し、個別に色々な事情があると思いますので、不明な場合は相談して確認するようにしてください。
　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　「モノの見方」について（「ｌｅａｒｎ」と「ｓｔｕｄｙ」
　　の活用）
２　「常識」の落とし穴
３　「逆転の発想」の実例①（マーケティングにおける「逆転の発想」）
４　「逆転の発想」の実例②（中小企業活性化における「逆転の発想」）
５　経営戦略の策定プロセスと組織の３要素
６　ポーターの経営戦略論
７　競争戦略と協調戦略①（「競争」と「協調」の考え方）
８　競争戦略と協調戦略②（ケース・スタディ）
９　ＳＷＯＴ分析
１０　リーダーシップ論①（リーダーシップの種類）
１１　リーダーシップ論②（ケース・スタディ）
１２　ＣＲＭ戦略①（顧客ロイヤルティとは何か）
１３　ＣＲＭ戦略②（パレートの法則）
１４　ＣＲＭ戦略③（ケース・スタディ）
１５　総括（持続的に成長していく経営）

経営戦略論

2019-4020000399-01

合力　知工

◎経営:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

6.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

7.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。　(C-1)

8.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

9.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

6.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

7.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。　(C-1)

8.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

9.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営戦略論

2019-4020000399-01

合力　知工

◎貿易:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

6.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

7.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。　(C-1)

8.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

9.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

経営組織論

2019-4020000397-01

森田　泰暢

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・１時限　　試験時間割：2019/08/01　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、企業における組織現象についての基本的な理論について学びます。企業組織は自らが置かれる環境にどのように対応し、また様々なタイプの成員が存在する中でどのように組織を構成・管理をし、目標やビジョンの達成に向けた行動をとっていくのでしょうか。主に企業組織を対象に講義は行いますが、皆さんがこれまで所属してきた組織（部活動や生徒会、クラスなど）の運営とも関連するものになります。用語や理論について知り、組織で起こる事象を分析的に捉える視点を養ってください。本講義では、特徴的な組織施策を行う企業の経営者や人事担当者に登壇を依頼しています。企業における具体的な経営手法や活動について理解する場も設ける予定です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業が現在とっている組織的な施策について説明できる(知識・理解)

本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業がうまく対応できなかった組織的な施策について説明できる(知識・理解)

本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディから課題を発見できる(技能)

本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディを分析し、その対応策について自身の考えを述べることができる(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義に関連した資料を配布するので、目を通して復習に用いること（25分）。
企業の組織的な活動に関する情報に触れる機会を作り、ニュースや関連する記事を読むこと（35分）
関連するニュース等にも目を向け、学習した理論の適用ができないか試行してみること（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テスト（20%）×2回と定期試験（60%）で評価を行います。
小テストでは用語理解、理論の理解、簡単なケーススタディを用いた分析について、定期試験ではケーススタディについて理論を用いた分析をし、課題解決策について問う予定です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません。講義はレジュメをもとに進めます。参考文献も各回提示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「企業行動論」（2単位）と併せて受講することが望ましいです。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. 組織論とは（組織とは）
2. 組織の管理と理論
3. 組織の構造
4. 組織のデザイン
5. 組織の環境適応
6. 組織の不確実性への対応
7. 組織における人間関係
8. モチベーション
9. リーダーシップ
10. 組織文化のマネジメント
11. 学習する組織
12. 組織における意思決定
13. コンフリクト・マネジメント
14. 最近の組織論研究の紹介
15. まとめ

経営組織論

2019-4020000397-01

森田　泰暢

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2

1.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業が現在とっている組織的な施策について説明できる　(A-2)

2.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業がうまく対応できなかった組織的な施策について説明できる　(A-3)

3.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディから課題を発見できる　(B-1)

4.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディを分析し、その対応策について自身の考えを述べることができる　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2

1.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業が現在とっている組織的な施策について説明できる　(A-2)

2.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業がうまく対応できなかった組織的な施策について説明できる　(A-3)

3.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディから課題を発見できる　(B-1)

4.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディを分析し、その対応策について自身の考えを述べることができる　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営組織論

森田　泰暢

2019-4020000397-01

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2

1.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業が現在とっている組織的な施策について説明できる　(A-2)

2.本講義に出てくる用語や理論を用いて、企業がうまく対応できなかった組織的な施策について説明できる　(A-3)

3.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディから課題を発見できる　(B-1)

4.本講義に出てくる用語や理論を用いて、簡単な企業のケーススタディを分析し、その対応策について自身の考えを述べることができる　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

三浦　隆之

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・４時限　　試験時間割：2019/07/29　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

企業経営の根本について考える。
現代の企業経営のすべては、伝統的な企業経営の延長線上において展開される。したがって、もし技術水準を落とさずに、より安い人件費で生産できるところがあれば、生産拠点の移転を検討するのは昔も今も自然である。また、もし競合他社よりも優れた性能やサービスを提供できるのであれば、より高い価格設定を検討するのは昔も今も自然である。
ただし、企業経営がうまくいき、収益力が高まったとき、企業経営者の対応は一様ではない。たとえ収益力が高まっても、賃金と価格を相場水準で維持しようとする経営者もいる。そうすることで、当面の短期的な利益が保持できるからである。ところが、継続企業としての長期的な利益は、どうなるであろうか？
継続企業としては、顧客の満足と従業員の満足を連関させたほうが理にかなっている。しかし、たとえば、低価格と高賃金を長期的な利益と連関させるためには、多様な費用節約の中から、どのような費用節約がとくに求められるのだろうか？
アメリカ建国の父、ベンジャミン・フランクリンに端を発し、中国深圳市蛇口港湾地区の開発者、袁庚の標語として受け継がれた、"Time is money. Efficiency is life."という言葉の意味をヘンリー・フォードなどの近代経営の先駆的な事例から学ぶ。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業経営の根本について、深い理解をえる。(知識・理解)

講義の内容・本質を変えずに、自分の血となり肉となった認識を自分の言葉で説明できる。(知識・理解)

学んだことを自分の身の回りやニュースなどで話題になっている企業経営上の課題に結びつけて説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業前後におけるテキストの入念な読み込みが不可欠である。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験によって評価する。
試験間際のつまみ食い的な棒暗記で合格点をとるのは至難の業である。
日頃の地道な努力が、そのまま答案用紙に反映される。

◎－－－　テキスト　－－－◎

三浦隆之稿「研究こぼれ話」研究雑話『福岡大学研究推進部ニュース＆レポート』2015年12月、第20巻第4号、4-7頁。受講者は、各自あらかじめ下記サイトからダウンロードして下さい。https://fukuoka-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=3616&item_no=1-&page_id=13&block_id=39
三浦隆之著『第４版・近代経営の基礎』創成社、2017年5月、4,100円。ISBN978-4-7944-24507-2

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

FUポータルの教員プロフィールにおける私のアドバイスを参照して下さい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

① 企業の存立条件
② 〃
③ 〃
④ 価格決定の基本
⑤ 〃
⑥ 〃
⑦ 賃金決定の基本
⑧ 〃
⑨ 〃
⑩ 分業の原理
⑪ 〃
⑫ 〃
⑬ 規模の経済
⑭ 〃
⑮ 〃

経営入門「（18・17台）」

2019-4020000600-01

三浦　隆之

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.企業経営の根本について、深い理解をえる。　(A-1)

2.講義の内容・本質を変えずに、自分の血となり肉となった認識を自分の言葉で説明できる。　(A-2)

3.学んだことを自分の身の回りやニュースなどで話題になっている企業経営上の課題に結びつけて説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

経営分析論

2019-4020000617-01

飛田　努

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・１時限　　試験時間割：2019/07/31　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は，企業の1年間の経営成績を表す財務諸表を中心とした会計情報を読み解くことを通じて，企業経営の良し悪しを判断するための基礎的な方法を学習することを目的とします。具体的には（1）経営戦略論を中心とした「企業経営の仕組み」と（2）企業経営を貨幣的価値として表現した「会計情報を読み解く」という2点を学びます。

そのため，講義は2回あるいは3回で1つのテーマを取り上げます。初めの1回で会計情報を用いて経営分析するための計算式への理解，次の1回ないしは2回でケーススタディやVTRを通じて計算式から企業経営の仕組みをどう読み取ることができるのかについて講義します。これにより，企業経営の良し悪しを判断するための基本的な方法を学びます。

なお，経営分析論は会計学と経営学の学際的領域で，「財務諸表をどう読むか」に重点を置いた講義を行うので，会計学を学んだことがない学生でも積極的に受講してください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を理解することができる。(知識・理解)

経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を説明することができる。(知識・理解)

経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の戦略の実行や管理がどのようにして行われているのかを説明することができる。(知識・理解)

経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業行動を財務数値の裏付けを取りながら説明することができる。(技能)

経営分析を行うための経営学や会計学の知識や理論に基づいて，企業行動を説明することができるとともに，そこから明らかになる課題を抽出し，解決策を理論と財務数値に基づいて提案することができる。(技能)

企業行動の多様性を学ぶとともに，財務数値にどのように表現されているのかを理解するために，さまざまな企業の事例を分析することができるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回講義の予習・復習の範囲を提示するので，必ず予習・復習をすること。予習は事前に指定する範囲を30分程度，復習は講義内容の理解のみならず，計算問題演習等を踏まえて60分程度行うこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として期末試験で評価を行う。試験では講義が目標とする「企業経営の仕組み」と「会計情報を読み解く」をベースにし，経営戦略論の基本的なフレームワークと財務諸表分析の基本的な計算式・計算結果（指標）を用いて企業分析を行い，論理的な解答を導けるか否かを成績評価の基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

松村勝弘・松本敏史・篠田朝也・西山俊一『新訂版財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』Bkc（ISBN 978-4939051562）

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講義は「意思決定会計論」とあわせて履修することが望ましい。「意思決定会計論」を履修することで経営分析論全体を学習することになります。

積極的な発言が評価点につながることもあるので，発言を求められた際には積極的に発言してください。

なお，講義内で計算を行うことがあるので電卓を持参してください。定期試験において携帯電話や電子辞書の電卓機能を使用することは認めません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　講義ガイダンス
第2回　経営戦略論のフレームワーク
第3回　財務諸表の意味と役割
第4回　戦略思考と財務諸表分析（1）
第5回　戦略思考と財務諸表分析（2）
第6回　貸借対照表による支払能力・財務安定性の分析（1）
第7回　貸借対照表による支払能力・財務安定性の分析（2）
第8回　損益計算書による収益力の分析（1）
第9回　損益計算書による収益力の分析（2）
第10回 貸借対照表と損益計算書による資本運用効率の分析（1）
第11回 貸借対照表と損益計算書による資本運用効率の分析（2）
第12回 投下資本利益率とデュポンシステム（1）
第13回 投下資本利益率とデュポンシステム（2）
第14回 投下資本利益率とデュポンシステム（3）
第15回 講義のまとめ

経営分析論

2019-4020000617-01

飛田　努

◎経営:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を理解することができる。　(A-1)

2.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を説明することができる。　(A-2)

3.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の戦略の実行や管理がどのようにして行われているのかを説明することができる。　(A-3)

4.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業行動を財務数値の裏付けを取りながら説明することができる。　(B-1)

5.経営分析を行うための経営学や会計学の知識や理論に基づいて，企業行動を説明することができるとともに，そこから明らかになる課題を抽出し，解決策を理論と財務数値に基づいて提案することができる。　(B-2)

6.企業行動の多様性を学ぶとともに，財務数値にどのように表現されているのかを理解するために，さまざまな企業の事例を分析することができるようになる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を理解することができる。　(A-1)

2.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を説明することができる。　(A-2)

3.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の戦略の実行や管理がどのようにして行われているのかを説明することができる。　(A-3)

4.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業行動を財務数値の裏付けを取りながら説明することができる。　(B-1)

5.経営分析を行うための経営学や会計学の知識や理論に基づいて，企業行動を説明することができるとともに，そこから明らかになる課題を抽出し，解決策を理論と財務数値に基づいて提案することができる。　(B-2)

6.企業行動の多様性を学ぶとともに，財務数値にどのように表現されているのかを理解するために，さまざまな企業の事例を分析することができるようになる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営分析論

2019-4020000617-01

飛田　努

◎貿易:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を理解することができる。　(A-1)

2.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を説明することができる。　(A-2)

3.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の戦略の実行や管理がどのようにして行われているのかを説明することができる。　(A-3)

4.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業行動を財務数値の裏付けを取りながら説明することができる。　(B-1)

5.経営分析を行うための経営学や会計学の知識や理論に基づいて，企業行動を説明することができるとともに，そこから明らかになる課題を抽出し，解決策を理論と財務数値に基づいて提案することができる。　(B-2)

6.企業行動の多様性を学ぶとともに，財務数値にどのように表現されているのかを理解するために，さまざまな企業の事例を分析することができるようになる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

経営分析論Ⅰ

2019-4020000417-01

飛田　努

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・１時限　　試験時間割：2019/07/31　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は，企業の1年間の経営成績を表す財務諸表を中心とした会計情報を読み解くことを通じて，企業経営の良し悪しを判断するための基礎的な方法を学習することを目的とします。具体的には（1）経営戦略論を中心とした「企業経営の仕組み」と（2）企業経営を貨幣的価値として表現した「会計情報を読み解く」という2点を学びます。

そのため，講義は2回あるいは3回で1つのテーマを取り上げます。初めの1回で会計情報を用いて経営分析するための計算式への理解，次の1回ないしは2回でケーススタディやVTRを通じて計算式から企業経営の仕組みをどう読み取ることができるのかについて講義します。これにより，企業経営の良し悪しを判断するための基本的な方法を学びます。

なお，経営分析論は会計学と経営学の学際的領域で，「財務諸表をどう読むか」に重点を置いた講義を行うので，会計学を学んだことがない学生でも積極的に受講してください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を理解することができる。(知識・理解)

経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を説明することができる。(知識・理解)

経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の戦略の実行や管理がどのようにして行われているのかを説明することができる。(知識・理解)

経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業行動を財務数値の裏付けを取りながら説明することができる。(知識・理解)

経営分析を行うための経営学や会計学の知識や理論に基づいて，企業行動を説明することができるとともに，そこから明らかになる課題を抽出し，解決策を理論と財務数値に基づいて提案することができる。(技能)

企業行動の多様性を学ぶとともに，財務数値にどのように表現されているのかを理解するために，さまざまな企業の事例を分析することができるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回講義の予習・復習の範囲を提示するので，必ず予習・復習をすること。予習は事前に指定する範囲を30分程度，復習は講義内容の理解のみならず，計算問題演習等を踏まえて60分程度行うこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として期末試験で評価を行う。試験では講義が目標とする「企業経営の仕組み」と「会計情報を読み解く」をベースにし，経営戦略論の基本的なフレームワークと財務諸表分析の基本的な計算式・計算結果（指標）を用いて企業分析を行い，論理的な解答を導けるか否かを成績評価の基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

松村勝弘・松本敏史・篠田朝也・西山俊一『新訂版財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』Bkc（ISBN 978-4939051562）

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講義は「経営分析論Ⅱ」とあわせて履修することが望ましい。「経営分析論Ⅱ」を履修することで経営分析論全体を学習することになります。

積極的な発言が評価点につながることもあるので，発言を求められた際には積極的に発言してください。

なお，講義内で計算を行うことがあるので電卓を持参してください。定期試験において携帯電話や電子辞書の電卓機能を使用することは認めません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　講義ガイダンス
第2回　経営戦略論のフレームワーク
第3回　財務諸表の意味と役割
第4回　戦略思考と財務諸表分析（1）
第5回　戦略思考と財務諸表分析（2）
第6回　貸借対照表による支払能力・財務安定性の分析（1）
第7回　貸借対照表による支払能力・財務安定性の分析（2）
第8回　損益計算書による収益力の分析（1）
第9回　損益計算書による収益力の分析（2）
第10回 貸借対照表と損益計算書による資本運用効率の分析（1）
第11回 貸借対照表と損益計算書による資本運用効率の分析（2）
第12回 投下資本利益率とデュポンシステム（1）
第13回 投下資本利益率とデュポンシステム（2）
第14回 投下資本利益率とデュポンシステム（3）
第15回 講義のまとめ

経営分析論Ⅰ

2019-4020000417-01

飛田　努

◎経営

1.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を理解することができる。　(A-1)

2.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の経営状態を説明することができる。　(A-2)

3.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業の戦略の実行や管理がどのようにして行われているのかを説明することができる。　(A-3)

4.経営分析を行うための経営学や会計学の知識を用いて，企業行動を財務数値の裏付けを取りながら説明することができる。　(A-4)

5.経営分析を行うための経営学や会計学の知識や理論に基づいて，企業行動を説明することができるとともに，そこから明らかになる課題を抽出し，解決策を理論と財務数値に基づいて提案することができる。　(B-2)

6.企業行動の多様性を学ぶとともに，財務数値にどのように表現されているのかを理解するために，さまざまな企業の事例を分析することができるようになる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

経営分析論Ⅱ

2019-4020000418-01

飛田　努

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・１時限　　試験時間割：2020/01/25　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は「経営分析論Ⅰ」で学んだ知識を基礎として，企業の意思決定において会計情報（特に管理会計情報）がいかに活用されているのかについて学習します。具体的には（1）企業経営の仕組みへの理解，（2）会計情報を読み解くという「経営分析論Ⅰ」の学習内容に加えて，（3）企業経営者や管理者が意思決定を行う際に必要となる会計情報を「事業や事業部の存続・廃止」，「設備投資」，「資金繰り（キャッシュ・フロー分析）」という3つの側面を中心に講義します。また，これらの考え方は企業価値評価を行う際にも用いられるので，基礎的な企業価値評価に関する理論についても講義します。
そのため，講義は2回あるいは3回で1つのテーマを取り上げます。初めの1回で理論の解説，次の1回ないしは2回でケーススタディやVTR，例題を解くことを通じて会計情報が企業経営者や管理者の意思決定にとって有用であるのかについて講義します。若干応用的な論点が含まれますが，実際に企業や金融機関などで会計情報がどのように用いられているのかを意識しながら，講義を進めていきます。
なお，経営分析論Ⅱは，経営分析論Ⅰや管理会計論Ⅰと同様に会計学と経営学の学際的領域ではありますが，財務諸表の作成や会計制度への理解よりも，企業経営の現場で用いられる「会計情報をどう読むか」に重点を置いた講義を行うので，会計学を学んだことがない学生でも積極的に受講してください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

特に管理会計論を中心とした企業経営者や管理者が意思決定する際に用いる会計情報がいかに作成され，利用されるのかについて基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，企業活動がどのように行われているのかを説明することができる。(知識・理解)

企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，いかに経営管理がおこなわれているのかを説明することができる。(知識・理解)

特に設備投資意思決定計算やキャッシュ・フロー計算で用いられる技法を用いて，企業の財務活動を説明することができる。(知識・理解)

講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点を発見することができる。(技能)

講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。(技能)

理論への理解や計算問題演習を主体的に学ぶことができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回講義の予習・復習の範囲を提示するので，必ず予習・復習をすること。予習は事前に指定する範囲を30分程度，復習は講義内容の理解のみならず，計算問題演習等を踏まえて60分程度行うこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として期末試験で評価を行う。試験では「事業や事業部の存続・廃止」，「設備投資」，「資金繰り」という講義内で取り上げる3つの視点について出題し，それぞれについて基礎的な理論への理解がなされているのかについて出題する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

松村勝弘・松本敏史・篠田朝也・西山俊一『新訂版財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』Bkc（ISBN 978-4939051562）

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講義は「経営分析論Ⅰ」とあわせて履修することが望ましい。そうすることで「経営分析論」の全体像を理解できるようになります。
積極的な発言が評価点につながることもあるので，発言を求められた際には積極的に発言してください。
なお，講義内で計算を行うことがあるので電卓を持参してください。定期試験において携帯電話や電子辞書の電卓機能を使用することは認めません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　講義ガイダンス
第2回　ROEは株主と経営者を結ぶ紐帯
第3回　損益分岐点分析・直接原価計算（1）
第4回　損益分岐点分析・直接原価計算（2）
第5回　業務的意思決定（1）
第6回　業務的意思決定（2）
第7回　業務的意思決定（3）
第8回　付加価値分析
第9回　設備投資意思決定計算（1）
第10回　設備投資意思決定計算（2）
第11回 キャッシュ・フロー分析（1）
第12回 キャッシュ・フロー分析（2）
第13回 キャッシュ・フロー分析（3）
第14回 企業価値の測定
第15回 講義のまとめ

経営分析論Ⅱ

2019-4020000418-01

飛田　努

◎経営

1.特に管理会計論を中心とした企業経営者や管理者が意思決定する際に用いる会計情報がいかに作成され，利用されるのかについて基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，企業活動がどのように行われているのかを説明することができる。　(A-2)

3.企業の日常的（業務的）あるいは構造的意思決定で用いられる技法を用いて，いかに経営管理がおこなわれているのかを説明することができる。　(A-3)

4.特に設備投資意思決定計算やキャッシュ・フロー計算で用いられる技法を用いて，企業の財務活動を説明することができる。　(A-3)

5.講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点を発見することができる。　(B-1)

6.講義で学習する理論を用いて，経営者や管理者が行う意思決定がどのように行われるのかを学習することを通じて，組織の問題点や解決策を提示することができる。　(B-2)

7.理論への理解や計算問題演習を主体的に学ぶことができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

経営労務論

2019-4020000393-01

于　暁爽

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・５時限　　試験時間割：2019/07/30　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

欧米企業であれ、日本企業であれ、企業はヒト（労働力）という経営資源を獲得しなければ企業活動を実現することはできず、そのためにヒトの獲得、活用、定着、モチベーション、あるいはヒトの使用権の所有者である労働者（従業員）と企業との間のコンフリクトの解決に関わる諸活動が企業の中で必要とならざるを得ない。もっと具体的に言えば、募集、選考、採用、配置、人事評価、教育訓練、昇進・昇格、報酬、昇給、労働時間管理、安全衛生、福利厚生、コミュニケーション、モラール・サーベイ、カウンセリング、職場懇談会、団体交渉、苦情処理等の活動が必要とならざるを得ない。
本講義では、従来は人事・労務管理と呼ばれてきた、そして最近は人的資源管理あるいはヒューマン・リソース・マネジメントと呼ばれるようになったこれらの活動の概要と経営的意義について説明したい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

人事・労務管理（人的資源管理）の基本的な理論的内容を説明することができる。(知識・理解)

日本企業における人事・労務管理実践の歴史的な変遷について説明することができる。(知識・理解)

日本企業における人事・労務管理の実践の新傾向について説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

受講者は、シラバスに従って受講日の講義内容に関係するテキストの章や節を、事前に読んでおくこと。さらに、受講後時間をおかずにプリント、ノート、テキスト、参考書等を読み返して復習しておくこと。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

労務管理が存在する理論的根拠、労務管理の基礎的学説の概要、日本企業における労務管理の特徴について、論理的に説明できているかどうかが、評価基準となる。
原則として、定期試験の結果50%、期末レポート15%、平常点35%の割合で採点し、総合的に判断した上で評価を行う。
平常点については、毎回の演習問題において講義内容に関する基本的な用語や概念を使用しつつ的確に解答することができているか、が評価基準となる。
期末レポートについては、人事・労務管理の制度・手法の具体的内容の要点を的確に説明できているかどうかに照らして採点し、評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中川誠士編著『テイラー』文真堂、2012、（経営学史叢書①）、ISBN 9784830947315
テキストは金修堂書店で販売する。
授業内容を理解できるようにプリントも毎回配布する予定である。

◎－－－　参考書　－－－◎

伊藤健市・中川誠士・堀龍二共著『アメリカの経営・日本の経営』ミネルヴァ書房、2010　ISBN 9784623057580
ユージン・マッケナ,ニック・ビーチ共著、今村寛治［ほか訳］『ヒューマン・リソース・マネジメント』税務計理協会、2000　ISBN 4419035579
Ｔ・Ａ・コーキャン他『ワーキング・イン・アメリカ』ミネルヴァ書房、2004　ISBN 4623040224
中川誠士著『テイラー主義生成史論』森山書店、1992.6、ISBN 4839417555
井上昭一編著『現代アメリカ企業経営史』ミネルヴァ書房、2004、ISBN 4623038793
田代義範編著『現代日本企業の経営学』ミネルヴァ書房、2004、ISBN 4623040240
伊藤健市・田中和雄・中川誠士編著『現代アメリカ企業の人的資源管理』税務経理協会、2007、ISBN 4419047151

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

労務管理の理論、制度、手法についての細々とした内容にとらわれずに、話の大きな流れをまずつかみ、しかる後に細々とした内容がその大きな流れの中の何処に位置づけられるかについての学習・理解に移るように心掛けよう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．人事管理、労務管理、人事・労務管理、ヒューマン・リソース・マネジメント（１）
２．人事管理、労務管理、人事・労務管理、ヒューマン・リソース・マネジメント（２）
３．経営労務論の対象と方法（１）
４．経営労務論の対象と方法（２）
５．労務管理の体系（１）
６．労務管理の体系（２）
７．人事戦略と雇用管理（１）
８．人事戦略と雇用管理（２）
９．目標管理と人事考課（１）
１０．目標管理と人事考課（２）
１１．昇進・昇格（１）
１２．昇進・昇格（２）
１３．賃金管理（１）
１４．賃金管理（２）
１５．まとめ

経営労務論

2019-4020000393-01

于　暁爽

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.人事・労務管理（人的資源管理）の基本的な理論的内容を説明することができる。　(A-1)

2.日本企業における人事・労務管理実践の歴史的な変遷について説明することができる。　(A-2)

3.日本企業における人事・労務管理の実践の新傾向について説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.人事・労務管理（人的資源管理）の基本的な理論的内容を説明することができる。　(A-1)

2.日本企業における人事・労務管理実践の歴史的な変遷について説明することができる。　(A-2)

3.日本企業における人事・労務管理の実践の新傾向について説明することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

経営労務論

2019-4020000393-01

于　暁爽

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.人事・労務管理（人的資源管理）の基本的な理論的内容を説明することができる。　(A-1)

2.日本企業における人事・労務管理実践の歴史的な変遷について説明することができる。　(A-2)

3.日本企業における人事・労務管理の実践の新傾向について説明することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

原価計算論（原価意識と会計学の融合）

2019-4020000380-01

田坂　公

期別：後期　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・４時限, 木・５時限　　試験時間割：2020/01/22　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では，会計学のうち初歩的な原価計算（工業簿記）について学習します。みなさんが学ぶべき簿記は大別すると2タイプあり，それは商業簿記（商業経営の簿記＝本学の「簿記原理」および「会社簿記」）と工業簿記（工業経営の簿記＝本学の「原価計算論」）です。
商業経営とは，八百屋や百貨店，商社などの形態がそれにあたります。たとえば八百屋はリンゴを仕入れたらそれをそのまま売ります。このように外部から仕入れた商品をそのまま販売するのが商業経営です。
これに対して，飲料メーカーでは同じように仕入れたリンゴでも，それをリンゴジュースに加工して販売するでしょう。このように工業経営では，自社で製造（加工）した製品を販売し利益を得るという特徴があります。加工する以上，「1個あたりの原価を計算」しておかないと利益が算定できませんね。これが原価計算です。
本講義では工業経営で行われる簿記と初歩的な原価計算について合わせて学習していきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。(知識・理解)

会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。(知識・理解)

会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。(技能)

会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。(技能)

常に会計学の知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストの該当箇所を予習・復習しておくこと（1コマごとに1.5時間は復習することが目安）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として定期試験70%，授業中に実施する確認テスト30%の割合で評点を算出します。ただし，平常点を加味することがあります。前記の到達目標を満たしているかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

・TAC簿記検定講座『合格テキスト　日商簿記2級工業簿記』TAC出版/ISBN9784813261582
・TAC簿記検定講座『合格トレーニング　日商簿記2級工業簿記』TAC出版/ISBN9784813261605
いずれも最新のものを利用してください。

◎－－－　参考書　－－－◎

櫻井通晴『原価計算』同文舘出版　ISBN 9784495199418

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

(1)テキストと電卓を必ず持参してください。
(2)講義で配布した資料は必ずファイリングして保存・整理してください。
(3)自宅学習を必ず行うこと（練習問題を解く）。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　講義の進め方
2　工業簿記総論
3　原価の分類
4　工業簿記の勘定連絡図
5　材料費(1)
6　材料費(2)
7　材料費(3)
8　労務費(1)
9　労務費(2)
10 経費
11 単純個別原価計算(1)
12 単純個別原価計算(2)
13 製造間接費(1)
14 製造間接費(2)
15 前半のまとめ

16 部門別原価計算(1)
17 部門別原価計算(2)
18 部門別原価計算(3)
19 総合原価計算(1)
20 総合原価計算(2)
21 総合原価計算(3)
22 総合原価計算(4)
23 総合原価計算(5)
24 標準原価計算(1)
25 標準原価計算(2)
26 標準原価計算(3)
27 標準原価計算(4)
28 直接原価計算(1)
29 直接原価計算(2)
30 本社工場会計，全体のまとめ
なお，受講者のレベルに応じて授業計画を若干変更することがある。

原価計算論（原価意識と会計学の融合）

2019-4020000380-01

田坂　公

◎経営:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。　(A-2)

3.会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。　(A-3)

4.会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。　(B-1)

5.会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

6.常に会計学の知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。　(A-2)

3.会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。　(A-3)

4.会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。　(B-1)

5.会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

6.常に会計学の知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

原価計算論（原価意識と会計学の融合）

2019-4020000380-01

田坂　公

◎貿易:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。　(A-2)

3.会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。　(A-3)

4.会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。　(B-1)

5.会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

6.常に会計学の知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

篠原　巨司馬

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：通年：金・２時限　　試験時間割：2019/07/27　５時限，2020/01/22　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

製品やサービスを提供するには必ず費用がかかります。皆さんが買い物をしたり食事をしたりという何気ない経済活動の背景には様々な人やモノが関っています。人が関われば人件費が、ものが必要であれば材料費などとして捉えられます。このように製品やサービスを提供するために費やされた費用を原価といいます。製品やサービスの原価は販売価格，サービス提供価格の決定の一つの要因となっています。
製品やサービスを提供する側（企業や個人事業主）からすると，原価を計算し、適切な利益が出ているか否かを把握することは非常に重要です。その役割を果たすのが原価計算です。
原価計算は計算の仕方＝手続き論と思われがちです。会計ソフトなどに任せればいいと考える方もいるかもしれません。しかし原価計算は、製造上の問題を発見し、新しい製造プロセスを考えるための取っ掛かりとなります。また製品価格を決定したり、設備投資の意思決定をしたりするための基礎となる情報を与えてくれるものです。このように原価計算の理論的な理解をしておくことは、適切な意思決定を可能にするだけでなく、イノベーションの機会をも提供することでしょう。
本講義では，その中でも特に製造業における原価計算である工業簿記の基礎である原価計算の基本的な考え方、個別原価計算、総合原価計算を学びます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

原価計算に必要な専門用語を理解している(知識・理解)

講義内で扱った原価計算技法を理解している(知識・理解)

原価計算の結果を用いて課題を発見できる(技能)

原価計算の結果を用いて発見した課題に対する解決策を提案できる(技能)

原価計算結果から課題を示すことができる(知識・理解)

コストマネジメントの意識を身につける(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストの問題演習で必ず復習すること。
また各回は相互に関連しているため各回をきちんと予習してくること。
予習復習をしているという前提で講義を進めます(学習目安時間120分/週）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

基本的には期末試験のみで評価するが，中間テストやグループワークなどを実施した場合はそれらを考慮することもあります。
日商簿記2級程度の知識を前提に、いかに経済活動を助けるために原価計算を利用していくかについて理論的な説明ができるか否かを評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

谷武幸『エッセンシャル原価計算』中央経済社　ISBN-13: 978-4502450006

◎－－－　参考書　－－－◎

岡本　清『原価計算』税務経理協会 ISBN-13: 978-4765810098

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

電卓を持参してください。
理解度のチェックのために期中に中間テストを行う場合もあります。
原則レジュメは配布せず教科書を参照しながら講義を進めるので必ず教科書を持参してください。
また板書の量も多いのできちんとノートをとる（書き写すだけでなく，聞いたこと、考えたことをメモする）ようにしてください。
なお、テキスト外の事象についても講義内で扱うことがあります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
1. ガイダンス
2. 原価計算の意義
3. 原価の概念
4. 確認テスト１
5. 原価の費目別計算
6. 確認テスト２
7. 原価の部門別計算
8. 確認テスト３
9. 単純総合原価計算（仕掛品の計算）
10. 単純総合原価計算（仕損・減損）
11. 確認テスト
12. 工程別総合原価計算
13. 組別総合原価計算
14. 問題演習（１）
15. 問題演習（２）
後期
1. 前期の確認
2. 確認テスト（総合原価計算）
3. 個別原価計算（１）
4. 確認テスト
5. 標準原価計算（１）
6. 標準原価計算（２）
7. 確認テスト
8. 原価管理と原価差異分析
9. 直接原価計算
10. 意思決定の差額分析
11. ABC/ABM
12. 品質原価計算（３）
13. 確認テスト
14. 問題演習（１）
15. 問題演習（２）

原価計算論「18台以前」

2019-4020000380-03

篠原　巨司馬

◎経営:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.原価計算に必要な専門用語を理解している　(A-1)

2.講義内で扱った原価計算技法を理解している　(A-2)

3.原価計算の結果を用いて課題を発見できる　(B-1)

4.原価計算の結果を用いて発見した課題に対する解決策を提案できる　(B-2)

5.原価計算結果から課題を示すことができる　(A-3)

6.コストマネジメントの意識を身につける　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.原価計算に必要な専門用語を理解している　(A-1)

2.講義内で扱った原価計算技法を理解している　(A-2)

3.原価計算の結果を用いて課題を発見できる　(B-1)

4.原価計算の結果を用いて発見した課題に対する解決策を提案できる　(B-2)

5.原価計算結果から課題を示すことができる　(A-3)

6.コストマネジメントの意識を身につける　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

原価計算論「18台以前」

2019-4020000380-03

篠原　巨司馬

◎貿易:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.原価計算に必要な専門用語を理解している　(A-1)

2.講義内で扱った原価計算技法を理解している　(A-2)

3.原価計算の結果を用いて課題を発見できる　(B-1)

4.原価計算の結果を用いて発見した課題に対する解決策を提案できる　(B-2)

5.原価計算結果から課題を示すことができる　(A-3)

6.コストマネジメントの意識を身につける　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

工業経営各論

2019-4020000609-01

和田　剛明

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：2020/01/25　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

工業経営（「ものづくり」の「ビジネス」）において、極端な言い方をすれば、「いいもの」＝「売れるもの」とはならない。たとえば、燃費が良く、空気も汚れず、丈夫で長持ちし、さらに安いという長所をもった暖房機器を開発・生産したとしても、冬でも温暖な常夏の地域では売れないだろう。一方で、同じような長所を持った冷房機器をつくれば、ライバルよりも高い売り上げが期待できる。
企業は、「売れるもの」を見極めたうえで、ものづくり能力を活かし、ライバルに対して差をつける必要がある。このために、顧客が何を望んでいるか、今後主流となる技術は何か、ライバルはどのような実力を持っているかなどを踏まえて戦略を立てる必要がある。
本講義では、工業との関連を重視しつつ、技術経営論、経営戦略論、マーケティング、イノベーション・マネジメント論の知見を用い、ものづくり能力を活かすマネジメントについて解説する。

なお、ものづくり能力の強化についてのマネジメントは、工業経営論／工業経営論Ａにおいて解説する。本講義は、工業経営論／工業経営論Ａを履修せずとも理解可能な独立した内容とするが、興味がある学生は当該科目を履修していただきたい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の収益化をするためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。(知識・理解)

本講義で修得した知識をもとに、ものづくり能力を活用するために企業がどうするべきかを説明できる。(知識・理解)

本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を低下させている要因を発見できる。(技能)

本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を強化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。(技能)

新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎週、以下の授業時間外の学習をすること。

・講義の内容を復習する（90分）
・新聞や書籍などで企業活動に関する情報を収集し、講義の内容に基づき分析する（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

学期末試験によって評価する（100%）

各到達目標に対し、以下の設問によって到達したかの評価を行う。

(1)知識・理解：
授業内容に関する確認問題

(2)技能および態度・志向性
企業事例を提示し、ものづくりの収益化方法を問う論述問題

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義において適宜配布する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第一部：ものづくり能力の収益化
第01回　ものづくり能力を収益化する戦略の重要性
第02回　持続的な競争優位性の要件
第03回　ものづくりの収益ポテンシャル
第04回　価格の追求：コスト・リーダーシップ戦略
第05回　品質・納期の追求：差別化戦略
第06回　マーケティング

第二部：技術・市場の変化への対応
第07回　製品ライフサイクル
第08回　技術・イノベーションのマネジメント
第09回　多角化と製品・事業の管理
第10回　多角化とものづくり能力の活用・育成

第三部：他企業との連携・協調
第11回　製品アーキテクチャと垂直分業
第12回　業界標準
第13回　事業システムの再編
第14回　他企業・ユーザーとの連携

第15回　まとめ

工業経営各論

2019-4020000609-01

和田　剛明

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の収益化をするためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。　(A-2)

2.本講義で修得した知識をもとに、ものづくり能力を活用するために企業がどうするべきかを説明できる。　(A-3)

3.本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を低下させている要因を発見できる。　(B-1)

4.本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を強化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。(B-2)

5.新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の収益化をするためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。　(A-2)

2.本講義で修得した知識をもとに、ものづくり能力を活用するために企業がどうするべきかを説明できる。　(A-3)

3.本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を低下させている要因を発見できる。　(B-1)

4.本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を強化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。(B-2)

5.新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

工業経営各論

2019-4020000609-01

和田　剛明

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の収益化をするためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。　(A-2)

2.本講義で修得した知識をもとに、ものづくり能力を活用するために企業がどうするべきかを説明できる。　(A-3)

3.本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を低下させている要因を発見できる。　(B-1)

4.本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を強化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。(B-2)

5.新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の収益化をするためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。　(A-2)

2.本講義で修得した知識をもとに、ものづくり能力を活用するために企業がどうするべきかを説明できる。　(A-3)

3.本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を低下させている要因を発見できる。　(B-1)

4.本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を強化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。(B-2)

5.新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

工業経営論

2019-4020000608-01

和田　剛明

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・３時限　　試験時間割：2019/07/31　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は、工業経営（「ものづくり」の「ビジネス」）について、基礎的な知識を修得することを目指す。このために、第一部：ものづくり能力と企業の競争優位性、第二部：ものづくりを支える諸活動、第三部：ものづくりに対する国際的な視点について解説する。学生諸君にとって身近な「ものづくり」であろう「料理」を例に第一部～三部の概要を説明するならば、以下のようになる。

第一部：ものづくり能力と企業の競争優位性
料理に対し、消費者は「値段(安さ）」「はやさ」「うまさ」といった価値を評価する。同じメニューであっても、下ごしらえ・調理の順序などの料理をする手際、使う材料・道具、キッチンが整理・清掃されているかといった要素の工夫＝ものづくり能力によって、「値段(安さ）」「はやさ」「うまさ」が変わってくる。
同じように、自動車やスマホといった工業製品一般においても、ものづくりの能力によって商品の価値が左右される。第一部では、ものづくり能力と競争優位性の関連性と、ものづくり能力を高めるためのマネジメントについて解説する。

第二部：ものづくりを支える諸活動
どれだけつくる工夫をしても、レシピがおかしければ、出来上がりの料理も台無しになる。おいしい料理をつくっても、届けるまでに冷めてしまえば台無しになる。いいものを提供するには、レシピ、届け方などの工夫もセットで必要になる。さらに、料理を作るにはそもそも腕のいい料理人を集める必要がある。
工業一般においても、よい設計を生み出す、顧客に届ける、人材を採用・育成するといったマネジメントが重要になる。第二部では、設計開発・流通活動・人材のマネジメントについて解説する。

第三部：ものづくりに対する国際的な視点
日本国内には様々な海外料理の店があるが、多くは日本では手に入りにくい材料を別のものに置き換えたり、日本人好みに味付けをアレンジするなどの工夫をしている。
工業一般においても、海外に展開する際には商品のアレンジや、つくり方の変更を求められる。第三部では、日本的な製造企業の特徴を解説した上で、国際的に展開するためのマネジメントについて解説する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の価値を高めるためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。(知識・理解)

本講義で修得した知識をもとに、効率的なものづくりを実現するために企業がどうするべきかを説明できる。(知識・理解)

本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率性を低下させている要因を発見できる。(技能)

本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。(技能)

新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎週、以下の授業時間外の学習をすること。
・講義の内容を復習する（90分）
・新聞や書籍などで企業活動に関する情報を収集し、講義の内容に基づき分析する（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

学期末試験によって評価する（100%）

各到達目標に対し、以下の設問によって到達したかの判定を行う。
(1)知識・理解：
授業内容に関する確認問題

(2)技能および態度・志向性
企業事例を提示し、ものづくりの改善提案を問う論述問題

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義において資料を配布する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第一部　ものづくり能力について学ぶ
第01回　ガイダンス
第02回　ものづくり能力による競争優位性
第03回　コスト
第04回　品質
第05回　納期
第06回　フレキシビリティ

第二部　ものづくりを支える諸活動について学ぶ
第07回　製品の企画・開発
第08回　製品開発の組織マネジメント
第09回　購買管理
第10回　サプライチェーンマネジメント
第11回　人事マネジメント

第三部　ものづくりに対する国際的な視点を学ぶ
第12回　日本的ものづくりとは
第13回　海外市場展開
第14回　海外拠点展開
第15回　まとめ

工業経営論

2019-4020000608-01

和田　剛明

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の価値を高めるためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。　(A-2)

2.本講義で修得した知識をもとに、効率的なものづくりを実現するために企業がどうするべきかを説明できる。　(A-3)

3.本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率性を低下させている要因を発見できる。　(B-1)

4.本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。　(B-2)

5.新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の価値を高めるためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。　(A-2)

2.本講義で修得した知識をもとに、効率的なものづくりを実現するために企業がどうするべきかを説明できる。　(A-3)

3.本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率性を低下させている要因を発見できる。　(B-1)

4.本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。　(B-2)

5.新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

工業経営論

2019-4020000608-01

和田　剛明

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-2

1.本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の価値を高めるためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。　(A-2)

2.本講義で修得した知識をもとに、効率的なものづくりを実現するために企業がどうするべきかを説明できる。　(A-3)

3.本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率性を低下させている要因を発見できる。　(B-1)

4.本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。　(B-2)

5.新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

工業経営論A

2019-4020000401-01

和田　剛明

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・３時限　　試験時間割：2019/07/31　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は、工業経営（「ものづくり」の「ビジネス」）について、基礎的な知識を修得することを目指す。このために、第一部：ものづくり能力と企業の競争優位性、第二部：ものづくりを支える諸活動、第三部：ものづくりに対する国際的な視点について解説する。学生諸君にとって身近な「ものづくり」であろう「料理」を例に第一部～三部の概要を説明するならば、以下のようになる。

第一部：ものづくり能力と企業の競争優位性
料理に対し、消費者は「値段(安さ）」「はやさ」「うまさ」といった価値を評価する。同じメニューであっても、下ごしらえ・調理の順序などの料理をする手際、使う材料・道具、キッチンが整理・清掃されているかといった要素の工夫＝ものづくり能力によって、「値段(安さ）」「はやさ」「うまさ」が変わってくる。
同じように、自動車やスマホといった工業製品一般においても、ものづくりの能力によって商品の価値が左右される。第一部では、ものづくり能力と競争優位性の関連性と、ものづくり能力を高めるためのマネジメントについて解説する。

第二部：ものづくりを支える諸活動
どれだけつくる工夫をしても、レシピがおかしければ、出来上がりの料理も台無しになる。おいしい料理をつくっても、届けるまでに冷めてしまえば台無しになる。いいものを提供するには、レシピ、届け方などの工夫もセットで必要になる。さらに、料理を作るにはそもそも腕のいい料理人を集める必要がある。
工業一般においても、よい設計を生み出す、顧客に届ける、人材を採用・育成するといったマネジメントが重要になる。第二部では、設計開発・流通活動・人材のマネジメントについて解説する。

第三部：ものづくりに対する国際的な視点
日本国内には様々な海外料理の店があるが、多くは日本では手に入りにくい材料を別のものに置き換えたり、日本人好みに味付けをアレンジするなどの工夫をしている。
工業一般においても、海外に展開する際には商品のアレンジや、つくり方の変更を求められる。第三部では、日本的な製造企業の特徴を解説した上で、国際的に展開するためのマネジメントについて解説する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の価値を高めるためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。(知識・理解)

本講義で修得した知識をもとに、効率的なものづくりを実現するために企業がどうするべきかを説明できる。(知識・理解)

本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率性を低下させている要因を発見できる。(技能)

本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。(技能)

新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎週、以下の授業時間外の学習をすること。
・講義の内容を復習する（90分）
・新聞や書籍などで企業活動に関する情報を収集し、講義の内容に基づき分析する（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

学期末試験によって評価する（100%）

各到達目標に対し、以下の設問によって到達したかの判定を行う。
(1)知識・理解：
授業内容に関する確認問題

(2)技能および態度・志向性
企業事例を提示し、ものづくりの改善提案を問う論述問題

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義において資料を配布する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第一部　ものづくり能力について学ぶ
第01回　ガイダンス
第02回　ものづくり能力による競争優位性
第03回　コスト
第04回　品質
第05回　納期
第06回　フレキシビリティ

第二部　ものづくりを支える諸活動について学ぶ
第07回　製品の企画・開発
第08回　製品開発の組織マネジメント
第09回　購買管理
第10回　サプライチェーンマネジメント
第11回　人事マネジメント

第三部　ものづくりに対する国際的な視点を学ぶ
第12回　日本的ものづくりとは
第13回　海外市場展開
第14回　海外拠点展開
第15回　まとめ

工業経営論Ａ

2019-4020000401-01

和田　剛明

◎経営

1.本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の価値を高めるためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。　(A-1)

2.本講義で修得した知識をもとに、効率的なものづくりを実現するために企業がどうするべきかを説明できる。　(A-2)

3.本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率性を低下させている要因を発見できる。　(B-1)

4.本講義で修得した知識をもとに、企業のものづくり活動を分析し、効率化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。　(B-2)

5.新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

工業経営論Ｂ

和田　剛明

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：2020/01/25　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

工業経営（「ものづくり」の「ビジネス」）において、極端な言い方をすれば、「いいもの」＝「売れるもの」とはならない。たとえば、燃費が良く、空気も汚れず、丈夫で長持ちし、さらに安いという長所をもった暖房機器を開発・生産したとしても、冬でも温暖な常夏の地域では売れないだろう。一方で、同じような長所を持った冷房機器をつくれば、ライバルよりも高い売り上げが期待できる。
企業は、「売れるもの」を見極めたうえで、ものづくり能力を活かし、ライバルに対して差をつける必要がある。このために、顧客が何を望んでいるか、今後主流となる技術は何か、ライバルはどのような実力を持っているかなどを踏まえて戦略を立てる必要がある。
本講義では、工業との関連を重視しつつ、技術経営論、経営戦略論、マーケティング、イノベーション・マネジメント論の知見を用い、ものづくり能力を活かすマネジメントについて解説する。

なお、ものづくり能力の強化についてのマネジメントは、工業経営論／工業経営論Ａにおいて解説する。本講義は、工業経営論／工業経営論Ａを履修せずとも理解可能な独立した内容とするが、興味がある学生は当該科目を履修していただきたい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の収益化をするためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。(知識・理解)

本講義で修得した知識をもとに、ものづくり能力を活用するために企業がどうするべきかを説明できる。(知識・理解)

本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を低下させている要因を発見できる。(技能)

本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を強化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。(技能)

新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎週、以下の授業時間外の学習をすること。

・講義の内容を復習する（90分）
・新聞や書籍などで企業活動に関する情報を収集し、講義の内容に基づき分析する（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

学期末試験によって評価する（100%）

各到達目標に対し、以下の設問によって到達したかの評価を行う。

(1)知識・理解：
授業内容に関する確認問題

(2)技能および態度・志向性
企業事例を提示し、ものづくりの収益化方法を問う論述問題

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義において適宜配布する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第一部：ものづくり能力の収益化
第01回　ものづくり能力を収益化する戦略の重要性
第02回　持続的な競争優位性の要件
第03回　ものづくりの収益ポテンシャル
第04回　価格の追求：コスト・リーダーシップ戦略
第05回　品質・納期の追求：差別化戦略
第06回　マーケティング

第二部：技術・市場の変化への対応
第07回　製品ライフサイクル
第08回　技術・イノベーションのマネジメント
第09回　多角化と製品・事業の管理
第10回　多角化とものづくり能力の活用・育成

第三部：他企業との連携・協調
第11回　製品アーキテクチャと垂直分業
第12回　業界標準
第13回　事業システムの再編
第14回　他企業・ユーザーとの連携

第15回　まとめ

工業経営論Ｂ

2019-4020000402-01

和田　剛明

◎経営

1.本講義で修得した知識をもとに、製造企業において製品の収益化をするためにどのようなマネジメントが行われているのかを説明できる。　(A-1)

2.本講義で修得した知識をもとに、ものづくり能力を活用するために企業がどうするべきかを説明できる。　(A-2)

3.本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を低下させている要因を発見できる。　(B-1)

4.本講義で修得した知識をもとに、ものづくりの観点から企業の活動を分析し、収益性を強化するためにどのようにするべきか、改善案を提示できる。(B-2)

5.新聞やテレビの報道、書籍などをもとに製造企業の活動に関する情報を取得し、本講義で修得した知識をもとに分析し、理解を深めようとする姿勢を持っている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際会計論

2019-4020000612-01

池田　健一

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・４時限　　試験時間割：2019/07/25　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

近年、日本企業の財務報告の透明性を高め、国内的にも国際的にも信頼できるようにするため、日本の会計ルールに国際財務報告基準（ＩＦＲＳ）を採り入れる動きが顕著になってきています。
また、2010年3月期から認められている任意適用により、2019年１月時点
でＩＦＲＳ任意適用会社は199社となり、このうち上場会社の時価総額は全上場会社の時価総額の約30%程度にのぼっているとされます。
そこで本講義では、国際財務報告基準や日本の会計ルールに関心を持つ受講生に、連結会計、税効果会計、外貨換算会計、キャッシュ・フロー計算書を含む、さまざまなテーマについて理解を深めてもらうことを目標とします。
なお、講義では、国際財務報告基準についての学習が中心となりますが、一部の論点については日本の会計ルールも学習します。
授業は、テキストの重要論点について基礎的な内容から説明していき、各テーマの概要を理解してもらおうと考えています。また、授業中に短いレポートを作成してもらったり各テーマに関する練習問題を解いてもらうことも検討しています。
講義で重要な論点に関する概要を理解した上で、復習としてテキストや参考文献を使って学習を深めていってもらえればと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。(知識・理解)

IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。(知識・理解)

講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。(知識・理解)

講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。(知識・理解)

IFRSの最新動向について主体的に学ぼうとしている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

シラバスに示された学習項目について事前に教科書に目を通しておく
ようにしてください（めやす30分）。また、授業終了時に教科書の各章末の練習問題を解答するようにしてください（めやす15分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で学習した各テーマの内容が十分に理解できているかを成績評価の基準とします。
成績評価の方法は定期試験の成績を９割、平常点１割（提出された課題に基づいて評価を行う）を目安として総合的に評価します。ただし、講義期間中に提出課題がなかった場合は、定期試験の成績に基づいて評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

池田健一著『はじめて学ぶ国際会計論』同文館ISBN 978-4-495-20761-8

◎－－－　参考書　－－－◎

広瀬義州著『ＩＦＲＳ財務会計入門』中央経済社　ISBN 978-4-502-08580-２
桜井久勝編著『テキスト国際会計基準』白桃書房 ISBN 978-4-561-35218-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「簿記原理（または簿記入門Ⅰ・Ⅱ）」の単位を修得してから受講してください。「財務会計論」や「会社簿記（または会社簿記Ⅰ・Ⅱ）」等も履修済み（または受講中であること）が望ましい。きちんと出席して学習していくことができる人を希望します。
講義中は学生としてのマナーを守り静かに受講してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　オリエンテーション
２　国際会計基準委員会の概要
３　概念フレームワーク[1]
４　概念フレームワーク[2]
５　財務諸表の表示
６　棚卸資産
７　キャッシュ・フロー計算書[1]
８　キャッシュ・フロー計算書[2]
９　法人所得税[1]
１０　法人所得税[2]
１１　有形固定資産[1]
１２　有形固定資産[2]
１３　収益認識
１４　問題演習
１５　前期のまとめ

なお、講義日程や諸事情により授業計画が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

国際会計論

2019-4020000612-01

池田　健一

◎経営:A-1,A-2,A-3,C-2

1.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。　(A-1)

2.IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。　(A-2)

3.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。　(A-3)

4.講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。　(A-2)

5.IFRSの最新動向について主体的に学ぼうとしている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,C-2

1.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。　(A-1)

2.IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。　(A-2)

3.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。　(A-3)

4.講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。　(A-2)

5.IFRSの最新動向について主体的に学ぼうとしている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際会計論

2019-4020000612-01

池田　健一

◎貿易:A-1,A-2,A-3,C-2

1.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。　(A-1)

2.IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。　(A-2)

3.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。　(A-3)

4.講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。　(A-2)

5.IFRSの最新動向について主体的に学ぼうとしている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

国際会計論Ⅰ

2019-4020000385-01

池田　健一

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・４時限　　試験時間割：2019/07/25　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

近年、日本企業の財務報告の透明性を高め、国内的にも国際的にも信頼できるようにするため、日本の会計ルールに国際財務報告基準（ＩＦＲＳ）を採り入れる動きが顕著になってきています。
また、2010年3月期から認められている任意適用により、2019年１月時点
でＩＦＲＳ任意適用会社は199社となり、このうち上場会社の時価総額は全上場会社の時価総額の約30%程度にのぼっているとされます。
そこで本講義では、国際財務報告基準や日本の会計ルールに関心を持つ受講生に、連結会計、税効果会計、外貨換算会計、キャッシュ・フロー計算書を含む、さまざまなテーマについて理解を深めてもらうことを目標とします。
なお、講義では、国際財務報告基準についての学習が中心となりますが、一部の論点については日本の会計ルールも学習します。
授業は、テキストの重要論点について基礎的な内容から説明していき、各テーマの概要を理解してもらおうと考えています。また、授業中に短いレポートを作成してもらったり各テーマに関する練習問題を解いてもらうことも検討しています。
講義で重要な論点に関する概要を理解した上で、復習としてテキストや参考文献を使って学習を深めていってもらえればと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。(知識・理解)

IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。(知識・理解)

講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。(知識・理解)

講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。(知識・理解)

IFRSの最新動向について主体的に学ぼうとしている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

シラバスに示された学習項目について事前に教科書に目を通しておく
ようにしてください（めやす30分）。また、授業終了時に教科書の各章末の練習問題を解答するようにしてください（めやす15分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で学習した各テーマの内容が十分に理解できているかを成績評価の基準とします。
成績評価の方法は定期試験の成績を９割、平常点１割（提出された課題に基づいて評価を行う）を目安として総合的に評価します。ただし、講義期間中に提出課題がなかった場合は、定期試験の成績に基づいて評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

池田健一著『はじめて学ぶ国際会計論』同文館 ISBN 978-4-495-20761-8

◎－－－　参考書　－－－◎

広瀬義州著『ＩＦＲＳ財務会計入門』中央経済社　ISBN 978-4-502-08580-２
桜井久勝編著『テキスト国際会計基準』白桃書房ISBN 978-4-56-1664

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「簿記原理（または簿記入門Ⅰ・Ⅱ）」の単位を修得してから受講してください。「財務会計論」や「会社簿記（または会社簿記Ⅰ・Ⅱ）」等も履修済み（または受講中であること）が望ましい。きちんと出席して学習していくことができる人を希望します。
講義中は学生としてのマナーを守り静かに受講してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　オリエンテーション
２　国際会計基準委員会の概要
３　概念フレームワーク[1]
４　概念フレームワーク[2]
５　財務諸表の表示
６　棚卸資産
７　キャッシュ・フロー計算書[1]
８　キャッシュ・フロー計算書[2]
９　法人所得税[1]
１０　法人所得税[2]
１１　有形固定資産[1]
１２　有形固定資産[2]
１３　収益認識
１４　問題演習
１５　前期のまとめ

なお、講義日程や諸事情により授業計画が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

国際会計論Ⅰ

2019-4020000385-01

池田　健一

◎経営

1.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。　(A-1)

2.IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。　(A-2)

3.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。　(A-3)

4.講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。　(A-1)

5.IFRSの最新動向について主体的に学ぼうとしている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際会計論Ⅱ

2019-4020000386-01

池田　健一

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・４時限　　試験時間割：2020/01/20　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

2010年3月期の年度の連結財務諸表から、所定の条件を満たす日本の
上場企業に対して、国際財務報告基準（ＩＦＲＳ）の任意適用が認められています。2019年１月時点で、日本電波工業、ＨＯＹＡ、住友商事をはじめ199社が任意適用を選択しています。
業種別にみると電気機器が最も多く、医薬品、情報、通信業、卸売業、サービス業も多数の企業が任意適用を行っています。
また、日本企業の財務報告の透明性を高め、国際的に信頼できるようにするため、日本の会計ルールに国際財務報告基準（ＩＦＲＳ）を採り入れる動きが継続しています。
そこで本講義では、国際財務報告基準や日本の会計ルールに関心を持つ受講生に、連結会計、税効果会計、外貨換算会計、キャッシュ・フロー計算書を含む、さまざまなテーマについて理解を深めてもらうことを目標とします。
なお、講義では、国際財務報告基準についての学習が中心となりますが、一部の論点については日本の会計ルールも学習します。
授業は、テキストの重要論点について基礎的な内容から説明していき、各テーマの概要を理解してもらおうと考えています。また、授業中に短いレポートを作成してもらったり各テーマに関する練習問題を解いてもらうことも検討しています。
講義で重要な論点に関する概要を理解した上で、復習としてテキストや参考文献を使って学習を深めていってもらえればと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

他の講義で学んだ会計学の知識を活用して講義の内容の理解を深めることができる。(知識・理解)

講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。(知識・理解)

IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。(知識・理解)

講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。(知識・理解)

講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

シラバスに示された学習項目について事前に教科書に目を通しておく
ようにしてください（めやす30分）。また、授業終了時に教科書の各章末の練習問題を解答するようにしてください（めやす15分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で学習した各テーマの内容が十分に理解できているかを成績評価の基準とします。
成績評価の方法は定期試験の成績を９割、平常点１割（提出された課題に基づいて評価を行う）を目安として総合的に評価します。ただし、講義期間中に提出課題がなかった場合は、定期試験の成績に基づいて評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

桜井久勝編著『テキスト国際会計基準　新訂版』白桃書房
ISBN 978-4-561-35218-1

◎－－－　参考書　－－－◎

広瀬義州著『ＩＦＲＳ財務会計入門』中央経済社　ISBN 978-4-502-08580-2
古賀智敏監修『国際会計基準と日本の会計実務』同文舘
ISBN 978-4495166441

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「簿記原理（または簿記入門Ⅰ・Ⅱ）」の単位を修得してから受講してください。「財務会計論」や「会社簿記（または会社簿記Ⅰ・Ⅱ）」等も履修済み（または受講中であること）が望ましい。きちんと出席して学習していくことができる人を希望します。
講義中は学生としてのマナーを守り静かに受講してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　オリエンテーションおよびリース[1]
２　リース[2]
３　従業員給付［1］
４　従業員給付［2］
５　外貨換算会計[1]
６　外貨換算会計[2]
７　借入コスト
８　資産の減損
９　無形資産
１０　投資不動産
１１　連結財務諸表[1]
１２　連結財務諸表[2]
１３　持分法など
１４　公正価値測定
１５　後期のまとめ

なお、講義日程や諸事情により授業計画が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

国際会計論Ⅱ

2019-4020000386-01

池田　健一

◎経営

1.他の講義で学んだ会計学の知識を活用して講義の内容の理解を深めることができる。　(A-1)

2.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の企業活動を説明できる。　(A-2)

3.IFRSが企業の経営管理に及ぼす影響を理解し説明できる。　(A-3)

4.講義で学んだ内容をもとに講義で取り上げたいくつかの企業の財務活動を説明できる。　(A-2)

5.講義で学んだ内容をもとにIFRSが企業に及ぼす影響を理解し会計処理の特徴を説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際企業論

2019-4020000384-01

居城　克治

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・５時限　　試験時間割：2020/01/20　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

日本企業の多くが世界市場で活躍していますが、欧米企業や急成長を遂げるアジア諸国の企業との競争が日増しに強まってきています。国際企業論では、日本企業のみならず、国際的なビジネスリーダーである欧米諸国の巨大企業のグローバルな経営展開を通じて国際企業論の基本を学び、国際ビジネスに対する理解を深めてもらいます。

19世紀以降、欧米の巨大企業を中心に多国籍企業と呼ばれる企業群が世界各国に進出し、世界経済をリードし始めました。企業はなぜ直接投資、資本進出といった経営手段を用いて国境線を飛び越えてビジネスを展開するのでしょうか。その本質部分を理解してもらいます。また、多くの先生方がこの命題を解き明かそうと理論的研究を進めてきました。Haymer、Kindleberger、Vernon、Rugmanといった代表的な理論研究にアプローチしていきます。

現在、グローバル企業と呼ばれるGM、トヨタといった自動車企業、GE、松下、キャノンといったエレクトロニクス企業、ウォルマート、カルフールといった流通企業が世界各国で活躍していますが、これら国際企業の活動を通じて国際戦略や国際競争のパターンなどの基本について学び、国際ビジネスに対する理解を深めてもらいます。併せて、国際競争に打ち勝つための価格競争力の構築やブランドの強化といった差別化戦略など、国際競争力の源泉にも言及していきます。

授業の内容に関しては毎回レジュメを配布します。論点と内容を理解するのに必要なキーワードが整理されていますので、キーワードの内容が充分理解できるよう復習を行ってください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

世界における直接投資の現状と直接投資のもたらす経済効果、またグローバル企業の直接投資の目的について説明することができる。(知識・理解)

グローバル企業の直接投資を理論的に（ハイマー、バーノン、ラグマン等の諸説）説明することができる。(知識・理解)

ポーターのグローバル企業の国際戦略について説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業内で配布されるレジュメに当日の授業内容の骨子がキーワードとして取りまとめてあります。キーワードの内容が充分に理解できているか復習しておくこと。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

グローバル企業の国際戦略の背景や種々のグローバル戦略理論等の理解度を定期試験の結果から100%の割合で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定するテキストはありません。授業中に配布するレジュメを中心に授業を進め、適宜VTRなどを使用して理解を深めます。

◎－－－　参考書　－－－◎

指定する参考書はありません。授業ごとに必要となる参考書はレジュメを参考にしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　国際企業、グローバル企業とは
２　グローバル企業の海外進出の目的
３　グローバル企業の直接投資と投資受入国経済
４　グローバル企業の発展過程
５　グローバル企業と国際経営
６　グローバル企業に対する理論的アプローチ１
７　グローバル企業に対する理論的アプローチ２
８　グローバル企業に対する理論的アプローチ３
９　アンゾフ、ポーターの企業戦略
１０　ポーターの国際戦略１
１１　ポーターの国際戦略２
１２　ポーターの国際戦略３　（VTR参考）
１３　グローバル企業の開発・生産戦略
１４　グローバル企業のマーケティング戦略
１５　講義のまとめ

国際企業論

2019-4020000384-01

居城　克治

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.世界における直接投資の現状と直接投資のもたらす経済効果、またグローバル企業の直接投資の目的について説明することができる。　(A-1)

2.グローバル企業の直接投資を理論的に（ハイマー、バーノン、ラグマン等の諸説）説明することができる。　(A-2)

3.ポーターのグローバル企業の国際戦略について説明することができる。(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.世界における直接投資の現状と直接投資のもたらす経済効果、またグローバル企業の直接投資の目的について説明することができる。　(A-1)

2.グローバル企業の直接投資を理論的に（ハイマー、バーノン、ラグマン等の諸説）説明することができる。　(A-2)

3.ポーターのグローバル企業の国際戦略について説明することができる。(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際企業論

2019-4020000384-01

居城　克治

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.世界における直接投資の現状と直接投資のもたらす経済効果、またグローバル企業の直接投資の目的について説明することができる。　(A-1)

2.グローバル企業の直接投資を理論的に（ハイマー、バーノン、ラグマン等の諸説）説明することができる。　(A-2)

3.ポーターのグローバル企業の国際戦略について説明することができる。(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

国際経営論

2019-4020000383-01

居城　克治

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・５時限　　試験時間割：2019/07/25　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　国際ビジネスの社会では、欧米の巨大企業に伍してトヨタ、ソニー、キャノンといった日本企業がリードしています。日本企業は欧米諸国から多くのことを学びながら国際競争力を高め、貿易や直接投資といった国際経営を通じて大きな成長を遂げてきました。
　国際経営論では、日本企業の世界進出の過程を通じて国際経営の基本を学んでいきます。
　まず、国際経営の基本形である貿易や直接投資の現状を把握するとともに、日本企業の国際化、世界進出の過程を歴史的に考察していきます。具体的には、自動車産業、エレクトロニクス産業といった日本経済のリーディングインダストリーを取り上げ、時代ごとの経営環境変化とそれに対する国際戦略のあり方を中心に授業を進めていきます。
　なぜ、日本企業は国際競争力が強いのでしょうか。日本企業が世界市場で勝ち抜いていくための価格戦略や技術戦略といった国際競争力のファクターに対する理解も併せて深めていきます。
　さらに、近年急速な発展を遂げるアジア地域、中でも中国、アセアン地域における日本企業の戦略にも言及していきます。国際経営は、世界各地の企業文化、風土、社会的価値観に適合した企業行動が求められます。日本企業を中心に、国際経営の現状と問題点、将来に向けての経営課題を整理し、国際経営とは何かを理解してもらいます。
　授業の内容に関しては毎回レジュメを配布します。論点と内容を理解するのに必要なキーワードが整理されていますので、キーワードの内容が充分理解できるよう復習を行ってください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

世界貿易の現状について説明することができる。(知識・理解)

日本企業の国際化の経緯について、時代ごとの経営課題と経営戦略について説明することができる。(知識・理解)

日本の自動車産業の国際戦略の変遷について説明することができる。(知識・理解)

日本の自動車産業の国際競争力の源泉について（開発戦略、生産戦略、価格戦略等）説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業内で配布されるレジュメに、当日の授業内容がキーワードとして取りまとめられています。キーワードの内容が充分に理解できているか復習しておくこと。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　日本企業の国際戦略や輸出競争力の源泉についての理解度を定期試験の結果から100%の割合で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　指定するテキストはありません。授業中に配布するレジュメを中心に授業を進め、適宜VTRなどを使用して理解を深めていきます。

◎－－－　参考書　－－－◎

　指定する参考書はありません。授業ごとに必要となる参考書はレジュメを参考にしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　企業の国際化とは
２　国際経営の基本（商品・サービス貿易）
３　国際経営の基本（資本投資・M＆A）
４　日本企業と国際経営の歴史的経緯１
５　日本企業と国際経営の歴史的経緯２
６　日本企業と国際経営の歴史的経緯３
７　自動車産業の国際戦略１
８　自動車産業の国際戦略２
９　自動車産業の国際戦略３
１０　自動車産業の国際戦略４
１１　国際競争と技術戦略
１２　国際競争と生産戦略１
１３　国際競争と生産戦略２（VTR参考）
１４　国際競争と価格戦略
１５　講義のまとめ

国際経営論

2019-4020000383-01

居城　克治

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.世界貿易の現状について説明することができる。　(A-1)

2.日本企業の国際化の経緯について、時代ごとの経営課題と経営戦略について説明することができる。　(A-2)

3.日本の自動車産業の国際戦略の変遷について説明することができる。　(A-1)

4.日本の自動車産業の国際競争力の源泉について（開発戦略、生産戦略、価格戦略等）説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.世界貿易の現状について説明することができる。　(A-1)

2.日本企業の国際化の経緯について、時代ごとの経営課題と経営戦略について説明することができる。　(A-2)

3.日本の自動車産業の国際戦略の変遷について説明することができる。　(A-1)

4.日本の自動車産業の国際競争力の源泉について（開発戦略、生産戦略、価格戦略等）説明することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際経営論

2019-4020000383-01

居城　克治

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.世界貿易の現状について説明することができる。　(A-1)

2.日本企業の国際化の経緯について、時代ごとの経営課題と経営戦略について説明することができる。　(A-2)

3.日本の自動車産業の国際戦略の変遷について説明することができる。　(A-1)

4.日本の自動車産業の国際競争力の源泉について（開発戦略、生産戦略、価格戦略等）説明することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

制度会計論

2019-4020000413-01

渡辺　剛

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・３時限　　試験時間割：2019/08/01　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

制度会計とは、法令に従って行われる会計であり、具体的には、会社法、金融商品取引法、税法という法律の枠内で行われる会計です。
本講義では、制度会計の全体像を把握した後、制度会計（税務会計は除く）において資産、負債、資本、収益、費用の会計処理がどのように行われているのかを概観します。ただし、その全てを網羅的、体系的にみていくのではなく、とりわけ最近制度変更が行われた部分を重点的に取り上げます。たとえば、資産会計では、棚卸資産の評価、有価証券の時価評価、減損会計、資本会計では株主資本等変動計算書の作成、損益会計では、収益の計上基準などを取り上げる予定です。
現在、会計基準のコンバージェンス(統合)と呼ばれる動きが進んでいます。その動向次第で制度会計は大きく変わることになります。本講義では、できるだけ最新の情報を取り入れて進めていく予定です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

(1)制度会計の概要を把握し、会計学の法律的側面に関する理解を深めることができるようになる。(知識・理解)

(2)現行制度における財務会計の特徴を説明することができる。(知識・理解)

(3) 財務会計の今後の検討課題およびその企業への影響を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、次回の講義テーマを告知しますので、事前にテキストを読んで予習してきて下さい(30分)。また、憶えるべきことが多く出ますので毎回復習が必要です(60分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

制度会計に対する理解度を評価の基準とし、定期試験の結果によって評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

桜井久勝『財務会計講義(第19版)』中央経済社(2018年)
ISBN：978-4-502-26641-6。なお、第20版が出版された場合は第20版を用います。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講義は、受講者に会計学および簿記の基礎知識がすでにあることを前提として進めます。したがって、「簿記原理」をはじめとして「会計学総論」および「財務会計論」、ならびに「会社簿記Ⅰ・Ⅱ」または「会社簿記」を履修した後に受講することが望ましいです（本講義は3年次以上で受講することが望ましいです）。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス―講義内容の概説
２　制度会計の概要
３　制度会計の計算構造の特徴
４　資産会計(1)―棚卸資産
５　資産会計(2)―有価証券
６　資産会計(3)―固定資産
７　負債会計(1)―負債の意義
８　負債会計(2)―引当金
９　資本会計(1)―資本の意義
１０　資本会計(2)―株主資本等変動計算書の意義
１１　資本会計(3)―株主資本等変動計算書の作成
１２　損益会計(1)―損益の計上基準
１３　損益会計(2)―収益の新計上基準の概要
１４　損益会計(3)―収益の新計上基準の特徴
１５　会計基準のコンバージェンス

制度会計論

2019-4020000413-01

渡辺　剛

◎経営

1.(1)制度会計の概要を把握し、会計学の法律的側面に関する理解を深めることができるようになる。　(A-1)

2.(2)現行制度における財務会計の特徴を説明することができる。　(A-2)

3.(3) 財務会計の今後の検討課題およびその企業への影響を説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

税と生活

2019-4020000606-01

山内　進

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　　試験時間割：2019/07/27　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

われわれが生きている限り、税金問題も避けては通れないと言えるでしょう。具体的に言うならば、皆さんのアルバイトはいくらまでなら、税金がかからないのでしょうか。家を売りたいが、いつどのようにすれば、節税ができるのでしょうか。医療費がたくさんかかったが、サラリーマンが税金を戻してもらうにはどのようにしたら良いのでしょうか。

このように、われわれの生活に密着した税が所得税です。授業の進め方は、われわれの馴染みが深い給与所得や退職所得から入り、最終的には１０種類の所得を全て学習します。

また相続税も学習します。ご両親が亡くなった場合やご主人が亡くなった場合、相続人である皆さんには相続税がいくらかかると思いますか。奥様はいくらまでなら相続税がかからないのでしょうか。相続に関する税金を計算するのが相続税です。このように「税と生活」では私達の生活に密着した所得税と相続税について学習します。以前、税理士として会計事務所に勤務していた経験を活かし、税金に関する興味深い事例を沢山皆さんに伝授します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

所得税及び相続税の知識を通じて、企業活動に携わる従業員、経営者に対する租税の取り扱いが理解できるようになる。(知識・理解)

従業員を指導、管理するときに役立つ租税の知識をえることができるようになる。(知識・理解)

企業の財務活動に影響を与える従業員等に支払う給与、其れにかかわる源泉税等の支払い、交際費等の税務処理を理解できるようになる。(知識・理解)

所得税や相続税の知識は、組織の人々が最も関心があるものであり、その知識、考え方を通じてコミュニケーション能力を高めることができるようになる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、テキストのポイント、内容等を読んでほしい。ただ事後復習の方が重要で、テキストの計算問題を解いてくることが望まれます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

試験結果（70%）、積極的な授業への貢献度(質問及び発言等)と宿題の提出（30%）を加味しながら総合的に判断します。所得税と相続税計算の仕組みが理解できているかを評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

以下を使用して、授業を進行する。
山内ススム『所得税法要説』税務経理協会、6,200円、ISBN978-4-419-06357-3
山内ススム『相続税法要説』税務経理協会、4，400円、ISBN978-4-419-06454-9

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　所得税計算の仕組みと税金一般
２　サラリーマンと税金及びサラリーマンの税金対策（給与所得）
３　所得控除の説明
４　給与所得者の還付申告書作成（医療費控除ないしは住宅を取得したケース）
５　各種所得金額の計算Ⅰ（利子所得、配当所得・配当金を得たケース、退職所得・退職金をもらったケース）
６　各種所得金額の計算Ⅱ（不動産所得・家を人に貸した場合のケース、山林所得）
７　各種所得金額の計算Ⅲ（事業所得・自分でビジネスを開業したケース）
８　各種所得金額の計算Ⅳ（譲渡所得・土地や建物を売却したケース）
９　各種所得金額の計算Ⅴ（雑所得・原稿収入を得た場合）
１０　税額計算の仕組み
１１　青色申告制度－所得税の申告
１２　相続税の仕組みと財産評価
１３　課税価格の計算
１４　相続税の総額と算出税額の計算
１５　相続税の計算

税と生活

山内　進

2019-4020000606-01

◎経営:A-2,A-3,B-3

1.所得税及び相続税の知識を通じて、企業活動に携わる従業員、経営者に対する租税の取り扱いが理解できるようになる。　(A-2)

2.従業員を指導、管理するときに役立つ租税の知識をえることができるようになる。　(A-2)

3.企業の財務活動に影響を与える従業員等に支払う給与、其れにかかわる源泉税等の支払い、交際費等の税務処理を理解できるようになる。　(A-3)

4.所得税や相続税の知識は、組織の人々が最も関心があるものであり、その知識、考え方を通じてコミュニケーション能力を高めることができるようになる。　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3,B-3

1.所得税及び相続税の知識を通じて、企業活動に携わる従業員、経営者に対する租税の取り扱いが理解できるようになる。　(A-2)

2.従業員を指導、管理するときに役立つ租税の知識をえることができるようになる。　(A-2)

3.企業の財務活動に影響を与える従業員等に支払う給与、其れにかかわる源泉税等の支払い、交際費等の税務処理を理解できるようになる。　(A-3)

4.所得税や相続税の知識は、組織の人々が最も関心があるものであり、その知識、考え方を通じてコミュニケーション能力を高めることができるようになる。　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

税と生活

山内　進

2019-4020000606-01

◎貿易:A-2,A-3,B-3

1.所得税及び相続税の知識を通じて、企業活動に携わる従業員、経営者に対する租税の取り扱いが理解できるようになる。　(A-2)

2.従業員を指導、管理するときに役立つ租税の知識をえることができるようになる。　(A-2)

3.企業の財務活動に影響を与える従業員等に支払う給与、其れにかかわる源泉税等の支払い、交際費等の税務処理を理解できるようになる。　(A-3)

4.所得税や相続税の知識は、組織の人々が最も関心があるものであり、その知識、考え方を通じてコミュニケーション能力を高めることができるようになる。　(B-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

税務会計論

2019-4020000607-01

山内　進

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：2020/01/22　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の進め方は、法人税及び消費税の税金計算について、まず条文を理解し、その後、具体的な計算例を解きながら解説していきます。
企業にとっては税務上、交際費はいくらまで認められるのでしょうか。税務上、役員給与もいくらまで認められるのでしょうか。多くの税金問題が考えられます。このように法人に関する税を計算するのが法人税です。また世界の税制と比較し、わが国の税制との相違点についても説明します。
一方、消費税は私達の生活のみならず、企業においても欠かせない税金です。どういうものに消費税がかかるのか。消費税がかからないものには、どのようなものがあるのか。輸入品の消費税は、どうなのか。このように消費税についても学習します。以上のように「税務会計論」では法人税と消費税の計算について学習します。
以前、税理士として会計事務所に勤務していた経験を活かし、税金に関する興味深い事例を沢山皆さんに伝授します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

法人税、消費税は、企業活動の結果生ずるものであり、その結果は企業活動を推測できるようになる。(知識・理解)

法人税の支払い、消費税の支払いは企業活動のキャッシュフローに直接影響する。とくに国際課税、組織再編税制等の税金管理が理解できるようになる。(知識・理解)

財務活動に重大な影響を齎す法人税、消費税の知識や考え方が身に付くようになる。(知識・理解)

法人税等の知識は、合併、分割、国際進出にとって重要であり、戦略上その税務対策を、企業の財務部門が協力して取り組まなければならない。そのためコミュニケーション能力が身に付くようになる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習としてテキストの要点は読んできてほしい。ただし復習の方が重要で、計算問題を解き、条文の理解を深めて欲しいと思います。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

試験結果（70%）、積極的な授業への貢献度(質問及び発言等)と宿題の提出（30%）を加味しながら総合的に判断します。法人税と消費税計算の仕組みが理解できているかを評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

以下の２冊のテキストを使用して、授業を進行します。
山内ススム『法人税法要説』税務経理協会、改訂版作成中
山内ススム『消費税法要説』税務経理協会、5,200円、ISBN978-4-419-06489-1

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　消費税計算の仕組と概要
２　仕入に係る消費税
３　仕入に係る消費税の調整
４　消費税の納税免除と簡易課税制度
５　法人税の所得金額の計算の仕組み
　（別表四の仕組み）
６　法人税の税額計算の仕組み
　（別表一の仕組み）
７　損金の額の計算
　(1)租税公課
８　(2)交際費の取り扱いはどうなるか
９　(3)寄付をしたケース
１０　(4)貸倒損失・貸倒引当金の計算
１１　(5)役員給与を支払ったケース
１２　(6)減価償却（期中取得・中古資産）
１３　益金の額の計算
　（受取配当金はどのように扱うか）
１４　圧縮記帳
１５　法人税額の計算

税務会計論

2019-4020000607-01

山内　進

◎経営:A-2,A-3,B-3

1.　法人税、消費税は、企業活動の結果生ずるものであり、その結果は企業活動を推測できるようになる。　(A-2)

2.　法人税の支払い、消費税の支払いは企業活動のキャッシュフローに直接影響する。とくに国際課税、組織再編税制等の税金管理が理解できるようになる。　(A-3)

3.　財務活動に重大な影響を齎す法人税、消費税の知識や考え方が身に付くようになる。　(A-3)

4.　法人税等の知識は、合併、分割、国際進出にとって重要であり、戦略上その税務対策を、企業の財務部門が協力して取り組まなければならない。そのためコミュニケーション能力が身に付くようになる。　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3,B-3

1.　法人税、消費税は、企業活動の結果生ずるものであり、その結果は企業活動を推測できるようになる。　(A-2)

2.　法人税の支払い、消費税の支払いは企業活動のキャッシュフローに直接影響する。とくに国際課税、組織再編税制等の税金管理が理解できるようになる。　(A-3)

3.　財務活動に重大な影響を齎す法人税、消費税の知識や考え方が身に付くようになる。　(A-3)

4.　法人税等の知識は、合併、分割、国際進出にとって重要であり、戦略上その税務対策を、企業の財務部門が協力して取り組まなければならない。そのためコミュニケーション能力が身に付くようになる。　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

税務会計論

2019-4020000607-01

山内　進

◎貿易:A-2,A-3,B-3

1.　法人税、消費税は、企業活動の結果生ずるものであり、その結果は企業活動を推測できるようになる。　(A-2)

2.　法人税の支払い、消費税の支払いは企業活動のキャッシュフローに直接影響する。とくに国際課税、組織再編税制等の税金管理が理解できるようになる。　(A-3)

3.　財務活動に重大な影響を齎す法人税、消費税の知識や考え方が身に付くようになる。　(A-3)

4.　法人税等の知識は、合併、分割、国際進出にとって重要であり、戦略上その税務対策を、企業の財務部門が協力して取り組まなければならない。そのためコミュニケーション能力が身に付くようになる。　(B-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-3

1.　法人税、消費税は、企業活動の結果生ずるものであり、その結果は企業活動を推測できるようになる。　(A-2)

2.　法人税の支払い、消費税の支払いは企業活動のキャッシュフローに直接影響する。とくに国際課税、組織再編税制等の税金管理が理解できるようになる。　(A-3)

3.　財務活動に重大な影響を齎す法人税、消費税の知識や考え方が身に付くようになる。　(A-3)

4.　法人税等の知識は、合併、分割、国際進出にとって重要であり、戦略上その税務対策を、企業の財務部門が協力して取り組まなければならない。そのためコミュニケーション能力が身に付くようになる。　(B-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

税務会計論Ⅰ

2019-4020000415-01

山内　進

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　　試験時間割：2019/07/27　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

われわれが生きている限り、税金問題も避けては通れないと言えるでしょう。具体的に言うならば、皆さんのアルバイトはいくらまでなら、税金がかからないのでしょうか。家を売りたいが、いつどのようにすれば、節税ができるのでしょうか。医療費がたくさんかかったが、サラリーマンが税金を戻してもらうにはどのようにしたら良いのでしょうか。

このように、われわれの生活に密着した税が所得税です。授業の進め方は、われわれの馴染みが深い給与所得や退職所得から入り、最終的には１０種類の所得を全て学習します。

また相続税も学習します。ご両親が亡くなった場合やご主人が亡くなった場合、相続人である皆さんには相続税がいくらかかると思いますか。奥様はいくらまでなら相続税がかからないのでしょうか。相続に関する税金を計算するのが相続税です。このように「税務会計論Ⅰ」では私達の生活に密着した所得税と相続税について学習します。

以前、税理士として会計事務所に勤務していた経験を活かし、税金に関する興味深い事例を沢山皆さんに伝授します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

所得税及び相続税の知識を通じて、企業活動に携わる従業員、経営者に対する租税の取り扱いが理解できるようになる。(知識・理解)

従業員を指導、管理するときに役立つ租税の知識をえることができるようになる。(知識・理解)

企業の財務活動に影響を与える従業員等に支払う給与、其れにかかわる源泉税等の支払い、交際費等の税務処理を理解できるようになる。(知識・理解)

所得税や相続税の知識は、組織の人々が最も関心があるものであり、その知識、考え方を通じてコミュニケーション能力を高めることができるようになる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、テキストのポイント、内容等を読んでほしい。ただ事後復習の方が重要で、テキストの計算問題を解いてくることが望まれます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

試験結果（70%）、積極的な授業への貢献度(質問及び発言等)と宿題の提出（30%）を加味しながら総合的に判断します。所得税と相続税計算の仕組みが理解できているかを評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

以下を使用して、授業を進行する。
山内ススム『所得税法要説』税務経理協会、6,200円、ISBN978-4-419-06357-3
山内ススム『相続税法要説』税務経理協会、4，400円、ISBN978-4-419-06454-9

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　所得税計算の仕組みと税金一般
２　サラリーマンと税金及びサラリーマンの税金対策（給与所得）
３　所得控除の説明
４　給与所得者の還付申告書作成（医療費控除ないしは住宅を取得したケース）
５　各種所得金額の計算Ⅰ（利子所得、配当所得・配当金を得たケース、退職所得・退職金をもらったケース）
６　各種所得金額の計算Ⅱ（不動産所得・家を人に貸した場合のケース、山林所得）
７　各種所得金額の計算Ⅲ（事業所得・自分でビジネスを開業したケース）
８　各種所得金額の計算Ⅳ（譲渡所得・土地や建物を売却したケース）
９　各種所得金額の計算Ⅴ（雑所得・原稿収入を得た場合）
１０　税額計算の仕組み
１１　青色申告制度－所得税の申告
１２　相続税の仕組みと財産評価
１３　課税価格の計算
１４　相続税の総額と算出税額の計算
１５　相続税の計算

税務会計論Ⅰ

2019-4020000415-01

山内　進

◎経営

1.所得税及び相続税の知識を通じて、企業活動に携わる従業員、経営者に対する租税の取り扱いが理解できるようになる。　(A-2)

2.従業員を指導、管理するときに役立つ租税の知識をえることができるようになる。　(A-2)

3.企業の財務活動に影響を与える従業員等に支払う給与、其れにかかわる源泉税等の支払い、交際費等の税務処理を理解できるようになる。　(A-3)

4.所得税や相続税の知識は、組織の人々が最も関心があるものであり、その知識、考え方を通じてコミュニケーション能力を高めることができるようになる。　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

税務会計論Ⅱ

2019-4020000416-01

山内　進

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：2020/01/22　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の進め方は、法人税及び消費税の税金計算について、まず条文を理解し、その後、具体的な計算例を解きながら解説していきます。
企業にとっては税務上、交際費はいくらまで認められるのでしょうか。税務上、役員給与もいくらまで認められるのでしょうか。多くの税金問題が考えられます。このように法人に関する税を計算するのが法人税です。また世界の税制と比較し、わが国の税制との相違点についても説明します。
一方、消費税は私達の生活のみならず、企業においても欠かせない税金です。どういうものに消費税がかかるのか。消費税がかからないものには、どのようなものがあるのか。輸入品の消費税は、どうなのか。このように消費税についても学習します。以上のように「税務会計論Ⅱ」では法人税と消費税の計算について学習します。以前、税理士として会計事務所に勤務していた経験を活かし、税金に関する興味深い事例を沢山皆さんに伝授します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

法人税、消費税は、企業活動の結果生ずるものであり、その結果は企業活動を推測できるようになる。(知識・理解)

法人税の支払い、消費税の支払いは企業活動のキャッシュフローに直接影響する。とくに国際課税、組織再編税制等の税金管理が理解できるようになる。(知識・理解)

財務活動に重大な影響を齎す法人税、消費税の知識や考え方が身に付くようになる。(知識・理解)

法人税等の知識は、合併、分割、国際進出にとって重要であり、戦略上その税務対策を、企業の財務部門が協力して取り組まなければならない。そのためコミュニケーション能力が身に付くようになる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習としてテキストの要点は読んできてほしい。ただし復習の方が重要で、計算問題を解き、条文の理解を深めて欲しいと思います。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

試験結果（70%）、積極的な授業への貢献度(質問及び発言等)と宿題の提出（30%）を加味しながら総合的に判断します。法人税と消費税計算の仕組みが理解できているかを評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

以下の２冊のテキストを使用して、授業を進行します。
山内ススム『法人税法要説』税務経理協会、改訂版作成中
山内ススム『消費税法要説』税務経理協会、5,200円、ISBN978-4-419-06489-1

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　消費税計算の仕組と概要
２　仕入に係る消費税
３　仕入に係る消費税の調整
４　消費税の納税免除と簡易課税制度
５　法人税の所得金額の計算の仕組み
　（別表四の仕組み）
６　法人税の税額計算の仕組み
　（別表一の仕組み）
７　損金の額の計算
　(1)租税公課
８　(2)交際費の取り扱いはどうなるか
９　(3)寄付をしたケース
１０　(4)貸倒損失・貸倒引当金の計算
１１　(5)役員給与を支払ったケース
１２　(6)減価償却（期中取得・中古資産）
１３　益金の額の計算
　（受取配当金はどのように扱うか）
１４　圧縮記帳
１５　法人税額の計算

税務会計論Ⅱ

2019-4020000416-01

山内　進

◎経営

1.　法人税、消費税は、企業活動の結果生ずるものであり、その結果は企業活動を推測できるようになる。　(A-2)

2.　法人税の支払い、消費税の支払いは企業活動のキャッシュフローに直接影響する。とくに国際課税、組織再編税制等の税金管理が理解できるようになる。　(A-3)

3.　財務活動に重大な影響を齎す法人税、消費税の知識や考え方が身に付くようになる。　(A-3)

4.　法人税等の知識は、合併、分割、国際進出にとって重要であり、戦略上その税務対策を、企業の財務部門が協力して取り組まなければならない。そのためコミュニケーション能力が身に付くようになる。　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

中小企業概論「（16台以前）」

2019-4020000110-01

川上　義明

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・４時限　　試験時間割：2019/07/29　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

今日、経済・産業において支配的な地位を占めているのはまぎれもなく大企業であろう。中小企業は、大企業の補完的分野やその他、経済の再生産過程において主要な部分から外れたところで存立している。とはいえ、中小企業が重要ではないということではない。その逆である。大企業がその機能を果たしていないか、ないしは果たし得ない分野で重要な機能を果たしているのが中小企業なのである。
中小企業はまぎれもなく社会の発展を支えている。しかしながら絶えず変動する社会的・経済的状況のもとで、中小企業が抱える問題も少なくはない。
この授業（講義）では、中小企業が生産・流通・サービスにおいて果たす役割や、また人々にとって働く場（雇用）を提供する役割を理解し、最後に中小企業が抱える問題の背景や意味を考える。
この授業（講義）は普通の講義形式をとるが、受講生諸君の理解度をみながら進められていく。したがって、授業計画のとおりには進んでいかないこともあり得るし、また補足する部分も少なくないであろう。受講生は、授業（講義）にはよく出席すること。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学および経営学について基本的な知識を身につけている。A-1(知識・理解)

経営学に関する専門的知識を用いて中小企業の現状を説明することができる。A-2(知識・理解)

経営学に関する専門的知識を用いて中小企業が抱える問題を説明することができる。A-3(知識・理解)

経営学の専門的知識および理論を用いて中小企業の組織上の問題を発見することができる。B-1(技能)

経営学の専門的知識および理論を用いて中小企業の組織上の問題に対する解決策を提案することができる。B-2(技能)

中小企業が抱える問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。C-1(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストに沿って、予め次回の内容の予告をするので予習しておくこと（60分）。
ポイントになるところは指摘するけれども、テキスト、ノート、プリント等をよく見て復習も怠らないこと（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験によって評価する（80点）。定期試験では、基本的な事項が正確に理解されているかどうかが評価の基準にする。
最も基本的な事項がどの程度理解されているか、授業中に数回ミニテストを実施し、その結果を点数化し、平常点として評価する（20点）。

◎－－－　テキスト　－－－◎

川上義明『ベイシック中小企業論』花書院、ISBN978-4-903554-07-5

◎－－－　参考書　－－－◎

川上義明『現代日本の中小企業―構造とビヘイビア―』税務経理協会　ISBN 4-419-01935-2
渡辺幸男・小川正博他『21世紀中小企業論』（第3版）有斐閣　ISBN 4-641-22009-6
額田春華・山本聡編著『中小企業の国際化戦略』同友館　ISBN 4-496-0485
なお、その他の参考文献等については講義の都度、紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

この授業を受けるに当たって、とくに前提となる知識・能力は必要としない。なお、授業中の私語は厳に慎むこと。よほどの事由がない限り、遅刻や途中退室には厳正に対処する。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１ この授業（講義）のねらい
２ 現代社会と企業：われわれと企業との関わり
３ 現代社会と中小企業：われわれと中小企業との関わり
４ 地域と中小企業
５ 企業・中小企業のポジティブな側面、ネガティブな側面
６ 中小企業論の研究対象と研究方法
７ 中小企業概念の成立と普及
８ 日本における中小企業の規定
９ 各国における中小企業の規定
１０ 中小企業論の研究分野と存立形態
１１ 企業の規模別規定
１２ 中堅企業
１３ 中小企業とニッチ市場
１４ 日本の中小企業政策
１５ この授業（講義）のまとめ

中小企業概論「（16台以前）」

2019-4020000110-01

川上　義明

◎経営

1.商学および経営学について基本的な知識を身につけている。A-1　(A-1)

2.経営学に関する専門的知識を用いて中小企業の現状を説明することができる。A-2　(A-2)

3.経営学に関する専門的知識を用いて中小企業が抱える問題を説明することができる。A-3　(A-3)

4.経営学の専門的知識および理論を用いて中小企業の組織上の問題を発見することができる。B-1　(B-1)

5.経営学の専門的知識および理論を用いて中小企業の組織上の問題に対する解決策を提案することができる。B-2　(B-2)

6.中小企業が抱える問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。C-1　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

中小企業経営論

2019-4020000111-01

川上　義明

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・４時限　　試験時間割：2020/01/23　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

今日、経済・産業において支配的な地位を占めているのはまぎれもなく大企業であろう。中小企業は、大企業の補完的分野やその他、経済の再生産過程において主要な部分から外れたところで存立している。とはいえ、中小企業が重要ではないということではない。その逆である。大企業がその機能を果たしていないか、ないしは果たし得ない分野で重要な機能を果たしているのが中小企業なのである。
この授業（講義）では、中小企業が生産・流通・サービスにおいて果たす役割やまた人々にとっての働く場（雇用）を提供する役割を理解し、もう一面では中小企業が抱えるマネジメント上の問題の背景や意味を考える。
この授業（講義）は普通の講義形式をとるが、受講生諸君の理解度をみながら進められていく。したがって、授業計画のとおりには進んでいかないこともあり得るし、また補足する部分も少なくないであろう。受講生は、授業（講義）にはよく出席し、こまめにノートをとること。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。A-1(知識・理解)

商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内の経済社会状況、国際的な経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業の経営管理の現状を説明することができるようになる。A-2(知識・理解)

商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内の経済社会状況、国際的な経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業経営管理において、また地域との関連で、取り組むべき課題を理解し、説明することができる。A-3(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストに沿って、予め次回の内容の予告をするので予習しておくこと(60分)。
ポイントになるところは指摘するので、テキスト、ノート、プリント等を見て復習も怠らないこと（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験によって評価する（80点）。定期試験では、基本的な事項が正確に理解されているかどうかが評価の基準にする。
最も基本的な事項がどの程度理解されているか、授業中に数回ミニテストを実施し、その結果を点数化し、平常点として評価する（20点）。

◎－－－　テキスト　－－－◎

川上義明著『中小企業経営研究のフロンティア』梓書院、ISBN978-4-87035-584-2

◎－－－　参考書　－－－◎

川上義明『現代日本の中小企業―構造とビヘイビア―』税務経理協会　ISBN 4-419-01935-2
渡辺幸男・小川正博『21世紀中小企業論』（第3版）有斐閣　ISBN 4-641-22009-6
額田春華・山本聡編著『中小企業の国際化』同友館　ISBN 4-496-04857-9
なお、その他の参考文献等については講義の都度、紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

この授業（講義）を受けるに当たってとくに前提となる知識・能力は必要としないが、経営学・マネジメントに関連する知識があれば、より理解は深まるであろう。なお、受講生は、授業中の私語は厳に慎むこと。また、よほどの事由がない限り、遅刻や途中退室には厳正に対処する。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１ 本授業（講義）のねらい
２ 中小企業経営論――その対象と方法
３ 特殊経営学としての中小企業経営論
４ 企業活動
５ 経営理念、経営ビジョン、経営計画
６ 中小企業における研究開発
７ 中小企業におけるコーポレート・ガバナンス
８ 中小企業の存立条件
９ 中小企業の存立形態
１０ 下請中小企業のマネジメント
１１ ベンチャー企業とそのマネジメント
１２ 中小企業の海外展開
１３ 中小企業の海外展開からの撤退
１４ 経済の内なる国際化・グローバル化と中小企業
１５ 本授業（講義）のまとめ

中小企業経営論

2019-4020000111-01

川上　義明

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。A-1　(A-1)

2.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内の経済社会状況、国際的な経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業の経営管理の現状を説明することができるようになる。A-2　(A-2)

3.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内の経済社会状況、国際的な経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業経営管理において、また地域との関連で、取り組むべき課題を理解し、説明することができる。A-3　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。A-1　(A-1)

2.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内の経済社会状況、国際的な経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業の経営管理の現状を説明することができるようになる。A-2　(A-2)

3.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内の経済社会状況、国際的な経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業経営管理において、また地域との関連で、取り組むべき課題を理解し、説明することができる。A-3　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

中小企業経営論

2019-4020000111-01

川上　義明

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。A-1　(A-1)

2.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内の経済社会状況、国際的な経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業の経営管理の現状を説明することができるようになる。A-2　(A-2)

3.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内の経済社会状況、国際的な経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業経営管理において、また地域との関連で、取り組むべき課題を理解し、説明することができる。A-3　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

2019-4020000604-01

川上　義明

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・４時限　　試験時間割：2019/07/29　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

今日、経済・産業において支配的な地位を占めているのはまぎれもなく大企業であろう。中小企業は、大企業の補完的分野やその他、経済の再生産過程において主要な部分から外れたところで存立している。とはいえ、中小企業が重要ではないということではない。その逆である。大企業がその機能を果たしていないか、ないしは果たし得ない分野で重要な機能を果たしているのが中小企業なのである。
中小企業はまぎれもなく社会の発展を支えている。しかしながら絶えず変動する社会的・経済的状況のもとで、中小企業が抱える問題も少なくはない。
この授業（講義）では、中小企業が生産・流通・サービスにおいて果たす役割や、また人々にとって働く場（雇用）を提供する役割を理解し、最後に中小企業が抱える問題の背景や意味を考える。
この授業（講義）は普通の講義形式をとるが、受講生諸君の理解度をみながら進められていく。したがって、授業計画のとおりには進んでいかないこともあり得るし、また補足する部分も少なくないであろう。受講生は、授業（講義）にはよく出席すること。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業経営・各種管理の現状を説明することができるようになる。A-2(知識・理解)

商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での、国内外の経済社会状況を把握し、中小企業経営・各種管理において、また地域との関連で、取り組むべき課題を理解し、説明することができる。A-3(知識・理解)

商学・経営学・会計学を応用して、先入観にとらわれずに、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況を把握し、中小企業が取り組むべき地域や国際経済に関する課題や組織上の問題を自ら発見することができる。B-1(技能)

商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況を把握し、中小企業が取り組むべき地域や国際経済に関する課題や組織上の課題を自ら提案しあるいは解決プロジェクトを自ら企画、立案することができる。B-2(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストに沿って、予め次回の内容の予告をするので予習しておくこと（60分）。
ポイントになるところは指摘するけれども、テキスト、ノート、プリント等をよく見て復習も怠らないこと（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験によって評価する（80点）。定期試験では、基本的な事項が正確に理解されているかどうかが評価の基準にする。
最も基本的な事項がどの程度理解されているか、授業中に数回ミニテストを実施し、その結果を点数化し、平常点として評価する（20点）。

◎－－－　テキスト　－－－◎

川上義明『ベイシック中小企業論』花書院、
ISBN978-4-903554-07-5

◎－－－　参考書　－－－◎

川上義明『現代日本の中小企業―構造とビヘイビア―』税務経理協会　ISBN 4-419-01935-2
渡辺幸男・小川正博他『21世紀中小企業論』（第3版）有斐閣　ISBN 4-641-22009-6
額田春華・山本聡編著『中小企業の国際化戦略』同友館　ISBN 4-496-0485
なお、その他の参考文献等については講義の都度、紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

この授業を受けるに当たって、とくに前提となる知識・能力は必要としない。なお、授業中の私語は厳に慎むこと。よほどの事由がない限り、遅刻や途中退室には厳正に対処する。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１ この授業（講義）のねらい
２ 現代社会と企業：われわれと企業との関わり
３ 現代社会と中小企業：われわれと中小企業との関わり
４ 地域と中小企業
５ 企業・中小企業のポジティブな側面、ネガティブな側面
６ 中小企業論の研究対象と研究方法
７ 中小企業概念の成立と普及
８ 日本における中小企業の規定
９ 各国における中小企業の規定
１０ 中小企業論の研究分野と存立形態
１１ 企業の規模別規定
１２ 中堅企業
１３ 中小企業とニッチ市場
１４ 日本の中小企業政策
１５ この授業（講義）のまとめ

中小企業論「（18・17台）」

2019-4020000604-01

川上　義明

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2

1.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業経営・各種管理の現状を説明することができるようになる。A-2　(A-2)

2.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での、国内外の経済社会状況を把握し、中小企業経営・各種管理において、また地域との関連で、取り組むべき課題を理解し、説明することができる。A-3　(A-3)

3.商学・経営学・会計学を応用して、先入観にとらわれずに、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況を把握し、中小企業が取り組むべき地域や国際経済に関する課題や組織上の問題を自ら発見することができる。B-1　(B-1)

4.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況を把握し、中小企業が取り組むべき地域や国際経済に関する課題や組織上の課題を自ら提案しあるいは解決プロジェクトを自ら企画、立案することができる。B-2　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2

1.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業経営・各種管理の現状を説明することができるようになる。A-2　(A-2)

2.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での、国内外の経済社会状況を把握し、中小企業経営・各種管理において、また地域との関連で、取り組むべき課題を理解し、説明することができる。A-3　(A-3)

3.商学・経営学・会計学を応用して、先入観にとらわれずに、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況を把握し、中小企業が取り組むべき地域や国際経済に関する課題や組織上の問題を自ら発見することができる。B-1　(B-1)

4.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況を把握し、中小企業が取り組むべき地域や国際経済に関する課題や組織上の課題を自ら提案しあるいは解決プロジェクトを自ら企画、立案することができる。B-2　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

中小企業論「（18・17台）」

2019-4020000604-01

川上　義明

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2

1.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況（国内外の環境与件）を把握し、中小企業経営・各種管理の現状を説明することができるようになる。A-2　(A-2)

2.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での、国内外の経済社会状況を把握し、中小企業経営・各種管理において、また地域との関連で、取り組むべき課題を理解し、説明することができる。A-3　(A-3)

3.商学・経営学・会計学を応用して、先入観にとらわれずに、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況を把握し、中小企業が取り組むべき地域や国際経済に関する課題や組織上の問題を自ら発見することができる。B-1　(B-1)

4.商学・経営学・会計学を応用して、グローバル化が進んでいる中での国内外の経済社会状況を把握し、中小企業が取り組むべき地域や国際経済に関する課題や組織上の課題を自ら提案しあるいは解決プロジェクトを自ら企画、立案することができる。B-2　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

２年基礎ゼミナール「CA」

2019-4020000251-01

井上　修

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

M&A の急速な増加によって、上場企業のみならず非上場企業でも企業価値を把握する必要が出てきている。本ゼミナールでは、企業価値を評価する基本的な枠組みを修得することを目的とし、企業評価手法を理論的・実践的に修得する。

まず、株式による資金調達と負債による資金調達の選択について議論し、ファイナンスの基本的な理論を整理する。それを踏まえ、企業の最適資本構成について、MM理論における資本コストの概念を使って説明するとともに、税金や倒産コストがある場合にはそれがどのように修正されるかを理解する。また経営者と投資家の間に情報の非対称性やエイジェンシー問題があるとき、資本構成がどのような意味を持つのかについて議論する。

次に、市場モデルの考え方に依拠して、ベータの推定を実際の企業データ及び株価データを用いて行う。その推定値を踏まえて、企業ごとの資本コストを推定する。そして、企業の将来キャッシュフローの予測を行うための基本的な手法を解説し、各時の合理的で説明可能なシナリオに基づいて、将来キャッシュフロー予測を行う。最終的には、評価した企業価値と実際の株価との差について議論し、レポートとして提出してもらう。

また，本ゼミナールを担当する教員は監査を独占業務とする公認会計士であり，監査実務に従事してきた者である。そのため，本ゼミナールはその監査実務経験を活かして，監査現場において具体的にどのような課題が存在しているのかについて実践的にディスカッションをしていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計学及び関連するファイナンス理論の基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値の推定をすることができる。(知識・理解)

会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値及び経営課題を説明することができる。(知識・理解)

会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。(技能)

会計学及び関連するファイナンス理論の専門的知識および理論を用いて企業の経営課題を発見し，数値を用いて解決策を提案することができる。(技能)

組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。(技能)

問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。(技能)

常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。(態度・志向性)

組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。(態度・志向性)

問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・指定された資料を読み込み、自分の言葉で説明できるようにすること。
・参考書における説明を拠り所にして、効率よく資料を作成すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価方法および割合
・講義内レポート（50%）および報告（50%）による平常点評価を行う。
成績評価基準
・ファイナンス理論の基本的な知識を習得すること。
・資本コストの推定について、データベースや統計ソフトを利用して行えること。
・理論的な枠組みに基づいて企業価値を評価できること。
・プレゼンテーション能力を身に付け、聞く相手の理解を促すことができること。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特になし。

◎－－－　参考書　－－－◎

伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞出版社
ISBN 978-4-5321-3450-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ディスカッション形式の場合は、積極的な意見を述べることに注力すること。また、相手の意見を促すようなファシリテート力も評価の対象となる。

発表形式の場合は、わかりやすいプレゼン資料の作成と発表を意識すること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション
2～6.資金調達の選択と資本コストに関する演習
7～10.市場ベータの推定と資本コストの算定
11～13.企業価値評価
14.レポート発表
15.レポート発表・提出

２年基礎ゼミナール「CA」

2019-4020000251-01

井上　修

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.会計学及び関連するファイナンス理論の基本的な知識を身につけている。 (A-1)

2.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値の推定をすることができる。 (A-1)

3.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値及び経営課題を説明することができる。 (A-1)

4.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。 (B-1)

5.会計学及び関連するファイナンス理論の専門的知識および理論を用いて企業の経営課題を発見し，数値を用いて解決策を提案することができる。 (B-1)

6.組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。 (B-1)

7.問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。 (B-1)

8.常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。 (C-2)

9.組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。 (C-2)

10.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。 (C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.会計学及び関連するファイナンス理論の基本的な知識を身につけている。 (A-1)

2.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値の推定をすることができる。 (A-1)

3.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値及び経営課題を説明することができる。 (A-1)

4.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。 (B-1)

5.会計学及び関連するファイナンス理論の専門的知識および理論を用いて企業の経営課題を発見し，数値を用いて解決策を提案することができる。 (B-1)

6.組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。 (B-1)

7.問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。 (B-1)

8.常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。 (C-2)

9.組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。 (C-2)

10.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。 (C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

２年基礎ゼミナール「CA」

2019-4020000251-01

井上　修

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.会計学及び関連するファイナンス理論の基本的な知識を身につけている。 (A-1)

2.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値の推定をすることができる。 (A-1)

3.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値及び経営課題を説明することができる。 (A-1)

4.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。 (B-1)

5.会計学及び関連するファイナンス理論の専門的知識および理論を用いて企業の経営課題を発見し，数値を用いて解決策を提案することができる。 (B-1)

6.組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。 (B-1)

7.問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。 (B-1)

8.常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。 (C-2)

9.組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。 (C-2)

10.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。 (C-2)

◎ 国際貿易　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ 【知識・理解】

A-1 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4 経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ 【技能】

B-1 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3 国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4 異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5 グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ 【態度・志向性】

C-1 国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2 国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3 国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4 国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.会計学及び関連するファイナンス理論の基本的な知識を身につけている。 (A-1)

2.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値の推定をすることができる。 (A-1)

3.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値及び経営課題を説明することができる。 (A-1)

4.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。 (B-1)

5.会計学及び関連するファイナンス理論の専門的知識および理論を用いて企業の経営課題を発見し，数値を用いて解決策を提案することができる。 (B-1)

6.組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。 (B-1)

7.問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。 (B-1)

8.常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。 (C-2)

9.組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。 (C-2)

10.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。 (C-2)

◎ 商学（第二部）　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ 【知識・理解】

A-1 流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2 商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3 商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ 【技能】

B-1 商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2 商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3 協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4 企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ 【態度・志向性】

C-1 企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2 常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3 企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年基礎ゼミナール「CA」

2019-4020000251-02

井上　修

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

M&A の急速な増加によって、上場企業のみならず非上場企業でも企業価値を把握する必要が出てきている。本ゼミナールでは、企業価値を評価する基本的な枠組みを修得することを目的とし、企業評価手法を理論的・実践的に修得する。

まず、株式による資金調達と負債による資金調達の選択について議論し、ファイナンスの基本的な理論を整理する。それを踏まえ、企業の最適資本構成について、MM理論における資本コストの概念を使って説明するとともに、税金や倒産コストがある場合にはそれがどのように修正されるかを理解する。また経営者と投資家の間に情報の非対称性やエイジェンシー問題があるとき、資本構成がどのような意味を持つのかについて議論する。

次に、市場モデルの考え方に依拠して、ベータの推定を実際の企業データ及び株価データを用いて行う。その推定値を踏まえて、企業ごとの資本コストを推定する。そして、企業の将来キャッシュフローの予測を行うための基本的な手法を解説し、各時の合理的で説明可能なシナリオに基づいて、将来キャッシュフロー予測を行う。最終的には、評価した企業価値と実際の株価との差について議論し、レポートとして提出してもらう。

また，本ゼミナールを担当する教員は監査を独占業務とする公認会計士であり，監査実務に従事してきた者である。そのため，本ゼミナールはその監査実務経験を活かして，監査現場において具体的にどのような課題が存在しているのかについて実践的にディスカッションをしていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計学及び関連するファイナンス理論の基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値の推定をすることができる。(知識・理解)

会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値及び経営課題を説明することができる。(知識・理解)

会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。(知識・理解)

会計学及び関連するファイナンス理論の専門的知識および理論を用いて企業の経営課題を発見し，数値を用いて解決策を提案することができる。(技能)

組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。(技能)

問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。(技能)

常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。(態度・志向性)

組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。(態度・志向性)

問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・指定された資料を読み込み、自分の言葉で説明できるようにすること。
・参考書における説明を拠り所にして、効率よく資料を作成すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価方法および割合
・講義内レポート（50%）および報告（50%）による平常点評価を行う。
成績評価基準
・ファイナンス理論の基本的な知識を習得すること。
・資本コストの推定について、データベースや統計ソフトを利用して行えること。
・理論的な枠組みに基づいて企業価値を評価できること。
・プレゼンテーション能力を身に付け、聞く相手の理解を促すことができること。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特になし。

◎－－－　参考書　－－－◎

伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞出版社
ISBN 978-4-5321-3450-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ディスカッション形式の場合は、積極的な意見を述べることに注力すること。また、相手の意見を促すようなファシリテート力も評価の対象となる。

発表形式の場合は、わかりやすいプレゼン資料の作成と発表を意識すること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション
2～6.資金調達の選択と資本コストに関する演習
7～10.市場ベータの推定と資本コストの算定
11～13.企業価値評価
14.レポート発表
15.レポート発表・提出

２年基礎ゼミナール「CA」

2019-4020000251-02

井上　修

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.
会計学及び関連するファイナンス理論の基本的な知識を身につけている。
(A-1)

2.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値の推定をすることができる。　(A-1)

3.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値及び経営課題を説明することができる。　(A-1)

4.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。　(A-1)

5.会計学及び関連するファイナンス理論の専門的知識および理論を用いて企業の経営課題を発見し，数値を用いて解決策を提案することができる。　(B-1)

6.組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。　(B-1)

7.問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。　(B-1)

8.常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。　(C-2)

9.組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。　(C-2)

10.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.
会計学及び関連するファイナンス理論の基本的な知識を身につけている。
(A-1)

2.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値の推定をすることができる。　(A-1)

3.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値及び経営課題を説明することができる。　(A-1)

4.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。　(A-1)

5.会計学及び関連するファイナンス理論の専門的知識および理論を用いて企業の経営課題を発見し，数値を用いて解決策を提案することができる。　(B-1)

6.組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。　(B-1)

7.問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。　(B-1)

8.常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。　(C-2)

9.組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。　(C-2)

10.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

２年基礎ゼミナール「CA」

2019-4020000251-02

井上　修

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.
会計学及び関連するファイナンス理論の基本的な知識を身につけている。
(A-1)

2.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値の推定をすることができる。　(A-1)

3.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値及び経営課題を説明することができる。　(A-1)

4.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。　(A-1)

5.会計学及び関連するファイナンス理論の専門的知識および理論を用いて企業の経営課題を発見し，数値を用いて解決策を提案することができる。　(B-1)

6.組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。　(B-1)

7.問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。　(B-1)

8.常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。　(C-2)

9.組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。　(C-2)

10.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.
会計学及び関連するファイナンス理論の基本的な知識を身につけている。
(A-1)

2.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値の推定をすることができる。　(A-1)

3.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業価値及び経営課題を説明することができる。　(A-1)

4.会計学及び関連するファイナンス理論の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。　(A-1)

5.会計学及び関連するファイナンス理論の専門的知識および理論を用いて企業の経営課題を発見し，数値を用いて解決策を提案することができる。　(B-1)

6.組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。　(B-1)

7.問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。　(B-1)

8.常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。　(C-2)

9.組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。　(C-2)

10.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年基礎ゼミナール「CMP」

2019-4020000251-03

和田　剛明

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールは、ビジネスの基礎となる、顧客に求められる商品を開発するスキル、および必要な作業を見積り、スケジュールの管理をするスキルを修得することを目指す。このために、アナログゲーム（ボードゲームやカードゲーム）を制作することで、商品開発のプロセスを実体験する。
具体的には、(1)まず、どのような価値（ゲームにおいては「面白さ」）が消費者に求められているのかを分析し、(2)続いて、タスク（作業）を期日内に完了させるためにはどうするか、商品の企画をどのようにつくるかについて学び、(3)その上で、実際にアナログゲームを制作し、これを他の学生に試遊・評価してもらい、意見をもとに修正を加え完成させるプロセスを体験する演習を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商品開発のプロセスについて、基礎的な知識を修得している。(知識・理解)

商品開発プロジェクトにおける課題、進捗中に発生する障害について指摘することができる。(技能)

本講義で修得した知識をもとに、自分が実際の製品開発プロジェクトに関与したときにどのように進めるかを考えるようになっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

以下に、一週間の授業時間外の学習時間を示す。

第01回～第06回
・講義内容の復習：60分

第07回～第15回
・講義内容の復習：60分
・プレゼン作成、商品の試作・テストの実作業：200分

※全授業期間の平均：1週間当たり180分

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

本講義は、学期末試験を実施せず、以下の要素によって評価する。

(1)プレゼンテーションの内容、討議での発言（20%）
・プレゼンテーションの分かりやすさ・面白さ
・積極的に発言する姿勢、建設的な意見を述べる姿勢

(2)企画書・制作物のビジネス性、独創性（30%）
・誰にどのような価値を提供するかが明確かどうか
・提供したい価値を実現できているか
・いままでにないオリジナリティがあるか

(3)作業全体の進捗管理、制作物への自己評価、課題・改善点のレポート（50%）
・必要な作業を見積もり、グループで分担する体制ができていたか
・作業のプロセスや制作物について、良かった点、悪かった点を客観視できているか
・将来に向け、作業手順や作品作りについて、どうすればよりよくなるかを考察しているか

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義において適宜資料を配布する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第01回　ガイダンス
第02回. 顧客に求められる価値についての調査・分析
第03回. 顧客に求められる価値についての討議
第04回　タスクの管理手法についての学習
第05回　商品企画の作成についての学習
第06回　商品の企画の作成・工程表の作成
第07回　商品の企画のプレゼンテーション・評価
第08回　試作品の開発（１）
第09回　試作品の開発（２）
第10回　試作品のテスト・評価（１）
第11回　試作品のテスト・評価（２）
第12回　商品の開発（１）
第13回　商品の開発（２）
第14回　商品のテスト・評価（１）
第15回　商品のテスト・評価（２）

※履修者数、演習の進み具合を考慮し、授業計画を変更することがある。

２年基礎ゼミナール「CMP」

2019-4020000251-03

和田　剛明

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.商品開発のプロセスについて、基礎的な知識を修得している。　(A-1)

2.商品開発プロジェクトにおける課題、進捗中に発生する障害について指摘することができる。　(B-1)

3.本講義で修得した知識をもとに、自分が実際の製品開発プロジェクトに関与したときにどのように進めるかを考えるようになっている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.商品開発のプロセスについて、基礎的な知識を修得している。　(A-1)

2.商品開発プロジェクトにおける課題、進捗中に発生する障害について指摘することができる。　(B-1)

3.本講義で修得した知識をもとに、自分が実際の製品開発プロジェクトに関与したときにどのように進めるかを考えるようになっている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

２年基礎ゼミナール「CMP」

2019-4020000251-03

和田　剛明

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.商品開発のプロセスについて、基礎的な知識を修得している。　(A-1)

2.商品開発プロジェクトにおける課題、進捗中に発生する障害について指摘することができる。　(B-1)

3.本講義で修得した知識をもとに、自分が実際の製品開発プロジェクトに関与したときにどのように進めるかを考えるようになっている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.商品開発のプロセスについて、基礎的な知識を修得している。　(A-1)

2.商品開発プロジェクトにおける課題、進捗中に発生する障害について指摘することができる。　(B-1)

3.本講義で修得した知識をもとに、自分が実際の製品開発プロジェクトに関与したときにどのように進めるかを考えるようになっている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

比較経営史

2019-4020000391-01

今野　孝

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・２時限　　試験時間割：2019/08/01　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この講義では、資本主義経営の生成･発展過程について学びます。
　まず、近代以前の社会における生産活動と、近代イギリスにおける資本主義経営の成立過程、およびそこでの経営問題を学びます。
　つぎに、アメリカ・ドイツに例をとった「後進」資本主義国における経営の展開をそれぞれ特徴的な諸点を中心にみていきます。
　最後にそれらと比較しながら、わが国における近代企業経営の生成・発展をみていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営史および経営学の基本的知識、ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。(知識・理解)

経営史の知識を用いて、近代社会における企業活動の生成・発展の概要を説明することができる。(知識・理解)

近代社会と経営の発展における産業革命の意義について説明することができる。(知識・理解)

西欧諸国および我が国の経営の発展の特徴について、それぞれ説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講義では事前に講義内容の概要を記したプリント、および関連資料等を配付しますので、授業に出席する際には必ず事前にそれらの内容を確認し理解しておくように努めてください。(30分)
　毎回授業開始時にレスポンス･アナライザを使用し、それまでの内容についての理解度を確認する小テストを実施しますので、毎回の復習を怠らないでください。(60分)
　また、講義の進行にあわせ、自学自習用に穴埋方式のプリントを数回配付します。解答例はFUポータルに掲載しますので、復習の意味で必ず自身でやっておいてください。(20分)
　さらに、授業の内容に関連した課題でレポートを課すことがあります。これも必ず期限までに作成して提出してください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験の成績(70%)と平常点(30%)によって評価します。
　定期試験は基本的な事項を正確に理解しているかどうかが評価の基準です。論述によって解答する問題が全体の8割程度です。
　平常点は、授業中に実施するレスポンス・アナライザによる小テストや課題レポート等の提出状況を数値化して算出します。遅刻や欠席によって小テストを受けることができなければ、平常点が必然的に下がり成績評価に影響しますので、遅刻や欠席をしないように注意してください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　この講義は特定のテキストにそって進めるものではないので、特に指定はしていません。しかし、下に参考書として例示的に掲載したものを含め、概説的な経営史のテキスト類は数多く出版されています。それらを利用すれば、講義の理解を深めるために有効です。

◎－－－　参考書　－－－◎

中川敬一郎『比較経営史序説』（東京大学出版会、昭和56年）。
経営史学会編『経営史学の50年』（日本経済評論社、平成27年）。ISBN978-4-8188-2376-1
小林・米川他編『西洋経営史を学ぶ』上、下（有斐閣選書、昭和57年）。
作道・三島他編『日本経済史』（ミネルヴァ書房、昭和55年）。
土屋守章他編『経営史』－西洋と日本－（有斐閣、1994年）。
安岡・宮本他編『日本経営史』全５巻（岩波書店、1995年）。
湯沢威他『エレメンタル経営史』（英創社、2000年）。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　毎回の講義のはじめ、あるいは必要に応じて講義の途中で、レスポンス・アナライザを使用した小テストを実施します。また、講義内容に関するレポートの提出を求めることがあります。これらは遅刻や欠席をすると提出することができません。したがって極力出席するように努めてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.はじめに
2.資本制経営 ―工場制度と経営管理―
3.資本制経営に先行する経営諸形態(1)
4.資本制経営に先行する経営諸形態(2)
5.資本制経営に先行する経営諸形態(3)
6.産業革命と市民革命
7.産業革命期における経営問題(1)
8.産業革命期における経営問題(2)
9.産業革命期における経営問題(3)
10.後進資本主義国における経営とその発展(1)
11.後進資本主義国における経営とその発展(2)
12.アメリカ的製造方式と近代経営
13.ドイツにおける工業化と企業経営
14.日本における工業化と企業経営
15.まとめ

◎－－－　URL　－－－◎

比較経営史のページ
(http://imano.comm.fukuoka-u.ac.jp/imano/bh_comp.html)

比較経営史

2019-4020000391-01

今野　孝

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.経営史および経営学の基本的知識、ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.経営史の知識を用いて、近代社会における企業活動の生成・発展の概要を説明することができる。　(A-2)

3.近代社会と経営の発展における産業革命の意義について説明することができる。　(A-3)

4.西欧諸国および我が国の経営の発展の特徴について、それぞれ説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.経営史および経営学の基本的知識、ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.経営史の知識を用いて、近代社会における企業活動の生成・発展の概要を説明することができる。　(A-2)

3.近代社会と経営の発展における産業革命の意義について説明することができる。　(A-3)

4.西欧諸国および我が国の経営の発展の特徴について、それぞれ説明することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

比較経営史

2019-4020000391-01

今野　孝

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.経営史および経営学の基本的知識、ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.経営史の知識を用いて、近代社会における企業活動の生成・発展の概要を説明することができる。　(A-2)

3.近代社会と経営の発展における産業革命の意義について説明することができる。　(A-3)

4.西欧諸国および我が国の経営の発展の特徴について、それぞれ説明することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ヒューマンリソースマネジメント

2019-4020000394-01

于　暁爽

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・５時限　　試験時間割：2020/01/24　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

欧米企業であれ、日本企業であれ、企業はヒト（労働力）という経営資源を獲得しなければ企業活動を実現することはできず、そのためにヒトの獲得、活用、定着、モチベーション、あるいはヒトの使用権の所有者である労働者（従業員）と企業との間のコンフリクトの解決に関わる諸活動が企業の中で必要とならざるを得ない。アメリカでは、上記のような諸活動は、1970年代中ごろまではPersonnel ManagementあるいはPersonnel Administrationと呼ばれ、1970年代後半以降はHuman Resource(s) Management（人的資源管理）と呼ばれるようになった。しかしながら、上記のような諸活動を実施する上での目的と原理は、呼称の変化に並行して、理論的には（少なくともタテマエとしては）、変わってきているといえる。つまり、人件費として分類される「費用」によって獲得されたヒトをできるだけ合目的的に消費することから、追加的投資によって企業に対する貢献度を向上させることができる「資産」として取り扱うことへと、あるいはやむを得ず行われざるを得ない役割としての労働者対策から、競争上の優位性の源泉を獲得することに直接結び付く重要な任務へと、経営におけるその位置づけは変わってきているといえる。
本講義では、従来は人事・労務管理と呼ばれてきた、そして最近は人的資源管理あるいはヒューマン・リソース・マネジメントと呼ばれるようになったこれらの活動の概要と経営的意義について説明したい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ヒューマン・リソース・マネジメントの基本的な理論的内容を説明することができる。(知識・理解)

日米企業におけるヒューマン・リソース・マネジメントの歴史的な変遷、現状あるいは変化の方向性について説明することができる。(知識・理解)

日米企業におけるヒューマン・リソース・マネジメントの実践の新傾向について説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

受講者は、シラバスに従って受講日の講義内容に関係するテキストの章や節を、事前に読んでおくこと。さらに、受講後時間をおかずにプリント、ノート、テキスト、参考書等を読み返して復習しておくこと。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ヒューマン・リソース・マネジメントの形成の歴史、ヒューマン・リソース・マネジメントの制度と手法の概要について、論理的に説明できているかどうかが、評価基準となる。
原則として、定期試験の結果50%、期末レポート15%、平常点35%の割合で採点し、総合的に判断した上で評価を行う。
平常点については、毎回の演習問題において講義内容に関する基本的な用語や概念を使用しつつ的確に解答することができているか、が評価基準となる。
期末レポートについては、ヒューマン・リソース・マネジメントの学説の基本的内容とその制度・手法の具体的内容の要点を的確に説明できているかどうかに照らして採点し、評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

伊藤健市・田中和雄・中川誠士編著『現代アメリカ企業の人的資源管理』税務経理協会、2013、ISBN 9784419047153
テキストは金修堂書店で販売する。授業内容をよりよく理解できるように毎回プリントを配布する予定である。

◎－－－　参考書　－－－◎

伊藤健市・中川誠士・堀龍二編著『アメリカの経営・日本の経営』ミネルヴァ書房、2010　ISBN 9784623057580
ユージン・マッケナ,ニック・ビーチ共著 、伊藤健市,田中和雄監訳、今村寛治［ほか訳］『ヒューマン・リソース・マネジメント』税務計理協会、2000　ISBN 4419035579
ダニエル・A.レン著、佐々木恒男監訳『マネジメント思想の進化』文眞堂、2003.9　ISBN 4830944463
中川誠士著『テイラー主義生成史論』森山書店、1992.6、ISBN 4839417555
田代義範編著『現代日本企業の経営学』ミネルヴァ書房、2004.6、ISBN 4623040240

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ヒューマン・リソース・マネジメントの理論、制度、手法についての細々とした内容にとらわれずに、話の大きな流れをまずつかみ、しかる後に細々とした内容がその大きな流れの中の何処に位置づけられるかについての学習・理解に移るように心掛けよう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．労働時間管理（１）
２．労働時間管理（２）
３．人材育成とキャリア開発（１）
４．人材育成とキャリア開発（２）
５．福利厚生制度（１）
６．福利厚生制度（２）
７．退職管理（１）
８．退職管理（２）
９．労使関係管理（１）
１０．労使関係管理（２）
１１．非正規労働者（１）
１２．非正規労働者（２）
１３．女性労働者（１）
１４．女性労働者（２）
１５．まとめ

ヒューマンリソースマネジメント

2019-4020000394-01

于　暁爽

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.ヒューマン・リソース・マネジメントの基本的な理論的内容を説明することができる。　(A-1)

2.日米企業におけるヒューマン・リソース・マネジメントの歴史的な変遷、現状あるいは変化の方向性について説明することができる。　(A-2)

3.日米企業におけるヒューマン・リソース・マネジメントの実践の新傾向について説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.ヒューマン・リソース・マネジメントの基本的な理論的内容を説明することができる。　(A-1)

2.日米企業におけるヒューマン・リソース・マネジメントの歴史的な変遷、現状あるいは変化の方向性について説明することができる。　(A-2)

3.日米企業におけるヒューマン・リソース・マネジメントの実践の新傾向について説明することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ヒューマンリソースマネジメント

2019-4020000394-01

于　暁爽

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.ヒューマン・リソース・マネジメントの基本的な理論的内容を説明することができる。　(A-1)

2.日米企業におけるヒューマン・リソース・マネジメントの歴史的な変遷、現状あるいは変化の方向性について説明することができる。　(A-2)

3.日米企業におけるヒューマン・リソース・マネジメントの実践の新傾向について説明することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

簿記原理「（再）」

2019-4020000002-03

日野　修造

期別：後期　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・２時限, ３時限　　試験時間割：2020/01/25　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　簿記とは、ある経済主体が経済取引によりもたらされる資産・負債・純資産の増減を管理し、併せて一定期間内の収益及び費用を記録するための記帳方式を言います。みなさんが、これから学ぶ簿記は、企業の経営活動を資産・負債・純資産・収益・費用の貨幣金額により把握する能力を身につけることを目標としています。すなわち、企業の仕入れ・販売などの経営活動を貨幣金額によって、正確・明瞭に記録・分類し、こうして得られた会計情報に基づいて、企業経営上の諸問題を適切に判断できるようになることです。
　前半においては、まず簿記一連の取引と記帳を中心に学習します。そして、商品売買取引について、分記法から3分法へと発展させます。
　後半は、前期に学習した内容が理解できていることを前提とします。そしてさらに踏み込んで、企業のあらゆる取引事象と、それぞれの事象に対応する簿記処理を学ぶとともに、企業の経営成績や財政状態を明らかにする手法について学びます。また、日本商工会議所主催簿記検定３級が取得できるレベルまで到達する事を意識して講義を進めます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

複式簿記と単式簿記の違いが説明できる。(知識・理解)

基本的な貸借対照表と損益計算書の作成ができる。(知識・理解)

簿記一巡の取引記帳ができる。(知識・理解)

日常の取引を簿記的思考により判断・解釈する行動がとれるようになる。(知識・理解)

複式簿記の計算構造を理解し、説明できる。(知識・理解)

期末修正事項を加味した貸借対照表と損益計算書の作成ができる。(知識・理解)

身近な企業の財務諸表に興味・感心を持ち、当該企業の経営状態を自分なりに考察してみようという姿勢が持てるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　簿記は、内容の系統性が極めて高い積み上げ科目である。したがって、前時の講義内容が理解できていないと、その日の講義内容がわからないことになる。このような特質から、予習と復習が大切になる。しかし、予習には時間がかかるため、特に復習に力を入れて取り組むこと。また、問題集などを積極的に解き、反復練習を心がけること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　原則として定期試験及び小テスト（含：学習意欲）により評価する。定期試験70%、小テスト30%の割合で評点を算出する。成績の評価は、試験等によるものとし、前半は①基本的な仕訳ができるかどうか、②複式簿記の仕組みが理解できているかどうか、③基本的な財務諸表の作成ができるかどうか、を評価の基準とする。後半は①前期よりさらに踏み込んだ記帳処理ができるかどうか、②決算手続きについて理解できているかどうか、③簿記の基本構造を総合的に理解できているかどうか、を評価の基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

日野修造編著『簿記会計入門』五絃舎
ISBN:978-4-86434-026-7

◎－－－　参考書　－－－◎

岸川公紀編著『演習 簿記会計入門』五絃舎(事前に購入すること)、ISBN:978-4-86434-034-2、価格:1,200円
　また、必要に応じて他の問題集を講義中に指示する（300円～400円）。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１.簿記の意義
２.簿記の基礎概念
　①資産･負債･資本と貸借対照表
　②収益・費用と損益計算書
３.取引記録
４.勘定の記入及び取引の8要素と結合関係
５.仕訳と転記①
６.仕訳と転記②
７.試算表の作成①
８.試算表の作成②
９.決算手続
１０.精算表(6桁)
１１.勘定の振替(損益勘定)
１２.帳簿の締め切り、財務諸表の作成
１３.現金･預金①
１４.現金･預金②
１５.商品売買・まとめ

１．商品売買
２．売掛金と買掛金
３．その他の債権債務
４．手形
５．有価証券
６．固定資産
７．資本金と引出金
８．収益と費用
９．税金
１０．帳簿と伝票
１１．決算と財務諸表①
１２．決算と財務諸表②
１３．総合演習①
１４．総合演習②
１５．まとめ

簿記原理「（再）」

2019-4020000002-03

日野　修造

◎経営:A-1

1.複式簿記と単式簿記の違いが説明できる。　(A-1)

2.基本的な貸借対照表と損益計算書の作成ができる。　(A-1)

3.簿記一巡の取引記帳ができる。　(A-1)

4.日常の取引を簿記的思考により判断・解釈する行動がとれるようになる。(A-1)

5.複式簿記の計算構造を理解し、説明できる。　(A-1)

6.期末修正事項を加味した貸借対照表と損益計算書の作成ができる。　(A-1)

7.身近な企業の財務諸表に興味・感心を持ち、当該企業の経営状態を自分なりに考察してみようという姿勢が持てるようになる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1

1.複式簿記と単式簿記の違いが説明できる。　(A-1)

2.基本的な貸借対照表と損益計算書の作成ができる。　(A-1)

3.簿記一巡の取引記帳ができる。　(A-1)

4.日常の取引を簿記的思考により判断・解釈する行動がとれるようになる。(A-1)

5.複式簿記の計算構造を理解し、説明できる。　(A-1)

6.期末修正事項を加味した貸借対照表と損益計算書の作成ができる。　(A-1)

7.身近な企業の財務諸表に興味・感心を持ち、当該企業の経営状態を自分なりに考察してみようという姿勢が持てるようになる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

簿記原理「（再）」

2019-4020000002-03

日野　修造

◎貿易:A-1

1.複式簿記と単式簿記の違いが説明できる。　(A-1)

2.基本的な貸借対照表と損益計算書の作成ができる。　(A-1)

3.簿記一巡の取引記帳ができる。　(A-1)

4.日常の取引を簿記的思考により判断・解釈する行動がとれるようになる。(A-1)

5.複式簿記の計算構造を理解し、説明できる。　(A-1)

6.期末修正事項を加味した貸借対照表と損益計算書の作成ができる。　(A-1)

7.身近な企業の財務諸表に興味・感心を持ち、当該企業の経営状態を自分なりに考察してみようという姿勢が持てるようになる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

マーケティング論「（CB・CF16台以前）」

2019-4020000392-01

村上　剛人

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：2019/07/25　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

この科目はマーケティング戦略論(17台以降）の科目との合併で行われます。留意してください。この科目では、まずマーケティングの考え方がどのように変化・発展してきているのかこの科目では、まずマーケティングの問題についてどのような視点から考察することができるのか、まず自分がマーケティングや流通の現象を見るときのメガネを作ることの重要性を確認します。そして、これまでのマーケティングの見方であったSTPをベースとしたマーケティングの見方を確認したうえで、現在新たな見方として位置付けられているアメリカのマーケティング研究者のコトラーのマーケティング3.0~4.0の議論、デザイン思考の見方、Pine&Gilmoreによる経験価値の見方、そして 近年Vargo and Lusch によって、新しいマーケティングとしての視点として登場してきたService Dominant Logicの考え方を紹介していきます。今まさに、マーケティングの考え方のパラダイム・シフトが行われつつある状況にあります。このように、この講義では、企業のマーケティング戦略の考え方がどのように変化し、発展してきたのか、ビジネスケースを交えながら、現在求められているマーケティングの考え方とは何かについて考えていきます。

そして、身につけたメガネを使って、マーケティング現象を考察していきます。ポイントは、「誰」に「何」を提供するのかを明確にしていく点です。それについてケースを使って考えていきます。また、川上昌直氏のビジネスモデル思考法を紹介しながら、マーケティング戦略を考察していくときのポイントを確認していきます。

さらにサービスの視点からマーケティング戦略を考えてみると、どのようなことが必要なのかについても考察を進めていきます。

全体を通して、企業のマーケティング戦略を考察する上で必要とする見方の学習とそれをビジネスケースを使って議論することでその見方の習得を図っていきたいと思います。なお、講義の進捗によって、また新しいケースが発生した場合は、講義の構成を一部変更して行うことがあります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティングの視点から消費者や企業が行っている活動を観察し、どのような状況にあるのか理解することができる。(知識・理解)

日頃の買い物行動を通して「誰に」「何を」提供しようと企業はしているのか、絶えず考え、その背後で働いているビジネスの仕組みをイメージできるようになる。(知識・理解)

ビジネスケースを説明できるようになる。(知識・理解)

チームでのケースの議論などを通して、そのケースから発展的に考えることができるようになる。

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義の進め方は単元ごとにレジュメおよびビジネスケースを配布し、そのレジュメの中で提示している質問内容やビジネスケースについて事前に学習し、わからないところも調べ、そのうえで自分なりの解答を用意してください。(90分）また、講義の内容について、資料および講義での教員の説明、グループワークがあった時はグループの議論について必ず振り返りを行い、自分が理解できたところや理解できていないところを確認し、理解できていない点についてはさらに調べて理解できるようにする。(60分)

２回ほどレポートを作成してもらう予定ですが、しっかり資料を読み、論理構造を明確にした上で、作成するようにしてください。（レポートの資料読み、レポート構成、レポート作成3~4時間）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価について、第一に各回最後に実施するミニッツペーパーに基づき、毎時間自分がどの程度理解できたか、振り返りを確認、評価します。第二に、グループワークを実施した時は、まずチームのメンバーがどの程度予習をしてきているのかを確認し、チームでどのような議論ができたのか書記が作成したシートの内容から確認し、評価を行います。またプレゼンがあった時はその成果について評価を行います。第三に必要に応じて実施するレポートの課題に対してどの程度目標に到達できているのかを評価します。レポートはできるだけコメントをつけて返却したいと思います。第四に全体の講義の内容についてどの程度理解でき、考えることができているか、定期試験で確認し、評価します。

なお、評価の割合は、定期試験を65%、レポートならびにミニッツペーパー等の提出物を35%で実施します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使いません。

◎－－－　参考書　－－－◎

ジョブ理論　ISBN 4596551227
『コ・イノベーション経営』　ISBN 4492522085
『[新訳]経験経済』　ISBN 4478502579

上記の文献以外に、授業のなかで、読んで欲しい文献を紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・16台以前の経営学科及び貿易学科の学生で「マーケティング論」を履修し、単位を取得したもの、またこれから履修しようとするものは、商学科で開講されている「マーケティング戦略論」は履修しないでください。同じ内容のものです。
・基本的に講義の時間に、グループ〔3～4名程度）の討議の時間を設定したいと考えています。率先して議論できる人の参加を望みます。また遅刻、欠席などしないように心掛けてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション:講義の進め方と マーケティング見るメガネについて
2マーケティング戦略の基本的枠組みの理解(1)：4Pのフレーム
3 マーケティング戦略の基本枠組みの理解 (2)：消費者にニーズとウォンツ
4マーケティング戦略の基本枠組みの理解 (3)： マーケティングの発展過程
5 利益の出し方について
6経験価値マーケティングについて
7 ケースから考察した経験価値戦略
8マーケティングの基本確認(誰に何を提供するのか）
9ビジネスモデル思考法の紹介
10デザイン思考とマーケティング
11SDLの考え方について
12 サービスから見たマーケティング戦略
13 サービス・インテンシティ・マトリックスの考え方
14 サービス・インテンシティ・マトリックのケース研究
15 総括
なお、進捗状況によっては構成を一部変更して行うことがあります。

マーケティング論「（CB・CF16台以前）」

2019-4020000392-01

村上　剛人

◎経営

1.マーケティングの視点から消費者や企業が行っている活動を観察し、どのような状況にあるのか理解することができる。　(A-2)

2.日頃の買い物行動を通して「誰に」「何を」提供しようと企業はしているのか、絶えず考え、その背後で働いているビジネスの仕組みをイメージできるようになる。　(A-3)

3.ビジネスケースを説明できるようになる。　(A-3)

4.チームでのケースの議論などを通して、そのケースから発展的に考えることができるようになる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

連結会計論

2019-4020000414-01

渡辺　剛

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：2020/01/27　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

　金融商品取引法会計におけるディスクロージャーが連結財務諸表中心となったことに加えて、会社法においても連結財務諸表の開示が求められることから、今や連結会計が制度会計の中心であるといわれています。連結財務諸表の作成は、個別財務諸表の作成にはない連結会計固有の手続を必要とするため、わかりづらいものとなっています。また、包括利益概念が連結財務諸表に導入されるなど、連結会計が大きく変動しつつあります。
　本講義では、できるだけ平易に連結会計を説明し、その概要が理解できるようにすることを目的としています。また、近年、会計基準のコンバージェンス（統合）の動きが加速していることから、会計基準の改定が頻繁に行われています。本講義では、連結財務諸表の作成のみならず、随時それらの動向も取り上げる予定です。
　毎回、次回の講義テーマを告知しますので、事前にテキストを読んで予習してきて下さい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

(1)連結会計の必要性を説明することができる。(知識・理解)

(2)企業グループの財政状態および経営成績を説明することができる。(知識・理解)

(3)会計基準のコンバージェンスをはじめとする国際的な会計の動向を理解することによって、今後の財務会計の課題を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　後半は計算問題が中心になりますので、必ず復習してください(60分)。また、毎回、次回の講義テーマを告知しますので、事前にテキストを読んで予習してきて下さい(30分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　連結会計の概要に関する理解度ならびに基礎的な連結貸借対照表および連結損益計算書が作成できることを評価の基準とし、その達成度を定期試験の結果によって評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

桜井久勝『財務会計講義(第19版)』中央経済社(2018年)
ISBN：978-4-502-26641-6。なお、第20版が出版された場合は第20版を用います。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　本講義は、受講者に会計学および簿記の基礎知識がすでにあることを前提として進めます。したがって、「簿記原理」を履修後に受講して下さい。また、「会計学総論」および「財務会計論」、ならびに「会社簿記Ⅰ・Ⅱ」または「会社簿記」を履修した後に受講することが望ましいです（本講義は3年次以上で受講することが望ましいです）。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス―講義内容の概説
２　連結財務諸表の意義
３　連結財務諸表作成の一般基準
４　連結貸借対照表の作成基準
５　連結貸借対照表の作成(1)完全子会社
６　連結貸借対照表の作成(2)非完全子会社
７　連結損益計算書の作成基準
８　連結損益計算書の作成(1)完全子会社
９　連結損益計算書の作成(2)非完全子会社
１０　連結損益計算書の作成(3)ダウンストリーム
１１　連結損益計算書の作成(4)アップストリーム①
１２　連結損益計算書の作成(5)アップストリーム②
１３　連結株主持分等変動計算書の意義
１４　連結株主持分等変動計算書の作成
１５　セグメント情報の意義

連結会計論

渡辺　剛

2019-4020000414-01

◎経営

1.(1)連結会計の必要性を説明することができる。　(A-1)

2.(2)企業グループの財政状態および経営成績を説明することができる。　(A-2)

3.(3)会計基準のコンバージェンスをはじめとする国際的な会計の動向を理解することによって、今後の財務会計の課題を説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

Ｅコマースマーケティング

2019-4010000392-01

村上　剛人

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・２時限　　試験時間割：2020/01/20　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

この科目はマーケティング論(17台以降）の科目との合併講義になるため、講義の内容においてマーケティング論に関わる内容が中心になってくる点、留意してください。
この講義では、前期で開講されているマーケティング戦略論の内容を踏まえながら、マーケティングがどのように発展してきたのか、そのマーケティングの思考のロジックを中心に考察し、そのロジックがどのように形成されてきたのか、そしてその後うまく機能しなくなっていくのか、そのプロセスをマス・マーケティングから始まり、市場細分化、そしてマス・カスタマイゼーション、共創型マーケティングへと発展していく、ロジックの連鎖を明らかにしていきたいと考えています。
特に、市場細分化戦略以降、企業と消費者とのコミュニケーションのあり方が一人一人のニーズに対応するような状況へと変化し、2000年代にはone-to-one マーケティングとして顧客の管理問題へと発展するとともに、それがさらに企業と消費者との間で共創して商品開発等を行っていく状況へと発展しています。その過程はまさに1994年にインターネットが商業用として普及する過程に合わせ、企業と消費者との間でのコミュニケーションが消費者間でのコミュニケーションを中心としたネットワークへと発展し、そのことが同時にマーケティングの有り様にも多大な影響を与えたと考えられます。インターネットの普及のもとでの新たなマーケティングの展開とはどのようなものか、それについての考察をこの講義を通して行っていきたいと思います。そして現在のマーケティングの姿がどのようなものとして展開されようとしているのか、学生のみなさんと一緒に議論していきたいと思います。
なお、講義の進捗の度合いに応じて、内容を変更することがあります。ご了承ください

◎－－－　到達目標　－－－◎

一つ一つのマーケティング戦略のロジックが説明できるようになる。(知識・理解)

マーケティング戦略のロジックの間の関係性が説明できるようになる。(知識・理解)

ケースとして取り上げた企業などのマーケティングの考え方をロジックを通して説明できるようになる。(知識・理解)

企業の抱える問題が何かを理解し、それに対してどのようなマーケティングを考えらば良いのか発展的に考えることができるようになる。(知識・理解)

これからの時代の流れの中でのマーケティングがどのような位置付けになっているのか説明できるようになる。

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義の進め方は単元ごとにレジュメおよびビジネスケースを配布し、そのレジュメの中で提示している質問内容やビジネスケースについて事前に学習し、わからないところも調べ、そのうえで自分なりの解答を用意してください。(90分）また、講義の内容について、資料および講義での教員の説明、グループワークがあった時はグループの議論について必ず振り返りを行い、自分が理解できたところや理解できていないところを確認し、理解できていない点についてはさらに調べて理解できるようにしてください。(60分)
２回ほどレポートを作成してもらう予定ですが、しっかり資料を読み、論理構造を明確にした上で、作成するようにしてください。（レポートの資料読み、レポート構成、レポート作成3~4時間）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価について、第一に各回最後に実施するミニッツペーパーに基づき、毎時間自分がどの程度理解できたか、振り返りを確認、評価します。第二に、グループワークを実施した時は、まずチームのメンバーがどの程度予習をしてきているのかを確認し、チームでどのような議論ができたのか書記が作成したシートの内容から確認し、評価を行います。またプレゼンがあった時はその成果について評価を行います。第3に必要に応じて実施するレポートの課題に対してどの程度目標に到達できているのかを評価します。なお、レポートはできるだけチェックをし、コメントをつけて返却したいと思います。第4に全体の講義の内容についてどの程度理解でき、考えることができているか、定期試験で確認し、評価します。
なお、評価の割合は、定期試験を65%、レポートならびにミニッツペーパー等の提出物を35%で実施します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使いません。

◎－－－　参考書　－－－◎

ゼミナール マーケティング入門 第2版　ISBN 4532134390
マス・カスタマイゼーション戦略のメカニズム　ISBN 4561661654
『ウィキノミクス マスコラボレーションによる開発・生産の世紀へ』　ISBN 482224587X
上記以外に、その都度読んでほしい文献を講義中に紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・グループ討議の時間を設定しますので、遅刻、欠席などしないように心掛けてください。積極的に議論するように心がけてください。
・商学科の学生は前期のマーケティング戦略論（経営学科、貿易学科、経済学部、法学部の学生は経営学科で開講しているマーケティング戦略論と合併で実施しているマーケティング論）も受講していることが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション：これからのマーケティングは。
2 マス・マーケティングのロジック(1)
3 マス・マーケティングのロジック(2)
4 マス・マーケティングのロジックの限界
5 市場細分化戦略のロジック(1)
6 市場細分化戦略のロジック(2)
7 1980年代の市場細分化の問題性の考察
8 消費の自律性と他律性問題
9 市場細分化のロジックの限界(1)
10市場細分化のロジックの限界(2)
11マス・カスタマイゼーションのロジック
12モジュール戦略とインターネット
13共創型マーケティング
14インターネットを活用したマーケティングの事例研究
15講義のまとめ
なお、講義の内容を進捗に合わせて変更することがあります。

Ｅコマースマーケティング

2019-4010000392-01

村上　剛人

◎商学

1.一つ一つのマーケティング戦略のロジックが説明できるようになる。　(A-2)

2.マーケティング戦略のロジックの間の関係性が説明できるようになる。
(A-3)

3.ケースとして取り上げた企業などのマーケティングの考え方をロジックを通して説明できるようになる。　(A-3)

4.企業の抱える問題が何かを理解し、それに対してどのようなマーケティングを考えらば良いのか発展的に考えることができるようになる。　(A-4)

5.これからの時代の流れの中でのマーケティングがどのような位置付けになっているのか説明できるようになる。

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

海運と航空

2019-4010000342-01

陶　怡敏

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・４時限　　試験時間割：2019/07/29　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

「物・人」などが国境を越えて移動するには、基本的に、海運と航空の機能を媒介としなければなりません。そのような海運・航空の発達が、歴史的にも国内経済活動はもちろん、国際貿易・国際交流においても、重大な影響力をもたらしたことは事実であります。
近年、経済のグローバル化・ボーダレス化に伴い、企業の最適立地は国際的視野で見直されているので、ハブ空港・港湾および情報インフラなどの社会資本整備状況は一国の経済力を含めた総合国際競争力を左右する重要な要素となってきています。さらに、グローバル・ネットワーク競争の時代を迎えて、戦略的提携・ロジスティクス戦略はいや応なく、競争優位を目指す企業に迫られています。
海運と航空業界では、主に次のような２種類の戦略的提携が多く見られます。１つは海運会社間あるいは航空会社間のグローバル・アライアンス、もう一つはロジスティクス・サービスのアウトソーシングやサードパーティ・ロジスティクス等の垂直型提携です。グローバル・アライアンスと垂直型提携の主たる目的は、費用削減と需要創出です。戦略的提携によって、企業がトレード・オフ関係にあるこれらの目標を同時に実現できる戦略が実行可能になっています。
本講義は、以上のことを踏まえて、最近の急激な環境変化のなかでの海運と航空産業の変貌の過程、現状や問題点、役割などについて考える力を養ってもらうことを学習目標にしたい。
授業の進め方としては、まず海運と航空に関する商学の基礎知識を修得し、海運と航空について実践的な観点から講義とケーススタディにより学習します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

海運と航空の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす海運と航空に対する関心を深めることができる。(態度・志向性)

海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。(知識・理解)

海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が発展する方向について説明することができる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した国際交通政策を提案することができる。(技能)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、海運と航空の考え方を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、海運と航空のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本講義の慣例に従って、予習と復習を確実に行ってもらうために毎回の授業に関連する予習・復習課題(所要時間：約2時間)の提出をお願いします。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
海運市場・航空経済の現状と課題を的確に把握し自分の言葉で説明できているかを評価基準とする。
②評価方法
最終成績は定期試験(期末評価)、中間試験(中間評価)および提出課題(平常評価)などにより評価する。
③割合
定期試験(60%)、中間試験・提出課題(40%)を目安として総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

各講義を始める前に講義資料を配付します。なお、講義資料を作成するにあたっての参考文献は、下記の参考書項目に記載されている文献になります。

◎－－－　参考書　－－－◎

村上英樹・加藤一誠・高橋　望・榊原胖夫編著『航空の経済学』ミネルヴァ書房。ISBN-13: 978-4623045587。
ＡＮＡ総合研究所『航空産業入門』東洋経済新報社。ISBN-13: 978-4492761755。
赤井邦彦『格安航空会社が日本の空を変える』日本経済新聞出版社。ISBN-13:978-4532316693。
野村宗訓・切通堅太郎『航空グローバル化と空港ビジネス―LCC時代の政策と戦略』同文舘。ISBN-13: 978-4495439910。
宮下国生『日本物流業のグローバル競争』千倉書房。ISBN-13: 978-4805108055。
山岸　寛『海上コンテナ物流論』成山堂書店。ISBN-13: 978-4425331314。
Ｒ．ドガニス『２１世紀の航空ビジネス』中央経済社。ISBN-13: 978-4502368301。
塩見英治『米国航空政策の研究』文眞堂。ISBN-13: 978-4830945373。
野村宗訓『新しい空港経営の可能性―LCCの求める空港とは』関西学院大学産業研究所。ISBN-13: 978-4862831064。
加藤一誠・引頭雄一・山内芳樹『空港経営と地域―航空・空港政策のフロンティア』成山堂書店。ISBN-13: 978-4425862412。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎時間の講義内容は、連続性をもっているので、欠席したり遅刻したりしないことが理解のためには重要である。板書内容だけでなく、口頭で伝えることもノートして理解に努めてもらいたい。講義資料は必ず持参して講義を受けること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　航空輸送サービスの生産と費用
２　航空サービスの需要とその決定要因
３　海運・航空会社の戦略的提携
４　航空会社のプライシング戦略
５　価格差別とラムゼイ・プライシング
６　アメリカの航空規制緩和政策
７　コンテスタビリティ理論と規制緩和
８　日本の航空政策と日本航空の再建
９　低コスト航空会社の競争優位戦略
１０　航空会社の新たなビジネスモデル
１１　定期船同盟秩序の形成と独占的競争
１２　海運会社の国際ロジスティクス戦略
１３　国際航空貨物とグローバル・ロジスティクス
１４　グローバル・サプライチェーンマネジメント
１５　日本のハブ空港・ハブ港湾整備問題

海運と航空

2019-4010000342-01

陶　怡敏

◎商学:A-2,A-3,A-4,B-3,B-4,C-1,C-2

1.海運と航空の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす海運と航空に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-2)

3.海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が発展する方向について説明することができる。　(A-4)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した国際交通政策を提案することができる。　(B-3)

6.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、海運と航空の考え方を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-4)

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、海運と航空のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-3,C-1,C-2

1.海運と航空の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす海運と航空に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-2)

3.海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が発展する方向について説明することができる。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した国際交通政策を提案することができる。　(B-3)

6.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、海運と航空の考え方を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、海運と航空のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

海運と航空

2019-4010000342-01

陶　怡敏

◎貿易:A-2,A-3,B-3,C-1,C-2

1.海運と航空の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす海運と航空に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-2)

3.海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、海運産業および航空経済が発展する方向について説明することができる。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、海運と航空に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した国際交通政策を提案することができる。　(B-3)

6.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、海運と航空の考え方を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、海運と航空のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

海外交流ゼミナール「（仁川大学）」

2019-4010000376-01

杉本　宏幸、飛田　努、裵　海善、金　貞順

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：水・５時限, 集中後期　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は、日韓の経済や経営の類似点と相違点を把握し、国際協調のあり方やビジネス・経営課題について、現地訪問や交流をまじえながら理解を深めることを目的としている。
前期の授業、試験終了後の夏季休暇の授業、夏季休暇の韓国現地訪問、韓国から帰国後の夏季休暇（8月下旬を予定）の授業で講義が構成される。前期期間中には、韓国の経済、経営、社会、文化、言語を幅広く学び、韓国を訪問する準備をする。韓国滞在中は、仁川大学教員による講義を受講し、フィールドスタディで現地や企業等などを仁川大学の学生とともに訪問し、交流を深めながら学んでいく。帰国後、夏季休暇中に集中講義形式で演習を行い、成果についてプレゼンテーションを行い、各自の成果を確認する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

異文化間の交流を進める姿勢を養えること。(技能)

文献や資料を整理・報告し、韓国に関する総合的な知識と理解を深め、これを説明できるようになること。(知識・理解)

現地を訪問して学ぶことを通じて、韓国に関する総合的な知識と理解を深め、これを説明できるようになること。(知識・理解)

グループでの調査や報告を通じて、プレゼンテーションや議論ができるようになること。(技能)

日韓の経済・経営・社会の類似点と相違点を理解・説明でき、これを説明できること。(知識・理解)

日韓の類似点と相違点を基礎に、日本の経済・経営の強み、課題を理解し、説明できること。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

韓国で交流を深めるために、言語能力を高めておく必要がある。必ず毎回の講義に関する復習（60分）をし、授業以外でも各自で韓国語・英会話の学習に継続的に取り組み（90分）、自己のレベルに合わせて工夫しながら、予習すること（30分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準は到達目標に準ずる。講義中のプレゼンテーションおよびディスカッション（40%）、韓国現地での活動状況（20%）、全体の講義終了後に提出する「日韓比較」レポート（40%）で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

小倉紀蔵, 『心で知る、韓国』, 岩波書店, 2012年, 1,240円（税抜）, ISBN 4006032374

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・講義のスケジュールに注意すること。
・前期、試験終了後の夏季休暇、夏季休暇の韓国現地訪問（8月5日～8月9日を予定）、韓国から帰国後の夏季休暇（8月下旬を予定）に授業がある。
・全授業が終了し、9月末にレポートを提出してスケジュールは終了する。
・通年授業として扱われ、成績評価発表は年度末となる。
・朝鮮半島情勢によっては、現地訪問を見送る場合がある。
※受講者は既に履修登録済みです。Web履修登録画面にて各自確認してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　講義概要説明（杉本・飛田）
２～５　韓国の経済（金）
６～９　演習（杉本・飛田）
１０～１５　韓国語・文化（裵）
夏季休暇
１６～１９　演習 及び オリエンテーション（杉本・飛田）
２０～２１　講義（韓国）
２２～２６　フィールドスタディ（韓国）
２７～３０　演習（杉本・飛田）

海外交流ゼミナール「（仁川大学）」

2019-4010000376-01

杉本　宏幸、飛田　努、裵　海善、金　貞順

◎商学:A-1,B-3

1.異文化間の交流を進める姿勢を養えること。　(B-3)

2.文献や資料を整理・報告し、韓国に関する総合的な知識と理解を深め、これを説明できるようになること。　(A-1)

3.現地を訪問して学ぶことを通じて、韓国に関する総合的な知識と理解を深め、これを説明できるようになること。　(A-1)

4.グループでの調査や報告を通じて、プレゼンテーションや議論ができるようになること。　(B-3)

5.日韓の経済・経営・社会の類似点と相違点を理解・説明でき、これを説明できること。　(A-1)

6.日韓の類似点と相違点を基礎に、日本の経済・経営の強み、課題を理解し、説明できること。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-3

1.異文化間の交流を進める姿勢を養えること。　(B-3)

2.文献や資料を整理・報告し、韓国に関する総合的な知識と理解を深め、これを説明できるようになること。　(A-1)

3.現地を訪問して学ぶことを通じて、韓国に関する総合的な知識と理解を深め、これを説明できるようになること。　(A-1)

4.グループでの調査や報告を通じて、プレゼンテーションや議論ができるようになること。　(B-3)

5.日韓の経済・経営・社会の類似点と相違点を理解・説明でき、これを説明できること。　(A-1)

6.日韓の類似点と相違点を基礎に、日本の経済・経営の強み、課題を理解し、説明できること。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

海外交流ゼミナール「（仁川大学）」

2019-4010000376-01

杉本　宏幸、飛田　努、裵　海善、金　貞順

◎貿易:A-1,B-3

1.異文化間の交流を進める姿勢を養えること。　(B-3)

2.文献や資料を整理・報告し、韓国に関する総合的な知識と理解を深め、これを説明できるようになること。　(A-1)

3.現地を訪問して学ぶことを通じて、韓国に関する総合的な知識と理解を深め、これを説明できるようになること。　(A-1)

4.グループでの調査や報告を通じて、プレゼンテーションや議論ができるようになること。　(B-3)

5.日韓の経済・経営・社会の類似点と相違点を理解・説明でき、これを説明できること。　(A-1)

6.日韓の類似点と相違点を基礎に、日本の経済・経営の強み、課題を理解し、説明できること。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-3

1.異文化間の交流を進める姿勢を養えること。　(B-3)

2.文献や資料を整理・報告し、韓国に関する総合的な知識と理解を深め、これを説明できるようになること。　(A-1)

3.現地を訪問して学ぶことを通じて、韓国に関する総合的な知識と理解を深め、これを説明できるようになること。　(A-1)

4.グループでの調査や報告を通じて、プレゼンテーションや議論ができるようになること。　(B-3)

5.日韓の経済・経営・社会の類似点と相違点を理解・説明でき、これを説明できること。　(A-1)

6.日韓の類似点と相違点を基礎に、日本の経済・経営の強み、課題を理解し、説明できること。　(A-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

2019-4010002113-01

長束　航

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・２時限　　試験時間割：2020/01/24　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

会計とは、ある経済主体に関する経済事象を、主として貨幣額で測定し、それを記録・整理して作成した情報（会計情報）を、当該経済主体の利害関係者に報告する一連の行為をいう。この会計という行為を研究対象とする学問が、会計学である。

会計は、個人という小さい単位から国家という大きい単位まで様々な経済主体によって行われており、それぞれ重要な役割を果たしているが、特に企業において会計が果たしている役割は、どんなに大きく評価してもしすぎることはない。経営意思決定、財産管理、資金調達、人事考課、配当可能額の算定、課税所得の計算など、あらゆる場面で会計情報が利用される。企業会計が、「ビジネスの言語」と称されることがあるのも、あながち大げさな表現というわけではない。

したがって、会計学も企業会計を研究の対象とすることが多く、この講義でも企業会計を中心として取り扱う。なお、企業会計の研究分野は、企業外部の利害関係者（投資家、株主、銀行、税務署など）に対して報告される会計情報を研究対象とする「財務会計論」という分野と、企業内部の利害関係者（経営者など）に対して報告される会計情報を研究対象とする「管理会計論」という分野に大別される。この講義では、やや「財務会計論」の分野を重視した講義を行うが、それは企業会計が、最終的には企業外部の利害関係者向けの内容・形式で会計情報を作成しなければならないという制約のもとで行われているからである。

この講義は、皆さんが会計学を学び始めるにあたって、まず知っておくべき会計学という学問の全体像を理解してもらうためのものである。「財務会計論」、「管理会計論」、「監査論」、「税務会計論」、「経営分析論」その他の会計諸学を専攻するための基礎としてはもちろん、昨今、社会で強く求められるようになってきている「数字の読めるビジネス・パーソン」をめざすための第一歩として、ぜひ履修してほしい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計の制度的および理論的フレームワークに関する基礎知識を身につけている。(知識・理解)

会計の制度的および理論的フレームワークを理解し、企業会計の現状を説明することができる。(知識・理解)

会計の制度的および理論的フレームワークを理解し、企業会計の課題を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義後は配布資料やノートの整理をして復習を行い、講義内容の理解を深めておくこと（50分）。毎回の講義内容は論理的に密接に結びついているため、復習をきちんと行ったうえで次回の講義に臨んでほしい。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として定期試験により評価する。ただし、授業後に記入してもらうミニッツ・ペーパーの内容により、若干の加点を行うことがある（最大10点程度）。些末な知識の有無よりも、会計学の全体像の把握および会計の理論的フレームワークと制度的フレームワークの理解がなされているかどうかを単位認定の判断基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

中央経済社編『新版会計法規集』第10版　中央経済社
ISBN 978-4502273513
広瀬義州『財務会計』第13版　中央経済社／
978-4502163418

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

会計を理解するためには、簿記の知識がある程度必要となる。したがって、「簿記原理」を履修済みであることが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　会計および会計学の意義と種類
2　財務会計の制度的フレームワーク①
　金融商品取引法会計
3　財務会計の制度的フレームワーク②
　会社法会計
4　財務会計の制度的フレームワーク③
　会計基準
5　財務会計の制度的フレームワーク④
　財務諸表監査制度
6　財務会計の理論的フレームワーク①
　会計公準と概念フレームワーク
7　財務会計の理論的フレームワーク②
　企業会計原則の一般原則
8　財務会計の理論的フレームワーク③
　財務会計の目的と会計情報の質的特性
9　財務会計の理論的フレームワーク④
　資産負債アプローチと収益費用アプローチ
10　財務会計の理論的フレームワーク⑤
　資産概念と資産の測定
11　財務会計の理論的フレームワーク⑥
　負債概念と負債の測定
12　財務会計の理論的フレームワーク⑦
　純資産と資本維持概念
13　財務会計の理論的フレームワーク⑧
　収益および費用の意義と計上基準
14　財務会計の理論的フレームワーク⑨
　財務報告――財務諸表と非財務情報
15　管理会計と財務諸表分析

会計学総論

2019-4010002113-01

長束　航

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.会計の制度的および理論的フレームワークに関する基礎知識を身につけている。　(A-1)

2.会計の制度的および理論的フレームワークを理解し、企業会計の現状を説明することができる。　(A-2)

3.会計の制度的および理論的フレームワークを理解し、企業会計の課題を説明することができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.会計の制度的および理論的フレームワークに関する基礎知識を身につけている。　(A-1)

2.会計の制度的および理論的フレームワークを理解し、企業会計の現状を説明することができる。　(A-2)

3.会計の制度的および理論的フレームワークを理解し、企業会計の課題を説明することができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

会計学総論

2019-4010002113-01

長束　航

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.会計の制度的および理論的フレームワークに関する基礎知識を身につけている。　(A-1)

2.会計の制度的および理論的フレームワークを理解し、企業会計の現状を説明することができる。　(A-2)

3.会計の制度的および理論的フレームワークを理解し、企業会計の課題を説明することができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

会計学総論

2019-4010002113-02

中村　信博

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・３時限　　試験時間割：2019/07/30　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

会計情報は、ビジネスの世界における「共通言語」に相当すると言われていますが、その具体的内容は、著しく多岐にわたっています。私たちが広義の会計学の基礎を体系的に理解しようとする場合には、簿記論、制度会計論、原価計算論、管理会計論、会計監査論、経営分析論、税務会計論、国際会計論などの科目を順次学んでいく必要があります。
本講義では、ビジネス界における「共通言語」と位置づけられる会計情報がどのように作成され、どのように伝達されるか、その基本原理をマスターすることを主たる目標とします。
具体的には、会計の役割、会計学の領域およびその基本前提などの説明からスタートし、次に、会計（とくに財務会計）にはなぜルールが必要かを理解します。さらに、基本財務諸表の構成要素である、資産、負債、資本（純資産）、収益、費用という５つの要素の特性を理解した上で、基本的な会計情報の読み方を修得します。
本講義で適宜行われる新しい会計領域に関する説明を通じて、伝統的会計の抱える問題点を洗い出し、会計の全体像を大掴みすることで、次のステップである財務会計論へ繋げます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計学の基礎知識を修得する。(知識・理解)

財務諸表の基本的作成ルールを修得し、会計情報の特徴を説明できる。(知識・理解)

会計情報に対する重要性の変化について説明でき、わが国会計制度に関する諸問題を指摘できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

専門用語が比較的多い科目であることを予め認識し、次回の授業内容を毎回予習することにより、専門用語の意味を理解しておくこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

会計制度および会計情報作成ルールに関する基礎能力を評価基準として、定期試験80%、レポート20%を目安として総合的に評価します。なお、レポートの評価基準として『福大生のための学習ナビ』を用いるので、必ず「レポートの作成」を読んだ上で書くこと。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

最新の『会計法規集』、『会計諸則集』
上記以外の参考書は講義の中で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」または「簿記原理」の単位を修得済みの者が望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１ 会計学の役割と研究対象
２ 財務会計と管理会計
３ 会計理論の基本前提
４ 財務諸表の構成要素
５ 財務報告制度
６ 会計基準総論
７ 財務会計基準
８ 貸借対照表の役割
９ 損益計算書の役割
１０ 資産会計
１１ 負債会計
１２ 資本（純資産）会計
１３ 損益会計
１４ 貸借対照表の読み方
１５ 損益計算書の読み方、まとめ

会計学総論

2019-4010002113-02

中村　信博

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.会計学の基礎知識を修得する。　(A-1)

2.財務諸表の基本的作成ルールを修得し、会計情報の特徴を説明できる。(A-2)

3.会計情報に対する重要性の変化について説明でき、わが国会計制度に関する諸問題を指摘できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.会計学の基礎知識を修得する。　(A-1)

2.財務諸表の基本的作成ルールを修得し、会計情報の特徴を説明できる。(A-2)

3.会計情報に対する重要性の変化について説明でき、わが国会計制度に関する諸問題を指摘できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

会計学総論

2019-4010002113-02

中村　信博

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.会計学の基礎知識を修得する。　(A-1)

2.財務諸表の基本的作成ルールを修得し、会計情報の特徴を説明できる。(A-2)

3.会計情報に対する重要性の変化について説明でき、わが国会計制度に関する諸問題を指摘できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

会社簿記

2019-4010000360-01

長束　航

期別：後期　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・３時限, 金・３時限　　試験時間割：2020/01/16　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

簿記とは、一般に、ある経済主体の経済活動および経済事象を、貨幣額でもって帳簿に記録し、情報利用者が利用可能となるように集計する技術である。「簿記原理」では、簿記の基礎として個人商店における簿記を学習したが、本講義では、「簿記原理」を履修済みの者を対象として、会社、特に株式会社における簿記を学習する。

株式会社における簿記は、会社法・金融商品取引法などの諸法令に準拠して行われるために、個人商店における簿記よりもやや難易度が高い処理や、個人商店には存在しない株式会社特有の取引の処理を学習する必要がある。これを言い換えれば、株式会社における簿記を学ぶことは、会社法・金融商品取引法などの諸法令に規制される株式会社の仕組みを理解することであるともいえよう。

将来、諸君のうちほとんどの者が、株式会社と何らかの形で関わっていくものと思われるが、その際には、株式会社の仕組みおよびそこで行われる会計処理に関する知識が必要不可欠なものとなろう。したがって、本講義では、今後、他の会計諸学（財務会計論、管理会計論、原価計算論、会計監査論、経営分析論など）を専攻しようと志す者や、公認会計士・税理士などの職業会計人を目指す者はもとより、すべての学生が株式会社における簿記を修得できるように、できるだけわかりやすく講義するとともに、数多くの問題演習を行ってもらう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会社、特に株式会社における簿記を修得する。（具体的には、日本商工会議所簿記検定試験２級レベルの商業簿記を修得する。）(知識・理解)

簿記の知識を用いて企業（企業集団を含む）の財務諸表を作成し、企業の経営成績および財務状況を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、復習のための課題を提出してもらうので、復習だけは必ずやってください。（50分程度。ただし、定期試験や3回実施される中間テストのためには、それに加えて各5時間程度の学習が必要になる。）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として定期試験および授業中に3回実施される中間テストの結果により評価する。定期試験50%、中間テスト50%の割合で評点を算出する。ただし、課題の提出状況が良好な者については若干の加点を行うことがある。株式会社における簿記に関する総合問題を、早くかつ正確に解くことができるかどうかを単位認定の判断基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

TAC簿記検定講座『合格テキスト　日商簿記２級商業簿記』TAC出版／ISBN未定
TAC簿記検定講座『合格トレーニング　日商簿記２級商業簿記』TAC出版／ISBN未定
いずれも最新のものを利用してください。

◎－－－　参考書　－－－◎

広瀬義州『財務会計』第13版　中央経済社　ISBN 978-4502163418

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

すでに「簿記原理」を履修済みの者であれば身にしみていると思うが、簿記をマスターするためには、会計処理方法を理解するだけではなく、それが体にしみつくまで練習することが必要である。したがって、講義中にもできるだけ多くの練習問題を解いてもらうつもりであるが、それにくわえて自宅での復習および問題演習を必ず行ってほしい。また、簿記の学習は積み重ねの要素が強く、欠席するとその後の理解が困難になるので、必ず出席してほしい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　ガイダンス／「簿記原理」の復習（1）簿記一巡
2　「簿記原理」の復習（2）期中取引
3　「簿記原理」の復習（3）決算
4　財務諸表（損益計算書と貸借対照表）
5　商品売買
6　現金預金
7　債権・債務（手形取引を含む）
8　有形固定資産（1）購入・売却・減価償却
9　有形固定資産（2）その他の処理
10　中間テスト（1）
11　有価証券（1）購入・売却
12　有価証券（2）期末評価
13　リース取引
14　無形固定資産等と研究開発費／引当金／税金
15　株式の発行／事業譲渡と合併
16　剰余金の配当と処分
17　中間テスト（2）
18　決算手続（1）決算振替
19　決算手続（2）財務諸表の作成（損益計算書と貸借対照表）
20　決算手続（3）株主資本等変動計算書／収益・費用の計上
21　本支店会計（1）本支店間取引
22　本支店会計（2）決算手続／本支店合併財務諸表の作成
23　税効果会計（1）課税所得の算定
24　中間テスト（3）
25　税効果会計（2）税効果
26　外貨建取引
27　連結会計（1）資本連結
28　連結会計（2）成果連結
29　連結会計（3）連結財務諸表の作成
30　伝票

なお、会計基準の改訂などの影響により、授業計画も若干の変更の可能性がある。最終的な授業計画表を、第1回目の講義にて配布する予定である。

会社簿記

2019-4010000360-01

長束　航

◎商学:A-1,A-2

1.会社、特に株式会社における簿記を修得する。（具体的には、日本商工会議所簿記検定試験２級レベルの商業簿記を修得する。）　(A-1)

2.簿記の知識を用いて企業（企業集団を含む）の財務諸表を作成し、企業の経営成績および財務状況を説明することができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2

1.会社、特に株式会社における簿記を修得する。（具体的には、日本商工会議所簿記検定試験２級レベルの商業簿記を修得する。）　(A-1)

2.簿記の知識を用いて企業（企業集団を含む）の財務諸表を作成し、企業の経営成績および財務状況を説明することができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

会社簿記

2019-4010000360-01

長束　航

◎貿易:A-1,A-2

1.会社、特に株式会社における簿記を修得する。（具体的には、日本商工会議所簿記検定試験２級レベルの商業簿記を修得する。）　(A-1)

2.簿記の知識を用いて企業（企業集団を含む）の財務諸表を作成し、企業の経営成績および財務状況を説明することができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

会社簿記「18台以前」

2019-4010000360-03

園　弘子

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：通年：月・１時限　　試験時間割：2019/07/24　３時限,　2020/01/16　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

≪科目概要≫
　会計とは経済主体の経済活動を記録・計算・報告する一連の行為である。簿記はその会計実践の中でも、主として記録に関わる知識・技能である。この「会社簿記」では、株式会社を対象に企業で生じる各種取引に関して、会社法や金融商品取引法に基づく会計処理、帳票の利用、財務諸表等の作成知識を修得する。

≪講義概要≫
　本講義では、まず株式会社に関する組織および会計的特徴を解説する。その上で、株式会社での株式の発行、利益配当、外貨、預金、有価証券、手形、電子記録債権、固定資産、商品売買、リース、引当金、税金等のほか、企業間の連結や本支店間の扱い等についてその会計処理(主として仕訳)および帳票の活用、財務諸表の作成について、例題を解きながらこれを修得する。
　また各回講義の冒頭20分は、前回授業の復習及び確認テストを実施する。但しこのテストは評価点には反映しない。このテストは履修者が自己の復習状況等を途中段階として把握するためのものである。科目の成績は、履修最終段階での簿記修得状況をもって評価する。詳細は下記の「成績評価基準及び方法」の項を参照すること。

◎－－－　到達目標　－－－◎

・株式会社の基本的特徴を会計的視点(資金調達、剰余金処分などの視点)で説明できる。(知識・理解)

・株式発行、剰余金の配当、増減資、預金、外貨、手形、有価証券、商品売買、リース、引当金、税金のほか、企業間の連結や本支店間の扱い等に関するに会計処理ができる。(知識・理解)

・総勘定元帳の各種勘定口座、伝票、仕訳日計表、銀行勘定調整表、試算表、精算表、財務諸表などの会計処理上の意義を理解し、これを作成できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回の授業出席に対し
・予習(テキストの該当箇所を読んでくる)…30分程度
・復習(テキスト再読と授業で指示された問題を解くなどの練習)…90分程度

　簿記は「わかる」と「できる」の間に隔たりがある。講義で理解したことを時間を空けずに問題を解くなどして復習を繰り返すことで、会計処理知識は定着する。また授業時間は僅かな例題を解くが主は解説である。問題演習は自宅学習でこれを怠らないことが、会社簿記修得では重要である。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

≪前期点、後期点≫　定期試験…100%
　・取引に関する仕訳
　・帳票、財務諸表の作成
　・会計数値の計算

≪学年点≫　その学生にとって、①と②の高い方の点数を学年点とする。
①　(前期点 + 後期点)÷ 2
②　後期点

◎－－－　テキスト　－－－◎

滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級 商業簿記』、　TAC株式会社
ISBN; 未定　最新版を購入すること

◎－－－　参考書　－－－◎

渡部裕亘・片山覚・北村敬子編『検定簿記ワークブック/ 2級 商業簿記』中央経済社　ISBN 978450257216

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・入門簿記である「簿記原理」の内容を修得しこの科目を履修することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第 1講 簿記原理の復習
第 2講 株式会社とは
第 3講 株式の発行
第 4講 剰余金の処分/株主資本の係数変動
第 5講 税金
第 6講 商品売買
第 7講 手形、電子記録債権
第 8講 銀行勘定調整表
第 9講 固定資産
第10講 リース取引
第11講 研究開発費と無形固定資産
第12講 有価証券
第13講 引当金
第14講 前期小括1(演習を含む)
第15講 前期小括2(演習を含む)
・・・・・・・・・
第16講 前期復習
第17講 収益・費用
第18講 外貨建取引
第19講 伝票と仕訳日計表
第20講 精算表と財務諸表
第21講 税効果会計
第22講 簿記一巡の流れ復習
第23講 帳簿の締め切り
第24講 本支店会計
第25講 連結会計Ⅰ
第26講 連結会計Ⅱ
第27講 連結会計Ⅲ
第28講 後期小括1(演習を含む)
第29講 後期小括2(演習を含む)
第30講 総括

テキストの改訂版出版に伴い内容に多少の変更が生じる可能性がある。その場合は授業において変更内容を書面配布し伝達する。

会社簿記「18台以前」

2019-4010000360-03

園　弘子

◎商学:A-1,A-2

1.・株式会社の基本的特徴を会計的視点(資金調達、剰余金処分などの視点)で説明できる。　(A-1)

2.・株式発行、剰余金の配当、増減資、預金、外貨、手形、有価証券、商品売買、リース、引当金、税金のほか、企業間の連結や本支店間の扱い等に関するに会計処理ができる。　(A-2)

3.・総勘定元帳の各種勘定口座、伝票、仕訳日計表、銀行勘定調整表、試算表、精算表、財務諸表などの会計処理上の意義を理解し、これを作成できる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2

1.・株式会社の基本的特徴を会計的視点(資金調達、剰余金処分などの視点)で説明できる。　(A-1)

2.・株式発行、剰余金の配当、増減資、預金、外貨、手形、有価証券、商品売買、リース、引当金、税金のほか、企業間の連結や本支店間の扱い等に関するに会計処理ができる。　(A-2)

3.・総勘定元帳の各種勘定口座、伝票、仕訳日計表、銀行勘定調整表、試算表、精算表、財務諸表などの会計処理上の意義を理解し、これを作成できる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

会社簿記「18台以前」

園　弘子

2019-4010000360-03

◎貿易:A-1,A-2

1.・株式会社の基本的特徴を会計的視点(資金調達、剰余金処分などの視点)で説明できる。　(A-1)

2.・株式発行、剰余金の配当、増減資、預金、外貨、手形、有価証券、商品売買、リース、引当金、税金のほか、企業間の連結や本支店間の扱い等に関するに会計処理ができる。　(A-2)

3.・総勘定元帳の各種勘定口座、伝票、仕訳日計表、銀行勘定調整表、試算表、精算表、財務諸表などの会計処理上の意義を理解し、これを作成できる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

観光産業論

2019-4010000339-01

田村　馨

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・１時限　　試験時間割：2019/07/27　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　サービスマーケティングでは、サービスビジネスやサービス産業に必要なマーケティングについて解説していきます。具体的には、事例を素材にしたケーススタディと理論的な説明を織り交ぜながら進めます。事例として取り上げるのは、大学生にとって馴染みがある観光産業や集客産業ですが、ネット関係のサービスビジネスも事例として紹介していくつもりです。
　モノのマーケティングとサービスのマーケティングは根本的に異なります。モノのマーケティングに慣れた方にはゼロベースで講義に臨むことを期待します。また、サービス関係の研究や講義では一般的なモノとサービスを対比的にとらえる認識も講義では乗り越えるべき「固定観念」と位置付けられます。時代が大きく変わる中、マーケティングそのものも変わらざるを得ません。
　講義では、サービスマーケティングをめぐる現実のダイナミックな動き、複雑な要因が絡む現場の実態やそこで要請されるノウハウ、センスなどの情報が提供されるでしょう。
　次の講義の予告を毎回するので関連するサイトや文献を事前に学習し、講義中にお知らせするサイトや文献による事後学習をおすすめします。

【担当者が実務経験者の授業科目】
・中央官庁、民間のコンサルティングファームでの勤務経験を活かし、理論と実践の橋渡しがどのように行われるか、あるいはどのように行うべきかに関して解説します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

サービスビジネスにマーケティングが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスが取り組むべき課題についてマーケティングの観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスの進むべき方向についてマーケティングの観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスに必要なマーケティングの実践例を事例を素材に説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・次回の講義に向けて紹介するネット上の情報、記事、文献に目を通すことを前提に講義は進めます（予習180分）。
・講義中に素材にしたケースや理論に関する記事、文献、動画等を復習し講義を振り返ることが必要です（復習180分）。
・マーケティングに関する概念、理論、フレームワークを文献や記事で継続的に学ぶことが求められます（通常学習180分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験の結果で評定します。割合は１００％です。評価基準は「サービスビジネスの特徴をその現状と課題から理解し、モノのマーケティングとは違う新しいマーケティングがサービスビジネスに必要であることを解説できると同時に、サービスマーケティングがどういうものであるかを先入観、固定観念に縛られず説明できる」です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

　参考文献は講義の中で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義は、通して受講することで理解が促されるように設計されているので、毎回受講されることを望みます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　サービスビジネスとは何か
2　サービスとは何か―サービスの特性１
3　サービスとは何か－サービスの特性２
4　サービスマーケティングとは何か－理論編１
5　サービスマーケティングとは何か－理論編２
6　ケーススタディ：スポーツ観戦ビジネス
7　ケーススタディ：ニセコ
8　ケーススタディ：黒川温泉
9　ケーススタディ：旅館再生
10　ケーススタディ：日本型ホスピタリティ
11　ケーススタディ：日本型インバウンド戦略
12　ケーススタディ：スタジアムビジネス
13　サービスマーケティングと価値共創
14　サービスマーケティングの進化
15　講義の振り返り
（講義の順番や中身は受講生の関心やその時々のトピックス、ニュースなどによって変わる場合があります。）

観光産業論

2019-4010000339-01

田村　馨

◎商学

1.サービスビジネスにマーケティングが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。　(A-2)

2.サービスビジネスが取り組むべき課題についてマーケティングの観点から説明できる。　(A-3)

3.サービスビジネスの進むべき方向についてマーケティングの観点から説明できる。　(A-4)

4.サービスビジネスに必要なマーケティングの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-5)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

外書講読上級Ａ

2019-4010000369-01

服部　彰

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：金・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

１．この外書講読の目標は、経済および政治に関する専門的な優れた文章を読み、専門的な英語がどのようなものかを学びます。
２．専門的な英語文章を訳し、英語の文章の内容を十分伝えることのできる日本語の文章を作成する力を養います。
３．そのためには、英語の文章の内容を十分理解することが大切です。英語の文章が何を意味しているのかを十分理解する力もつけます。
４．単なる英語の単語を日本語にするのではなく、訳した日本語の文章を読めば日本語の文章の意味だけではなく、英語の文章の内容も十分わかるようにする力を養います。
５．したがって、英語の文章を理解し、翻訳する力と同時に日本語の文章の作成力を養います。
６．そして、自分が作成した、日本語の文章をみながら同じ内容の英語の表現ができる力を、口頭での英語表現、文章での英語表現を繰り返し行い、日本語の力と英語の力を養います。
７．経済および政治に関して、世界で広く読まれているWall Street Journalを題材としてもちいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学に関する基本的な英語文献を読むことがでる。(知識・理解)

商学に関する必要な英語情報の収集・分析ができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

１．予習：インターネットなどで入手可能な題材を使います。予習に必要な題材を指摘しますので、その部分について、声を出しながら英文を読み、日本語に直してみる作業をしてください。
２．復習：題材をみながら、外書講読の時間に行った作業をもう一度行うという形で、復習をしてください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．評価の基準：講義で使われる英語の文章とそれに対応した日本語文章について、理解する力、読む力、書く力、話す力の到達度を成績評価基準とします。
２．方法：外書講読の時間中に要求した、日本語の文章、あるいは英語の文章で判断するという方法をとります。理由は、客観的な評価ができるからです。

◎－－－　テキスト　－－－◎

ありません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

「前期」
１．講義運営方法の説明
２．Wall Street Journalを題材とした学習
３．Wall Street Journalを題材とした学習
４．Wall Street Journalを題材とした学習
５．Wall Street Journalを題材とした学習
６．Wall Street Journalを題材とした学習
７．Wall Street Journalを題材とした学習
８．Wall Street Journalを題材とした学習
９．Wall Street Journalを題材とした学習
１０．Wall Street Journalを題材とした学習
１１．Wall Street Journalを題材とした学習
１２．Wall Street Journalを題材とした学習
１３．Wall Street Journalを題材とした学習
１４．質疑応答
１５．まとめ

外書講読上級Ａ

2019-4010000369-01

服部　彰

◎商学:A-1,B-4

1.商学に関する基本的な英語文献を読むことがでる。　(A-1)

2.商学に関する必要な英語情報の収集・分析ができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.商学に関する基本的な英語文献を読むことがでる。　(A-1)

2.商学に関する必要な英語情報の収集・分析ができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読上級Ａ

2019-4010000369-01

服部　彰

◎貿易:A-1,B-4

1.商学に関する基本的な英語文献を読むことがでる。　(A-1)

2.商学に関する必要な英語情報の収集・分析ができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読上級Ａ

2019-4010000369-02

石上　悦朗

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　アジア諸国とその経済が世界経済の牽引車として注目されておよそ20年以上経過している。製造業やサービス産業の発展による一人当たり所得は、国によるばらつきはあるものの、大方長期的に増大するトレンドを示している。アジアの中でインドは中国と並ぶ人口大国であり、またBRICsの一員として経済成長の可能性が注目されている。インドのITサービス産業（コンピュータソフトウェア）の発展に注目が集まり、そして「○○億人の中間層と巨大な市場」といった「光」の側面を強調する記事類もよく目にする。
　しかしながら、アジア諸国の人間開発に関わる基本的な諸指標、たとえば貧困人口と所得分配の不平等、教育や健康さらには住民参加と民主主義などについては、概して大きな格差を背景としていまだ取り組むべき課題であることが共通してみられる。
　本講義では人間開発に関わるこれらの問題、課題とともに、インド・南アジア地域で生起している様々な新しいビジネス（ソーシャルビジネス、BOPビジネスなど）に関する英語文献を読み進め理解を深める。同時に、この地域における日本の立場とかかわりについて現地ではどのように見ているのだろうか？これは重要な視点であろう。このために、日本の企業や人々さらには政府などがこの地域とどのようにかかわっており、交流しているかについて現地発の英語情報で理解を試みる。なお、必要に応じて、日本語の文献にも当たり、受講生に発表を求めることがある。
　この地域・諸国の文化的特徴を理解するためのトピックとなる話題も折々取り上げる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本と同じアジアに属するインド・南アジア諸国の経済発展の特徴および日本とのかかわりについて、主に英文資料に依拠して基礎的な理解ができる。(知識・理解)

この地域の産業発展の課題と文化的背景および日本との交流発展の在り方などについて考えることができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・外書講読は事前に教材の英文を読解（ノートに訳文を書く）することが基本です。（60分）
・授業で訂正あるいは練り上げた英文の内容を検討することが重要です（復習、30分）。
・また、トピックに関連する日本語文献も読んでもらいます。（20分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・教材の英文を専門用語、書かれている背景などを理解したうえで適切な日本語に訳出しできているかを評価の基準とする。
・評価の方法は講義時における発表（40%）、ノート提出による確認（40%）および数回課す短いレポート（20%）で行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講読資料を配布する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義の内容上、開発経済論、アジア経済論および国際協力論などを受講していることが望ましいが、関心のある受講生は誰でも歓迎する。
毎回出席すること。就職活動等でやむなく欠席するときはその回の担当分を提出してもらいます。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　講義案内
2～5　インドと南アジアおよび国際機関発行の人間開発に関する資料・文献の輪読
6~10　インドと南アジア諸国の産業発展の特徴に関する文献の輪読
11～14　日本のインド・南アジアとのかかわりについての文献の輪読
15　講義のまとめ

外書講読上級Ａ

2019-4010000369-02

石上　悦朗

◎商学:A-1,B-4

1.日本と同じアジアに属するインド・南アジア諸国の経済発展の特徴および日本とのかかわりについて、主に英文資料に依拠して基礎的な理解ができる。(A-1)

2.この地域の産業発展の課題と文化的背景および日本との交流発展の在り方などについて考えることができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.日本と同じアジアに属するインド・南アジア諸国の経済発展の特徴および日本とのかかわりについて、主に英文資料に依拠して基礎的な理解ができる。(A-1)

2.この地域の産業発展の課題と文化的背景および日本との交流発展の在り方などについて考えることができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読上級Ａ

2019-4010000369-02

石上　悦朗

◎貿易:A-1,B-4

1.日本と同じアジアに属するインド・南アジア諸国の経済発展の特徴および日本とのかかわりについて、主に英文資料に依拠して基礎的な理解ができる。(A-1)

2.この地域の産業発展の課題と文化的背景および日本との交流発展の在り方などについて考えることができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読上級Ｂ

2019-4010000370-01

服部　彰

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

１．この外書講読の目標は、経済および政治に関する専門的な優れた文章を読み、専門的な英語がどのようなものかを学びます。
２．専門的な英語文章を訳し、英語の文章の内容を十分伝えることのできる日本語の文章を作成する力を養います。
３．そのためには、英語の文章の内容を十分理解することが大切です。英語の文章が何を意味しているのかを十分理解する力もつけます。
４．単なる英語の単語を日本語にするのではなく、訳した日本語の文章を読めば日本語の文章の意味だけではなく、英語の文章の内容も十分わかるようにする力を養います。
５．したがって、英語の文章を理解し、翻訳する力と同時に日本語の文章の作成力を養います。
６．そして、自分が作成した、日本語の文章をみながら同じ内容の英語の表現ができる力を、口頭での英語表現、文章での英語表現を繰り返し行い、日本語の力と英語の力を養います。
７．経済および政治に関して、世界で広く読まれているWall Street Journalを題材としてもちいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学に関する質の高い基本英語文献を理解できる。(知識・理解)

商学に関する重要な情報を収集し分析できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

１．予習：インターネットなどで入手可能な題材を使います。予習に必要な題材を指摘しますので、その部分について、声を出しながら英文を読み、日本語に直してみる作業をしてください。
２．復習：題材をみながら、外書講読の時間に行った作業をもう一度行うという形で、復習をしてください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．評価の基準：講義で使われる英語の文章とそれに対応した日本語文章について、理解する力、読む力、書く力、話す力の到達度を成績評価基準とします。
２．方法：外書講読の時間中に要求した、日本語の文章、あるいは英語の文章で判断するという方法をとります。理由は、客観的な評価ができるからです。

◎－－－　テキスト　－－－◎

ありません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．講義運営方法の説明
２．Wall Street Journalを題材とした学習
３．Wall Street Journalを題材とした学習
４．Wall Street Journalを題材とした学習
５．Wall Street Journalを題材とした学習
６．Wall Street Journalを題材とした学習
７．Wall Street Journalを題材とした学習
８．Wall Street Journalを題材とした学習
９．Wall Street Journalを題材とした学習
１０．Wall Street Journalを題材とした学習
１１．Wall Street Journalを題材とした学習
１２．Wall Street Journalを題材とした学習
１３．Wall Street Journalを題材とした学習
１４．質疑応答
１５．まとめ

外書講読上級Ｂ

2019-4010000370-01

服部　彰

◎商学:A-1,B-4

1.商学に関する質の高い基本英語文献を理解できる。　(A-1)

2.商学に関する重要な情報を収集し分析できる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.商学に関する質の高い基本英語文献を理解できる。　(A-1)

2.商学に関する重要な情報を収集し分析できる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読上級Ｂ

2019-4010000370-01

服部　彰

◎貿易:A-1,B-4

1.商学に関する質の高い基本英語文献を理解できる。　(A-1)

2.商学に関する重要な情報を収集し分析できる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読上級Ｂ

2019-4010000370-02

木幡　伸二

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

最初に英文記事の読み方について説明した後、中国経済に関する英文の新聞記事を読む。中国の経済成長とマクロ経済、対外経済関係、中国経済の諸問題及び日中（経済）関係の４つのテーマから記事を選択する。
まず、学生が記事の日本語訳の発表を行い、次に、担当者が記事の翻訳や記事の背景について解説する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

中国経済に関する英語の経済記事を読むために必要な基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

中国経済が取り組むべき課題を解決するために情報技術等を用いて国内外の事例（情報）を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習では、新聞記事について日本語の記事なども参考にしながら日本語に翻訳し、授業での発表に備える。（１２０分）
復習では、担当者の解説を参考にしながら翻訳を確認し、関連資料などにも目を通しておくこと。（６０分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

平常点８０％、期末レポートの評価２０％を目安に総合的に評価する。平常点は、授業への参加態度積極的であるか（４０％）、授業での日本語訳が適切か（２０％）、記事の概要を理解しているか（２０％）を基準として評価する。期末レポートは、記事の概要を理解した日本語訳ができるかどうかを基準にして評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しない。必要な資料は担当者が準備する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

予習、復習及び授業で英語の辞書が必要である。通常の辞書に加え、経済英語の辞書を準備することが望ましい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　授業概要
２　英文経済記事の読み方
３　中国の経済成長
４　中国のマクロ経済の現状
５　中国の対外貿易
６　中国の対外投資
７　AIIBの動向
８　中台経済関係
９　中国と香港
１０　中国のエネルギー
１１　中国の環境問題
１２　中国の所得格差
１３　日中関係
１４　日中経済関係
１５　期末レポートの課題の提示

外書講読上級Ｂ

2019-4010000370-02

木幡　伸二

◎商学:A-1,B-4

1.中国経済に関する英語の経済記事を読むために必要な基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.中国経済が取り組むべき課題を解決するために情報技術等を用いて国内外の事例（情報）を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.中国経済に関する英語の経済記事を読むために必要な基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.中国経済が取り組むべき課題を解決するために情報技術等を用いて国内外の事例（情報）を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読上級Ｂ

2019-4010000370-02

木幡　伸二

◎貿易:A-1,B-4

1.中国経済に関する英語の経済記事を読むために必要な基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.中国経済が取り組むべき課題を解決するために情報技術等を用いて国内外の事例（情報）を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読上級Ｃ

2019-4010000371-01

井上　伊知郎

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

1.　この外書講読の目的は、専門的な英文を読み、理解し、翻訳し、英文に対応した適切な日本語の文章を作成する力をつけることです。
2.　題材は、「経済」、「政治」などの時事問題です。英文についてだけでなく内容についても解説します。
3.　教材はFinancial Times(英国)などです。
4.　文型を中心に英文の構造を把握できるように、文法の解説に力を入れます。
5.　参加者には英文に関する自分の解釈を順番に発表してもらいます。
6.　各自の解釈について参加者との質疑応答の時間を設けます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。(技能)

英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。(知識・理解)

参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　教材の講義予定個所を事前に予習して文型を把握し、英文の文法構造を解明しておくこと。翻訳ソフトを決して使わず、各自の文法構造の理解に即した翻訳をしておくこと。「経済」「政治」の内容についても予習して理解を深めておくこと。講義では、文法上からの英文の解釈だけではなくテキストの内容についても解説しますが、理解できなかった部分については復習し、次回に質問すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　本講義の目的に即して、文法上の英文読解能力、翻訳能力、英文に対応した日本語文章作成能力、内容についての理解度、課題への対応状況を含む授業への取り組み姿勢から総合的に判断します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

Financial Timesなどの英字新聞から、「経済」「政治」に関する専門的な内容の記事を選び、配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　出席、予習、復習に努めてください。日頃から日本の新聞や経済雑誌を読んでおくと、理解しやすいと思います。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.　講義運営方法の説明
2.　教材の読解と質疑応答（1）
3.　教材の読解と質疑応答（2）
4.　教材の読解と質疑応答（3）
5.　教材の読解と質疑応答（4）
6.　教材の読解と質疑応答（5）
7.　教材の読解と質疑応答（6）
8.　教材の読解と質疑応答（7）
9.　教材の読解と質疑応答（8）
10. 教材の読解と質疑応答（9）
11. 教材の読解と質疑応答（10）
12. 教材の読解と質疑応答（11）
13. 教材の読解と質疑応答（12）
14. 教材の読解と質疑応答（13）
15. まとめ

外書講読上級Ｃ

2019-4010000371-01

井上　伊知郎

◎商学:A-1,B-4

1.文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。　(B-4)

2.英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。　(A-1)

3.参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。　(B-4)

2.英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。　(A-1)

3.参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読上級Ｃ

2019-4010000371-01

井上　伊知郎

◎貿易:A-1,B-4

1.文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。　(B-4)

2.英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。　(A-1)

3.参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読A「13台以前」

2019-4010000366-01

井上　伊知郎

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

1.　この外書講読の目的は、比較的易しい英文を読み、理解し、翻訳し、英文に対応した適切な日本語の文章を作成する力をつけることです。
2.　題材は、「経済」、「政治」などの時事問題です。英文についてだけでなく内容についても解説します。
3.　教材はFinancial Times(英国)やJapan Times（日本）などです。
4.　文型を中心に英文の構造を把握できるように、文法の解説に力を入れます。
5.　参加者には英文に関する自分の解釈を順番に発表してもらいます。
6.　各自の解釈について参加者との質疑応答の時間を設けます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。(技能)

英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。(知識・理解)

参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　教材の講義予定個所を事前に予習して文型を把握し、英文の文法構造を解明しておくこと。翻訳ソフトを決して使わず、各自の文法構造の理解に即した翻訳をしておくこと。「経済」「政治」の内容についても予習して理解を深めておくこと。講義では、文法上からの英文の解釈だけではなくテキストの内容についても解説しますが、理解できなかった部分については復習し、次回に質問すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　本講義の目的に即して、文法上の英文読解能力、翻訳能力、英文に対応した日本語文章作成能力、内容についての理解度、課題への対応状況を含む授業への取り組み姿勢から総合的に判断します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

Financial Times、Japan Timesなどの英字新聞から、「経済」「政治」に関する比較的易しい記事を選び、配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　出席、予習、復習に努めてください。日頃から日本の新聞や経済雑誌を読んでおくと、理解しやすいと思います。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

「前期」
1.　講義運営方法の説明
2.　教材の読解と質疑応答（1）
3.　教材の読解と質疑応答（2）
4.　教材の読解と質疑応答（3）
5.　教材の読解と質疑応答（4）
6.　教材の読解と質疑応答（5）
7.　教材の読解と質疑応答（6）
8.　教材の読解と質疑応答（7）
9.　教材の読解と質疑応答（8）
10. 教材の読解と質疑応答（9）
11. 教材の読解と質疑応答（10）
12. 教材の読解と質疑応答（11）
13. 教材の読解と質疑応答（12）
14. 教材の読解と質疑応答（13）
15. まとめ

「後期」
1.　講義運営方法の説明
2.　教材の読解と質疑応答（1）
3.　教材の読解と質疑応答（2）
4.　教材の読解と質疑応答（3）
5.　教材の読解と質疑応答（4）
6.　教材の読解と質疑応答（5）
7.　教材の読解と質疑応答（6）
8.　教材の読解と質疑応答（7）
9.　教材の読解と質疑応答（8）
10. 教材の読解と質疑応答（9）
11. 教材の読解と質疑応答（10）
12. 教材の読解と質疑応答（11）
13. 教材の読解と質疑応答（12）
14. 教材の読解と質疑応答（13）
15. まとめ

外書講読Ａ「13台以前」

2019-4010000366-01

井上　伊知郎

◎商学

1.文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。　(B-4)

2.英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。　(A-1)

3.参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

外書講読A「13台以前」

2019-4010000366-02

長谷川　伸子

期別：通年　　単位数：4　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

精神論で語られることの多かった「ポジティブ」（前向き）という概念について、「ポジティブ心理学」というジャンルが今世紀に入って確立され、欧米では教育界、ビジネス界などでその成果が応用されている。
本書はアメリカの心理学者バーバラ・フレドリクソンの著書で、上昇スパイラルに導く「ポジティブ感情とネガティブ感情の黄金比」に迫る科学的研究の結果を、一般向けに解説している。

授業は予習課題を基に、主にグループワークで進める。内容を理解することはもちろん、それを毎日の生活に役立てることを目指す。

従って、以下の２つを積極的にやる意欲のある学生の履修を求める。
①グループワークで、個人的な目標や行動について話すこと
②本書に書かれているアドバイスを試しに実践してみること

◎－－－　到達目標　－－－◎

ポジティブ心理学についての基礎知識を説明できる。(知識・理解)

グループワークでリーダーシップを発揮することができる。(技能)

ポジティブ心理学を活用して、地域や社会の発展に貢献する。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・原則として毎回、A4用紙1枚の予習課題を出します。毎週の予習に必要な時間は、英語力により1～3時間。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・予習課題の評点
・授業中にどれだけ理解を深めたか
・グループワークにどれだけ寄与したか

評価方法
平常点：100%
予習課題の提出回数・内容・授業中の加筆内容
グループワークにおける積極性や協調性
プレゼンテーションの内容と発表能力

◎－－－　テキスト　－－－◎

Fredrickson, Ph.D., Barbara(2009)“ Positivity: Top-Notch Research Reveals the Upward Spiral That Will Change Your Life ”, Harmony, 1,945円,ISBN 978-0307393746

◎－－－　参考書　－－－◎

ポジティブな人だけがうまくいく3：1の法則　ISBN 978-4534047243
LOVE2.0 あたらしい愛の科学　ISBN 978-4791767809
実践 ポジティブ心理学 幸せのサイエンス　ISBN 978-4569836171

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・予習ができていない場合は、厳正に対処するので注意してください。
・宿題やグループワーク・発表が毎回あることを　承知して履修してくだい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限　科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期：
1 Introduction
2-8 Chapter 5 Build Your Best Future
9-15 Chapter 6 Bounce Back from Life's Challenges

後期
1 Introduction
2-5 Chapter 7 The Positiity Ratio
6-10 Chapter 8 Where Are You Now?
11-15 Chapter 9 Decrease Negativiy

外書講読A「13台以前」

2019-4010000366-02

長谷川　伸子

◎商学

1.ポジティブ心理学についての基礎知識を説明できる。　(A-1)

2.グループワークでリーダーシップを発揮することができる。　(B-3)

3.ポジティブ心理学を活用して、地域や社会の発展に貢献する。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

外書講読A「13台以前」

2019-4010000366-03

深川　博史

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　この授業の目的は、20世紀前半における日本と東アジアの経済関係や、東アジアの経済発展における日本の影響について、英語論文の講読により理解を深めることです。20世紀前半の日本経済においては、急速な工業化に農業の発展が追いつかず、農工間の不均等発展が生じました。その結果、農村過剰人口や食糧の不足といった問題が発生し、日本の影響下にあった東アジアに問題の解決が期待されました。日本の影響下における東アジアの経済開発は、1910年代から20年代は農業中心でしたが、1930年代以降は工業化が推進されました。それらの政策により東アジアの社会経済は変貌し、20世紀後半における東アジアの経済発展に影響を与えることになりました。
　この授業では、20世紀前半において日本が抱えていた経済問題は何か、それらの問題を解決する上で東アジアには何が期待されたのか、東アジアにおける日本の経済政策により、東アジアの社会経済はどのように変化し、それは、20世紀後半の東アジアの発展に如何なる影響を与えたのか、歴史および産業の観点から学習を進めていきます。
　具体的なテーマは、 20世紀前半における日本経済の変化と問題、20世紀前半における日本と東アジアの経済関係、20世紀前半における東アジアの経済開発、東アジアにおける経済開発の影響等です。
　授業では、英語論文を一緒に読みながら、教員が日本と東アジアの経済関係や東アジアの開発について解説します。受講者は事前に、授業予定部分を読んでくることを求められます。また受講者は、テキストの担当部分の報告を求められます。
　受講者には、英語論文の理解を深めるために、日本経済論Aの受講を推奨します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、外国語能力を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講読は、受講生に担当を割り当てますので、十分な予習が必要です。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　到達目標に沿って、成績評価を行います。具体的には、担当部分の報告についての、準備状況、発表内容、質疑応答により評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　講読のテキストは、事前に資料を配付します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　毎回、出欠を確認します。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. 全体の解説
2-6回. 日本における農工間の不均等発展
7-11回. 日本と東アジアの経済関係
12-15回. 東アジアにおける日本の経済開発
16. 全体の解説
17-21回. 農業中心の開発政策
22-26回. 工業中心の開発政策
27-30回. 開発政策の影響

外書講読A「13台以前」

2019-4010000366-03

深川　博史

◎商学

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、外国語能力を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

3.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

外書講読A「13台以前」

2019-4010000366-04

鮑　慧

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　日本の経済及び日本の租税政策に係る英語文献を講読する。まず、新聞によく取り上げられる日本の経済及び租税政策に係る入門知識を平易な英語文献をもって解説する。次に、日本における経済政策又は、租税政策のもたらす効果及び企業にかかわる時事の英語文献を講読する。必要に応じて、予習資料に専門用語及び難しい文法の注釈を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1. 日本の経済及び租税制度に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。(知識・理解)

2. 経済新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。(知識・理解)

3. グループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

1. 使用する資料を事前に読み、予習すること。
2. 受講した後は、再度、内容を確認すること。なお、理解度を確認するため
　に定期的に小テストを行う。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

1. 日本の経済及び租税制度に係わる英語文献を理解しているかどうかを
　評価基準とし、小テスト（40%）を用いて理解度のチェックを行う。
2. 授業で配布する資料の予習ができているか、授業で取り上げるテーマを
　理解するための情報収集ができているかを評価基準とし、授業における
　討論への参加度（30%）を総合的に評価する。
3. 授業で取り上げられたテーマのうち、もっとも興味を持った内容で、論理
　的に自分の見解を述べているかを評価基準とし、最終レポートを提出して
　もらう。（30%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

　毎回の授業後に、次回の授業に使用する資料を配布する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　「辞書」を準備すること。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
第1回
　授業のガイダンス
第2~5回
　日本経済の基礎知識に関する英語文献講読
第6~10回
　世界経済と日本経済の比較に関する英語文献講読
第11~14回
　日本経済の課題に関する英語文献講読
第15回
　前期授業のまとめ

後期
第1回
　授業のガイダンス
第2回
　租税と市民運動
第3~6回
　近年の税制改革に関する英語文献講読
第7~10回
　租税制度の基礎に関する英語文献講読
第11~14回
　近年の企業時事に関する英語文献講読
第15回
　後期授業のまとめ

外書講読A「13台以前」

2019-4010000366-04

鮑　慧

◎商学

1.1. 日本の経済及び租税制度に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。　(A-2)

2.2. 経済新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。　(A-3)

3.3. グループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-01

井上　伊知郎

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

1.　この外書講読の目的は、比較的易しい英文を読み、理解し、翻訳し、英文に対応した適切な日本語の文章を作成する力をつけることです。
2.　題材は、「経済」、「政治」などの時事問題です。英文についてだけでなく内容についても解説します。
3.　教材はFinancial Times(英国)やJapan Times（日本）などです。
4.　文型を中心に英文の構造を把握できるように、文法の解説に力を入れます。
5.　参加者には英文に関する自分の解釈を順番に発表してもらいます。
6.　各自の解釈について参加者との質疑応答の時間を設けます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。(技能)

英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。(知識・理解)

参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　教材の講義予定個所を事前に予習して文型を把握し、英文の文法構造を解明しておくこと。翻訳ソフトを決して使わず、各自の文法構造の理解に即した翻訳をしておくこと。「経済」「政治」の内容についても予習して理解を深めておくこと。講義では、文法上からの英文の解釈だけではなくテキストの内容についても解説しますが、理解できなかった部分については復習し、次回に質問すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　本講義の目的に即して、文法上の英文読解能力、翻訳能力、英文に対応した日本語文章作成能力、内容についての理解度、課題への対応状況を含む授業への取り組み姿勢から総合的に判断します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

Financial Times、Japan Timesなどの英字新聞から、「経済」「政治」に関する比較的易しい記事を選び、配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　出席、予習、復習に努めてください。日頃から日本の新聞や経済雑誌を読んでおくと、理解しやすいと思います。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.　講義運営方法の説明
2.　教材の読解と質疑応答（1）
3.　教材の読解と質疑応答（2）
4.　教材の読解と質疑応答（3）
5.　教材の読解と質疑応答（4）
6.　教材の読解と質疑応答（5）
7.　教材の読解と質疑応答（6）
8.　教材の読解と質疑応答（7）
9.　教材の読解と質疑応答（8）
10. 教材の読解と質疑応答（9）
11. 教材の読解と質疑応答（10）
12. 教材の読解と質疑応答（11）
13. 教材の読解と質疑応答（12）
14. 教材の読解と質疑応答（13）
15. まとめ

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-01

井上　伊知郎

◎商学:A-1,B-4

1.文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。　(B-4)

2.英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。　(A-1)

3.参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。　(B-4)

2.英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。　(A-1)

3.参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-01

井上　伊知郎

◎貿易:A-1,B-4

1.文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。　(B-4)

2.英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。　(A-1)

3.参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-02

長谷川　伸子

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：水・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

精神論で語られることの多かった「ポジティブ」（前向き）という概念について、「ポジティブ心理学」というジャンルが今世紀に入って確立され、欧米では教育界、ビジネス界などでその成果が応用されている。
本書はアメリカの心理学者バーバラ・フレドリクソンの著書で、上昇スパイラルに導く「ポジティブ感情とネガティブ感情の黄金比」に迫る科学的研究の結果を、一般向けに解説している。

授業は予習課題を基に、主にグループワークで進める。内容を理解することはもちろん、それを毎日の生活に役立てることを目指す。

従って、以下の２つを積極的にやる意欲のある学生の履修を求める。
①グループワークで、個人的な目標や行動について話すこと
②本書に書かれているアドバイスを試しに実践してみること

◎－－－　到達目標　－－－◎

ポジティブ心理学についての基礎知識を説明できる。(知識・理解)

ポジティブ心理学を企業・産業・地域の課題解決に応用できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・原則として毎回、A4用紙1枚の予習課題を出します。毎週の予習に必要な時間は、英語力により1～3時間。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・予習課題の評点
・授業中にどれだけ理解を深めたか
・グループワークにどれだけ寄与したか

評価方法
平常点：100%
予習課題の提出回数・内容・授業中の加筆内容
グループワークにおける積極性や協調性
プレゼンテーションの内容と発表能力

◎－－－　テキスト　－－－◎

Fredrickson, Ph.D., Barbara(2009)“ Positivity: Top-Notch Research Reveals the Upward Spiral That Will Change Your Life ”, Harmony, 1,945円,ISBN 978-0307393746

◎－－－　参考書　－－－◎

ポジティブな人だけがうまくいく3：1の法則　ISBN 978-4534047243
LOVE2.0 あたらしい愛の科学　ISBN 978-4791767809
実践 ポジティブ心理学 幸せのサイエンス　ISBN 978-4569836171

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・予習ができていない場合は、厳正に対処するので注意してください。
・宿題やグループワーク・発表が毎回あることを　承知して履修してくだい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限　科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 Introduction
2-8 Chapter 5 Build Your Best Future
9-15 Chapter 6 Bounce Back from Life's Challenges

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-02

長谷川　伸子

◎商学:A-1,B-4

1.ポジティブ心理学についての基礎知識を説明できる。　(A-1)

2.ポジティブ心理学を企業・産業・地域の課題解決に応用できる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.ポジティブ心理学についての基礎知識を説明できる。　(A-1)

2.ポジティブ心理学を企業・産業・地域の課題解決に応用できる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-02

長谷川　伸子

◎貿易:A-1,B-4

1.ポジティブ心理学についての基礎知識を説明できる。　(A-1)

2.ポジティブ心理学を企業・産業・地域の課題解決に応用できる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-03

深川　博史

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　この授業の目的は、20世紀前半における日本と東アジアの経済関係や、東アジアの経済発展における日本の影響について、英語論文の講読により理解を深めることです。20世紀前半の日本経済においては、急速な工業化に農業の発展が追いつかず、農工間の不均等発展が生じました。その結果、農村過剰人口や食糧の不足といった問題が発生し、日本の影響下にあった東アジアに問題の解決が期待されました。日本の影響下における東アジアの経済開発は、1910年代から20年代は農業中心でしたが、1930年代以降は工業化が推進されました。それらの政策により東アジアの社会経済は変貌し、20世紀後半における東アジアの経済発展に影響を与えることとなりました。
　この授業では、20世紀前半において日本が抱えていた経済問題は何か、それらの問題を解決する上で東アジアには何が期待されたのか、歴史および産業の観点から学習を進めていきます。
　具体的なテーマは、 20世紀前半における日本経済の変化と問題、20世紀前半における日本と東アジアの経済関係等です。
　授業では、英語論文を一緒に読みながら、教員が日本と東アジアの経済関係について解説します。受講者は事前に、授業予定部分を読んでくることを求められます。また受講者は、テキストの担当部分の報告を求められます。
　受講者には、英語論文の理解を深めるために、日本経済論Ａの受講を推奨します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、外国語能力を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講読は、受講生に担当を割り当てますので、十分な予習が必要です。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　到達目標に沿って、成績評価を行います。具体的には、担当部分の報告についての、準備状況、発表内容、質疑応答により評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　講読のテキストは、事前に資料を配付します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　毎回、出欠を確認します。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. 全体の解説
2-6回. 日本における農工間の不均等発展
7-11回. 日本と東アジアの経済関係
12-15回. 東アジアにおける日本の経済開発

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-03

深川　博史

◎商学:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、外国語能力を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、外国語能力を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-03

深川　博史

◎貿易:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、外国語能力を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-04

鮑　慧

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

日本の経済に係る英語文献を講読し、日本の経済に係る入門知識を平易な英語文献をもって解説する。また、必要に応じて、予習資料に専門用語及び難しい文法の注釈を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1. 日本の経済及び租税制度に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。(知識・理解)

2. 経済新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。(知識・理解)

3. グループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

1. 使用する資料を事前に読み、予習すること。
2. 受講した後は、再度、内容を確認すること。なお、理解度を確認するため
　に定期的に小テストを行う。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

1. 日本の経済及び租税制度に係わる英語文献を理解しているかどうかを
　評価基準とし、小テスト（40%）を用いて理解度のチェックを行う。
2. 授業で配布する資料の予習ができているか、授業で取り上げるテーマを
　理解するための情報収集ができているかを評価基準とし、授業における
　討論への参加度（30%）を総合的に評価する。
3. 授業で取り上げられたテーマのうち、もっとも興味を持った内容で、論理
　的に自分の見解を述べているかを評価基準とし、最終レポートを提出して
　もらう。（30%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

毎回の授業後に、次回の授業に使用する資料を配布する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「辞書」を準備すること。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回
　授業のガイダンス
第2~5回
　日本経済の基礎知識に関する英語文献講読
第6~10回
　世界経済と日本経済の比較に関する英語文献講読
第11~14回
　日本経済の課題に関する英語文献講読
第15回
　前期授業のまとめ

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-04

鮑　慧

◎商学:A-1,B-4

1.1. 日本の経済及び租税制度に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。　(A-1)

2.2. 経済新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。　(A-1)

3.3. グループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.1. 日本の経済及び租税制度に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。　(A-1)

2.2. 経済新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。　(A-1)

3.3. グループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-04

鮑　慧

◎貿易:A-1,B-4

1.1. 日本の経済及び租税制度に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。　(A-1)

2.2. 経済新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。　(A-1)

3.3. グループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-05

内田　寛樹

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：水・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　この講義では、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのイギリスの東アジアで行った国際マーケティングに関する英語論文を読んでいきます。当時国際マーケティングが成立しえたか否かに関しては、我が国の著名な商業学者の理論から裏打ちされており、その後ろ盾のもとに日本とイギリスの研究者の英語論文（杉山伸也、Nicholas）を読んでいきます。
　これらのものは19世紀後半から20世紀にかけてのイギリスの海外における自国製品のマーケティング展開についての英語論文です。これまでの学界の風潮である当時のイギリスの海外マーケティングの失敗を覆す見解が近年現れてきていて、それについて考察した日本の研究者とイギリスの研究者の研究です。
　近代イギリスの海外プレゼンス（海外進出）に興味のある方は、日本とイギリスの研究をみることによって英語を通して勉強しますので、是非ご参加ください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商業史の中の国際マーケティングを英語論文で見ることによって、現代の経済社会に繋がる要素を見出すことができる。(知識・理解)

英語の論文で見る歴史の中のマーケティングが、経済の発展にとってどのような要素があるのか説明することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　事前に和訳を割り当てます。辞書や関係文献（日本のものでもよい）を見ながら予習・復習をしてください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１　外国の論文や著書の形式をある程度身に付けたか。
２　商業史と国際マーケティングに関して講義テキストに書かれたことの概要を説明することができるか。
３　内外の学界の見解の違いを把握できているか。

が成績評価の基準になります。成績評価の方法と割合は課題（和訳割り当て）80%、取り組み姿勢20%です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

最初の回で配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
　１、前期の初めに
　２、イントロダクション
　３、これまでの学界の見解
　４、東アジアの国々と列強諸国の通商条約
　５、中国市場におけるイギリス紡績製品
　６、上海市場におけるイギリス紡績製品
　７、中国におけるイギリスのマーケティング技術
　８、中国商人の2類型
　９、日本における紡績製品取引の状況
１０、日本と中国におけるイギリスのマーケティング政策の相違
１１、三井物産の中国進出と日本の綿製品
１２、日本の開港場システムとイギリスのマーケティング政策に対する制約
１３、領事報告に偏ったこれまでの学界見解
１４、新市場と旧市場
１５、イギリスの行う国際マーケティングの考察

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-05

内田　寛樹

◎商学:A-1,B-4

1.商業史の中の国際マーケティングを英語論文で見ることによって、現代の経済社会に繋がる要素を見出すことができる。　(A-1)

2.英語の論文で見る歴史の中のマーケティングが、経済の発展にとってどのような要素があるのか説明することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.商業史の中の国際マーケティングを英語論文で見ることによって、現代の経済社会に繋がる要素を見出すことができる。　(A-1)

2.英語の論文で見る歴史の中のマーケティングが、経済の発展にとってどのような要素があるのか説明することができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡＩ

2019-4010000500-05

内田　寛樹

◎貿易:A-1,B-4

1.商業史の中の国際マーケティングを英語論文で見ることによって、現代の経済社会に繋がる要素を見出すことができる。　(A-1)

2.英語の論文で見る歴史の中のマーケティングが、経済の発展にとってどのような要素があるのか説明することができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡＩ（英語と英国文化）

2019-4010000500-06

田代　安彦

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

日本人は、英文法や英文読解は得意だが会話は苦手とよく言われています。国際ビジネスでは、さまざまな人と交流し、コミュニケーションを通じて人脈を広げ、取引を成立させていきます。
本講義では外書講読をビジネス　コミュニケーションという次のステップに繋げるために、読んだ内容をビデオで実際に話している会話の様子を見たり、聞いたりして理解を深め、自分のコミュニケーション　ツールにすることを
学びます。会話のための英文講読という新しい形での外書講読です。
English learning Tips、UK Cultureに関する英文のテキスト（毎回配布）を最初に読み、設問に答えながら内容の理解を深めます。さらに関連するネイティブのビデオ会話（British council等）を聞いたり、記事を見たりして、理解を深めます。英語をビジネス　コミュニケーションのツールにするために、まず会話の原文を読んで理解し、関連する英会話を聞いて更に理解を深めるというプロセスの外書講読により、実践的な英語の理解と応用の基礎能力修得を目指します。
テーマについて、自分なりの簡単な英語のコメントが言えるようにします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

英語会話の原文を読んで、その文化的な背景も含めて内容を理解できる。(知識・理解)

英語で読んだり、聞いたりした情報を理解し、それをビジネス　コミュニケーションのツールにすることができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

異文化理解を深め、相互理解を促進できるよう、自身が興味を持つ話題について、普段から関連する記事や英語での表現をネット記事などで学び、自身の持つ文化との比較を考える時間を持ちましょう。
授業内容を踏まえて、関連するテーマや話題を自分のものとして応用できるよう復習してください。（毎回３０分以上の復習をします）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価は、（１）授業への取り組み態度６０％　（２）提出された課題ミニッツへの評価４０％をベースに行います。。
授業への参加態度では、授業中の積極的な発言、相手の意見に対する質問等、を基準に評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

授業に必要なプリント、教材を担当教員が準備します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎回、当日の講義に関係するミニッツを提出し授業取組態度として評価します。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１～５．English Learning Tips
（１）　Find the best jobs for you
（２）　Introduce yourself
　　in an interview
（３）　Introduce yourself
　　in a job interview
（４）　British and American English
（５）　Ask someone
　　to repaet something
６～１４．ＵＫ　culture
（６）　Currency
（７）　Banking
（８）　Shopping 1
（９）　Shopping 2
（１０）Trafic 1
（１１）Trafic 2
（１２）Leisure,Sports,History,Travel
（１３）Food
（１４）climate,Geography

１５．Working in UK
（１５）Work and World news headline

外書講読ＡＩ（英語と英国文化）

2019-4010000500-06

田代　安彦

◎商学:A-1,B-4

1.英語会話の原文を読んで、その文化的な背景も含めて内容を理解できる。(A-1)

2.英語で読んだり、聞いたりした情報を理解し、それをビジネス　コミュニケーションのツールにすることができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.英語会話の原文を読んで、その文化的な背景も含めて内容を理解できる。(A-1)

2.英語で読んだり、聞いたりした情報を理解し、それをビジネス　コミュニケーションのツールにすることができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡＩ（英語と英国文化）

2019-4010000500-06

田代　安彦

◎貿易:A-1,B-4

1.英語会話の原文を読んで、その文化的な背景も含めて内容を理解できる。(A-1)

2.英語で読んだり、聞いたりした情報を理解し、それをビジネス　コミュニケーションのツールにすることができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡＩ（経済編1）

2019-4010000500-07

掛下　達郎

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本外書講読は、英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得することを目的にします。本講義を受講することによって、新聞、雑誌、テレビが報じる経済ニュースを理解するのに必要な英語を習得できます。本講義の前半では、経済、景気動向、経済成長、GDPなどを形容する際に頻出する定型表現を取り上げます。本講義の後半では、需要と供給、インフレとデフレ、インフレ指標に関する定型表現を取り上げます。経済英語に親しむことで経済ニュースを理解することができるようになります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。(知識・理解)

新聞、雑誌、テレビが報じる経済ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。(知識・理解)

経済成長、需要と供給、インフレとデフレなどを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義前にテキストの該当部分を読んでおきましょう（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

平常点100%。プレゼンテーションや発言によって評価します。テキストを正確に理解し、自分の言葉で説明することが大事です。英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得しているか、経済、景気動向、経済成長、ＧＤＰなどを形容する際に頻出する定型表現を正確に用いることができるかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

日向清人『ビギナーのための経済英語―経済・金融・証券・会計の基本用例320』慶應義塾大学出版会、2017年、ISBN978-4-7664-2019-7、2,000円

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話初級を履修していることが好ましい。外書講読ＡⅡと併せて受講すると良いでしょう。マクロ経済学などと併せて受講するとより理解が深まります。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１ イントロダクション
２ 経済全般
３ 経済成長
４ 小括：経済全般
５ 景気対策を語る1
６ 景気対策を語る2
７ 景気対策を語る3
８ 小括：景気対策
９ 練習問題：経済全般
10 需要／供給
11 インフレ
12 デフレ／インフレ指標
13 小括：インフレ／デフレ
14 練習問題：インフレ／デフレ
15 まとめ：経済編用語用例

外書講読ＡＩ（経済編1）

2019-4010000500-07

掛下　達郎

◎商学:A-1,B-4

1.英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる経済ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.経済成長、需要と供給、インフレとデフレなどを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる経済ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.経済成長、需要と供給、インフレとデフレなどを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡＩ（経済編1）

2019-4010000500-07

掛下　達郎

◎貿易:A-1,B-4

1.英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる経済ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.経済成長、需要と供給、インフレとデフレなどを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-01

井上　伊知郎

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

1.　この外書講読の目的は、比較的易しい英文を読み、理解し、翻訳し、英文に対応した適切な日本語の文章を作成する力をつけることです。
2.　題材は、「経済」、「政治」などの時事問題です。英文についてだけでなく内容についても解説します。
3.　教材はFinancial Times(英国)やJapan Times（日本）などです。
4.　文型を中心に英文の構造を把握できるように、文法の解説に力を入れます。
5.　参加者には英文に関する自分の解釈を順番に発表してもらいます。
6.　各自の解釈について参加者との質疑応答の時間を設けます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。(技能)

英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。(知識・理解)

参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　教材の講義予定個所を事前に予習して文型を把握し、英文の文法構造を解明しておくこと。翻訳ソフトを決して使わず、各自の文法構造の理解に即した翻訳をしておくこと。「経済」「政治」の内容についても予習して理解を深めておくこと。講義では、文法上からの英文の解釈だけではなくテキストの内容についても解説しますが、理解できなかった部分については復習し、次回に質問すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　本講義の目的に即して、文法上の英文読解能力、翻訳能力、英文に対応した日本語文章作成能力、内容についての理解度、課題への対応状況を含む授業への取り組み姿勢から総合的に判断します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

Financial Times、Japan Timesなどの英字新聞から、「経済」「政治」に関する比較的易しい記事を選び、配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　出席、予習、復習に努めてください。日頃から日本の新聞や経済雑誌を読んでおくと、理解しやすいと思います。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.　講義運営方法の説明
2.　教材の読解と質疑応答（1）
3.　教材の読解と質疑応答（2）
4.　教材の読解と質疑応答（3）
5.　教材の読解と質疑応答（4）
6.　教材の読解と質疑応答（5）
7.　教材の読解と質疑応答（6）
8.　教材の読解と質疑応答（7）
9.　教材の読解と質疑応答（8）
10. 教材の読解と質疑応答（9）
11. 教材の読解と質疑応答（10）
12. 教材の読解と質疑応答（11）
13. 教材の読解と質疑応答（12）
14. 教材の読解と質疑応答（13）
15. まとめ

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-01

井上　伊知郎

◎商学:A-1,B-4

1.文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。　(B-4)

2.英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。　(A-1)

3.参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。　(B-4)

2.英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。　(A-1)

3.参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-01

井上　伊知郎

◎貿易:A-1,B-4

1.文型理解を中心に英文を読み解く上での文法を説明できる。　(B-4)

2.英文の「経済」や「政治」の内容について説明できる。　(A-1)

3.参加者間の積極的な質疑応答を通じて、理解を深めるための役割を果たすことができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-02

長谷川　伸子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

精神論で語られることの多かった「ポジティブ」（前向き）という概念について、「ポジティブ心理学」というジャンルが今世紀に入って確立され、欧米では教育界、ビジネス界などでその成果が応用されている。
本書はアメリカの心理学者バーバラ・フレドリクソンの著書で、上昇スパイラルに導く「ポジティブ感情とネガティブ感情の黄金比」に迫る科学的研究の結果を、一般向けに解説している。

授業は予習課題を基に、主にグループワークで進める。内容を理解することはもちろん、それを毎日の生活に役立てることを目指す。

従って、以下の２つを積極的にやる意欲のある学生の履修を求める。
①グループワークで、個人的な目標や行動について話すこと。
②本書に書かれているアドバイスを試しに実践してみること。

◎－－－　到達目標　－－－◎

グループワークでリーダーシップを発揮することができる。(知識・理解)

ポジティブ心理学を企業・産業・地域の課題解決に応用できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・原則として毎回、A4用紙1枚の予習課題を出します。毎週の予習に必要な時間は、英語力により1～3時間。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・予習課題の評点
・授業中にどれだけ理解を深めたか
・グループワークにどれだけ寄与したか

評価方法
平常点：100%
予習課題の提出回数・内容・授業中の加筆内容
グループワークにおける積極性や協調性
プレゼンテーションの内容と発表能力

◎－－－　テキスト　－－－◎

Fredrickson, Ph.D., Barbara(2009)“ Positivity: Top-Notch Research Reveals the Upward Spiral That Will Change Your Life ”, Harmony, 1,945円,ISBN 978-0307393746

◎－－－　参考書　－－－◎

ポジティブな人だけがうまくいく3：1の法則　ISBN 978-4534047243
LOVE2.0 あたらしい愛の科学　ISBN 978-4791767809
実践 ポジティブ心理学 幸せのサイエンス　ISBN 978-4569836171

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・予習ができていない場合は、厳正に対処するので注意してください。
・宿題やグループワーク・発表が毎回あることを　承知して履修してくだい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限　科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 Introduction
2-5 Chapter 7 The Positiity Ratio
6-10 Chapter 8 Where Are You Now?
11-15 Chapter 9 Decrease Negativiy

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-02

長谷川　伸子

◎商学:A-1,B-4

1.グループワークでリーダーシップを発揮することができる。　(A-1)

2.ポジティブ心理学を企業・産業・地域の課題解決に応用できる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.グループワークでリーダーシップを発揮することができる。　(A-1)

2.ポジティブ心理学を企業・産業・地域の課題解決に応用できる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-02

長谷川　伸子

◎貿易:A-1,B-4

1.グループワークでリーダーシップを発揮することができる。　(A-1)

2.ポジティブ心理学を企業・産業・地域の課題解決に応用できる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-03

深川　博史

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　この授業の目的は、20世紀前半における日本と東アジアの経済関係や、東アジアの経済発展における日本の影響について、英語論文の講読により理解を深めることです。20世紀前半の日本経済においては、急速な工業化に農業の発展が追いつかず、農工間の不均等発展が生じました。その結果、農村過剰人口や食糧の不足といった問題が発生し、日本の影響下にあった東アジアに問題の解決が期待されました。日本の影響下における東アジアの経済開発は、1910年代から20年代は農業中心でしたが、1930年代以降は工業化が推進されました。それらの政策により東アジアの社会経済は変貌し、20世紀後半における東アジアの経済発展に影響を与えることとなりました。
　この授業では、東アジアにおける日本の経済開発政策により、東アジアの社会経済はどのように変化し、それは、20世紀後半の東アジアの発展に如何なる影響を与えたのか、歴史および産業の観点から学習を進めていきます。
　具体的なテーマは、 20世紀前半の東アジアにおける日本の経済開発、その開発の影響等です。
　授業では、英語論文を一緒に読みながら、教員が東アジアにおける日本の経済開発及びその影響について解説します。受講者は事前に、授業予定部分を読んでくることを求められます。また受講者は、テキストの担当部分の報告を求められます。
　受講者には、英語論文の理解を深めるために、日本経済論Aの受講を推奨します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講読は、受講生に担当を割り当てますので、十分な予習が必要です。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　到達目標に沿って、成績評価を行います。具体的には、担当部分の報告についての、準備状況、発表内容、質疑応答により評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　講読のテキストは、事前にコピー資料を配付します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　毎回、出欠を確認します。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.　全体の解説
2-6回. 農業中心の開発政策
7-11回. 工業中心の開発政策
12-15回. 開発政策の影響

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-03

深川　博史

◎商学:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-03

深川　博史

◎貿易:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-04

鮑　慧

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　日本の租税政策に係る英語文献を講読する。まず、日本の租税制度に係る入門知識を平易な英語文献をもって解説する。次に、日本における租税政策のもたらす効果及び企業にかかわる時事の英語文献を講読する。必要に応じて、予習資料に専門用語の注釈を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1. 日本の経済及び租税制度に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。(知識・理解)

2. 経済新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。(知識・理解)

3. グループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

1. 使用する資料を事前に読み、予習すること。
2. 受講した後は、再度、内容を確認すること。なお、理解度を確認するため
　に定期的に小テストを行う。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

1. 日本の経済及び租税制度に係わる英語文献を理解しているかどうかを
　評価基準とし、小テスト（40%）を用いて理解度のチェックを行う。
2. 授業で配布する資料の予習ができているか、授業で取り上げるテーマを
　理解するための情報収集ができているかを評価基準とし、授業における
　討論への参加度（30%）を総合的に評価する。
3. 授業で取り上げられたテーマのうち、もっとも興味を持った内容で、論理
　的に自分の見解を述べているかを評価基準とし、最終レポートを提出して
　もらう。（30%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

　毎回の授業後に、次回の授業に使用する資料を配布する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「辞書」を準備すること。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回
　授業のガイダンス
第2回
　租税と市民運動
第3~6回
　近年の税制改革に関する英語文献講読
第7~10回
　租税制度の基礎に関する英語文献講読
第11~14回
　近年の企業時事に関する英語文献講読
第15回
　後期授業のまとめ

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-04

鮑　慧

◎商学:A-1,B-4

1.1. 日本の経済及び租税制度に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。　(A-1)

2.2. 経済新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。　(A-1)

3.3. グループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.1. 日本の経済及び租税制度に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。　(A-1)

2.2. 経済新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。　(A-1)

3.3. グループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-04

鮑　慧

◎貿易:A-1,B-4

1.1. 日本の経済及び租税制度に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。 (A-1)

2.2. 経済新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。 (A-1)

3.3. グループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。 (B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡⅡ（外書でグローバル・アジアの視野を強化しましょう）

2019-4010000501-05

李　錦東

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

このクラスは、社会科学に関連する様々な分野の英文を読む力をつける授業です。日本語とは違う形で社会と人間を理解する力を養っていきます。グローバル化、リージョナルな問題、経済・時事論文、医療や環境、教育などの様々なトピックを扱います。英文に合わせて、辞書を利用しながら、標準的なレベルの読解力を身につけることが目標です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

英語の論文、自分が読みたいもの、読まなければならない英文を読めるようになる。(知識・理解)

英語の論文や記事になれる。(技能)

英語を通してグローバル化の特徴を理解し、グローバルな視野をみにつける。(技能)

アジア諸国の将来戦略を考える。(知識・理解)

環境問題に関して現状や諸国のスタンスを説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定範囲を事前に読んで（調べて）下さい。知らない英単語や記事に関連する専門用語や概念などをしっかり調べて、自分のモノにしていきましょう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①毎回の翻訳などに対する回答（40%）
②レポート（40%）
③授業中の質疑回数など授業への積極的な参加（20%）、
※ 本科目は、定期試験を実施しません。成績の評価の基準は、シラバスの到達目標をどの程度クリアしているかですが、評価は、上の①、②、③を総合して行い、到達目標の60%以上を達成していると合格とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布・もしくは案内します。

◎－－－　参考書　－－－◎

自分のレベルにあう文法書を一冊以上用意してください。中等教育における教科書でも構いません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

予習と復習をしっかりやりましょう。英文は、辞書をひく根気さえあれば、読めるようになります。語学分野は、まさに「継続は力なり」です。半年、一年間でも、読み続ければそれなりの成果が残るでしょう。
また、(受講者数により判断)レポートの作成は、グループに行う予定ですので、協調性と積極的な参加が求められます。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

※本授業計画は、受講者数及び属性、受講生の理解度などにあわせ、フレキシブルに調整する。
第1回 イントロダクション（授業の進め方、大まかなレベル測定など）
第2回 どんな外国語でも半年でマスターしてしまう方法（クリス・ロンズデール）
第3回 英語の論文の読み方１
第4回 英語の論文の読み方2
第5回 英語の論文の読み方３
第6回 グローバリゼイション１
第7回 グローバリゼイション2
第8回 アメリカの現代社会：CNNが伝えたバラク・オバマの半生
第9回 アメリカの約束
第10回　アメリカに変化が訪れた
第11回　教育は依然として機会の土台です。
第12回 ゴミの島Plastic island、地球温暖化
第13回　持続可能な発展
第14回 アジアの経済成長
第15回　Asian Union？

外書講読ＡⅡ（外書でグローバル・アジアの視野を強化しましょう）

2019-4010000501-05

李　錦東

◎商学:A-1,B-4

1.英語の論文、自分が読みたいもの、読まなければならない英文を読めるようになる。　(A-1)

2.英語の論文や記事になれる。　(B-4)

3.英語を通してグローバル化の特徴を理解し、グローバルな視野をみにつける。　(B-4)

4.アジア諸国の将来戦略を考える。　(A-1)

5.環境問題に関して現状や諸国のスタンスを説明できる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.英語の論文、自分が読みたいもの、読まなければならない英文を読めるようになる。　(A-1)

2.英語の論文や記事になれる。　(B-4)

3.英語を通してグローバル化の特徴を理解し、グローバルな視野をみにつける。　(B-4)

4.アジア諸国の将来戦略を考える。　(A-1)

5.環境問題に関して現状や諸国のスタンスを説明できる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡⅡ（外書でグローバル・アジアの視野を強化しましょう）

2019-4010000501-05

李　錦東

◎貿易:A-1,B-4

1.英語の論文、自分が読みたいもの、読まなければならない英文を読めるようになる。　(A-1)

2.英語の論文や記事になれる。　(B-4)

3.英語を通してグローバル化の特徴を理解し、グローバルな視野をみにつける。　(B-4)

4.アジア諸国の将来戦略を考える。　(A-1)

5.環境問題に関して現状や諸国のスタンスを説明できる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-06

山口　夕妃子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は、英語の論文、雑誌、新聞などの講読を通じて、マーケティング理論と消費者行動に関する知識を深めることを目的とします。とくに、本講義では国際市場細分化を中心とした文献を輪読していく予定です。
マーケティング論関連の科目を履修しておくと、講義の中で出てくる専門用語の理解はできると思います。また受講生の理解度にあわせて、適時説明は行うようにします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

英語原書を通してマーケティングに関する専門用語を理解する。(知識・理解)

英語原書を通してグローバル市場の特徴を理解する。(知識・理解)

講義中のテーマ課題を理解し、自らその内容についてさらに深く調べることができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：事前に資料教材を配布するので、読んでくること。わからない単語は辞書を使い調べておくこと。
復習：講義で学んだテーマの中で自分の関心のあるところはさらに深く理解できるよう、関連する文献を読むこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義の到達目標の達成度を評価基準とします。
発表（50%）、レポート（30%）、授業での積極的な態度（質問・発言など）（20%）で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

初回に配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．ガイダンス
２．マーケティング基礎理論（１）
３．マーケティング基礎理論（２）
４．Fighting　Conventional　Wisdom（１）
５．Fighting　Conventional　Wisdom（２）
６．New　Ideas　On　Internaional　Segmentation　（１）
７．New　Ideas　On　Internaional　Segmentation　（２）
８．New　Ideas　On　Internaional　Segmentation　（３）
９．Strategically　Equivalent　Segmentation　（１）
10．Strategically　Equivalent　Segmentation　（２）
11．Strategically　Equivalent　Segmentation　（３）
12．An　Example
13．Case　Study　（１）
14．Case　Study　（２）
15．　総括

外書講読ＡⅡ

2019-4010000501-06

山口　夕妃子

◎商学:A-1,B-4

1.英語原書を通してマーケティングに関する専門用語を理解する。　(A-1)

2.英語原書を通してグローバル市場の特徴を理解する。　(A-1)

3.講義中のテーマ課題を理解し、自らその内容についてさらに深く調べることができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.英語原書を通してマーケティングに関する専門用語を理解する。　(A-1)

2.英語原書を通してグローバル市場の特徴を理解する。　(A-1)

3.講義中のテーマ課題を理解し、自らその内容についてさらに深く調べることができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡⅡ

山口　夕妃子

2019-4010000501-06

◎貿易:A-1,B-4

1.英語原書を通してマーケティングに関する専門用語を理解する。　(A-1)

2.英語原書を通してグローバル市場の特徴を理解する。　(A-1)

3.講義中のテーマ課題を理解し、自らその内容についてさらに深く調べることができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＡⅡ（経済編2）

2019-4010000501-07

掛下　達郎

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

外書講読ＡＩに続いて、本外書講読は英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得することを目的にします。本講義を受講することによって、新聞、雑誌、テレビが報じる経済ニュースを理解するのに必要な英語を習得できます。本講義の前半では、金融政策や財政政策などを形容する際に頻出する定型表現を取り上げます。本講義の後半では、為替相場、貿易・通商、国際収支に関する定型表現を取り上げます。経済英語に親しむことで経済ニュースを理解することができるようになります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。(知識・理解)

新聞、雑誌、テレビが報じる経済ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。(知識・理解)

経済政策や国際経済などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義前にテキストの該当部分を読んでおきましょう（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

平常点100%。プレゼンテーションや発言によって評価します。テキストを正確に理解し、自分の言葉で説明することが大事です。英語で国際経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得しているか、経済、金融政策や財政政策などを形容する際に頻出する定型表現を正確に用いることができるかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

日向清人『ビギナーのための経済英語―経済・金融・証券・会計の基本用例320』慶應義塾大学出版会、2017年、ISBN978-4-7664-2019-7、2,000円

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話初級を履修していることが好ましい。外書講読ＡＩと併せて受講すると良いでしょう。金融入門、貿易入門A/Bなどを履修するとより理解が深まります。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション
2 金　利
3 金融政策1
4 金融政策2
5 財政政策
6 小括：経済政策
7 練習問題：経済政策
8 為替動向
9 貿易・通商
10 貿易収支／経常収支
11 資本収支
12 財務収支／誤差脱漏
13 小括：国際経済
14 練習問題：国際経済
15 まとめ：経済編用語用例

外書講読ＡⅡ（経済編2）

2019-4010000501-07

掛下　達郎

◎商学:A-1,B-4

1.英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる経済ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.経済政策や国際経済などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる経済ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.経済政策や国際経済などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＡⅡ（経済編2）

2019-4010000501-07

掛下　達郎

◎貿易:A-1,B-4

1.英語で経済を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる経済ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.経済政策や国際経済などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読Ｂ「13台以前」

2019-4010000367-01

鮑　慧

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

日本の経済、企業に関する社会問題、ビジネス等に係る英語文献を講読する。まず、ニュースや新聞によく取り上げられる経済などに関する話題を平易な英語をもって解説する。次に、日本におけるビジネスや企業に関する社会問題等に係る時事の英語文献を講読する。必要に応じて、予習資料に専門用語及び難しい文法の注釈を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1. 日本の経済、ビジネス及び社会に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。(知識・理解)

2. ニュースや新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。(知識・理解)

3. 対話式文献を読むこととグループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

1. 使用する資料を事前に読み、予習すること。
2. 受講した後は、再度、内容を確認すること。なお、理解度を確認するため に定期的に小テストを行う。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

1. 日本の経済等に係る英語文献を理解しているかどうかを評価基準とし、小テスト（40%）を用いて理解度のチェックを行う。
2. 授業で配布する資料の予習ができているか、授業で取り上げるテーマを理解するための情報収集ができているかを評価基準とし、授業における討論への参加度（30%）を総合的に評価する。
3. 授業で取り上げられたテーマのうち、もっとも興味を持った内容で、論理 的に自分の見解を述べているかを評価基準とし、最終レポートを提出してもらう。（30%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

毎回の授業後に、次回の授業に使用する資料を配布する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「辞書」を準備すること。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
第1回
　授業のガイダンス
第2~10回
　日本経済に関する時事の英語文献講読
第10~14回
　ビジネス等に係る時事の英語文献講読
第11~14回
　日本経済の課題に関する英語文献講読
第15回
　前期授業のまとめ

後期
第1回
　授業のガイダンス
第2~7回
　企業に関する社会問題の英語文献講読
第8~10回
　企業経営に関する時事の英語文献購読
第11~14回
　時事的な用語を英語で覚える英語文献講読
第15回
　後期授業のまとめ

外書講読Ｂ「13台以前」

2019-4010000367-01

鮑　慧

◎商学

1.1. 日本の経済、ビジネス及び社会に係る基本的な英語文献を読んで理解すること。　(A-1)

2.2. ニュースや新聞に頻出する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。　(A-1)

3.3. 対話式文献を読むこととグループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

外書講読Ｂ「13台以前」（その本質と対抗策）

2019-4010000367-02

長谷川　伸子

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本書は、職場でハラスメントを受けた時、それをどう認識し、その本質を理解し、また対処するかについて解説したものである。
労働の場では依然として女性が下位に位置していることや仕事と家庭の二重負担をしていること、さらにセクシュアル・ハラスメントの被害者の多くが女性であることを鑑み、女性向けに書かれてはいるが、内容の多くは男性労働者にも通じるものである。豊富な例と共に、チェックリストなどのワークも入っており、実用的な内容となっている。
著者は、女性の権利擁護のために活動しているセラピスト、教師、活動家の3人。

授業は予習課題を基に、主にグループワークで進める。内容を理解することはもちろん、それを現在や今後の生活に活かすことを目指す。

◎－－－　到達目標　－－－◎

職場のハラスメントに関する基本的な知識を説明できる。(知識・理解)

グループワークでリーダーシップが取れる。(技能)

将来的に、ハラスメントのない職場つくりに貢献する能力を養う。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・原則として毎回、A4用紙1枚の予習課題を出します。毎週の予習に必要な時間は、英語力により1～3時間。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・予習課題の評点
・授業中にどれだけ理解を深めたか
・グループワークにどれだけ寄与したか

評価方法
平常点：100％
予習課題の提出回数・内容・授業中の加筆内容
グループワークにおける積極性や協調性
プレゼンテーションの内容と発表能力

◎－－－　テキスト　－－－◎

Nicarthy, Ginny, Naomi Gottlieb and Sandra Coffman (1993) “You Don’t Have to Take It!” Seal Press、＄14.95、1-878067-35-4

◎－－－　参考書　－－－◎

職場の常識が変わる―福岡セクシュアル・ハラスメント裁判　ISBN 978-4755400285
改訂版 そこが知りたい！パワハラ対策の極意　ISBN 978-4816708695
キャンパス・セクシュアル・ハラスメント対応ガイド　ISBN 978-4782304167

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・宿題やグループワークや発表が毎回あることを承知して履修してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期：
1 Introduction
2-6　Chapter 4：Are You Privilegd, "Other" or Both?
7-15　Chapter 5: Myths of the "Working Woman"

後期：
1 Introduction
2-6 Chapter 6: The Double Whammy of Stress and Abuse
7-11 Chapter 7: Discover Your Individual Voice
12-15 Chapter 8: The Tought Is Mother to the Feeling

外書講読Ｂ「13台以前」（その本質と対抗策）

2019-4010000367-02

長谷川　伸子

◎商学

1.職場のハラスメントに関する基本的な知識を説明できる。　(A-1)

2.グループワークでリーダーシップが取れる。　(B-3)

3.将来的に、ハラスメントのない職場つくりに貢献する能力を養う。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

外書講読Ｂ「13台以前」

2019-4010000367-03

佐々木　昇

期別：通年　　単位数：4　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この外書講読の目的は、専門的な英文を読み、理解し、翻訳し、英文に対応した適切な日本語の文章を作成する力をつけることです。
今年度前期は、J. Dedrick他著 Who profits from innovation in global value chains?: a study of the iPod and notebook PCs.（2009）を読み進めます。この文献は、グローバル企業の世界価値連鎖についての初期の代表的な文献です。後期はドイツの著名な経済学者の１人であるH.-W.Sinn著 The Pathological Export Boom and the Bazaar Effect: How to Solve the German Puzzle. (2006)を読み進めます。この文献は、ドイツ経済とドイツ企業の国際分業について論じた文献です。授業では、受講生が該当する部分の日本語訳を発表します。担当者は、資料の背景や翻訳について説明します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学や国際経済についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

現在の経済状況下で取り組むべき課題を解決するために内外の知識を収集して解決に必要な知見を抽出することができ、またコミュニケーション能力を身につけている。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定もしくは配布された資料について、辞書や日本語の関連資料を参考にして予習すること。（90分）
資料の概要を把握して授業での発表に備える。(60分）
期末レポートの作成などを課しますので、期間中に取り扱った資料の単語と訳を復習しておくこと。（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

英文翻訳の事前学習の程度２割、授業での発表３割、授業への取り組みや学習態度について２割、また英文の内容についてどの程度理解しているかなどをみる期末レポート３割の割合で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

担当者が配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

英語の辞書（電子辞書も可能）また可能であれば、経済英語の辞書も、授業の時には、準備してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．前期授業の概要
2~3．Introduction　pp.1-3.
4~7．Theories of　innovation,profits,　and the supply chain　pp.3-6.
8~10．Methodology　pp.6-9.
11~12．Lead firm gross profit　pp.9-　11.
13~14　Distribution of profit along　the supply chain　pp.11-18.
15．授業の総括
16．後期授業の概要
17．The Export Puzzzle　pp.1-2.
18-19．Reaction to Excessive Wages　pp.3-5.
20-22．The Bazaar Economy　p.5-8.
23．Devision of Labour A l'lemande　pp.8-9.
24．　Wage Convergence as destiny　pp.9-10.
25．　The Desperrate Fright against　Wage Convergence　pp.10-11.
26-27. Why the Export Boom does not　Indicate Gains from Trade　pp.11-　12.
28-29. The Pathological Export Boom　pp12-14.
30．授業の総括

外書講読Ｂ「13台以前」

2019-4010000367-03

佐々木　昇

◎商学

1.商学や国際経済についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.現在の経済状況下で取り組むべき課題を解決するために内外の知識を収集して解決に必要な知見を抽出することができ、またコミュニケーション能力を身につけている。　(B-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

外書講読ＢＩ

2019-4010000502-01

鮑　慧

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　日本の経済に係る英語文献を講読し、日本の経済に係る話題を平易な英語文献をもって解説する。また、必要に応じて、予習資料に専門用語及び難しい文法の注釈を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1. 日本の経済に係る話題を平易な英語文献を読んで理解すること。(知識・理解)

2. ニュースや新聞に頻出する経済に関する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。(知識・理解)

3. 対話式文献を読むこととグループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

1. 使用する資料を事前に読み、予習すること。
2. 受講した後は、再度、内容を確認すること。なお、理解度を確認するため
に定期的に小テストを行う。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

1. 日本の経済に係わる英語文献を理解しているかどうかを評価基準とし、小テスト（40%）を用いて理解度のチェックを行う。
2. 授業で配布する資料の予習ができているか、授業で取り上げるテーマを理解するための情報収集ができているかを評価基準とし、授業における討論への参加度（30%）を総合的に評価する。
3. 授業で取り上げられたテーマのうち、もっとも興味を持った内容で、論理
的に自分の見解を述べているかを評価基準とし、最終レポートを提出してもらう。（30%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

　毎回の授業後に、次回の授業に使用する資料を配布する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「辞書」を準備すること。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回
　授業のガイダンス
第2~10回
　日本経済に関する時事の英語文献講読
第10~14回
　ビジネスに係る時事の英語文献講読
第11~14回
　日本経済の課題に関する英語文献講読
第15回
　前期授業のまとめ

外書講読ＢＩ

2019-4010000502-01

鮑　慧

◎商学:A-1,B-4

1.1. 日本の経済に係る話題を平易な英語文献を読んで理解すること。　(A-1)

2.2. ニュースや新聞に頻出する経済に関する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。　(A-1)

3.3. 対話式文献を読むこととグループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.1. 日本の経済に係る話題を平易な英語文献を読んで理解すること。　(A-1)

2.2. ニュースや新聞に頻出する経済に関する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。　(A-1)

3.3. 対話式文献を読むこととグループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＢＩ

2019-4010000502-01

鮑　慧

◎貿易:A-1,B-4

1.1. 日本の経済に係る話題を平易な英語文献を読んで理解すること。　(A-1)

2.2. ニュースや新聞に頻出する経済に関する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。　(A-1)

3.3. 対話式文献を読むこととグループによる討論タイムを設けることで、ディスカッション能力を身につける。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＢＩ（その本質と対抗策）

2019-4010000502-02

長谷川　伸子

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：水・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本書は、職場でハラスメントを受けた時、それをどう認識し、その本質を理解し、また対処するかについて解説したものである。
労働の場では依然として女性が下位に位置していることや仕事と家庭の二重負担をしていること、さらにセクシュアル・ハラスメントの被害者の多くが女性であることを鑑み、女性向けに書かれてはいるが、内容の多くは男性労働者にも通じるものである。豊富な例と共に、チェックリストなどのワークも入っており、実用的な内容となっている。
著者は、女性の権利擁護のために活動しているセラピスト、教師、活動家の3人。

授業は予習課題を基に、主にグループワークで進める。内容を理解することはもちろん、それを現在や今後の生活に活かすことを目指す。

◎－－－　到達目標　－－－◎

職場のハラスメントに関する基本的な知識を説明できる。(知識・理解)

将来的に、ハラスメントのない職場つくりに貢献する能力を養う。(技能)

グループワークでリーダーシップが取れる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・原則として毎回、A4用紙1枚の予習課題を出します。毎週の予習に必要な時間は、英語力により1～3時間。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・予習課題の評点
・授業中にどれだけ理解を深めたか
・グループワークにどれだけ寄与したか

評価方法
平常点：100％
予習課題の提出回数・内容・授業中の加筆内容
グループワークにおける積極性や協調性
プレゼンテーションの内容と発表能力

◎－－－　テキスト　－－－◎

Nicarthy, Ginny, Naomi Gottlieb and Sandra Coffman (1993) “ You Don ’ t Have to Take It! ” Seal Press、＄14.95、1-878067-35-4

◎－－－　参考書　－－－◎

職場の常識が変わる―福岡セクシュアル・ハラスメント裁判　ISBN 978-4755400285
改訂版 そこが知りたい！パワハラ対策の極意　ISBN 978-4816708695
キャンパス・セクシュアル・ハラスメント対応ガイド　ISBN 978-4782304167

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・宿題やグループワークや発表が毎回あることを承知して履修してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 Introduction
2-6　Chapter 4：Are You Privilegd, "Other" or Both?
7-15　Chapter 5: Myths of the "Working Woman"

外書講読ＢＩ（その本質と対抗策）

2019-4010000502-02

長谷川　伸子

◎商学:A-1,B-4

1.職場のハラスメントに関する基本的な知識を説明できる。　(A-1)

2.将来的に、ハラスメントのない職場つくりに貢献する能力を養う。　(B-4)

3.グループワークでリーダーシップが取れる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.職場のハラスメントに関する基本的な知識を説明できる。　(A-1)

2.将来的に、ハラスメントのない職場つくりに貢献する能力を養う。　(B-4)

3.グループワークでリーダーシップが取れる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＢＩ（その本質と対抗策）

2019-4010000502-02

長谷川　伸子

◎貿易:A-1,B-4

1.職場のハラスメントに関する基本的な知識を説明できる。　(A-1)

2.将来的に、ハラスメントのない職場つくりに貢献する能力を養う。　(B-4)

3.グループワークでリーダーシップが取れる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＢＩ

2019-4010000502-03

佐々木　昇

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　この外書講読の目的は、専門的な英文を読み、理解し、翻訳し、英文に対応した適切な日本語の文章を作成する力をつけることです。
　今年度は、J. Dedrick他著 Who profits from innovation in global value chains?: a study of the iPod and notebook PCs.（2009） を読み進めます。この文献は、グローバル企業の世界価値連鎖についての初期の代表的な文献です。授業では、受講生が該当する部分の日本語訳を発表します。担当者は、資料の背景や翻訳について説明します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学や国際経済についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

現在の経済の状況下で取り組むべき課題を解決するために内外の知識を収集し解決に必要な知見を抽出することができ、またコミュニケーション能力を身につけている。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　指定もしくは配布された資料について、辞書や日本語の関連資料を参考にして予習すること。（90分）
　資料の概要を把握して授業での発表に備える。(60分)
　期末レポートの作成などを課しますので、期間中に取り扱った資料の単語と訳を復習しておくこと。（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　英文翻訳の事前学習の程度２割、授業での発表３割、授業への取り組みや学習態度について２割、また英文の内容についてどの程度理解しているかなどをみる期末レポート３割の割合で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

担当者が配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　英語の辞書（電子辞書も可能）また可能であれば、経済英語の辞書も、授業の時には、準備してください。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．授業の概要
2~3．Introduction　pp.1-3.
4~7．Theories of　innovation,profits,　and the supply chain　pp.3-6.
8~10．Methodology　pp.6-9.
11~12．Lead firm gross profit　pp.9-　11.
13~14　Distribution of profit along　the supply chain　pp.11-18.
15．授業の総括

外書講読ＢＩ

2019-4010000502-03

佐々木　昇

◎商学:A-1,B-4

1.商学や国際経済についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.現在の経済の状況下で取り組むべき課題を解決するために内外の知識を収集し解決に必要な知見を抽出することができ、またコミュニケーション能力を身につけている。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.商学や国際経済についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.現在の経済の状況下で取り組むべき課題を解決するために内外の知識を収集し解決に必要な知見を抽出することができ、またコミュニケーション能力を身につけている。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＢＩ

2019-4010000502-03

佐々木　昇

◎貿易:A-1,B-4

1.商学や国際経済についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.現在の経済の状況下で取り組むべき課題を解決するために内外の知識を収集し解決に必要な知見を抽出することができ、またコミュニケーション能力を身につけている。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＢＩ（金融編）

2019-4010000502-04

掛下　達郎

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本外書講読は、英語で金融を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得することを目的にします。本講義を受講することによって、新聞、雑誌、テレビが報じる金融ニュースを理解するのに必要な英語を習得できます。本講義の前半では、金融、企業の資金調達、株式、債券などを形容する際に頻出する定型表現を取り上げます。本講義の後半では、デリバティブ，証券市場、投資、運用理論に関する定型表現を取り上げます。金融英語に親しむことで金融ニュースを理解することができるようになります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

英語で金融を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。(知識・理解)

新聞、雑誌、テレビが報じる金融ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。(知識・理解)

金融、企業の資金調達、証券市場などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義前にテキストの該当部分を読んでおきましょう（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

平常点100%。プレゼンテーションや発言によって評価します。テキストを正確に理解し、自分の言葉で説明することが大事です。英語で金融を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得しているか、金融、企業の資金調達、株式、債券などを形容する際に頻出する定型表現を正確に用いることができるかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

日向清人『ビギナーのための経済英語―経済・金融・証券・会計の基本用例320』慶應義塾大学出版会、2017年、ISBN978-4-7664-2019-7、2,000円

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話初級、外書講読ＡＩ、外書講読ＡⅡを履修していることが好ましい。外書講読ＢⅡと併せて受講すると良いでしょう。また金融入門などと併せて受講するとより理解が深まります。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション
2 金融一般1
3 金融一般2
4 企業の資金調達
5 株　式1
6 株　式2
7 債　券
8 練習問題：金融編1
9 デリバティブ／スワップ／オプション
10 証券市場・証券会社など
11 投資家や運用対象の種別を語る
12 投　資
13 運用理論の世界
14 練習問題：金融編2
15 まとめ：金融編用語用例

外書講読ＢＩ（金融編）

2019-4010000502-04

掛下　達郎

◎商学:A-1,B-4

1.英語で金融を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる金融ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.金融、企業の資金調達、証券市場などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.英語で金融を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる金融ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.金融、企業の資金調達、証券市場などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＢＩ（金融編）

2019-4010000502-04

掛下　達郎

◎貿易:A-1,B-4

1.英語で金融を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる金融ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.金融、企業の資金調達、証券市場などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＢＩ

2019-4010000502-05

猿渡　剛

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

日本が先頭を走り、韓国や中国、東南アジア諸国が追いかける「雁行モデル」は、現代の東アジア経済には当てはまらなくなりつつあります。その理由は、中国や東南アジア諸国発祥のデジタルエコノミーの隆盛、イノベーションの進展等にあります。
この授業では英語で書かれた学術論文、雑誌、新聞等を利用して各々の事例を検討し、近年の東アジア経済の構造変化を把握した後に、日本企業が直面する課題や今後直面するであろう課題を一緒に考えていきたいと思います。
授業では毎回、英語文献を一緒に読んでいきます。2・3回目は教員、4回目以降は学生が報告を担当します。報告担当者にはスライドの作成を課しますし、担当者以外にも意見や質問を求めますので、事前にきちんと予習しておいてください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業経営をはじめとする商学の知識ならびに東アジア各国経済の基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

日本企業が取り組むべき課題に対して、英語で書かれた文献を読んで国内外の事例を収集し、課題解決のために議論することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回の報告担当者は事前に配布された資料をよく読んで、スライドを作成してください。(180分)
そのほかの受講者も、不明な箇所がないように予習しておいてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績は、(1)各自担当する部分の報告の内容25%、(2)平常点75%で評価します。
(1)については、グループ内で役割を適切に分担し、要旨を把握し、スライドを用いて口頭で発表できることを評価基準とします。
(2)については、発言の回数・内容等、授業に積極的に取り組む姿勢を評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

授業各回の冒頭に、テキストとなる資料を配付します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎回、出席状況を確認します。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション(授業内容や発表の仕方等についての説明)
2-3. 東アジア各国の経済について(教員による発表、ディスカッション)
4-14. 東アジアのデジタルエコノミーやイノベーション等について(学生による発表、ディスカッション)
15. まとめ

外書講読ＢＩ

2019-4010000502-05

猿渡　剛

◎商学:A-1,B-4

1.企業経営をはじめとする商学の知識ならびに東アジア各国経済の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.日本企業が取り組むべき課題に対して、英語で書かれた文献を読んで国内外の事例を収集し、課題解決のために議論することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.企業経営をはじめとする商学の知識ならびに東アジア各国経済の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.日本企業が取り組むべき課題に対して、英語で書かれた文献を読んで国内外の事例を収集し、課題解決のために議論することができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＢＩ

2019-4010000502-05

猿渡　剛

◎貿易:A-1,B-4

1.企業経営をはじめとする商学の知識ならびに東アジア各国経済の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.日本企業が取り組むべき課題に対して、英語で書かれた文献を読んで国内外の事例を収集し、課題解決のために議論することができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＢⅡ

2019-4010000503-01

鮑　慧

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

企業に関する社会問題や時事的な用語を英語で覚える英語文献を講読する。まず、企業に関する社会問題にかかわる時事の英語文献を講読する。次に、時事的な用語を英語で覚える英語文献を講読する。必要に応じて、予習資料に専門用語の注釈を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1. 企業に係る社会問題及び時事的な用語を英語で覚える英語文献を読んで理解すること。(知識・理解)

2. ニュースや新聞に頻出する企業に関する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。(知識・理解)

3. 対話式の英語文献を読むこととグループによる討論タイムを設けることで、英会話やディスカッション能力を身につける。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

1. 使用する資料を事前に読み、予習すること。
2. 受講した後は、再度、内容を確認すること。なお、理解度を確認するため
　に定期的に小テストを行う。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

1. 企業に係る社会問題や科学全般に係わる話題の英語文献を理解しているかどうかを評価基準とし、小テスト（40%）を用いて理解度のチェックを行う。
2. 授業で配布する資料の予習ができているか、授業で取り上げるテーマを理解するための情報収集ができているかを評価基準とし、授業における討論への参加度（30%）を総合的に評価する。
3. 授業で取り上げられたテーマのうち、もっとも興味を持った内容で、論理 的に自分の見解を述べているかを評価基準とし、最終レポートを提出してもらう。（30%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

毎回の授業後に、次回の授業に使用する資料を配布する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「辞書」を準備すること。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

後期
第1回
　授業のガイダンス
第2~7回
　企業に係る社会問題の英語文献講読
第8~10回
　企業経営に係る時事の英語文献購読
第11~14回
　時事的な用語を英語で覚える英語文献講読
第15回
　後期授業のまとめ

外書講読ＢⅡ

2019-4010000503-01

鮑　慧

◎商学:A-1,B-4

1.1. 企業に係る社会問題及び時事的な用語を英語で覚える英語文献を読んで理解すること。 (A-1)

2.2. ニュースや新聞に頻出する企業に関する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。 (A-1)

3.3. 対話式の英語文献を読むこととグループによる討論タイムを設けることで、英会話やディスカッション能力を身につける。 (B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.1. 企業に係る社会問題及び時事的な用語を英語で覚える英語文献を読んで理解すること。 (A-1)

2.2. ニュースや新聞に頻出する企業に関する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。 (A-1)

3.3. 対話式の英語文献を読むこととグループによる討論タイムを設けることで、英会話やディスカッション能力を身につける。 (B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＢⅡ

2019-4010000503-01

鮑　慧

◎貿易:A-1,B-4

1.1. 企業に係る社会問題及び時事的な用語を英語で覚える英語文献を読んで理解すること。 (A-1)

2.2. ニュースや新聞に頻出する企業に関する社会問題に関心を持ち（新聞を読む習慣を養い）、自分の意見を述べられるようにすること。 (A-1)

3.3. 対話式の英語文献を読むこととグループによる討論タイムを設けることで、英会話やディスカッション能力を身につける。 (B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＢⅡ（その本質と対抗策）

2019-4010000503-02

長谷川　伸子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本書は、職場でハラスメントを受けた時、それをどう認識し、その本質を理解し、また対処するかについて解説したものである。
労働の場では依然として女性が下位に位置していることや仕事と家庭の二重負担をしていること、さらにセクシュアル・ハラスメントの被害者の多くが女性であることを鑑み、女性向けに書かれてはいるが、内容の多くは男性労働者にも通じるものである。豊富な例と共に、チェックリストなどのワークも入っており、実用的な内容となっている。
著者は、女性の権利擁護のために活動しているセラピスト、教師、活動家の3人。

授業は予習課題を基に、主にグループワークで進める。内容を理解することはもちろん、それを現在や今後の生活に活かすことを目指す。

◎－－－　到達目標　－－－◎

職場のハラスメントに関する基本的な知識を説明できる。(知識・理解)

将来的に、ハラスメントのない職場つくりに貢献する能力を養う。(技能)

グループワークでリーダーシップが取れる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・原則として毎回、A4用紙1枚の予習課題を出します。毎週の予習に必要な時間は、英語力により1～3時間。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・予習課題の評点
・授業中にどれだけ理解を深めたか
・グループワークにどれだけ寄与したか

評価方法
平常点：100％
予習課題の提出回数・内容・授業中の加筆内容
グループワークにおける積極性や協調性
プレゼンテーションの内容と発表能力

◎－－－　テキスト　－－－◎

Nicarthy, Ginny, Naomi Gottlieb and Sandra Coffman (1993) “You Don’t Have to Take It!” Seal Press、＄14.95、1-878067-35-4

◎－－－　参考書　－－－◎

職場の常識が変わる―福岡セクシュアル・ハラスメント裁判　ISBN 978-4755400285
改訂版 そこが知りたい！パワハラ対策の極意　ISBN 978-4816708695
キャンパス・セクシュアル・ハラスメント対応ガイド　ISBN 978-4782304167

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・宿題やグループワークや発表が毎回あることを承知して履修してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 Introduction
2-6 Chapter 6: The Double Whammy of Stress and Abuse
7-11 Chapter 7: Discover Your Individual Voice
12-15 Chapter 8: The Tought Is Mother to the Feeling

外書講読ＢⅡ（その本質と対抗策）

2019-4010000503-02

長谷川　伸子

◎商学:A-1,B-4

1.職場のハラスメントに関する基本的な知識を説明できる。　(A-1)

2.将来的に、ハラスメントのない職場つくりに貢献する能力を養う。　(B-4)

3.グループワークでリーダーシップが取れる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.職場のハラスメントに関する基本的な知識を説明できる。　(A-1)

2.将来的に、ハラスメントのない職場つくりに貢献する能力を養う。　(B-4)

3.グループワークでリーダーシップが取れる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＢⅡ（その本質と対抗策）

長谷川　伸子

2019-4010000503-02

◎貿易:A-1,B-4

1.職場のハラスメントに関する基本的な知識を説明できる。　(A-1)

2.将来的に、ハラスメントのない職場つくりに貢献する能力を養う。　(B-4)

3.グループワークでリーダーシップが取れる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＢⅡ

2019-4010000503-03

佐々木　昇

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　この外書講読の目的は、専門的な英文を読み、理解し、翻訳し、英文に対応した適切な日本語の文章を作成する力をつけることです。
　今年度は、ドイツの著名な経済学者の１人であるH.-W.Sinn著 The Pathological Export Boom and the Bazaar Effect: How to Solve the German Puzzle. (2006)を読み進めます。この文献は、ドイツ経済とドイツ企業の国際分業について論じた文献です。授業では、受講生が該当する部分の日本語訳を発表します。担当者は、資料の背景や翻訳について説明します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学や国際経済について基本的知識を身につけている。(知識・理解)

現在の経済状況下で取り組むべき課題を解決するために内外の知識を収集して解決に必要な知見を抽出することができ、またコミュニケーション能力を身につけている。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　指定もしくは配布された資料について、辞書や日本語の関連資料を参考にして予習すること。（90分）
　資料の概要を把握して授業での発表に備える。(60分）
　期末レポートの作成などを課しますので、期間中に取り扱った資料の単語と訳を復習しておくこと。（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　英文翻訳の事前学習の程度２割、授業での発表３割、授業への取り組みや学習態度について２割、また英文の内容についてどの程度理解しているかなどをみる期末レポート３割の割合で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

担当者が配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　英語の辞書（電子辞書も可能）また可能であれば、経済英語の辞書も、授業の時には、準備してください。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．授業の概要
2．The Export Puzzzle　pp.1-2.
3~4．Reaction to Excessive Wages　pp.3-5.
5~7．The Bazaar Economy　p.5-8.
8．Devision of Labour A l'lemande　pp.8-9.
9．　Wage Convergence as destiny　pp.9-10.
10．　The Desperrate Fright against　Wage Convergence pp.10-11.
11-12. Why the Export Boom does not　Indicate Gains from Trade　pp.11-　12.
13-14. The Pathological Export Boom　pp12-14.
15．授業の総括

外書講読ＢⅡ

2019-4010000503-03

佐々木　昇

◎商学:A-1,B-4

1.商学や国際経済について基本的知識を身につけている。　(A-1)

2.現在の経済状況下で取り組むべき課題を解決するために内外の知識を収集して解決に必要な知見を抽出することができ、またコミュニケーション能力を身につけている。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.商学や国際経済について基本的知識を身につけている。　(A-1)

2.現在の経済状況下で取り組むべき課題を解決するために内外の知識を収集して解決に必要な知見を抽出することができ、またコミュニケーション能力を身につけている。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＢⅡ

2019-4010000503-03

佐々木　昇

◎貿易:A-1,B-4

1.商学や国際経済について基本的知識を身につけている。　(A-1)

2.現在の経済状況下で取り組むべき課題を解決するために内外の知識を収集して解決に必要な知見を抽出することができ、またコミュニケーション能力を身につけている。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＢⅡ（会計編）

2019-4010000503-04

掛下　達郎

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

外書講読ＢＩに続いて、本外書講読は英語で会計を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得することを目的にします。本講義を受講することによって、新聞、雑誌、テレビが報じる会計ニュースを理解するのに必要な英語を習得できます。本講義の前半では、会計、流動資産、固定資産などを形容する際に頻出する定型表現を取り上げます。本講義の後半では、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、株主持分変動計算書に関する定型表現を取り上げます。会計英語に親しむことで経済ニュースを理解することができるようになります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

英語で会計を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。(知識・理解)

新聞、雑誌、テレビが報じる会計ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。(知識・理解)

会計や損益計算書などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義前にテキストの該当部分を読んでおきましょう（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

平常点100%。プレゼンテーションや発言によって評価します。テキストを正確に理解し、自分の言葉で説明することが大事です。英語で会計を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得しているか、会計、流動資産、固定資産などを形容する際に頻出する定型表現を正確に用いることができるかを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

日向清人『ビギナーのための経済英語―経済・金融・証券・会計の基本用例320』慶應義塾大学出版会、2017年、ISBN978-4-7664-2019-7、2,000円

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話初級、外書講読ＡＩ、外書講読ＡⅡを履修していることが好ましい。外書講読ＢＩと併せて受講すると良いでしょう。簿記原理などを履修するとより理解が深まります。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション
2 会計一般1
3 会計一般2
4 流動資産
5 棚卸資産（在庫品）
6 固定資産
7 練習問題：会計編1
8 負　債
9 株主資本
10 損益計算書1
11 損益計算書2
12 キャッシュ・フロー計算書
13 株主持分変動計算書
14 練習問題：会計編2
15 まとめ：会計編用語用例

外書講読ＢⅡ（会計編）

2019-4010000503-04

掛下　達郎

◎商学:A-1,B-4

1.英語で会計を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる会計ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.会計や損益計算書などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.英語で会計を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる会計ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.会計や損益計算書などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＢⅡ（会計編）

2019-4010000503-04

掛下　達郎

◎貿易:A-1,B-4

1.英語で会計を理解するのに必要な最小限の英語表現を習得している。　(A-1)

2.新聞、雑誌、テレビが報じる会計ニュースを理解するのに必要な英語を習得している。　(A-1)

3.会計や損益計算書などを形容する際に頻出する定型表現を用いることができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＢⅡ

2019-4010000503-05

猿渡　剛

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　この数年、日本各地で外国人労働者が注目されています。2018年12月には外国人労働者の受け入れ拡大を可能とする出入国管理法改正案が閣議決定され、衆参両院の国会審議を経て成立しました。
　日本はこれまでにも、多くの技能実習生を受け入れてきました。いわば非熟練の外国人材の受け入れを進めることで当面の人手不足を解消してきたのですが、その一方で、外国人材のなかでも高度な知識・技能を有する優秀な人材である高度人材の採用に関する議論は、ほとんど進んでいません。
　昨今、中国や韓国、東南アジア諸国でも熟練・非熟練を問わず、労働力不足が顕在化しつつあります。今後ますます高度外国人材の奪い合いが激しくなることが見込まれており、九州、福岡においても高度人材の確保の必要に迫られています。
　この授業では英語で書かれた学術論文、雑誌、新聞等を利用して各々の事例を検討し、近年の労働者移動を把握した後に、九州、福岡が直面する課題や今後直面するであろう課題を一緒に考えていきたいと思います。
　授業では毎回、英語文献を一緒に読んでいきます。2・3回目は教員、4回目以降は学生が報告を担当します。報告担当者にはスライドの作成を課しますし、担当者以外にも意見や質問を求めますので、事前にきちんと予習しておいてください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

国際労働移動をはじめとする商学の知識ならびに東アジア各国経済の基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

日本・九州・福岡が取り組むべき課題に対して、英語で書かれた文献を読んで国内外の事例を収集し、課題解決のために議論することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　各回の報告担当者は事前に配布された資料をよく読んで、スライドを作成してください。(180分)
　そのほかの受講者も、不明な箇所がないように予習しておいてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　成績は、(1)各自担当する部分の報告の内容25%、(2)平常点75%で評価します。
　(1)については、グループ内で役割を適切に分担し、要旨を把握し、スライドを用いて口頭で発表できることを評価基準とします。
　(2)については、発言の回数・内容等、授業に積極的に取り組む姿勢を評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　授業各回の冒頭に、テキストとなる資料を配付します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　毎回、出席状況を確認します。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション(授業内容や発表の仕方等についての説明)
2-3. 東アジア各国の経済について(教員による発表、ディスカッション)
4-14. 日本国内の労働者不足と東アジア出身の労働者の国際移動について(学生による発表、ディスカッション)
15. まとめ

外書講読ＢⅡ

2019-4010000503-05

猿渡　剛

◎商学:A-1,B-4

1.国際労働移動をはじめとする商学の知識ならびに東アジア各国経済の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.日本・九州・福岡が取り組むべき課題に対して、英語で書かれた文献を読んで国内外の事例を収集し、課題解決のために議論することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.国際労働移動をはじめとする商学の知識ならびに東アジア各国経済の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.日本・九州・福岡が取り組むべき課題に対して、英語で書かれた文献を読んで国内外の事例を収集し、課題解決のために議論することができる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＢⅡ

2019-4010000503-05

猿渡　剛

◎貿易:A-1,B-4

1.国際労働移動をはじめとする商学の知識ならびに東アジア各国経済の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.日本・九州・福岡が取り組むべき課題に対して、英語で書かれた文献を読んで国内外の事例を収集し、課題解決のために議論することができる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読Ｃ「13台以前」

2019-4010000368-01

王　効平

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

日本と中華地域（中華文化を共有する中国大陸、香港・マカオ、台湾からなる地域、場合によってシンガポールを加える場合もある）との経済的関わり（相互依存関係）が深まる中、大学の経営・商学系のカリキュラムに東アジアの主要言語である中国語の原語による経済・経営関係の情報・知識の取得がますます重要であるように思われる。中華社会では、政治・社会制度の相異に起因して、共通言語である中国語の表現（方言は別にして）も微妙に異なってきたが、交流拡大の中で相互融通現象が明白に起こっている。
本講義の目的はビジネス関係の現地新聞・専門誌の記事や録画資料を教材にして、こうした異同点を学習し、中華社会に対する理解を深めると共に、実用的なビジネス用語・ビジネスの専門知識を吸収することにある。

◎－－－　到達目標　－－－◎

流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

中華地域および中華地域の企業が置かれている経済社会状況を説明できる。(知識・理解)

中華地域および中華地域の企業・産業が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。(技能)

商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

＊事前に教材資料と参考資料を配布するので、講義前に予習すること。
＊定期的に課題を課し、講義中に小テストを実施することもあるので、復習をしっかり行うこと。
＊複数回のグループ発表を課す予定で、発表用レジメを余裕を持って準備し、事前に担当教員にメール送付すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

＊評価基準
①グループ発表、討議に際して自ら資料や情報を収集し、独自の見解を述べられるか否か。発言の積極さ。
②課題レポートの完成度（論理的展開、独自の見解の有無）・小テストの成績
＊評価方法
①授業中のグループ発表・討論参加度（60%）
②課題・小テスト（40%）で評価する

◎－－－　テキスト　－－－◎

現地新聞・雑誌記事の資料を配布。一部現地調査時の録画、VTRを併用。

◎－－－　参考書　－－－◎

亜洲週刊（香港）
商業週刊（台湾）
中国経営新聞（中国）
他は必要に応じて指定

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①基礎中国語など中国語関係科目の修得済みが望ましい。
②中華地域への留学や訪問の経験を有すること
が望ましい。
③「アジアの経済・経営A・B」が受講ずみか、同時履修が望ましい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
１ 中華地域と中国語
２ 中国大陸の政治と社会
３ 中国大陸の経済情勢
４ 香港・マカオの政治と社会
５ 香港・マカオの経済情勢
６ 台湾の政治と社会
７ 台湾の経済情勢
８ 台湾海峡両岸関係、返還後香港・マカオと中国大陸との関係の変遷
９ 中華系資本のビジネスネットワーク
１０ 中華系資本の商習慣
１１ 中華地域のビジネス教育
１２ グループ討論Ⅰ：異文化交流体験
１３ グループ討論Ⅱ：国際経済交流
１４ ビジネス事例の紹介
１５ 総合討議と課題の講評

後期
１ 中国語の方言圏
２ 中華地域の中国語教育
３ ビジネス用語の異同点
４ VTR鑑賞と討論Ⅰ： 台湾関係の録画
５ ビジネス実務Ⅰ
６ ビジネス実務Ⅱ
７ VTR鑑賞と討論Ⅱ: 香港・マカオ関係の録画
８ グループ発表Ⅰ
９ グループ発表Ⅱ
１０ グループ発表Ⅲ
１１ VTR鑑賞と討論Ⅲ：中国関係の録画
１２ 総合討論Ⅰ：日中関係について
１３ 総合討論Ⅱ：日本と中華地域関係
１４ 総合討論Ⅲ：日本と儒教文化圏
１５ 課題とテストの講評

外書講読Ｃ「13台以前」

2019-4010000368-01

王　効平

◎商学

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.中華地域および中華地域の企業が置かれている経済社会状況を説明できる。　(A-2)

3.中華地域および中華地域の企業・産業が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。　(B-1)

4.商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-4)

6.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

外書講読Ｃ「13台以前」

2019-4010000368-02

魏　蜀楠

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

“世界の平和と発展は理解と協力によってのみ達成される”といわれているように、日本のこれからの平和と発展は、隣国との政治的、経済的そして文化的な交流なくしては成立しがたいものとして考え、認識することができます。これは、東アジア（日中韓）の域内交流の玄関口で学習する若者たちにとって、国際社会で活躍するチャンスを意味する一方、東アジア地域の他国との国際的な交流を主体的に担うべきという使命が付与されることをも意味します。
本講義は、日中韓３ヶ国を中心とする東アジア文化の“枝葉”同士（えだはどうし）の対話を促進させるため、東アジアが有する共通文化の根っこ部分（漢字文化と儒教思想）から出発します。そして、中国の地理生活文化、経済社会、政治体制を紹介しながら、最近のトピックス、皆さんが関心のある話題を取り上げ、中国語、日本語また英語の文献・資料を見比べながら、東アジア社会圏に対する認識と理解を深めていきます。
本講義では、東アジア社会を理解する上で有益な文献・資料およびビデオ映像を取り上げ、プリントを配布します。まず、配布プリント・資料に記述された基本的な概念、テクニカルターム（専門用語）、その内容・中身について学習します。そして、文献・資料およびビデオ映像の内容について、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーションを行い、皆さんの語学力と異文化への理解力のレベルアップにつなげたいと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

外国語文献の中で用いられるテクニカルターム（専門用語）、基本的概念を説明できる。(知識・理解)

外国語文献の中身・内容（論理展開）などを把握し、東アジア社会圏に対する理解力を高める。(技能)

外国語文献（中国語、英語）を読み解く力を養い、必要な情報を収集、整理、説明できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本講義は、特定のテキストは使わず、毎回プリントを配布します。そして、前回の内容をもとに次回の内容が展開するという形式をとっています。このため、講義後は、再度内容を確認するようにしてください。（20分）
また、講義で紹介した記事、文献については、図書館あるいは自宅でしっかり読み込むことも必要となります。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

和訳、グループ・ディスカッションへの参加態度、プレゼンテーションの完成状況、講義への貢献度などについて総合的に評価します（グループ・ディスカッション、プレゼンテーションおよび単語クイズが50%、最終の課題提出が50%）。
講義目標を達成するため、3つのタスク（任務）を設定します。①学生が構文を取りながらワード・バイ・ワードの基本的な和訳練習を行うこと、②段落ごとのポイントをまとめ、文章の流れを把握すること、③文章の内容と関連する専門知識を学習し、理解を深めることを本講義の3つの基本的なタスクとして考えています。また、基本的な概念や専門用語の意味、使い方および中文、英文の表現などが、毎回の和訳の練習の中で自然に慣れていくことを目指します。また、3つのタスクの完成度を、授業中の質問、漢字、単語クイズおよび課題発表などの形式で確認し、評価を加えていきます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特定のテキストは使わず、プリントを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

ビジネス菜根譚　ISBN 9784344902312
中国産業地図　ISBN 9784532317386
必要に応じて、講義の中で紹介します

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業には日中/中日辞典、英和辞典あるいは電子辞書を持参することが望ましい。
中華地域（中国大陸、香港、マカオ、台湾など）への観光や留学の経験を有することが望ましい。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

（前期の予定）
1．イントロダクション（講義紹介）
2-6.東アジアの儒教思想
（『菜根譚』から学ぶ）
7-8.中国の多民族社会
（チベット族、ウイグル族、モンゴル族）
9-11．中国の食文化
（四川料理、広東料理、東北料理）
12-13.中国の世界遺産と観光産業
（万里の長城、楽山大仏、九サイ溝）
14．中国の交通事情
15．まとめと課題
（後期の予定）
1．イントロダクション（前期のおさらい）
2-5．中国の輸出・輸入
6-9.中国のIT産業
10-12．中国の環境問題―PM2.5
13-14．中国のエネルギー事情
15．まとめ

外書講読Ｃ「13台以前」

2019-4010000368-02

魏　蜀楠

◎商学

1.外国語文献の中で用いられるテクニカルターム（専門用語）、基本的概念を説明できる。　(A-1)

2.外国語文献の中身・内容（論理展開）などを把握し、東アジア社会圏に対する理解力を高める。　(B-1)

3.外国語文献（中国語、英語）を読み解く力を養い、必要な情報を収集、整理、説明できる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

外書講読ＣⅠ

2019-4010000504-01

王　効平

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

日本と中華地域（中華文化を共有する中国大陸、香港・マカオ、台湾からなる地域、場合によってはシンガポールを加えた地域）との経済的関わり（相互依存関係）が深まる中、大学の経営・商学系のカリキュラムにアジアの主要言語である中国語の原語による経済・経営関係の情報・知識の取得がますます重要であるように思われる。中華社会では、政治・社会制度の相異に起因して、共通言語である中国語の表現（方言は別にして）も微妙に異なってきたが、交流拡大の中で相互融通現象が起こっている。
本講義の目的はビジネス関係の現地新聞・専門誌の記事や録画資料を教材にして、こうした異同点を学習し、中華社会に対する理解を深めると共に、実用的なビジネス用語・知識を吸収することにある。

◎－－－　到達目標　－－－◎

流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

中華地域および中華地域の企業が置かれている経済社会状況を説明できる。(知識・理解)

中華地域および中華地域の企業・産業が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。(技能)

商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

＊事前に教材資料と参考資料を配布するので、講義前に予習すること。
＊定期的に課題レポートを課し、講義中に小テストを実施することもあるので、復習をしっかり行うこと。
＊複数回のグループ発表を課す予定で、発表用レジメを余裕を持って準備し、事前に担当教員にメール送付すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

＊評価基準
①グループ発表、討議に際して自ら資料や情報を収集し、独自の見解を述べられるか否か。発言の積極さ。
②課題レポートの完成度（論理的展開、独自の見解の有無）・小テストの成績
＊評価方法
①授業中のグループ発表・討論参加度（60%）
②課題・小テスト（40%）で評価する

◎－－－　テキスト　－－－◎

現地新聞・雑誌記事の資料を配布。一部現地調査時の録画、VTRを併用。

◎－－－　参考書　－－－◎

亜洲週刊（香港）
ウェブニュース（中国大陸、台湾関係）
他は必要に応じて指定。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①基礎中国語修得済みが望ましい。
②中華地域への留学や訪問の経験を有することが望ましい。
③「アジアの経済・経営A・B」を受講済みか、同時履修が望ましい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１ 中華地域と中国語
２ 中国大陸の政治と社会
３ 中国大陸の経済情勢
４ 香港・マカオの政治と社会
５ 香港・マカオの経済情勢
６ 台湾の政治と社会
７ 台湾の経済情勢
８ 台湾海峡両岸関係、返還後香港・マカオと中国大陸との関係の変遷
９ 中華系資本のビジネスネットワーク
１０ 中華系資本の商習慣
１１ 中華地域のビジネス教育
１２ グループ討論Ⅰ：異文化交流体験
１３ グループ討論Ⅱ：国際経済交流
１４ ビジネス事例の紹介
１５ 総合討議、課題レポートの講評

外書講読ＣＩ

2019-4010000504-01

王　効平

◎商学:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.中華地域および中華地域の企業が置かれている経済社会状況を説明できる。　(A-1)

3.中華地域および中華地域の企業・産業が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。　(B-4)

4.商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

6.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.中華地域および中華地域の企業が置かれている経済社会状況を説明できる。　(A-1)

3.中華地域および中華地域の企業・産業が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。　(B-4)

4.商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

6.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＣＩ

2019-4010000504-01

王　効平

◎貿易:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.中華地域および中華地域の企業が置かれている経済社会状況を説明できる。　(A-1)

3.中華地域および中華地域の企業・産業が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。　(B-4)

4.商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

6.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＣⅠ

2019-4010000504-02

魏　蜀楠

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：水・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

“世界の平和と発展は理解と協力によってのみ達成される”といわれているように、日本のこれからの平和と発展は、隣国との政治的、経済的そして文化的な交流なくしては成立しがたいものとして考え、認識することができます。これは、東アジア（日中韓）の域内交流の玄関口で学習する若者たちにとって、国際社会で活躍するチャンスを意味する一方、東アジア地域の他国との国際的な交流を主体的に担うべきという使命が付与されることをも意味します。
本講義は、日中韓３ヶ国を中心とする東アジア文化の“枝葉”同士（えだはどうし）の対話を促進させるため、東アジアが有する共通文化の根っこ部分（漢字文化と儒教思想）から出発します。そして、中国の地理生活文化、経済社会、政治体制を紹介しながら、最近のトピックス、皆さんが関心のある話題を取り上げ、中国語、日本語また英語の文献・資料を見比べながら、東アジア社会圏に対する認識と理解を深めていきます。
本講義では、東アジア社会を理解する上で有益な文献・資料およびビデオ映像を取り上げ、プリントを配布します。まず、配布プリント・資料に記述された基本的な概念、テクニカルターム（専門用語）、その内容・中身について学習します。そして、文献・資料およびビデオ映像の内容について、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーションを行い、皆さんの語学力と異文化への理解力のレベルアップにつなげたいと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

外国語文献の中で用いられるテクニカルターム（専門用語）、基本的概念を説明できる。(知識・理解)

外国語文献の中身・内容（論理展開）などを把握し、東アジア社会圏に対する理解力を高める。(技能)

外国語文献（中国語、英語）を読み解く力を養い、必要な情報を収集、整理、説明できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本講義は、前回の内容をもとに次回の内容が展開するという形式をとっています。このため、講義後は、再度内容を確認するようにしてください。（20分）
また、講義で紹介した記事、文献については、図書館あるいは自宅でしっかり読み込むことも必要となります。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

和訳、グループ・ディスカッションへの参加態度、プレゼンテーションの完成状況、講義への貢献度などについて総合的に評価します（グループ・ディスカッション、プレゼンテーションおよび単語クイズが50%、最終の課題提出が50%）。
講義目標を達成するため、3つのタスク（任務）を設定します。①学生が構文を取りながらワード・バイ・ワードの基本的な和訳練習を行うこと、②段落ごとのポイントをまとめ、文章の流れを把握すること、③文章の内容と関連する専門知識を学習し、理解を深めることを本講義の3つの基本的なタスクとして考えています。また、基本的な概念や専門用語の意味、使い方および中文、英文の表現などが、毎回の和訳の練習の中で自然に慣れていくことを目指します。また、3つのタスクの完成度を、授業中の質問、漢字、単語クイズおよび課題発表などの形式で確認し、評価を加えていきます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特定のテキストは使わず、プリントを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

ビジネス菜根譚　ISBN 9784344902312
中国産業地図　ISBN 9784532317386
必要に応じて、講義の中で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業には日中/中日辞典、英和辞典あるいは電子辞書を持参することが望ましい。
中華地域（中国大陸、香港、マカオ、台湾など）への観光や留学の経験を有することが望ましい。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション（講義紹介）
2-6.東アジアの儒教思想
（『菜根譚』から学ぶ）
7-8.中国の多民族社会
（チベット族、ウイグル族、モンゴル族）
9-11. 中国の食文化
（四川料理、広東料理、東北料理）
12-13.中国の世界遺産と観光産業
（万里の長城、楽山大仏、九サイ溝）
14. 中国の交通事情
15. まとめと課題

外書講読ＣＩ

2019-4010000504-02

魏　蜀楠

◎商学:A-1,B-4

1.外国語文献の中で用いられるテクニカルターム（専門用語）、基本的概念を説明できる。　(A-1)

2.外国語文献の中身・内容（論理展開）などを把握し、東アジア社会圏に対する理解力を高める。　(B-4)

3.外国語文献（中国語、英語）を読み解く力を養い、必要な情報を収集、整理、説明できる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.外国語文献の中で用いられるテクニカルターム（専門用語）、基本的概念を説明できる。　(A-1)

2.外国語文献の中身・内容（論理展開）などを把握し、東アジア社会圏に対する理解力を高める。　(B-4)

3.外国語文献（中国語、英語）を読み解く力を養い、必要な情報を収集、整理、説明できる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＣＩ

2019-4010000504-02

魏　蜀楠

◎貿易:A-1,B-4

1.外国語文献の中で用いられるテクニカルターム（専門用語）、基本的概念を説明できる。　(A-1)

2.外国語文献の中身・内容（論理展開）などを把握し、東アジア社会圏に対する理解力を高める。　(B-4)

3.外国語文献（中国語、英語）を読み解く力を養い、必要な情報を収集、整理、説明できる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＣⅡ

2019-4010000505-01

王　効平

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

日本と中華地域（中華文化を共有する中国大陸、香港・マカオ、台湾からなる地域、場合によってシンガポールを加えた地域）との経済的関わり（相互依存関係）が深まる中、大学の経営・商学系のカリキュラムにアジアの主要言語である中国語の原語による経済・経営関係の情報・知識の取得がますます重要であるように思われる。中華社会では、政治・社会制度の相異に起因して、共通言語である中国語の表現（方言は別にして）も微妙に異なってきたが、交流拡大の中で相互融通現象が起こっている。
本講義の目的はビジネス関係の現地新聞・専門誌の記事や録画資料を教材にして、こうした異同点を学習し、中華社会に対する理解を深めると共に、実用的なビジネス用語・ビジネスの専門知識を吸収することにあるが、前期の外書講読ＣⅠは政治や社会にウエイトを置くのに対して、ＣⅡはビジネスや企業経営に焦点を絞る。

◎－－－　到達目標　－－－◎

流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

中華地域および中華地域の企業が置かれている経済社会状況を説明できる。(知識・理解)

中華地域および中華地域の企業・産業が取り組むべき課題が何であるか、日本と中華地域との経済連携の可能性などについて説明できる。(技能)

商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

＊事前に教材資料と参考資料を配布するので、講義前に予習すること。
＊定期的に課題を課し、講義中に小テストを実施することもあるので、復習をしっかり行うこと。
＊複数回のグループ発表を課す予定で、発表用レジメを余裕を持って準備し、事前に担当教員にメール送付すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

＊評価基準
①グループ発表、討議に際して自ら資料や情報を収集し、独自の見解を述べられる程度か否か。発言の積極さ。
②課題レポートの完成度（論理的展開、独自の見解の有無）・小テストの成績
＊評価方法
①授業中のグループ発表・討論参加度（60%）
②課題・小テスト（40%）で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

現地新聞・雑誌記事の資料を配布。一部現地調査時の録画、VTRを併用。

◎－－－　参考書　－－－◎

商業週刊（台湾）
ウェブニュース（中華地域全般）
他は必要に応じて指定。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①基礎中国語修得済みが望ましい。
②中華地域への留学や訪問の経験を有することが望ましい。
③「アジアの経済・経営A・B」を受講済みか、同時履修が望ましい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１ 中国語の方言圏
２ 中華地域の中国語教育
３ ビジネス・経営用語の異同点
４ VTR鑑賞と討論Ⅰ： 台湾関係の録画
５ ビジネス実務Ⅰ
６ ビジネス実務Ⅱ
７ VTR鑑賞と討論Ⅱ: 香港・マカオ関係の録画
８ グループ発表Ⅰ
９ グループ発表Ⅱ
１０ グループ発表Ⅲ
１１ VTR鑑賞と討論Ⅲ：中国関係の録画
１２ 総合討論Ⅰ：日中関係について
１３ 総合討論Ⅱ：日本と中華地域との関係について
１４ 総合討論Ⅲ：日本と儒教文化圏との今後について
１５ 総合討議と課題レポートの講評

外書講読ＣⅡ

2019-4010000505-01

王　効平

◎商学:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.中華地域および中華地域の企業が置かれている経済社会状況を説明できる。　(A-1)

3.中華地域および中華地域の企業・産業が取り組むべき課題が何であるか、日本と中華地域との経済連携の可能性などについて説明できる。　(B-4)

4.商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

6.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.中華地域および中華地域の企業が置かれている経済社会状況を説明できる。　(A-1)

3.中華地域および中華地域の企業・産業が取り組むべき課題が何であるか、日本と中華地域との経済連携の可能性などについて説明できる。　(B-4)

4.商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

6.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＣⅡ

2019-4010000505-01

王　効平

◎貿易:A-1,B-4

1.流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.中華地域および中華地域の企業が置かれている経済社会状況を説明できる。　(A-1)

3.中華地域および中華地域の企業・産業が取り組むべき課題が何であるか、日本と中華地域との経済連携の可能性などについて説明できる。　(B-4)

4.商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

6.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

外書講読ＣⅡ

2019-4010000505-02

魏　蜀楠

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

“世界の平和と発展は理解と協力によってのみ達成される”といわれているように、日本のこれからの平和と発展は、隣国との政治的、経済的そして文化的な交流なくしては成立しがたいものとして考え、認識することができます。これは、東アジア（日中韓）の域内交流の玄関口で学習する若者たちにとって、国際社会で活躍するチャンスを意味する一方、東アジア地域の他国との国際的な交流を主体的に担うべきという使命が付与されることをも意味します。
本講義は、日中韓３ヶ国を中心とする東アジア文化の“枝葉”同士（えだはどうし）の対話を促進させるため、東アジアが有する共通文化の根っこ部分（漢字文化と儒教思想）から出発します。そして、中国の地理生活文化、経済社会、政治体制を紹介しながら、最近のトピックス、皆さんが関心のある話題を取り上げ、中国語、日本語また英語の文献・資料を見比べながら、東アジア社会圏に対する認識と理解を深めていきます。
本講義では、東アジア社会を理解する上で有益な文献・資料およびビデオ映像を取り上げ、プリントを配布します。まず、配布プリント・資料に記述された基本的な概念、テクニカルターム（専門用語）、その内容・中身について学習します。そして、文献・資料およびビデオ映像の内容について、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーションを行い、皆さんの語学力と異文化への理解力のレベルアップにつなげたいと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

外国語文献の中で用いられるテクニカルターム（専門用語）、基本的概念を説明できる。(知識・理解)

外国語文献の中身・内容（論理展開）などを把握し、東アジア社会圏に対する理解力を高める。(技能)

外国語文献（中国語、英語）を読み解く力を養い、必要な情報を収集、整理、説明できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本講義は、前回の内容をもとに次回の内容が展開するという形式をとっています。このため、講義後は、再度内容を確認するようにしてください。（20分）
また、講義で紹介した記事、文献については、図書館あるいは自宅でしっかり読み込むことも必要となります。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

和訳、グループ・ディスカッションへの参加態度、プレゼンテーションの完成状況、講義への貢献度などについて総合的に評価します（グループ・ディスカッション、プレゼンテーションおよび単語クイズが50%、最終の課題提出が50%）。
講義目標を達成するため、3つのタスク（任務）を設定します。①学生が構文を取りながらワード・バイ・ワードの基本的な和訳練習を行うこと、②段落ごとのポイントをまとめ、文章の流れを把握すること、③文章の内容と関連する専門知識を学習し、理解を深めることを本講義の3つの基本的なタスクとして考えています。また、基本的な概念や専門用語の意味、使い方および中文、英文の表現などが、毎回の和訳の練習の中で自然に慣れていくことを目指します。また、3つのタスクの完成度を、授業中の質問、漢字、単語クイズおよび課題発表などの形式で確認し、評価を加えていきます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特定のテキストは使わず、プリントを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

中国産業地図　ISBN 9784532317386
必要に応じて、講義の中で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業には日中/中日辞典、英和辞典あるいは電子辞書を持参することが望ましい。
中華地域（中国大陸、香港、マカオ、台湾など）への観光や留学の経験を有することが望ましい。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション
2-5. 中国の輸出・輸入
6-9.中国のIT産業
10-12. 中国の環境問題―PM2.5
13-14. 中国のエネルギー事情
15. まとめ

外書講読ＣⅡ

2019-4010000505-02

魏　蜀楠

◎商学:A-1,B-4

1.外国語文献の中で用いられるテクニカルターム（専門用語）、基本的概念を説明できる。　(A-1)

2.外国語文献の中身・内容（論理展開）などを把握し、東アジア社会圏に対する理解力を高める。　(B-4)

3.外国語文献（中国語、英語）を読み解く力を養い、必要な情報を収集、整理、説明できる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-4

1.外国語文献の中で用いられるテクニカルターム（専門用語）、基本的概念を説明できる。　(A-1)

2.外国語文献の中身・内容（論理展開）などを把握し、東アジア社会圏に対する理解力を高める。　(B-4)

3.外国語文献（中国語、英語）を読み解く力を養い、必要な情報を収集、整理、説明できる。　(B-4)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外書講読ＣⅡ

2019-4010000505-02

魏　蜀楠

◎貿易:A-1,B-4

1.外国語文献の中で用いられるテクニカルターム（専門用語）、基本的概念を説明できる。　(A-1)

2.外国語文献の中身・内容（論理展開）などを把握し、東アジア社会圏に対する理解力を高める。　(B-4)

3.外国語文献（中国語、英語）を読み解く力を養い、必要な情報を収集、整理、説明できる。　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

近代西洋商業史

2019-4010000611-01

藤田　裕邦

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：2020/01/27　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、近世以降の西洋における商業・経済の流れについて取り扱う。
現代の多くの国で機能している経済のしくみは、資本主義と呼ばれる。このしくみが本格的に展開するのは，おおむね18世紀以降の近代と呼ばれる時代からであるが、その萌芽は16世紀に始まる近世に遡る。近世に入ると、中世において機能していた「領主制」と「共同体」が解体して個人の自由裁量の余地が広がり、経済的合理主義を前面に打ち出した経済活動が広汎に行われるようになった。また、この頃からヨーロッパ人の活動が非ヨーロッパにまで拡大したため、資源利用と経済交流が全地球規模で展開することとなった。こうしたことから、近世以降は、中世までとは異なった形で経済が急速に展開していくのである。本講義では、資本主義を準備・展開させた近世・近代という時代を対象とする。 また、取り扱う事象は狭く商業に限定することなく、農業・工業などを含む経済活動全体、さらには社会状況にまで眼を向けていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

西洋近世・近代の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。(知識・理解)

近世・近代においての、ヨーロッパ諸国相互間や、ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界との間の経済関係について説明できる。(知識・理解)

現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。(知識・理解)

歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。(知識・理解)

日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。(態度・志向性)

日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回の授業終了後、内容確認のための学習課題をFUポータル（「授業関連」→「授業支援」→「授業管理」）に掲出するので、それをもとに各自で復習すること（60分）。
また、授業に関する連絡事項も、同様にFUポータルに掲出するので、毎回の授業前後に確認すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：
授業において取り扱った事項と、その背景事情について、基本的な知識を習得しているかどうかを、評価基準とする。
評価方法：
定期試験のみによって評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

（１）奥西孝至ほか『西洋経済史』（有斐閣アルマ）有斐閣，2010年　ISBN 978-4-641-12404-2
（２）神武庸四郎・萩原伸次郎『西洋経済史』（有斐閣Sシリーズ）有斐閣，1989年　ISBN 4-641-05926-8
（３）「世界の歴史」編集委員会（編）『新 もういちど読む山川世界史』　山川出版社，2017年　ISBN 978-4-634-64090-0
（１）（２）は、教科書的体裁の大学生向け概説書である。商業史・経済史のすべての事象を授業において完全に網羅することは不可能であるから、授業では立ち入らなかった事象について興味を持った時には、これらも利用して欲しい。
（３）は、高等学校「世界史B」の教科書をもとに一般読者向けに取りまとめられた、世界史の概説書である。下記【履修上の留意点】について不安を抱いている人が利用するのに適している。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

限られた授業時間の中で、西洋史に関する基礎的な知識の全てを取り扱う余裕はない。幸い、中学校「社会」の歴史的分野では常識と目される程度の世界史の学習は行なわれており、また、高等学校学習指導要領では「世界史A」または「世界史B」の履修が必修とされている。そこで本講義は、受講者が、中学校「社会」程度の世界史の知識を持ち合せていること、高等学校「世界史A」「世界史B」程度の事項は百科事典・歴史事典などによって自力で調べることを前提に、授業を行う。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　中世社会と近世社会
2　イングランドの工業化
3　商業革命
4　オランダ商業の展開（１）オランダの興隆
5　オランダ商業の展開（２）オランダの貿易関係
6　イギリスの海外進出（１）イギリスの貿易関係
7　イギリスの海外進出（２）イギリスの経済政策
8　フランス・ドイツの動向
9　ヨーロッパ諸国の植民地争奪
10　産業革命（１）農業革命と産業革命
11　産業革命（２）イギリス産業革命の特徴
12　世界市場の形成（１）「世界の工場」イギリス
13　世界市場の形成（２）イギリス経済の弱点
14　アメリカ経済の展開（１）独立前後のアメリカ経済
15　アメリカ経済の展開（２）独立後の経済発展

近代西洋商業史

2019-4010000611-01

藤田　裕邦

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,C-1,C-2

1.西洋近世・近代の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.近世・近代においての、ヨーロッパ諸国相互間や、ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界との間の経済関係について説明できる。　(A-2)

3.現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。　(A-3)

4.歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。　(A-4)

5.日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。　(C-1)

6.日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3,C-1,C-2

1.西洋近世・近代の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.近世・近代においての、ヨーロッパ諸国相互間や、ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界との間の経済関係について説明できる。　(A-2)

3.現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。　(A-3)

4.歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。

5.日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。　(C-1)

6.日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

近代西洋商業史

2019-4010000611-01

藤田　裕邦

◎貿易:A-1,A-2,A-3,C-1,C-2

1.西洋近世・近代の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.近世・近代においての、ヨーロッパ諸国相互間や、ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界との間の経済関係について説明できる。　(A-2)

3.現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。　(A-3)

4.歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。

5.日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。　(C-1)

6.日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

近代日本商業史

2019-4010000609-01

本村　希代

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・２時限　　試験時間割：2020/01/22　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

人間の歴史は、財貨の交換行為の展開史、つまり流通・商業の変容過程であったといえる。それゆえ現代社会のあり方を問うには、今日にいたるまで連綿と続く商業活動を明らかにする必要がある。
本講義では明治期以降、近代から現代にかけての商業展開を明らかにしていく。幕末開港による世界市場への編入、両大戦期における流通機構の変容、そして戦後日本における流通の発展と変化を取り上げる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。(知識・理解)

歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことができるようになる。(知識・理解)

歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

歴史は得てして暗記するものだと思われがちだが、全体の大きな流れを理解することが大切である。それゆえ毎回の講義テーマごとに、なぜそのような姿にいたったのか、原因・結果など、歴史の流れを整理しておくこと（60分）。またそれが次回の講義の予習にもなる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験で評価する。講義内で取り上げたテーマについて、きちんと歴史の流れとして把握できているか、またそれらを自分の言葉で説明できているかを評価の基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

廣田誠他『日本商業史』　ISBN 9784641165069
石井寛治『日本流通史』　ISBN 9784641161696

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

日本商業史の単位を修得済の者が望ましい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに
2　社会経済環境の変化
3　近代商業経営の成立
4　会社の誕生
5　百貨店の登場
6　都市型第三次産業の開拓
7　専門商社から総合商社へ
8　財閥の形成
9　戦後の百貨店経営
10　総合スーパーの発展
11　流通革新と消費の多様化
12　メーカーのマーケティング戦略①
13　メーカーのマーケティング戦略②
14　商業政策の広がり
15　まとめ

近代日本商業史

2019-4010000609-01

本村　希代

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことができるようになる。(A-3)

3.歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことができるようになる。(A-3)

3.歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

近代日本商業史

本村　希代

2019-4010000609-01

◎貿易:A-2,A-3

1.経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことができるようになる。(A-3)

3.歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

金融機関論

2019-4010000328-01

永田　裕司

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：2020/01/20　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

日常生活の中で、われわれは銀行や証券会社などの金融機関をいろんな形で利用しています。例えば、CDコーナーで現金を引き出したり、親元から仕送りをしてもらったり、クレジットカードでショッピングをしたり、国債や株式を購入したりします。こうした金融サービスをわれわれは当然のように利用していますが、それが無くなれば、われわれの生活はきわめて不便なものになるでしょう。とくに企業は、多額の取引の決済ができなくなったり、外部からの資金調達ができなくなれば、経済活動を営むことは不可能になります。そうなれば日本経済全体も成長できなくなるどころか、機能麻痺に陥ってしまうでしょう。

要するに、銀行などの金融機関は、日常の経済生活にとって必要不可欠な通貨を管理するとともに、お金の余っている家計部門から不足している企業や政府部門への資金の仲介を行うという重要な役割を果たしているのです。こうした金融の役割は、経済の仕組みが複雑になり、国際化が進めば進むほどますます重要になってきます。とくに現在は、経済のグローバル化、規制緩和、情報化、高齢化などの影響により、金融の世界では大きな構造変化が進んでいます。

金融の仕組みや金融機関の業務内容については、難しくて近寄りがたいという印象を持つ人が多いようですが、基礎から少しずつマスターしていけばかならず興味が湧くようになります。講義では、新聞などを通じて時事的な現象も紹介しながらできるだけ理解できるようにしていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本の金融システムの構造と変化について理解できる。(知識・理解)

金融機関の経済的役割と業務内容に関する知識を習得できる。(知識・理解)

地域発展のために金融機関が取り組むべき課題と手段について考察できる。(知識・理解)

社会人として成長するために金融の知識を身につける。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前の予習もある程度必要であるが、事後学習については、講義の最後に重要語句や練習問題を提示するので、それについて十分な復習をしておくこと。事前の予習と事後学習ともに１時間程度は必要である。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として、定期試験で評価する。また評価基準としては、日本の金融システムの特徴や各金融機関の業務や役割などについての理解度と新聞などを通じた時事的な話題についての関心度を重視する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

最新のデータを重視するので、必要に応じてプリントを配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

吉野直行・高月昭年『入門・金融』　有斐閣
ISBN4641161658
鹿野嘉昭『日本の金融制度』　東洋経済新報社
ISBN4492653791
鈴木淑夫・岡部光明『実践ゼミナール・日本の金融』　東洋経済新報社ISBN4492651934

その他参考文献は講義の中で随時紹介していく。講義を単に聴くだけでなく、日本経済新聞をはじめとする新聞や雑誌なども積極的に読むようにしてほしい。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

理解ができなくなるので、私語や理由のない大幅な遅刻は慎むこと。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　激変する金融の世界
2　金融ビッグバンと金融機関
日本型金融システム、ビッグバンとその影響
3　わが国金融機関の現状と再編
金融機関の種類とシェア、統合と再編
4　普通銀行の種類と特徴
メガバンク、地方銀行、金融持ち株会社
5　協同組織金融機関の種類と特徴
信用金庫、信用組合、労働金庫、農漁協
6　中小企業金融の課題と展望
規模の経済性、情報の非対称性、逆選択
7　長期金融機関の歴史的役割
長期信用銀行、信託銀行、投資信託
8　ノンバンクの種類と業務
消費者金融、信販会社、商工ローン
9　証券会社の業務と役割
証券取引所、ブローキング、ネット取引
10　生命保険会社の金融機能
責任準備金、逆ざや問題、ソルベンシー比率
11　機関投資家の発展と役割
年金基金、投資信託、コーポレイト・ガバナンス
12　公的金融機関の種類と役割
郵便貯金、政府系金融機関、財政投融資
13　金融機関の国際比較
ユニバーサルバンキング、コングロマリット
14　金融システムの将来像
15　まとめ

金融機関論

2019-4010000328-01

永田　裕司

◎商学

1.日本の金融システムの構造と変化について理解できる。　(A-1)

2.金融機関の経済的役割と業務内容に関する知識を習得できる。　(A-2)

3.地域発展のために金融機関が取り組むべき課題と手段について考察できる。　(A-3)

4.社会人として成長するために金融の知識を身につける。　(B-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

金融システム論

2019-4010000607-01

永田　裕司

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：2020/01/20　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

日常生活の中で、われわれは銀行や証券会社などの金融機関をいろんな形で利用しています。例えば、CDコーナーで現金を引き出したり、親元から仕送りをしてもらったり、クレジットカードでショッピングをしたり、国債や株式を購入したりします。こうした金融サービスをわれわれは当然のように利用していますが、それが無くなれば、われわれの生活はきわめて不便なものになるでしょう。とくに企業は、多額の取引の決済ができなくなったり、外部からの資金調達ができなくなれば、経済活動を営むことは不可能になります。そうなれば日本経済全体も成長できなくなるどころか、機能麻痺に陥ってしまうでしょう。

要するに、銀行などの金融機関は、日常の経済生活にとって必要不可欠な通貨を管理するとともに、お金の余っている家計部門から不足している企業や政府部門への資金の仲介を行うという重要な役割を果たしているのです。こうした金融の役割は、経済の仕組みが複雑になり、国際化が進めば進むほどますます重要になってきます。とくに現在は、経済のグローバル化、規制緩和、情報化、高齢化などの影響により、金融の世界では大きな構造変化が進んでいます。

金融の仕組みや金融機関の業務内容については、難しくて近寄りがたいという印象を持つ人が多いようですが、基礎から少しずつマスターしていけばかならず興味が湧くようになります。講義では、新聞などを通じて時事的な現象も紹介しながらできるだけ理解できるようにしていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本の金融システムの構造と変化について理解できる。(知識・理解)

金融機関の経済的役割と業務内容に関する知識を習得できる。(知識・理解)

地域発展のために金融機関が取り組むべき課題と手段について考察できる。(知識・理解)

社会人として成長するために金融の知識を身につける。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前の予習もある程度必要であるが、事後学習については、講義の最後に重要語句や練習問題を提示するので、それについて十分な復習をしておくこと。事前の予習と事後学習ともに１時間程度は必要である。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として、定期試験で評価する。また評価基準としては、日本の金融システムの特徴や各金融機関の業務や役割などについての理解度と新聞などを通じた時事的な話題についての関心度を重視する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

最新のデータを重視するので、必要に応じてプリントを配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

吉野直行・高月昭年『入門・金融』　有斐閣
ISBN4641161658
鹿野嘉昭『日本の金融制度』　東洋経済新報社
ISBN4492653791
鈴木淑夫・岡部光明『実践ゼミナール・日本の金融』　東洋経済新報社ISBN4492651934

その他参考文献は講義の中で随時紹介していく。講義を単に聴くだけでなく、日本経済新聞をはじめとする新聞や雑誌なども積極的に読むようにしてほしい。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

理解ができなくなるので、私語や理由のない大幅な遅刻は慎むこと。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　激変する金融の世界
2　金融ビッグバンと金融機関
　日本型金融システム、ビッグバンとその影響
3　わが国金融機関の現状と再編
　金融機関の種類とシェア、統合と再編
4　普通銀行の種類と特徴
　メガバンク、地方銀行、金融持ち株会社
5　協同組織金融機関の種類と特徴
　信用金庫、信用組合、労働金庫、農漁協
6　中小企業金融の課題と展望
　規模の経済性、情報の非対称性、逆選択
7　長期金融機関の歴史的役割
　長期信用銀行、信託銀行、投資信託
8　ノンバンクの種類と業務
　消費者金融、信販会社、商工ローン
9　証券会社の業務と役割
　証券取引所、ブローキング、ネット取引
10　生命保険会社の金融機能
　責任準備金、逆ざや問題、ソルベンシー比率
11　機関投資家の発展と役割
　年金基金、投資信託、コーポレイト・ガバナンス
12　公的金融機関の種類と役割
　郵便貯金、政府系金融機関、財政投融資
13　金融機関の国際比較
　ユニバーサルバンキング、コングロマリット
14　金融システムの将来像
15　まとめ

金融システム論

2019-4010000607-01

永田　裕司

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.日本の金融システムの構造と変化について理解できる。　(A-2)

2.金融機関の経済的役割と業務内容に関する知識を習得できる。　(A-3)

3.地域発展のために金融機関が取り組むべき課題と手段について考察できる。　(A-4)

4.社会人として成長するために金融の知識を身につける。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.日本の金融システムの構造と変化について理解できる。　(A-2)

2.金融機関の経済的役割と業務内容に関する知識を習得できる。　(A-3)

3.地域発展のために金融機関が取り組むべき課題と手段について考察できる。　(A-3)

4.社会人として成長するために金融の知識を身につける。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

金融システム論

2019-4010000607-01

永田　裕司

◎貿易:A-2,A-3

1.日本の金融システムの構造と変化について理解できる。　(A-2)

2.金融機関の経済的役割と業務内容に関する知識を習得できる。　(A-3)

3.地域発展のために金融機関が取り組むべき課題と手段について考察できる。　(A-3)

4.社会人として成長するために金融の知識を身につける。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3

1.日本の金融システムの構造と変化について理解できる。　(A-2)

2.金融機関の経済的役割と業務内容に関する知識を習得できる。　(A-3)

3.地域発展のために金融機関が取り組むべき課題と手段について考察できる。　(A-3)

4.社会人として成長するために金融の知識を身につける。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

金融政策論

2019-4010000606-01

中塚　晴雄

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・１時限　　試験時間割：2020/01/20　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

「金融政策論」は、マクロ的な視点で日本全体のマネーの流れを大きく見ていきます。どうして景気はよくならず、デフレから抜け出したと確実に断言できないのでしょうか。平成不況から30年近くがたってしまいました。その理由には、個々のがんばりや企業活動や金融活動だけでは、どうにもならない大きな経済の動きが、日本経済に影響があるからです。すなわち、社会の大きな経済の動きを学ぶことで、個々のがんばりや企業活動や金融活動をどれほど行っても、なぜ不景気は30年間以上も続き、デフレを抜け出すことができないのか、その理由がわかります。社会全体の経済の動きは、単純ではなく、モノとお金が複雑かつ複合的に結びついています。15回の講義で丁寧にゆっくりと誰でもわかるように懇切丁寧に講義をします。社会人になったときに頭に入っていると役立つように、日本経済全体を見渡して景気の現況を分析できるように、ベーシックな金融政策に必要な分析手段と政策手法、これを理論的思考（経済と政策の流れや手順や因果関係や手段と効果）といいますが、この理論的な思考を「金融政策論」15回の講義を通じて学びます。現実に立脚した専門知識と理論と政策を学びましょう。2019年度に大きな影響を与えるであろう日本銀行のゼロ金利政策と量的緩和策（QE）および現行の異次元緩和（QQE）について、映像資料も踏まえて講義実施期間中フォローします。最終回では毎回の授業を積み重ねて一つひとつ学んだ景気とデフレとおよび金融政策がどのようになっているのか、最先端の事柄も受講生はクリアに理解することができます。それを踏まえて、金融政策の理論を適用してどのようなことが講義終了後の世界経済と日本経済にもたらされるかを予測したいと思います。専門家がどのような思考方法をもって景気の最前線で考えているのか受講生は最新の結論について何回かにわたって聞くこともあるでしょう。それは、テキストのはじめににも書いたように「わかりにくい＝難しい」ではなく、世界経済と日本経済の真実は「わかりやすい＝難しい」という研究の一側面も垣間見せられるように配慮したいと思います。このような研究の最前線も取り扱いつつ、授業計画に示したようにテキストに沿ってわかりやすく、今年も講義を一歩一歩進めます。
担当教員は、政府系金融機関で実務経験があります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

金融政策論（日本銀行）の知識の基本的な知識と構造を身につけている。(知識・理解)

日本経済や地域と世界経済のおかれている経済状況を金融論の立場から説明することができる。(知識・理解)

デフレと通貨価値の関係について説明できる。(知識・理解)

平成不況の原因について説明できる。(知識・理解)

日本銀行の金融政策の目標と制度について説明できる。(知識・理解)

買いオペとゼロ金利政策について説明できる。(知識・理解)

量的緩和策と異次元緩和策について説明できる。(知識・理解)

日本銀行の紙幣発券機能と紙幣の世の中への供給方法と限界について説明できる。(知識・理解)

日本の金融政策が平成不況効かなかった原因について説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定したテキストを授業計画に示してある各回の当該章を事前に読んでおくこと、およびわかったところとわからないことを確認すること。（90分）
毎回授業の冒頭に前回の授業について再度理解を深めるために確認するので、教員が授業で記した板書（黒板）のノートと必要に基づいて講師が授業で説明を授業中メモも加えて、教員が授業で示したテキスト本文箇所を照らし合わせ（受講生が各々理解した内容を板書（黒板）ノートに文章で補充することを通じて、よく復習すること。（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（90%）
日本経済や地域と世界経済のおかれている経済状況を金融論の立場から専門用語を使って説明できるかを基準とする。平成不況の原因について専門用語を使って説明できるかを基準とします。デフレと通貨価値の関係について金融政策論の立場で説明できるかを説明できるかを基準とします。日本銀行の紙幣発券機能と紙幣の世の中への供給方法と限界について説明できるかを基準とします。金融政策論（日本銀行）の知識の基本的な知識と構造を身につけているかを基準とします。日本銀行の金融政策の目標と制度について説明できるかを基準とします。買いオペとゼロ金利政策について説明できるかを基準とします。量的緩和策と異次元緩和策について説明できるかを基準とします。
日本銀行の金融政策が平成不況に効かなかった原因について説明できるかを基準とします。
平常点（10%）
ミニッツペーパーや受講姿勢に基づく平常点（２回：10%）
※　参考までに過去10年間の定期試験は、主に、空欄補充（問１と問２：各５点×10＝50点）と記述式（50点）で実施しています。ただし、これは参考例に過ぎず、当該年度の試験形式を保証するものではないことはご留意ください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中塚晴雄　『金融論―初心者にもわかるやさしい金融論―改訂版』（税務経理協会）2011年改訂第三版、ISBN4-419-04738-0

◎－－－　参考書　－－－◎

白井さゆり『超金融緩和からの脱却』日本経済新聞出版社　ISBN 9784622078760
河村小百合『中央銀行は持ちこたえられるか』（集英社新書）2016年　ISBN 978487208580

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

静粛な授業環境の維持に協力してください。私語や遅刻は注意されます。度重なる私語や極端な遅刻や居眠りは、他の受講生の受講を妨げる行為です。また度重なる私語や極端な遅刻や居眠りをしていては該当受講生の学習成果はあがりません。金融政策論は毎回の授業を前提にした精緻な学問ですから、他の受講生の学習到達度の妨げになるだけでなく、私語や遅刻の受講生自身の学習到達度が非常に困難になるので決して度重なる私語や極端な遅刻をしないでください。
金融政策論受講前に金融論を受講することを望みます。学部生の範囲で金融論を基礎に応用度を高めに設定しています。
本講義は撮影禁止です。撮影に伴うシャッター音や撮影姿勢は周囲の受講生の学習を妨げる行為になります。板書をノート可能な範囲で急がず授業をしているので決して撮影をしないでください。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス
第2回　バブル経済と平成不況（第1章と第19章③）
第3回　グローバリゼーション（第１章注と補充）
第4回　デフレとインフレと通貨価値（第16章）
第5回　日本銀行の発券ルールの変遷（第17章と補充）
第6回　景気と物価の関係と日本銀行の目的（第18章①②③）
第7回　金融政策の目的と手段（第18章②）
第8回　短期金融市場（コール市場）の成立（第6章①②）
第9回　伝統的金融政策　（第19章と第20章）
第10回　ゼロ金利政策のスキームと考え方（第21章）
第11回　非伝統的金融政策（第20章③と補充）
第12回　量的緩和策のスキームと考え方（第22章）
第13回　異次元緩和のスキームと考え方（第22章と補充）
第14回　国債の発行と財政ファイナンス（第22章と補充）
第15回　最近の金融情勢と景気について（第１章①と補充）

※　2019年度の経済情勢に応じて講義の内容と順番に、経済現象を対象とする金融政策論の性質上、若干の変更がある可能性もあることを、予めご了承下さい。

金融政策論

2019-4010000606-01

中塚　晴雄

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.金融政策論（日本銀行）の知識の基本的な知識と構造を身につけている。 (A-2)

2.日本経済や地域と世界経済のおかれている経済状況を金融論の立場から説明することができる。 (A-2)

3.デフレと通貨価値の関係について説明できる。 (A-3)

4.平成不況の原因について説明できる。 (A-2)

5.日本銀行の金融政策の目標と制度について説明できる。 (A-2)

6.買いオペとゼロ金利政策について説明できる。 (A-2)

7.量的緩和策と異次元緩和策について説明できる。 (A-2)

8.日本銀行の紙幣発券機能と紙幣の世の中への供給方法と限界について説明できる。 (A-2)

9.日本の金融政策が平成不況効かなかった原因について説明できる。 (A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.金融政策論（日本銀行）の知識の基本的な知識と構造を身につけている。 (A-2)

2.日本経済や地域と世界経済のおかれている経済状況を金融論の立場から説明することができる。 (A-2)

3.デフレと通貨価値の関係について説明できる。 (A-3)

4.平成不況の原因について説明できる。 (A-2)

5.日本銀行の金融政策の目標と制度について説明できる。 (A-2)

6.買いオペとゼロ金利政策について説明できる。 (A-2)

7.量的緩和策と異次元緩和策について説明できる。 (A-2)

8.日本銀行の紙幣発券機能と紙幣の世の中への供給方法と限界について説明できる。 (A-2)

9.日本の金融政策が平成不況効かなかった原因について説明できる。 (A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

金融政策論

2019-4010000606-01

中塚　晴雄

◎貿易:A-2,A-3

1.金融政策論（日本銀行）の知識の基本的な知識と構造を身につけている。 (A-2)

2.日本経済や地域と世界経済のおかれている経済状況を金融論の立場から説明することができる。 (A-2)

3.デフレと通貨価値の関係について説明できる。 (A-3)

4.平成不況の原因について説明できる。 (A-2)

5.日本銀行の金融政策の目標と制度について説明できる。 (A-2)

6.買いオペとゼロ金利政策について説明できる。 (A-2)

7.量的緩和策と異次元緩和策について説明できる。 (A-2)

8.日本銀行の紙幣発券機能と紙幣の世の中への供給方法と限界について説明できる。 (A-2)

9.日本の金融政策が平成不況効かなかった原因について説明できる。 (A-2)

◎ 国際貿易　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ 【知識・理解】

A-1 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4 経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ 【技能】

B-1 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3 国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4 異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5 グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ 【態度・志向性】

C-1 国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2 国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3 国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4 国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3

1.金融政策論（日本銀行）の知識の基本的な知識と構造を身につけている。 (A-2)

2.日本経済や地域と世界経済のおかれている経済状況を金融論の立場から説明することができる。 (A-2)

3.デフレと通貨価値の関係について説明できる。 (A-3)

4.平成不況の原因について説明できる。 (A-2)

5.日本銀行の金融政策の目標と制度について説明できる。 (A-2)

6.買いオペとゼロ金利政策について説明できる。 (A-2)

7.量的緩和策と異次元緩和策について説明できる。 (A-2)

8.日本銀行の紙幣発券機能と紙幣の世の中への供給方法と限界について説明できる。 (A-2)

9.日本の金融政策が平成不況効かなかった原因について説明できる。 (A-2)

◎ 商学（第二部）　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ 【知識・理解】

A-1 流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2 商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3 商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ 【技能】

B-1 商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2 商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3 協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4 企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ 【態度・志向性】

C-1 企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2 常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3 企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

金融入門

2019-4010000193-02

永田　裕司

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・２時限　　試験時間割：2020/01/20　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

われわれが生活している市場経済の基本は、生産、流通、消費などの実物取引ですが、そこでは必ず貨幣の交換が行われており、貨幣や金融取引がなければ経済システムはこれほど高度に発展することはできなかったでしょう。市場経済を人間の体にたとえると、貨幣はいわば血液にあたりますが、銀行をはじめとする金融機関は血液を絶えず送り出す心臓の役割を果たしているといえます。従って、金融は経済の他のすべての要素と関係しており、とりわけ景気、物価、為替相場などのマクロ的な経済現象は、金融の知識がなければ理解できないといっても過言ではありません。
経済の成熟化や人口の高齢化が進んでいるわが国では、実物経済よりも金融経済の方が急速に拡大しており、新しい金融取引や金融商品が次々と生まれています。さらに、たとえばゼロ金利政策やサブプライム金融危機などのように、金融に関する情報が日々メディアにあふれ、しかも経済への影響はますます高まっています。従って、将来専門的な金融の仕事につかない人にとっても、金融に関する基礎知識やリスク感覚を身につけることがますます重要になっています。
この講義では、経済全体の中で金融はどのような役割を果たしているのか、金融はマクロ的な経済現象にどのような影響を与えるのか、金融投資を行う場合のリスクとリターンの関係などについて勉強します。また、銀行をはじめとする金融機関が具体的にどのような機能を果たしているのか、あるいは金融機関と企業や家計との関係や金融政策の仕組みと役割などについても学習していく予定です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

金融に関する基礎的な知識を習得できる。(知識・理解)

地域経済の衰退に対して銀行が取り組むべき課題を把握できる。(知識・理解)

地域発展のために銀行に可能なアイデアや企画を具体的に立案できる。(知識・理解)

経営や経済全般の理解のために金融に関する知識を実践的に応用するようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストに従って予習しておくと同時に、講義の中で重要な用語や概念について指摘するので、それについて事後的な学習をすること。 事前の予習と事後学習ともに１時間程度は必要である。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として、定期試験で評価する。また評価基準としては、金融の基本的な概念や仕組み、経済全体の中で果たす機能、企業や家計との関係などについての理解度および時事的な関心度を重視する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

平田潤　『プレステップ金融学』 弘文堂
ISBN978-4-335-00073-7

◎－－－　参考書　－－－◎

(1)草間俊介ほか『東大で教えたマネー学』文春文庫
ISBN 4167746025
(2)池尾和人『現代の金融入門』ちくま新書
ISBN 4480065292
その他参考文献は講義の中で随時紹介していく。講義を単に聴くだけでなく、日本経済新聞をはじめとする新聞や雑誌なども積極的に読むようにしてほしい。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

理解ができなくなるので、私語や大幅な遅刻は慎むこと。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　激動する金融の世界
２　経済システムと金融の役割
３　金融の基本的な働き
４　金融仲介と金融システム
５　重要なリスクマネジメント
６　銀行の機能と役割
７　証券市場とノンバンク
８　預貯金と債券
９　株式と外貨資産
１０　ファンド型金融商品
１１　資金調達と資本コスト
１２　企業金融と銀行の役割
１３　金融政策の仕組みと役割
１４　世界金融危機の行方
１５　まとめ

金融入門

2019-4010000193-02

永田　裕司

◎経営:A-1

1.金融に関する基礎的な知識を習得できる。　(A-1)

2.地域経済の衰退に対して銀行が取り組むべき課題を把握できる。　(A-1)

3.地域発展のために銀行に可能なアイデアや企画を具体的に立案できる。(A-1)

4.経営や経済全般の理解のために金融に関する知識を実践的に応用するようになる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎貿易:A-1

1.金融に関する基礎的な知識を習得できる。　(A-1)

2.地域経済の衰退に対して銀行が取り組むべき課題を把握できる。　(A-1)

3.地域発展のために銀行に可能なアイデアや企画を具体的に立案できる。(A-1)

4.経営や経済全般の理解のために金融に関する知識を実践的に応用するようになる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

金融論

2019-4010000605-01

中塚　晴雄

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・１時限　　試験時間割：2019/07/25　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

2019年度はマネー（お金）をめぐるわが国の経済は、非常に大きな変化が予想されています。それは、消費税10%の引上げ実施が予定されているからです。日々の銀行や証券や市場や企業の活動は、世界唯一の超大国であるアメリカの経済政策と無縁ではありえません。この予測される大津波といってもよいわが国の景気に与える影響が、どのような経路をとって波及するのか、いままで以上によりはっきりとマネー（お金）に関する全般的な制度、個々のシステム、夫々の枠組み（スキーム）、市場（マーケット）、理論（セオリー）への理解が一人ひとりにとって切実に必要な課題となるでしょう。
金融論では、最初にわが国の景気について学んだ後に、企業の「設備投資」を軸に銀行と証券を二つの柱にして講義を進めます。基礎的な事項を中心に講義しますが、本講義では大学の授業ですので専門用語の理解だけでなく、専門用語の示す制度と理論がどのような背景でうまれ、どのような役割（機能）を果たし、どのような効果を上げているのか（あるいは上げていないのか）、金融入門で学んだ事柄がいまの日本の現実にどのように適合するのか（あるいはしないのか）を丁寧に講義する予定です。本講義を受講することで、金融論の基本的考え方とわが国を取り巻く新しいダイナミクス（大きな変化）を学ぶことができます。
講義は、テキストの解説だけではありません。テキストの背景や考え方、さらにわが国の経済情勢は消費税10%引上げ実施で大きな変化が予想されます。その経済情勢の変化を踏まえて、「なぜ？」わが国の経済がこのようになるのか、原因と結果という論理力（これを因果律といいます）を学ぶことが大切です。また、ケーススタディ（事例研究）として、金融論で学んだ現実には目に見えない経済理論や金融制度がどのように現実の社会と経済の背後に隠れているのか、視聴覚教材を通して明らかにします。講義では、「なぜ？」を提示しながら、冷静かつ豊富な論理力のバックボーンがあって、わが国のマネー（お金）を基礎とする日々日常の経済景気が、はじめて理解できることを皆さんが実感できるように、授業を進めたいと思います。担当教員は、政府系金融機関で実務経験があります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本の経済（景気）がおかれている現状について説明することができる。(知識・理解)

銀行の業務と機能について説明することができる。(知識・理解)

銀行と企業の関係について資金の使い道から説明できる。(知識・理解)

不良債権の処理について説明できる。(知識・理解)

株式の性格（性質）について説明することができる。(知識・理解)

株式の性格について派生する権利とともに説明することができる。(知識・理解)

株式会社の設立について説明することができる。(知識・理解)

証券会社の業務と機能について説明することができる。(知識・理解)

株式の売買について説明することができる。(知識・理解)

株価がどのような要因で変動するのかを理論を用いて説明することができる。(知識・理解)

会社の合併買収について説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定したテキストを授業計画に示してある各回の当該章を事前に読んでおくこと、およびわかったところとわからないことを確認すること。（90分）
毎回授業の冒頭に前回の授業について再度理解を深めるために確認するので、教員が授業で記した板書（黒板）のノートと必要に基づいて講師が授業で説明を授業中メモも加えて、教員が授業で示したテキスト本文箇所を照らし合わせ、受講生が各々理解した内容を板書（黒板）ノートに文章で補充することを通じて、よく復習すること。（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（90%）
日本の経済（景気）がおかれている現状について説明することができるかを基準とします。銀行の業務と機能について説明することができるかを基準とします。銀行と企業の関係について資金の使い道から説明できるかを基準とします。不良債権の処理について説明できるかを基準とします。株式の性格（性質）について説明することができるかを基準とします。株式の性格について派生する権利とともに説明することができるかを基準とします。株式会社の設立について説明できるかを基準とします。証券会社の業務と機能について説明できるかを基準とします。株式の売買について説明できるかを基準とします。 株価がどのような要因で変動するのかを理論を用いて説明できるかを基準とします。会社の合併買収について説明できるかを基準とします。
平常点（10%）
ミニッツペーパーや受講姿勢に基づく平常点（２回：10%）
※　参考までに過去10年間の定期試験は、主に、空欄補充（問１と問２：各５点×10＝50点）と記述式（50点）で実施しています。ただし、これは参考例に過ぎず、当該年度の試験形式を保証するものではないことはご留意ください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中塚晴雄　『金融論－初心者にもわかるやさしい金融論－改訂版』（税務経理協会）2011年改訂第三版、ISBN4-419-04738-0

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

静粛な授業環境の維持に協力してください。私語や遅刻は注意されます。度重なる私語や極端な遅刻や居眠りは、他の受講生の受講を妨げる行為です。また度重なる私語や極端な遅刻や居眠りをしていては該当受講生の学習成果はあがりません。金融論は毎回の授業を前提にした精緻な学問ですから、他の受講生の学習到達度の妨げになるだけでなく、私語や遅刻の受講生自身の学習到達度が非常に困難になるので決して度重なる私語や極端な遅刻をしないでください。
本講義は撮影禁止です。撮影に伴うシャッター音や撮影姿勢は周囲の受講生の学習を妨げる行為になります。板書をノート可能な範囲で急がず授業をしているので決して撮影をしないでください。
金融論受講ののちは応用科目の金融政策論の受講を勧めます。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス
第2回　わが国の景気とグローバリゼーション（テキスト第1章①②）
第3回　銀行の二大業務（テキスト第2章①②）
第4回　銀行の収益（テキスト第2章③
第5回　運転資金と設備資金（テキスト第3章）
第6回　不動産担保融資（テキスト第4章）
第7回　映像資料「中小企業の新規開発と銀行融資」
第8回　信用創造（テキスト第6章）
第9回　債権譲渡とバルクセール（テキスト第４章①と補充）
第10回　株式入門（テキスト第8章）
第11回　起業とアンダーライティング業務（テキスト第9章）
第12回　株式投資とブローカー業務（テキスト第10章）
第13回　債券入門とDCF法（テキスト第８章）
第14回　株式市場の価格決定理論（テキスト第11章と第12章）
第15回　企業の合併・買収と企業価値（テキスト第8章と第22章と補充）

※　2019年度の経済情勢に応じて講義の内容と順番に、経済現象を対象とする金融論Aの性質上、若干の変更の可能性があることを、予めご了承下さい。

金融論

2019-4010000605-01

中塚　晴雄

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.日本の経済（景気）がおかれている現状について説明することができる。 (A-2)

2.銀行の業務と機能について説明することができる。 (A-2)

3.銀行と企業の関係について資金の使い道から説明できる。 (A-2)

4.不良債権の処理について説明できる。 (A-3)

5.株式の性格（性質）について説明することができる。 (A-2)

6.株式の性格について派生する権利とともに説明することができる。 (A-2)

7.株式会社の設立について説明することができる。 (A-2)

8.証券会社の業務と機能について説明することができる。 (A-2)

9.株式の売買について説明することができる。 (A-2)

10.株価がどのような要因で変動するのかを理論を用いて説明することができる。 (A-2)

11.会社の合併買収について説明できる。 (A-4)

◎ 商学　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ 【知識・理解】

A-1 流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5 商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ 【技能】

B-1 先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ 【態度・志向性】

C-1 社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2 社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3 地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.日本の経済（景気）がおかれている現状について説明することができる。 (A-2)

2.銀行の業務と機能について説明することができる。 (A-2)

3.銀行と企業の関係について資金の使い道から説明できる。 (A-2)

4.不良債権の処理について説明できる。 (A-3)

5.株式の性格（性質）について説明することができる。 (A-2)

6.株式の性格について派生する権利とともに説明することができる。 (A-2)

7.株式会社の設立について説明することができる。 (A-2)

8.証券会社の業務と機能について説明することができる。 (A-2)

9.株式の売買について説明することができる。 (A-2)

10.株価がどのような要因で変動するのかを理論を用いて説明することができる。 (A-2)

11.会社の合併買収について説明できる。 (A-2)

◎ 経営学　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ 【知識・理解】

A-1 経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2 経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3 経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4 経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ 【技能】

B-1 経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2 経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3 組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4 問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ 【態度・志向性】

C-1 問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2 常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3 組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

金融論

2019-4010000605-01

中塚　晴雄

◎貿易:A-2,A-3

1.日本の経済（景気）がおかれている現状について説明することができる。 (A-2)

2.銀行の業務と機能について説明することができる。 (A-2)

3.銀行と企業の関係について資金の使い道から説明できる。 (A-2)

4.不良債権の処理について説明できる。 (A-3)

5.株式の性格（性質）について説明することができる。 (A-2)

6.株式の性格について派生する権利とともに説明することができる。 (A-2)

7.株式会社の設立について説明することができる。 (A-2)

8.証券会社の業務と機能について説明することができる。 (A-2)

9.株式の売買について説明することができる。 (A-2)

10.株価がどのような要因で変動するのかを理論を用いて説明することができる。 (A-2)

11.会社の合併買収について説明できる。 (A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

金融論Ａ

2019-4010000397-01

中塚　晴雄

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・１時限　　試験時間割：2019/07/25　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

2019年度はマネー（お金）をめぐるわが国の経済は、非常に大きな変化が予想されています。それは、消費税10%の引上げ実施が予定されているからです。日々の銀行や証券や市場や企業の活動は、世界唯一の超大国であるアメリカの経済政策と無縁ではありえません。この予測される大津波といってもよいわが国の景気に与える影響が、どのような経路をとって波及するのか、いままで以上によりはっきりとマネー（お金）に関する全般的な制度、個々のシステム、夫々の枠組み（スキーム）、市場（マーケット）、理論（セオリー）への理解が一人ひとりにとって切実に必要な課題となるでしょう。

金融論では、最初にわが国の景気について学んだ後に、企業の「設備投資」を軸に銀行と証券を二つの柱にして講義を進めます。基礎的な事項を中心に講義しますが、本講義では大学の授業ですので専門用語の理解だけでなく、専門用語の示す制度と理論がどのような背景でうまれ、どのような役割（機能）を果たし、どのような効果を上げているのか（あるいは上げていないのか）、金融入門で学んだ事柄がいまの日本の現実にどのように適合するのか（あるいはしないのか）を丁寧に講義する予定です。本講義を受講することで、金融論の基本的考え方とわが国を取り巻く新しいダイナミクス（大きな変化）を学ぶことができます。

講義は、テキストの解説だけではありません。テキストの背景や考え方、さらにわが国の経済情勢は消費税10%引上げ実施で大きな変化が予想されます。その経済情勢の変化を踏まえて、「なぜ？」わが国の経済がこのようになるのか、原因と結果という論理力（これを因果律といいます）を学ぶことが大切です。また、ケーススタディ（事例研究）として、金融論で学んだ現実には目に見えない経済理論や金融制度がどのように現実の社会と経済の背後に隠れているのか、視聴覚教材を通して明らかにします。講義では、「なぜ？」を提示しながら、冷静かつ豊富な論理力のバックボーンがあって、わが国のマネー（お金）を基礎とする日々日常の経済景気が、はじめて理解できることを皆さんが実感できるように、授業を進めたいと思います。担当教員は、政府系金融機関で実務経験があります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本の経済（景気）がおかれている現状について説明することができる。(知識・理解)

銀行の業務と機能について説明することができる。(知識・理解)

銀行と企業の関係について資金の使い道から説明できる。(知識・理解)

不良債権の処理について説明することができる。(知識・理解)

株式の性格（性質）ついて説明することができる。(知識・理解)

株主の権利とともに説明することができる。(知識・理解)

会社を企業することについて説明することができる。(知識・理解)

証券会社の業務と機能について説明することができる。(知識・理解)

株式の売買と株価について説明することができる。(知識・理解)

企業の合併買収について説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定したテキストを授業計画に示してある各回の当該章を事前に読んでおくこと、およびわかったところとわからないことを確認すること。（90分）

毎回授業の冒頭に前回の授業について再度理解を深めるために確認するので、教員が授業で記した板書（黒板）のノートと必要に基づいて講師が授業で説明を授業中メモも加えて、教員が授業で示したテキスト本文箇所を照らし合わせ、受講生が各々理解した内容を板書（黒板）ノートに文章で補充することを通じて、よく復習すること。（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（90%）

日本の経済（景気）がおかれている現状について説明することができるかを基準とします。銀行の業務と機能について説明することができるかを基準とします。銀行と企業の関係について資金の使い道から説明できるかを基準とします。不良債権の処理について説明できるかを基準とします。株式の性格（性質）について説明することができるかを基準とします。株式の性格について派生する権利とともに説明することができるかを基準とします。株式会社の設立について説明できるかを基準とします。証券会社の業務と機能について説明できるかを基準とします。株式の売買について説明できるかを基準とします。 株価がどのような要因で変動するのかを理論を用いて説明できるかを基準とします。会社の合併買収について説明できるかを基準とします。

平常点（10%）

ミニッツペーパーや受講姿勢に基づく平常点（２回：10%）

※　参考までに過去10年間の定期試験は,主に,空欄補充（問１と問２：各５点×10＝50点）と記述式（50点）で実施しています。ただし、これは参考例に過ぎず、当該年度の試験形式を保証するものではないことはご留意ください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中塚晴雄　『金融論－初心者にもわかるやさしい金融論－改訂版』（税務経理協会）2011年改訂第三版、ISBN4-419-04738-0

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

静粛な授業環境の維持に協力してください。私語や遅刻は注意されます。度重なる私語や極端な遅刻や居眠りは、他の受講生の受講を妨げる行為です。また度重なる私語や極端な遅刻や居眠りをしていては該当受講生の学習成果はあがりません。金融論Ａは毎回の授業を前提にした学問ですから、他の受講生の学習到達度の妨げになるだけでなく、私語や遅刻の受講生自身の学習到達度が非常に困難になるので決して度重なる私語や極端な遅刻をしないでください。

本講義は撮影禁止です。撮影に伴うシャッター音や撮影姿勢は周囲の受講生の学習を妨げる行為になります。板書をノート可能な範囲で急がず授業をしているので決して撮影をしないでください。

金融論Ａ受講ののちは応用科目金融論Ｂの受講を勧めます。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス
第2回　わが国の景気とグローバリゼーション（テキスト第1章①②）
第3回　銀行の二大業務（テキスト第2章①②）
第4回　銀行の収益（テキスト第2章③
第5回　運転資金と設備資金（テキスト第3章）
第6回　不動産担保融資（テキスト第4章）
第7回　映像資料「中小企業の新規開発と銀行融資」
第8回　信用創造（テキスト第6章）
第9回　債権譲渡とバルクセール（テキスト第４章①と補充）
第10回　株式入門（テキスト第8章）
第11回　起業とアンダーライティング業務（テキスト第9章）
第12回　株式投資とブローカー業務（テキスト第10章）
第13回　債券入門とDCF法（テキスト第８章）
第14回　株式市場の価格決定理論（テキスト第11章と第12章）
第15回　企業の合併・買収と企業価値（テキスト第8章と第22章と補充）

※　2019年度の経済情勢に応じて講義の内容と順番に、経済現象を対象とする金融論Aの性質上、若干の変更の可能性があることを、予めご了承下さい。

金融論Ａ

2019-4010000397-01

中塚　晴雄

◎商学

1.日本の経済（景気）がおかれている現状について説明することができる。 (A-1)

2.銀行の業務と機能について説明することができる。 (A-1)

3.銀行と企業の関係について資金の使い道から説明できる。 (A-1)

4.不良債権の処理について説明することができる。 (A-3)

5.株式の性格（性質）ついて説明することができる。 (A-1)

6.株主の権利とともに説明することができる。 (A-1)

7.会社を企業することについて説明することができる。 (A-3)

8.証券会社の業務と機能について説明することができる。 (A-1)

9.株式の売買と株価について説明することができる。 (A-2)

10.企業の合併買収について説明することができる。 (A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

金融論Ｂ

2019-4010000398-01

中塚　晴雄

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・１時限　　試験時間割：2020/01/20　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

「金融論Ｂ」は、マクロ的な視点で日本全体のマネーの流れを大きく見ていきます。どうして景気はよくならず、デフレから抜け出したと確実に断言できないのでしょうか。平成不況から30年近くがたってしまいました。その理由には、個々のがんばりや企業活動や金融活動だけでは、どうにもならない大きな経済の動きが、日本経済に影響があるからです。すなわち、社会の大きな経済の動きを学ぶことで、個々のがんばりや企業活動や金融活動をどれほど行っても、なぜ不景気は30年間以上も続き、デフレを抜け出すことができないのか、その理由がわかります。社会全体の経済の動きは、単純ではなく、モノとお金が複雑かつ複合的に結びついています。15回の講義で丁寧にゆっくりと誰でもわかるように懇切丁寧に講義をします。社会人になったときに頭に入っていると役立つように、日本経済全体を見渡して景気の現況を分析できるように、ベーシックな金融政策に必要な分析手段と政策手法、これを理論的思考（経済と政策の流れや手順や因果関係や手段と効果）といいますが、この理論的な思考を「金融論Ｂ」15回の講義を通じて学びます。現実に立脚した専門知識と理論と政策を学びましょう。2019年度に大きな影響を与えるであろう日本銀行のゼロ金利政策と量的緩和策（QE）および現行の異次元緩和（QQE）について、映像資料も踏まえて講義実施期間中フォローします。最終回では毎回の授業を積み重ねて一つひとつ学んだ景気とデフレとおよび金融政策がどのようになっているのか、最先端の事柄も受講生はクリアに理解することができます。それを踏まえて、金融政策の理論を適用してどのようなことが講義終了後の世界経済と日本経済にもたらされるかを予測したいと思います。専門家がどのような思考方法をもって景気の最前線で考えているのか受講生は最新の結論について何回かにわたって聞くこともあるでしょう。それは、テキストのはじめにには書いたように「わかりにくい＝難しい」ではなく、世界経済と日本経済の真実は「わかりやすい＝難しい」という研究の一側面も垣間見せられるように配慮したいと思います。このような研究の最前線も取り扱いつつ、授業計画に示したようにテキストに沿ってわかりやすく、今年も講義を一歩一歩進めます。
担当教員は、政府系金融機関で実務経験があります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本経済や地域と世界経済のおかれている経済状況を金融論の立場から説明できる。(知識・理解)

日本経済や地域が取り組むべき課題が何かについて金融論の立場から説明できる。(知識・理解)

デフレと通貨価値の関係について説明できる。(知識・理解)

日本銀行の金融政策の目標と制度について説明できる。(知識・理解)

買いオペとゼロ金利政策について説明できる。(知識・理解)

量的緩和策と異次元緩和の仕組みについて説明できる。(知識・理解)

日本銀行の紙幣発券機能と紙幣の世の中への供給方法と限界について説明できる。(知識・理解)

日本銀行の金融政策が平成不況に効かない原因を説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定したテキストを授業計画に示してある各回の当該章を事前に読んでおくこと、およびわかったところとわからないことを確認すること。（90分）
毎回授業の冒頭に前回の授業について再度理解を深めるために確認するので、教員が授業で記した板書（黒板）のノートと必要に基づいて講師が授業で説明を授業中メモも加えて、教員が授業で示したテキスト本文箇所を照らし合わせ、受講生が各々理解した内容を板書（黒板）ノートに文章で補充することを通じて、よく復習すること。（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（90%）
日本経済や地域と世界経済のおかれている経済状況を金融論の立場から専門用語を使って説明できるかを基準とする。平成不況の原因について専門用語を使って説明できるかを基準とします。デフレと通貨価値の関係について金融政策論の立場で説明できるかを説明できるかを基準とします。日本銀行の紙幣発券機能と紙幣の世の中への供給方法と限界について説明できるかを基準とします。金融政策論（日本銀行）の知識の基本的な知識と構造を身につけているかを基準とします。日本銀行の金融政策の目標と制度について説明できるかを基準とします。買いオペとゼロ金利政策について説明できるかを基準とします。量的緩和策と異次元緩和策について説明できるかを基準とします。
日本銀行の金融政策が平成不況に効かなかった原因について説明できるかを基準とします。
平常点（10%）
ミニッツペーパーや受講姿勢に基づく平常点（２回：10%）
※　参考までに過去10年間の定期試験は、主に、空欄補充（問１と問２：各５点×10＝50点）と記述式（50点）で実施しています。ただし、これは参考例に過ぎず、当該年度の試験形式を保証するものではないことはご留意ください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中塚晴雄　『金融論―初心者にもわかるやさしい金融論―改訂版』（税務経理協会）2011年改訂第三版、ISBN4-419-04738-0

◎－－－　参考書　－－－◎

白井さゆり『超金融緩和からの脱却』日本経済新聞出版社　ISBN 9784622078760
河村小百合『中央銀行は持ちこたえられるか』（集英社新書）2016年　ISBN 9784408720580

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

静粛な授業環境の維持に協力してください。私語や遅刻は注意されます。度重なる私語や極端な遅刻や居眠りは、他の受講生の受講を妨げる行為です。また度重なる私語や極端な遅刻や居眠りをしていては該当受講生の学習成果はあがりません。金融論Ｂは毎回の授業を前提にした精緻な学問ですから、他の受講生の学習到達度の妨げになるだけでなく、私語や遅刻の受講生自身の学習到達度が非常に困難になるので決して度重なる私語や極端な遅刻をしないでください。
金融論Ｂ受講前に金融論Ａを受講することを望みます。学部生の範囲で金融論Ａを基礎に応用度を高めに設定しています。
本講義は撮影禁止です。撮影に伴うシャッター音や撮影姿勢は周囲の受講生の学習を妨げる行為になります。板書をノート可能な範囲で急がず授業をしているので決して撮影をしないでください。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス
第2回　バブル経済と平成不況（第1章と第19章③）
第3回　グローバリゼーション（第１章注と補充）
第4回　デフレとインフレと通貨価値（第16章）
第5回　日本銀行の発券ルールの変遷（第17章と補充）
第6回　景気と物価の関係と日本銀行の目的（第18章①②③）
第7回　金融政策の目的と手段（第18章②）
第8回　短期金融市場（コール市場）の成立（第6章①②）
第9回　伝統的金融政策　（第19章と第20章）
第10回　ゼロ金利政策のスキームと考え方（第21章）
第11回　非伝統的金融政策（第20章③と補充）
第12回　量的緩和策のスキームと考え方（第22章）
第13回　異次元緩和のスキームと考え方（第22章と補充）
第14回　国債の発行と財政ファイナンス（第22章と補充）
第15回　最近の金融情勢と景気について（第１章①と補充）

※　2019年度の経済情勢に応じて講義の内容と順番に、経済現象を対象とする金融政策論の性質上、若干の変更がある可能性もあることを、予めご了承下さい。

金融論Ｂ

2019-4010000398-01

中塚　晴雄

◎商学

1.日本経済や地域と世界経済のおかれている経済状況を金融論の立場から説明できる。　(A-2)

2.日本経済や地域が取り組むべき課題が何かについて金融論の立場から説明できる。　(A-3)

3.デフレと通貨価値の関係について説明できる。　(A-2)

4.日本銀行の金融政策の目標と制度について説明できる。　(A-2)

5.買いオペとゼロ金利政策について説明できる。　(A-2)

6.量的緩和策と異次元緩和の仕組みについて説明できる。　(A-2)

7.日本銀行の紙幣発券機能と紙幣の世の中への供給方法と限界について説明できる。　(A-2)

8.日本銀行の金融政策が平成不況に効かない原因を説明できる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

銀行論

2019-4010000327-01

永田　裕司

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・２時限　　試験時間割：2019/07/25　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

われわれが生活している市場経済の基本は、生産、流通、消費などの実物取引ですが、そこでは必ず貨幣の交換が行われており、貨幣や金融取引がなければ経済システムはこれほど高度に発展することはできなかったでしょう。市場経済を人間の体にたとえると、貨幣はいわば血液にあたりますが、銀行は血液を絶えず送りだす心臓の役割を果たしているといえます。従って、銀行は経済の他のすべての要素と関係しており、とりわけ景気、物価、株価、為替相場などのマクロ的な経済現象は、銀行の知識がなければ理解できないといっても過言ではありません。
この講義では、貨幣がどのようにして供給され景気や物価にどのように影響するのか、取引の決済はどのようにして行われるのか、銀行はどのようなメカニズムで資金を余った部門から足りない部門に供給しているのかなどを勉強します。また、銀行は具体的にどのような機能を果たしているのか、あるいは金融市場や金融政策との関連についても学習します。さらに、銀行を取り巻く環境は激変しており、銀行は新しい収益機会を求めて証券業務や国際業務に積極的に進出しており、銀行のイメージは急速に変わりつつあります。そこで、不良債権問題、ペイオフ解禁、リスク管理などの最近の銀行をめぐる具体的な問題についても学習していく予定です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

銀行に関する基本的な知識や概念を身につける。(知識・理解)

銀行が日本経済や地域の発展に貢献する役割について考察できる。(知識・理解)

地域振興のために銀行ができる具体的な業務プロジェクトを構想できる。(知識・理解)

社会人として成長するために必要な金融リテラシーを身につける。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前の予習もある程度必要であるが、事後学習については、講義の最後に重要語句や練習問題を提示するので、それについて十分な復習をしておくこと。事前の予習と事後学習ともに１時間程度は必要である。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として、定期試験で評価する。また評価基準としては、経済生活における銀行の役割や重要性、景気や物価などのマクロ的経済現象との関連および急速に変化しつつある銀行のイメージなどについての理解度を重視する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

最新データを重視するので、必要に応じてプリントを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

池尾和人『銀行はなぜ変われないのか』　東洋経済新報社　ISBN4120033880
高田創・柴崎健『銀行の戦略転換』　東洋経済新報社　ISBN4492653376
鈴木芳徳編著『金融論―理論・歴史・政策』　ミネルヴァ書房ISBN4623024962
その他参考文献は講義の中で随時紹介していく。講義を単に聴くだけでなく、日本経済新聞をはじめとする新聞や雑誌なども積極的に読むようにしてほしい。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

理解ができなくなるので、私語および理由のない大幅な遅刻は慎むこと。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　激変する銀行の世界
２　銀行論の対象と課題
　経済生活と銀行の役割、不良債権とビッグバン
３　通貨供給と金融資産
　貨幣の価値と機能、金融資産と金融負債
４　マネーフローと銀行の役割
　金融取引とリスク、取引コスト、リスク負担
５　わが国の銀行システム
　基本的特徴、金融規制と慣行、メインバンク制
６　商業銀行の業務と機能
　預金業務、貸出業務、為替業務
７　銀行制度と決済システム
　手形交換所、日銀ネット、決済リスク
８　銀行の信用創造機能
　ハイパワード・マネー、本源的預金と派生的預金
９　中央銀行の組織と機能
　日本銀行の目的と機能、デフレとゼロ金利政策
10　銀行業務の変容
　金融ビッグバン、IT革命と銀行サービス
11　銀行の収益性と経営
　バランスシート、利鞘、フィービジネス
12　銀行の健全性とリスク管理
　銀行リスク、自己資本比率、預金保険制度
13　金融規制と銀行の公共性
　預金者保護、日銀特融、信用秩序の維持
14　銀行の将来像
15　まとめ

銀行論

2019-4010000327-01

永田　裕司

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.銀行に関する基本的な知識や概念を身につける。　(A-2)

2.銀行が日本経済や地域の発展に貢献する役割について考察できる。　(A-3)

3.地域振興のために銀行ができる具体的な業務プロジェクトを構想できる。(A-3)

4.社会人として成長するために必要な金融リテラシーを身につける。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.銀行に関する基本的な知識や概念を身につける。　(A-2)

2.銀行が日本経済や地域の発展に貢献する役割について考察できる。　(A-3)

3.地域振興のために銀行ができる具体的な業務プロジェクトを構想できる。(A-3)

4.社会人として成長するために必要な金融リテラシーを身につける。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

銀行論

2019-4010000327-01

永田　裕司

◎貿易:A-2,A-3

1.銀行に関する基本的な知識や概念を身につける。　(A-2)

2.銀行が日本経済や地域の発展に貢献する役割について考察できる。　(A-3)

3.地域振興のために銀行ができる具体的な業務プロジェクトを構想できる。(A-3)

4.社会人として成長するために必要な金融リテラシーを身につける。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

広告コミュニケーション

2019-4010000396-01

梅本　春夫

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・５時限　　試験時間割：2020/01/20　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講座は、大手広告代理店での実務経験とＭＢＡ大学院での教授経験を基に、広告コミュニケーションにおける背景理論と実際のケースを織り交ぜながら、広告企業がもつ課題とメディアの状況、コミュニケーションによる解決策などに対するの理解を深めていく。

具体的には、広告コミュニケーションの黎明期から、マスメディアの発達、コピーライターの誕生、ラジオ、テレビの登場、広告効果への視点、などへと続き、企業がおこなうコミュニケーション活動における今日的課題としては、クロスメディアを含めた統合的マーケティング・コミュニケーション戦略とブランド戦略があげられる。商品の名前である「ブランド」を企業資産としてとらえ直し、これを戦略的に構築するために企業はどのようなコミュニケーション活動をおこなうのか。
本講座では、ブランド構築に大きな役割を果たす広告と広告会社のビジネスの具体的ケースを通じて、どのようにコミュニケーション戦略が企画、策定されていくのかを理論、実践面の双方から検討する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日常接触する広告を通じて、企業が行うマーケティング活動とその背景、狙いに関心を向けるようになる。(知識・理解)

マーケティングミックスにおけるプロモーションの発展、変遷を理解して、今後のメディアとコミュニケーションの方向に関心を向けるようになる。(知識・理解)

広告会社の業務内容から、広告ビジネスの現状と課題について理解できるようになる。(知識・理解)

企業が社会、消費者に向けて発信するメッセージの意図や意味について、関心を向けるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業当初は印刷資料を配付するが、「４.コミュニケーションはマーケティングの下位概念か？」以降は、講義資料を資料をアップロードするので、事前に印刷して内容の確認をしておくこと。このための参考資料としては。広告論については参考書『よくわかる現代マーケティング（９章）』『マーケティング・コミュニケーションと広告』、ブランド論については『よくわかる現代マーケティング（４章、５章）』『日本型ブランド優位戦略』が参考となる。予習、復習の目安として１回の授業に対して９０分程度の予復習が望ましい。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

単なる理論だけでなく、現場で起こっているケースなど、授業において解説した広告コミュニケーションやマーケティング・コミュニケーションに関して知っておくべきポイントについて理解できているかを成績評価の基準とする。
その成績評価については、定期試験（筆記試験）の成績で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

授業は、大手広告代理店の実例を交えた解説とプリントの配布によって進めるが、授業の背景確認や体系的議論を確認したい場合には、参考書『マーケティング・コミュニケーションと広告』と『日本型ブランド優位戦略』を参照ください。また、授業内容の一部は、『よくわかる現代マーケティング』４章９章に掲載されています。

◎－－－　参考書　－－－◎

『マーケティング・コミュニケーションと広告』　ISBN 978-4-8429-1671-2
『日本型ブランド優位戦略』　ISBN 4-478-50175-0
『よくわかる現代マーケティング』　ISBN 978-4-623-07975-9

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

マーケティングに関する知識があると授業内容を理解しやすいが、本講座でも、マーケティングに関する基礎的内容は説明するので、マーケティング知識のない者も受講可能である。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

広告ビジネスの現状とマーケティング・コミュニケーションの課題
１．広告代理店の構造と実態
２．広告黎明期と広告ビジネスの誕生
３．マーケティングの登場と広告ビジネス
４．コミュニケーションはマーケティングの下位概念か？
５．広告表現のガラパゴス化
６．広告とコンシューマ・インサイト
７．広告と景気の関係
８．新聞広告で知る広告効率の視点
９．広告のコスト視点とテレビ広告
10．変動するメディアとマス広告
11．クロスメディアとは何か。
12．インターネット広告の登場とクロスメディア
13．消費者に向けられていない広告の現状
14．コミュニケーション理論と広告効果
15．新しい広告コミュニケーションの方向

広告コミュニケーション

2019-4010000396-01

梅本　春夫

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.日常接触する広告を通じて、企業が行うマーケティング活動とその背景、狙いに関心を向けるようになる。　(A-2)

2.マーケティングミックスにおけるプロモーションの発展、変遷を理解して、今後のメディアとコミュニケーションの方向に関心を向けるようになる。(A-4)

3.広告会社の業務内容から、広告ビジネスの現状と課題について理解できるようになる。　(A-3)

4.企業が社会、消費者に向けて発信するメッセージの意図や意味について、関心を向けるようになる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.日常接触する広告を通じて、企業が行うマーケティング活動とその背景、狙いに関心を向けるようになる。　(A-2)

2.マーケティングミックスにおけるプロモーションの発展、変遷を理解して、今後のメディアとコミュニケーションの方向に関心を向けるようになる。

3.広告会社の業務内容から、広告ビジネスの現状と課題について理解できるようになる。　(A-3)

4.企業が社会、消費者に向けて発信するメッセージの意図や意味について、関心を向けるようになる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

広告コミュニケーション

2019-4010000396-01

梅本　春夫

◎貿易:A-2,A-3

1.日常接触する広告を通じて、企業が行うマーケティング活動とその背景、狙いに関心を向けるようになる。　(A-2)

2.マーケティングミックスにおけるプロモーションの発展、変遷を理解して、今後のメディアとコミュニケーションの方向に関心を向けるようになる。

3.広告会社の業務内容から、広告ビジネスの現状と課題について理解できるようになる。　(A-3)

4.企業が社会、消費者に向けて発信するメッセージの意図や意味について、関心を向けるようになる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

交通経済入門

2019-4010000194-02

鈴木　裕介

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・２時限　　試験時間割：2019/07/24　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

わが国の交通システムは、世界的にも高いレベルを誇っています。交通経済入門では、このような優れた交通システムはどのように構築されたのか、またどのような仕組みを有しているのかについて、ミクロ経済学の議論をもとに講義を展開します。またわが国では、少子・高齢化などの社会構造の変化に伴い、多くの交通に関する問題を抱えています。そこで本講義では、私たちの社会が直面する交通問題についても整理し、どのような解決策があるかについても考えていきます。

本講義は、まず交通システムを分析するために必要となる経済理論（ミクロ経済学）の基礎を説明します。財・サービスの需要と供給、そして市場の仕組みについて、一般的な経済理論を説明します。その上で具体的な交通政策を取り上げ、経済理論をもとに分析を行います。特に交通システムは国から様々な規制を受けているため、「被規制産業」と呼ばれています。その規制がなぜ設けられ、その結果交通システムのあり方にどのような影響を与えているのかについてみていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ミクロ経済学を中心に、商学の基本的な知識を説明することができる。(知識・理解)

交通事業者のビジネスモデルを経済学、経営学などの知識をもとに説明することができる。(知識・理解)

交通システム全般が抱える問題を経済学、経営学などの知識をもとに説明することができる。(知識・理解)

交通システムが抱える問題を、経済学や経営学の視点から見つけ出すことができる。(技能)

交通システムが抱える問題について、経済学や経営学の知識をもとに、その解決策を議論することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本講義はミクロ経済学の理論の説明が半分を占める。そのため講義の復習を中心にする必要がある。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
講義の内容を理解し、自分の言葉で説明できるかを評価基準とします。

②評価方法
最終成績は定期試験及び講義内の課題レポートをもとに評価します。
課題レポートは講義内容を理解して作成されているかを評価の基準とします。

③割合
定期試験（80%）、課題（20%）を目安として総合的に評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

衛藤卓也他編著『交通政策入門　第2版』同文館出版
ISBN　978-4495440428

◎－－－　参考書　－－－◎

竹内健蔵『交通経済学入門』有斐閣　ISBN
978-4641183681

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

経済学の理論は、順序だった理解の積み重ねが重要です。そのため講義への欠席は、その後の講義内容の理解に大きな影響を与えるので慎んでください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション：交通に関する諸問題と経済学
2.ミクロ経済学のエッセンス
3.消費者の行動：効用という概念
4.消費者の行動：需要曲線の導出
5.企業の行動：生産関数と費用関数
6.企業の行動：供給曲線の導出
7.完全競争市場
8.経済厚生
9.市場の失敗と政府
10.規制
11. 市場の失敗：不完全競争
12. 市場の失敗：情報の非対称性
13. 市場の失敗：外部性
14. 交通政策の現状と課題
15. まとめ

交通経済入門

2019-4010000194-02

鈴木　裕介

◎経営:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2

1.ミクロ経済学を中心に、商学の基本的な知識を説明することができる。
(A-1)

2.交通事業者のビジネスモデルを経済学、経営学などの知識をもとに説明することができる。　(A-2)

3.交通システム全般が抱える問題を経済学、経営学などの知識をもとに説明することができる。　(A-3)

4.交通システムが抱える問題を、経済学や経営学の視点から見つけ出すことができる。　(B-1)

5.交通システムが抱える問題について、経済学や経営学の知識をもとに、その解決策を議論することができる。　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎貿易:A-1,A-2,A-3,B-1,B-2

1.ミクロ経済学を中心に、商学の基本的な知識を説明することができる。
(A-1)

2.交通事業者のビジネスモデルを経済学、経営学などの知識をもとに説明することができる。　(A-2)

3.交通システム全般が抱える問題を経済学、経営学などの知識をもとに説明することができる。　(A-3)

4.交通システムが抱える問題を、経済学や経営学の視点から見つけ出すことができる。　(B-1)

5.交通システムが抱える問題について、経済学や経営学の知識をもとに、その解決策を議論することができる。　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

交通経済論

2019-4010000399-01

鈴木　裕介

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・３時限　　試験時間割：2020/01/16　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

わが国の交通システムは、世界的にも高いレベルを誇っています。交通経済論では、このような優れた交通システムはどのように構築されたのか、またどのような仕組みを有しているのかについて、ミクロ経済学の議論をもとに講義を展開します。またわが国では、少子・高齢化などの社会構造の変化に伴い、多くの交通に関する問題を抱えています。そこで本講義では、私たちの社会が直面する交通問題についても整理し、どのような解決策があるかについても考えていきます。

本講義は、（1）交通システムを分析するための経済理論、（2）具体的な交通システムの分析の2部構成で行います。まず（1）交通システムを分析するための経済理論では、交通サービスの需要と供給の仕組みや交通サービスの料金決定の仕組みなどについて、ミクロ経済学の基本的な理論をもとに説明を行います。そして（2）具体的な交通システムの分析では、鉄道やバス、自動車などの具体的な交通システムを個別に取りあげ、交通システムや交通政策の特徴を理論的に分析していきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ミクロ経済学及び商学、経営学の知識を用いて、交通システム全般について説明できる。(知識・理解)

ミクロ経済学及び商学、経営学の知識をもとに、交通システムが抱える問題を説明することができる。(知識・理解)

交通システムが抱える問題を、理論的に見出すことができる。(技能)

交通システムが抱える問題について、ミクロ経済学や商学、経営学の知識を用いて、その解決策を議論することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・交通に関わる出来事を日ごろから、意識して注意を払うこと。
・講義前半で学ぶ経済理論を復習し、しっかり理解すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
講義の内容を理解し、様々な問題について自分の言葉で説明できるかを評価基準とします。

②評価方法
最終成績は定期試験及び講義内の課題レポートをもとに評価します。
課題レポートは講義内容を理解して作成されているかを評価の基準とします。

③評価割合
定期試験（80%）、課題（20%）を目安として総合的に評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

衛藤卓也他編著『交通政策入門　第2版』同文館出版、ISBN：978-4495440428

◎－－－　参考書　－－－◎

竹内健蔵『交通経済学入門』有斐閣　ISBN 978-4641183681

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「交通経済入門」の単位を履修している者が望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション：経済学的思考とは
2.経済理論：交通需要
3.経済理論：交通サービスの供給
4.経済理論：市場の失敗と政府の役割
5.経済理論：交通料金
6.経済理論：交通投資
7.交通の現状分析：鉄道①
8.交通の現状分析：鉄道②
9.交通の現状分析：鉄道③
10.交通の現状分析：乗合バス
11.交通の現状分析：地域交通問題①
12.交通の現状分析：自動車交通
13.交通の現状分析：ロジスティクス①
14.交通の現状分析：ロジスティクス②
15.まとめ：地域交通問題②

交通経済論

2019-4010000399-01

鈴木　裕介

◎商学:A-2,A-3,B-1,C-1

1.ミクロ経済学及び商学、経営学の知識を用いて、交通システム全般について説明できる。　(A-2)

2.ミクロ経済学及び商学、経営学の知識をもとに、交通システムが抱える問題を説明することができる。　(A-3)

3.交通システムが抱える問題を、理論的に見出すことができる。　(B-1)

4.交通システムが抱える問題について、ミクロ経済学や商学、経営学の知識を用いて、その解決策を議論することができる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,C-2

1.ミクロ経済学及び商学、経営学の知識を用いて、交通システム全般について説明できる。　(A-2)

2.ミクロ経済学及び商学、経営学の知識をもとに、交通システムが抱える問題を説明することができる。　(A-3)

3.交通システムが抱える問題を、理論的に見出すことができる。　(B-1)

4.交通システムが抱える問題について、ミクロ経済学や商学、経営学の知識を用いて、その解決策を議論することができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

交通経済論

2019-4010000399-01

鈴木　裕介

◎貿易:A-2,A-3,B-1,C-1

1.ミクロ経済学及び商学、経営学の知識を用いて、交通システム全般について説明できる。　(A-2)

2.ミクロ経済学及び商学、経営学の知識をもとに、交通システムが抱える問題を説明することができる。　(A-3)

3.交通システムが抱える問題を、理論的に見出すことができる。　(B-1)

4.交通システムが抱える問題について、ミクロ経済学や商学、経営学の知識を用いて、その解決策を議論することができる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,C-1

1.ミクロ経済学及び商学、経営学の知識を用いて、交通システム全般について説明できる。　(A-2)

2.ミクロ経済学及び商学、経営学の知識をもとに、交通システムが抱える問題を説明することができる。　(A-3)

3.交通システムが抱える問題を、理論的に見出すことができる。　(B-1)

4.交通システムが抱える問題について、ミクロ経済学や商学、経営学の知識を用いて、その解決策を議論することができる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

交通政策

2019-4010000341-01

陶　怡敏

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・４時限　　試験時間割：2020/01/23　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

近頃、生活の豊かさを実感できないのは個人消費の充実と社会的消費のアンバランスのためだと指摘されているが、その典型は都市における交通渋滞、通勤難、環境汚染、高地価および内外価格差が生活の豊かさを奪っているということでしょう。そして、経済のグローバル化・ボーダレス化に伴い、企業の最適立地は国際的視野で見直されているので、道路・鉄道および情報インフラなどの社会資本整備状況は一国の経済力を含めた総合国際競争力を左右する重要な要素となってきています。さらに、グローバル・ネットワーク競争の時代を迎えて、戦略的提携・ロジスティクス戦略はいや応なく、競争優位を目指す企業に迫られています。多国籍企業だけでなく、中小企業も国際的競合ネットワーク分業の波にさらされています。とりわけオープン電子ネットワークに基づく取引コスト、ロジスティクス・コストの削減は、多国籍企業の重要な戦略目標となっています。
本講義では、さまざまな交通・物流・情報におけるスペースの不足・高コスト現象に最新の経済・経営理論の光をあてて分析し、交通・物流・情報ネットワーク問題の改善を示唆する考え方を一緒に模索してみたい。
授業の進め方としては、まず交通に関する商学の基礎知識を修得し、交通政策について実践的な観点から講義とケーススタディにより学習します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

交通政策の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通政策に対する関心を深めることができる。(態度・志向性)

交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。(知識・理解)

交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が発展する方向について説明することができる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通問題の解決策を提案することができる。(技能)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、交通政策の考え方を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通政策のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本講義の慣例に従って、予習と復習を確実に行ってもらうために毎回の授業に関連する予習・復習課題(所要時間：約2時間)の提出をお願いします。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
交通政策の概念と課題を正確に理解し、交通政策の在り方について自分の言葉で説明できているかを評価基準とする。
②評価方法
最終成績は定期試験(期末評価)、中間試験(中間評価)および提出課題(平常評価)などにより評価する。
③割合
定期試験(60%)、中間試験・提出課題(40%)を目安として総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

各講義を始める前に講義資料を配付します。なお、講義資料を作成するにあたっての参考文献は、下記の参考書項目に記載されている文献になります。

◎－－－　参考書　－－－◎

藤井弥太郎・中条潮編『現代交通政策』東京大学出版会。ISBN-13: 978-4130720076。
衛藤卓也監修『交通政策入門』同文舘出版。ISBN-13:978-4495440411。
土井正幸・坂下　昇『交通経済学』東洋経済新報社。ISBN-13: 978-4492313169。
山内弘隆・竹内健蔵『交通経済学』有斐閣。ISBN-13: 978-4641120501。
金本良嗣・山内弘隆編『交通』ＮＴＴ出版。ISBN-13: 978-4871882897。
奥野正寛・篠原総一・金本良嗣編『交通政策の経済学』日本経済新聞社。ISBN-13: 978-4532075002。
藤井弥太郎監修『自由化時代の交通政策』東京大学出版会。ISBN-13: 978-4130720083。
加藤一誠・手塚広一郎『交通インフラ・ファイナンス』成山堂書店。ISBN-13: 978-4425928316。
中野宏幸『交通インフラ経営のグローバル競争戦略－国際競争力強化に向けた国家戦略の視座』日本評論社。ISBN-13: 978-4535558076。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎時間の講義内容は、連続性をもっているので、欠席したり遅刻したりしないことが理解のためには重要である。板書内容だけでなく、口頭で伝えることもノートして理解に努めてもらいたい。講義資料は必ず持参して講義を受けること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　交通渋滞発生のメカニズムとその緩和策
２　交通の社会的費用とその内部化
３　道路特定財源の一般財源化
４　交通投資の経済効果
５　道路投資と土地価格
６　交通と空間経済
７　社会的費用負担と開発利益の還元
８　鉄道運賃規制政策
９　レート・ベース方式とプライス・キャップ方式
１０　鉄道業者の環境適応戦略
１１　高速道路料金制度の社会経済的影響
１２　均一料金制と距離別料金制
１３　日本道路公団の分割民営化
１４　宅配企業の企業戦略と規制緩和
１５　タクシー産業活性化と規制緩和

交通政策

2019-4010000341-01

陶　怡敏

◎商学:A-2,A-3,A-4,B-3,B-4,C-1,C-2

1.交通政策の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通政策に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-2)

3.交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(A-3)

4.交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が発展する方向について説明することができる。　(A-4)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通問題の解決策を提案することができる。　(B-3)

6.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、交通政策の考え方を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-4)

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通政策のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-3,C-1,C-2

1.交通政策の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通政策に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-2)

3.交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(A-3)

4.交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が発展する方向について説明することができる。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通問題の解決策を提案することができる。　(B-3)

6.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、交通政策の考え方を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通政策のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

交通政策

2019-4010000341-01

陶　怡敏

◎貿易:A-2,A-3,B-3,C-1,C-2

1.交通政策の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通政策に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-2)

3.交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(A-3)

4.交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、交通産業および地域経済が発展する方向について説明することができる。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、交通政策に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通問題の解決策を提案することができる。　(B-3)

6.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、交通政策の考え方を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通政策のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

国際金融論Ⅰ

2019-4010000408-01

井上　伊知郎

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・３時限　　試験時間割：2019/07/25　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　世界では国によって通貨が異なります。国際的な貿易取引や資本取引では代金の支払や受取をどのように行うのでしょうか。本講義では、一企業・個人の観点からと国民経済全体（国家）の観点から具体例をもとに説明します。
　一企業・個人が外貨での支払をするには、国際市場で外貨を稼いだ誰かに譲ってもらえばいいですね。一企業・個人が外貨での支払をするにも、社会全体・国民経済全体でその外貨をどのように賄っているか（国際金融しているか）について理解する必要があります。
　国際取引の決済には、個人や企業、銀行、国民経済全体が関係します。本講義では、これらが相互にどのように関係しあって国際取引の決済を完了しているのかを理解できるように努めます。また、国際取引の代金の支払や受取は、国内取引の代金の支払や受取と比較してどのような共通点と相違点があるのかを説明し、国際決済・国際金融の特色を理解できるように努めます。
　最終的には、国際決済の要である国際通貨の仕組について理解できるようになることを目指します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

内国為替と外国為替の共通点と相違点を説明できる。(知識・理解)

国際収支について説明できる。(知識・理解)

最近の我が国の国際収支動向について説明できる。(知識・理解)

外国為替決済機構および外国為替銀行の役割について説明できる。(知識・理解)

国際通貨および国際通貨の意義について説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　指定したテキストの講義予定個所を事前に予習して下さい。講義では、テキストの内容について解説しますが、記載内容について更に詳細に説明したり、様々な事例を紹介して例解したりしますので、講義の後でそれらを含めて復習して下さい。また、講義内容と関係の深い新聞記事などを講義中に配布しますが、普段に新聞を読んだり、ニュースを聞くように努めてください。紹介した参考書も事前に読むことを勧めます。一科目当たり15回の講義では、講義内容をよく理解できるようになるために、学生諸君には最低30回分の（45時間分の）予習・復習をしておくことが必要とされています。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　到達目標を自分の言葉で正確に達成できているかを評価の基準とします。定期試験の結果によります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　井上伊知郎著『講義ノート』、（株）福田印刷、2007年に基づいて講義します。『講義ノート』は学内のヘリオス文庫（福岡金文堂福大店）で事前に購入してください。参考書は、さらに深く学習したい諸君に薦めます。

◎－－－　参考書　－－－◎

井上伊知郎著『欧州の国際通貨とアジアの国際通貨』、日本経済評論社、1994年　ISBN 4818807117
また、授業中に適宜指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　講義を聞くだけでなく、テキストの予習・復習に努めてください。授業中に資料などを随時配布しますので、講義には必ず出席するように努めてください。また、本講義は専門的な内容になりますので、貿易学科に所属されている先生方の講義の他、金融、銀行、証券関係の講義を聴講しておくと、より理解しやすくなると思います。後期に「国際金融論Ⅱ」を聴講する予定の皆さんは、この前期の「国際金融論Ⅰ」を聴講しておくことを勧めます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに－電子マネーと内国為替－
2　内国為替－学費の支払い方法－
3　内国為替と外国為替－共通点と相違点－
4　国際収支－国の対外収入と対外支出－
5　わが国の最近の国際収支動向
6　国際収支の変化とその国の経済発展段階
7　取立為替（逆為替）と外国為替銀行
8　送金為替（並為替）と外国為替銀行
9　為替リスクと企業－為替リスクヘッジ－
10　外国為替銀行と為替リスク・金利リスク
11　為替持高調整と国際通貨の成立
12　国際通貨とは何か－国際決済の要－
13　国際通貨の意義
14　固定為替相場制度下の国際決済
15　変動為替相場制度下の国際決済

国際金融論Ⅰ

2019-4010000408-01

井上　伊知郎

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.内国為替と外国為替の共通点と相違点を説明できる。　(A-1)

2.国際収支について説明できる。　(A-1)

3.最近の我が国の国際収支動向について説明できる。　(A-2)

4.外国為替決済機構および外国為替銀行の役割について説明できる。　(A-3)

5.国際通貨および国際通貨の意義について説明できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.内国為替と外国為替の共通点と相違点を説明できる。　(A-1)

2.国際収支について説明できる。　(A-1)

3.最近の我が国の国際収支動向について説明できる。　(A-2)

4.外国為替決済機構および外国為替銀行の役割について説明できる。　(A-3)

5.国際通貨および国際通貨の意義について説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際金融論Ⅰ

2019-4010000408-01

井上　伊知郎

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.内国為替と外国為替の共通点と相違点を説明できる。　(A-1)

2.国際収支について説明できる。　(A-1)

3.最近の我が国の国際収支動向について説明できる。　(A-2)

4.外国為替決済機構および外国為替銀行の役割について説明できる。　(A-3)

5.国際通貨および国際通貨の意義について説明できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.内国為替と外国為替の共通点と相違点を説明できる。　(A-1)

2.国際収支について説明できる。　(A-1)

3.最近の我が国の国際収支動向について説明できる。　(A-2)

4.外国為替決済機構および外国為替銀行の役割について説明できる。　(A-3)

5.国際通貨および国際通貨の意義について説明できる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

サプライチェーンマネジメント

2019-4010000403-01

陶　怡敏

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・５時限　　試験時間割：2019/07/30　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

いま、サプライチェーンマネジメント（Supply Chain Management ; SCM)は大きな注目を集めています。デルコンピュータの成功はSCMから始まったといわれ、フェデックスの成功は企業戦略の典型的な展開だと評価されています。
SCMとは、原材料や部品の供給から製造、卸売り、小売りを経て最終消費者に至るサプライチェーンについて、電子情報ネットワークを基盤にキャッシュ・フロー効率の最大化を図るための総合的な経営手法です。サプライチェーンは、相互依存関係を保ちながら、サプライヤーから最終消費者に至る情報と物のフローを制御、管理、改善するよう協力し合う組織のネットワークであります。SCMには、協力と信頼、そして「全体的統合は、部分的集合よりも優れている」という認識が必要です。SCMの根本思想として、企業間でのパートナーシップに基づく戦略的提携の存在が大前提となっています。そのようなパートナー化の下に、企業間でビジネス諸プロセスを統合することをSCMといいます。
授業の進め方としては、下記の授業計画に基づき、授業中に一人一人がExcel、インターネットなどパソコンを利用して実際のデータを分析しながら、上記の目的を達成できる授業内容とします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

サプライチェーンマネジメントの専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす物流経済に対する関心を深めることができる。(態度・志向性)

サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。(知識・理解)

サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

サプライチェーンマネジメントに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が発展する方向について説明することができる。(知識・理解)

企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を応用した物流政策を提案することができる。(技能)

企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術などを用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、サプライチェーンマネジメントのあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本講義の慣例に従って、予習と復習を確実に行ってもらうために毎回の授業に関連する予習・復習課題(所要時間：約2時間)の提出をお願いします。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
講義の内容を正確に理解し自分の言葉で説明できているかを評価基準とする。
②評価方法
最終成績は定期試験(期末評価)、中間試験(中間評価)および提出課題(平常評価)などにより評価する。
③割合
定期試験(40%)、中間試験・提出課題(60%)を目安として総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義内容の要点をまとめたレジュメとデータを配布し、それに基づいて講義・実習を行います。

◎－－－　参考書　－－－◎

久保幹雄監修『サプライ・チェーンの設計と管理』朝倉書店。ISBN-13: 978-4254270051。
黒田　充編著『サプライチェーン・マネジメント』朝倉書店。ISBN-13: 978-4254270099。
藤野直明『サプライチェーン経営入門』日本経済新聞社。ISBN-13: 978-4532107925。
曹　徳弼・中島健一・竹田　賢・田中正敏『サプライチェーンマネジメント入門』朝倉書店。ISBN-13: 978-4254270167。
藤川裕晃『サプライチェーン・マネジメントとロジスティクス管理入門』日刊工業新聞社。ISBN-13: 978-4526061325。
圓川隆夫編著『戦略的SCM―新しい日本型グローバルサプライチェーンマネジメントに向けて』日科技連出版社。ISBN-13: 978-4817195388。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

必ずしも表計算ソフト、統計学などに関する予備知識を知っている必要はないが、実際にパソコンやインターネットを使って、データを自分である程度分析できるようになることに重点をおいた授業なので、身近にパソコンやインターネットが利用できるようにして欲しい。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　サプライチェーン・マネジメントとは何か？
２　なぜサプライチェーン・マネジメントが必要なのか？
３　サプライチェーン・マネジメントにおける重要な課題
４　サプライチェーン・ネットワークの構成
５　ネットワーク構成モデルとデータの妥当性の検証
６　サプライチェーン・ネットワーク構成の最適化 ― 近似解法と厳密解法 ―
７　在庫管理とリスク共同管理
８　サプライチェーンにおける在庫管理
９　鞭効果における情報集中化の影響
１０　サプライチェーン戦略
１１　戦略的提携と３ＰＬ
１２　顧客価値とサプライチェーン・マネジメント
１３　サプライチェーン・マネジメントのための情報技術
１４　グローバルＳＣＭと情報共有の効果
１５　まとめ

サプライチェーンマネジメント

2019-4010000403-01

陶　怡敏

◎商学:A-2,A-3,A-4,B-3,B-4,C-1,C-2

1.サプライチェーンマネジメントの専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす物流経済に対する関心を深めることができる。(C-1)

2.サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-2)

3.サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.サプライチェーンマネジメントに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が発展する方向について説明することができる。　(A-4)

5.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を応用した物流政策を提案することができる。　(B-3)

6.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術などを用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-4)

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、サプライチェーンマネジメントのあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-3,C-1,C-2

1.サプライチェーンマネジメントの専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす物流経済に対する関心を深めることができる。(C-1)

2.サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-2)

3.サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.サプライチェーンマネジメントに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が発展する方向について説明することができる。

5.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を応用した物流政策を提案することができる。　(B-3)

6.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術などを用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、サプライチェーンマネジメントのあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

サプライチェーンマネジメント

2019-4010000403-01

陶　怡敏

◎貿易:A-2,A-3,B-3,C-1,C-2

1.サプライチェーンマネジメントの専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす物流経済に対する関心を深めることができる。(C-1)

2.サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-2)

3.サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.サプライチェーンマネジメントに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、物流産業および地域経済が発展する方向について説明することができる。

5.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、サプライチェーンマネジメントに関する理論的・実践的な知識を応用した物流政策を提案することができる。　(B-3)

6.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術などを用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、サプライチェーンマネジメントのあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-01

永星　浩一

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

3年専門ゼミは、メディアと広告に関する具体的な問題関心について取り組みます。各人それぞれ問題関心にしたがってテーマを設定してもらい、報告ならびに討論を行います。情報化が進んだ経済社会において、消費者や売り手はそれぞれどのように行動するのか、情報社会の進展は市場にどのような影響をもたらすのかについて考察します。
前期はそれぞれテーマを決めて、グループワークや個人研究の報告をしてもらいます。報告者のプレゼンを聴いた後質疑応答を行い、特に意見が分かれるテーマに関しては討論を行います。
後期までに、各自卒論で取り組むテーマを確定してもらいます。後期は卒論の書き方についてガイダンスを行い、各人のテーマを中心に据えて、各々卒論研究にとりかかります。原則として毎週報告をしてもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

情報社会におけるメディアと広告に関心を持ち、自らの問題関心を明らかにして積極的に研究に取り組むことができる。(知識・理解)

グループワークに強調的かつ主体的に取り組み、グループに寄与できる。(技能)

研究にあたって必要な知識を積極的に学び、社会の健全な発展に寄与する志向を持つ。(態度・志向性)

自分の研究内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションなど駆使して相手にわかりやすく説明できる。(技能)

自分の問題関心を明確にし、卒業研究に向けたテーマを決め、そのテーマを選んだ理由を説明できる。知識のアップデートを意識して社会生活を営むことができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

ゼミの場で積極的に討論に参加できるよう関連する文献を図書館で探して必ずゼミの前に調べておいてください。報告者だけではなく、それ以外の人も事前学習は必要です。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

出席して積極的に意見を述べるなどの討論への参加状況50%、プレゼンテーションの出来30%、研究報告の内容20%、など総合して成績を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しません。必要に応じて資料を配付します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

演習科目ですから、出席して発言したり発表したりして積極的に参加することで評価されます。出席しただけでは評価されません。同様の理由で遅刻はしないでください。やむを得ない理由で遅刻、欠席するときは、極力前もって連絡し、後日、証明があれば提出してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前　期

3年専門ゼミガイダンス

グループ・ワーク(1)

グループ・ワーク(2)

グループ・ワーク(3)

グループ・ワーク(4)

グループ・ワーク(5)

グループ・ワーク(6)

グループ・ワーク(7)

個人の研究発表(1)

個人の研究発表(2)

個人の研究発表(3)

個人の研究発表(4)

個人の研究発表(5)

個人の研究発表(6)

個人の研究発表(7)

後　期

個人の研究発表(1)

個人の研究発表(2)

個人の研究発表(3)

個人の研究発表(4)

個人の研究発表(5)

個人の研究発表(6)

個人の研究発表(7)

個人の研究発表(8)

卒論テーマ作成

論文のシナリオ作成

卒論の形式

卒論収集資料の報告(1)

卒論収集資料の報告(2)

卒論収集資料の報告(3)

卒論収集資料の報告(4)

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-01

永星　浩一

◎商学

1.情報社会におけるメディアと広告に関心を持ち、自らの問題関心を明らかにして積極的に研究に取り組むことができる。　(A-4)

2.グループワークに強調的かつ主体的に取り組み、グループに寄与できる。　(B-3)

3.研究にあたって必要な知識を積極的に学び、社会の健全な発展に寄与する志向を持つ。　(C-1)

4.自分の研究内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションなど駆使して相手にわかりやすく説明できる。　(B-2)

5.自分の問題関心を明確にし、卒業研究に向けたテーマを決め、そのテーマを選んだ理由を説明できる。知識のアップデートを意識して社会生活を営むことができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-02

笹川　洋平

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

3年ゼミでは、2年次に学んだ、流通･マーケティングの基本的な知識を確認し、今後の発展に役立てられるよう整理する。また、レポートやプレゼンのために必要な手続き（図書館、データベースの利用方法など）を学び、レポート構成に役立つ知識を活用できるようになることをめざす。

まず、現在、ゼミで使用中のテキストをベースに関連するテーマの資料や関連する書籍を材料にして、要点を整理し各自の評価を加えてプレゼンのための準備レポートの作成を目指す。

3年ゼミでは、次年度の論文ゼミのアイデアを準備する場でもある。ゼミ生各自が日常から、多方面にわたる読書を行い、物事を掘り下げて考える力を身につけてほしい。誰かのアイデアでなく、自分の頭で考えたことを発表してもらたい。Be independent!、これが3年ゼミの最終目標である。

課外活動に忙しく時間が限られている学生でも、10分でも時間があれば読んでメモしておけば、あとからしっかりした要約作りができるので、練習の合間や試合会場への移動中にも寸暇を惜しんで勉強にあてることを期待したい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.流通･マーケティングの基本を説明できる。(知識・理解)

2.企業や地域社会が直面する課題や解決に向けた取り組みを理解できる。(技能)

3.流通･マーケティングの知識を社会で貢献できる知識として活用する可能性を常に考えることができるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

日頃から、流通･マーケティングや経済関係の図書だけでなく、国際関係、文学、歴史､自然科学､数学など、幅広い分野に興味をもち、読書の範囲を広げて本を読む習慣をしっかりと身につけてもらいたい。とくに課外活動に時間をとられる学生については､｢文武両道｣を実現し、あとにつづく後輩たちのロール・モデルとなってほしい。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

課題（ゼミノート、課題レポート）の提出状況とゼミへの参加度（グループ討論への貢献など）、プレゼンを評価基準とする。なお、提出期限内の提出物のみを評価対象とする。
（課題提出：40%、ゼミ参加度：40%、プレゼン：20%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

水野誠『マーケティングは進化する』(2014/6)　ISBN 4495646613

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

できるだけ多くの本を読み、本を読む習慣を身につけること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1回-8回: 本の要約とプレゼン・質疑対応

9回-17回: 選書した2冊目の本と関連文献の内容を加味した要約と批評およびプレゼン･質疑対応

18回-26回: 選書し3冊目の本と関連文献の内容を加味した要約と批評およびプレゼン･質疑対応

27回-30回: 卒業論文へ向けてテーマ発表･質疑対応

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-02

笹川　洋平

◎商学

1.1.流通･マーケティングの基本を説明できる。　(A-1)

2.2.企業や地域社会が直面する課題や解決に向けた取り組みを理解できる。(B-1)

3.3.流通･マーケティングの知識を社会で貢献できる知識として活用する可能性を常に考えることができるようになる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-03

田村　馨

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　社会に出ると、自分の考えや思いを的確な表現と独自の視点で相手に伝えることが求められます。そのような力をつけると同時に、「企業や社会が必要とする人材像」と「自分はこうなりたいという将来の姿」を重ねるために何をすべきかをゼミを通じて学んで欲しいと思っています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学で学ぶべき知識を科学技術の知識も加味して説明できる。(知識・理解)

企業や産業と環境との関係を動態的なメカニズムとして説明できる。(知識・理解)

企業や産業が取り組むべき課題について優先順位をつけて説明できる。(知識・理解)

企業や産業が発展するべき方向を専門的な見地から説明できる。(知識・理解)

商学の実学的な側面を事例を使って説明できる。(知識・理解)

企業や産業の課題を事例研究や観察、ヒアリング調査を通して発見できる。(技能)

複数で回すプロジェクトを企画し実践することができる。(技能)

プロジェクトの中で、タスクと役割に応じたリーダーシップを発揮できる。(技能)

課題解決に必要な情報をネットから探し出し課題解決に必要な知見をセットで提示することができる。(技能)

商学を学ぶことが地域や社会の発展につながることに確信がもてるようになる。(態度・志向性)

自ら学び続けることが地域や社会の発展につながることがイメージできるようになり、自分なりの学びのスタイルをもてるようになる。(態度・志向性)

他者との連携、協力なくして地域や社会の発展はないことを理解するようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・事前リーディング、事前打ち合わせ（予習180分）。
・グループごとにワークを進め次の発表や討議に備える（360分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　自己評価シート（自分の目標に照らした達成度とゼミに対する貢献度など。昨年度はゼミ生から評価項目を提案してもらい、それを素材に評価項目を作成しました）をもとに評価します。評価基準は「自分の強み、長所、魅力を５つ以上あげ、自分の物差しで肯定的に自己評価できる」です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　特定のテキストは使用しません。ただし、適宜（特に夏休み、冬休み、春休みには）、読むべき図書を指定します。ネット上の見るべきコンテンツは常時、案内します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・特別講義「表現する力をきたえるプログラム」、特別講義「ソーシャル・イノベーション」、「サービスマーケティング」、「サービスマネジメント」をあわせて受講することを望みます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１～４．商学部生らしさが伝わる問題発見力をきたえる
５～８．商学部生らしさが伝わる問題設定力、仮説構築力をきたえる
９～１２．対話する力を自己点検し、きたえる
１３～１８．企画力をきたえる
１９～２４．プレゼン力をきたえる
２５～３０．他者と協力しプロジェクトを実現する力をきたえる

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-03

田村　馨

◎商学

1.商学で学ぶべき知識を科学技術の知識も加味して説明できる。　(A-5)

2.企業や産業と環境との関係を動態的なメカニズムとして説明できる。　(A-2)

3.企業や産業が取り組むべき課題について優先順位をつけて説明できる。(A-3)

4.企業や産業が発展するべき方向を専門的な見地から説明できる。　(A-4)

5.商学の実学的な側面を事例を使って説明できる。　(A-5)

6.企業や産業の課題を事例研究や観察、ヒアリング調査を通して発見できる。(B-1)

7.複数で回すプロジェクトを企画し実践することができる。　(B-2)

8.プロジェクトの中で、タスクと役割に応じたリーダーシップを発揮できる。(B-3)

9.課題解決に必要な情報をネットから探し出し課題解決に必要な知見をセットで提示することができる。　(B-4)

10.商学を学ぶことが地域や社会の発展につながることに確信がもてるようになる。　(C-1)

11.自ら学び続けることが地域や社会の発展につながることがイメージできるようになり、自分なりの学びのスタイルをもてるようになる。　(C-2)

12.他者との連携、協力なくして地域や社会の発展はないことを理解するようになる。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-04

陶　怡敏

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミは、「交通経済・物流経営」をタイトルに掲げています。われわれは毎日、通勤・通学のためにさまざまな交通手段を利用しています。ショッピングに出かけたり、海外旅行をしたり、スポーツを楽しむために出かけたりすることも多いが、そのつど何らかの形で自動車・鉄道・航空機・船・バイク・自転車などの交通手段を利用しています。そして、たとえわれわれが一日中家にいたとしても、インターネットで情報を収集したり、電話で会話したり、宅配便などによって商品が世界各地から運ばれてきます。
研究に必要な分析方法を学ぶための導入として、まず2年次に卒論のテーマ選定のための作業として、交通経済・物流経営に関する基礎文献の講読などを通じて、専門用語・基礎概念を理解し、交通論に特有の基本的なものの見方・考え方を習得してもらいます。そして、4年次に２・３年次で習得した理論と実証手法をもとにして、各自卒論テーマを設定して本格的な研究報告を行い、全員がこれについて討論を行うことが義務づけられています。卒論は研究報告に基づいて作成され、卒論発表会で最終結果が披露されることになります。
もう1つ、ゼミ生に「自主性」を持ってもらうことも本ゼミの目的です。自ら疑問を投げかけ、何が問題なのか、なぜ問題なのか、どのような問題なのか、解決方法はあるのかを徹底して考え抜き、独自のものの考え方ができることをめざしています。というのは、企業はあらゆる階層の責任者に問題解決能力・コミュニケーション能力を強く求めているからです。

◎－－－　到達目標　－－－◎

交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。(態度・志向性)

交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。(知識・理解)

企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。(知識・理解)

自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本ゼミの慣例に従って、予習と復習を確実に行ってもらうために毎回の授業に関連する提出課題(所要時間：約2時間)の提出をお願いします。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
交通経済や物流経営の基本概念を正確に理解し、かつ独自の考察があるかを評価基準とする。
②評価方法及び③割合
研究報告の内容(30%)、討論に対する参加態度(20%)、ゼミナール行事に対する参加態度(20%)、レポート等(30%)の評価項目における評点を総合して成績を判定する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

田邉勝巳『交通経済のエッセンス』 有斐閣。ISBN-13: 978-4641150492。

◎－－－　参考書　－－－◎

村上英樹・加藤一誠・高橋　望・榊原胖夫編著『航空の経済学』ミネルヴァ書房。ISBN-13: 978-4623045587。
藤井弥太郎・中条潮編『現代交通政策』東京大学出版会。ISBN-13: 978-4130720076。
衛藤卓也『交通経済論の展開』千倉書房。ISBN-13: 978-4805108277。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎時間の講義内容は、連続性をもっているので、欠席したり遅刻したりしないことが理解のためには重要である。板書内容だけでなく、口頭で伝えることもノートして理解に努めてもらいたい。教科書は必ず持参して、講義を受けること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
１　地震と交通
２　地球温暖化と交通
３　道路交通事故の現状と課題
４　新交通技術の動き
５　交通計画と需要予測
６　総合交通政策の評価
７　人口減少時代の交通政策
８　国際観光の動向
９　物流とは
１０　物流概念の変遷と技術の発展
１１　在庫の機能と管理
１２　物流の情報化
１３　物流コストと物流サービス
１４　ＳＣＭの台頭
１５　ＳＣＭ戦略の課題
後期
１　物流事業者の種類とトラック事業
２　倉庫事業の現状と課題
３　外航海運の発展と競争
４　航空フォワーダーとインテグレーター
５　グローバリゼーションと貿易
６　中国の物流と日系物流企業
７　循環型社会とリバース物流
８　環境と物流
９　現代企業の物流戦略
１０　物流サービスの評価
１１　日本の物流政策
１２　貿易の流れと商業送り状
１３　海上保険の仕組みと英文保険証券
１４　輸入申告書の役割と記載事項
１５　関税と消費税の役割

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-04

陶　怡敏

◎商学

1.交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。　(A-2)

3.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。　(A-3)

4.自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。　(A-4)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-3)

6.他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。(B-4)

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-05

永田　裕司

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

ゼミナールとは、指導する先生の下に少人数の学生が集まり、専門的なテーマを深く掘り下げて勉強する場であり、大学生活の中心と言っても過言ではありません。従って、大人数での講義のように受け身で先生の話を聴くだけでなく、自ら積極的に参加することが求められます。
現在、日本の金融システムは大きな転換期を迎えており、新聞やテレビでも金融に関するニュースが毎日のように報道されています。例えば、最近では、デフレ不況と貸し渋り、銀行の合併再編とメガバンクの誕生、グローバル金融危機の発生などが大きな話題となりました。今年度は、こうした金融をめぐるテーマの中で、とくに不安定化する国際金融システムについて勉強していきたいと考えています。また３年次には、２～３のグループに分けて共同論文を作成していく予定です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

地域経済とくに九州における銀行が取り組むべき課題を考察できる。(知識・理解)

地域の発展のために銀行が貢献できるプロジェクトをグループ別に検証できる。(技能)

社会人として必要な金融リテラシーを身につける。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

設定されたテーマについて、文献資料を事前に収集して、論点の整理とレポートの作成準備をしておくこと。また、グループ学習が中心となるので、グループごとに事前に準備をしたり、あらかじめ論点の整理や議論を行っておくこと。事前の作成準備には２時間程度を必要とする。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

研究報告の内容(20%)、討論に対する参加態度(20%)、共同論文の作成等のゼミナール活動や行事に対する参加態度(20%)、レポート等の評点(40%)を総合して成績を判定する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

翁百合『不安定化する国際金融システム』NTT出版 ISBN9784757123205

◎－－－　参考書　－－－◎

根本直子『残る銀行・沈む銀行』東洋経済新報社ISBN 9784492654316

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

通常のゼミナールはもちろん各種の活動や行事にも積極的に参加すること。出席は最低限の義務であり、ゼミ運営上支障を来すため、無断欠席は原則として許されない。

◎－－－　授業計画　－－－◎

【前期】
１　金融システムの構造変化
２　規制緩和の進展
３　金融危機発生の背景
４　金融危機と規制強化
５　欧州債務危機
６　日本型金融システムの課題
７　金融の技術革新
８　グローバル不均衡
９　マクロプーデンス規制
１０　銀行経営の課題
１１　ソブリン危機と銀行
１２　シャドーバンキング
１３　バーゼル規制の限界
１４　邦銀の競争力（１）
１５　邦銀の競争力（２）

【後期】
１　テーマ設定と資料収集
２　グループ別発表（１）
３　グループ別発表（２）
４　グループ別発表（３）
５　グループ・ディスカッション
６　グループ別発表（４）
７　グループ別発表（５）
８　グループ別発表（６）
９　グループ・ディスカッション
１０　論文執筆指導（１）
１１　論文執筆指導（２）
１２　論文執筆指導（３）
１３　プレゼンテーション（１）
１４　プレゼンテーション（２）
１５　論文講評

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-05

永田　裕司

◎商学

1.地域経済とくに九州における銀行が取り組むべき課題を考察できる。　(A-4)

2.地域の発展のために銀行が貢献できるプロジェクトをグループ別に検証できる。　(B-2)

3.社会人として必要な金融リテラシーを身につける。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

弘津　真澄

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

前期
簡単な伝票データの入出力プログラムを作成できるようになる。

後期
グループごとに簡単なシステム構築、あるいはテーマに沿って調査しレポートにまとめ発表をすることによって、まとまったシステムを構築できるようになるか、卒業論文のまとめ方、記述方法、発表方法を習得できる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

伝票データの入出力システムを完成させることができる。(知識・理解)

システム構築あるいはテーマに沿って調査しレポートにまとめ発表できる。(技能)

わからないことに対して、要領よく質問できる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

前期
次回のコーディングの範囲は、事前に予習してくること(90分)。

後期
システム構築・調査・発表の内容は事前に準備しておくこと(90分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

伝票データの入出力システムを完成させることができたかを評価の基準とする。
システム構築あるいはテーマに沿って調査しレポートにまとめ発表できたかを評価の基準とする。
わからないことに対して、要領よく質問できるようになったかを評価の基準とする。

［平常点］×0.3
+［研究報告レポートの内容］×0.3
+［討論に対する参加態度］×0.3
+［平素の活動状況］×0.1

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストなし

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
1 開発言語でSQLを操作 行・列の指定
2 開発言語でSQLを操作 任意の行の指定
3 開発言語でSQLを操作 単純な検索･追加
4 開発言語でSQLを操作 単純な訂正・削除
5 簡単なチェックルーチンの追加
6 商品マスターメンテ画面の完成
7 顧客マスターメンテ画面の完成
8 日付に関する関数などの練習
9 注文テーブル（ヘッダー部）画面の完成
10 メニュー画面の練習
11 メニュー３つの画面を統合
12 表の練習
13 注文テーブルに明細の追加-1
14 注文テーブルに明細の追加-2
15 注文テーブル画面の完成

後期
1 テーマ1-1
2 テーマ1-2
3 テーマ1-3
4 テーマ1-4
5 テーマ1-5
6 テーマ1-6
7 テーマ2-1
8 テーマ2-2
9 テーマ2-3
10 テーマ2-4
11 テーマ2-5
12 テーマ2-6
13 卒論テーマの決定（暫定）-1
14 卒論テーマの決定（暫定）-2
15 卒論テーマの決定（暫定）-3

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-06

弘津　真澄

◎商学

1. 伝票データの入出力システムを完成させることができる。 (A-1)

2. システム構築あるいはテーマに沿って調査しレポートにまとめ発表できる。 (B-4)

3. わからないことに対して、要領よく質問できる。 (C-2)

◎ 商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ 【知識・理解】

A-1 流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5 商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ 【技能】

B-1 先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ 【態度・志向性】

C-1 社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2 社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3 地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-07

本村　希代

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

過去を振り返ることは、現代社会のあり方を見つめ直し、今後の展開へとつながるカギを見つけ出すことでもある。商業的事象はもちろんのこと、人物・地域・政治・文化など、さまざまな角度から日本社会を歴史的に検討していく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解することができるようになる。(知識・理解)

歴史的視点から、企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出すことができるようになる。(技能)

歴史的視点から、地域や社会が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

報告者は報告内容をまとめたレジュメをゼミ時に配布すること（レジュメ作成90分）。ゼミ生全員、毎回、報告要旨をレポートとして提出すること（レポート作成60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

研究報告の内容30%、討論に対する参加態度30%、レポート40%（研究報告の内容を理解し、その主旨と自身の見解を述べることができる）を目安として総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミではゼミ生の主体的参加が重要となる。それゆえ他のゼミ生に迷惑となる行為（無断欠席・遅刻など）は厳禁とする。

◎－－－　授業計画　－－－◎

《前期》（１～15）
ゼミ生で話し合いの上、テーマを決定し、グループごとに調査・報告を行う。
《後期》（16～30）
卒業論文作成へ向け、各自テーマ設定・文献収集・章立てを行い、構想を報告する。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-07

本村　希代

◎商学

1.さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解することができるようになる。　(A-1)

2.歴史的視点から、企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出すことができるようになる。　(B-1)

3.歴史的視点から、地域や社会が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-08

村上　剛人

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

３年専門ゼミナールでは、2年専門ゼミナールで体験した基礎力をベースに、チーム学習のスキルのブラッシュアップを行っていきます。3年のゼミナールの目標は、第一に全国学生討論大会への参加テーマについて論文を作成し、そして、他大学の学生との討議に対してどのように有利に展開していくことができるのか、その能力の開発に多くの時間を使います。ゼミナールの時間だけでは論文作成は難しいかもしれません。ゼミの時間以外の時間も使って、納得いく論文作成をチームで行ってもらいます。

具体的には、第一にファシリテーションのスキルの向上を図ります。全国討論大会へ向けた取り組みだけでなく、必要に応じて題材を提供し、2年生で行ったキーワードマップを作成するためのチーム活動のブラッシュアップも行います。特に、司会と書記の役割の練習をしっかり行ってもらいます。そのことで、就職活動などでのグループワークに対処できるようにしていきます。

第二に、全国学生討論大会での論文作成をよいものにするため、文献研究などのやり方についてもチーム活動を基本としながら身につけてもらい、実際に論文作成にいかせるようにしていきます。また論文作成の指導をしていきます。

第三に企業とのインターシップが可能な場合は、企業から提供された課題について研究してもらうことも考えています。その場合は、ゼミの時間以外での活動が必要になってきます。注意しておいてください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

２年生で実施したチーム学習の方法の習得がさらにできるようになる。(技能)

論文作成のプロセスが理解でき、実施できるようになる。具体的には、課題設定とその論理プロセスをキーワードマップとして作成できるようになる。(知識・理解)

討論の課題に対する理解を深めるとともに、必要な文献を収集し、それを分析することが必要に応じてできるようになる。(知識・理解)

さらに企業などから課題研究が提供された場合には、それにも挑戦してもらい、社会で求められるコミュニケーション力、プレゼンテーション能力、論理構成能力を高めることができるようになる。(態度・志向性)

討論大会の研究を進める中で、自分の関心領域を広げながら、さらに発展的に考えていく積極性を身につけてもらう。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

3年生の活動のメインは全国学生討論大会へ向けての論文作成にあります。それゆえ、論文作成の各プロセス毎で各チームで発生した課題についてサブゼミの時間を設定して自主的にグループ活動を行ってもらいます。全国討論大会以外のテーマの時には、各自がそのテーマ課題を事前に読み込み、自分の意見を整理する準備を行ってください。また企業の課題研究が設定できる場合は、ゼミナールの時間以外での作業になる可能性が高いので、それぞれ与えられた課題に対して事前にしっかり検討を行ってくるようにしておいてください。（毎週120分程度）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準は、討論大会へ向けての活動、例えば、チームでの役割や貢献度、さらには作成しているキーワードマップの内容、より完成度を高めるためのチームでの取り組み状況、そして全国学生討論大会での討論状況を中心に評価します。どの程度積極的に参加しているのか、学生の態度・行動を中心にチェックします。日頃のチーム活動およびチーム発表そして全国学生討論大会の準備活動などを８割、そして実際の討論大会での活動状況及び振り返りを２割として評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

遅刻は絶対にしないこと。
病気等で休む時は、必ずその旨メール等で伝えること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

２年次で学習したテーマ設定からその論理的な整理の仕方、そしてプレゼンテーションのやり方を実際に3年次では討論大会参加へ向けて、テーマの設定、議論の流れの作成、その裏付け資料の作成、そして論文の作成へと１年間かけて行ってもらいます。

【前期】
１イントロダクション
２教材を使っての２年生で学習してきたことのポイントを再確認します。
３引き続き、そのポイントを確認することから、どういったスキルの向上を図らなければならないのか、全体で共有します。
4 全国学生討論大会参加に向けての仮テーマ探しとチーム決めを行います。
5 仮テーマが決まったら、その仮テーマの中からどのような問題が考えられるのか、分析していきます。（サブテーマの発見）
6取り組みたいサブテーマが決まったら、そのテーマで何を問題にするのか、そしてその結論はなにか、仮説を発見する作業を行います。（テーマの提出）
7~8 引き続き、問題、結論、その論理過程を明確にするためのキーワード抽出とそのマップ作成を行います。
9~14 大会でのテーマおよび対戦相手が確定すると、本格的にそのテーマについての問題、結論、その論理過程を明確にするためのキーワードマップ作成を行い、論文作成のための基本構造を明確にしていきます。
15 夏合宿に向けての取り組み課題を確認します。
　{合宿中において、全国学生討論大会に向けての議論のストーリーの完成版を作成できるように挑戦する}

【後期】
1~2 討論論文の最終的な作成
3~6 対戦相手からの論文が送られてきて、再度チームの論文のブラッシュアップを行う。
7~11最終論文を交換しあい、対戦相手の論文の分析・検討を行い、どのように議論を進めていくのか、質問項目の作成と議論のシナリオづくりを行う。
12~13チーム内でプレゼンテーション資料を作成し、ゼミ内での発表を行いゼミ内での質問交換を行う。
14 全国学生討論大会参加後の振り返りを行う。
15 卒業論文作成に向けての取り組み準備を行う。
＊なお、企業との連携による課題に取り組むといったことが発生する場合、日程を変更することもあります。また、サブゼミナールの時間を設定し、実施することもあるので連絡には注意すること。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-08

村上　剛人

◎商学

1.２年生で実施したチーム学習の方法の習得がさらにできるようになる。(B-3)

2.論文作成のプロセスが理解でき、実施できるようになる。具体的には、課題設定とその論理プロセスをキーワードマップとして作成できるようになる。(A-4)

3.討論の課題に対する理解を深めるとともに、必要な文献を収集し、それを分析することが必要に応じてできるようになる。　(A-5)

4.さらに企業などから課題研究が提供された場合には、それにも挑戦してもらい、社会で求められるコミュニケーション力、プレゼンテーション能力、論理構成能力を高めることができるようになる。　(C-3)

5.討論大会の研究を進める中で、自分の関心領域を広げながら、さらに発展的に考えていく積極性を身につけてもらう。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール「（隔週講義）」

2019-4010000378-09

石坂　元一

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：月・２時限, ３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　前期は，2年ゼミナールの続きとしてファイナンス及び数学の輪読を進めます。並行して，他大学と合同開催のRIS（学生保険ゼミナール）全国大会での報告に向けて準備を進めていきます。グループ活動として，テーマの選定から，報告準備，論文作成まで年間を通じて行っていきます。今年度，全国大会は東京の大学で開催される予定です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

問題意識をもって，それに適った研究が行える。(知識・理解)

適切な報告と討論ができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・毎回，グループ毎に報告の事前準備を十分に行うこと。（90分）
・ゼミや報告会での質問やコメントを報告内容にフィードバックしていくこと。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・体裁の整った報告と質疑応答ができるか，グループ研究に寄与しているかを基準とする。
・報告の内容（60%）・質疑応答（20%）・グループ研究への参加（20%）より成績を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし

◎－－－　参考書　－－－◎

テーマに沿った参考書を適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・大会報告に向けて正規のゼミ時間以外も相当の時間を割いてもらいます。
・グループ活動が主となるため，連絡なき遅刻・欠席及びグループに迷惑をかける行為は厳禁です。
・ゼミ開講日に注意してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　イントロダクション：ゼミの進行方法など
2　基礎勉強とテーマの選定：テーマ候補
3　基礎勉強とテーマの選定：目的の設定
4　基礎勉強とテーマの選定：手法の絞り込み
5　基礎勉強とテーマの選定：実行可能性の検討
6　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：研究計画
7　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：構成の決定（章立て）
8　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：構成の決定（節立て）
9　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：役割分担
10　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：レジュメの作成
11　小括：進捗の確認など
12　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：手法の決定
13　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：研究全体の検討
14　研究進捗の確認
15　前期総括：夏季休暇中の作業計画
16　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：各章の検討
17　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：各節の検討
18　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：全体の整合性の確認
19　基礎勉強とグループ毎の調査・研究：細部の修正
20　研究の中間報告
21　基礎勉強と報告準備：報告の行い方
22　基礎勉強と報告準備：報告スライドの作成
23　基礎勉強と報告準備：報告スライドの完成
24　基礎勉強と報告準備：討論の行い方
25　基礎勉強と報告準備：討論スライドの作成
26　報告および討論の練習：報告の練習
27　報告および討論の練習：討論の練習
28　研究報告と討論（全国大会）
29　論文作成
30　論文仕上げ

３年専門ゼミナール「（隔週講義）」

2019-4010000378-09

石坂　元一

◎商学

1.問題意識をもって，それに適った研究が行える。　(A-3)

2.適切な報告と討論ができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

伊藤　豪

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　少子高齢社会、人口減少社会を迎えたわが国において、公・私にわたり保険が果たす役割はますます重要視されている。
　しかし、公的保険（社会保険）においては、国民年金に対する不安が醸成され、制度そのもののあり方が問われているとともに、公的医療・介護保険もまた様々な問題を抱えているのが現状である。
　一方、私的保険（民間保険）においては、熾烈な販売競争が繰り広げられ、TVにて保険のCMを見ない日はないぐらい各社は競い合っているとともに、銀行においても窓口にて全保険商品が取り扱えるようになった。また、生命保険会社が保険特有の会社形態である相互会社から株式会社に組織転換する動きもある。さらに保険の証券化や保険デリバティブの発展、金融持株会社を視野に入れた他の金融機関との動き、メガ損保の誕生など、保険をめぐる環境も大きく変化している。
　そこで本ゼミでは、現代社会における公・私保険のあり方や保険制度および保険事業などが直面している諸問題などについて研究していくこととする。

◎－－－　到達目標　－－－◎

保険の知識、商学の知識ならびに社会科学の基本的な知識を身につけることができる。(知識・理解)

先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　報告者は事前に他のゼミ生にどのようにしたら理解してもらえるかを考えながらレジュメを作成しなければならない。（120分）そして、次の研究報告に備え、さらなる研究が必要となる。（120分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　保険の基礎知識が修得できているかどうか、また、現代社会の諸問題を保険的立場から考察できるようになっているかどうかが評価基準となる。
　評価方法としては、報告内容および討論に対する参加姿勢7割、ゼミナール行事に対する参加態度等3割を目安として総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　ゼミ活動や行事（合宿、討論会、ゼミ旅行など）は基本的に全員参加が原則。
　ゼミ運営上支障を来すため、無断欠席は許されない。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.オリエンテーション
2.グループ分けおよびテーマの設定
3～7.共同研究
8.中間発表
9～13.共同研究
14.15.前期プレゼンテーション
16.グループ分けおよびテーマの選定
17～21.共同研究
22.中間報告
23～27.共同研究
28.29.後期プレゼンテーション
30.総括

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-10

伊藤　豪

◎商学

1.保険の知識、商学の知識ならびに社会科学の基本的な知識を身につけることができる。　(A-1)

2.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。　(B-3)

4.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

5.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-11

杉本　宏幸

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　流通・マーケティング分野の理論的・実証的な研究をします。
　三年時は、二年時に学んだ内容を基礎に、現実の観察を通じてマーケティング戦略を立案し、理論的な裏付けを与えて仮説を構築してもらいます。この仮説の適切さをデータで検証するマーケティングリサーチの技法と手続きを全員に身につけてもらいます。
　ここで得られた能力は、あなたの社会人としての職務遂行能力に直接つながります。
　既に配布されている「募集要項」も確認してください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティング・消費者行動の基礎的な理論を理解して仮説を出し、これらを第三者に説明できること。(技能)

現実の課題から仮説を出し、これらを第三者に説明できること。(態度・志向性)

見出した仮説に対して理論的な裏付けを与え、周囲とディスカッションしながらアップデートできること。(態度・志向性)

仮説をデータで検証できるようになること。(技能)

仮説検証結果から戦略代替案を精緻化し、これを現実の企業や地域に適用できるようになること。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　ゼミナールで輪読するテキストの予習（60分）、テキストの記述に対応する現実の事例を探すこと（30分）は毎週全員にしていただきます。それぞれのプロジェクトではグループまたは個人での取り組み（90分）をしていただきます。
　ゼミナールとは別に週一回（90分）時間をゼミと関連のある内容を学んでいただきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　成績評価基準は到達目標に準じ、ゼミへの貢献（ゼミでの発言等）：30%、課題及び報告：70%の評価を原則とします。
　ゼミナールで課題が提出されない場合、単位が認定されません。無断欠席で提出していない課題は、理由を問わず0点となります。到達目標に即して真剣に受講する意思がないと教員が判断した学生は、当該授業で評価が0点となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定しない

◎－－－　参考書　－－－◎

マイケル・ソロモン 、『ソロモン 消費者行動論』、丸善出版，2015年、8800円（税抜）、ISBN 4621088777
末吉正成他、『EXCELマーケティングリサーチ＆データ分析』、翔泳社、2014年、2570円（税込）、ISBN 4798132411
Philip Kotler and Kevin Lane Keller、『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編 第3版』、丸善出版、2014年、4104円（税込）、ISBN 4621066137

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・ゼミの授業時間90分/週だけではゼミが終わりませんので、その時間を確保してください。
・学外での課外活動がある場合、受講生による金銭的負担が必要になります。
・ゼミでの研究に必要な知識ですから、特別な事情がない限り、3年終了時点までに以下の講義の単位を必ず修得してください。
（商学部開講科目）マーケティングリサーチ、消費者行動論、サービスマーケティング、サービスマネジメント、マーケティング戦略論（マーケティング論）、流通システム論、流通・マーケティング入門。
・理由が明らかでない欠席と遅刻、理由が明らかでも常識に照らして認められない欠席と遅刻については、無断欠席と判断し、受講する意思がないとみなします。
・他者の学びを妨げる等、ゼミナールの進行を妨げる行為は、到達目標に即して受講する意思がないものと判断し、教室からの退出を指示します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

　以下を予定していますが、ゼミナールの進行状況によって内容を変更することがあります。

１．イントロダクション
2-14．研究報告
15．前期のまとめ
16-29．研究報告
30．ゼミのまとめ

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-11

杉本　宏幸

◎商学

1.マーケティング・消費者行動の基礎的な理論を理解して仮説を出し、これらを第三者に説明できること。　(B-3)

2.現実の課題から仮説を出し、これらを第三者に説明できること。　(C-2)

3.見出した仮説に対して理論的な裏付けを与え、周囲とディスカッションしながらアップデートできること。　(C-3)

4.仮説をデータで検証できるようになること。　(B-4)

5.仮説検証結果から戦略代替案を精緻化し、これを現実の企業や地域に適用できるようになること。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-13

中塚　晴雄

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

金融論の専門的勉強を進めます。３年次専門ゼミでは卒論研究の内容を２年次専門ゼミで学んだ基礎を礎石に一年間で築きます。３年次ゼミ生は、２年次ゼミ生とは違って自発的な学びが期待されます。ゼミの授業では、前期は、金融論のテキストで２年次専門ゼミの範囲を超えてもう一度全体を学び直します。後期は、ゼミ生一人ひとりの学力と学問的な興味にしたがって経済学の専門書か経済ビジネス書および経済分野の新刊新書を読むようにします。研究に必要な学習スキルを用いて、各自の研究テーマで毎回の授業一回あたり２人の報告者で研究内容を報告します。また、夏休みには、課外研修（ゼミ合宿）でゼミ生全員は研究報告をします。３年ゼミ終了時には、４年次卒論ゼミで研究する卒論計画を提出します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

金融をはじめとする商学の知識ならびに社会科学についての基本的な知識と構造を身につけている。(知識・理解)

金融をはじめとする商学に関する理論的・実践的な知識を用いて、日本経済、銀行。金融市場、企業、地域社会が置かれている経済社会状況を説明することができる。(知識・理解)

金融をはじめとする商学に関する理論的・実践的な知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場。企業、地域社会が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。(知識・理解)

受講生の力で、先行研究を参考にして、日本経済、銀行、金融市場。企業、地域社会が取り組むべき課題を発見できる。(技能)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献等を用いて国内外の事例や文献を収集し、課題解決に必要な知見を専門レポートに執筆できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

前期セメスターでは、次回の授業範囲を、授業計画に沿って当該授業のテーマについて調べ、専門用語の意味や制度の仕組みを調べ、わかったところとわからないところを確認しておくこと。（90分）
後期セメスターでは、受講生一人ひとりのテーマについての報告を中心に授業を進めるため、あらかじめテーマに即した資料（レジュメ形式）をまとめておくこと。（90分）
前期セメスターの授業最終回に示される課題について、受講生一人ひとりのテーマに沿ってレポート（字数５千字以上）を作成すること。（90分×３＝270分）
夏季課外授業（於：福岡大学やまなみ荘）で、受講生一人ひとりのテーマについて、前期セメスターにおける報告と教員と受講生の対話および必要に応じて使われた映像資料を踏まえて、レポート（字数５千字数以上）を作成すること。（90分×３＝270分）
後期セメスターの授業最終回に示される課題について、受講生一人ひとりのテーマに沿ってレポート（字数５千字以上）を作成すること。（90分×３＝270分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

前期課題レポート（13%）と研究報告（１回：10%)および平常点（10%)、夏季課外授業報告（10%）と課題レポート（13%）、後期課題レポート（１回：10%)と研究報告（１回：14%)および平常点(10%)，貢献度（10%）

金融をはじめとする商学の知識ならびに社会科学について基本的知識と構造について身に着けているかを基準とします。金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が置かれている経済社会状況を説明することができるかを基準とします。金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題が何であるかを説明することができるかを基準とします。受講生の力で、先行研究を参考にしながら、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題を発見できるかを基準とします。日本経済、企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、金融をはじめとした商学に関する理論的・歴史的な知識を応用した卒業研究を計画して卒論論文に執筆できるかを基準とします。銀行、金融市場、企業、日本全国各地あるいは地域社会が取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献等を用いて国内外の先行研究や事例を収集し、課題解決に必要な知見を卒論にとりまとめられるかを基準とします。平素の授業での報告以外の平常点は、報告に対する質疑応答、授業での発言、少人数授業全体におけるリーダーシップや協調性を基準とします。貢献度は、課外授業における積極的な参加や現地でのリーダーシップや積極的関与ならびに協調性を基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中塚晴雄『金融論－初心者にもわかるやさしい金融論－改訂版－』（税務経理協会）2011年，ISBN 4419047380　映像資料も利用します。

◎－－－　参考書　－－－◎

河村小百合『中央銀行は持ちこたえられるか』（集英社新書）2016年 ISBN 4087208583
白井さゆり『超金融緩和からの脱却』日本経済新聞出版社　ISBN 45327061
小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート論文術』（講談社新書）ISBN 4062880210

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業進行を妨げる行為（度重なる欠席、課題の未提出、私語、居眠り、虚偽の欠席届など少人数科目の実施を著しく妨げる学生の事由）は、授業の毎回毎回が知識と理論とスキル（学習技術）の習得の場であるため、当該受講生の学習到達度に支障をきたすことになります。また他の受講生の授業の学習到達度にも負の影響を与えます。専門科目（金融論）のより一層の深い研究をする場が専門ゼミナールです。少人数授業の常識ある態度を受講生には求めます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回　企業の生産活動と銀行の金融仲介機能（テキスト第２章と第３章と第２３章）
第２回　ものづくりとメイドインジャパン（第３章）
第３回　映像資料「トヨタ自動車の創業vol1」
第４回　景気と国内総生産（テキスト第１章）
第５回　デフレと景気（テキスト第１６章）
第６回　金融政策と物価と景気（テキスト第１８章）
第７回　公定歩合操作から公開市場操作へ（テキスト第２０章）
第８回　金融政策と設備投資（テキスト第２２章と第２３章）
第９回　映像資料「トヨタ自動車の創業vol2」
第10回　前期研究報告１
第11回　ゼロ金利政策（テキスト第２１章）
第12回　量的緩和政策（テキスト第２２章）
第13回　異次元的金融緩和（テキスト第２２章）
第14回　前期研究報告２
第15回　前期研究批評
第16回　映像資料「NHKスペシャル　トランプのアメリカ」（NHK制作）
第17回　金融政策と日銀審議委員の合意形成（テキスト第20章と白井『超金融緩和からの脱却』「第１章」
第18回　白井さゆり『超金融緩和からの脱却』「第2章金融政策をめぐる大きな変化」
第19回　同『超金融緩和からの脱却』「第3章なぜ中央銀行は２％の物価安定を目標とするのか」
第20回　白井さゆり『超金融緩和からの脱却』「第4章金融政策の正常化に向かう米連邦準備理事会」
第21回　同『超金融緩和からの脱却』「第5章異次元的緩和を継続する日本銀行」
第22回　白井さゆり『超金融緩和からの脱却』「第6章非伝統的金融政策と伝統的金融政策」
第23回　河村小百合『中央銀行はもちこたえられるのか』第１章「わが国の政策運営の油断と慢心」
第24回　河村小百合『中央銀行はもちこたえられるか』第2章「「財政危機」のあり得るシナリオ」
第25回　河村小百合『中央銀行はもちこたえられるか』第4章「金融危機後の「金利ゼロ」の世界と「量的緩和」」
第26回　白井さゆり『超金融緩和からの脱却』「第8章金融政策と財政政策」
第27回　河村小百合『中央銀行はもちこたえられるか』第5章「中央銀行はもちこたえられるか」
第28回　後期研究報告１
第29回　後期研究報告２
第30回　卒論計画の作成

※　2019年度の経済情勢に応じて講義の内容と順番に、経済現象を対象とする３年次専門ゼミナール（金融論）の性質上、若干の変更がある可能性もあることは、予めご了承下さい。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-13

中塚　晴雄

◎商学

1.金融をはじめとする商学の知識ならびに社会科学についての基本的な知識と構造を身につけている。　(A-1)

2.金融をはじめとする商学に関する理論的・実践的な知識を用いて、日本経済、銀行。金融市場、企業、地域社会が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-2)

3.金融をはじめとする商学に関する理論的・実践的な知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場。企業、地域社会が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。　(A-3)

4.受講生の力で、先行研究を参考にして、日本経済、銀行、金融市場。企業、地域社会が取り組むべき課題を発見できる。　(B-1)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献等を用いて国内外の事例や文献を収集し、課題解決に必要な知見を専門レポートに執筆できる。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-14

藤田　裕邦

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

ゼミテーマ「西洋社会経済史の諸問題」のもと、前期においては主に関連分野の学習を進め、後期においては主に卒業論文作成のための基礎作業を行なう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

歴史学の学術論文や専門書の内容を、適切に読み取ることができる。(知識・理解)

レジュメ作成を含めて、調査や学習の成果を適切に報告することができる。(技能)

自分がすでに持っている知識を、卒業論文のテーマ設定のために有効に活用できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

「授業計画」中、テキスト講読についてはその回の該当箇所を読んで疑問点・問題点を整理しておくこと（90分）。
また、※を付した事項については、各自で教室外学習を並行して進めること（90分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価方法
①授業時の報告の内容（50%）
②授業時の質疑応答・討論への参加状況（50%）
評価基準
評価方法①：課題論文・テキストの内容・趣旨について正確・適切に理解しているかどうか、それらや卒業論文に関して必要な調査がなされているか、調査・考察した結果を適切に報告しているかどうかを、評価基準とする。
評価方法②：報告者の報告内容について理解しているかどうか、また、自身が抱く意見や疑問点を適切に表明しているかどうかを、評価基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

玉木俊明『海洋帝国興隆史』講談社，2014年
(ISBN:978-4-06-258590-3)

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期：西洋商業史関連基礎学習
１　前期開始にあたって
２～４　※２年次学年末休業中の学習課題報告（１）～（３）
５～12　テキスト講読（１）～（８）
13～14　卒論テーマ（分野）の設定（１）～（２）
15　前期のまとめ　－夏季休業中の学習について－

後期：卒論基礎学習と報告
16　後期開始にあたって
17～19　※卒論テーマ基礎学習の成果報告（１）～（３）
20～24　テキスト講読（続き）（９）～（13）
25～27　※卒論テーマ基本図書講読の成果報告（１）～（３）
28～29　今後講読する文献の探索（１）～（２）
30　まとめ

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-14

藤田　裕邦

◎商学

1.歴史学の学術論文や専門書の内容を、適切に読み取ることができる。　(A-1)

2.レジュメ作成を含めて、調査や学習の成果を適切に報告することができる。　(B-3)

3.自分がすでに持っている知識を、卒業論文のテーマ設定のために有効に活用できる。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

鈴木　裕介

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：月・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　３年専門ゼミナールでは、「交通と街づくり」「観光」に関する研究課題について、グループ研究を中心に進めていきます。研究活動では、文献調査、データ分析、現地調査などを行います。
　また講義時間では、グループ別にグループ研究の途中経過の報告をしてもらいます。その中で報告資料の作成方法や報告の仕方などを身に着けていきます。また11月をめどに研究成果を論文としてまとめ、外部機関に投稿することを目指します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

様々な社会的事象を観察し、社会や地域が抱える課題を探し出すことができる。(知識・理解)

設定した課題について、その背景を理論的に理解することができる。(知識・理解)

文献などから、商学の知識を学び、議論に活用することができる。(技能)

グループで協力し、計画的に研究を進めることができる。(技能)

グループ研究で研究成果が出せるように、積極的にグループに貢献することができる。(技能)

社会や地域が抱える問題について、グループでその解決策を議論し、社会に提案することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講義内でのグループ研究の報告のために、時間外でも調査及びまとめる作業が必要になります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
　・グループで適切にデータ収集及び分析が行える。
　・積極的にディスカッションに参加できる。

②評価方法及び割合
　グループ研究への参画（データの収集やディスカッションに対する積極性及び協調性）（70%）及び課題の提出（課題に対し、データなどを用いて考察はできるか）（30%）を評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義用のノート及びファイルを準備すること

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション
2～14　グループ研究報告
15.グループ研究課題整理（夏休みに向けて）

夏期研究報告会
　グループ研究の夏期課題の経過報告

16～20　グループ研究報告
21. 論文の作成方法
22~29　論文作成および研究報告
30.　まとめ：1年間の総括

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-16

鈴木　裕介

◎商学

1.様々な社会的事象を観察し、社会や地域が抱える課題を探し出すことができる。　(A-3)

2.設定した課題について、その背景を理論的に理解することができる。　(A-2)

3.文献などから、商学の知識を学び、議論に活用することができる。　(B-1)

4.グループで協力し、計画的に研究を進めることができる。　(B-2)

5.グループ研究で研究成果が出せるように、積極的にグループに貢献することができる。　(B-3)

6.社会や地域が抱える問題について、グループでその解決策を議論し、社会に提案することができる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-17

太宰　潮

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

２年専門ゼミに引き続き、企業のマーケティング課題に取り組みます。チーム単位でのディスカッションを重ね、企画のプレゼンテーションをするほか、実際の企画実践までを行うことを想定します。ゼミ内だけではなく、実務家など、ゼミ外部の方を交えての交流・発表・議論討論の機会を設けるのも、２年次と同様です。

他大学とのコンペティションの場への参戦をする予定です。九州内ではなく、全国の有名大学のレベルを肌で感じるためです。関東もしくは関西を往復することが前提となります。

併せて企業などが行っているコンテストや懸賞論文等への応募を呼びかける予定です。従って人によっては小規模なプロジェクトが同時進行する可能性もあります。

またこれまでと同様、先輩方やＯＢ・ＯＧなど、上下学年との縦の交流を積極的に図ります。これまで通り、ぜひ自発的・能動的な姿勢で参加をしてください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

2年次よりもより専門性を高めた、マーケティングや消費者行動、データ分析などについての知識・理論を説明できるようになる。(知識・理解)

データ分析、プレゼンテーションを行っていくうえで、より専門的なツール・データを用いた分析ができるようになる。(知識・理解)

全国の広い範囲で優れた学生が集まる場で競争をすることで、自らの課題や位置を知り、将来に備えた準備ができるようになる。(態度・志向性)

実践を前提としたプレゼン、課題について取り組むことで、現実の企業や社会を動かせる力を身に付ける。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

ゼミの時間以外に、自分で率先して情報（記事・文献やデータ等）を調べることは必須となります。平均すれば１時間程度の予習復習は必要ですが、その時々で必要な時間は変わってきます。与えられた課題をクリアし、実務家の期待に応えられるには、また自分達が貢献をするためにはどんなことが必要か、自ら考え、積極的に動いて下さい。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

班への貢献度（ディスカッションへの積極性や行動力、発言内容等）：80%、最終的なプレゼンテーション：20%　を基準として評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定するテキストはありません。

◎－－－　参考書　－－－◎

随時読んで欲しい本は太宰から指定・指示しますが、ぜひ太宰にお勧めの本を尋ねに来たり、自分でマーケティングや消費者行動に関する本を選ぶ、つまり自発的に文献を読めるようになると尚良しです。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミなので出席は評価の大前提です。他人に迷惑をかけるので無断欠席は厳禁します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション
2～9. 課題に対する準備、討論
10. 中間発表
11～14. 課題仕上げ
15. 企画プレゼン
16～24. 提案内容実施期間・報告作成
25. 最終報告
26～30. 振り返り・卒論準備

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-17

太宰　潮

◎商学

1.2年次よりもより専門性を高めた、マーケティングや消費者行動、データ分析などについての知識・理論を説明できるようになる。　(A-1)

2.データ分析、プレゼンテーションを行っていくうえで、より専門的なツール・データを用いた分析ができるようになる。　(A-2)

3.全国の広い範囲で優れた学生が集まる場で競争をすることで、自らの課題や位置を知り、将来に備えた準備ができるようになる。　(C-1)

4.実践を前提としたプレゼン、課題について取り組むことで、現実の企業や社会を動かせる力を身に付ける。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-20

合力　知工

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

企業戦略とは、「ヒト・モノ・カネ・情報」という観点から、企業経営を円滑に促すような計画的・長期的方策を意味します。企業は、できるだけ多面的な角度から、「不確実な経営環境を背景に、どのような戦略を打ち立て、業績を維持・成長させていくか」を考えます。その業績を維持・成長させていく上で、企業は色々な選択を迫られると思いますが、本演習では、「企業が利益を創出するプロセスにおいて重視すべきは、自らを取り巻くステイクホルダーの満足をバランスよく充足させることである」との観点から、顧客満足（CS）を充足させるために必要な社員満足（ES）戦略、種々のステイクホルダー（株主、顧客、従業員、コミュニティなど企業の利害関係者）間のバランスを考えた社会戦略―経済的利益と社会的利益が相反するのではなく、相互の利益が創出されるような戦略―などについて、実践的に考察していきます。
本演習では、教室で理論を学ぶだけでなく、学生が実際に企業や地域社会が抱える課題を発見し、それを改善し活性化する提案を行うという機会を設けています(Active Learning)。
具体的には、中小企業の経営者団体が主催する「開物成務塾」と連携し、そこでマーケティング手法を学んだり、ゼミで習得したビジネスツールを活かして、企業に対して提案をしたりしています。
また、ゼミ学年対抗スポーツ大会、学祭での模擬店出店、ＯＢ・ＯＧ会、謝恩会などのイベントの企画・運営を、ゼミ生主体で取り組んでもらいます。
事前学習としては、授業計画にも記していますが、担当班は当然として、担当班以外の班も発表テーマを事前に把握することにより、関連書籍や新聞、雑誌、ウェブなどにより十分知識を習得しておく必要があります。
また、事後学習としては、担当班は毎回発表が終わった後に、自分たちの発表をまとめた「発表レポート」を提出して、「振り返り」を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。(知識・理解)

環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。(知識・理解)

経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。(知識・理解)

企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。(知識・理解)

有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。(知識・理解)

柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。(技能)

企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。(技能)

企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。(技能)

企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。(技能)

講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。(態度・志向性)

研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。(態度・志向性)

研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

担当班は、発表週の前の週に「仮レジュメ」を作成し配布します。担当班以外の班（フロア）は、その仮レジュメをもとに予習をします。なお、仮レジュメには、自分たちの発表のテーマ、概要（問題提起、仮説、検証項目など）、ポイントのほかに、フロアへの宿題を記載し、フロアが予習しやすいように工夫します。
また、担当班は、事前に、「評価表」を作成し、当日、フロアに配布します。評価表には、自分たちが発表で見てもらいたい点（内容のオリジナリティ性、レジュメの見やすさ、ディベートの進め方、質問の回答への適切さ、優位性、チームワーク、エンターテイメント性など）を各６点満点で箇条書きにし、ほかに自由コメント欄を設けてもらいます。フロアは、ゼミ発表後、その評価表に記入し、担当班にフィードバックします。担当班は、その評価表にもとづき、自分たちの発表を振り返り、何が出来ており、何が出来ていなかったかを把握し、次回の発表に活かしてもらいます。また、担当班は毎回発表が終わった後に、自分たちの発表をまとめた「発表レポート」を提出して、「振り返り」を行います。
また、研究活動とは別に、授業時間外にイベント活動があり、そこでは企画力、コミュニケーション力などを体得します。したがって、この活動への参加も不可欠です。

＊発表のための準備（担当班）：2時間程度
仮レジュメによる予習（担当班以外）：60分程度
振り返り（担当班、担当班以外全員）：60分程度

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価方法：参加意欲、レジュメ作成、発表の内容、ディスカッション能力により、総合的に評価します。
②割合：参加意欲（50%）、レジュメ作成（20%）、発表の内容（20%）、ディスカッション能力（10%）
③評価基準：参加意欲（ただ出席するだけでなく、発言・提案ができているかどうか、時間外の発表のための準備活動への参加の程度）、レジュメ作成（仮説の設定、検証、結論の流れができており、　かつそれらが根拠のある情報をもとに作成されているかどうか）、発表の内容（オリジナリティ性と論理性があるかどうか、また提案が含まれているかどうか）、ディスカッション能力（ただ発言するだけでなく、調和のとれた発言ができているかどうか）

◎－－－　テキスト　－－－◎

合力知工著『「逆転の発想」の経営学－理念と連携が生み出す力－』2010、同友館、2,000円（税抜）、
ISBN：9784496046353 を使用します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミ登録者には「経営戦略論」、「企業戦略論」の履修を求めます。
また、イベント活動を含むすべてのゼミ活動に費やす時間とお金を「費用」ではなく、「投資」であると考えられる人しか受講できません。課外活動やアルバイトを最優先に考える人は当ゼミナールの履修は大変厳しいものとなります。
現時点での知識の有無、成績の良し悪しは問いませんが、知的好奇心の強い人、積極性のある人を希望します。研究活動は非常に厳しいので、それに十分に耐えられると思う人のみ応募してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回はオリエンテーション、第2回～30回は、毎回、各テーマに沿ったプレゼンテーション（３０分）とグループディスカッション（４０分）及び解説（２０分）という流れになります。

研究面では、企業経営の実態について、班単位で研究テーマを設定し、文献調査や企業へのヒアリングをもとにレジュメを作成し、それに基づいて担当班が発表（ディベート形式）し、担当班の発表後、全員でディスカッションをしていきます。具体的には、商品戦略、顧客ロイヤルティ戦略、環境・社会戦略など様々な戦略を調べ、PEST分析やSWOT分析などによりプレゼンテーション及びディスカッションを展開します。テーマ設定から仮説の検証まで、すべて学生の自主性に委ねられています。
担当班以外のメンバーが事前学習をしてもらう工夫として、担当班には発表前の週に、自分たちが何について発表するかということを告知することを義務づけています。
また、担当班の発表に関しては、担当班以外の班が「評価表」に基づいて評価（内容のオリジナリティ性、レジュメの見やすさ、ディベートの進め方、質問の回答への適切さ、優位性、チームワーク、エンターテイメント性などなどの評価）するようにしており、その結果が担当者にフィードバックされ、次回の発表に繋がるようにしています。
イベント面への参加および取り組み姿勢も評価の対象であり、したがってこれは遊びではなく、「社会に出てから必要とされる能力を、各種イベントの企画・運営を通じて身につける」というスタンスのもと、真剣に取り組んでもらっています。
なお、最近の研究テーマとしては、各種業界の大企業・中小企業の具体的な戦略策定の他に、「持続的に成長する企業の条件」「社員にやさしい企業とは」「女性が力を発揮できる組織作り」「ステイクホルダー満足と企業利益との相関性」などがあります。

2019-4010000378-20

合力　知工

◎商学

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-4)

5.有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。　(A-5)

6.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

7.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

8.企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。　(B-3)

9.企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。　(B-4)

10.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。　(C-1)

11.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

12.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-21

福山　博文

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミでは、組織体のマネジメントについて、戦略および意思決定、組織の結びつきなどを考慮しながら、多面的に研究します。前期においては、企業経営の在り方を理解する上で必要不可欠な基礎知識を学びます。実際の企業経営の把握に対しては、定量的で、客観的なデータの利用が必要となるので、さまざまなデータを収集して分析します。後期においては、前期で学んだことを生かし、いろいろな場合を想定した、実践的なモデルの構築を行ない、その内容について、パワーポイントにより報告してもらいます。
また年末には、２年生と合同発表会を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

指定した教科書の基本的な概念について説明できる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。(技能)

企業、産業、地域の問題を、日常的に考えるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習
・授業計画で示したテキストの該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。（90分）

事後学習
・ゼミで学習した内容を復習すること。（30分）
・ゼミノートを作成すること。（30分）
・グループワークが中心になるため、テーマに則した資料を準備すること。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準および方法
・グループ（班）内での成果をまとめ、適切な資料を準備し、文章および口頭で発表できる。（40%）
・ゼミの中でディスカッションができる。（20%）
・他のゼミ生と互いに協力し合いながら、研究をすることができる。（40%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

上林・奥林・圍・関本・森田・竹林『経験から学ぶ経営学入門』第2版，2018年、有斐閣ISBN978-4-641-18443-5

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「経営シミュレーション」、「オペレーションズリサーチ」を３年次に履修してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前　期
１．前期活動計画の決定
２．共同論文のテーマの決定
３．個人またはグループでの報告及び討論
４．個人またはグループでの報告及び討論
５．個人またはグループでの報告及び討論
６．個人またはグループでの報告及び討論
７．個人またはグループでの報告及び討論
８．個人またはグループでの報告及び討論
９．個人またはグループでの報告及び討論
１０．個人またはグループでの報告及び討論
１１．個人またはグループでの報告及び討論
１２．個人またはグループでの報告及び討論
１３．個人またはグループでの報告及び討論
１４．個人またはグループでの報告及び討論
１５．前期の総括
後　期
１．後期活動計画の決定
２．共同論文のテーマの決定
３．個人またはグループでの報告及び討論
４．個人またはグループでの報告及び討論
５．個人またはグループでの報告及び討論
６．個人またはグループでの報告及び討論
７．個人またはグループでの報告及び討論
８．個人またはグループでの報告及び討論
９．個人またはグループでの報告及び討論
１０．個人またはグループでの報告及び討論
１１．個人またはグループでの報告及び討論
１２．個人またはグループでの報告及び討論
１３．PowerPointによる発表
１４．PowerPointによる発表
１５．総括

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-21

福山　博文

◎商学

1.指定した教科書の基本的な概念について説明できる。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(B-2)

3.企業、産業、地域の問題を、日常的に考えるようになる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

2019-4010000378-22

和田　剛明

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールでは、工業経営（「ものづくり」の「ビジネス」）に関する知識を使いこなす能力を修得することを目指す。このために、「現代の製造企業がおかれている状況」、「その状況のもとでどう行動するべきか」について、経営学の知識を用いて分析する演習を行う。
工業経営は、名のとおり「工業における経営」であり、その基礎は経営学の諸理論にある。演習においては、工業との関連を重視しつつ、技術経営論、経営戦略論、マーケティング、イノベーション・マネジメント論など、幅広く経営学の諸知識をあつかう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

工業経営に関連する経営学の諸理論について、基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

工業経営に関連する経営学の諸理論を用いて、製造企業の活動を分析し、収益力を強化するための課題を発見することができる。(知識・理解)

日常的に新聞や書籍で企業活動に関する情報を収集し、ゼミナールで得た知識をもとに分析し、学んだことの理解を深めることを心がけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

以下に、一週間の授業時間外の学習時間を示す。

第01回～第12回
講義内容の復習（90分）

第13回～第15回
講義内容の復習（90分）
発表資料・レポートの作成（180分）

第16回～第21回
講義内容の復習（90分）

第22回～第30回
講義内容の復習（90分）
発表資料・レポートの作成（240分）

※全授業期間平均：一週間当たり180分

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

本講義は、学期末試験を実施せず、以下の要素によって評価する。

(1)ゼミナールでの討議・発言（20%）
発言の内容とともに、積極的に発言したか、他の参加者にとってプラスとなる意見を述べたかといった姿勢も評価する。

(2)発表の内容（30%）
しっかりと情報を収集し、分析・考察されているかとともに、オリジナリティ、プレゼンテーションとしての分かりやすさも評価する。

(3)レポート（50%）
しっかりと情報を収集し、分析・考察されているかとともに、文章としての構成・読みやすさも評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義において適宜配布する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第01回　ガイダンス
第02回　グループワーク：製品市場の分析（1）
第03回　グループワーク：製品市場の分析（2）
第04回　グループワーク：競争優位性
第05回　グループワーク：製品開発（1）
第06回　グループワーク：製品開発（2）
第07回　グループワーク：製品開発（3）
第08回　グループワーク：製品開発（4）
第09回　グループワーク：製品の拡張（1）
第10回　グループワーク：製品の拡張（2）
第11回　グループワーク：ビジネスシステム（1）
第12回　グループワーク：ビジネスシステム（2）
第13回　個人発表作成
第14回　個人発表（1）
第15回　個人発表（2）

第16回　グループワーク：製品競争のドメイン
第17回　グループワーク：製品の差別化（1）
第18回　グループワーク：製品の差別化（2）
第19回　グループワーク：製品の収益性（1）
第20回　グループワーク：製品の収益性（2）
第21回　グループワーク：製品の収益性（3）
第22回　グループ発表準備（1）
第23回　グループ発表準備（2）
第24回　グループ発表準備（3）
第25回　グループ発表（1）
第26回　グループ発表（2）
第27回　発表のフィードバック・内容修正
第28回　グループ発表２（1）
第29回　グループ発表２（1）
第30回　まとめ

※演習の進捗により、授業計画を変更する可能性がある。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-22

和田　剛明

◎商学

1.工業経営に関連する経営学の諸理論について、基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.工業経営に関連する経営学の諸理論を用いて、製造企業の活動を分析し、収益力を強化するための課題を発見することができる。　(A-3)

3.日常的に新聞や書籍で企業活動に関する情報を収集し、ゼミナールで得た知識をもとに分析し、学んだことの理解を深めることを心がけている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

森田　泰暢

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールは主に組織や集団および人間行動について研究を行います。
組織を対象とした研究の手法には様々なものがありますが、より対象に迫り、人間の行動を詳細に理解するという点から、フィールドリサーチを重視します。3年専門ゼミナールでは2年次に学んだインタビューと観察のスキルを基にして、企業等とも連携をしながら、企業組織に所属する方々へのインタビューや企業が提供するユーザーの観察調査等を行います。適宜定量的調査も含めて多面的な検討もまた行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

先行研究や文献調査などから課題に取り組む事前調査ができる(知識・理解)

プロジェクト調査における企業の持つ課題や状況について説明できる(技能)

企業が抱える課題から研究調査の方法や提案を教員とともに考えることができる(技能)

教員や連携先とともに調査結果等についてディスカッションを通じて改善し続けることができる(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各活動ごとにリフレクションを行いblogやレポートなどの形式で言語化を行う（60分）
次回のゼミに向けてテーマについてグループメンバーと議論を行うこと（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

60点以上を合格とします。評価は以下の基準で行います。
（1）ゼミへの取り組み状況（発言や課題への取り組み）：60%
（2）課題（適宜提示）：20%
（3）レポート（活動成果のまとめ）：20%

各回のリフレクション内容（書かれたblogやレポートなど）について教員から授業内でコメントをする形でフィードバックを行います。

【出席および欠席について】
出席は当然なので評価には加味しません。したがって、欠席は原則認めません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

教員が改めて指示をします。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業の性質上、欠席を認めません

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. オリエンテーション
2. 調査プロジェクトの説明
3. 調査プロジェクトの選択
4. 調査の事前準備1
5. 調査の事前準備2
6. 観察およびインタビュー調査1
7. 観察およびインタビュー調査2
8. 観察およびインタビュー調査3
9. 調査結果の整理1
10. 調査結果の整理2
11. 調査結果の分析1
12. 調査結果の分析2
13. 調査結果の分析3
14. 分析結果のまとめと中間発表1
15. 分析結果のまとめと中間発表2
16　分析結果を踏まえた改善1
17. 分析結果を踏まえた改善2
18. 分析結果を踏まえた改善3
19. 改善点を踏まえた発表1
20. 改善点を踏まえた発表2
21. 次の研究についてのイントロダクション
22. 個人研究のテーマ検討1
23. 個人研究のテーマ検討2
24. 個人研究のテーマ検討3
25. テーマの発表とディスカッション1
26. テーマの発表とディスカッション2
27. 個人研究の報告1
28. 個人研究の報告2
29. 個人研究の報告3
30.まとめ

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-23

森田　泰暢

◎商学

1.先行研究や文献調査などから課題に取り組む事前調査ができる　(A-2)

2.プロジェクト調査における企業の持つ課題や状況について説明できる　(B-1)

3.企業が抱える課題から研究調査の方法や提案を教員とともに考えることができる　(B-2)

4.教員や連携先とともに調査結果等についてディスカッションを通じて改善し続けることができる　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-24

水野　博志

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

２年ゼミでは、実践経営学を学んできた。３年ゼミでは、実践株式投資を学ぶ。実践株式投資では、株式投資のリスクを軽減し、続けていく方法を探求する。３年前期のゼミでは、矢口新氏の「生き残りのディーリング」をテキストとして、株式市場のメカニズムと激しい値動きのメカニズムを学ぶ。夏休みの課題としてこのテキストを最後まで読んでもらい、レポートしてもらう。
夏休み後の後期は水野博志の「リスクヘッジの方法」を解説し、株式投資のリスクの軽減の方法を学ぶ。その後、大体10月ごろより、仮想トレードを開始し、ゼミ生全員に毎週の仮想トレードの結果を報告してもらう。ゼミではゼミ生1人1人の結果を全員で検討する。単に結果だけでなく、レポートの書き方を洗練させる。春休み中も仮想トレードを続けてもらい、その結果を次年度の開始にまとめてもって来てもらう。この間毎日、日経平均ならびにニュースをフォローしてもらう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

短期の株価変動について説明できる。(知識・理解)

リスク低減の方法を実践できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

日経Webで、株式市場を中心にしたマーケットの動きを見ること。毎日、株価、外国為替、ニュースを検索するのに30分程度の時間が必要と思われる。日経Webにはマーケットの動きに対する解説が書かれているのでそれを読むこと。さらに高度な予習・復習としては、「エコノミスト」や「東洋経済」によって、日経Webの記事よりも長いトレンドで経済を見る目を養うこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

夏休みのレポートと毎週の仮想トレードの報告、ならびにゼミでの討論への参加度合いなどを評価する。おおよその目安として、研究報告の内容50%、討論に対する参加態度50%で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

矢口新著『生き残りのディーリング』パンローリング、2008、2800円、ISBN978-4-939103-2

◎－－－　参考書　－－－◎

稲盛和夫著『稲盛和夫のガキの自叙伝』日本経済新聞出版社、2004　ISBN 4-532-19249-8
稲盛和夫著『稲盛和夫の実学』日本経済新聞出版社2000　ISBN 978-4-532-19006-4
稲盛和夫著『生き方』サンマーク出版、2004　ISBN 4-7631-9543-3

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「経営財務論A,B」を履修すること。この授業を取ることによって実践経営財務、実践株式投資が身につく。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1回　ガイドライン
2～15回　テキストの輪読
16～17回　水野のリスク低減の方法の講義
18～30回　仮想トレードの報告会

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-24

水野　博志

◎商学

1.短期の株価変動について説明できる。　(A-1)

2.リスク低減の方法を実践できる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-26

藤野　真

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

◎ゼミの目的
　企業は人間が生存するために必要不可欠な存在です。換言すれば、私たちの生活は企業との関わりなしには成り立たないといえます。
　したがって、ゼミでは、経営学のさまざまな先行研究を基礎に、社会と企業の関係に留意しながら、企業（とくに現代企業）の基本的特質と現代的課題を解明することを目的とします。

◎ゼミの内容
　3年専門ゼミでは、グループに分かれ研究を行いたいと思います。3年ゼミではゲーム産業の研究を行います。
　ゼミでは研究課題の設定→研究報告→研究の修正・再検討→研究「再」報告とデミング・サイクル（PDCAサイクル）を回転させながら研究をより洗練させていきます。したがって、学生にはゼミだけでなく絶えず研究に向き合うことを求めたいと思います。
　3年専門ゼミでは、最終的に研究をディスカッション・ペーパーにまとめたいと思っています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。(知識・理解)

経営学の知識を用い企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。(知識・理解)

経営学の知識を用いて企業、産業、地域が発展する方向について説明できる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。(技能)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。(態度・志向性)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業計画を参照してください。進捗状況に合わせて事前（120分）・事後学習（120）の指示を行っています。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

◎評価法方法と評価割合
　提出レジュメ：20%、報告内容：40%、議論への参加：40%

◎評価基準
　問題意識があり、緻密に研究を積み重ねている報告レジュメ・報告内容を高く評価します。また、ゼミでの積極的な発言を高く評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

◎履修することを強く推奨する科目について
　「経営管理論」・「経営管理各論」を履修すること。

◎課外活動について
　学期中または休暇中にゼミ合宿や工場見学、合評会、懇親会を予定しています。

◎－－－　授業計画　－－－◎

　１.ガイダンス（ゼミとは何か？ゼミの進め方）
　２.研究課題の報告（aチーム）
　３.研究課題の報告（bチーム）
　４.研究課題の報告（cチーム）
◎事前・事後学習
　2、3、4回は研究課題の報告を予定している。各グループは研究課題報告フォーマットにしたがって報告内容を準備しておく。

　５.研究報告（aチーム）
　６.研究報告（bチーム）
　７.研究報告（cチーム）
◎事前・事後学習
　5、6、7回は各チームの研究報告を予定している。研究チームは研究内容を，その他のチームは報告内容に関する論文・新聞記事などを事前に予習しておく。

　８.研究「再」報告（1）（aチーム）
　９.研究「再」報告（1）（bチーム）
１０.研究「再」報告（1）（cチーム）
◎事前・事後学習
　8、9、10回は研究報告の議論を加味し研究をブラッシュ・アップさせる。その他のチームは報告内容に関する論文などを事前に予習しておく。

１１.研究「再」報告（2）（aチーム）
１２.研究「再」報告（2）（bチーム）
１３.研究「再」報告（2）（cチーム）
◎事前・事後学習
　11、12、13回は研究報告の議論を加味し研究をブラッシュ・アップさせる。その他のチームは報告内容に関する論文などを事前に予習しておく。

１４．補足報告（1）
１５．補足報告（2）
◎事前・事後学習　14、15回は研究「再」報告（2）の補足的な報告と報告の修正を予定しています。該当するグループは報告の研究の修正をする。その他のチームは報告内容に関する論文などを事前に予習しておく。

１６.研究「再」報告（3）（aチーム）
１７.研究「再」報告（3）（bチーム）
１８.研究「再」報告（3）（cチーム）
１９.研究「再」報告（4）（aチーム）
２０.研究「再」報告（4）（bチーム）
２１.研究「再」報告（4）（cチーム）
２２.研究「再」報告（5）（aチーム）
２３.研究「再」報告（5）（bチーム）
２４.研究「再」報告（5）（cチーム）
２５.研究「再」報告（6）（aチーム）
２６.研究「再」報告（6）（bチーム）
２７.研究「再」報告（6）（cチーム）
◎事前・事後学習
　16～27回は議論を加味し研究を加筆・修正する。その他のチームは報告内容に関する論文などを事前に予習しておく。

２８.研究最終報告（aチーム）
２９.研究最終報告（bチーム）
３０.研究最終報告（cチーム）
◎事前・事後学習
　28、29、30回は1年間の研究の最終報告をおこなう。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-26

藤野　真

◎商学

1.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-2)

2.経営学の知識を用い企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(A-3)

3.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が発展する方向について説明できる。　(A-4)

4.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。　(B-3)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(B-4)

6.社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

8.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-27

池田　健一

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　財務会計・国際会計および簿記に関する重要項目について、受講生の専門科目などの学習状況も考慮しながら、２年次に引き続き、テーマごとに基礎的な内容からやや難しい内容まで、ゼミ形式で学習を進めていきます。授業の中で示す課題に取り組んで提出することが必要な場合があります。詳細については別冊の「募集要項」を参照してください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。(知識・理解)

ゼミで学んだ会計学の専門知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。(技能)

グループで課題に取り組み、会計学の専門知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。(態度・志向性)

グループでプレゼンテーションをすることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　ゼミの時間中に示す課題に取り組み、提出が必要な場合は指定された期日までに提出すること（めやす15分）。なお、課題がない回もあります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　ゼミで調査した課題や他のゼミ生の報告などを通じて学習した内容の理解度やゼミおよび行事への積極的な参加、ゼミ運営への貢献度を評価基準とします。
　評価方法およびその配分割合は、報告の内容(2割)、ゼミおよびゼミ行事への参加状況、ゼミの時間内での発言内容、学習内容の理解度、ゼミ運営への貢献度などの平常点(7割)、課題など(1割)の評点を総合して成績を判定します。これらのうちゼミおよび行事への積極的な参加を特に重視して評価を行っていきます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

桜井久勝著『財務会計講義』中央経済社（第20版に改訂予定）
ISBN 978-4502227813

◎－－－　参考書　－－－◎

　必要に応じて、ゼミの時間中に示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　できれば前期と後期に、それぞれ１回程度、学習内容に関する報告をしてもらおうと考えております。

◎－－－　授業計画　－－－◎

　前期完結
　１．オリエンテーション
　２．グループワーク
　３．論点の学習①
　４．論点の学習②
　５．報告①
　６．論点の学習③
　７．論点の学習④
　８．報告②
　９．論点の学習⑤
１０．論点の学習⑥
１１．報告③
１２．論点の学習⑦
１３．論点の学習⑧
１４．報告④
１５．論点の学習⑨
１６．論点の学習⑩
１７．報告⑤
１８．論点の学習⑪
１９．論点の学習⑫
２０．報告⑥
２１．論点の学習⑬
２２．論点の学習⑭
２３．報告⑦
２４．練習問題①
２５．練習問題②
２６．練習問題③
２７．その他の論点
２８．その他の論点
２９．その他の論点
３０．まとめ

　なお、講義日程や諸事情により授業計画が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-27

池田　健一

◎商学

1.講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。　(A-1)

2.ゼミで学んだ会計学の専門知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。　(B-4)

3.グループで課題に取り組み、会計学の専門知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。　(C-2)

4.グループでプレゼンテーションをすることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-28

渡辺　剛

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールでは，2年次までに習得した企業会計の知識に基づいて，実際の企業の財務諸表を利用する方法を学びます。具体的には，企業が公表している有価証券報告書を用いて，企業の収益性，安全性などの比較を行います。
前半は，経営分析の様々な指標を学びます。後半は，個人およびグループにより、実際に有価証券報告書を用いて企業の分析を行います(2社比較)。

◎－－－　到達目標　－－－◎

(1)経営分析の基礎的な指標を説明することができる。(知識・理解)

(2)有価証券報告書を用いて企業の状況を分析することができる。(技能)

(3)他のゼミ生と協働してグループ報告をすることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回，次回の内容を予告しますので，それに応じて予習(60分)をしてゼミに参加して下さい。また、ゼミの内容は毎回復習(30分)して下さい。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

報告の内容(40%)，討論への参加度合(30%)およびレポートの内容(30%)を総合して，到達目標の達成度合により評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特定のテキストは使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミナールは，報告および討論を中心に進めていきますので，予習が不可欠です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回：経営分析の意義
第２回：収益性分析，安全性分析等の意義
第３回：収益性分析の指標(1)
第４回：収益性分析の指標(2)
第５回：収益性分析の指標(3)
第６回：収益性分析の指標(4)
第７回：収益性分析の指標(5)
第８回：収益性分析の指標(6)
第９回：安全性分析の指標(1)
第１０回：安全性分析の指標(2)
第１１回：安全性分析の指標(3)
第１２回：その他の経営分析の指標(1)
第１３回：その他の経営分析の指標(2)
第１４回：その他の経営分析の指標(3)
第１５回：その他の経営分析の指標(4)
第１６回から第３０回：有価証券報告書を用いた企業分析

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-28

渡辺　剛

◎商学

1.(1)経営分析の基礎的な指標を説明することができる。　(A-1)

2.(2)有価証券報告書を用いて企業の状況を分析することができる。　(B-1)

3.(3)他のゼミ生と協働してグループ報告をすることができる。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール（一歩踏み込んだ会計学を学ぶ！）

2019-4010000378-29

田坂　公

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

当ゼミでは，経営のための会計（＝管理会計）の立場から学びます。主として次の3点を学びます。
(1)会計の勉強をすると，「数字の使い方が上手になる」ことを学びます。
(2)会計の勉強をすると，「生きていくのに役立つ」ことを学びます。
(3)会計の勉強をすると，「人を幸せにする」ことができることを学びます。
2年次は，会計学（管理会計）の基礎を学習し，3年次以降は管理会計の本格的論点に取り組んでいく予定です。
なお，ゼミ同士の親睦を深めるイベントを積極的に行います。たとえば，他大学とのゼミ交流会の実施，ゼミ合宿等です。これらのイベントを「ゼミ行事」として捉えたうえで，ゼミ生全員で役割分担して協力することが大切となります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

企業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

報告者は，グループ同士で話し合い，テキストをまとめ，資料をワードやパワーポイントを使って報告してもらいます。また，割り当てられた部分だけをまとめるのではなく，自分でいろいろ調べながら報告を行うことが望ましいです。
そのため，原則として予習に1.5時間，復習に1.5時間の準備学習を想定しておいてください。ただし準備学習には個人差があるのが通常であるので，必要に応じて努力して補ってほしいと思います。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ゼミナール活動への積極的参加度20%，グループ報告の内容（会計学とりわけ管理会計の基礎となるフレームワークが理解できているか）40%，グループワークにおける協調性・積極性30%，課題レポート等（体裁の整ったレポートおよびレジュメを作成できているか）10%を総合して評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

武脇誠・森口毅彦・青木章通・平井裕之『管理会計』，新世社。ISBN 9784883841271

◎－－－　参考書　－－－◎

櫻井通晴『管理会計・第六版』同文舘出版　ISBN 9784495161460

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

(1)ゼミ活動には積極的に参加して下さい（特に，ゼミ活動を大学生活の中心に据えようと考えている学生の履修を希望する）。
(2)「簿記原理」，「会社簿記」，「会計学総論」および「原価計算論」の内容を事前に学習しておくことが必要である。また，「管理会計論」「意思決定会計論」「経営分析論」も並行して履修してほしい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
１　ガイダンス
２～１５　管理会計の最新のトピックに関する
　　調査・報告・討論
夏季勉強会
プレゼンテーションの基礎
後期
１６～２２　他大学との合同研究発表会
　　（管理会計によるプレゼン）の準備
２３～２８　他大学との合同研究発表会
　　（管理会計によるプレゼン）の発表練習
２９　他大学との合同研究発表会
　　（管理会計）のリハーサル
３０　他大学との合同研究発表会講評

３年専門ゼミナール（一歩踏み込んだ会計学を学ぶ！）

2019-4010000378-29

田坂　公

◎商学

1.経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-4)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-30

中村　信博

期別：通年　　単位数：4　　開講年次： 3　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　前期では、2年次に学んだ財務会計に関する理解をさらに深めるために、指定テキストを基本として、さらに『有価証券報告書』などの実際に企業が開示する会計情報も活用しながら、伝統的会計理論を学びます。
　後期では、主に4年次で行う本格的な卒業論文研究との連携を意識しながら、「会計ビッグバン」と総称される新会計基準を学んでいきます。このことを通じて、最終的には大企業が開示する財務諸表を読みこなす能力が身に付きます。
　テキストを丹念に読み進める事を基本としますが、発表に当たっては必要な資料を常に追加しながら準備された担当テーマのレジュメに基づいた研究発表を行い、引き続き、全員で必要な討論を行います。このような専門ゼミにおける研究発表・討論を通じて、上記の専門能力が身に付くだけでなく、同時に、社会が求めるジェネリックスキルも自然に高まります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

新会計基準の内容を説明できる。(知識・理解)

会計情報の分析方法を情報有用性の変遷過程と関連させて説明できる。(知識・理解)

わが国の会計制度の問題点をIFRS（国際会計基準）の動向とのかかわりの中で考察できる。(技能)

社会における会計学に関する諸問題について関心を持つことができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　当然のことですが、発表担当の有無にかかわらず、内容豊かな質疑応答が展開されるために必要となる周到な準備が毎回求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　研究報告の内容40%、討論に対する参加態度40%、ゼミナール大会（討論会）や「卒業論文研究発表会」等のゼミナール行事に対する貢献度20%を目安として総合的に成績を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

伊藤邦雄著『新・現代会計入門 第3版』日本経済新聞出版社、2018、￥3,500、ISBN978-4-532-13480-8

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　演習科目ですから当然のことですが、無断欠席は厳禁です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
　１.はじめに、ゼミガイダンス
　２.企業会計の本質とフレームワーク(1)
　３.企業会計の本質とフレームワーク(2)
　４.会計制度の論理と体系(1)
　５.会計制度の論理と体系(2)
　６.企業会計基準
　７.会社法に基づく開示
　８.金融商品取引法に基づく開示
　９.資産概念の変遷
１０.資産評価基準
１１.流動資産と固定資産
１２.繰延資産
１３.負債会計
１４.資本（純資産）会計
１５.損益会計

後期
　１.後期ガイダンス
　２.国際会計
　３.金融商品会計
　４.棚卸資産会計
　５.減損会計
　６.無形資産会計
　７.退職給付会計
　８.税効果会計
　９.企業結合会計
１０.キャッシュ・フロー計算書
１１.リース会計
１２.連結会計
１３.外貨換算会計
１４.財務諸表分析(1)
１５.財務諸表分析(2)、まとめ

　なお、1月下旬に開催される「卒論研究発表会」に出席が求められます（3年生は必ず４年生による研究発表の司会を担当します）。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-30

中村　信博

◎商学

1.新会計基準の内容を説明できる。　(A-1)

2.会計情報の分析方法を情報有用性の変遷過程と関連させて説明できる。(A-2)

3.わが国の会計制度の問題点をIFRS（国際会計基準）の動向とのかかわりの中で考察できる。　(B-1)

4.社会における会計学に関する諸問題について関心を持つことができる。(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

2019-4010000378-31

長束　航

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

企業会計に関する調査・報告・討論を行うというプロセスを通じて、ただ単に会計学の知識を学ぶだけではなく、アカウンティング・マインド（会計的思考）を身に付けることを目標とする。主として財務会計論および監査論の分野の研究を行う予定である。
2年次は単独でゼミを行うが、3年次および4年次は合同で行う。また、ゼミ生同士の親睦を深める行事を積極的に行っているが、企画から運営までゼミ生全員（全学年合同）で協力して行うので、これらの行事については原則として全員参加が前提となる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。(知識・理解)

ゼミ生同士による討論や親睦を深める行事等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。(技能)

企業活動を会計的に把握・考察した結果を多くの聴衆の前でわかりやすくプレゼンテーションする能力を身につける。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

グループ単位で調査・報告を行ってもらうので、そのための準備を授業前に行う必要がある（調査・報告担当回に5時間程度）。担当回以外においても討論の準備のための予習が必要となる（1時間程度）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

研究報告の内容、討論に対する参加態度、ゼミ合宿等のゼミナール行事に対する参加態度、レポート等の評価項目における評点を総合して成績を判定する。概ね研究報告の内容40%、討論に対する参加態度30%、ゼミナール行事に対する参加態度20%、レポート10%の割合で評点を算出する。これらの評価項目については、企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになっているかどうか、およびそれを適切に他者に伝達するためのプレゼンテーション能力を身につけているかどうかを単位認定の判断基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

広瀬義州『財務会計』第13版　中央経済社／ISBN978-4502163418
桜井久勝『財務諸表分析』第7版　中央経済社／ISBN978-4502223518
その他必要と思われるテキストは適宜指定する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①ゼミ活動には積極的に参加すること（特に、ゼミ活動を大学生活の中心に据えようと考えている学生の履修を希望する）。
②「簿記原理」および「会社簿記」の内容を事前に学習しておくことが必要である。また、「会計学総論」および「監査論」も並行して履修すること。
③正当な理由なく欠席しないこと（正当な理由がある場合には事前に連絡・相談すること）。なお、無断欠席は、「討論に対する参加態度」および「ゼミナール行事に対する参加態度」の減点対象となる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
１　ガイダンス
２～１５　会計学の最新のトピックに関する調査・報告・討論

夏季勉強会
財務諸表分析の基礎

後期
１６～２２　他大学との合同研究発表会（財務諸表分析）の準備
２３～２８　他大学との合同研究発表会（財務諸表分析）のプレゼン練習
２９　他大学との合同研究発表会（財務諸表分析）のリハーサル
３０　他大学との合同研究発表会講評

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-31

長束　航

◎商学

1.会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。　(A-1)

2.ゼミ生同士による討論や親睦を深める行事等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。　(B-3)

3.企業活動を会計的に把握・考察した結果を多くの聴衆の前でわかりやすくプレゼンテーションする能力を身につける。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-32

山内　進

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

税法に関する論文を作成するための能力(研究目的、研究方法、論文の書き方)及びプレゼンテーション能力を身につけます。授業の進め方は、まず税法に関する専門的テーマを決め、各自に発表してもらいます。
また税務検定試験の１級合格を目指して、学習します。就職試験対策も実施しています。ゼミの先輩等にも参加してもらい自己分析、進路の決定、履歴書の書き方、面接指導も実施します。ゼミの発表にあたっては事前にプレゼンテーションの準備が必要となります。指摘された点を参考に、次回の発表に励んで下さい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

税務は、経営、会計の知識が基本となっている。税務を知ることにより、同時に経営会計の知識を身に着けることができる。

政策手段としても利用され、企業、産業の発展を促す税制についての知識が理解できるようになる。

税務は、実学であり、企業戦略と密着した経営管理上、重要な知識が理解できるようになる。

ゼミナールではアクティブラーニングを取り入れているので、リーダーシップ能力を高めることができる。

ゼミ活動を通じて、地域や社会の発展に貢献できる人材となることができる。

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業前に発表者は、プレゼンテーションの準備が、それ以外の学生は、課題に合わせた予習が望まれます。授業後は、発表者はプレゼンテーションの反省、それ以外の学生はゼミで得た知識を自分なりにまとめあげる必要があります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ゼミ授業への貢献度(プレゼンテーションの技術と内容・ディベート能力・コミュニケーション能力・独創性等)(40%)、レポートの提出(20%)、検定試験の結果等(40%)を加味して総合的に判断します。
税法全体に対する理解及び分析、発表する能力を評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山内ススム『所得税法要説』税務経理協会、6,200円、ISBN978-4-419-06357-3
山内ススム『法人税法要説』税務経理協会、改訂版作成中
山内ススム『相続税法要説』税務経理協会、4,400円、ISBN978-4-419-06454-9
山内ススム『消費税法要説』税務経理協会、5,200円、ISBN978-4-419-06489-1

◎－－－　授業計画　－－－◎

前　期
１　活動スケジュール発表
２　自己分析、グループ討議〔他人の分析〕
３　進路指導
４　研究テーマの決定
５　簿記大会出場準備１
６　簿記大会出場準備２
７　簿記大会出場準備３
８　発表の仕方、パワーポイントの使い方等
９　発表１
１０　発表２
１１　発表３
１２　発表４
１３　発表５
１４　発表６
１５　総括

後　期
１　活動スケジュール発表
２　税務検定試験対策１
３　税務検定試験対策２
４　税務検定試験対策３
５　後期発表のテーマ決定
６　発表１
７　発表２
８　発表３
９　発表４
１０　発表５
１１　発表６
１２　発表７
１３　発表８
１４　発表９
１５　総括

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-32

山内　進

◎商学

1.税務は、経営、会計の知識が基本となっている。税務を知ることにより、同時に経営会計の知識を身に着けることができる。

2.政策手段としても利用され、企業、産業の発展を促す税制についての知識が理解できるようになる。

3.税務は、実学であり、企業戦略と密着した経営管理上、重要な知識が理解できるようになる。

4.ゼミナールではアクティブラーニングを取り入れているので、リーダーシップ能力を高めることができる。

5.　ゼミ活動を通じて、地域や社会の発展に貢献できる人材となることができる。

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-33

飛田　努

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

「3年専門ゼミナール」では大きく分けて2つの取組みを行います。
1つは，テキストの輪読を通じた「確かな洞察力の養成」です。2冊のテキストをもとに，テキストの熟読，レジュメの作成，報告，相互理解という一連のプロセスを通じて，ゼミナール本来の目的である「ともに教え，ともに学ぶ」関係を構築していきます。「2年専門ゼミナール」で得た実践的な学びを理論的に理解することが求められます。続いて，「フィールドワーク」と呼ばれる質的調査を行う研究手法を学習することによって，現実の問題に対してどのようにアプローチし，問題を掘り出していくのかについて学習します。ここでの学習はゼミが立ち上げたプロジェクト，または企業と連携して行うプロジェクトから得られる学習をより深堀りするための理論的なフレームワークを得ることになります。
もう1つは，創業体験プログラムを通じた「実践的な学び」です。2年次で経験したことを活かすとともに，3年次前期で学習した優れた企業のあり方を，七隈祭における模擬店出店で実践することが目的です。あるいは，地元企業との連携を図りながら，当該企業の新事業計画の策定を行うことを通じて，企業経営を行うにあたって求められるであろうさまざまな知識を学んでいきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

創業体験プログラムを通じて，企業経営に必要な基本的な知識を身につける。(知識・理解)

社会課題を解決するプロジェクトを通じて，企業や産業，地域が置かれている社会経済状況を説明することができるようになる。(知識・理解)

社会課題を解決するプロジェクトを通じて，企業や産業，地域の抱える課題を抽出し，検討することができるようになる。(知識・理解)

社会課題を解決するプロジェクトを通じて，課題を「ジブンゴト」として捉えて解決に当たろうとするとともに，その解決によってどのような発展が望めるかについて説明することができる。(知識・理解)

創業体験プログラムあるいは社会課題を解決するプロジェクトを通じて，形式的な知識のみならず，実践的な知識を組み合わせて課題解決にあたることができるようになる。(知識・理解)

社会課題を解決するプロジェクトを通じて，対象となる課題を抱えている企業，地域で調査を実施し，それに基づいて課題を明らかにする。(技能)

創業体験プログラムによる模擬店出店，社会課題を解決するプロジェクトの実施を通じて企画立案ができるようになる。(技能)

創業体験プログラムによる模擬店出店，社会課題を解決するプロジェクトの実施を通じて，組織内の他者のみならず，組織外部にいる協力者と連携して目標達成のためのリーダーシップを発揮することができるようになる。(技能)

プロジェクトの実施にあたり，必要な情報を収集し，社会課題と照らし合わせて適宜応用して活用できるようになる。(技能)

創業体験プログラムや社会課題を解決するプロジェクトを通じて，企業活動や事業活動が社会をより良い方向に導くために行われるものだと理解できるようになる。(態度・志向性)

模擬店の出店や社会課題の解決を通じて，課題の概念化，構造化，言語化をできるようになるとともに，必要な知識や情報を自らの意志で獲得できるようになる。(態度・志向性)

創業体験プログラムや社会課題の解決を図るプロジェクトの実施を通じて，他者と協力しながら課題を明らかにし，目標達成のために適切な手段・方法を選択できるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

グループによるプレゼンテーションをもとにディスカッションを行う。報告当番でない学生もテキストを予習しておくこと。また，プロジェクト報告等で毎週2-3時間ほどのミーティングが必要になる場合がある。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

グループ報告（30%），プロジェクトに関するレポート（30%），ディスカッション（20%），ディスカッション・プロジェクトへの貢献度（20%）をもとに総合的に評価します。
グループ報告は報告内容，理解を深めるための工夫，ゼミ生の理解度を基準に，プロジェクトに関するレポートは自ら何を学んだのかを表現できているか否かを，ディスカッションでは一方的に意見を述べること無く，議論を建設的に行い，相互理解を図ることができたかどうか，ゼミへの貢献度ではゼミでの学び，プロジェクトを進めていくために行った貢献度合いを測定し，評価を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

1.エイミー・ウイルキンソン（2016）『クリエイターズ・コード 並外れた起業家たちに共通する6つのエッセンシャル・スキル』日本実業出版社
（ISBN 978-4534054258）
2.岩嵜博論（2016）『機会発見　生活者起点で市場を作る』英治出版（ISBN 978-4862762290）

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「経営分析論」「意思決定会計論」の履修を強く推奨します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス
第2回　テキスト1　はじめに コードを解読する / 第1章 ギャップを見つける
第3回　テキスト1　第2章 光に向かって進む / 第3章 OODAループを飛行する
第4回　プロジェクト報告（1）
第5回　プロジェクト報告（2）
第6回　テキスト1　第4章 賢く失敗する / 第5章 知恵のネットワークを築く
第7回　テキスト1　第6章 小さなギフトを贈る / おわりに　６つのパワー
第8回　プロジェクト報告（3）
第9回　プロジェクト報告（4）
第10回　テキスト2　1. 機会発見とは何か？ / 2. 機会発見のプロセス
第11回　テキスト2　3. 課題リフレーミング / 4. 日記調査とデプスインタビュー
第12回　テキスト2　5. エスノグラフィ調査 / 6. 情報の共有と整理
第13回　テキスト2　7. 機会フレーミング / 8. 機会コミュニケーション
第14回　プロジェクト報告（5）
第15回　プロジェクト報告（6）
第16回 創業体験プログラム準備（事業計画の策定）
第17回 創業体験プログラム準備（事業計画の策定）
第18回 創業体験プログラム準備（事業計画の策定）
第19回 創業体験プログラム事業計画発表会
第20回 創業体験プログラム出店準備
第21回 創業体験プログラムまとめに向けた準備
第22回 創業体験プログラム（決算・監査）
第23回 創業体験プログラム（株主総会）
第24回 企業との連携プロジェクト（1）
第25回 企業との連携プロジェクト（2）
第26回 企業との連携プロジェクト（3）
第27回 企業との連携プロジェクト（4）
第28回 企業との連携プロジェクト（5）
第29回 企業との連携プロジェクト（6）
第30回 講義のまとめ

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-33

飛田　努

◎商学

1.創業体験プログラムを通じて，企業経営に必要な基本的な知識を身につける。　(A-1)

2.社会課題を解決するプロジェクトを通じて，企業や産業，地域が置かれている社会経済状況を説明することができるようになる。　(A-2)

3.社会課題を解決するプロジェクトを通じて，企業や産業，地域の抱える課題を抽出し，検討することができるようになる。　(A-3)

4.社会課題を解決するプロジェクトを通じて，課題を「ジブンゴト」として捉えて解決に当たろうとするとともに，その解決によってどのような発展が望めるかについて説明することができる。　(A-4)

5.創業体験プログラムあるいは社会課題を解決するプロジェクトを通じて，形式的な知識のみならず，実践的な知識を組み合わせて課題解決にあたることができるようになる。　(A-5)

6.社会課題を解決するプロジェクトを通じて，対象となる課題を抱えている企業，地域で調査を実施し，それに基づいて課題を明らかにする。　(B-1)

7.創業体験プログラムによる模擬店出店，社会課題を解決するプロジェクトの実施を通じて企画立案ができるようになる。　(B-2)

8.創業体験プログラムによる模擬店出店，社会課題を解決するプロジェクトの実施を通じて，組織内の他者のみならず，組織外部にいる協力者と連携して目標達成のためのリーダーシップを発揮することができるようになる。　(B-3)

9.プロジェクトの実施にあたり，必要な情報を収集し，社会課題と照らし合わせて適宜応用して活用できるようになる。　(B-4)

10.創業体験プログラムや社会課題を解決するプロジェクトを通じて，企業活動や事業活動が社会をより良い方向に導くために行われるものだと理解できるようになる。　(C-1)

11.模擬店の出店や社会課題の解決を通じて，課題の概念化，構造化，言語化をできるようになるとともに，必要な知識や情報を自らの意志で獲得できるようになる。　(C-2)

12.創業体験プログラムや社会課題の解決を図るプロジェクトの実施を通じて，他者と協力しながら課題を明らかにし，目標達成のために適切な手段・方法を選択できるようになる。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-34

飯塚　雄基

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールでは，プレゼンテーションとディスカッションの経験を積み，論文作成に必要な知識や能力を養うことを目的としています。
具体的には，自らの関心のある問題について，それを解決するために何が提案できるのかを考え，プレゼンテーションとディスカッションを行います。とくに問題意識をしっかりと持つことができているか，プレゼンテーションやディスカッションを通じてお互いに確かめ合いながらじっくりと進めていくことに重きを置いています。問題意識を持つといっても，それほど容易なことではなく，また，一人で能力を養うことは困難です。お互いに切磋琢磨し，ときに支え合いながらしっかりと能力を養っていきましょう。
取り扱う問題は，教員の専門である会計に限定することなく，商学の幅広い分野にわたります。それぞれが本当に考察したいと考えるテーマおよび論点を見つけ，主体的に考察していきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

プレゼンテーションとディスカッションの基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

問題意識を明らかにし，解決すべき課題を自ら見つけ出すことができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

次回発表の準備（予習）として，自分の問題意識に関連する資料を収集するとともに，レジュメの内容を十分に吟味し，プレゼンテーションの練習を行うこと（60分）。
ディスカッションで問題になったテーマや論点があった場合，関連する資料を読んで知識を補充するとともに，自らの考えをもう一度見直すこと（30分）。
その他，ゼミの時間に限らず日ごろから問題意識を持ち，必要な知識やデータを収集し，自らの見解を追い求める姿勢をもって，継続的に学習していきましょう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ゼミへの出席態度をもって評価します。具体的には，発表の内容（60%），ディスカッションの態度（20%），学習への意欲（20%）などを総合的に勘案して評価します。なお，ディスカッションの対象になった論点について全体の意見や考えがまとまらなかった場合には，その論点について教員がフィードバックを行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房，2008年　ISBN 4894763680
宇佐美寛編『作文の論理［わかる文章］の仕組み』東信堂，1998年　ISBN 4887133081

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

遅刻や欠席はゼミのプレゼンテーションやディスカッションに支障をきたすのでやめましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス
第2回　資料やデータの収集方法（復習）
第3回　論文とレポートの作成方法（復習）
第4回　問題意識の持ち方（復習）
第5回　グループ発表（1）
第6回　グループ発表（2）
第7回　グループ発表（3）
第8回　グループ発表（4）
第9回　グループ発表（5）
第10回　教員によるフィードバック
第11回　個人発表（1）
第12回　個人発表（2）
第13回　個人発表（3）
第14回　個人発表（4）
第15回　個人発表（5）
第16回　教員によるフィードバック
第17回　個人発表（6）
第18回　個人発表（7）
第19回　個人発表（8）
第20回　個人発表（9）
第21回　個人発表（10）
第22回　教員によるフィードバック
第23回　個人発表（11）
第24回　個人発表（12）
第25回　個人発表（13）
第26回　個人発表（14）
第27回　個人発表（15）
第28回　教員によるフィードバック
第29回　卒業論文の章立て（1）
第30回　卒業論文の章立て（2）

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-34

飯塚　雄基

◎商学

1.プレゼンテーションとディスカッションの基本的な知識を身につけている。(A-1)

2.問題意識を明らかにし，解決すべき課題を自ら見つけ出すことができる。(B-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-35

篠原　巨司馬

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

グループに分かれて，研究プロジェクトに取り組みます。
研究を進めるために，経営理論や管理会計の知識を身につけていきます。そのために教科書などを用いてグループワークをしていきます。
最終的にはプロジェクトのプレゼンテーションおよびレポートを課します。
PC必須です。持参してください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

プロジェクトの企画・実行ができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

参加者は議論するために資料を読み込みコメントができるように準備してきてください。研究プロジェクト次第ですが、最低でも毎週２，３時間は課外学習、作業の時間が必要です。目安として毎週３時間程度はプロジェクトに関する課題や思考に励むことを推奨する。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

議論での発言，報告の質，グループ研究での貢献度を参考にし，総合的に評価します。到達目標の到達度合を評価基準とします(50%)。
最終レポート　研究テーマに関して十分に調査ができたかを評価します(50%)。

◎－－－　テキスト　－－－◎

研究テーマによって適宜指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「管理会計論」，「意思決定会計論」，「原価計算論」，「経営分析論」も履修することを推奨します。
また4年ゼミと合同で行うので前後の時間をできるだけ空けるようにしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス
２　テキスト輪読（１）
３　テキスト輪読（２）
４　テキスト輪読（３）
５　研究報告
６　テキスト輪読（４）
７　テキスト輪読（５）
８　テキスト輪読（６）
９　研究報告
１０　テキスト輪読（７）
１１　テキスト輪読（８）
１２　テキスト輪読（９）
１３　研究報告
１４　テキスト輪読（１０）
１５　研究報告
１６　グループ報告１班
１７　グループ報告２班
１８　グループ報告１班
１９　グループ報告２班
２０　グループ報告１班
２１　グループ報告２班
２２　グループ報告１班
２３　グループ報告２班
２４　グループ報告１班
２５　グループ報告２班
２６　グループ報告１班
２７　グループ報告２班
２８　グループ報告１班
２９　グループ報告２班
３０　総括

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-35

篠原　巨司馬

◎商学

1.プロジェクトの企画・実行ができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-36

石上　悦朗

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　アジア経済、アフリカの開発および開発経済論に関する基本的な考え方・理論や対象となる地域・諸国が抱える諸問題を勉強します。その際、国際的な制度、日本とのかかわり、企業および市民から見た視点などを重視します。
　文献・資料を輪読するほか、特定のテーマについてグループに分かれレポートを作成し、ゼミ内で発表します。さらに、学外の発表・討論の機会にも積極的に参加します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

　発展途上国の経済開発の現状と課題、問題などの基本的事項を理解することができる。(知識・理解)

　発展途上国が直面する課題および問題について、必要な政策枠組みや日本との関わりのあり方について主体的に考えることができる。(技能)

自ら関心のあるテーマと取り組み、レポートにまとめかつ発表することができる。
　発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。
　ゼミで取り上げたテーマを学習し討論することにより社会人としての基礎を作る。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・文献・資料輪読のために事前の講読と問題個所の洗い出し、発表の準備、さらには特定の課題についての資料の作成など事前の学習は必須である（90分）。
・講義時に課された課題への取り組みおよび参考文献との突合せなど事後の学習（復習）も求められる（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・毎回のゼミにおける課題への取り組み、各課題における基本的な知識の習得、事前・事後学習としてのレポートの提出などを到達目標で求めた水準に達しているかを評価の基準とする。
・具体的には、毎回の発表・討論（60%）、折々のレポート・課題（30%）およびゼミ行事への参加とリーダーシップ（10%）などを目安として評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

基本的な文献を取り上げます。春休み・開講前のミーティングでゼミ生と相談して決めます。また、必要な資料をテキストに代わるものとして適宜配布します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.ゼミナールの進め方、今年度と来年度も展望して説明する。
2～30.　文献・資料の輪読。
　ゼミ生による発表、討論、司会などを通じて、文章の理解力、発表力・プレゼン能力、議論の作法とその能力の向上、司会進行の役割とその実践などについて訓練する。
　この間、講義とは別に学内外のゼミとの討論会を企画し、これに参加する。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-36

石上　悦朗

◎商学

1.　発展途上国の経済開発の現状と課題、問題などの基本的事項を理解することができる。　(A-1)

2.　発展途上国が直面する課題および問題について、必要な政策枠組みや日本との関わりのあり方について主体的に考えることができる。　(B-4)

3.自ら関心のあるテーマと取り組み、レポートにまとめかつ発表することができる。
　発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。
　ゼミで取り上げたテーマを学習し討論することにより社会人としての基礎を作る。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

2019-4010000378-39

木幡　伸二

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

１．グループでの共同論文の作成
　問題関心の近い学生の間で共同研究グループを組織して共同論文を作成し、１２月に行われるインターゼミ大会に参加します。
　まず、グループでの共同論文作成について確認します。そのうえで、論文のテーマや章別構成を決定し、参考文献を収集します。次に、参考文献の中で、最も興味のある文献について、ノートを作成し、内容や構成を細かく検討します。こうした検討をもとに、共同論文の章や節別の構成を決定し、グループ内での分担を明確にして構成レジュメを作成します。このレジュメをもとに、論文を作ります。その次に、ゼミ大会での対戦相手に論文を送り、互いに質問書や回答書の交換を行います。そして、これらも踏まえた論文の最終版を作成します。大会直前に論点書を検討して、当日の討論に備え大会に参加します。大会終了後には、参加報告書を作成します。
　なお、必要に応じて、夏期休暇中にグループ論文の中間報告のための合宿を行うこともあります。
２．卒業論文のテーマ（仮）決定
　ゼミ大会での研究も踏まえて、３年次終了までに卒業論文のテーマ（仮）を決定し、4年次の論文ゼミナールに備えます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

開発経済学や中国経済に関する基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

開発経済学や中国経済に関する基本的な知識を用いて、中国を含む開発途上国の課題を自ら発見することができる。(技能)

中国を含む開発途上国の課題解決のため、組織・グループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。(技能)

中国を含む開発途上国の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　共同論文作成過程では、授業時間外において、グループ毎に、執筆の各段階での報告に必要な資料の収集、報告分担、執筆分担などを行い、論文完成にむけて準備します（６０分）。また、指定された期日までに論文や各種書式の提出を行う必要があります。
　卒業論文のテーマ（仮）決定に当たっては、研究したいテーマに関する文献を収集してそれらの概要を把握し、報告用の書式に記入して報告します。（６０分）
　報告後は、論文ゼミナールの開始までにテーマ（仮）の再検討を行うと同時に、参考文献の収集と整理に努めます。（６０分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　成績評価の要素は、（１）授業への参加態度30%、（２）提出された課題の評価40%、（３）グループ論文の分担部分の評価30%です。
　（１）授業への参加態度では、グループなどでの討論で積極的に発言したり、相手の意見を真剣に聞いたりする姿勢がみられるか、グループワークでは研究のとりまとめに向けて積極性と協調性に基づいた貢献が認められるか、を基準に評価します。（２）提出された課題の評価には、その都度出される課題の評価および発表で分担した部分のレジュメの評価が含まれます。（３）グループ論文の分担部分の評価では、グループ研究を通して得られた中国やアジアの国々の経済発展の現状や課題に関する分析が十分に行われているかどうか、また、参考文献の明示や適切な注記といったレポートとしての形式上の要件を満たしているか、が含まれます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　ゼミナールは、一般の多人数による講義とことなり、個人やグループで学生自身が主体となって活動することによって進められます。
　従って、欠席や遅刻については厳正に対処します。特に、グループ研究では、グループの他のメンバーの努力を無駄にすることになり、重大な影響があります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　　前期の授業計画
２　　論文の書き方
３　　中国経済に関する文献の輪読（１）
４　　中国経済に関する文献の輪読（２）
５　　中国経済に関する文献の輪読（３）
６　　中国経済に関する文献の輪読（４）
７　　中国経済に関する文献の輪読（５）
８　　中国経済に関する文献の輪読（６）
９　　グループ研究のテーマ決定
１０　関連文献の報告（１）
１１　関連文献の報告（２）
１２　関連文献の報告（３）
１３　章別節別構成の報告
１４　構成レジュメの報告
１５　前期のまとめ
１６　後期の授業計画
１７　第１論文報告（１）
１８　第１論文報告（２）
１９　第１論文報告（３）
２０　第１論文報告（４）
２１　質問書・回答書の検討
２２　完成論文報告（１）
２３　完成論文報告（２）
２４　完成論文報告（３）
２５　卒論テーマ決定について
２６　論点書の検討
２７　ゼミ大会参加報告
２８　卒論テーマ（仮）報告（１）
２９　卒論テーマ（仮）報告（２）
３０　後期のまとめ

３年専門ゼミナール

木幡　伸二

◎商学

1.開発経済学や中国経済に関する基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.開発経済学や中国経済に関する基本的な知識を用いて、中国を含む開発途上国の課題を自ら発見することができる。　(B-1)

3.中国を含む開発途上国の課題解決のため、組織・グループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。　(B-3)

4.中国を含む開発途上国の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-40

林　裕

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

日本を取り巻く国際環境は急激な変化の中にある。世界の過去と今の理解は、政治のみならず経済活動や私たちの日常に大きな影響を与える諸要因への視座を与えてくれる。
本ゼミナールでは、２年半の活動のうち、３年次の専門ゼミナールで国際開発の視座を利用して、現代世界の現状および課題について考える力を涵養します。

各自で教材として使用する資料を読破し、それぞれの疑問や考えをまとめます。その後、ゼミナールで議論を行います。こうした活動によって、文献の読み方や発表方法をはじめ、卒業論文に向けたゼミナールの運営方法などに習熟することができるでしょう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

開発研究の基礎的な概念や国際問題に関する基礎知識について説明することができる。(知識・理解)

グループ活動を通じて目標達成に必要な役割を果たすことができる。(技能)

異なる社会背景や異なる意見をもつ人々との議論を通じて、相互理解を深めようとする姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習において、課題文献の当該部分を読み、その概要、論理構成、疑問点や論点について予めチェックしておいてください。
復習では、ゼミナールで議論された論点について、関連文献を読んで理解を深めてください。
なお、卒業論文作成に向けた準備として、原稿を書き始めることを期待します。
（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価の要素は、以下のとおりです。
（１）授業への参加態度30%、（２）提出された課題の評価70%

（１）授業への参加態度では、ゼミナールでの討論での積極的な発言、相手の意見に対する質問、積極性と協調性に基づいた貢献が認められるか、を基準に評価します。（２）提出された課題の評価には、その都度出される課題の評価および発表等で分担した部分のレジュメの評価が含まれます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミナールは、個人やグループで学生自身が主体となって活動することによって進められます。
従って、欠席や遅刻については厳正に対処します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　授業概要
２　国際開発の現状（１）
３　国際開発の現状（２）
４　国際開発の現状（３）
５　国際開発の現状（４）
６　国際開発の現状（５）
７　国際開発の現状（６）
８　国際開発の現状（７）
９　国際開発の現状（８）
１０　国際開発の現状（９）
１１　国際開発の現状（１０）
１２　国際開発の現状（１１）
１３　国際開発の現状（１２）
１４　国際開発の現状（１３）
１５　国際開発の現状（１４）
１６　国際開発の課題（１）
１７　国際開発の課題（２）
１８　国際開発の課題（３）
１９　国際開発の課題（４）
２０　国際開発の課題（５）
２１　国際開発の課題（６）
２２　国際開発の課題（７）
２３　国際開発の課題（８）
２４　国際開発の課題（９）
２５　国際開発の課題（１０）
２６　国際開発の課題（１１）
２７　国際開発の課題（１２）
２８　国際開発の課題（１３）
２９　国際開発の課題（１４）
３０　まとめ

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-40

林　裕

◎商学

1.開発研究の基礎的な概念や国際問題に関する基礎知識について説明することができる。　(A-1)

2.グループ活動を通じて目標達成に必要な役割を果たすことができる。　(B-3)

3.異なる社会背景や異なる意見をもつ人々との議論を通じて、相互理解を深めようとする姿勢をもっている。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

2019-4010000378-42

山本　和人

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

２年次から継続して右記のテキストを使用し、世界経済の歩みと現時点で世界経済が抱える問題点さらに世界経済のゆくえについて学習することで、現代世界に生じている様々な経済現象について歴史的な視点から様々な問題を読み解き、今後の世界経済に何が必要なのか学びます。
7月以降は、全国商経ゼミナール大会に向けて、夏のゼミ合宿などを行い、テーマの設定やそれに沿った論文の作成そして発表の準備を行います。12月には、他の大学との討論会に臨みます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本経済の視点から世界経済の歴史的展開を学ぶことで、現代世界経済の中における日本経済の状況を相対化できるようになる。(知識・理解)

現代の日本が対外経済関係で取り組むべき課題について発言できるようになる。(知識・理解)

全国の他の大学との交流や討論を通じて、多様な知識や見解を学び取ることができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定したテキストの各章について、発表者はレジュメを作成し、その他のゼミ生は、事前にその章を読み、質問書を用意します。
授業中、解決できなかった質問や専門用語について、各自、図書館やネットを利用し、次の授業までに説明できるようにしておきましょう。全国商経ゼミナール向けの論文作成においては、授業時間以外でも、ゼミ生同士が、常に連絡を取りあい、共同して論文を完成させる必要があります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価の方法とそれらの配分割合は次の通りです。
第1に、発表内容および質問や討論への参加態度とその中身によって評価します（50%）。第2に、全国商経ゼミナールに向けての論文作成や質問状の作成、発表当日の討論への参加度合によって評価します（50%）。具体的には、レジュメや論文が論理的にかつ多くの資料・文献に基づいて作成されているか、新聞、文献、ウェブを利用するなど情報収集能力をどの程度もっているのか、幅広い知識をもとに質問を行っているか、が評価の基準となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

西川潤『2030年未来への選択』日経プレミアムシリーズ、2018年　ISBN978-4-532-26364-5

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

新聞、経済誌、テレビの経済・政治特集などを毎日欠かさず読みまたは見る習慣をつけましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期：
１～８．上記のテキスト『2030年未来への選択』日経プレミアムシリーズの第4章「近代世界システムの変容」、第5章「世界ガバナンスはどう転換するか」、第6章「グローバリゼーションの終焉か、国家の再君臨か」を中心に発表と質疑応答を行う。
９～１５．全国ゼミナール大会のテーマに沿った文献の収集と講読そしてディスカッションを行う。

後期：
１～５．夏休みのゼミ合宿を含めて、全国ゼミナール大会のテーマに沿った文献を整理し、テーマ論文の作成に着手する。
６～１４．全国ゼミナール大会のテーマ論文作成と他大学の論文に対する論評と質問状の作成を行う。
１５．まとめと4年ゼミに向けて

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-42

山本　和人

◎商学

1.日本経済の視点から世界経済の歴史的展開を学ぶことで、現代世界経済の中における日本経済の状況を相対化できるようになる。　(A-1)

2.現代の日本が対外経済関係で取り組むべき課題について発言できるようになる。　(A-4)

3.全国の他の大学との交流や討論を通じて、多様な知識や見解を学び取ることができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

2019-4010000378-44

松永　達

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：３　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　ほとんどの途上国は、植民地を脱して独立してから半世紀以上経っている。しかし、依然として、独立前と変わらず貧しい国が多いのはなぜだろうか。途上国の人々の努力不足だろうか。それとも、途上国の人々の努力を超えたところで、途上国に不利に働いているメカニズムが潜んでいるのだろうか。そして、それに国際貿易はどのように関わっているのだろうか。
　こうした疑問点を、文献を読んだり調べたりしながらみんなで考えていきます。そして、途上国の貧困解消のために、途上国、先進国、国際社会のそれぞれが貿易をどのように変えることができるかについて、一緒に考えます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

途上国の貿易の問題点と、それを解決するための民間の取り組みについて説明できる。(知識・理解)

途上国の貿易の問題点や、それを解決するための民間の取り組みについて、国内外の文献や資料を収集し、必要な知識や情報を引き出すことができる。(技能)

途上国の貿易に関する問題を解決する取り組みを発展させる方法について考えることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習（60分）
　事前に指定された文献や配布資料をよく読んでおく。
　必要に応じて関連する資料や文献を探し、読んでおく。
　論点に関する自分の考えをまとめておく。
　班の発表の際は、班内で協力して早い段階からしっかりと準備を進めておく。

復習（30分）
　全体で討論した内容のまとめをよく読んでおく。
　各班の担当者は、ゼミの時間に班で討論した内容をまとめておく。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　毎回の課題について予習を済ませているかどうか、班での討論や発表に貢献できたかどうか、班での報告の際は、班内で分担して準備し、到達目標に示された内容を説明できたかどうかが評価の基準となります。
　そして、班での討論の際の内容と積極性、全体での発表や発言の内容と積極性、分担執筆の論文の内容を対象として成績を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

文献は適宜指示します。

◎－－－　参考書　－－－◎

『フェアトレード学』　ISBN 978-4-7948-0833-2
『貧富・公正貿易・NGO』　ISBN 4-7948-0685-X
　参考文献はテーマによって様々です。必要に応じて紹介しますが、ゼミでの参考文献や資料は、自分で見つけることも大切です。探し方は指導します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

　三年次では、より進んだ文献や資料を用います。事前に文献や資料を読んで、ゼミの時間に班ごとに討論や発表を行って、みんなで考えを出し合い、問題点を明確にし、その解決について考えます。

　以下は全30回のスケジュールのアウトラインです。進行状況に応じて調整を行います。

前期
1　　オリエンテーション
2～14　各班での討論と全体での発表
15　　まとめ

後期
16　　オリエンテーション
17～29　各班での討論と全体での発表
30　　まとめ

３年専門ゼミナール

2019-4010000378-44

松永　達

◎商学

1.途上国の貿易の問題点と、それを解決するための民間の取り組みについて説明できる。　(A-3)

2.途上国の貿易の問題点や、それを解決するための民間の取り組みについて、国内外の文献や資料を収集し、必要な知識や情報を引き出すことができる。(B-4)

3.途上国の貿易に関する問題を解決する取り組みを発展させる方法について考えることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

サービス産業論

2019-4010000340-01

田村　馨

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・１時限　　試験時間割：2020/01/22　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義はサービスビジネスにおけるマネジメントについて、①サービス財の特性、②生産性問題、③ダイバーシティ経営、④デジタル革命との関連を柱に明らかにしていくつもりです。サービスビジネスはモノが主体のビジネスと根本的に異なります。ということはマネジメントもモノ主体のビジネスにおけるマネジメントとは違うはずです。そのためにはサービスとは何かを正確に認識する必要があります（①）。その結果導かれるのがサービスビジネスの生産性問題です（②）。生産性問題は非常に大切なところですが、理解するのが一番難しいところかもしれません。サービスビジネスにおける生産性問題を解決する突破口の１つがダイバーシティ経営です（③）。ここでは女性の社会進出やワークライフバランスなどの問題にもふれます。最後にサービスビジネスのあり方そのものを大きく変えかねないデジタル革命について解説を進めます。AI（人工知能）やIoTはサービスビジネスをどのように変えるインパクト要因なのか、その結果マネジメントはどう変わらざるを得ないかを議論します。

サービスに関わるビジネスはきわめて実践的な事業・活動なので、そこに携わる個人や企業には種々のノウハウを総合的に応用する力が必要です。そのためには、たくさんの細かな知識の習得よりも、核となる理論や知識の修得が何よりも重要です。　講義では、現実のダイナミックな動き、複雑な要因が絡む現場の実態やそこで要請されるノウハウ、センスなどの情報が提供されるでしょう。次の講義の予告を毎回するので関連するサイトや文献を事前に学習し、講義中にお知らせするサイトや文献による事後学習をおすすめします。

【担当者が実務経験者の授業科目】
・中央官庁、民間のコンサルティングファームでの勤務経験を活かし、理論と実践の橋渡しがどのように行われるか、あるいはどのように行うべきかに関して解説します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

サービスビジネスにマネジメントが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスが取り組むべき課題についてマネジメントの観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスの進むべき方向についてマネジメントの観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスに必要なマネジメントの実践例を事例を素材に説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・次回の講義に向けて紹介するネット上の情報、記事、文献に目を通すことを前提に講義は進めます（予習180分）。
・講義中に素材にしたケースや理論に関する記事、文献、動画等を復習し講義を振り返ることが必要です（復習180分）。
・サービスマネジメントに関する概念、理論、フレームワークを文献や記事で継続的に学ぶことが求められます（通常学習180分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の結果で評価します。割合は１００％。評価基準は「サービスビジネスの特徴、現状と課題を理解すると同時に、生産性問題、ダイバーシティ経営、デジタル革命との関連でマネジメントやサービスビジネス自体がどのような変革を迫られているかを第三者に説明できる」です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

参考文献は講義の中で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義は、通して受講することで理解が促されるように設計されているので、毎回受講されることを望みます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　サービスビジネスとマネジメント
2　サービス財の特性とサービス化のメカニズム
3　サービスビジネスを媒体モデルで理解する１
4　サービスビジネスを媒体モデルで理解する２
5　サービスビジネスにおける生産性問題１
6　サービスビジネスにおける生産性問題２
7　日本型就業形態と女性の社会進出
8　生産性とワークライフバランス
9　生産性と組織の学習能力
10　組織の学習能力とダイバーシティ経営
11　デジタル革命のインパクト１
12　デジタル革命のインパクト２
13　マネジメントとサービスイノベーション１
14　マネジメントとサービスイノベーション２
15　リフレクション
（講義の順番や中身は進行状況によって変わる場合があります。）

サービス産業論

2019-4010000340-01

田村　馨

◎商学

1.サービスビジネスにマネジメントが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。　(A-2)

2.サービスビジネスが取り組むべき課題についてマネジメントの観点から説明できる。　(A-3)

3.サービスビジネスの進むべき方向についてマネジメントの観点から説明できる。　(A-4)

4.サービスビジネスに必要なマネジメントの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-5)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

サービスマネジメント

2019-4010000603-01

田村　馨

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・１時限　　試験時間割：2020/01/22　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義はサービスビジネスにおけるマネジメントについて、①サービス財の特性、②生産性問題、③ダイバーシティ経営、④デジタル革命との関連を柱に明らかにしていくつもりです。サービスビジネスはモノが主体のビジネスと根本的に異なります。ということはマネジメントもモノ主体のビジネスにおけるマネジメントとは違うはずです。そのためにはサービスとは何かを正確に認識する必要があります（①）。その結果導かれるのがサービスビジネスの生産性問題です（②）。生産性問題は非常に大切なところですが、理解するのが一番難しいところかもしれません。サービスビジネスにおける生産性問題を解決する突破口の１つがダイバーシティ経営です（③）。ここでは女性の社会進出やワークライフバランスなどの問題にもふれます。最後にサービスビジネスのあり方そのものを大きく変えかねないデジタル革命について解説を進めます。AI（人工知能）やIoTはサービスビジネスをどのように変えるインパクト要因なのか、その結果マネジメントはどう変わらざるを得ないかを議論します。

サービスに関わるビジネスはきわめて実践的な事業・活動なので、そこに携わる個人や企業には種々のノウハウを総合的に応用する力が必要です。そのためには、たくさんの細かな知識の習得よりも、核となる理論や知識の修得が何よりも重要です。　講義では、現実のダイナミックな動き、複雑な要因が絡む現場の実態やそこで要請されるノウハウ、センスなどの情報が提供されるでしょう。次の講義の予告を毎回するので関連するサイトや文献を事前に学習し、講義中にお知らせするサイトや文献による事後学習をおすすめします。

【担当者が実務経験者の授業科目】
・中央官庁、民間のコンサルティングファームでの勤務経験を活かし、理論と実践の橋渡しがどのように行われるか、あるいはどのように行うべきかに関して解説します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

サービスビジネスにマネジメントが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスが取り組むべき課題についてマネジメントの観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスの進むべき方向についてマネジメントの観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスに必要なマネジメントの実践例を事例を素材に説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・次回の講義に向けて紹介するネット上の情報、記事、文献に目を通すことを前提に講義は進めます（予習180分）。
・講義中に素材にしたケースや理論に関する記事、文献、動画等を復習し講義を振り返ることが必要です（復習180分）。
・サービスマネジメントに関する概念、理論、フレームワークを文献や記事で継続的に学ぶことが求められます（通常学習180分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の結果で評価します。割合は１００％。評価基準は「サービスビジネスの特徴、現状と課題を理解すると同時に、生産性問題、ダイバーシティ経営、デジタル革命との関連でマネジメントやサービスビジネス自体がどのような変革を迫られているかを第三者に説明できる」です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

参考文献は講義の中で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義は、通して受講することで理解が促されるように設計されているので、毎回受講されることを望みます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　サービスビジネスとマネジメント
2　サービス財の特性とサービス化のメカニズム
3　サービスビジネスを媒体モデルで理解する１
4　サービスビジネスを媒体モデルで理解する２
5　サービスビジネスにおける生産性問題１
6　サービスビジネスにおける生産性問題２
7　日本型就業形態と女性の社会進出
8　生産性とワークライフバランス
9　生産性と組織の学習能力
10　組織の学習能力とダイバーシティ経営
11　デジタル革命のインパクト１
12　デジタル革命のインパクト２
13　マネジメントとサービスイノベーション１
14　マネジメントとサービスイノベーション２
15　リフレクション
（講義の順番や中身は進行状況によって変わる場合があります。）

サービスマネジメント

2019-4010000603-01

田村　馨

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.サービスビジネスにマネジメントが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。　(A-2)

2.サービスビジネスが取り組むべき課題についてマネジメントの観点から説明できる。　(A-3)

3.サービスビジネスの進むべき方向についてマネジメントの観点から説明できる。　(A-4)

4.サービスビジネスに必要なマネジメントの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.サービスビジネスにマネジメントが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。　(A-2)

2.サービスビジネスが取り組むべき課題についてマネジメントの観点から説明できる。　(A-3)

3.サービスビジネスの進むべき方向についてマネジメントの観点から説明できる。　(A-3)

4.サービスビジネスに必要なマネジメントの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

サービスマネジメント

2019-4010000603-01

田村　馨

◎貿易:A-2,A-3

1.サービスビジネスにマネジメントが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。　(A-2)

2.サービスビジネスが取り組むべき課題についてマネジメントの観点から説明できる。　(A-3)

3.サービスビジネスの進むべき方向についてマネジメントの観点から説明できる。　(A-3)

4.サービスビジネスに必要なマネジメントの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

サービスマーケティング

2019-4010000604-01

田村　馨

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・１時限　　試験時間割：2019/07/27　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　サービスマーケティングでは、サービスビジネスやサービス産業に必要なマーケティングについて解説していきます。具体的には、事例を素材にしたケーススタディと理論的な説明を織り交ぜながら進めます。事例として取り上げるのは、大学生にとって馴染みがある観光産業や集客産業ですが、ネット関係のサービスビジネスも事例として紹介していくつもりです。
　モノのマーケティングとサービスのマーケティングは根本的に異なります。モノのマーケティングに慣れた方にはゼロベースで講義に臨むことを期待します。また、サービス関係の研究や講義では一般的なモノとサービスを対比的にとらえる認識も講義では乗り越えるべき「固定観念」と位置付けられます。時代が大きく変わる中、マーケティングそのものも変わらざるを得ません。
　講義では、サービスマーケティングをめぐる現実のダイナミックな動き、複雑な要因が絡む現場の実態やそこで要請されるノウハウ、センスなどの情報が提供されるでしょう。
　次の講義の予告を毎回するので関連するサイトや文献を事前に学習し、講義中にお知らせするサイトや文献による事後学習をおすすめします。

【担当者が実務経験者の授業科目】
・中央官庁、民間のコンサルティングファームでの勤務経験を活かし、理論と実践の橋渡しがどのように行われるか、あるいはどのように行うべきかに関して解説します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

サービスビジネスにマーケティングが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスが取り組むべき課題についてマーケティングの観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスの進むべき方向についてマーケティングの観点から説明できる。(知識・理解)

サービスビジネスに必要なマーケティングの実践例を事例を素材に説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・次回の講義に向けて紹介するネット上の情報、記事、文献に目を通すことを前提に講義は進めます（予習180分）。
・講義中に素材にしたケースや理論に関する記事、文献、動画等を復習し講義を振り返ることが必要です（復習180分）。
・マーケティングに関する概念、理論、フレームワークを文献や記事で継続的に学ぶことが求められます（通常学習180分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験の結果で評定します。割合は１００％です。評価基準は「サービスビジネスの特徴をその現状と課題から理解し、モノのマーケティングとは違う新しいマーケティングがサービスビジネスに必要であることを解説できると同時に、サービスマーケティングがどういうものであるかを先入観、固定観念に縛られず説明できる」です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

　参考文献は講義の中で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義は、通して受講することで理解が促されるように設計されているので、毎回受講されることを望みます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　サービスビジネスとは何か
2　サービスとは何か―サービスの特性１
3　サービスとは何か－サービスの特性２
4　サービスマーケティングとは何か－理論編１
5　サービスマーケティングとは何か－理論編２
6　ケーススタディ：スポーツ観戦ビジネス
7　ケーススタディ：ニセコ
8　ケーススタディ：黒川温泉
9　ケーススタディ：旅館再生
10　ケーススタディ：日本型ホスピタリティ
11　ケーススタディ：日本型インバウンド戦略
12　ケーススタディ：スタジアムビジネス
13　サービスマーケティングと価値共創
14　サービスマーケティングの進化
15　講義の振り返り
（講義の順番や中身は受講生の関心やその時々のトピックス、ニュースなどによって変わる場合があります。）

サービスマーケティング

2019-4010000604-01

田村　馨

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.サービスビジネスにマーケティングが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。　(A-2)

2.サービスビジネスが取り組むべき課題についてマーケティングの観点から説明できる。　(A-3)

3.サービスビジネスの進むべき方向についてマーケティングの観点から説明できる。　(A-4)

4.サービスビジネスに必要なマーケティングの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.サービスビジネスにマーケティングが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。　(A-2)

2.サービスビジネスが取り組むべき課題についてマーケティングの観点から説明できる。　(A-3)

3.サービスビジネスの進むべき方向についてマーケティングの観点から説明できる。　(A-3)

4.サービスビジネスに必要なマーケティングの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

サービスマーケティング

2019-4010000604-01

田村　馨

◎貿易:A-2,A-3

1.サービスビジネスにマーケティングが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。　(A-2)

2.サービスビジネスが取り組むべき課題についてマーケティングの観点から説明できる。　(A-3)

3.サービスビジネスの進むべき方向についてマーケティングの観点から説明できる。　(A-3)

4.サービスビジネスに必要なマーケティングの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3

1.サービスビジネスにマーケティングが求められている理由を経済社会状況の観点から説明できる。　(A-2)

2.サービスビジネスが取り組むべき課題についてマーケティングの観点から説明できる。　(A-3)

3.サービスビジネスの進むべき方向についてマーケティングの観点から説明できる。　(A-3)

4.サービスビジネスに必要なマーケティングの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

財務会計論

2019-4010002114-01

飯塚　雄基

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・２時限　　試験時間割：2019/07/30　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

この授業では，財務会計の基本事項を制度と理論の両面から講義します。
一般に会計とは，「経済主体が営む経済活動およびこれに関連する経済事象を測定・報告する行為」をいい，その一つの分野に財務会計があります。財務会計は投資者や債権者を対象に情報提供する行為であり，会社の経済状況を理解するのに不可欠な手段です。しかし，実際に財務会計の知識を学修することは容易ではありません。財務会計の前提や計算の仕組みが多岐にわたっているからです。そのため，まずは財務会計の基本事項を押えることが重要です。その基本事項とは，財務会計とは何かを明らかにするために答えるべき「問い」のことであり，具体的には，財務会計をどのように定義するか，財務諸表とは何か，財務会計はどのような前提に立っているのか，財務会計のアプローチは何か，資産および負債とは何か，それらを財務諸表に記載するための条件は何か，財務諸表以外にどのような報告手段があるのか，などがあげられます。他方で，財務会計の基本事項には，単なる考え方（理論）にとどまるものもあれば，制度（ルール）になっているものもありますので，財務会計の基本事項は，制度と理論の両面から理解することが重要です。
この授業では，以上のような考えのもと，財務会計の「基本事項」に焦点を当て，これを「制度と理論の両面」から理解するために必要な講義をおこないます。この授業はあくまで基本事項に焦点を当てており，財務会計に関心のあるすべての学生を対象としています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

財務会計の基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

財務会計の理論と制度の現状を説明することができる。(知識・理解)

財務会計の理論と制度について解決すべき課題を説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業で用いられる専門用語について参考書等を読んでその意味を理解しておくこと（30分）。
授業後に配布資料や参考書を読んで，授業の内容が理解できているか復習すること（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

到達目標の達成度を評価の基準とします。具体的には，原則として定期試験によって評価します（8割）。ただし，小テストやレポート，参加態度などを加味します（2割）。
小テストは授業の最後に実施しますが，そのフィードバックとして次回の冒頭に解答の解説をします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

広瀬義州『財務会計（第13版）』中央経済社，2015年。 ISBN 4502163414
桜井久勝『財務会計講義（第19版）』中央経済社，2017年。　ISBN 4502266418
伊藤邦雄『新・現代財務会計（第3版）』日本経済新聞出版社，2016年。　ISBN 4532134803

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①「簿記原理」等の講義を受講し，簿記の基本的な知識を習得していることが望ましいでしょう。
②各回の授業は，前回の内容を踏まえて進めていきますので，欠席をしないように心がけてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　会計の意義と分類
第2回　財務会計の意義
第3回　財務会計の論点
第4回　財務会計と会計公準
第5回　財務会計の目的と財務諸表
第6回　会計情報の質的特徴
第7回　財務諸表の構成要素
第8回　財務諸表の認識と測定（1）
第9回　財務諸表の認識と測定（2）
第10回　資産負債アプローチと収益費用アプローチ（1）
第11回　資産負債アプローチと収益費用アプローチ（2）
第12回　取得原価主義会計の意義
第13回　取得原価主義会計と公正価値会計
第14回　財務会計と企業会計制度（1）
第15回　財務会計と企業会計制度（2）

財務会計論

2019-4010002114-01

飯塚　雄基

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.財務会計の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.財務会計の理論と制度の現状を説明することができる。　(A-2)

3.財務会計の理論と制度について解決すべき課題を説明することができる。(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.財務会計の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.財務会計の理論と制度の現状を説明することができる。　(A-2)

3.財務会計の理論と制度について解決すべき課題を説明することができる。(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

財務会計論

2019-4010002114-01

飯塚　雄基

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.財務会計の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.財務会計の理論と制度の現状を説明することができる。　(A-2)

3.財務会計の理論と制度について解決すべき課題を説明することができる。(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

財務会計論

2019-4010002114-02

中村　信博

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・３時限　　試験時間割：2020/01/24　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

企業の外部利害関係者に対して会計情報を作成・伝達する事を目的とする会計を財務会計といいますが、その基本的諸概念および会社法、金融商品取引法などに基づく会計制度の理解を深め、その過程において、「会計学総論」で触れた会計諸科目および企業の資金調達方法との相互関係も可能な限り講述を試み、会計学の全体像を把握できるようにしたいと思います。
具体的には、「共通ビジネス言語」である会計情報の中心をなす貸借対照表および損益計算書について、まず、その基礎概念に関する講述を行い、次に、各主要構成項目の内容について逐次解説を行うことにより、"accounting mind" を身に付け、会計リテラシーの向上をはかります。
さらに、様々な資料も活用して会計の最新動向にも言及することにより、「会計ビッグバン」の基本思考およびその主な内容（キャッシュ・フロー会計、リース会計、金融商品の会計、減損会計、連結財務諸表、退職給付会計、資産除去債務など）に関する理解を深めます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

財務会計の基礎知識を修得する。(知識・理解)

企業経営、とくに資金調達における会計情報の意義および新会計基準の概要を説明できる。(知識・理解)

会計基準の意義およびその変遷に関する理解ならびに財務諸表の基本的分析方法の修得を通じて、会計情報ディスクロージャーに係る社会的課題を説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

専門用語が比較的多い科目であることを予め認識し、次回の授業内容を毎回予習することにより、専門用語の意味を理解しておくこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

新会計基準の理解度および『有価証券報告書』の「経理の状況」を読みこなす能力を評価基準として、定期試験80%、レポート20%を目安として総合的に評価します。なお、レポートの評価基準として『福大生のための学習ナビ』を用いるので、必ず「レポートの作成」を読んだ上で書くこと。

◎－－－　テキスト　－－－◎

村田直樹著『新しい企業会計の内容と形式』創成社、2008、￥1,500、ISBN978-7944-1364-2

◎－－－　参考書　－－－◎

『会計法規集』、『会計諸則集』（最新版）
上記以外の参考書は講義の中で紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」または「簿記原理」および「会計学総論」の単位を修得済みの者が望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１ 財務会計の役割と研究対象
２ 資産会計総論（本質、評価基準）
３ 流動資産（金融商品会計）
４ 固定資産
５ 減価償却
６ 繰延資産
７ 負債会計総論
８ 引当金会計（退職給付会計）
９ 株主資本の会計
１０ 損益会計総論（現金主義、発生主義、収益・費用の区分）
１１ 収益の認識（実現主義とその例外）実現概念の拡張と評価差額
１２ 損益情報とキャッシュ・フロー情報
１３ リース会計、減損会計
１４ 連結財務諸表
１５ 財務諸表分析のポイント、まとめ

財務会計論

2019-4010002114-02

中村　信博

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.財務会計の基礎知識を修得する。　(A-1)

2.企業経営、とくに資金調達における会計情報の意義および新会計基準の概要を説明できる。　(A-2)

3.会計基準の意義およびその変遷に関する理解ならびに財務諸表の基本的分析方法の修得を通じて、会計情報ディスクロージャーに係る社会的課題を説明できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.財務会計の基礎知識を修得する。　(A-1)

2.企業経営、とくに資金調達における会計情報の意義および新会計基準の概要を説明できる。　(A-2)

3.会計基準の意義およびその変遷に関する理解ならびに財務諸表の基本的分析方法の修得を通じて、会計情報ディスクロージャーに係る社会的課題を説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

財務会計論

中村　信博

2019-4010002114-02

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.財務会計の基礎知識を修得する。　(A-1)

2.企業経営、とくに資金調達における会計情報の意義および新会計基準の概要を説明できる。　(A-2)

3.会計基準の意義およびその変遷に関する理解ならびに財務諸表の基本的分析方法の修得を通じて、会計情報ディスクロージャーに係る社会的課題を説明できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

市場分析論

2019-4010000343-01

永星　浩一

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・３時限　　試験時間割：2019/07/24　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

ビッグデータを分析するデータサイエンティストが脚光を浴びる今日、市場の動きを理解し、消費生活や経済活動に役立てることに欠かせないのが、市場に存在する情報を加工し分析する知識です。例えばデフレやインフレの言葉の意味は分かっていても、物価が上がるとか下がるといったことを本質的に説明できる人は多くないでしょう。本講義では、はじめに基本的な統計量である平均について解説するところから始まります。その具体例として物価指数の計算式を紹介します。物価指数の三種類の考え方を解説して違いについて明らかにします。そもそも物価をはかることの難しさについて考える事も重要なテーマの一つです。

続いて、データのばらつきの指標である標準偏差を見ていきます。標準偏差と、最もオーソドックスな確率分布である正規分布との関係について解説し、その応用として在庫管理における発注点や発注量の計算について解説します。ここでは、確率的にばらつきのある経営データに対して、リスク下で最適な量を決定することの意味を考察してもらいます。

次に２つ以上のデータ系列同士の関係の強弱、因果関係のある場合の回帰線の引き方を解説しますが、これは最初に学んだ平均の考え方と共通点があることに気づくでしょう。回帰分析は様々な市場データの予測に用いられます。

オークションは市場を情報のキーワードで読み解くにあたって最も興味深いテーマです。従来からのオークション理論を基礎にして、サイバー市場で盛んになったオークションについて詳細に見ていきます。

最後はグラフで読み解く市場です。指数や係数を計算するだけが市場分析ではありません。これまでのテーマでも、相関分析は散布図、回帰分析では回帰線で視覚的に傾向を読み取ることが可能です。ここでは、それ以外に株価チャートで読み解く株式市場、交差比率をマトリックスで表し市場を読み解く方法などを解説します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

様々な平均の考え方を理解し、物価指数を説明できる。(知識・理解)

最適発注量の最適化の考え方を説明できる。(知識・理解)

標準偏差、正規分布等の意味と関係性を理解し、在庫管理について図を用いて説明できる。(知識・理解)

回帰分析により統計データから将来予測ができる。(知識・理解)

統計データやグラフを用いて、経済社会の出来事が産業や社会に与える影響について説明できる。(知識・理解)

生活を豊かにしているeコマースは、商学の知識だけでなく、経済学、数学、統計学情報技術、そして現代の情報社会に関する最新の知見が必要であることを説明できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

配布する資料をよく読んで事前・事後学習をしてください。物価指数については、総務省統計局の「消費者物価指数のしくみと見方」は参考になります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準

到達目標に示した内容について、データや事例を基に具体的かつ的確に自分の言葉で説明できているかを評価の基準とします。

評価方法

定期試験の成績を60%、平常点は40%で、毎授業中のアナライザーで行う確認テストおよびミニッツペーパーの評価を平常点として評価に反映させます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特にテキストは指定しませんが、授業計画の各回のキーワードについて説明のある専門書を図書館等で積極的に探して読むよう心がけてください。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

正当な理由のない授業中の入退室や私語、室内での着帽、授業とは無関係のスマホ操作、居眠り、代返などの迷惑行為や不正行為は行わないでください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

乱数とシミュレーション
普通の平均と加重平均の違い
幾何平均と物価指数
分散と標準偏差で何が分かるか
正規分布と標準偏差の関係
在庫管理における費用最小化の考え方
経済発注量の考え方
発注点方式と定期発注方式
相関分析－関係の強さをはかる－
回帰分析で予測する
サンプル調査と誤差
オークション理論
サイバー市場とオークション
グラフで読み解く市場Ⅰ－株価チャートと移動平均－
グラフで読み解く市場Ⅱ－交差比率ほかのマトリックス－

市場分析論

2019-4010000343-01

永星　浩一

◎商学:A-2,A-3,A-4,B-4

1.様々な平均の考え方を理解し、物価指数を説明できる。　(A-2)

2.最適発注量の最適化の考え方を説明できる。　(A-2)

3.標準偏差、正規分布等の意味と関係性を理解し、在庫管理について図を用いて説明できる。　(A-2)

4.回帰分析により統計データから将来予測ができる。　(A-3)

5.統計データやグラフを用いて、経済社会の出来事が産業や社会に与える影響について説明できる。　(A-4)

6.生活を豊かにしているeコマースは、商学の知識だけでなく、経済学、数学、統計学情報技術、そして現代の情報社会に関する最新の知見が必要であることを説明できる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.様々な平均の考え方を理解し、物価指数を説明できる。　(A-2)

2.最適発注量の最適化の考え方を説明できる。　(A-2)

3.標準偏差、正規分布等の意味と関係性を理解し、在庫管理について図を用いて説明できる。　(A-2)

4.回帰分析により統計データから将来予測ができる。　(A-3)

5.統計データやグラフを用いて、経済社会の出来事が産業や社会に与える影響について説明できる。　(A-3)

6.生活を豊かにしているeコマースは、商学の知識だけでなく、経済学、数学、統計学情報技術、そして現代の情報社会に関する最新の知見が必要であることを説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

市場分析論

2019-4010000343-01

永星　浩一

◎貿易:A-2,A-3

1.様々な平均の考え方を理解し、物価指数を説明できる。　(A-2)

2.最適発注量の最適化の考え方を説明できる。　(A-2)

3.標準偏差、正規分布等の意味と関係性を理解し、在庫管理について図を用いて説明できる。　(A-2)

4.回帰分析により統計データから将来予測ができる。　(A-3)

5.統計データやグラフを用いて、経済社会の出来事が産業や社会に与える影響について説明できる。　(A-3)

6.生活を豊かにしているeコマースは、商学の知識だけでなく、経済学、数学、統計学情報技術、そして現代の情報社会に関する最新の知見が必要であることを説明できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3

1.様々な平均の考え方を理解し、物価指数を説明できる。　(A-2)

2.最適発注量の最適化の考え方を説明できる。　(A-2)

3.標準偏差、正規分布等の意味と関係性を理解し、在庫管理について図を用いて説明できる。　(A-2)

4.回帰分析により統計データから将来予測ができる。　(A-3)

5.統計データやグラフを用いて、経済社会の出来事が産業や社会に与える影響について説明できる。　(A-3)

6.生活を豊かにしているeコマースは、商学の知識だけでなく、経済学、数学、統計学情報技術、そして現代の情報社会に関する最新の知見が必要であることを説明できる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

商学のための数学・統計学Ⅰ

2019-4010000361-01

福山　博文

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　　試験時間割：2019/08/01　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

　現代のような複雑な情報社会においては、企業や官公庁などの経営
組織体は、市場の変動に対処し、社会のニーズに応えるため、柔軟か
つ迅速に意思決定をすることが求められています。勘や経験に頼るだ
けでは十分に対処できない時代になったのです。複雑に激しく変化す
る環境状況の把握・分析を的確に行い、解決すべき課題を整理し、そ
の解決手段を示すことが必要です。このためには、数理的モデルを構
築し、コンピュータによる解析を利用するという視点も大切になって
きます。数学的素養を身につけることによって、より高度な次元で問
題発見や問題解決ができるようになります。
　本講義では、ベクトル、行列、微分などの数学の基礎を商学や経営
学の例題を用いて説明します。数学は初歩的レベルから始めるので、
高度な数学的知識は必要ではありませんが、受講者は数学が嫌いでな
いことが重要です。それから、授業中に小テストを実施します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学部の学生に必要な数学の基礎を理解することを評価の基準とする。(知識・理解)

一次関数の応用である損益分岐点分析について、説明することができるようになる。(技能)

行列の積の計算ができるようになる。(技能)

クラメルの公式を用いて、連立方程式の解を求めることができるようになる。(技能)

微分を用いて、極大値・極小値を求めることができるようになる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・前回の講義の内容を復習してから、授業に出席すること（30分）。
・配布資料がある場合には、事前に読んでおくこと。（20分）
・事後には授業の内容と小テストの問題を復習すること。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・商学や経営学の勉強に必要な数学の基礎知識を習得し、現実の問題に応用できるかどうかを評価基準とする。

評価方法
・原則として定期試験を70%、課題レポート及び小テスト30%による。

◎－－－　テキスト　－－－◎

ありません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・本講義は、1年次の科目ですが、２，３，４年次でも、もう一度基礎から数学・統計学を勉強したい学生は歓迎します。また、経営学科・商学科の学生だけではなく、貿易学科の学生も歓迎します。
・受講に際しては、ルート（平方根）の計算ができる電卓を持参すること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．関数（１）
２．関数（２）
３．関数（３）
４．ベクトルと行列（１）
５．ベクトルと行列（２）
６．ベクトルと行列（３）
７．ベクトルと行列（４）
８．ベクトルと行列（５）
９．微分（１）
１０．微分（２）
１１．微分（３）
１２．微分（４）
１３．極大・極小（１）
１４．極大・極小（２）
１５．極大・極小（３）

商学のための数学・統計学Ⅰ

2019-4010000361-01

福山　博文

◎商学:A-1,B-2

1.商学部の学生に必要な数学の基礎を理解することを評価の基準とする。(A-1)

2.一次関数の応用である損益分岐点分析について、説明することができるようになる。　(B-2)

3.行列の積の計算ができるようになる。　(B-2)

4.クラメルの公式を用いて、連立方程式の解を求めることができるようになる。　(B-2)

5.微分を用いて、極大値・極小値を求めることができるようになる。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-2

1.商学部の学生に必要な数学の基礎を理解することを評価の基準とする。(A-1)

2.一次関数の応用である損益分岐点分析について、説明することができるようになる。　(B-2)

3.行列の積の計算ができるようになる。　(B-2)

4.クラメルの公式を用いて、連立方程式の解を求めることができるようになる。　(B-2)

5.微分を用いて、極大値・極小値を求めることができるようになる。　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

商学のための数学・統計学Ⅰ

2019-4010000361-01

福山　博文

◎貿易:A-1,B-2

1.商学部の学生に必要な数学の基礎を理解することを評価の基準とする。(A-1)

2.一次関数の応用である損益分岐点分析について、説明することができるようになる。　(B-2)

3.行列の積の計算ができるようになる。　(B-2)

4.クラメルの公式を用いて、連立方程式の解を求めることができるようになる。　(B-2)

5.微分を用いて、極大値・極小値を求めることができるようになる。　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-2

1.商学部の学生に必要な数学の基礎を理解することを評価の基準とする。(A-1)

2.一次関数の応用である損益分岐点分析について、説明することができるようになる。　(B-2)

3.行列の積の計算ができるようになる。　(B-2)

4.クラメルの公式を用いて、連立方程式の解を求めることができるようになる。　(B-2)

5.微分を用いて、極大値・極小値を求めることができるようになる。　(B-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

商学のための数学・統計学Ⅱ

2019-4010000362-01

福山　博文

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：2020/01/27　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、統計学に焦点を当てて講義をします。最初に、観察の対象となっている集団から標本を収集して、その結果を平均や分散（バラツキ）などの指標やグラフにより考察する記述統計を学びます。次いで、標本をもとに集団全体の特徴について、推測する推測統計を学びます。データ生成の記述やそれから求められる統計量を理解する上で、基礎となるのが確率の概念なので、確率理論も商学や経営学の例題を用いて説明します。

統計学は様々な分野で利用され、生産計画・経営計画・投資計画において、合理的な判断・意思決定をするための必要不可欠なものとなっています。

また、企業経営では顧客のニーズを経営に役立てたい場合など、大量のデータを処理・加工する必要性がでてくるので、コンピュータを自在に使いこなせるようになることが重要になっています。そこで本講義では、コンピュータ実習は行いませんが、コンピュータの利用を意識した講義を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

・商学や経営学の勉強に必要な統計学の基礎知識を習得し、現実の問題に応用できるかどうかを評価基準とする。(知識・理解)

データより平均値と分散値を求めることができる。(技能)

点推定と区間推定について、説明できる。(技能)

母平均の仮説検定ができるようになる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・前回の講義の内容を復習してから、授業に出席すること（30分）。
・配布資料がある場合には、事前に読んでおくこと。（20分）
・事後には授業の内容と小テストの問題を復習すること。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・商学や経営学の勉強に必要な数学の基礎知識を習得し、現実の問題に応用できるかどうかを評価基準とする。

評価方法
・原則として定期試験を70%、課題レポート及び小テスト30%による。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは用いません。ノート中心の講義です。

◎－－－　参考書　－－－◎

・石村園子『大学新入生のための数学入門』共立出版　ISBN 4-320-01688-2
・三和義秀『Excelで学ぶやさしい統計処理のテクニック』　ISBN 4-320-01798-6
・石村園子『やさしく学べる統計学』共立出版　ISBN 4-320-01808-7

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1.本講義は、1年次の科目ですが、２，３，４年次でも、もう一度基礎から数学・統計学を勉強したい学生は歓迎します。また、経営学科・商学科の学生だけではなく、貿易学科の学生も歓迎します。
2.受講に際しては、ルート（平方根）の計算ができる電卓を持参すること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．統計学とは
２．データと基本統計量
３．データのグラフ表現
４．度数分布表とヒストグラム
５．散布図と相関係数
６．母集団と標本
７．点推定（１）
８．点推定（２）
９．区間推定（１）
１０．区間推定（２）
１１．母平均の検定（１）
１２．母平均の検定（２）
１３．母平均の検定（３）
１４．母比率の検定（１）
１５．母比率の検定（２）

商学のための数学・統計学Ⅱ

2019-4010000362-01

福山　博文

◎商学:A-1,B-2

1.・商学や経営学の勉強に必要な統計学の基礎知識を習得し、現実の問題に応用できるかどうかを評価基準とする。　(A-1)

2.データより平均値と分散値を求めることができる。　(B-2)

3.点推定と区間推定について、説明できる。　(B-2)

4.母平均の仮説検定ができるようになる。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-2

1.・商学や経営学の勉強に必要な統計学の基礎知識を習得し、現実の問題に応用できるかどうかを評価基準とする。　(A-1)

2.データより平均値と分散値を求めることができる。　(B-2)

3.点推定と区間推定について、説明できる。　(B-2)

4.母平均の仮説検定ができるようになる。　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

商学のための数学・統計学Ⅱ

2019-4010000362-01

福山　博文

◎貿易:A-1,B-2

1.・商学や経営学の勉強に必要な統計学の基礎知識を習得し、現実の問題に応用できるかどうかを評価基準とする。　(A-1)

2.データより平均値と分散値を求めることができる。　(B-2)

3.点推定と区間推定について、説明できる。　(B-2)

4.母平均の仮説検定ができるようになる。　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-2

1.・商学や経営学の勉強に必要な統計学の基礎知識を習得し、現実の問題に応用できるかどうかを評価基準とする。　(A-1)

2.データより平均値と分散値を求めることができる。　(B-2)

3.点推定と区間推定について、説明できる。　(B-2)

4.母平均の仮説検定ができるようになる。　(B-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

商業史概論

2019-4010000404-01

本村　希代

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・１時限　　試験時間割：2019/07/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この科目は、名称には「商業史」とあるが、産業部門としての商業に限定せず、商学科の授業全体が対象とする様々な分野について、その歴史を扱う。
　商学部商学科には、２年次以上の商業史関係の専門教育科目として、他に「日本商業史・近代日本商業史／日本商業史Ａ・Ｂ」「西洋商業史・近代西洋商業史／西洋商業史Ａ・Ｂ」が設置されている。それらが商業史の具体的知識を得ることを主目的としているのに対して、「商業史概論」のねらいは、歴史を見る眼、あるいは現在を歴史的に見る眼を養うことにある。いわゆる社会科学系の学問は、商学を含めて、時間的には現代を主な対象としている。それにもかかわらず、歴史関係の授業科目が設置されているのは、現代の持つ特性への理解を深める上で、過去との対比が有益となるからである。
　本講義では、歴史を多面的にとらえるべく、日本社会のイメージを根底から問い直すことを行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方を用いて、経済社会状況を説明することができるようになる。(知識・理解)

歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方から、流通・商業の課題を見出すことができる。(知識・理解)

歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。(知識・理解)

歴史的視点のほか多様な価値観・モノの見方を用いて、社会へ貢献しようとする姿勢を身につけている。(態度・志向性)

歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方を用いて、流通・商業が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　歴史は得てして暗記するものだと思われがちだが、全体の大きな流れを理解することが大切である。それゆえ毎回の講義テーマごとに、なぜそのような姿にいたったのか、原因・結果など、歴史の流れを理解しておくこと（60分）。またそれが次回の講義の予習にもなる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験で評価する。講義内で取り上げたテーマについて、きちんと歴史の流れとして把握できているか、またそれらを自分の言葉で説明できているかを評価の基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　特に指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

網野善彦『日本の歴史をよみなおす（全）』　ISBN 9784480089298

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに
2　「日本」とは何か
3　日本は孤立した島国か
4　倭国から日本国へ
5　国際都市としての博多
6　博多商人の展開①
7　博多商人の展開②
8　「悪」とは何か①
9　「悪」とは何か②
10　対馬と東アジア
11　日本は農業国か
12　百姓は農民か
13　領民としての近江商人
14　水田に賦課された租税
15　まとめ

商業史概論

2019-4010000404-01

本村　希代

◎商学:A-2,A-3,A-4,C-1,C-2

1.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方を用いて、経済社会状況を説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方から、流通・商業の課題を見出すことができる。　(A-3)

3.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。　(A-4)

4.歴史的視点のほか多様な価値観・モノの見方を用いて、社会へ貢献しようとする姿勢を身につけている。　(C-1)

5.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方を用いて、流通・商業が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,C-1,C-2

1.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方を用いて、経済社会状況を説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方から、流通・商業の課題を見出すことができる。　(A-3)

3.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。

4.歴史的視点のほか多様な価値観・モノの見方を用いて、社会へ貢献しようとする姿勢を身につけている。　(C-1)

5.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方を用いて、流通・商業が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

商業史概論

2019-4010000404-01

本村　希代

◎貿易:A-2,A-3,C-1,C-2

1.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方を用いて、経済社会状況を説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方から、流通・商業の課題を見出すことができる。　(A-3)

3.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。

4.歴史的視点のほか多様な価値観・モノの見方を用いて、社会へ貢献しようとする姿勢を身につけている。　(C-1)

5.歴史的視点のほか多様な価値観やモノの見方を用いて、流通・商業が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

商業史入門

2019-4010000196-01

本村　希代

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・１時限　　試験時間割：2020/01/21　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この科目は、名称には「商業史」とあるが、産業部門としての商業に限定せず、商学部の授業全体が対象とする様々な分野について、その歴史を扱っていく。
　この授業科目の設置のねらいは、商学部の授業科目群の一つである商業史分野について紹介することである。いわゆる社会科学系の学問は、商学も含めて、主な対象となるのは現代社会であり、過去のことそれ自体を中心課題とする研究は、その中ではマージナルな存在である。それにもかかわらず歴史関係の授業科目が設置されているのは、過去と対比することによって、現代の持つ特性への理解を深めることが可能となるからである。
　本講義では、まずわれわれがあたりまえのこととしてなじんでいる経済・商業関係の制度やしくみについて、日本において、それが成立する過程を跡づけていく。そして最後に、商業史・経済史研究のこれまでの歩みや近年の動向を紹介する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解できるようになる。(知識・理解)

経済・商業関係の制度やしくみの成立過程を説明できるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　歴史は得てして暗記するものだと思われがちだが、全体の大きな流れを理解することが大切である。それゆえ毎回の講義テーマごとに、なぜそのような姿にいたったのか、原因・結果など、歴史の流れを整理しておくこと（60分）。またそれが次回の講義の予習にもなる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験で評価する。講義内で取り上げたテーマについて、きちんと歴史の流れとして把握できているか、またそれらを自分の言葉で説明できているかを評価の基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　特に指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

廣田誠他『日本商業史』　ISBN 9784641165069
石井寛治『日本流通史』　ISBN 9784641161696
社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望（学会創立80周年記念）』　ISBN 9784641163881

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに
2　日本型企業経営の起源
3　商家経営から会社経営へ①
4　商家経営から会社経営へ②
5　商人道とは何か
6　奉公人からサラリーマンへ①
7　奉公人からサラリーマンへ②
8　奉公人からサラリーマンへ③
9　両替商から銀行へ①
10　両替商から銀行へ②
11　呉服商から百貨店へ
12　伝統的商業経験から純国産品の創製へ
13　水上輸送から陸上輸送へ
14　商業史・経済史研究の動向
15　まとめ

商業史入門

2019-4010000196-01

本村　希代

◎商学:A-1,A-2

1.さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解できるようになる。　(A-1)

2.経済・商業関係の制度やしくみの成立過程を説明できるようになる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2

1.さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解できるようになる。　(A-1)

2.経済・商業関係の制度やしくみの成立過程を説明できるようになる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

商業史入門

2019-4010000196-01

本村　希代

◎貿易:A-1,A-2

1.さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解できるようになる。　(A-1)

2.経済・商業関係の制度やしくみの成立過程を説明できるようになる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

証券市場論

2019-4010000335-01

藤本　三喜男

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・３時限　　試験時間割：2019/07/24　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

株式会社は、事業に必要な資金を多数の人々から集めたり、企業を売買したりするうえで欠かせない企業形態である。最近では、グローバル競争、IT技術を基盤とする技術革新の時代にあって、先進の研究開発投資やベンチャー企業などハイリスク・ハイリターンの投資分野に、リスク・マネーをどのような仕組みで供給すべきか、また日本企業の合併・買収や事業部門の分割・再編の動きが、大きなテーマになっている。現代企業をめぐるさまざまな問題は株式会社抜きには語れない。
講義ではとくに、株式とは何かを柱に、株式会社の仕組み、株式などが売買される証券取引システムの仕組みの基本について丁寧な解説を心がけたい。
また金融・証券の最近のトピックスや日本の会社についての身近な話題も取り上げるので、新聞記事、雑誌などから幅広く資料を集め、講義の材料に使う。
講義は、次の2つの項目を主要な柱にして行なう。 1.株式会社をめぐるトピックとして、株式制度、コーポレート・ガバナンス、株主の有限責任、株式流通、M&Aなどを扱う。2.株式の取引をめぐるトピック。

◎－－－　到達目標　－－－◎

株式会社制度の仕組みの概要について説明できる。(知識・理解)

なぜ法人格が必要かについて説明できる。(知識・理解)

株主の有限責任の役割を説明できる。(知識・理解)

株主総会の役割を説明できる。(知識・理解)

種類株式とその使い方を説明できる。(知識・理解)

所有と経営の分離とは何か、エージェンシー問題とは何かを説明できる。(知識・理解)

コーポレート･ガバナンスのさまざま手法について説明できる。(知識・理解)

日米独の経営機構の違いを説明できる。(知識・理解)

証券会社の業務と証券取引所の役割を説明できる。
(知識・理解)

投資家保護とは何かを説明できる。(知識・理解)

証券取引所における板寄せ・ザラバなどの取引仕法を説明できる。(知識・理解)

日経平均などの株価指数の作成方法を説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義は講義内容の要旨プリントに沿って行います。またプリントと指定した参考書で専門用語の意味などをしっかり復習しておくこと。（60分）
よく理解できない場合は、講義終了後かならず質問にくること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として定期試験に基づいて評価する。試験問題は、原則として講義内容を要約した配布プリントをベースに作成する。試験は、基本的に、「～について論ぜよ」、「～とは何か」等、この科目の基礎的・体系的知識を問う論述形式で行う。補足的に、専門用語の理解や計算式の前提となる考え方を問う形式でも行う。
評価基準については、論述問題の場合、設問の意味を理解し、論理的に筋の通った回答をしているかが問われる。大筋を記述している答案には6割～７割の点数を与える。残りの3割～4割は、次のようなことを総合判断して評価する。①設問の背景に言及しているか、②キーワードを適切に使用しているか、③内容が詳しく論述されているか等。なお、採点にあたって、1. 箇条書きは単なるメモと見なし減点する。2. 主語・述語が明確でない文章は減点する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義内容の要点をまとめたプリントと関連資料を配布し、それに沿って講義を行う。

◎－－－　参考書　－－－◎

伊藤靖史、田中亘、松井秀征、大杉謙一「会社法 第4版」有斐閣、2018年
ISBN-13: 978-4641179271
黒沼悦郎「金融商品取引法入門　第7版」日経文庫、2018年　ISBN-13: 978-4532113292

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義内容についての質問は大いに歓迎します。講義に熱心に耳を傾け、わからないところはそのつど質問するようにしてほしい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 対象と方法（講義の進め方）
2 市場経済における企業
3 会社とは何か
4 会社の仕組みと法人制度
5 株式制度と株主の権利
6 株主の有限責任と債権者保護
7 所有と経営の分離とコーポレート・ガバナンス
8 コーポレート・ガバナンスと経営組織のあり方(1)
9 コーポレート・ガバナンスと経営組織のあり方(2)
10 有価証券と株式流通の意義
11 証券取引システムの仕組み
12 証券会社の業務と金融証券取引所の役割
13 ディスクロージャ制度と不公正取引の規制
14 わが国の証券取引システム(1)
15 わが国の証券取引システム(2)

証券市場論

2019-4010000335-01

藤本　三喜男

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.株式会社制度の仕組みの概要について説明できる。　(A-4)

2.なぜ法人格が必要かについて説明できる。　(A-2)

3.株主の有限責任の役割を説明できる。　(A-2)

4.株主総会の役割を説明できる。　(A-3)

5.種類株式とその使い方を説明できる。　(A-3)

6.所有と経営の分離とは何か、エージェンシー問題とは何かを説明できる。(A-2)

7.コーポレート･ガバナンスのさまざま手法について説明できる。　(A-3)

8.日米独の経営機構の違いを説明できる。　(A-3)

9.証券会社の業務と証券取引所の役割を説明できる。(A-4)

10.投資家保護とは何かを説明できる。　(A-3)

11.証券取引所における板寄せ・ザラバなどの取引仕法を説明できる。　(A-2)

12.日経平均などの株価指数の作成方法を説明できる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.株式会社制度の仕組みの概要について説明できる。　(A-2)

2.なぜ法人格が必要かについて説明できる。　(A-2)

3.株主の有限責任の役割を説明できる。　(A-2)

4.株主総会の役割を説明できる。　(A-3)

5.種類株式とその使い方を説明できる。　(A-3)

6.所有と経営の分離とは何か、エージェンシー問題とは何かを説明できる。(A-2)

7.コーポレート･ガバナンスのさまざま手法について説明できる。　(A-3)

8.日米独の経営機構の違いを説明できる。　(A-3)

9.証券会社の業務と証券取引所の役割を説明できる。(A-2)

10.投資家保護とは何かを説明できる。　(A-3)

11.証券取引所における板寄せ・ザラバなどの取引仕法を説明できる。　(A-2)

12.日経平均などの株価指数の作成方法を説明できる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

証券市場論

2019-4010000335-01

藤本　三喜男

◎貿易:A-2,A-3

1.株式会社制度の仕組みの概要について説明できる。　(A-2)

2.なぜ法人格が必要かについて説明できる。　(A-2)

3.株主の有限責任の役割を説明できる。　(A-2)

4.株主総会の役割を説明できる。　(A-3)

5.種類株式とその使い方を説明できる。　(A-3)

6.所有と経営の分離とは何か、エージェンシー問題とは何かを説明できる。(A-2)

7.コーポレート･ガバナンスのさまざま手法について説明できる。　(A-3)

8.日米独の経営機構の違いを説明できる。　(A-3)

9.証券会社の業務と証券取引所の役割を説明できる。(A-2)

10.投資家保護とは何かを説明できる。　(A-3)

11.証券取引所における板寄せ・ザラバなどの取引仕法を説明できる。　(A-2)

12.日経平均などの株価指数の作成方法を説明できる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

証券と金融

2019-4010000336-01

藤本　三喜男

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：2020/01/16　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

国境の壁が低くなり、IT技術が大いに発達し、さらにさまざまな制度改革が進展するという大きな環境変化の中で、内外の資金や情報の流れが飛躍的に拡大し、金融や証券の世界は一層複雑さを増している。証券市場は、資金の移転・リスクの配分が行われる場であるが、金融技術のさまざまな工夫や手段（投資信託、証券化、先物・オプション・スワップなどのデリバティブ）が整備されて、証券市場の機能が大きく変化してきている。
この講義では、金融取引における情報の意義、銀行や証券会社などの機能・役割、金利や金融資産の価格がどのように決まるかなど金融のイロハを講義するとともに、さまざまな金融技術の基本的知識、ダイナミックな動きなどについて講義する。講義はわが国の金融・証券市場が抱えるさまざまな問題点・課題を展望できるように行いたい。金融・証券の最近のトピックも取り上げるので、新聞記事、雑誌などから幅広く資料を集め、講義の材料に使いたいと考えている。

◎－－－　到達目標　－－－◎

三つのタイプ（出資タイプ、負債タイプ、デリバティブタイプ）の金融商品について説明できる。(知識・理解)

金融仲介機関の三つのリスク (1)流動性リスク、(2)信用リスク、(3)金利リスクとは何かを説明できる。(知識・理解)

金融機関の三つのリスクをコントロールするめの工夫について説明できる。(知識・理解)

金融取引に「情報の非対称性」がもたらす問題を説明できる。(知識・理解)

複利の原理、債券価格の計算の仕方を説明できる。(知識・理解)

イールド・カーブとは何かを説明できる。(知識・理解)

先物取引の仕組みを説明できる。(知識・理解)

オプション取引の原理を説明できる。(知識・理解)

デリバティブを使った取引、ヘッジ、裁定、投機の取引を説明できる。(知識・理解)

証券化の仕組みと問題点を説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義は講義内容の要旨プリントに沿って行います。またプリントと指定した参考書で専門用語の意味などをしっかり復習しておくこと。(60分)
よく理解できない場合は、講義終了後かならず質問にくること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

原則として定期試験に基づいて評価する。試験問題は、原則として講義内容を要約した配布プリントをベースに作成する。試験は、基本的に、「～について論ぜよ」、「～とは何か」等、この科目の基礎的・体系的知識を問う論述形式で行う。補足的に、専門用語の理解や計算式の前提となる考え方を問う形式でも行う。
評価基準については、論述問題の場合、設問の意味を理解し、論理的に筋の通った回答をしているかが問われる。大筋を記述している答案には6割～７割の点数を与える。残りの3割～4割は、次のようなことを総合判断して評価する。①設問の背景に言及しているか、②キーワードを適切に使用しているか、③内容が詳しく論述されているか等。なお、採点にあたって、1. 箇条書きは単なるメモと見なし減点する。2. 主語・述語が明確でない文章は減点する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義内容の要点をまとめたプリントと関連資料を配布し、それに沿って講義を行う。

◎－－－　参考書　－－－◎

池尾和人「現代の金融入門 [新版]」ちくま新書、2010年
ISBN-13: 978-4480065292

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

前期「証券市場論」を受講して、株式会社制度や株式などが売買される証券取引システムの仕組みについて基礎的知識を有していることが望ましい。
講義内容についての質問は大いに歓迎します。講義に熱心に耳を傾け、わからないところはそのつど質問するようにしてほしい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 対象と方法（講義の進め方）
2 情報の非対称性と金融取引
3 銀行の金融仲介機能の解説
4 金利・利回りの基礎知識　(1)
5 金利・利回りの基礎知識　(2)
6 株価指数(日経平均、TOPIX)の解説
7 デリバティブとは何か
8 先物取引
9 デリバティブと裁定、ヘッジ、投機(1)
10 デリバティブと裁定、ヘッジ、投機(2)
11 オプション　(1)
12 オプション　(2)
13 スワップ
14 金融の証券化とは
15 信用リスクとクレジット・デリバティブ

証券と金融

2019-4010000336-01

藤本　三喜男

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.三つのタイプ（出資タイプ、負債タイプ、デリバティブタイプ）の金融商品について説明できる。　(A-3)

2.金融仲介機関の三つのリスク (1)流動性リスク、(2)信用リスク、(3)金利リスクとは何かを説明できる。　(A-3)

3.金融機関の三つのリスクをコントロールするめの工夫について説明できる。　(A-3)

4.金融取引に「情報の非対称性」がもたらす問題を説明できる。　(A-2)

5.複利の原理、債券価格の計算の仕方を説明できる。　(A-2)

6.イールド・カーブとは何かを説明できる。　(A-2)

7.先物取引の仕組みを説明できる。　(A-2)

8.オプション取引の原理を説明できる。　(A-2)

9.デリバティブを使った取引、ヘッジ、裁定、投機の取引を説明できる。(A-3)

10.証券化の仕組みと問題点を説明できる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.三つのタイプ（出資タイプ、負債タイプ、デリバティブタイプ）の金融商品について説明できる。　(A-3)

2.金融仲介機関の三つのリスク (1)流動性リスク、(2)信用リスク、(3)金利リスクとは何かを説明できる。　(A-3)

3.金融機関の三つのリスクをコントロールするめの工夫について説明できる。　(A-3)

4.金融取引に「情報の非対称性」がもたらす問題を説明できる。　(A-2)

5.複利の原理、債券価格の計算の仕方を説明できる。　(A-2)

6.イールド・カーブとは何かを説明できる。　(A-2)

7.先物取引の仕組みを説明できる。　(A-2)

8.オプション取引の原理を説明できる。　(A-2)

9.デリバティブを使った取引、ヘッジ、裁定、投機の取引を説明できる。(A-3)

10.証券化の仕組みと問題点を説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

証券と金融

2019-4010000336-01

藤本　三喜男

◎貿易:A-2,A-3

1.三つのタイプ（出資タイプ、負債タイプ、デリバティブタイプ）の金融商品について説明できる。　(A-3)

2.金融仲介機関の三つのリスク (1)流動性リスク、(2)信用リスク、(3)金利リスクとは何かを説明できる。　(A-3)

3.金融機関の三つのリスクをコントロールするめの工夫について説明できる。　(A-3)

4.金融取引に「情報の非対称性」がもたらす問題を説明できる。　(A-2)

5.複利の原理、債券価格の計算の仕方を説明できる。　(A-2)

6.イールド・カーブとは何かを説明できる。　(A-2)

7.先物取引の仕組みを説明できる。　(A-2)

8.オプション取引の原理を説明できる。　(A-2)

9.デリバティブを使った取引、ヘッジ、裁定、投機の取引を説明できる。(A-3)

10.証券化の仕組みと問題点を説明できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3

1.三つのタイプ（出資タイプ、負債タイプ、デリバティブタイプ）の金融商品について説明できる。　(A-3)

2.金融仲介機関の三つのリスク (1)流動性リスク、(2)信用リスク、(3)金利リスクとは何かを説明できる。　(A-3)

3.金融機関の三つのリスクをコントロールするめの工夫について説明できる。　(A-3)

4.金融取引に「情報の非対称性」がもたらす問題を説明できる。　(A-2)

5.複利の原理、債券価格の計算の仕方を説明できる。　(A-2)

6.イールド・カーブとは何かを説明できる。　(A-2)

7.先物取引の仕組みを説明できる。　(A-2)

8.オプション取引の原理を説明できる。　(A-2)

9.デリバティブを使った取引、ヘッジ、裁定、投機の取引を説明できる。(A-3)

10.証券化の仕組みと問題点を説明できる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

消費者行動論

2019-4010000188-01

太宰　潮

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　　試験時間割：2019/08/01　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

基本的に学生の皆さんは、これから何らかの仕事や職に就く人、もしくは既にアルバイト等で仕事に就いている人が多いと思います。仕事の基本の形とは、自分や自分が所属する機関が提供する何らかの製品・サービスを、お客さんや一般の人に提供することです。そのときに、提供される側、つまり消費者のことを、もっと広く言えば、“ 相手のこと ”を考えることはとても大事です。

本講義では、「消費者」がどのような「行動」をするかについて、今までわかっている知識や消費者の捉え方を講義します。また、消費者行動を実際のマーケティング戦略へ応用することについても紹介していきます。この講義で得た知識をアルバイト先や就職活動で活かしたケースも積極的に紹介していきます。ぜひ、得た知識を応用することを念頭において講義を受けてください。

内容については授業計画の通りです。主に、消費者が商品やサービスを購入するときの「内的な（＝消費者側の）要因」、「外的な（＝環境など、消費者の外にある）要因」、「意思決定をどのように行っていくか」などのテーマを扱う予定です。

講義中は聴講者に問いかけながら講義を進めます。これは、受講する学生の皆さんの自発的・積極的な姿勢を少しでも引き出すためです。尋ねられた場合は自分の思うことをどんどん発言してください。また尋ねられなくても、皆さんの側から尋ねてもらって構いません。常に講義内容について考え、自分の意見を持っている癖をつけていてください。

なお、授業の進捗によって、授業の構成を一部変更することがあります。ご了承ください。

また、BtoCでマーケティング実務を行う方の招聘も予定している。

◎－－－　到達目標　－－－◎

内的要因や外的要因などを学ぶことで、企業として消費者に製品やサービスを提供する立場となった際、どのようなことに気をつけるべきかを説明できる（例えば基本である「デモグラフィック要因」が説明できるなど）。(知識・理解)

消費者の行動は「人間の原理」に基づいていること（例：知覚のメカニズムによって微細な価格変動が無視されること、人の記憶容量に限界があること）を説明できる。(知識・理解)

消費者に関する知識を踏まえ、現在の企業がどのような活動を行ってきたか、売場などの現場に置いてどのようにしていけばよいのか、事例などと共に説明ができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

プリントを配布しながら講義を進めますが、毎回講義の最後には、要点を３つ以内にまとめます。講義がはじまる前には、前週にやったことの要点をしっかり復習していてください。講義内でも、それより以前の内容を問いかけることがしばしばあります。

以前の内容を問いかけたり、以前の内容を踏まえて発展した学習内容であったりするので、講義内容の主に復習を１時間程度しておくことが望ましいです。講義とは別に、大学の活用法や挑戦の機会の紹介も行うことがありますが、その時間でそうしたことを振り返ってもらえることも理想です。また、回によっては事前の予習を支持するときもあります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験：85%、平常点（ミニッツペーパー等）：15%を基準とします。
当然試験内容は都度変わりますが、基本的には講義内容（例えば消費の内的要因や外的要因、消費者間のインタラクションの具体的内容や事例等）を理解し、それを正確に説明できたり、それを踏まえた設問に回答できるかが評価の基準になります。
講義内容をより深めるための質問など、積極的な講義への参加を加点する場合もあります。
尚、然るべき理由がなく欠席を重ねる人には、厳正に対処します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは用いません。適宜プリントを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

青木幸弘 新倉貴士、佐々木壮太郎、松下光司（2012）『消費者行動論--マーケティングとブランド構築への応用』　有斐閣　ISBN-13: 978-4641124639
田中洋（2008）『消費者行動論体系』　中央経済社　ISBN-13:978-4502662300
清水聰（1999）『新しい消費者行動』　千倉書房　ISBN-13:978-4805107638

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

より内容の理解を深めるためにも、本講義と併せてマーケティング関連の科目を履修することをお勧めします。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション
2. 消費者行動論の歴史と発展の経緯
3. モチベーション・リサーチ
4. 消費者の外的要因(1)
5. 消費者の外的要因(2)
6. 消費者の意思決定プロセス
7. 消費者の内的要因(1)
8. 消費者の内的要因(2)
9. 消費者の内的要因(3)
10. 消費者の内的要因(4)
11. 消費者間のインタラクション
12. 行動経済学と消費者行動論
13. 消費者行動と「ビッグデータ」
14. 消費者のメディア接触
15. まとめ

消費者行動論

2019-4010000188-01

太宰　潮

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.内的要因や外的要因などを学ぶことで、企業として消費者に製品やサービスを提供する立場となった際、どのようなことに気をつけるべきかを説明できる（例えば基本である「デモグラフィック要因」が説明できるなど）。　(A-3)

2.消費者の行動は「人間の原理」に基づいていること（例：知覚のメカニズムによって微細な価格変動が無視されること、人の記憶容量に限界があること）を説明できる。　(A-2)

3.消費者に関する知識を踏まえ、現在の企業がどのような活動を行ってきたか、売場などの現場に置いてどのようにしていけばよいのか、事例などと共に説明ができる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.内的要因や外的要因などを学ぶことで、企業として消費者に製品やサービスを提供する立場となった際、どのようなことに気をつけるべきかを説明できる（例えば基本である「デモグラフィック要因」が説明できるなど）。　(A-3)

2.消費者の行動は「人間の原理」に基づいていること（例：知覚のメカニズムによって微細な価格変動が無視されること、人の記憶容量に限界があること）を説明できる。　(A-2)

3.消費者に関する知識を踏まえ、現在の企業がどのような活動を行ってきたか、売場などの現場に置いてどのようにしていけばよいのか、事例などと共に説明ができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

消費者行動論

2019-4010000188-01

太宰　潮

◎貿易:A-2,A-3

1.内的要因や外的要因などを学ぶことで、企業として消費者に製品やサービスを提供する立場となった際、どのようなことに気をつけるべきかを説明できる（例えば基本である「デモグラフィック要因」が説明できるなど）。　(A-3)

2.消費者の行動は「人間の原理」に基づいていること（例：知覚のメカニズムによって微細な価格変動が無視されること、人の記憶容量に限界があること）を説明できる。　(A-2)

3.消費者に関する知識を踏まえ、現在の企業がどのような活動を行ってきたか、売場などの現場に置いてどのようにしていけばよいのか、事例などと共に説明ができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報産業論

2019-4010000326-01

弘津　真澄

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・１時限　　試験時間割：2019/07/25　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

情報システム会社での勤務の経験を活かし、以下のような講義を行います。
情報技術の進展は目覚しいものがあります。過去においてそうでしたし、現在もそれが衰える兆しがありません。家庭でも、産業においても情報技術が様々な場所で適用されています。そして、その範囲はどんどん拡大しています。情報産業が他の産業に徐々に浸透していっています。また、これまで情報産業に属していなかった企業が情報産業化しつつあります。メーカーも物ではなく情報を付加するサービスに軸足を移しつつあるのです。このような傾向は他にも多く見られます。
そこで、本講義は次のような立場をとります。①情報産業という個別の産業は存在しない。②全ての産業が情報を付加するサービス産業である。③たまたま、現在、コンピュータやネットワークに関する企業が情報産業といわれているに過ぎない。
そして、次のような順序で講義を進めていきます。まず、非常に狭義の情報という言葉について詳細な学習をします。この情報を手がかりに流通や経営というものを説明できるように学習します。そして、個人や組織が情報を付加するサービスを行っているということを確認します。見えるもの以上に見えない情報が重要であり、この見えない情報を認識できるようにします。次に、情報についてある程度見えるようになった目を手がかりに、最近の情報技術の適用事例と産業の変化について観察していきます。最後に、物のように形のあるものではなく、形のない情報を中心とした世界観（産業観、企業観、職業観、勤労観、倫理観）について学習し、本講義の締めくくりとします。
本講義を通して、「色も形もない情報というものが、今は見える」、という状態になってもらいたいと考えています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

本講義における情報の定義を体感かつ理解し、色も形もない情報を意識して操作できる程度の基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。(知識・理解)

本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。(知識・理解)

本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、先入観にとらわれず場合によっては創造的破壊をも視野に入れ、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を中心として、他の商学的な知識や多種多様な知識や見識を学び、自ら成長し続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定した資料は事前に読んでおくこと(30分)。
予習・復習や宿題(Moodleなど)がある場合は必ずやること(60分)。
ほぼ毎回、Moodleを使用して小テストをする予定なので、宿題や前回までの授業内容について復習しておくこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

本講義における情報の定義を体感かつ理解し、色も形もない情報を意識して操作できる程度の基本的な知識を身につけているかを評価の基準とする。
本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができるようになったかを評価の基準とする。
本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができるようになったかを評価の基準とする。
本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができるようになったかを評価の基準とする。
本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、先入観にとらわれず場合によっては創造的破壊をも視野に入れ、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができるようになったかを評価の基準とする。
企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができるようになったかを評価の基準とする。
社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を中心として、他の商学的な知識や多種多様な知識や見識を学び、自ら成長し続けることができるようになったかを評価の基準とする。

[評価]=[定期試験]×0.6
+[平常点（宿題・レポート・小テストなどを含む）]×0.4

フィードバックとして、Moodleを使用した小テストはMoodleで結果を見ることができます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストなし

◎－－－　参考書　－－－◎

『次世代流通サプライチェーン　ITマーチャンダイジング革命』 菅原正博(編著) 中央経済社 ISBN978-4502359804
以下に記した雑誌にも、普段から目を通すようにしましょう。
『日経パソコン』
『日経情報ストラテジー』
『日経コンピュータ』

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　情報産業とは
2　情報とは
3　組織における情報技術の利用方法の変遷
4　組織における情報化投資の変遷
5　最近の情報技術適用分野-1
6　最近の情報技術適用分野-2
7　最近の情報技術適用分野-3
8　情報技術による産業の変化-1
9　情報技術による産業の変化-2
10　情報技術による産業の変化-3
11　情報を中心とした産業観
12　情報を中心とした企業観
13　情報を中心とした職業観、勤労観
14　情報を中心とした倫理観
15　まとめ

情報産業論

2019-4010000326-01

弘津　真澄

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-1,B-4,C-2

1.　本講義における情報の定義を体感かつ理解し、色も形もない情報を意識して操作できる程度の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。　(A-4)

5.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、先入観にとらわれず場合によっては創造的破壊をも視野に入れ、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

6.　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-4)

7.　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を中心として、他の商学的な知識や多種多様な知識や見識を学び、自ら成長し続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3,B-1,C-2

1.　本講義における情報の定義を体感かつ理解し、色も形もない情報を意識して操作できる程度の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。

5.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、先入観にとらわれず場合によっては創造的破壊をも視野に入れ、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

6.　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

7.　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を中心として、他の商学的な知識や多種多様な知識や見識を学び、自ら成長し続けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報産業論

2019-4010000326-01

弘津　真澄

◎貿易:A-1,A-2,A-3,B-1,C-2

1.　本講義における情報の定義を体感かつ理解し、色も形もない情報を意識して操作できる程度の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。

5.　本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて、先入観にとらわれず場合によっては創造的破壊をも視野に入れ、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

6.　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を用いて解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

7.　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、本講義における情報の定義と情報技術の活用の発展史という知識を中心として、他の商学的な知識や多種多様な知識や見識を学び、自ら成長し続けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報システム論「（二部）」

2019-4010000350-03

福永　良浩

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・二部１時限　　試験時間割：2019/07/26　夜１限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義の内容は、情報システムに関する職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を身につけ、情報技術に携わる職業に就くか、担当業務に対して情報技術を活用できるようになることが目的です（主にITパスポート資格で求められているITスキルレベル１の内容を身につける）。ここでの職業人（になろうとする人）一人ひとりに求められるIT力とは、パソコンの操作ができる・パソコンを使ってデータの処理ができるということだけではなく、①ITを正しく理解し、業務に積極的に活用し、付加価値を生み出していけるか②職場内の課題を把握、分析し、そして解決するためにITをどのように活用すれば有効かを理解しているか③ITを安全に利用するための知識や、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を備えているかなどの視点から、ITの基礎的知識を身につけます。
システムエンジニアとして情報システム設計・開発の実務経験から、企業においてシステムを活用する考え方や事例を交え、心構えなどを講義します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ITを正しく理解し、業務に積極的に活用できる。(知識・理解)

職場内の課題を把握、分析できる。(知識・理解)

ITを安全に利用するための知識や、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を習得できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。また、指定した教科書を事前に読んでおいてください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価基準：
設定した問題に対して、情報システムを総合的に捉え、機能や仕組みについて適切に説明できる。

成績評価方法と割合：
「定期試験（75%）」および「ミニレポートの提出・受講態度（25%）」で総合的に評価します。また、講義中の積極的な発言などについては評価に加味をします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

九州ICT教育研究会『マネジメントのためのICT基礎講座』、晃洋書房、2015年3月、ISBN　978-4-7710-2616-2

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１：企業と法務
２：経営戦略
３：システム戦略
４：開発技術
５：プロジェクトマネジメント
６：サービスマネジメント
７：基礎理論
８：コンピュータ構成要素
９：ソフトウェア・ハードウェア
１０：ヒューマンインターフェース
１１：マルチメディア
１２：データベース
１３：ネットワーク
１４：セキュリティー
１５：まとめ

情報システム論「（二部）」

2019-4010000350-03

福永　良浩

◎商学:A-2,A-3

1.ITを正しく理解し、業務に積極的に活用できる。　(A-2)

2.職場内の課題を把握、分析できる。　(A-3)

3.ITを安全に利用するための知識や、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を習得できる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報システム論「（二部）」

2019-4010000350-04

福永　良浩

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・二部１時限　　試験時間割：2020/01/24　夜１限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義の内容は、情報システムに関する職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を身につけ、情報技術に携わる職業に就くか、担当業務に対して情報技術を活用できるようになることが目的です（主にITパスポート資格で求められているITスキルレベル１の内容を身につける）。ここでの職業人（になろうとする人）一人ひとりに求められるIT力とは、パソコンの操作ができる・パソコンを使ってデータの処理ができるということだけではなく、①ITを正しく理解し、業務に積極的に活用し、付加価値を生み出していけるか②職場内の課題を把握、分析し、そして解決するためにITをどのように活用すれば有効かを理解しているか③ITを安全に利用するための知識や、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を備えているかなどの視点から、ITの基礎的知識を身につけます。
システムエンジニアとして情報システム設計・開発の実務経験から、企業においてシステムを活用する考え方や事例を交え、心構えなどを講義します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ITを正しく理解し、業務に積極的に活用できる。(知識・理解)

職場内の課題を把握、分析できる。(知識・理解)

ITを安全に利用するための知識や、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を習得できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。また、指定した教科書を事前に読んでおいてください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価基準：
設定した問題に対して、情報システムを総合的に捉え、機能や仕組みについて適切に説明できる。

成績評価方法と割合：
「定期試験（75%）」および「ミニレポートの提出・受講態度（25%）」で総合的に評価します。また、講義中の積極的な発言などについては評価に加味をします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

九州ICT教育研究会『マネジメントのためのICT基礎講座』、晃洋書房、2015年3月、ISBN　978-4-7710-2616-2

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１：企業と法務
２：経営戦略
３：システム戦略
４：開発技術
５：プロジェクトマネジメント
６：サービスマネジメント
７：基礎理論
８：コンピュータ構成要素
９：ソフトウェア・ハードウェア
１０：ヒューマンインターフェース
１１：マルチメディア
１２：データベース
１３：ネットワーク
１４：セキュリティー
１５：まとめ

情報システム論「（二部）」

2019-4010000350-04

福永　良浩

◎商学:A-2,A-3

1.ITを正しく理解し、業務に積極的に活用できる。　(A-2)

2.職場内の課題を把握、分析できる。　(A-3)

3.ITを安全に利用するための知識や、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を習得できる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報社会論

2019-4010000351-01

永星　浩一

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・３時限　　試験時間割：2020/01/16　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

私たちは高度情報社会において社会生活を送っています。現代の市場経済社会では仮想空間において多数の売り手と買い手が取引をおこなっています。価格をはじめとした「情報」は、昔から市場における決定要素として重要な位置づけがなされてきましたが、それらを取り巻く環境に大きな変化が起こりつつあります。
これらの変化を見ていく上で、まず現代の情報メディアや情報端末が従来からの情報伝達メディアとどのような点で異なり、この変化をもたらすことになったのかについて明らかにする必要があります。それを解き明かすカギとなるのがアナログからデジタルへの変化です。また、広告との関連で情報を保存するメディア・情報を運ぶメディアについても解説します。販売単価としての視聴率、ネット・レーティングそれぞれの問題点について明らかにします。
本講義では、市場経済の存立上重要なポイントである、情報社会における情報倫理問題も取り上げます。ネット市場を脅かすネット犯罪、サイバーテロ問題、ネット社会における肖像権やプライバシー権をはじめとした個人の権利。知的財産権については、産業財産権と著作権、フェアユースの問題。さらに個人情報の保護、サイバー市場を支える暗号技術についても取り上げます。近年、急速にSNSが浸透し、ビジネスにおいても大きな影響を及ぼすようになっています。市場のEC化ひいてはソーシャル化にまつわる問題、それらがどのように進展し、社会をどのように変えてきつつあるのかを解説します。同時に社会はどう変わるべきかについて受講生に考察してもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

アナログ時代からデジタル時代へ、社会はどのように変わったか、「メディア」をキーワードとして説明できる。(知識・理解)

情報社会の成立において、どのような制度の見直しが必要であったか、知財及び個人情報の観点から説明できる。(知識・理解)

情報技術と結びついた人工知能（AI）が、今後の社会にどのような影響を与えるか説明できる。(知識・理解)

情報社会においてビジネスチャンスは拡大したが、従来の商業の中には苦境に立たされているものも存在する。それらは今後どうあるべきか、知見に基づいた考えを述べることができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習については、以下の資料を講義の前に学習することを勧めます。講義の回は(数字)で記しています。
総務省『情報通信白書』：本講義の全体に関連します。

e-Gov 法令検索で、関連する法律の条文に目を通すことが出来ます。ただし、法律の正式名称で検索しないと絞り込みができないので注意してください。

Video Research Ltd.『視聴率ハンドブック』：視聴率とネット・レーティングと広告の講義に先立って読んでください。

個人情報保護委員会の「個人情報保護法について」のWebページの内容は個人情報保護に関する良質な参考資料です。

経済産業省「電子商取引実態調査」
を読むことは電子商取引の学習にプラスになります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準

到達目標に示した内容について、データや事例を基に具体的かつ的確に自分の言葉で説明できているかを評価の基準とします。

評価方法

定期試験の成績を60%、平常点は40%で、毎授業中のアナライザーで行う確認テストおよびミニッツペーパーの評価を平常点として評価に反映させます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特にテキストは指定しませんが、以下の参考書や授業計画の各回のキーワードについて説明のある専門書を購入したり図書館等で積極的に探したりして読むよう心がけてください。

◎－－－　参考書　－－－◎

総務省『情報通信白書』（最新版）
e-Gov 法令検索 （これによって検索される各種法令）
Video Research Ltd.『視聴率ハンドブック』個人情報保護委員会の「個人情報保護法について」経済産業省「電子商取引実態調査」（最新版）

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

正当な理由のない授業中の入退室や私語、室内での着帽、授業とは無関係のスマホ操作、居眠り、代返などの迷惑行為や不正行為は行わないでください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

“ 情報 ” の今昔
情報を保存するメディアと情報を運搬するメディア
アナログからデジタルへ：記録・通信・放送・情報システム
ITコミュニケーション：インターネットが社会にもたらしたもの。
著作権とフェアユース：ICTと著作権、平成21年・平成24年改正著作権法をめぐって
ダウンロード販売：音楽・映像・書籍の電子化の従来のビジネスに与えた影響と権利の侵害
デジタル時代の知的財産権：産業財産権とビジネスモデル
情報社会と個人情報の保護
視聴率とネット・レーティングと広告
広告と個人情報の保護：プロファイリングと個人情報
情報社会と暗号技術：公開鍵暗号方式から量子暗号まで
電子商取引：EC化がもたらすもの、BtoB、BtoC、CtoC、GtoC
電子決済：クレジット、電子マネー、QRコード(バーコード）決済、デビットカード。電子化がもたらしたもの
ＳＮＳ：ブログ、ツイッター、フェースブック、インスタグラム、ソーシャルゲームと社会
総括：情報社会はどんな社会か

情報社会論

2019-4010000351-01

永星　浩一

◎商学:A-2,A-3,A-4,B-4

1.アナログ時代からデジタル時代へ、社会はどのように変わったか、「メディア」をキーワードとして説明できる。　(A-2)

2.情報社会の成立において、どのような制度の見直しが必要であったか、知財及び個人情報の観点から説明できる。　(A-3)

3.情報技術と結びついた人工知能（AI）が、今後の社会にどのような影響を与えるか説明できる。　(A-4)

4.情報社会においてビジネスチャンスは拡大したが、従来の商業の中には苦境に立たされているものも存在する。それらは今後どうあるべきか、知見に基づいた考えを述べることができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.アナログ時代からデジタル時代へ、社会はどのように変わったか、「メディア」をキーワードとして説明できる。　(A-2)

2.情報社会の成立において、どのような制度の見直しが必要であったか、知財及び個人情報の観点から説明できる。　(A-3)

3.情報技術と結びついた人工知能（AI）が、今後の社会にどのような影響を与えるか説明できる。　(A-3)

4.情報社会においてビジネスチャンスは拡大したが、従来の商業の中には苦境に立たされているものも存在する。それらは今後どうあるべきか、知見に基づいた考えを述べることができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報社会論

2019-4010000351-01

永星　浩一

◎貿易:A-2,A-3

1.アナログ時代からデジタル時代へ、社会はどのように変わったか、「メディア」をキーワードとして説明できる。　(A-2)

2.情報社会の成立において、どのような制度の見直しが必要であったか、知財及び個人情報の観点から説明できる。　(A-3)

3.情報技術と結びついた人工知能（AI）が、今後の社会にどのような影響を与えるか説明できる。　(A-3)

4.情報社会においてビジネスチャンスは拡大したが、従来の商業の中には苦境に立たされているものも存在する。それらは今後どうあるべきか、知見に基づいた考えを述べることができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理基礎

2019-4010000306-01

諸原　真樹

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・４時限　　試験時間割：2020/01/22　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この講義では、VBA（Visual Basic For Applications）をExcel上で学習していきます。VBAを使うと、プログラムからシート上のデータを処理するのはもちろん、Excel等のメニューにあるさまざまな機能もすべて利用することができます。さらに、ユーザーフォームを使うと、自分でダイアログボックスやさまざまな操作パネルを自作し、Excel等の拡張機能として利用できます。この講義を通して、プログラミングの基本と論理的構造を理解してみてください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

エクセルVBAを通してプログラムの基本を理解することができる。(技能)

VBAの基本、操作方法、コードの入力方法を理解することができる。(知識・理解)

条件の分岐、繰り返し処理など、プログラムに必要なアルゴリズム構造を理解することができる。(知識・理解)

複雑なデータ処理や膨大な作業量の効率化のためのプログラム手法を学習することができる。(知識・理解)

プログラムを学習することによって、将来社会人になった時に必要な論理的思考・情報処理能力を養うことができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　この講義は毎回コンピュータを使って実習をおこなっていく為、充分な予習・復習が必要となります。講義前は「授業計画」を参考にしながらテキストを読んで予習しておいてください。また講義後は実習した部分を理解できるまで繰り返し復習しておいてください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　平常点と定期試験の成績で評価します。具体的には、定期試験を50%、平常点を50%とします。定期試験の評価は、授業で学習した基本的な事項を正確に理解しているかを基準とします。
　平常点は課題の提出と受講態度から評価します。課題の提出は全5回を予定し、授業であつかった内容を実習作業できちんとできるかどうかを基準とし、受講態度は、授業中における禁止事項（必要のない私語、WEBの閲覧、スマートフォン・携帯の使用など）を対象とします。課題の提出の評価と受講態度を総合的に数値化して、平常点を評価していきます。
　演習が主体の講義であるため、欠席が多い場合、講義の内容が分からなくなることがあるので注意してください。日頃の出席と定期的に行う課題の提出が重要になってきますので、これらの点をきちんと留意して講義を登録してください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

『できるExcel マクロ&VBA 2013/2010/2007/2003/2002対応』（インプレスジャパン発行）
ISBN-10：4844334107
配布プリント（補足資料などが必要な場合は配布します。）

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　受講者は「情報表現技術」を受講した学生が望ましいが、受講していない学生は、E-Learning講座などで、Excelの基本操作を自学自習しておいてください。
　またこの講義はPC教室での講義なので、受講に際しては、以下の点を守ってください。
・必要のない私語の禁止
・飲食物の持ち込み禁止（携帯している場合は鞄の中に入れておく）
・携帯（スマートフォンなど）の使用禁止
・指示のないWEBページの閲覧禁止

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１.講義ガイダンス　プログラムとは
２.VBAの基本操作
３.マクロの自動記録
４.コードの入力方法
５.条件による分岐
６.処理の繰り返し
７.変数の意味と使い方
８.ユーザーインターフェイス
（コマンドボタン・ラベルの作成）
９.ユーザーインターフェイス
（チェックボックス・スピンボタンの作成）
１０.シートとブックの取り扱い
１１.ワークシートの印刷
１２.VBAを使用した統計処理
１３.関数を使ったVBAの処理
１４.VBAの応用
１５.まとめ

情報処理基礎

2019-4010000306-01

諸原　真樹

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.エクセルVBAを通してプログラムの基本を理解することができる。　(B-4)

2.VBAの基本、操作方法、コードの入力方法を理解することができる。　(A-1)

3.条件の分岐、繰り返し処理など、プログラムに必要なアルゴリズム構造を理解することができる。　(A-2)

4.複雑なデータ処理や膨大な作業量の効率化のためのプログラム手法を学習することができる。　(A-3)

5.プログラムを学習することによって、将来社会人になった時に必要な論理的思考・情報処理能力を養うことができる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.エクセルVBAを通してプログラムの基本を理解することができる。

2.VBAの基本、操作方法、コードの入力方法を理解することができる。　(A-1)

3.条件の分岐、繰り返し処理など、プログラムに必要なアルゴリズム構造を理解することができる。　(A-2)

4.複雑なデータ処理や膨大な作業量の効率化のためのプログラム手法を学習することができる。　(A-3)

5.プログラムを学習することによって、将来社会人になった時に必要な論理的思考・情報処理能力を養うことができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理基礎

2019-4010000306-01

諸原　真樹

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.エクセルVBAを通してプログラムの基本を理解することができる。

2.VBAの基本、操作方法、コードの入力方法を理解することができる。　(A-1)

3.条件の分岐、繰り返し処理など、プログラムに必要なアルゴリズム構造を理解することができる。　(A-2)

4.複雑なデータ処理や膨大な作業量の効率化のためのプログラム手法を学習することができる。　(A-3)

5.プログラムを学習することによって、将来社会人になった時に必要な論理的思考・情報処理能力を養うことができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理基礎

2019-4010000306-02

弘津　真澄

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　　試験時間割：2020/01/22　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　情報システム会社での勤務の経験を活かし、本講座では、次のような順に実習を含めて学習を進めていきます。
　第１に、基礎理論として、2進数と演算、情報・通信・計測・制御に関する理論、そしてデータ構造・アルゴリズム・プログラミング・言語について学習します。第２に、コンピュータシステムとして、コンピュータの構成と動作、CPU・メモリ・バス・入出力インタフェース、入出力装置・補助記憶装置、システムの形態と構成・性能指標・信頼性指標、オペレーティングシステム・ファイルシステム、そして開発言語について学習します。第３に、技術要素として、ヒューマンインタフェース・マルチメディア、データベース・SQL、そしてネットワーク・セキュリティ・暗号・認証・対策について学習します。第４に、開発技術として、システム開発の工程と管理技術について学習します。第5に、サービスマネジメント・システム戦略について学習します。
　ただし、実習部分は受講生の予備知識や設備の状態に応じて変更される場合があります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。(知識・理解)

　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識で持って解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　指定した教科書の部分は事前に読んでおくこと(60分)。
　宿題(Moodleなど)がある場合は必ずやること(30分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての基本的な知識を身につけているかを評価の基準とする。
　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができるかを評価の基準とする。
　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができるかを評価の基準とする。
　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができるかを評価の基準とする。
　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識でもって解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができるかを評価の基準とする。

　[評価]=[定期試験]×0.7
　　+[平常点（宿題・レポート・小テストなどを含む）]×0.3
　ただし、宿題・レポート・小テストなどがない場合は、
　　[評価]=[定期試験]×1.0
　とする。

　フィードバックとして、Moodleを使用した宿題はMoodleで結果を見ることができます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

角谷 一成 (著)、 イエローテールコンピュータ (編著)
『平成31年【春期】/01年【秋期】基本情報技術者 合格教本』
出版社: 技術評論社(2017/12/5)
価格:￥1,680+税
ISBN-10: 4297101939
ISBN-13: 978-4297101930

◎－－－　参考書　－－－◎

　以下に記した雑誌を、普段から目を通すようにしましょう。
『日経パソコン』
『日経コンピュータ』

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講座を受講するためには、ワープロ、表計算、Web、そしてｅ-メールの基本的使用方法について最低理解できている必要があります。十分理解できていない人は、まずそれらの使用方法について学習する講座（情報表現技術）を受講しましょ
う。

※登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 2進数と演算
2 情報・通信・計測・制御に関する理論
3 データ構造・アルゴリズム・プログラミング・言語
4 コンピュータの構成と動作
5 CPU・メモリ・バス・入出力インタフェース
6 入出力装置・補助記憶装置
7 システムの形態と構成・性能指標・信頼性指標
8 オペレーティングシステム・ファイルシステム
9 開発言語
10 ヒューマンインタフェース・マルチメディア
11 データベース・SQL
12 ネットワーク・セキュリティ・暗号・認証・対策
13 システム開発の工程と管理技術
14 サービスマネジメント・システム戦略
15 まとめ・復習

情報処理基礎

2019-4010000306-02

弘津　真澄

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。　(A-4)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識で持って解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識で持って解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理基礎

2019-4010000306-02

弘津　真澄

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、　コンピュータにおける情報の表現やハードウェアとソフトウェアについての知識で持って解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理基礎

2019-4010000306-03

永島　徹

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・５時限　　試験時間割：2020/01/22　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　データベースは現代社会で多く用いられ、知らず知らずのうちに使っていることがあります。例えば、携帯電話やスマートホンの住所録等です。また、現代は多種・多量の混在したデジタルデータを入手することが可能です。この多量なデータから現在の自分に必要なデータを抽出・加工・解析できることが重要となります。
　この講義では数多くあるリレーショナルデータベースソフトの中から手軽に利用できるMS－Access を用いてデータベースの概念と利用方法の基礎を学習します。また、合わせて有用なフリーソフトの紹介とインストール方法、その利用について紹介します。
　データベースソフトであるMS－Accessを操作しますので「情報表現技術」を受講していること、Windowsの操作・Ms-Office類・エクスプローラ・マウスの操作が十分できること、または同程度の知識と操作能力が必要です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

１．データベースの概要を理解する。(技能)

２．テーブル、フィールド、レコードを理解する。(知識・理解)

３．基礎的なデータベースの設計ができる。(知識・理解)

４．テーブルへのデータ入力ができる。(知識・理解)

５．仮想テーブルが作成できる。(知識・理解)

６．フォーム・レポートが作成できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

福岡大学のパソコンにインストールされているので自学自習を基本とする
　毎回の授業で行う操作、課題（授業計画参照）を復習する（30分）。
また、eラーニングソフトであるMoodleにアクセスし期限までに課題を提出する。(30分)
常日頃パソコンに接しパソコンを身近なものとする。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　到達目標1.は、データベースの概要を説明するレポート提出で評価する。(5%)
　到達目標2.3.4.5.6は、毎回の課題レポート（またはMoodle上での課題の提出）で評価する。(30%)
　課題のデータベース（2回の演習問題）の作成・操作ができることで評価する。(25%)
　そのため、授業に出席することが極めて重要です。
　定期試験40%で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

『よくわかるMicrosoft Access 2016 基礎』
著者／編集：FOM出版
出版社：富士通エフ・オー・エム　定価2,160円
ISBN978-4-86510-293-2

◎－－－　参考書　－－－◎

「図解　データベースのしくみ」　ISBN 4886486533

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　受講に際しては、キーボード操作ができることが必要です。また、実習を中心に行いますので休んだり遅刻しないように心掛けることが重要です。必ず復習を行い、分からないところは質問してください。次回の実習までには前回の実習での操作ができるようになることが必要です。
　テキストに沿って授業を行いますのでテキストを持参すること。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. ガイダンス、（Moodleの使い方）
　リレーショナルデータベースとは
　Accessの起動、終了、画面構成
2. データベースの設計、目的の明確化
3. データベースオブジェクトの概略
　テーブル、クエリ、フォーム、レポート
4. テーブルの設計　テーブル、フィールド、
　レコード
5. データ入力、リレーション、主キー
6. 外部データの読み込み
7. クエリとは、クエリの作成１
8. クエリの作成２
9. クエリの作成３
10. フォームとは、フォームの作成１
11. フォームの作成２
12. レポートとは、レポートの作成１
13. レポートの作成２
　　外部データへの書き出し
14. 演習１
15. 演習２

情報処理基礎

2019-4010000306-03

永島　徹

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.１．データベースの概要を理解する。　(B-4)

2.２．テーブル、フィールド、レコードを理解する。　(A-1)

3.３．基礎的なデータベースの設計ができる。　(A-2)

4.４．テーブルへのデータ入力ができる。　(A-3)

5.５．仮想テーブルが作成できる。　(A-4)

6.６．フォーム・レポートが作成できる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.１．データベースの概要を理解する。　(A-1)

2.２．テーブル、フィールド、レコードを理解する。　(A-1)

3.３．基礎的なデータベースの設計ができる。　(A-2)

4.４．テーブルへのデータ入力ができる。　(A-3)

5.５．仮想テーブルが作成できる。　(A-3)

6.６．フォーム・レポートが作成できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理基礎

永島　徹

2019-4010000306-03

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.１．データベースの概要を理解する。　(A-1)

2.２．テーブル、フィールド、レコードを理解する。　(A-1)

3.３．基礎的なデータベースの設計ができる。　(A-2)

4.４．テーブルへのデータ入力ができる。　(A-3)

5.５．仮想テーブルが作成できる。　(A-3)

6.６．フォーム・レポートが作成できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理基礎

2019-4010000306-04

福永　良浩

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・４時限　　試験時間割：2020/01/22　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

大学や社会ではデータベース(Access)を使ってデータを解析して考察する研究や業務が多い。このデータベースを使いこなす能力を高めデータを整理・分析する科学的方法を学びます。
本講義では、Accessのテーブル、フォーム、レポートの作成を学びます。また、Accessの主要機能であるクエリの利用を習得し、集計や演算されたレポートのデザインし作成していきます。
システムエンジニアとしてデータベース設計・開発の実務経験から、企業においてデータベースを活用する考え方や事例を交え、心構えなどを講義します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

データベースを使いこなす能力を高めデータを整理・分析することができる。(知識・理解)

テーブル、クエリ、フォーム、レポートのオブジェクトを理解し、作成することができる。(知識・理解)

データベースソフトを使いこなし、社会での課題解決に活用することができる。(知識・理解)

データベースソフトを使いこなし、産業の発展や企業の利益に貢献することができる。(知識・理解)

データベースソフトを総合的に活用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

前の講義（実習）の結果に加えて、次の実習では、テキストに基づいてさらに内容を深めて行くstep-by-step方式です。時間内にやり残した問題は、次の時間までに完成しておくことが肝要です。欠席した場合も同様です。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価基準：
設定した演習問題に対して、Accessでデータベースを作成し、適切なクエリを用いてデータを抽出し、課題を説明できる。

成績評価方法と割合：
「定期試験(30%)」、「講義時の総合演習テスト・受講態度(70%)」で総合的に評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかるマスターMOS Access 2016 対策テキスト&問題集』、FPT1621、FOM出版、ISBN 978-4-86510-323-6、2017年12月

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

空き時間には、PC-B教室や情報基盤センターのコンピュータを使い学習した事項を復習すること、また講義には「テキスト付属のCD-ROM」持参が必須です。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１.データベースの作成、保護・管理
２．【確認問題テスト１】
３.テーブル・フィールドを作成する
４.リレーションシップを設定する
５．【確認問題テスト２】
６.クエリを作成する
７.クエリの集計やグループ化
８．【確認問題テスト３】
９．フォームの作成
１０．フォームにコントロールを設定する
１１．【確認問題テスト４】
１２.レポートを作成する
１３.レポートのコントロールを設定する
１４.【確認問題テスト５】
１５.総合演習テスト

情報処理基礎

2019-4010000306-04

福永　良浩

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.データベースを使いこなす能力を高めデータを整理・分析することができる。　(A-1)

2.テーブル、クエリ、フォーム、レポートのオブジェクトを理解し、作成することができる。　(A-2)

3.データベースソフトを使いこなし、社会での課題解決に活用することができる。　(A-3)

4.データベースソフトを使いこなし、産業の発展や企業の利益に貢献することができる。　(A-4)

5.データベースソフトを総合的に活用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.データベースを使いこなす能力を高めデータを整理・分析することができる。　(A-1)

2.テーブル、クエリ、フォーム、レポートのオブジェクトを理解し、作成することができる。　(A-2)

3.データベースソフトを使いこなし、社会での課題解決に活用することができる。　(A-3)

4.データベースソフトを使いこなし、産業の発展や企業の利益に貢献することができる。

5.データベースソフトを総合的に活用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理基礎

2019-4010000306-04

福永　良浩

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.データベースを使いこなす能力を高めデータを整理・分析することができる。　(A-1)

2.テーブル、クエリ、フォーム、レポートのオブジェクトを理解し、作成することができる。　(A-2)

3.データベースソフトを使いこなし、社会での課題解決に活用することができる。　(A-3)

4.データベースソフトを使いこなし、産業の発展や企業の利益に貢献することができる。

5.データベースソフトを総合的に活用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理基礎

2019-4010000306-08

井田　貴志

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・１時限　　試験時間割：2020/01/22　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　情報処理基礎の目的は、表計算ソフトExcelを使って、ビジネスの現場でどのような時に、どのような処理を行えばよいのかについて、基本操作を習得することです。
　この講義（実習）では、表計算ソフトExcelの基本操作を習得した上で、実務現場での利用を考えたExcel関数の使い方について習得していきます。前期の情報処理入門（担当教員：井田）の継続的内容です。

注意１:座学ではなく実習です。

注意２:本講義を受講するためには「情報表現技術」を十分理解できたか、あるいは同程度の知識と操作能力が最低限必要になります。
　Windows、ワープロ、Ｅメールの基本的使用方法が十分できていない人は、まず「情報表現技術」を受講するようにお勧めします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

シリアル値に関する情報を整理できる。(知識・理解)

文字列データに関する情報を整理できる。(知識・理解)

Excel関数で多様な情報を整理できる。(知識・理解)

多様なデータに対して，適切な関数処理ができる。(知識・理解)

多変量解析の入門レベルができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

次の実習講義で使用する関数の機能や関数式を確認すること（30分）。
毎回の実習内容について，復習は必須事項である（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　実習講義で習得した関数の基本的な使用法、およびその応用がどの程度実践できるかを基準とする。
　成績評価は、平素の成績（確認問題を含む）30%、実習試験30%、定期試験40%で総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

『わかるハンディ　仕事がはかどるExcel関数合わせ技』AYURA／国本温子／不二桜／わかる編集部【著】、￥1,512、学研パブリッシング、2014年。
ISBN：9784054058781

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　表計算ソフトExcelによるデータ処理に関心があり、復習を十分におこなう学生の履修を歓迎します。

　前期の情報処理入門（担当教員：井田）を履修していない学生は、テキストを参考にして事前に学習してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　時刻の処理①
２　時刻の処理②
３　日付の計算①
４　日付の計算②
５　期間を求める
６　確認問題①
７　文字列操作①
８　文字列操作②
９　文字列操作③
１０　条件付き書式と入力規則
１１　データ抽出
１２　確認問題②
１３　度数分布表
１４　成績表
１５　実習試験

※確認問題の実施日は，講義進度により前後することがある。

情報処理基礎

2019-4010000306-08

井田　貴志

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.シリアル値に関する情報を整理できる。　(A-1)

2.文字列データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.Excel関数で多様な情報を整理できる。　(A-3)

4.多様なデータに対して，適切な関数処理ができる。　(A-4)

5.多変量解析の入門レベルができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.シリアル値に関する情報を整理できる。　(A-1)

2.文字列データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.Excel関数で多様な情報を整理できる。　(A-3)

4.多様なデータに対して，適切な関数処理ができる。

5.多変量解析の入門レベルができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理基礎

井田　貴志

2019-4010000306-08

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.シリアル値に関する情報を整理できる。　(A-1)

2.文字列データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.Excel関数で多様な情報を整理できる。　(A-3)

4.多様なデータに対して，適切な関数処理ができる。

5.多変量解析の入門レベルができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理基礎

2019-4010000306-09

井田　貴志

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・２時限　　試験時間割：2020/01/22　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　情報処理基礎の目的は、表計算ソフトExcelを使って、ビジネスの現場でどのような時に、どのような処理を行えばよいのかについて、基本操作を習得することです。
　この講義（実習）では、表計算ソフトExcelの基本操作を習得した上で、実務現場での利用を考えたExcel関数の使い方について習得していきます。前期の情報処理入門（担当教員：井田）の継続的内容です。

注意１:座学ではなく実習です。

注意２:本講義を受講するためには「情報表現技術」を十分理解できたか、あるいは同程度の知識と操作能力が最低限必要になります。
　Windows、ワープロ、Ｅメールの基本的使用方法が十分できていない人は、まず「情報表現技術」を受講するようにお勧めします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

シリアル値に関する情報を整理できる。(知識・理解)

文字列データに関する情報を整理できる。(知識・理解)

Excel関数で多様な情報を整理できる。(知識・理解)

多様なデータに対して，適切な関数処理ができる。(知識・理解)

多変量解析の入門レベルができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

次の実習講義で使用する関数の機能や関数式を確認すること（30分）。
毎回の実習内容について，復習は必須事項である（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　実習講義で習得した関数の基本的な使用法、およびその応用がどの程度実践できるかを基準とする。
　成績評価は、平素の成績（確認問題を含む）30%、実習試験30%、定期試験40%で総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

『わかるハンディ　仕事がはかどるExcel関数合わせ技』AYURA／国本温子／不二桜／わかる編集部【著】、￥1,512、学研パブリッシング、2014年。
ISBN：9784054058781

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　表計算ソフトExcelによるデータ処理に関心があり、復習を十分におこなう学生の履修を歓迎します。

　前期の情報処理入門（担当教員：井田）を履修していない学生は、テキストを参考にして事前に学習してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　時刻の処理①
２　時刻の処理②
３　日付の計算①
４　日付の計算②
５　期間を求める
６　確認問題①
７　文字列操作①
８　文字列操作②
９　文字列操作③
１０　条件付き書式と入力規則
１１　データ抽出
１２　確認問題②
１３　度数分布表
１４　成績表
１５　実習試験

※確認問題の実施日は，講義進度により前後することがある。

情報処理基礎

2019-4010000306-09

井田　貴志

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.シリアル値に関する情報を整理できる。　(A-1)

2.文字列データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.Excel関数で多様な情報を整理できる。　(A-3)

4.多様なデータに対して，適切な関数処理ができる。　(A-4)

5.多変量解析の入門レベルができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.シリアル値に関する情報を整理できる。　(A-1)

2.文字列データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.Excel関数で多様な情報を整理できる。　(A-3)

4.多様なデータに対して，適切な関数処理ができる。

5.多変量解析の入門レベルができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理基礎

井田　貴志

2019-4010000306-09

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.シリアル値に関する情報を整理できる。　(A-1)

2.文字列データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.Excel関数で多様な情報を整理できる。　(A-3)

4.多様なデータに対して，適切な関数処理ができる。

5.多変量解析の入門レベルができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理入門

2019-4010000305-01

諸原　真樹

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・４時限　　試験時間割：2019/07/27　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

私たちが普段、新聞やインターネットから何気に目にする数値情報もしくはデータは、どのような形で分析処理されているのでしょうか？この講義では、そのような疑問に対して、データ分析という処理の仕方で一定の解決方法を提示していきます。具体的にはExcelを使用しながらデータ分析を学んでいきます。前半は、Excelの基本を学習した後、グラフや関数の使い方を学びます。後半は、平均や分散といった統計データ分析の基本概念から、ピポットテーブルにおけるデータの扱い方・ABC分析・Zチャート・回帰分析といった分析手法を具体的なデータを使ってわかりやすく学んでいきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

エクセルの基本的な操作、データ入力の操作方法を理解することができる。(技能)

金融、会計、流通、貿易に関連する様々な数値をエクセルにデータ化し、効率的に整理することができる。(知識・理解)

財務分析、統計計算、貿易実務などエクセルデータを整理・加工して、分析できる。(知識・理解)

クロス集計、ABC分析、回帰分析などを使用し、様々な経済的事象における解決方法を学習し、それをレポートにまとめることができる。(知識・理解)

経済動向や将来の予測などを導き出すための高度なグラフ機能を身につけることができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

この講義は毎回コンピュータを使って実習をおこなっていく為、充分な予習・復習が必要となります。講義前は「授業計画」を参考にしながらテキストを読んで予習しておいてください。また講義後は実習した部分を理解できるまで繰り返し復習しておいてください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

平常点と定期試験の成績で評価します。具体的には、定期試験を50%、平常点を50%とします。定期試験の評価は、授業で学習した基本的な事項を正確に理解しているかを基準とします。
平常点は課題の提出と受講態度から評価します。課題の提出は全5回を予定し、授業であつかった内容を実習作業できちんとできるかどうかを基準とし、受講態度は、授業中における禁止事項（必要のない私語、WEBの閲覧、スマートフォン・携帯の使用など）を対象とします。課題の提出の評価と受講態度を総合的に数値化して、平常点を評価していきます。
演習が主体の講義であるため、欠席が多い場合、講義の内容が分からなくなることがあるので注意してください。日頃の出席と定期的に行う課題の提出が重要になってきますので、これらの点をきちんと留意して講義を登録してください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

『30時間アカデミック　情報活用　Excel2016/2013』（実教出版発行）
ISBN-10：4407340290
配布プリント（補足資料などが必要な場合は配布します。）

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

受講に際しては、Word、Excelの基本的な操作が必須となっています。「情報表現技術」を受講していない学生は、E-Learning講座などを行って、自分で学習しておいてください。
またこの講義はPC教室での講義なので、受講に際しては、以下の点を守ってください。
・必要のない私語の禁止
・飲食物の持ち込み禁止（携帯している場合は鞄の中に入れておく）
・携帯（スマートフォンなど）の使用禁止
・指示のないWEBページの閲覧禁止

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１. Excelの画面構成・基本操作
２. Excelの計算方法・基本的関数の使い方
３. グラフの作成
４. ワークシートの活用
５. セルの絶対参照
６. グラフの応用（円グラフ・積み上げグラフ）
７. グラフの応用（複合グラフなど）
８. 関数の応用（検索関数・文字列関数など）
９. 基本統計量の扱い方（平均・分散・標準偏差など）
１０. データベース処理
１１. クロス集計によるデータ整理
１２. ABC分析による分析
１３. 回帰分析
１４. 各分析手法を使用したレポートの作成
１５. まとめと補足

情報処理入門

2019-4010000305-01

諸原　真樹

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.エクセルの基本的な操作、データ入力の操作方法を理解することができる。　(B-4)

2.金融、会計、流通、貿易に関連する様々な数値をエクセルにデータ化し、効率的に整理することができる。　(A-1)

3.財務分析、統計計算、貿易実務などエクセルデータを整理・加工して、分析できる。　(A-2)

4.クロス集計、ABC分析、回帰分析などを使用し、様々な経済的事象における解決方法を学習し、それをレポートにまとめることができる。　(A-3)

5.経済動向や将来の予測などを導き出すための高度なグラフ機能を身につけることができる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.エクセルの基本的な操作、データ入力の操作方法を理解することができる。

2.金融、会計、流通、貿易に関連する様々な数値をエクセルにデータ化し、効率的に整理することができる。　(A-1)

3.財務分析、統計計算、貿易実務などエクセルデータを整理・加工して、分析できる。　(A-2)

4.クロス集計、ABC分析、回帰分析などを使用し、様々な経済的事象における解決方法を学習し、それをレポートにまとめることができる。　(A-3)

5.経済動向や将来の予測などを導き出すための高度なグラフ機能を身につけることができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理入門

2019-4010000305-01

諸原　真樹

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.エクセルの基本的な操作、データ入力の操作方法を理解することができる。

2.金融、会計、流通、貿易に関連する様々な数値をエクセルにデータ化し、効率的に整理することができる。　(A-1)

3.財務分析、統計計算、貿易実務などエクセルデータを整理・加工して、分析できる。　(A-2)

4.クロス集計、ABC分析、回帰分析などを使用し、様々な経済的事象における解決方法を学習し、それをレポートにまとめることができる。　(A-3)

5.経済動向や将来の予測などを導き出すための高度なグラフ機能を身につけることができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理入門

2019-4010000305-02

弘津　真澄

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・１時限　　試験時間割：2019/07/27　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　情報システム会社での勤務の経験を活かし、本講座ではイーサネット上で動作するTCP／IPという通信プロトコルを中心に、各レイヤーに沿って学習します。
　というのも、今日、多くのシステムがこれを使用しているためです。これとの比較としてOSI参照モデルとUDPについても学習します。
　ネットワークの要求分析や設計というものは、何の経験もない人が習得するのは困難です。そこで本講座の半分では、簡単なシステムを操作・構築しながら、ネットワーク内を流れるデータ量などを意識できるようにし、ネットワークの要求分析や設計にも、つなげていくことができるようにしています。
　ただし、この実習部分は受講生の予備知識や設備の状態に応じて変更される場合があります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

　情報ネットワークについての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。(知識・理解)

　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、情報ネットワークに関する知識でもって解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　指定した教科書の部分は事前に読んでおくこと(60分)。
　宿題(Moodleなど)がある場合は必ずやること(30分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　情報ネットワークについての基本的な知識を身につけているかを評価の基準とする。
　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができるかを評価の基準とする。
　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができるかを評価の基準とする。
　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができるかを評価の基準とする。
　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、情報ネットワークに関する知識でもって解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができるかを評価の基準とする。

[評価]=[定期試験]×0.7
　　+[平常点（宿題・レポート・小テストなどを含む）]×0.3
ただし、宿題・レポート・小テストなどがない場合は、
　[評価]=[定期試験]×1.0
とする。

　フィードバックとして、Moodleを使用した宿題はMoodleで結果を見ることができます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

三輪賢一[著]
『[改訂4版]TCP/IPネットワーク ステップアップラーニング』
技術評論社 2017/12/4
価格：￥1,980+税
ISBN-10: 4774193615
ISBN-13: 978-4774193618

◎－－－　参考書　－－－◎

　以下に記した雑誌を、普段から目を通すようにしましょう。
『日経パソコン』
『日経コンピュータ』

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

大学のネットワークドライブを使用して実習をする予定にはしていますが、状況によってはUSBメモリを各自購入してもらう必要があります。
本講座を受講するためには、ワープロ、表計算、Web、そしてｅ-メールの基本的使用方法について最低理解できている必要があります。十分理解できていない人は、まずそれらの使用方法について学習する講座（情報表現技術）を受講しましょう。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 インターネットとその成り立ち
2 パソコン・ネットワーク・2進数
3 TCP/IP・OSI参照モデル・ネットワーク機器
4 LAN・イーサネット・MACアドレス・ヘッダとトレーラ
5 IPアドレス・IPヘッダ・ルーティング
6 ポート番号・TCPヘッダ・UDPヘッダ
7 メール・SMTP・POP・メールサーバ
8 ホームページ・HTML・HTTP・URL・Webサーバ
9 ネットワークの設計・構築・運用・保守・安全対策
10 socketプログラムによる文字列の送受信
11 SMTPコマンド・POPコマンドによるメールの送受信
12 動的ホームページ　簡単な例
13 動的ホームページ　入力Formと計算
14 動的ホームページ　チャット
15 まとめ・復習

情報処理入門

2019-4010000305-02

弘津　真澄

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.　情報ネットワークについての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。　(A-4)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、情報ネットワークに関する知識でもって解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.　情報ネットワークについての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、情報ネットワークに関する知識でもって解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理入門

2019-4010000305-02

弘津　真澄

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.　情報ネットワークについての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.　情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.情報ネットワークに関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、情報ネットワークに関する知識でもって解釈し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理入門

2019-4010000305-03

永島　徹

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・５時限　　試験時間割：2019/07/27　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代社会では多くのデジタル化された情報が容易に入手できます。例えば、株価の時系列データ（時間的に連続して変化するデータ）、国が発行する白書類、またビッグデータと呼ばれる大量雑多なデータなどであります。これらのデータの中から自分が必要とするデータを選別、加工、解析し応用することが重要です。

まず、データの収集・整理・加工・分析方法は各人の必要により異なり、各種の方法があります。データの加工はFortran、C、JAVAなどのプログラム言語を用いて加工のためのプログラムを作成します。しかし、これはプログラムの知識を必要とし、初心者には容易ではありません。また、データ分析は専門分野の学問的基礎知識、数学、経験を必要とします。

現代ではスプレッドシートを用いて情報を処理する方法があります。そこで代表的なスプレッドシートであるMS-Excelを用いて、データの入力、加工、解析、応用方法を学びます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

１．Excelへのデータ入力、加工、出力などの基本操作ができる。 (技能)

２．日常的に表計算ソフトが利用できるようになる。 (知識・理解)

３．平均値、分散などの統計量の意味を理解する。 (知識・理解)

４．時系列データの意味を理解し、簡単な分析ができる。 (知識・理解)

5.　回帰分析の意味を理解し、簡単な分析ができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回の授業で行う操作、課題（授業計画参照）を復習する（30分）。
また、eラーニングソフトであるMoodleにアクセスし期限までに課題を提出する。(30分)
常日頃パソコンに接しパソコンを身近なものとする。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

到達目標１，２は，Moodleで提供した課題が解けるかで評価基準とします。（20%）

到達目標３，４、５は，時系列データをグラフ化できるか，平均値や分散等を求めることができるか,回帰分析ができるかを授業後に提出するレポートで評価します。（30%）

定期試験(50%)で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

『500円でわかるエクセル2016（断トツのわかりやすさ！）』、定価540円、ISBN978-4-05-611010-4、執筆：川崎純子　共著、発行所：株式会社学研プラス

◎－－－　参考書　－－－◎

500円でわかるエクセル関数　ISBN 9784056104431

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

受講に際しては、キーボード、マウス操作ができることが必要です。実習を中心に行いますので欠席、遅刻をしないように心掛けてください。テキストに沿って授業を行いますのでテキストを持参すること。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．ガイダンス、（Moodleの使い方）
基本操作１　起動、終了操作、ファイル操作
表計算ソフトについて、情報リテラシー
２．基本操作２　データ入力、編集、データ出力等
３．基本操作３　書式の設定等
４．基本操作４　表作成（家計簿）
（四則演算、合計、平均等）
５．基本操作５　データの視覚化
６．演習１（課題のレポート提出）
７．基本操作６　データ整理　（住所録）
８．基本操作７　表計算と関数（請求書）
９．時系列データ　株価時系列データの収集
　　グラフ化、移動平均
１０．時系列データ　株価データの傾向（相関）
　　日経平均株価とニューヨークダウの相関
１１．時系列データ　基準貸付利率を読み込み
　　基準貸付利率と社会事象の関連
１２．演習２（課題のレポート提出）
１３．回帰分析（最少２乗法による推定）
１４．質的データ（アンケートの処理）
　　一要因のグラフ化
１５．演習３（課題のレポート提出）

情報処理入門

2019-4010000305-03

永島　徹

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.1．Excelへのデータ入力、加工、出力などの基本操作ができる。　(B-4)

2.2．日常的に表計算ソフトが利用できるようになる。　(A-1)

3.3．平均値、分散などの統計量の意味を理解する。　(A-3)

4.4．時系列データの意味を理解し、簡単な分析ができる。　(A-4)

5.5.　回帰分析の意味を理解し、簡単な分析ができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.1．Excelへのデータ入力、加工、出力などの基本操作ができる。　(A-1)

2.2．日常的に表計算ソフトが利用できるようになる。　(A-1)

3.3．平均値、分散などの統計量の意味を理解する。　(A-2)

4.4．時系列データの意味を理解し、簡単な分析ができる。　(A-3)

5.5.　回帰分析の意味を理解し、簡単な分析ができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理入門

2019-4010000305-03

永島　徹

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.１．Excelへのデータ入力、加工、出力などの基本操作ができる。　(A-1)

2.２．日常的に表計算ソフトが利用できるようになる。　(A-1)

3.３．平均値、分散などの統計量の意味を理解する。　(A-2)

4.４．時系列データの意味を理解し、簡単な分析ができる。　(A-3)

5.5.　回帰分析の意味を理解し、簡単な分析ができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理入門

2019-4010000305-04

福永　良浩

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・４時限　　試験時間割：2019/07/27　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

大学や社会では表計算(Excel)を使ってデータを解析して考察する研究や業務が多い。この表計算を使いこなす能力を高めデータを整理・分析する科学的方法を学びます。
本講義では、Excelのブックの共有と管理を学びます。また、主要機能であるいろいろな関数の利用を習得します。さらに、Excelの関数とグラフを応用し、データを分析・解析する方法やマクロやフォームの作成を学びます。
システムエンジニアとして情報システム工程管理の実務経験から、企業において表計算ソフトを活用する考え方や事例を交え、心構えなどを講義します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

表計算ソフトを使いこなす能力を高めデータを整理・分析することができる。(知識・理解)

Excelの関数とグラフを応用し、データを分析・解析する方法やマクロやフォームの作成をすることができる。(知識・理解)

表計算ソフトを使いこなし、社会での課題解決に活用することができる。(知識・理解)

表計算ソフトを使いこなし、産業の発展や企業の利益に貢献することができる。(知識・理解)

表計算ソフトを総合的に活用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

前の講義（実習）の結果に加えて、次の実習では、テキストに基づいてさらに内容を深めて行くstep-by-step方式です。時間内にやり残した問題は、次の時間までに完成しておくことが肝要です。欠席した場合も同様です。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価基準：
設定した演習問題に対して、Excelで表計算やグラフを作成し、適切な関数を用いて課題を説明できる。

成績評価方法と割合：
「定期試験(30%)」、「講義時の総合演習テスト・受講態度(70%)」で総合的に評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集』、FPT1617 、FOM出版、ISBN 978-4-86510-317-5　2017年3月

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

空き時間には、PC-B教室や情報基盤センターのコンピュータを使い学習した事項を復習すること、また講義には「テキスト付属のCD-ROM」持参が必須です。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１.ブックの設定、プロパティ、データオプションを適用する
２.ブックやワークシートに保護や共有のプロパティを適用する
３.共有ブックを管理する
【確認問題テスト１】
４.数式を分析する
５.数式オプションを操作する
６.データの集計作業を実行する
【確認問題テスト２】
７.数式に関数を適用する
８.高度なグラフの機能を適用する
９.データを分析する
【確認問題テスト３】
１０.ワークシートデータを使用してグラフを作成する
１１.スパークラインを適用する
１２.データを抽出する
１３.データを並べ替える
１４.条件付き書式を適用する
【確認問題テスト４】
１５.総合演習テスト

情報処理入門

2019-4010000305-04

福永　良浩

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.表計算ソフトを使いこなす能力を高めデータを整理・分析することができる。　(A-1)

2.Excelの関数とグラフを応用し、データを分析・解析する方法やマクロやフォームの作成をすることができる。　(A-2)

3.表計算ソフトを使いこなし、社会での課題解決に活用することができる。(A-3)

4.表計算ソフトを使いこなし、産業の発展や企業の利益に貢献することができる。　(A-4)

5.表計算ソフトを総合的に活用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.表計算ソフトを使いこなす能力を高めデータを整理・分析することができる。　(A-1)

2.Excelの関数とグラフを応用し、データを分析・解析する方法やマクロやフォームの作成をすることができる。　(A-2)

3.表計算ソフトを使いこなし、社会での課題解決に活用することができる。(A-3)

4.表計算ソフトを使いこなし、産業の発展や企業の利益に貢献することができる。

5.表計算ソフトを総合的に活用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理入門

2019-4010000305-04

福永　良浩

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.表計算ソフトを使いこなす能力を高めデータを整理・分析することができる。　(A-1)

2.Excelの関数とグラフを応用し、データを分析・解析する方法やマクロやフォームの作成をすることができる。　(A-2)

3.表計算ソフトを使いこなし、社会での課題解決に活用することができる。(A-3)

4.表計算ソフトを使いこなし、産業の発展や企業の利益に貢献することができる。

5.表計算ソフトを総合的に活用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理入門

2019-4010000305-08

井田　貴志

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・１時限　　試験時間割：2019/07/27　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この講義（実習）では、表計算ソフトExcelの基本操作を習得した上で、実務現場での利用を考えたExcel関数の使い方について習得していきます。したがって、さまざまな関数の機能や関数（式）の作り方など、毎回の実習内容を十分に復習しておく必要があります。
　特に、ネスト形式の関数表現を習得するためには、しっかりと取り組まなければならないので、練習問題を一つ一つ確実に解答していくことが望まれます。

注意１:座学ではなく実習です。

注意２:本講義を受講するためには「情報表現技術」を十分理解できたか、あるいは同程度の知識と操作能力が最低限必要になります。
　　Windows、ワープロ、Ｅメールの基本的使用方法が十分できていない人は、まず「情報表現技術」を受講するようにお勧めします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Excel関数の使い方を説明できる。(知識・理解)

数値データに関する情報を整理できる。(知識・理解)

データの抽出方法について説明できる。(知識・理解)

データの統計的処理ができる。(知識・理解)

異なるデータについて，比較検討ができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

次の実習講義で使用する関数の機能や関数式を確認すること（30分）。
毎回の実習内容について、復習は必須事項である（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　実習講義で習得した関数の基本的な使用法、およびその応用がどの程度実践できるかを基準とする。
　成績評価は、平素の成績（確認問題を含む）30%、実習試験30%、定期試験40%で総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

『わかるハンディ　仕事がはかどるExcel関数合わせ技』AYURA／国本温子／不二桜／わかる編集部【著】、￥1,512、学研パブリッシング、2014年。
ISBN：9784054058781

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　表計算ソフトExcelによるデータ処理に関心があり、復習を十分におこなう学生の履修を歓迎します。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　Excelの基本機能
２　ネスト形式
３　条件分岐
４　論理式
５　さまざまな合計
６　端数処理
７　確認問題①
８　集計①
９　集計②
１０　分析①
１１　分析②
１２　確認問題②
１３　データ抽出
１４　表の組み替え
１５　実習試験

※確認問題は、講義進度により実施日は前後することがある。

情報処理入門

2019-4010000305-08

井田　貴志

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Excel関数の使い方を説明できる。　(A-1)

2.数値データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.データの抽出方法について説明できる。　(A-3)

4.データの統計的処理ができる。　(A-4)

5.異なるデータについて，比較検討ができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Excel関数の使い方を説明できる。　(A-1)

2.数値データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.データの抽出方法について説明できる。　(A-3)

4.データの統計的処理ができる。

5.異なるデータについて，比較検討ができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理入門

井田　貴志

2019-4010000305-08

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Excel関数の使い方を説明できる。　(A-1)

2.数値データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.データの抽出方法について説明できる。　(A-3)

4.データの統計的処理ができる。

5.異なるデータについて，比較検討ができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報処理入門

2019-4010000305-09

井田　貴志

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・２時限　　試験時間割：2019/07/27　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この講義（実習）では、表計算ソフトExcelの基本操作を習得した上で、実務現場での利用を考えたExcel関数の使い方について習得していきます。したがって、さまざまな関数の機能や関数（式）の作り方など、毎回の実習内容を十分に復習しておく必要があります。
　特に、ネスト形式の関数表現を習得するためには、しっかりと取り組まなければならないので、練習問題を一つ一つ確実に解答していくことが望まれます。

注意１:座学ではなく実習です。

注意２:本講義を受講するためには「情報表現技術」を十分理解できたか、あるいは同程度の知識と操作能力が最低限必要になります。
　　Windows、ワープロ、Ｅメールの基本的使用方法が十分できていない人は、まず「情報表現技術」を受講するようにお勧めします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Excel関数の使い方を説明できる。(知識・理解)

数値データに関する情報を整理できる。(知識・理解)

データの抽出方法について説明できる。(知識・理解)

データの統計的処理ができる。(知識・理解)

異なるデータについて，比較検討ができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

次の実習講義で使用する関数の機能や関数式を確認すること（30分）。
毎回の実習内容について、復習は必須事項である（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　実習講義で習得した関数の基本的な使用法、およびその応用がどの程度実践できるかを基準とする。
　成績評価は、平素の成績（確認問題を含む）30%、実習試験30%、定期試験40%で総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

『わかるハンディ　仕事がはかどるExcel関数合わせ技』AYURA／国本温子／不二桜／わかる編集部【著】、￥1,512、学研パブリッシング、2014年。
ISBN：9784054058781

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　表計算ソフトExcelによるデータ処理に関心があり、復習を十分におこなう学生の履修を歓迎します。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　Excelの基本機能
２　ネスト形式
３　条件分岐
４　論理式
５　さまざまな合計
６　端数処理
７　確認問題①
８　集計①
９　集計②
１０　分析①
１１　分析②
１２　確認問題②
１３　データ抽出
１４　表の組み替え
１５　実習試験

※確認問題は、講義進度により実施日は前後することがある。

情報処理入門

2019-4010000305-09

井田　貴志

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Excel関数の使い方を説明できる。　(A-1)

2.数値データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.データの抽出方法について説明できる。　(A-3)

4.データの統計的処理ができる。　(A-4)

5.異なるデータについて，比較検討ができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Excel関数の使い方を説明できる。　(A-1)

2.数値データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.データの抽出方法について説明できる。　(A-3)

4.データの統計的処理ができる。

5.異なるデータについて，比較検討ができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報処理入門

井田　貴志

2019-4010000305-09

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Excel関数の使い方を説明できる。　(A-1)

2.数値データに関する情報を整理できる。　(A-2)

3.データの抽出方法について説明できる。　(A-3)

4.データの統計的処理ができる。

5.異なるデータについて，比較検討ができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

2019-4010000347-01

永星　浩一

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-01

永星　浩一

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-01

永星　浩一

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

2019-4010000347-02

弘津　真澄

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義
授業時間割：前期：水・１時限　　試験時間割：定期試験なし
実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：無し

◎－－－　概要　－－－◎

　情報システム会社での勤務の経験を活かし、本講座では、次のような実習を含めて学習を進めていきます。
　現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
　ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
　本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
　他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
※登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
　センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
　FUポータルに関する説明。 電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
　ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
　マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
　表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
　関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
　WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
　論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
　マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
　プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
　プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
　ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
　HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
　マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
　マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-02

弘津　真澄

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-02

弘津　真澄

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

2019-4010000347-03

弘津　真澄

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・１時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　情報システム会社での勤務の経験を活かし、本講座では、次のような実習を含めて学習を進めていきます。
　現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
　ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
　本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
　他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
　登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
　センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
　FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
　ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
　マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
　表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
　関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
　WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
　論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
　マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
　プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
　プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
　ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
　HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
　マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
　マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-03

弘津　真澄

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-03

弘津　真澄

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

2019-4010000347-04

押本　則子

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-04

押本　則子

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

押本　則子

2019-4010000347-04

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

2019-4010000347-05

押本　則子

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-05

押本　則子

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-05

押本　則子

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

2019-4010000347-06

押本　則子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-06

押本　則子

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

押本　則子

2019-4010000347-06

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

2019-4010000347-07

押本　則子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-07

押本　則子

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

押本　則子

2019-4010000347-07

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

2019-4010000347-09

諸原　真樹

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：前期：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-09

諸原　真樹

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-09

諸原　真樹

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

諸原　真樹

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-10

諸原　真樹

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-10

諸原　真樹

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

川場　隆

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-11

川場　隆

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-11

川場　隆

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

野崎　竜太郎

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：前期：月・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
※登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-12

野崎　竜太郎

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-12

野崎　竜太郎

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

野崎　竜太郎

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：前期：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-13

野崎　竜太郎

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-13

野崎　竜太郎

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

津曲　隆

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：前期：水・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-14

津曲　隆

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-14

津曲　隆

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

津曲　隆

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
　ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
　本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
　他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
　登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
　センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
　FUポータルに関する説明。 電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
　ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
　マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
　表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
　関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
　WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
　論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
　マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
　プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
　プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
　ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
　HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
　マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
　マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-15

津曲　隆

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-15

津曲　隆

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

2019-4010000347-21

永島　徹

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：前期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-21

永島　徹

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-21

永島　徹

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報表現技術

永島　徹

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代の社会人は、ワープロ、表計算ソフト、そしてプレゼンテーションソフトは使えて当たり前と見なされる時代です。公式文書を綺麗に仕上げ、報告書では、データを表計算ソフトでグラフ化したものを貼り付け、分析した文章でまとめることができ、プレゼンテーション・ソフトで、自分の提案をより印象づけたりできて、ようやく「使いこなしている」と、周りから認めてもらえることになります。
ただし、オフィス・ソフトの機能をフルに使いこなして一見綺麗な成果物が作れるだけではだめです。作成した文書がネット情報のコピー・アンド・ペーストで埋め尽くされていたのでは何の価値もありません。引用のルールに基づいた出所の明示や参考資料一覧の出し方に至るまで、情報倫理に裏打ちされた自己表現ができているかも重要です。最近ではSNSの隆盛で出来合いのフォームに入力するだけの情報発信の機会が増えました。ホームページの作成では、Webデザインの基礎を学びます。自分オリジナルの情報表現です。
本講義は、福岡大学の情報システムの利用実習からはじめ、公式文書の書式から論文作成のマナーと技術、データの加工と適切なグラフ表現による情報価値の付加、知財に配慮し、かつ印象に残るプレゼンテーションやホームページ作成、メール作法など、スキル及び情報倫理にも配慮した「情報表現」についても解説し実習をしてもらいます。大学4年間だけでなく就職したあとにも役立つ内容になっています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。(知識・理解)

Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。(知識・理解)

Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。(知識・理解)

信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。(知識・理解)

PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。(知識・理解)

e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストを事前に読んで予習したり、パソコンが自宅にある人は実際試してみるとよいでしょう。事後学習ではテキストを参考にしながら与えられた課題を確実にこなしてください。
他の授業で出されたレポート課題や、ゼミ発表のプレゼンテーション作成などで、実際に試して応用してみるのが最も良い練習です。授業時間の何倍も自分で使って初めて身につきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストやレポートに加えて実習での取り組みによって到達目標の達成度の評価を行います。実習評価は40%でレポートおよび小テスト60%で評価します。レポートは印刷での提出、PC教室のパソコンにあるWingnetのレポート提出機能のほか、メール添付の形で提出を求めることがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

電子ブック形式の速習教本をオンラインで提供します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実習を中心とした授業ですから、休んだり遅刻したりすると内容を理解できなくなります。心構えをもって臨んでください。
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

導入と基本操作
センターのパソコン設備の紹介。：パスワード管理の重要性について。パソコンの起動と終了。マウスとキーボードの操作。OSの基本操作（起動、ウィンドウ操作。日本語入力とキーボード操作、切り取り、複写、貼付け等。）
ポータルの利用と電子メール
FUポータルに関する説明。電子メールの送受信とマナー（携帯メールとPCメールの違い）、OneDriveとWebアプリの利用。
Word(1)
ワープロによる文書の入力。フォントとポイント。中央揃え、右寄せ。ファイルの保存。印刷。
Word(2)
マルチメディア表現。図形処理や画像処理。描画オブジェクトの編集、クリップ・アートの挿入。公式文書の作成。
Excel(1)
表計算ソフトによってできること。参照のちがい。並べ替え。計算。
Excel(2)
関数によるデータ分析とグラフ化。
Excel(3)
WordとExcelの連携。Word文書にExcelの表やグラフを貼り付け、編集する。形式を選択して貼り付け。
Word(3)
論文作成のマナー、引用、図表のキャプション、出所・出典の明示、脚注・文末注、参考文献。
PowerPoint(1)
マルチメディア表現。画像の取り込みと処理・加工、サウンドの取り込みと編集。図形の作成。プレゼンテーションに用いるためのマルチメディアコンテンツ。
PowerPoint(2)
プレゼンテーションの技法の解説。アニメーションとサウンド。報告用プレゼンテーションの作成。資料向け印刷。
PowerPoint(3)
プレゼンテーション実習。実際にプレゼンテーションを行う。
ホームページ(1)
ホームページの仕組み。HTML
ホームページ(2)
HTML形式での編集と保存。サーバーへの保存と公開。
画像・映像・音声
マルチメディアファイルと編集。
ホームページとマルチメディア表現
マルチメディア表現とホームページ。

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報表現技術

2019-4010000347-22

永島　徹

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-4)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-4)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報表現技術

2019-4010000347-22

永島　徹

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.Wordでビジネス文書（公式文書）を作成することができる。　(A-1)

2.Excelの機能を使って統計データを的確にグラフ化し、説明することができる。　(A-2)

3.Excelの表やグラフをWordに貼り付けて諸課題についての解説文を加えレポートを作成することができる。　(A-3)

4.信用でき引用可能な文章や統計データや図表などの情報を見分け、引用ルールに基づいたレポートを作成することができる。　(A-3)

5.PowerPointを用いて現代社会の諸課題とその解決策ならびに社会の健全な発展についてプレゼン資料を作成し発表できる。　(A-3)

6.e-govの統計資料や法律の条文などを必要に応じて利用することができる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報倫理

2019-4010000354-01

永星　浩一

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・１時限　　試験時間割：2019/07/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　携帯電話やスマートフォンの情報端末の普及などによって、機器の基本的な操作ができる若者が増加する一方、社会が健全であり続けるために必要とされるネットワークや情報の利用マナーを個人が身に付けることはより難しくなってきています。例えば、メールの同報機能は、抵抗なく使用すると個人情報の保護の問題に抵触する可能性があるとか、震災時に善行を装ったデマのチェーンメールに引っかかると被害者であると同時に加害者ともなりうることなど、自然に身につくものではなく、「情報技術や情報社会の知識」とともに、きちんと学ぶことによってしか身につきません。これらの知識と密接な情報マナーの事例は数多くあります。例えば、音楽CDなど、著作権法で規定された私的利用を逸脱したコンテンツのコピーが一般化して、産業の健全な発展の阻害要因ともなっている現状があります。文字情報に関しても、洋の東西を問わず、ほとんどの大学で、ネット情報のコピー・アンド・ペーストでレポートを作成することに抵抗のない学生が増えたことで苦悩しています。このままでは、私たちの暮らしを豊かにするはずだった情報社会の深化が、社会を支えるべき人間を、ひいては社会そのものを劣化させることにもつながりかねません。
　このような現実に対して「こうすべき」とか「こうしてはならない」といった単なる題目を唱えるだけでは実質的な効果は期待できません。事実関係としての情報と社会倫理とのかかわりに関する「知識」ひいては「見識」に裏打ちされた倫理意識を身に付け、情報（産業）社会の健全な発展に寄与することのできる資質を身に付けた人材が社会に輩出されることこそ大切で、この科目の目的でもあります。その目的のため、本講義では、情報倫理だけでなく、情報化の歴史と社会の変化、経済の受けた影響なども関連知識として取り上げます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

情報社会の成立に伴って情報倫理が必要とされてきた理由について説明できる。(知識・理解)

デジタル化の進展に伴って情報社会が成立した歴史を説明できる。(知識・理解)

現代の情報社会において情報モラルが必要とされる理由と現状を説明できる。(知識・理解)

情報社会の健全な発展について、ネット情報から良質な情報（文章、統計データ、図表）を選び出し、適切な引用ルールに則ったレポートを作成できる。(知識・理解)

情報社会の諸問題の解決に関する情報倫理の重要性を商業の観点から説明できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　以下の資料を講義の前に学習することを勧めます。

総務省『情報通信白書』：本講義の全体に関連します。

e-Gov 法令検索で、関連する法律の条文に目を通すことが出来ます。

個人情報保護委員会「個人情報の保護のページ」

経済産業省「電子商取引実態調査」

　上の資料以外にも、授業計画の各回のキーワードについて説明のある本を図書館等で積極的に探したりして読むよう心がけてください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　情報社会における情報倫理のあり方を客観的に説明できることも重要ですが、自分自身が倫理に適った生き方ができるようになっているかがそれにも増して重要となります。ミニッツペーパーやレポートは内容以上に正しい情報倫理観のもと作成されているかが評価対象となります。定期試験60%、確認小テストやレポートなど平常点40%の割合で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

高橋慈子、原田隆史、佐藤翔、岡部晋典（2014）『情報倫理－ネット時代のソーシャル・リテラシー－』技術評論社
　ISBN 978-4-7741-6822-7

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　正当な理由のない授業中の入退室や私語、室内での着帽、授業とは無関係のスマホ操作、居眠り、代返などの迷惑行為や不正行為は行わないでください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

情報倫理とは
情報社会と情報倫理
ネットとコミュニケーション
メディアの変遷
メディアリテラシー
情報技術とセキュリティ
インターネットと犯罪
プライバシーと個人情報
知的所有権
企業と情報倫理
科学技術と倫理
デジタルデバイドとユニバーサルデザイン
SNSと情報モラル
情報通信社会とリテラシー
これまでのまとめ

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報倫理

2019-4010000354-01

永星　浩一

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.情報社会の成立に伴って情報倫理が必要とされてきた理由について説明できる。　(A-1)

2.デジタル化の進展に伴って情報社会が成立した歴史を説明できる。　(A-2)

3.現代の情報社会において情報モラルが必要とされる理由と現状を説明できる。　(A-3)

4.情報社会の健全な発展について、ネット情報から良質な情報（文章、統計データ、図表）を選び出し、適切な引用ルールに則ったレポートを作成できる。　(A-4)

5.情報社会の諸問題の解決に関する情報倫理の重要性を商業の観点から説明できる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.情報社会の成立に伴って情報倫理が必要とされてきた理由について説明できる。　(A-1)

2.デジタル化の進展に伴って情報社会が成立した歴史を説明できる。　(A-2)

3.現代の情報社会において情報モラルが必要とされる理由と現状を説明できる。　(A-3)

4.情報社会の健全な発展について、ネット情報から良質な情報（文章、統計データ、図表）を選び出し、適切な引用ルールに則ったレポートを作成できる。　(A-2)

5.情報社会の諸問題の解決に関する情報倫理の重要性を商業の観点から説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報倫理

2019-4010000354-01

永星　浩一

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.情報社会の成立に伴って情報倫理が必要とされてきた理由について説明できる。　(A-1)

2.デジタル化の進展に伴って情報社会が成立した歴史を説明できる。　(A-2)

3.現代の情報社会において情報モラルが必要とされる理由と現状を説明できる。　(A-3)

4.情報社会の健全な発展について、ネット情報から良質な情報（文章、統計データ、図表）を選び出し、適切な引用ルールに則ったレポートを作成できる。　(A-2)

5.情報社会の諸問題の解決に関する情報倫理の重要性を商業の観点から説明できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

情報倫理

2019-4010000354-02

津曲　隆

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・４時限　　試験時間割：2020/01/21　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　携帯電話やスマートフォンの情報端末の普及などによって、機器の基本的な操作ができる若者が増加する一方、社会が健全であり続けるために必要とされるネットワークや情報の利用マナーを個人が身に付けることはより難しくなってきています。例えば、メールの同報機能は、抵抗なく使用すると個人情報の保護の問題に抵触する可能性があるとか、震災時に善行を装ったデマのチェーンメールに引っかかると被害者であると同時に加害者ともなりうることなど、自然に身につくものではなく、「情報技術や情報社会の知識」とともに、きちんと学ぶことによってしか身につきません。これらの知識と密接な情報マナーの事例は数多くあります。例えば、音楽CDなど、著作権法で規定された私的利用を逸脱したコンテンツのコピーが一般化して、産業の健全な発展の阻害要因ともなっている現状があります。文字情報に関しても、洋の東西を問わず、ほとんどの大学で、ネット情報のコピー・アンド・ペーストでレポートを作成することに抵抗のない学生が増えたことで苦悩しています。このままでは、私たちの暮らしを豊かにするはずだった情報社会の深化が、社会を支えるべき人間を、ひいては社会そのものを劣化させることにもつながりかねません。
　このような現実に対して「こうすべき」とか「こうしてはならない」といった単なる題目を唱えるだけでは実質的な効果は期待できません。事実関係としての情報と社会倫理とのかかわりに関する「知識」ひいては「見識」に裏打ちされた倫理意識を身に付け、情報（産業）社会の健全な発展に寄与することのできる資質を身に付けた人材が社会に輩出されることこそ大切で、この科目の目的でもあります。その目的のため、本講義では、情報倫理だけでなく、情報化の歴史と社会の変化、経済の受けた影響なども関連知識として取り上げます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

情報社会の成立に伴って情報倫理が必要とされてきた理由について説明できる。(知識・理解)

デジタル化の進展に伴って情報社会が成立した歴史を説明できる。(知識・理解)

現代の情報社会において情報モラルが必要とされる理由と現状を説明できる。(知識・理解)

情報社会の健全な発展について、ネット情報から良質な情報（文章、統計データ、図表）を選び出し、適切な引用ルールに則ったレポートを作成できる。(知識・理解)

情報社会の諸問題の解決に関する情報倫理の重要性を商業の観点から説明できる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　以下の資料を講義の前に学習することを勧めます。

総務省『情報通信白書』：本講義の全体に関連します。

e-Gov 法令検索で、関連する法律の条文に目を通すことが出来ます。

個人情報保護委員会「個人情報の保護のページ」

経済産業省「電子商取引実態調査」

　上の資料以外にも、授業計画の各回のキーワードについて説明のある本を図書館等で積極的に探したりして読むよう心がけてください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　情報社会における情報倫理のあり方を客観的に説明できることも重要ですが、自分自身が倫理に適った生き方ができるようになっているかがそれにも増して重要となります。ミニッツペーパーやレポートは内容以上に正しい情報倫理観のもと作成されているかが評価対象となります。定期試験60%、確認小テストやレポートなど平常点40%の割合で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

高橋慈子、原田隆史、佐藤翔、岡部晋典（2014）『情報倫理－ネット時代のソーシャル・リテラシー－』技術評論社
　ISBN 978-4-7741-6822-7

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　正当な理由のない授業中の入退室や私語、室内での着帽、授業とは無関係のスマホ操作、居眠り、代返などの迷惑行為や不正行為は行わないでください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

情報倫理とは
情報社会と情報倫理
ネットとコミュニケーション
メディアの変遷
メディアリテラシー
情報技術とセキュリティ
インターネットと犯罪
プライバシーと個人情報
知的所有権
企業と情報倫理
科学技術と倫理
デジタルデバイドとユニバーサルデザイン
SNSと情報モラル
情報通信社会とリテラシー
これまでのまとめ

◎－－－　URL　－－－◎

速習教本
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/sokushu/)

情報倫理

2019-4010000354-02

津曲　隆

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,B-4

1.情報社会の成立に伴って情報倫理が必要とされてきた理由について説明できる。　(A-1)

2.デジタル化の進展に伴って情報社会が成立した歴史を説明できる。　(A-2)

3.現代の情報社会において情報モラルが必要とされる理由と現状を説明できる。　(A-3)

4.情報社会の健全な発展について、ネット情報から良質な情報（文章、統計データ、図表）を選び出し、適切な引用ルールに則ったレポートを作成できる。　(A-4)

5.情報社会の諸問題の解決に関する情報倫理の重要性を商業の観点から説明できる。　(B-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.情報社会の成立に伴って情報倫理が必要とされてきた理由について説明できる。　(A-1)

2.デジタル化の進展に伴って情報社会が成立した歴史を説明できる。　(A-2)

3.現代の情報社会において情報モラルが必要とされる理由と現状を説明できる。　(A-3)

4.情報社会の健全な発展について、ネット情報から良質な情報（文章、統計データ、図表）を選び出し、適切な引用ルールに則ったレポートを作成できる。

5.情報社会の諸問題の解決に関する情報倫理の重要性を商業の観点から説明できる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

情報倫理

2019-4010000354-02

津曲　隆

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.情報社会の成立に伴って情報倫理が必要とされてきた理由について説明できる。　(A-1)

2.デジタル化の進展に伴って情報社会が成立した歴史を説明できる。　(A-2)

3.現代の情報社会において情報モラルが必要とされる理由と現状を説明できる。　(A-3)

4.情報社会の健全な発展について、ネット情報から良質な情報（文章、統計データ、図表）を選び出し、適切な引用ルールに則ったレポートを作成できる。

5.情報社会の諸問題の解決に関する情報倫理の重要性を商業の観点から説明できる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

生活保障論

2019-4010000401-01

伊藤　豪

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：2020/01/21　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代社会において、人身にかかわるリスクは極めて多く、自然災害や交通事故などによる傷害・後遺障害、死亡をはじめ、長寿社会における老後の生活保障などに対する経済的保障の要請は強くなる一方である。この経済的保障を担うのが公的な社会保障・社会保険と私的な保険・年金保険である。
現代では、生命保険や年金保険さらには医療保険などの第三分野保険は、人々の生活にとって欠かせないものであり、さらに国や企業にとっても福祉社会達成のためには不可欠なものであるといえる。しかし、生命保険や年金保険が利用・活用されているにもかかわらず、人々は表層的な認識しかしておらず、本質的な理論や仕組みが理解されていないため、公的年金保険に対する不安感や不信感が醸成され、公的年金の空洞化問題など顕著に現われているのである。
長寿社会を迎えた今、公的な社会保障・社会保険の財政が逼迫しており、自助努力・自己責任がますます強くなってきている。その補完機能を果たすのが私的保険や私的年金としての企業年金・個人年金であり、今後ますますその重要性は高まり、その需要も拡大されることが予測される。
本講義では、まずはじめに現代社会における経済的保障システムを概観した後、私的保障としての生命保険に焦点を当て、生命保険の意義や役割、基本的種類・仕組みなどを理解する。そして、不確実性下における意思決定基準と生命保険需要、生命保険の特殊性などについて触れ、さらに近年その需要を伸ばしている第三分野保険、特に民間医療保険について述べる。これらの理論を踏まえた上で、生命保険事業、企業保障としての生命保険、社会保障をめぐる課題について講述する予定である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

生命保険や社会保障に関する基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

生命保険や社会保障に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。(知識・理解)

生命保険や社会保障に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義のはじめに前回行った講義内容についての復習を兼ねた確認を行うため、前回書きとめた講義ノートやテキストを読み直し（120分）、講義後はしっかりと復習を行って理解しておくことが必要となる。（120分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

生活保障をめぐる諸問題に対し理論的考察ができるようになっているかどうか、また、どのように対応していくかどうかを考えられるようになっているかどうかが評価基準となる。
評価方法としては、原則として定期試験10割で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

田畑康人・岡村国和編著『読みながら考える保険論〔増補改訂第3版〕』八千代出版/2018年4月/
ISBN978-4-8429-1714-6

◎－－－　参考書　－－－◎

石田重森著『改革期の社会保障』法研　ISBN 9784879546227
石田重森・庭田範秋編著『キーワード解説　保険・年金・ファイナンス』東洋経済新報社　ISBN 4-492-70102-8
田畑康人・岡村国和編著『人口減少時代の保険業』慶應義塾大学出版会　ISBN 978-4-7664-1824-8

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

保険論入門・保険論の履修後が望ましい。
また、週一回の講義で後期のみの為、内容を要約することもある。したがって、講義に出席し、内容をよく理解すること。
講義内容に関する質問等は随時受け付けます。
なお、この講義の関連科目として「リスクマネジメント論」があります。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　現代社会における経済的保障システム
2　生命保険の基本的種類（1）
3　生命保険の基本的種類（2）
4　生命保険の契約関係
5　生命保険の特徴と損害保険との比較（1）
6　生命保険の特徴と損害保険との比較（2）
7　生命保険契約の締結から終了まで（1）
8　生命保険契約の締結から終了まで（2）
9　生命保険契約の締結から終了まで（3）
10　生命保険と税金
11　不確実性下における意思決定基準（1）
12　不確実性下における意思決定基準（2）
13　社会保障をめぐる諸問題（1）
14　社会保障をめぐる諸問題（2）
15　社会保障をめぐる諸問題（3）

生活保障論

2019-4010000401-01

伊藤　豪

◎商学:A-1,A-2,A-3,B-1,C-2

1.生命保険や社会保障に関する基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.生命保険や社会保障に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.生命保険や社会保障に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3,B-1,C-2

1.生命保険や社会保障に関する基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.生命保険や社会保障に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.生命保険や社会保障に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

生活保障論

2019-4010000401-01

伊藤　豪

◎貿易:A-1,A-2,A-3,B-1,C-2

1.生命保険や社会保障に関する基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.生命保険や社会保障に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

3.生命保険や社会保障に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

4.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

西洋商業史

2019-4010000610-01

藤田　裕邦

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：2019/08/01　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、中世の西洋における商業・経済の流れについて取り扱う。
西洋の中核となるのはヨーロッパであるが、ヨーロッパ世界が成立したのは、地域のまとまりという面においても、社会的・文化的構造という面においても、中世初期の数百年のことである。この点で、古代と中世との間には、社会の性格に違いを認めることができる。また、中世においてヨーロッパ人の活動範囲は、ヨーロッパとその周辺地域に限られていた上、個人の自由な社会活動を制約する「領主制」と「共同体」が社会の基本的メカニズムとして機能していた。この点で、中世は、ヨーロッパ人の活動が非ヨーロッパにまで拡大し、かつ、個人の自由裁量の余地が大きくなった近世とは異なっている。本講義は、時間的には、古代とも近世とも異なる社会のあり方を持つ中世という時代を対象とする。また、取り扱う事象は狭く商業に限定することなく、農業・工業などを含む経済活動全体、さらには社会状況にまで眼を向けていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

西洋中世の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。(知識・理解)

「領主制」と「共同体」が西洋中世社会において果たした役割と、それらが解体に向かった状況について説明することができる。(知識・理解)

現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。(知識・理解)

歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。(知識・理解)

日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。(態度・志向性)

日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回の授業終了後、内容確認のための学習課題をFUポータル（「授業関連」→「授業支援」→「授業管理」）に掲出するので、それをもとに各自で復習すること（60分）。
また、授業に関する連絡事項も、同様にFUポータルに掲出するので、毎回の授業前後に確認すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：
授業において取り扱った事項と、その背景事情について、基本的な知識を習得しているかどうかを、評価基準とする。
評価方法：
定期試験のみによって評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

（１）石坂昭雄ほか『西洋経済史』（新版）（有斐閣双書）有斐閣，1985年　ISBN 4-641-09810-7
（２）馬場哲ほか『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房，2012年　ISBN 978-4-7710-2340-6
（３）「世界の歴史」編集委員会（編）『新 もういちど読む山川世界史』　山川出版社，2017年　ISBN 978-4-634-64090-0
（１）（２）は、教科書的体裁の大学生向け概説書である。商業史・経済史のすべての事象を授業において完全に網羅することは不可能であるから、授業では立ち入らなかった事象について興味を持った時には、これらも利用して欲しい。
（３）は、高等学校「世界史B」の教科書をもとに一般読者向けに取りまとめられた、世界史の概説書である。下記【履修上の留意点】について不安を抱いている人が利用するのに適している。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

限られた授業時間の中で、西洋史に関する基礎的な知識の全てを取り扱う余裕はない。幸い、中学校「社会」の歴史的分野では常識と目される程度の世界史の学習は行なわれており、また、高等学校学習指導要領では「世界史A」または「世界史B」の履修が必修とされている。そこで本講義は、受講者が、中学校「社会」程度の世界史の知識を持ち合せていること、高等学校「世界史A」「世界史B」程度の事項は百科事典・歴史事典などによって自力で調べることを前提に、授業を行う。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　中世の農業
2　中世の手工業
3　中世農村の商業
4　「商業の復活」（１）地中海商業と北海・バルト海商業
5　「商業の復活」（２）商人の社会関係
6　中世都市（１）「中世都市」の通説的イメージ
7　中世都市（２）中世都市の多様な側面
8　ギルド（１）ギルド組織
9　ギルド（２）都市とギルド
10　ドイツ=ハンザ（１）商人ハンザと都市ハンザ
11　ドイツ=ハンザ（２）ハンザ商業
12　「中世の世界経済」（１）遠隔地商業の展開
13　「中世の世界経済」（２）商業形態の変化
14　社会構造の転換（１）領主制の危機
15　社会構造の転換（２）農村構造の変化

西洋商業史

2019-4010000610-01

藤田　裕邦

◎商学:A-1,A-2,A-3,A-4,C-1,C-2

1.西洋中世の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.「領主制」と「共同体」が西洋中世社会において果たした役割と、それらが解体に向かった状況について説明することができる。　(A-2)

3.現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。　(A-3)

4.歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。　(A-4)

5.日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。　(C-1)

6.日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-2,A-3,C-1,C-2

1.西洋中世の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.「領主制」と「共同体」が西洋中世社会において果たした役割と、それらが解体に向かった状況について説明することができる。　(A-2)

3.現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。　(A-3)

4.歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。

5.日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。　(C-1)

6.日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

西洋商業史

2019-4010000610-01

藤田　裕邦

◎貿易:A-1,A-2,A-3,C-1,C-2

1.西洋中世の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.「領主制」と「共同体」が西洋中世社会において果たした役割と、それらが解体に向かった状況について説明することができる。　(A-2)

3.現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。　(A-3)

4.歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。

5.日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。　(C-1)

6.日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3,C-1,C-2

1.西洋中世の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.「領主制」と「共同体」が西洋中世社会において果たした役割と、それらが解体に向かった状況について説明することができる。　(A-2)

3.現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。　(A-3)

4.歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。

5.日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。　(C-1)

6.日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

西洋商業史Ａ

2019-4010000331-01

藤田　裕邦

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：2019/08/01　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、中世の西洋における商業・経済の流れについて取り扱う。
西洋の中核となるのはヨーロッパであるが、ヨーロッパ世界が成立したのは、地域のまとまりという面においても、社会的・文化的構造という面においても、中世初期の数百年のことである。この点で、古代と中世との間には、社会の性格に違いを認めることができる。また、中世においてヨーロッパ人の活動範囲は、ヨーロッパとその周辺地域に限られていた上、個人の自由な社会活動を制約する「領主制」と「共同体」が社会の基本的メカニズムとして機能していた。この点で、中世は、ヨーロッパ人の活動が非ヨーロッパにまで拡大し、かつ、個人の自由裁量の余地が大きくなった近世とは異なっている。本講義は、時間的には、古代とも近世とも異なる社会のあり方を持つ中世という時代を対象とする。また、取り扱う事象は狭く商業に限定することなく、農業・工業などを含む経済活動全体、さらには社会状況にまで眼を向けていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

西洋中世の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。(知識・理解)

「領主制」と「共同体」が西洋中世社会において果たした役割と、それらが解体に向かった状況について説明することができる。(知識・理解)

現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。(知識・理解)

歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。(知識・理解)

日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。(態度・志向性)

日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回の授業終了後、内容確認のための学習課題をFUポータル（「授業関連」→「授業支援」→「授業管理」）に掲出するので、それをもとに各自で復習すること（60分）。
また、授業に関する連絡事項も、同様にFUポータルに掲出するので、毎回の授業前後に確認すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：
授業において取り扱った事項と、その背景事情について、基本的な知識を習得しているかどうかを、評価基準とする。
評価方法：
定期試験のみによって評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

（１）石坂昭雄ほか『西洋経済史』（新版）（有斐閣双書）有斐閣，1985年　ISBN 4-641-09810-7
（２）馬場哲ほか『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房，2012年　ISBN 978-4-7710-2340-6
（３）「世界の歴史」編集委員会（編）『新 もういちど読む山川世界史』　山川出版社，2017年　ISBN 978-4-634-64090-0
（１）（２）は、教科書的体裁の大学生向け概説書である。商業史・経済史のすべての事象を授業において完全に網羅することは不可能であるから、授業では立ち入らなかった事象について興味を持った時には、これらも利用して欲しい。
（３）は、高等学校「世界史B」の教科書をもとに一般読者向けに取りまとめられた、世界史の概説書である。下記【履修上の留意点】について不安を抱いている人が利用するのに適している。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

限られた授業時間の中で、西洋史に関する基礎的な知識の全てを取り扱う余裕はない。幸い、中学校「社会」の歴史的分野では常識と目される程度の世界史の学習は行なわれており、また、高等学校学習指導要領では「世界史A」または「世界史B」の履修が必修とされている。そこで本講義は、受講者が、中学校「社会」程度の世界史の知識を持ち合せていること、高等学校「世界史A」「世界史B」程度の事項は百科事典・歴史事典などによって自力で調べることを前提に、授業を行う。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　中世の農業
2　中世の手工業
3　中世農村の商業
4　「商業の復活」（１）地中海商業と北海・バルト海商業
5　「商業の復活」（２）商人の社会関係
6　中世都市（１）「中世都市」の通説的イメージ
7　中世都市（２）中世都市の多様な側面
8　ギルド（１）ギルド組織
9　ギルド（２）都市とギルド
10　ドイツ=ハンザ（１）商人ハンザと都市ハンザ
11　ドイツ=ハンザ（２）ハンザ商業
12　「中世の世界経済」（１）遠隔地商業の展開
13　「中世の世界経済」（２）商業形態の変化
14　社会構造の転換（１）領主制の危機
15　社会構造の転換（２）農村構造の変化

西洋商業史Ａ

2019-4010000331-01

藤田　裕邦

◎商学

1.西洋中世の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.「領主制」と「共同体」が西洋中世社会において果たした役割と、それらが解体に向かった状況について説明することができる。　(A-2)

3.現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。　(A-3)

4.歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。　(A-4)

5.日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。　(C-1)

6.日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

西洋商業史Ｂ

2019-4010000332-01

藤田　裕邦

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：2020/01/27　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、近世以降の西洋における商業・経済の流れについて取り扱う。
現代の多くの国で機能している経済のしくみは、資本主義と呼ばれる。このしくみが本格的に展開するのは，おおむね18世紀以降の近代と呼ばれる時代からであるが、その萌芽は16世紀に始まる近世に遡る。近世に入ると、中世において機能していた「領主制」と「共同体」が解体して個人の自由裁量の余地が広がり、経済的合理主義を前面に打ち出した経済活動が広汎に行われるようになった。また、この頃からヨーロッパ人の活動が非ヨーロッパにまで拡大したため、資源利用と経済交流が全地球規模で展開することとなった。こうしたことから、近世以降は、中世までとは異なった形で経済が急速に展開していくのである。本講義では、資本主義を準備・展開させた近世・近代という時代を対象とする。 また、取り扱う事象は狭く商業に限定することなく、農業・工業などを含む経済活動全体、さらには社会状況にまで眼を向けていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

西洋近世・近代の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。(知識・理解)

近世・近代においての、ヨーロッパ諸国相互間や、ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界との間の経済関係について説明できる。(知識・理解)

現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。(知識・理解)

歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。(知識・理解)

日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。(態度・志向性)

日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回の授業終了後、内容確認のための学習課題をFUポータル（「授業関連」→「授業支援」→「授業管理」）に掲出するので、それをもとに各自で復習すること（60分）。
また、授業に関する連絡事項も、同様にFUポータルに掲出するので、毎回の授業前後に確認すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：
授業において取り扱った事項と、その背景事情について、基本的な知識を習得しているかどうかを、評価基準とする。
評価方法：
定期試験のみによって評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

（１）奥西孝至ほか『西洋経済史』（有斐閣アルマ）有斐閣，2010年　ISBN 978-4-641-12404-2
（２）神武庸四郎・萩原伸次郎『西洋経済史』（有斐閣Sシリーズ）有斐閣，1989年　ISBN 4-641-05926-8
（３）「世界の歴史」編集委員会（編）『新 もういちど読む山川世界史』　山川出版社，2017年　ISBN 978-4-634-64090-0
（１）（２）は、教科書的体裁の大学生向け概説書である。商業史・経済史のすべての事象を授業において完全に網羅することは不可能であるから、授業では立ち入らなかった事象について興味を持った時には、これらも利用して欲しい。
（３）は、高等学校「世界史B」の教科書をもとに一般読者向けに取りまとめられた、世界史の概説書である。下記【履修上の留意点】について不安を抱いている人が利用するのに適している。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

限られた授業時間の中で、西洋史に関する基礎的な知識の全てを取り扱う余裕はない。幸い、中学校「社会」の歴史的分野では常識と目される程度の世界史の学習は行なわれており、また、高等学校学習指導要領では「世界史A」または「世界史B」の履修が必修とされている。そこで本講義は、受講者が、中学校「社会」程度の世界史の知識を持ち合せていること、高等学校「世界史A」「世界史B」程度の事項は百科事典・歴史事典などによって自力で調べることを前提に、授業を行う。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　中世社会と近世社会
2　イングランドの工業化
3　商業革命
4　オランダ商業の展開（１）オランダの興隆
5　オランダ商業の展開（２）オランダの貿易関係
6　イギリスの海外進出（１）イギリスの貿易関係
7　イギリスの海外進出（２）イギリスの経済政策
8　フランス・ドイツの動向
9　ヨーロッパ諸国の植民地争奪
10　産業革命（１）農業革命と産業革命
11　産業革命（２）イギリス産業革命の特徴
12　世界市場の形成（１）「世界の工場」イギリス
13　世界市場の形成（２）イギリス経済の弱点
14　アメリカ経済の展開（１）独立前後のアメリカ経済
15　アメリカ経済の展開（２）独立後の経済発展

西洋商業史Ｂ

2019-4010000332-01

藤田　裕邦

◎商学

1.西洋近世・近代の商業・経済状況について、基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.近世・近代においての、ヨーロッパ諸国相互間や、ヨーロッパ世界と非ヨーロッパ世界との間の経済関係について説明できる。　(A-2)

3.現代西洋社会の習慣や制度の背景に隠れている歴史的事情を見出すことができる。　(A-3)

4.歴史を振り返ることによって、西洋の社会・経済の今後の見通しについて考えることができる。　(A-4)

5.日常生活や社会で見られる様々な事柄に対応するために、西洋商業史学習での経験を活用することができる。　(C-1)

6.日常生活や社会で見聞したことを、西洋商業史学習の成果と関連付けて考えることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

地域商業論

2019-4010000395-01

笹川　洋平

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・１時限　　試験時間割：2019/07/30　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

わが国の商業は、過去30年間、事業所数を減少させつづけている。小売商店についてみると、1982年の172万店から2016年には102万店へと減少している。減少する事業所の大半は個人が経営する個人商店である。

かつて中小商業問題として小売商店数の過剰が問題視された時代は遠い過去のものとなり、こんにちでは小売商店数の「過少」が買物弱者を生み、生活困難ひいては地域社会の存続にかかわる問題として認識されている。

加えて、個人商店数の減少は 「商店街」の存続問題にも及んでおり、商店街と関連する産業が生む雇用機会をも縮小するといわれている。それだけではない。商店街の衰退は、地域で生活する人々が、「地域の文化的価値との接触する機会」をも縮小させ、人々が集い賑わう「余暇空間」を街から消滅させる。概して個人商店の減少･消滅は地域社会の魅力を衰退させ、人々の域外流出による居住人口の減少を結果することになる。

皮肉なことではあるが、今日の商店街の衰退は、これまで人々が単なる買物施設としてしか認識してこなかった商店街が地域社会で果してきた複合的機能を気付かせている。かつて地域において人びとが集い賑わう社会的空間として果してきた商店街の役割は、商店街が社会的機能と経済的機能の境界領域に存立する独自な存在であることを再認識させている。

最近の全国で頻発している自然災害は、「災害に強い地域社会の強靱化」への関心を高めつつある。発災から救援隊が到着するまでの期間(3～4日間)を、地域全体(弱者を含める被災者)が自力で凌げる強靱性を備えなければならないことが強く認識され始めている。この観点からも、商店街は、単なる買物施設の収縮という経済問題だけではなく、防災、治安、防犯、衛生など安全･安心な地域づくりの面からも重要な拠点としての注目されている。

このような困難な状況にあって商店街の再生の途は、小さくても地域のニーズを的確に捉える「儲かる商業」として持続的成長をめざす「地域密着事業路線」や、かつて各地で存在した地域で共同所有された店舗で営まれた「商業」を見直し、再生のヒントにしようとする「共有･共同店舗路線」とに、関心が集まっている。それぞれの途がすすむ方向性は違っても、地域社会における社会性を保持あるいは再生し、社会としての地域を持続してゆこうとする意思は違わない。

講義では地域社会の一翼を担う商店街における構成する個別商店まで下降して、個別商店が直面している問題､「多様性」を核として形成されてきた商店街が抱えている問題などを、上述の観点に立って､できるだけ分析的なアプローチから考察する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.地域商業について基本的な知識を理解し、説明できる。(知識・理解)

2.中小商業および商店街の歴史的変遷と現在直面している課題を理解し、人びとの課題解決へ向けた取り組みを理解できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義ノートを復習して前回の講義内容を理解し、「授業の流れ」を把握して授業に臨むこと。また､商店街の存在価値を社会のあり方とかかわらせて考えてみたいという学生には､本シラバスで紹介している参考書を読むことをすすめる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（100%）によって目標達成度を評価する。なお､目標達成度の評価基準は､15回の授業全体の流れをどの程度まで理解できているかを問う形で行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

畢 滔滔『よみがえる商店街 (碩学舎/碩学叢書) 』(2014/2) ISBN 4494502088900563891 2
木下斉『稼ぐまちが地方を変える―誰も言わなかった１０の鉄則』(ＮＨＫ出版新書　460)　ISBN 4140884606
本間 義人『地域再生の条件』(2007/1)岩波新書　ISBN 4004310598 99

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. 商業と地域社会
2. 商業の効率指標と経営成果(1)
3. 商業の効率指標と経営成果(2)
4. 中小商業の存立モデル(1)
5. 中小商業の存立モデル(2)
6. 商業の集積モデル(1)
7. 商業の集積モデル(2)
8. 商店街の社会･経済機能
9. 商店街再生の取り組み(1)
10. 商店街再生の取り組み(2)
11. 商店街再生の取り組み(3)
12. 商店街再生の取り組み(4)
13. 商業空間の体系モデル(1)
14. 商業空間の体系モデル(2)
15. まとめ

地域商業論

2019-4010000395-01

笹川　洋平

◎商学:A-2,A-3

1.1.地域商業について基本的な知識を理解し、説明できる。　(A-2)

2.2.中小商業および商店街の歴史的変遷と現在直面している課題を理解し、人びとの課題解決へ向けた取り組みを理解できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.1.地域商業について基本的な知識を理解し、説明できる。　(A-2)

2.2.中小商業および商店街の歴史的変遷と現在直面している課題を理解し、人びとの課題解決へ向けた取り組みを理解できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

地域商業論

2019-4010000395-01

笹川　洋平

◎貿易:A-2,A-3

1.1.地域商業について基本的な知識を理解し、説明できる。　(A-2)

2.2.中小商業および商店街の歴史的変遷と現在直面している課題を理解し、人びとの課題解決へ向けた取り組みを理解できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ａ「（キャリア形成入門）」

2019-4010000355-01

森脇　淳子

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・５時限　　試験時間割：2019/07/30　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　自分の大学生活を自己責任で作っていく大切さを知ることが「キャリア形成」の第一歩です。この講義では、みなさんがこれからどのような人生を送りたいか、そのために大学生活をどのように過ごすかを一緒に考えます。自分の生き方を考えるときにヒントをくれるのが、共に学ぶ仲間です。授業はペアワークやグループワークを中心に進めます。自分とは異なる考えや意見にも丁寧に耳を傾けましょう。同時に、自分の考えや意見を相手に素直に伝えることにも挑戦しましょう。
　講義の後半では、大学生活をどのように過ごすか計画を立案し、発表します。毎回授業終了時には、ふりかえりレポートを書きます。論理的な文章を書くためのトレーニングと考え、取り組みましょう。

◆就業支援施設での求職支援、企業でのキャリア開発の経験を活かし、キャリア形成に必要な心構えや知識、スキルについて講義します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

自己分析を行い、自分の特性（価値観・興味・能力）を理解する。(知識・理解)

他者の様々な意見を聴き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につける。(知識・理解)

自分の将来について意欲的に考える姿勢を身につける。(知識・理解)

大学生活の目標や目的を明確にし、どのように過ごすか計画を立てることができる。(知識・理解)

論理的な文章を書くことができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

課題レポート作成のために対象者にインタビューすること。（60分）
課題レポートを作成すること。（60分）
毎回授業の最初に前回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。（60分）
プレゼン発表のための自主学習をすること。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①基準
・自分の特性を理解し、レポートに論理的に記述できているか
・ペアワーク、グループワークにおいて傾聴や発言ができているか
・キャリアデザインにおいて、大学での学びの目的を理解し、計画を立案できているか

②方法
定期試験30%、平常点70%（小テスト、小レポート、課題レポート、プレゼンテーション、ペアワーク・グループワークにおける積極性や協調性）を目安として総合的に評価します。
フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行います。
フィードバックとしてレポートにコメントして返します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

担当者がレジュメや資料を作成し、配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

『自立へのキャリアデザイン』　ISBN 9784779512032

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

自分が将来どのように働くのか、そのためには大学でどのようなことを学び、どう活かしていくのかをイメージして考えていく構成になっています。正解はそれぞれ異なるため、正解を導き出す過程や姿勢を重視します。主体的に講義に参加し、自ら学び発表することを期待します。

ペアワーク・グループワークにおいては積極的傾聴や発言が求められます。
欠席や遅刻をすると、「ペアワーク・グループワークにおける積極性や協調性」の評価が減点されます。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　オリエンテーション　自己紹介
２　キャリアデザインとは
３　「働く」をイメージする（DVD視聴）
４　協働のためのコミュニケーション　①傾聴
５　協働のためのコミュニケーション　②アサーション
６　協働のためのコミュニケーション　③グループディスカッション
７　自分を知る　①興味
８　自分を知る　②能力
９　自分を知る　③価値観
１０　大学生活の計画を立てる
１１　自分を伝える　①プレゼンテーションの基礎
１２　自分を伝える　②プレゼンテーション準備
１３　自分を伝える　③プレゼンテーション発表 １回目
１４　自分を伝える　④プレゼンテーション発表 ２回目
１５　プレゼンテーションのふりかえり、まとめ
※履修人数によって、プレゼンテーション発表の回数に増減があります。

特別講義A「（キャリア形成入門）」

2019-4010000355-01

森脇　淳子

◎商学:A-1

1.自己分析を行い、自分の特性（価値観・興味・能力）を理解する。　(A-1)

2.他者の様々な意見を聴き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につける。　(A-1)

3.自分の将来について意欲的に考える姿勢を身につける。　(A-1)

4.大学生活の目標や目的を明確にし、どのように過ごすか計画を立てることができる。　(A-1)

5.論理的な文章を書くことができる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.自己分析を行い、自分の特性（価値観・興味・能力）を理解する。　(A-1)

2.他者の様々な意見を聴き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につける。　(A-1)

3.自分の将来について意欲的に考える姿勢を身につける。　(A-1)

4.大学生活の目標や目的を明確にし、どのように過ごすか計画を立てることができる。　(A-1)

5.論理的な文章を書くことができる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義A「（キャリア形成入門）」

2019-4010000355-01

森脇　淳子

◎貿易:A-1

1.自己分析を行い、自分の特性（価値観・興味・能力）を理解する。　(A-1)

2.他者の様々な意見を聴き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につける。　(A-1)

3.自分の将来について意欲的に考える姿勢を身につける。　(A-1)

4.大学生活の目標や目的を明確にし、どのように過ごすか計画を立てることができる。　(A-1)

5.論理的な文章を書くことができる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｂ「（キャリア形成を考える）」

2019-4010000356-01

森脇　淳子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・２時限　　試験時間割：2020/01/24　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　これからみなさんが働く世界は、ますます不確実な時代を迎えています。少子高齢化やグローバル化、IT化が急速に進み、新たなビジネスモデルが求められる中、これまでの考え方や方法では理想とする職業生活の実現は難しいと言えるでしょう。特に人工知能やテクノロジーの発展により、多くの職業が失われ、新たな仕事や働き方が創出されています。それに伴い、「与えられた問題を解く」能力よりも「自ら問いを立て、解く」能力が求められています。
　この講義では、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」（社会人基礎力）と「答えの無い課題に取り組む力」を身につけることを目標とします。そのために、多様なメンバーでチームを作り、意見を交わし合いながら提示された課題をひとつずつ解決していきます。
　授業はグループワークを中心に進めます。ひとりでは得られなかった気づきや発見をし、自然と新たなものの見方や捉え方を得ていく楽しさを実感しましょう。毎回授業終了時には、ふりかえりレポートを書きます。論理的な文章を書くためのトレーニングと考え、取り組みましょう。

◆就業支援施設での求職支援、企業でのキャリア開発の経験を活かし、キャリア形成に必要な考え方や知識、スキルについて講義します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会人基礎力を理解する。(知識・理解)

自分の意見をまとめ、論理的に伝えることができる。(知識・理解)

他者の意見を共感を持って聞き、適切に理解することができる。(知識・理解)

与えられた課題を解決するための問題点を洗い出すことができる。(知識・理解)

問題点を解決するための資料を集め、解決案を立案できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

グループワークを中心に授業を進めるため、あらかじめ課題に則した資料をまとめておくこと。（90分）
課題について、グループのメンバーと議論をすること。（60分）
課題レポートを作成すること。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①基準
・社会人基礎力を理解し、実践できているか
・グループワークにおいて、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけているか
・課題解決において、手法を理解し実践できているか

②方法
定期試験30%、平常点70%（小レポート、課題レポート、プレゼンテーション、グループワークにおける積極性や協調性）を目安として総合的に評価します。
フィードバックとしてレポートにコメントして返します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

担当者がレジュメや資料を作成し、配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

『プロジェクト学習で始めるアクティブラーニング入門』
ISBN 9784339078138

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

社会で活躍するために必要な「社会人基礎力」と「答えの無い課題に取り組む力」をグループワークから学びます。正解はそれぞれ異なるため、正解を導き出す過程や姿勢を重視します。主体的に講義に参加し、自ら学び発表することを期待します。

グループワークにおいては積極的傾聴や発言が求められます。
欠席や遅刻をすると、「グループワークにおける積極性や協調性」の評価が減点されます。

※特別講義A（キャリア形成入門）を受講していることが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　オリエンテーション　自己紹介、チーム決め
２　社会人基礎力とは
３　協働のためのコミュニケーションの確認（傾聴、グループディスカッション）
４　プロジェクト①　本格的に議論をしてみよう
５　プロジェクト①　発表・ふりかえり（PDCA）
６　プロジェクト②　情報を集めよう
７　プロジェクト②　発表・ふりかえり（情報収集）
８　前半のふりかえり　新チーム決め
９　プロジェクト③　情報を分析しよう
１０　プロジェクト③　発表・ふりかえり（チーム活動のルール確認）
１１　プロジェクト④　問題を提起しよう
１２　プロジェクト④　発表・ふりかえり（課題発見のポイント）
１３　プロジェクト⑤　計画を構想しよう
１４　プロジェクト⑤　発表・ふりかえり（目的の明確化）
１５　総ふりかえり、まとめ
※進捗状況によって、プロジェクトの回数の減少があります

特別講義Ｂ「（キャリア形成を考える）」

2019-4010000356-01

森脇　淳子

◎商学:A-1

1.社会人基礎力を理解する。　(A-1)

2.自分の意見をまとめ、論理的に伝えることができる。　(A-1)

3.他者の意見を共感を持って聞き、適切に理解することができる。　(A-1)

4.与えられた課題を解決するための問題点を洗い出すことができる。　(A-1)

5.問題点を解決するための資料を集め、解決案を立案できる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.社会人基礎力を理解する。　(A-1)

2.自分の意見をまとめ、論理的に伝えることができる。　(A-1)

3.他者の意見を共感を持って聞き、適切に理解することができる。　(A-1)

4.与えられた課題を解決するための問題点を洗い出すことができる。　(A-1)

5.問題点を解決するための資料を集め、解決案を立案できる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｂ「（キャリア形成を考える）」

2019-4010000356-01

森脇　淳子

◎貿易:A-1

1.社会人基礎力を理解する。　(A-1)

2.自分の意見をまとめ、論理的に伝えることができる。　(A-1)

3.他者の意見を共感を持って聞き、適切に理解することができる。　(A-1)

4.与えられた課題を解決するための問題点を洗い出すことができる。　(A-1)

5.問題点を解決するための資料を集め、解決案を立案できる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｂ「（メディア社会論）」

2019-4010000356-02

三浦　元

期別：集中後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：集中後期　　試験時間割：2019/09/06　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

メディアを学ぶ「メディアリテラシー」は、より一層グローバル化する社会と深く係わる現代人にとってのリベラル・アーツ（基礎教養科目）。公共放送NHKでの政治部記者・会長秘書・福岡放送局長等の勤務経験を活かして、流動的・不透明な日本を取り巻く政治・経済・地域情勢を解説。2020年の東京五輪を前に、急速に進展するスーパーハイビジョン（4K・8K）放送やVR・AR技術、コンピュータ技術、スマホ展開活用の「新映像時代」を解析する。放送と通信が文字通り融合する中で、地球的規模の課題から身近な消費生活に至るまで関心の高い出来事を取り上げメディアの舞台裏を説く。講義の中で提起した課題をめぐって聴講生が自分で考え自分で答えを見出し、互いの意見や感想を述べ合う「双方向の講義」を展開する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

我々を取り巻く政治・経済・社会状況について意見を述べ説明することができる。(知識・理解)

情報技術等を活用して国内外の課題を取捨選択し解決の為の方策を見いだす。

地域や社会の発展に貢献するため自ら成長し多種多様な知識・見識を学び続ける。

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

新聞・テレビの報道や放送内容に普段から関心を持って接触すること。（20分）
講義前には、書物やインターネットなどを通して、次回テーマの基礎知識や専門用語の意味を理解すること。（20分）
講義中に提起する課題について、事前の準備も必要だが、突然の質問に柔軟に受け答えできる能力も重要で、発言も含め積極的な対応が出来る心構えをしっかり身に付けておくこと。（10分）
自分の能力を出し惜しみせず出し切ったかどうか反省し、講義内容を復習すること。（10分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義中の発言や講義後のリポートなど毎回の講義に参加する姿勢・平常点も重視する。
平常点50%・定期試験（集中講義の最終講義後に実施の確認テスト）50%で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義では使用しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

吉岡友治、2013、「いい文章には型がある」PHP新書や望月和彦、2003、「ディベートのすすめ」有斐閣選書などを講義中に適宜紹介。
NHK放送研究所、2002、「放送の20世紀」は参考になる。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義の場は、自分を鍛え、尊敬し親しい仲間を増やす場。就職活動に役立つ面接や小論文の書き方の指導は随時、対応する。これまでの夏季集中講義の聴講生の「意欲」を高く評価している。「情熱」「集中力」「努力」「執着心」を大切にして講義に臨んで欲しい。会えるのを楽しみにしている。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回：なぜ晴れた空は青く雲は白く夕焼けは紅色？なぜドレミ？Whyの大切さ
第2回：映像革新時代～世界最速ウサイン・ボルトの肉体の秘密～
第3回：オリンピック放送の舞台裏～スポーツ放送権料の高騰と放送イノベーション～
第4回：“ 異常気象新時代 ” 社会の危機対応～東日本大震災と関東大震災～
第5回：ハゲワシと少女～生命か報道か　ピューリッツア賞カメラマンの苦闘～
第6回：ハンセン病報道～差別とどう向き合うか～
第7回：テニス　大坂なおみ急成長の背景～特撮映像とデータ解析～
第8回：サッカー　ネイマールとイニエスタの華麗なる足技　２刀流大谷の世界への挑戦
第9回：義足のジャンパー・マルクスレームと車イスバスケット
第10回：CGディズニーアニメヒットの舞台裏
第11回：手描きアニメ細田守の世界
第12回：アニメ表現の説得力～9秒台を目指せ男子陸上100～　アニパラ車イステニス
第13回：国際化時代の放送サービス～伝説シルクロードと世界初大王イカの国際共同制作～
第14回：ドキュメンタリー冬の時代～“ 現代のベートーヴェン ” の罪～
第15回：大林宣彦監督『最後の講義』　もう一度作りたい～RKB木村栄文の執念～
第16回：定期試験（確認テスト）

特別講義Ｂ「（メディア社会論）」

2019-4010000356-02

三浦　元

◎商学:A-1

1.我々を取り巻く政治・経済・社会状況について意見を述べ説明することができる。　(A-1)

2.情報技術等を活用して国内外の課題を取捨選択し解決の為の方策を見いだす。

3.地域や社会の発展に貢献するため自ら成長し多種多様な知識・見識を学び続ける。

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.我々を取り巻く政治・経済・社会状況について意見を述べ説明することができる。　(A-1)

2.情報技術等を活用して国内外の課題を取捨選択し解決の為の方策を見いだす。

3.地域や社会の発展に貢献するため自ら成長し多種多様な知識・見識を学び続ける。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｂ「（メディア社会論）」

2019-4010000356-02

三浦　元

◎貿易:A-1

1.我々を取り巻く政治・経済・社会状況について意見を述べ説明することができる。　(A-1)

2.情報技術等を活用して国内外の課題を取捨選択し解決の為の方策を見いだす。

3.地域や社会の発展に貢献するため自ら成長し多種多様な知識・見識を学び続ける。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｃ「（表現する力をきたえるプログラム）」

2019-4010000352-01

田村　馨、兵土美和子

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・３時限　　試験時間割：2019/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

皆さんが社会に出てもっとも求められる能力は「表現する力」です。伝えるべきことをちゃんと伝えることが要求されるにもかかわらず、それを教えたり訓練する場は多くありません。本講義ではその機会と場を提供したいと思っています。
だからといって、ノウハウやテクニックそのものを教える講義ではありません。１つには、表現する意欲、欲求や姿勢がない人にノウハウやテクニックを授けても、その人からは他者の共鳴や感動を得る表現は生まれないからです。２つには、人によって、「何を」「どう」表現したいかは異なるので、身につければ表現する力が増すノウハウやテクニックは人によって違うからです。
本講義は、「表現する力をつけたい、高めたい」と思う学生に対して、「試行錯誤の中から自分の表現力の強みと弱みに気づき、自分なりのスタイルで表現する勘所を掴む場と機会を提供する」ものです。特に「書く力をつける」ことで達成度が計れるように設計されています。
予定では講義以外の課外プログラムも提供していきたいと思っています。
講義は田村と兵土が担当します。

【担当者が実務経験者の授業科目】
・中央官庁、民間のコンサルティングファームでの勤務経験を活かし、実務上求められる「表現する力」とは何か、それはどのようなスタンスなり考えで獲得できるものかを解説します（田村）。
・編集者としての勤務経験を活かし、「表現する力」につながる文章構成力、ストーリー創作力を実践的なワークを通して体験的に学んでもらいます（兵土）。

◎－－－　到達目標　－－－◎

主に商学の知識を素材に「表現するとはどういうことか」を説明できる。(知識・理解)

自分が置かれている環境について他者に説明できる。(知識・理解)

自分が取り組むべき課題が何かを他者に説明できる。(知識・理解)

自分の進むべき方向について他者に説明できる。(知識・理解)

表現する力をきたえるために必要な方法や鍛錬すべきことを説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・グループディスカッションを基本に講義は進みます。それに伴い次のような予習、復習、課題提出が発生します。
・事前に文献や記事、事前ワークが求められます（180分）。
・事後的に学びきれなかったこと、講義時間中に完成しなかったワークに関する復習が求められます（180分）。
・ほぼ毎回課題（エッセイが中心）提出が求められます（180分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・定期試験、課題提出および発言回数で評価します。それぞれの割合は５０：５０です。
・評価基準は「社会に出ると表現することがなぜ求められるかが説明でき、自分の思いや考えを伝える力をきたえるプログラムに参加し与えられた役割やタスクを果たすことができる」です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

『情報編集力をつける国語』　ISBN 4-480-42371-9
『話すチカラをつくる本』　ISBN 4-8379-7626-4
『原稿用紙10枚を書く力』　ISBN 4-479-30073-1
余裕がある方は加藤典洋「言語表現法講義」岩波書店も手にしてください。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・FB（Facebook)を活用し諸連絡・課題提出を行いますので、定期的なFB利用が必須となります。
・講義はワークショップスタイルで進めますので積極的な関与を受講生には求めます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．なぜ表現する力が求められるか？(田村・兵土)
２．表現するとはどういうこと？(田村・兵土)
３．自分の表現力を点検してみよう（兵土）
４．自己紹介力を点検する（兵土）
５．観察力をきたえる１（読む～見る～発見～気づく）（兵土）
６．観察力をきたえる２（書く）（兵土）
７．観察力をきたえる３（構成）（兵土）
８．発想力をきたえる１（読む～見る～発見～気づく）（兵土）
９．発想力をきたえる２（書く）（兵土）
10．発想力をきたえる３（構成）（兵土）
11．思考力をきたえる１（読む～見る～発見～気づく）（兵土）
12．思考力をきたえる２（書く）（兵土）
13．思考力をきたえる３（構成）（兵土）
14．ロジカルライティングで「自分の思いや考え」をあぶりだそう１（田村・兵土）
15．ロジカルライティングで「自分の思いや考え」をあぶりだそう２（田村・兵土）

注：講義の順番、内容は進捗状況や課外プログラムとの関係などで変わってきます。

特別講義Ｃ「（表現する力をきたえるプログラム）」

2019-4010000352-01

田村　馨、兵土美和子

◎商学:A-1

1.主に商学の知識を素材に「表現するとはどういうことか」を説明できる。(A-1)

2.自分が置かれている環境について他者に説明できる。　(A-1)

3.自分が取り組むべき課題が何かを他者に説明できる。　(A-1)

4.自分の進むべき方向について他者に説明できる。　(A-1)

5.表現する力をきたえるために必要な方法や鍛錬すべきことを説明できる。(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.主に商学の知識を素材に「表現するとはどういうことか」を説明できる。(A-1)

2.自分が置かれている環境について他者に説明できる。　(A-1)

3.自分が取り組むべき課題が何かを他者に説明できる。　(A-1)

4.自分の進むべき方向について他者に説明できる。　(A-1)

5.表現する力をきたえるために必要な方法や鍛錬すべきことを説明できる。(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｃ「（表現する力をきたえるプログラム）」

2019-4010000352-01

田村　馨、兵土美和子

◎貿易:A-1

1.主に商学の知識を素材に「表現するとはどういうことか」を説明できる。(A-1)

2.自分が置かれている環境について他者に説明できる。　(A-1)

3.自分が取り組むべき課題が何かを他者に説明できる。　(A-1)

4.自分の進むべき方向について他者に説明できる。　(A-1)

5.表現する力をきたえるために必要な方法や鍛錬すべきことを説明できる。(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｃ「（キャリア形成実践Ⅰ）」

2019-4010000352-02

高野　一郎、林　裕

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・５時限　　試験時間割：2019/07/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

「自分が行動して何か成し遂げる」、「目に見えるかたちで成果をチームで出す」というプロセスから学びを得る講義です。キャリア教育に求められる「社会的・職業的自立のために必要な能力」を、課題解決型学習（PBL）を通して伸ばしていきます。
企業において中小企業の経営コンサルティングに従事してきた経験（前職）と、学生のキャリア形成支援、就職支援に従事している経験（現職）の両方を活かして、企業等が抱える課題解決に向けた取り組みを通じて、社会人基礎力の向上につなげていきます。
　本講義では、先ず社会人基礎力の「考え抜く力（シンキング）」カテゴリーに特化して向上計画（行動計画）を策定します。この行動計画に沿ってグループワークに取り組んでいきます。グループワークでは、企業や地方自治体等、組織が抱える課題や問題について、重要な関連性のある情報(データや事実など)を見出し、その課題や問題の根源をつきとめ、最終的に解決策を提案（プレゼンテーション）します。これまで商学部で学んできた専門的な知識やスキルも生かしながら、また一方では、実際の業務を体験することで、商学部のカリキュラムの中から学ぶ必要がある専門領域を見つけ、今後の学修計画につなげていきましょう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

これまで商学部で学んできた知識やスキルを、実際の現場で活用することができるようになる。(知識・理解)

今後、商学部の学生として、学ぶ必要のある専門領域を見つけることができる。(知識・理解)

自身の現在の社会人基礎力水準を把握し、その向上へ向けた取り組みができるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

グループワーク中心で講義を進めていくため、次回の講義に向けて、あらかじめ自分たちが取り組むテーマに関する資料集めや、現地の視察・調査等の準備をしておく必要があります。（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．講義中の平常点　50%
２．成果　50%（試験、向上計画、提案内容）
上記２の成果とは、「試験の結果」及び「向上計画（行動計画）のプロセスと結果」、それに「提案内容」の3点を指します。
「向上計画（行動計画）」は、事前に提出する「自己評価シート」に基づいて、そのプロセスと結果から評価します。プロセスには、皆さんの講義中の取り組む姿勢や態度等も当然評価の対象として含まれます。
また本講義はグループワーク中心です。遅刻や欠席は「グループワークにおける積極性や協調性」の評価が減点されます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　担当者がレジュメや資料を作成し、配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

『京大医学部で教える合理的思考』　中山建夫著　日経ビジネス文庫　ISBN 978-4532197766

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①受講に必要な要素（☆３つのうち必要な要素は★とする）
・グループワークを主導できる　　★★☆
・レポート（4,000字程度）が作成できる　　★★★
・パワーポイントを使ってプレゼンテーションができる　　★★☆
②全回、無遅刻・無欠席で参加することを前提とする
③自らすすんで役割を果たす姿勢を求める（受動的な姿勢は評価しない）

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　本講義の概要/社会人基礎力の理解【林・高野】
第2回　アセスメント/向上計画の策定①【高野】
第3回　アセスメント/向上計画の策定②【高野】
第4回　現状把握/市場分析【林・高野】
第5回　【GW】課題の提示・計画立案【高野】
第6回　計画報告プレゼンテーション【高野】
第7回　【GW】計画の実行①【高野】
第8回　【GW】計画の実行②【高野】
第9回　中間チェック/改善策立案【高野】
第10回【GW】改善策実行①【高野】
第11回【GW】改善策実行②【高野】
第12回【GW】最終成果集計/報告書作成【高野】
第13回　成果報告プレゼンテーション【林・高野】
第14回　結果発表/優秀チームの表彰/振り返り【高野】
第15回　向上計画の振り返り・自己評価発表会【高野】
*【GW】→グループワーク

特別講義Ｃ「（キャリア形成実践Ｉ）」

2019-4010000352-02

高野　一郎、林　裕

◎商学:A-1

1.これまで商学部で学んできた知識やスキルを、実際の現場で活用することができるようになる。　(A-1)

2.今後、商学部の学生として、学ぶ必要のある専門領域を見つけることができる。　(A-1)

3.自身の現在の社会人基礎力水準を把握し、その向上へ向けた取り組みができるようになる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.これまで商学部で学んできた知識やスキルを、実際の現場で活用することができるようになる。　(A-1)

2.今後、商学部の学生として、学ぶ必要のある専門領域を見つけることができる。　(A-1)

3.自身の現在の社会人基礎力水準を把握し、その向上へ向けた取り組みができるようになる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｃ「（キャリア形成実践Ⅰ）」

2019-4010000352-02

高野　一郎、林　裕

◎貿易:A-1

1.これまで商学部で学んできた知識やスキルを、実際の現場で活用することができるようになる。　(A-1)

2.今後、商学部の学生として、学ぶ必要のある専門領域を見つけることができる。　(A-1)

3.自身の現在の社会人基礎力水準を把握し、その向上へ向けた取り組みができるようになる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｃ「（開発管理論）」

2019-4010000352-03

貝増　匡俊

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本授業では、企画書から作られた仕様書を基に、ソフトウェア開発がプロジェクトとして立ち上がるとき、どのようにプロジェクトを管理（マネジメント）していくのか学んでいきます。仕様書から計画を作成し、与えられた予算とスケジュール内でプロジェクトを終了させる必要があります。スケジュールの作成手法、スケジュール管理手法、リスクマネジメントなどプロジェクトマネジメントに関連する手法について、一部ワークショップ形式をとりながら講義中心の授業を進めます。
授業は主に次の3つのモジュールで構成されます。（１）プロジェクトの定義（２）プロジェクトの計画立案（３）プロジェクトのモニタリングと評価になります。それぞれのモジュールの後半でワークショップを行っていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

仕様書をプロジェクト的な要素として理解し、計画の重要性などを理解する。(知識・理解)

プロジェクト計画を作成する際に、制約などを理解した上で計画立案ができるようになる。(知識・理解)

スケジューリング作成やモニタリング手法などを理解する。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義の前にはレジュメを示すので、授業の前には読んでください。必要に応じて教科書の該当ページなども示すので、必ず事前に読んで下さい。講義で学んだことを定着するために復習してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

小テストでの評価（３回）（15%×3回）、最終課題レポートで評価（１回）（45%）、授業内での参加度（10%）で評価を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

レジュメ及び「プロジェクトマネジメント」実践講座

◎－－－　参考書　－－－◎

978　ISBN 4534054692

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回目 プロジェクトの定義
第2回目 プロジェクトの成功とプロジェクトマネジメント
第3回目 プロジェクトマネジメント技法
第4回目 プロジェクト憲章
第5回目 WBS（ワークブレイクダウンストラクチャー）(1)
第6回目 WBS（ワークブレイクダウンストラクチャー）(2)
第7回目 プロジェクトスケジュール作成手法（1）
第8回目 プロジェクトスケジュール作成手法（2）
第9回目 コストマネジメントと品質マネジメント
第10回目 リスクマネジメント
第11回目 人的資源マネジメント
第12回目 コミュニケーションマネジメント
第13回目 モニタリング
第14回目 プロジェクトの変更
第15回目 プロジェクトの評価とまとめ

特別講義Ｃ「（開発管理論）」

2019-4010000352-03

貝増　匡俊

◎商学:A-1

1.仕様書をプロジェクト的な要素として理解し、計画の重要性などを理解する。　(A-1)

2.プロジェクト計画を作成する際に、制約などを理解した上で計画立案ができるようになる。　(A-1)

3.スケジューリング作成やモニタリング手法などを理解する。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.仕様書をプロジェクト的な要素として理解し、計画の重要性などを理解する。　(A-1)

2.プロジェクト計画を作成する際に、制約などを理解した上で計画立案ができるようになる。　(A-1)

3.スケジューリング作成やモニタリング手法などを理解する。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｃ「（開発管理論）」

2019-4010000352-03

貝増　匡俊

◎貿易:A-1

1.仕様書をプロジェクト的な要素として理解し、計画の重要性などを理解する。　(A-1)

2.プロジェクト計画を作成する際に、制約などを理解した上で計画立案ができるようになる。　(A-1)

3.スケジューリング作成やモニタリング手法などを理解する。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｄ「（表現する力をきたえるプログラム）」

2019-4010000353-01

田村　馨

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：2020/01/21　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

皆さんが社会に出てもっとも求められる能力は「表現する力」です。伝えるべきことをちゃんと伝えることが要求されるにもかかわらず、それを教えたり訓練する場は多くありません。本講義ではその機会と場を提供したいと思っています。
だからといって、ノウハウやテクニックそのものを教える講義ではありません。１つには、表現する意欲、欲求や姿勢がない人にノウハウやテクニックを授けても、その人からは他者の共鳴や感動を得る表現は生まれないからです。２つには、人によって、「何を」「どう」表現したいかは異なるので、身につければ表現する力が増すノウハウやテクニックは人によって違うからです。
本講義は、「表現する力をつけたい、高めたい」と思う学生に対して、「試行錯誤の中から自分の表現力の強みと弱みに気づき、自分なりのスタイルで表現する勘所を掴む場と機会を提供する」ものです。特に「書く力をつける」ことで達成度が計れるように設計されています。
予定では講義以外の課外プログラムも提供していきたいと思っています。
講義は田村と兵土が担当します。

【担当者が実務経験者の授業科目】
・中央官庁、民間のコンサルティングファームでの勤務経験を活かし、実務上求められる「表現する力」とは何か、それはどのようなスタンスなり考えで獲得できるものかを解説します（田村）。
・編集者としての勤務経験を活かし、「表現する力」につながる文章構成力、ストーリー創作力を実践的なワークを通して体験的に学んでもらいます（兵土）。

◎－－－　到達目標　－－－◎

表現する力は課題発見力・設定力に比例する。この課題発見力・設定力を高める対話のやり方、進め方を例に「表現するとはどういうことか」を説明できる。(知識・理解)

自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分が置かれている環境」について他者に説明できる。(知識・理解)

自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分が取り組むべき課題」について他者に説明できる。(知識・理解)

自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分の進むべき方向」について他者に説明できる。(知識・理解)

表現する力をきたえるためには、リード・ザ・セルフが起点の次世代型リーダーシップを発揮できる実践の場が必要なことが説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・講義時またはFacebookにて次回の予告をしますので、関連するサイトや文献を事前に学習すること、また講義中にお知らせするサイトや文献による事後学習をおすすめします。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・定期試験、課外プログラムへの参加状況（参加実績で評価）、課題提出および発言回数で評価します。それぞれの割合は５０：２５：２５です。
・評価基準は「社会に出ると表現することがなぜ求められるかが説明でき、自分の思いや考えを伝える力をきたえるプログラムに参加し与えられた役割やタスクを果たすことができる」です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

『情報編集力をつける国語』　ISBN 4-480-42371-9
『話すチカラをつくる本』　ISBN 4-8379-7626-4
『原稿用紙10枚を書く力』　ISBN 4-479-30073-1
余裕がある方は加藤典洋「言語表現法講義」岩波書店も手にしてください。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・課外プログラム（昨年度は外部講師の講話、表現する力をきたえる実践としての中学校（梅林中、平尾中）・高校（修猷館高校）でのプログラム）への参加は単位取得の要件です。そのため受講生にはタイムマネジメント力が求められます。就職活動やバイト、クラブ・サークル活動をやりながら巧く時間をやりくりするマネジメント力が鍛らえ、試されます。
・FB（Facebook)を活用し諸連絡・課題提出を行いますので、定期的なFB利用が必須となります。
・講義はワークショップスタイルで進めますので積極的な関与を受講生には求めます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．自分の感覚、感性にきづく１（兵土）
２．自分の感覚、感性にきづく２（兵土）
３．自分の感覚、感性をきたえる１（レゴを使うワーク）（田村・兵土）
４．自分の感覚、感性をきたえる２（レゴを使うワーク）（田村・兵土）
５．表現力をきたえよう１（自分の志を考えよう）（兵土）
６．表現力をきたえよう２（インタビューワーク）（兵土）
７．表現力をきたえよう３（自分の志をエピソードで語ろう）（兵土）
８．表現力をきたえよう４（自分の志を書こう）（兵土）
９．表現力をきたえよう５（自分の志を表現しよう）（兵土）
10. エピソードで自分を語る１（兵土）
11. エピソードで自分を語る２（兵土）
12. 自己紹介文を書いてみよう１（兵土）
13. 自己紹介文を書いてみよう２（兵土）
14. 自己紹介文を発表しよう１（兵土）
15. 自己紹介文を発表しよう２（兵土）

注：講義の順番、内容は進捗状況や課外プログラムとの関係などで変わってきます。

特別講義Ｄ「（表現する力をきたえるプログラム）」

2019-4010000353-01

田村　馨

◎商学:A-1

1.表現する力は課題発見力・設定力に比例する。この課題発見力・設定力を高める対話のやり方、進め方を例に「表現するとはどういうことか」を説明できる。　(A-1)

2.自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分が置かれている環境」について他者に説明できる。　(A-1)

3.自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分が取り組むべき課題」について他者に説明できる。　(A-1)

4.自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分の進むべき方向」について他者に説明できる。　(A-1)

5.表現する力をきたえるためには、リード・ザ・セルフが起点の次世代型リーダーシップを発揮できる実践の場が必要なことが説明できる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.表現する力は課題発見力・設定力に比例する。この課題発見力・設定力を高める対話のやり方、進め方を例に「表現するとはどういうことか」を説明できる。　(A-1)

2.自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分が置かれている環境」について他者に説明できる。　(A-1)

3.自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分が取り組むべき課題」について他者に説明できる。　(A-1)

4.自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分の進むべき方向」について他者に説明できる。　(A-1)

5.表現する力をきたえるためには、リード・ザ・セルフが起点の次世代型リーダーシップを発揮できる実践の場が必要なことが説明できる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｄ「（表現する力をきたえるプログラム）」

2019-4010000353-01

田村　馨

◎貿易:A-1

1.表現する力は課題発見力・設定力に比例する。この課題発見力・設定力を高める対話のやり方、進め方を例に「表現するとはどういうことか」を説明できる。　(A-1)

2.自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分が置かれている環境」について他者に説明できる。　(A-1)

3.自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分が取り組むべき課題」について他者に説明できる。　(A-1)

4.自分を探索するプロジェクトを通して明らかになる「自分の進むべき方向」について他者に説明できる。　(A-1)

5.表現する力をきたえるためには、リード・ザ・セルフが起点の次世代型リーダーシップを発揮できる実践の場が必要なことが説明できる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｄ「（キャリア形成実践Ⅱ）」

2019-4010000353-02

高野　一郎、森田　泰暢

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・５時限　　試験時間割：2020/01/25　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

「自分が行動して何か成し遂げる」、「目に見えるかたちで成果をチームで出す」というプロセスから学びを得る講義です。キャリア教育に求められる「社会的・職業的自立のために必要な能力」を、課題解決型学習（PBL）を通して伸ばしていきます。
企業において中小企業の経営コンサルティングに従事してきた経験（前職）と、学生のキャリア形成支援、就職支援に従事している経験（現職）の両方を活かして、企業等が抱える課題解決に向けた取り組みを通じて、社会人基礎力の向上につなげていきます。
講義の中で皆さんはチームを組み、実際に企業が抱える難易度の高い課題を解決していきます。本講義では、先ず自分自身の社会人基礎力の向上計画（行動計画）を策定します。企業から提示された課題にチームで取り組む中で、この向上計画にそって自身の社会人基礎力を【計画→実行→確認→改善】のサイクルの中で伸ばしていきます。実際の課題に取り組む訳ですから、事前に正解が用意されている訳ではありません。課題解決という成果につなげることができるか否かは、チームの取り組み次第です。　これまで商学部で学んできた専門的な知識やスキルも生かしながら、また一方では、実際の業務を体験することで、商学部のカリキュラムの中から学ぶ必要がある専門領域を見つけ、今後の学修計画につなげてください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

自身の現在の社会人基礎力水準を把握し、その向上へ向けた取り組みができるようになる。(知識・理解)

これまで商学部で学んできた知識やスキルを、実際の現場で活用することができるようになる。(知識・理解)

今後、商学部の学生として、学ぶ必要のある専門領域を見つけることできる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

グループワーク中心で講義を進めていくため、次回の講義に向けて、あらかじめ自分たちが取り組むテーマに関しての資料集めや、現地の視察・調査等の準備をしておくこと。（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．講義中の平常点　50%
２．成果　50%（試験、面接、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ結果）
　上記２の成果とは、上記到達目標１と２に対する成果と、３の課題解決提案の成果の２点を指します。
　そのうち前者は、①試験と②自己評価シートを用いた面接の２点から評価します。
　後者は、①試験と②最終プレゼンテーションの結果を用いて評価します。それぞれの「成果」とは、その「結果」だけでなくプロセスも含みますので、皆さんの取り組む姿勢や態度等も当然評価の対象となります。
　また本講義はグループワーク中心です。遅刻や欠席は「グループワークにおける積極性や協調性」の評価が減点されます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　担当者がレジュメや資料を作成し、配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

『京大医学部で教える合理的思考』　中山建夫著　日経ビジネス文庫　ISBN 978-4532197766
『実況ロジカルシンキング教室』　グロービス・嶋田毅　ＰＨＰ研究所　　ISBN 978-4569796741

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①受講に必要な要素（☆３つのうち必要な要素は★とする）
　・グループワークを主導できる　　★★☆
　・レポート（4,000字程度）が作成できる　　★★★
　・パワーポイントを使ってプレゼンテーションができる　★★☆
②全回、無遅刻・無欠席で参加することを前提とする
③自らすすんで役割を果たす姿勢を求める（受動的な姿勢は評価しない）

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　本講義の概要/社会人基礎力の理解【森田・高野】
第2回　アセスメント/向上計画の策定【高野】
第3回　ロジカル・シンキングとグループワークのポイント【高野】
第4回　マーケット・リサーチとコンセプト・メーキング【高野】
第5回　事業収益性と経済性計算【高野】
第6回　【GW】課題提示・計画立案【高野】
第7回　計画報告プレゼンテーション【高野】
第8回　【GW】計画の実行①【高野】
第9回　【GW】計画の実行②【高野】
第10回　中間チェック/改善策立案【森田・高野】
第11回 【GW】改善策実行【高野】
第12回 【GW】最終成果集計/報告書作成【高野】
第13回　成果報告プレゼンテーション【森田・高野】
第14回　結果発表/優秀チームの表彰/振り返り【高野】
第15回　向上計画の振り返り・自己評価発表会【森田・高野】
*【GW】→グループワーク

特別講義Ｄ「（キャリア形成実践Ⅱ）」

2019-4010000353-02

高野　一郎、森田　泰暢

◎商学:A-1

1.自身の現在の社会人基礎力水準を把握し、その向上へ向けた取り組みができるようになる。　(A-1)

2.これまで商学部で学んできた知識やスキルを、実際の現場で活用することができるようになる。　(A-1)

3.今後、商学部の学生として、学ぶ必要のある専門領域を見つけることできる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.自身の現在の社会人基礎力水準を把握し、その向上へ向けた取り組みができるようになる。　(A-1)

2.これまで商学部で学んできた知識やスキルを、実際の現場で活用することができるようになる。　(A-1)

3.今後、商学部の学生として、学ぶ必要のある専門領域を見つけることできる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｄ「（キャリア形成実践Ⅱ）」

2019-4010000353-02

高野　一郎、森田　泰暢

◎貿易:A-1

1.自身の現在の社会人基礎力水準を把握し、その向上へ向けた取り組みができるようになる。　(A-1)

2.これまで商学部で学んできた知識やスキルを、実際の現場で活用することができるようになる。　(A-1)

3.今後、商学部の学生として、学ぶ必要のある専門領域を見つけることできる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｄ「（アントレプレナーシップ概論）」

2019-4010000353-03

二宮　麻里

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、起業を志す人に対し、事業アイデアを形にすることをサポートする。

アントレプレナーシップとは、日本では「企業家精神」と訳される。ベンチャー企業を立ち上げたいという人、企業内で新規事業に着手する人、地方自治体で社会的イノベーションを創出したい人たちすべてに求められる考え方のことである。現在、アメリカをはじめ各国で、新しく産業を創出し競争力を高めるために、アントレプレナーシップの活性化が重要なキーワードとして認知されている。

　ケーススタディと議論を通じて、新規事業計画書を作成する。ベンチャーキャピタルを通じて資金調達する、一定規模以上の事業を立ち上げることを想定する。必要に応じて市場調査を実施し、経営者等へヒアリングをおこなう。
　本講義では、ベンチャーファイナンスの第一人者である神戸大学大学院経営学研究科・科学技術イノベーション研究科の忽那憲治氏、同科学技術イノベーション研究科、坂井貴行氏、ベンチャーキャピタルのドーガン・ベータの渡辺麗斗氏を講師に迎え、事業計画書作成をこれら講師にサポートいただく。
　忽那氏は、長年、創業希望者への指導をおこなうとともに、株式会社イノベーション・アクセルと株式会社科学技術アントレプレナーシップの取締役・共同創業者であり、大学発ベンチャーの出資をおこなっている。
　坂井氏は関西TLO取締役、テクノネットワーク四国代表取締役を経て、科学技術・知的財産の商業化、技術移転による創業支援について多くの実務経験を有している。
　渡辺氏は、ベンチャーキャピタルのドーガン設立直後より業務に携わり、九州経済の活性化に資する起業家への投資をおこなうとともに、福岡における創業環境の整備を積極的におこなっている。主な投資担当先には、グルーヴノーツ、ヤマップ、AUTHENTIC JAPANなど、九州を代表する企業がある。
　以上、第一線で活躍する3氏を講師に迎え、学生のみなさんには新規事業の立ち上げのための準備をしてもらいたいと考えている。

　本特別講義は、交流会(10月4日）および１泊2日(1月29日―30日）の合宿を予定している。交流会および合宿において、同じ目的を有する仲間や教員、社会人と議論することは、大きな刺激となるだろう。事業計画書の策定を通じて、将来の多様なキャリア選択について考えることになろう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

事業計画書策定に必要な企業経営の知識を理解している(知識・理解)

経済環境に即した事業アイデアを考案することができる(知識・理解)

社会と企業との関係性を理解しながら、事業計画を策定することができる(知識・理解)

将来性のある事業アイデアを提案することができる(知識・理解)

事業アイデアについて、説得的なプレゼンテーションをすることができる(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業時間外で、事業計画をまとめる準備をすることになる。テキストを事前に読了し、商学部で学ぶ専門知識を横断的に理解するようにすること。（毎回、60分以上の予習・復習時間が必要）

なお、講義が休みの際にもグループワークは継続する。その時間を利用して、適宜、事業計画に関係した企業経営者にコンタクトをとり、ヒアリング調査をおこなう。（プレゼンテーションの準備は上記に加えて、60分以上必要）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１）グループワークにおいて、メンバーとのコミュニケーションをはかりながら、正確かつ論理的な議論をすすめることができるかどうか。
２）スケジュールに基づいて新規事業計画書を作成し、それについてプレゼンテーションができるかどうか
３）事業創造のプロセスについて理論的に理解しているかどうか
以上について、以下の評点比率によって評価する。
グループワークでの議論への貢献が20%、分析レポート30%　プレゼンテーション20%、事業計画書30%

◎－－－　テキスト　－－－◎

適宜講義内で指示。

◎－－－　参考書　－－－◎

『アントレプレナーシップ入門』　ISBN 4641150028

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

将来、企業や地方自治体、NPO等で新規事業の立ち上げをしたいと考える人、関心のある意欲ある人物が望ましい。すでに具体的な事業計画がある人は、そのブラッシュアップをおこなう。

留学経験を有し、将来グローバルに活躍したいと考える人物も歓迎する。特に具体的な事業計画をもっていない人は、既存企業における新規事業立上げのシミュレーションをするか、あるいは福岡大学内技術シーズの事業化について策定する。

10月4日、夕方から交流会を実施するので参加すること。
交流会および合宿には必ず参加することを求める。交流会および福岡大学六本松セミナーハウスの宿泊費等の負担は3,000円程度を予定している。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
登録については、学修ガイドの『登録制限科目について』を参照のこと。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
登録希望者は、登録に先立って、ninomiya@fukuoka-u.ac.jpにメールをお送りください。件名は「特別講義D登録希望」としてください。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　イントロダクション
　　～アントレプレナーシップとは
株式会社ドーガン・ベータ取締役 パートナー　渡辺麗斗・二宮）（9月20日）

2　大学発のイノベーションとは　（神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授坂井貴行・二宮）（9月27日）

３ビジネスモデルを考える①　（神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科副研究科長・教授　兼　経営学研究科教授忽那憲治・二宮）（10月4日）

４　ビジネスモデルを考える②　（忽那・二宮）（10月11日）

5　マーケティング戦略の構築①　基礎的概念　　（二宮）　（10月18日）
講義1週なし

6　マーケティング戦略の構築②　ケーススタディ　（二宮）　(10月25日）

7　事業計画の策定プロセス　　（二宮）（11月１日）

8　アイデア報告（二宮）11月8日

講義なし　11月15日～12月6日

9　第一回報告（二宮）　12月13日

講義なし　12月20日

　＜1泊2日の合宿（1月29日(水)-30日(木)
　宿泊先　六本松セミナーハウスを予定＞
10　第二回報告（二宮・渡辺）
11　最終報告へ向けての準備（二宮・渡辺）
12　第三回報告（忽那・二宮・渡辺）
13　グループワーク（忽那・二宮・渡辺）
14　グループワーク（忽那・二宮・渡辺）
15　最終報告回（忽那・二宮・渡辺）

特別講義Ｄ「（アントレプレナーシップ概論）」

2019-4010000353-03

二宮　麻里

◎商学:A-1

1.事業計画書策定に必要な企業経営の知識を理解している　(A-1)

2.経済環境に即した事業アイデアを考案することができる　(A-1)

3.社会と企業との関係性を理解しながら、事業計画を策定することができる　(A-1)

4.将来性のある事業アイデアを提案することができる　(A-1)

5.事業アイデアについて、説得的なプレゼンテーションをすることができる　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.事業計画書策定に必要な企業経営の知識を理解している　(A-1)

2.経済環境に即した事業アイデアを考案することができる　(A-1)

3.社会と企業との関係性を理解しながら、事業計画を策定することができる　(A-1)

4.将来性のある事業アイデアを提案することができる　(A-1)

5.事業アイデアについて、説得的なプレゼンテーションをすることができる　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｄ「（アントレプレナーシップ概論）」

2019-4010000353-03

二宮　麻里

◎貿易:A-1

1.事業計画書策定に必要な企業経営の知識を理解している　(A-1)

2.経済環境に即した事業アイデアを考案することができる　(A-1)

3.社会と企業との関係性を理解しながら、事業計画を策定することができる　(A-1)

4.将来性のある事業アイデアを提案することができる　(A-1)

5.事業アイデアについて、説得的なプレゼンテーションをすることができる　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｄ「（クリエイティブ・マネジメント論）」

2019-4010000353-04

和田　剛明

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・３時限　　試験時間割：2020/01/21　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

近年、「クールジャパン」という語が注目されるように、マンガ、アニメ、ゲームなどのコンテンツの価値が認められ、産業として成長している。
また、物的な製品においても、コンテンツ的な価値が重要性を持つ変化も起こっている。学生諸君にとって身近な例では、たとえば「インスタ映えする料理」が挙げられるだろう。味、ボリューム、栄養価、食べやすさといった機能的な価値ではなく、インスタグラムに投稿し、話題とし、盛り上がるというコンテンツとしての価値によって製品が売れるようになってきているのである。
以上のようにコンテンツが重要になっている一方で、ヒットするコンテンツを作ることは容易ではない。売れているものを真似すれば、二番煎じになってしまうため、開発者には、0から新しいものを生み出すクリエイティビティが求められる。もちろん、今までにないものが「面白い」ものとは限らない。開発者には、どうしたら消費者が「面白い」と感じてくれるかを想像し、その想像したものを製品として実現し、消費者に体験・理解してもらう工夫が必要である。資金面では、売れるかどうか不明確な段階で製品の開発のために予算を確保し、その予算内で開発を完了させ、売上・利益を出すことが求められる。
以上のように、クリエイティブなコンテンツを生み出すための製品開発には様々な困難が伴い、ゆえに、ビジネスとして成功させるためには組織的なマネジメントが不可欠である。本講義では、このクリエイティブなコンテンツの開発・収益化に関する各種マネジメントについて解説する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

クリエイティブなコンテンツについて、産業の状況、特徴について理解している。(知識・理解)

クリエイティブなコンテンツの制作（開発）および流通（配信）のプロセス、収益化のためのビジネスモデルについて説明することができる。(知識・理解)

クリエイティブなコンテンツに求められるマネジメントについて説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎週、以下の授業時間外の学習をすること。
・講義内容の復習（60分）
・新聞・インターネットなどを通じたクリエイティブ・コンテンツ産業の情報の収集と、本講義内容に基づく分析（60分）
・クリエイティブなコンテンツの体験・制作（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

(1)課題への取り組み（30%）
期中に複数回レポートを課す（具体的な回数は、外部講師との調整によって決まるため、講義開始時に指示する)。
レポートの提出状況および内容によって評価する。

(2)学期末試験（70%）
講義内容についての理解を確認する問題と、講義内容を踏まえた上で、今後のクリエイティブ産業の動向に対してどのように考えるかを問う問題を出題する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

適宜資料を配布する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第01回　コンテンツ・ビジネスの生成と発展　※
第02回　コンテンツの開発企業像　※
第03回　国際的なコンテンツ・ビジネスの状況
第04回　コンテンツのマーケティング・企画書の作成
第05回　コンテンツの開発マネジメント
第06回　コンテンツの品質管理（１）
第07回　コンテンツの品質管理（２）
第08回　コンテンツの流通マネジメント
第09回　コンテンツ・ビジネスにおける知的財産権（IP）
第10回　知的財産権（IP）とビジネスモデル
第11回　コンテンツ・ビジネスにおける会計マネジメント
第12回　コンテンツ開発のための人的資源管理
第13回　コンテンツ・ユーザー間の相互作用
第14回　ユーザーによるコンテンツ創造
第15回　コンテンツ・マネジメントの今日的課題

※第01回・第02回の講義は、外部講師との日程調整の結果、通常の講義実施日時ではなく9月21日(土)3・4限に実施する。教室については、後日ＦＵポータルにて連絡する。この講義実施日時の変更によって出席ができなかった学生には、当日の講義資料を配布するなど、最大限の配慮を行う。

なお、以後の講義でも外部講師の招聘・日程調整の結果、講義実施日時が変更となる可能性があるので、大学からの連絡を確認するようにしてほしい。

特別講義Ｄ「（クリエイティブ・マネジメント論）」

2019-4010000353-04

和田　剛明

◎商学:A-1

1.クリエイティブなコンテンツについて、産業の状況、特徴について理解している。　(A-1)

2.クリエイティブなコンテンツの制作（開発）および流通（配信）のプロセス、収益化のためのビジネスモデルについて説明することができる。　(A-1)

3.クリエイティブなコンテンツに求められるマネジメントについて説明することができる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.クリエイティブなコンテンツについて、産業の状況、特徴について理解している。　(A-1)

2.クリエイティブなコンテンツの制作（開発）および流通（配信）のプロセス、収益化のためのビジネスモデルについて説明することができる。　(A-1)

3.クリエイティブなコンテンツに求められるマネジメントについて説明することができる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｄ「（クリエイティブ・マネジメント論）」

2019-4010000353-04

和田　剛明

◎貿易:A-1

1.クリエイティブなコンテンツについて、産業の状況、特徴について理解している。　(A-1)

2.クリエイティブなコンテンツの制作（開発）および流通（配信）のプロセス、収益化のためのビジネスモデルについて説明することができる。　(A-1)

3.クリエイティブなコンテンツに求められるマネジメントについて説明することができる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｅ「（ソーシャル・イノベーションⅠ）」

2019-4010000357-01

田村　馨、兵土美和子

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：中級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・２時限　　試験時間割：2019/07/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は特別講義Ｃと姉妹関係にある講義です。特別講義C「ソーシャル・イノベーションⅠ」ではソーシャル・イノベーションとは何かをみた。本講義では、ソーシャル・イノベーションの担い手、「社会イノベーター」に注目します。いわば、ソーシャル・イノベーションの担い手論が本講義のテーマです。
贈与、リーダーシップ、アントレプレナーシップ、デザイン、クリエイティブなどのキーワードを手がかりに、また社会イノベーターとして活動する担い手の話を聞くなどして、ソーシャル・イノベーションの可能性と必然性を担い手論から展望します。
講義は、田村と兵土が担当しますが、適宜、以下の方を含むゲストをお呼びする予定です。
小川勇人氏（小川の家）
次の講義の予告を毎回するので関連するサイトや文献を事前に学習し、講義中にお知らせするサイトや文献による事後学習をおすすめします。

【担当者が実務経験者の授業科目】
・中央官庁、民間のコンサルティングファームでの勤務経験を活かし、イノベーションをめぐる理論と実践の橋渡しがどのように行われるか、そしてソーシャルイノベーションの政策的、ビジネス的含意に関して解説します（田村）。
・NPOの経営、運営にかかわった実務経験を活かし、ソーシャルイノベーションの担い手、組織運営に関して現実的かつ実践的な側面を解説します（兵土）。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ソーシャルイノベーションについてイノベーションの定義を使って説明できる。(知識・理解)

ソーシャルイノベーションが求められる経済社会的な状況を説明できる。(知識・理解)

ソーシャルイノベーションが解決すべき課題が何であるかを説明できる。(知識・理解)

ソーシャルイノベーションが進むべき方向について説明できる。(知識・理解)

ソーシャルイノベーションの実践例を事例を素材に説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・グループディスカッションを基本に講義は進みます。それに伴い次のような予習、復習、課題提出が発生します。
・事前に文献や記事、事前ワークが求められます（180分）。
・事後的に学びきれなかったこと、講義時間中に完成しなかったワークに関する復習が求められます（180分）。
・ほぼ毎回課題（エッセイが中心）提出が求められます（180分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・定期試験、平常点（提出物）を併せて評価します。
・割合は５０：５０です。
・定期試験は「設定した問題に対する理解度と説明力」、平常点は「講義中の発言回数とFBグループへのレポートの提出状況」で評価します。
・評価基準は「ソーシャル・イノベーションを担うプレーヤーに求められる資質・姿勢、プレーヤー発掘・育成・登用のために求められる仕組み・プラットフォームについて他者に解説する」です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

『イノベーションの知恵』　ISBN 978-4-8222-4829-1
『イノベーションの作法』　ISBN 978-4-532-19522-9
講義の中でも紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・本講義が想定する受講生は、社会の動きに興味をもち新しい社会的な動きに関与する意志をもつ学生です。
・教材共有、情報連絡にFacebookを使います。FBの利用を前提に講義は進むのでFBは必須です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．ソーシャル・イノベーションを誰が担うのか(田村・兵土)
２．アントレプレナーとしての社会イノベーター(田村・兵土)
３．リーダーとしての社会イノベーター（田村・兵土）
４．トリックスターとしての社会イノベーター（田村・兵土）
５．贈与者としての社会イノベーター（兵土）
６．隣人としての社会イノベーター（兵土）
７．保育分野の社会イノベーター（ケーススタディ）（兵土）
８．子育て優先社会を目指す社会イノベーター(ケーススタディ)（小川・兵土）
９．誰もが学べる場づくりを目指す社会イノベーター(ケーススタディ)（兵土）
10．伝統産業の革新を目指す社会イノベーター(ケーススタディ)（兵土）
11．行政組織の枠を超える人材として邁進する社会イノベーター(ケーススタディ)（兵土）
12．福祉とアートをビジネスで結ぶ社会イノベーター（ケーススタディ)（兵土）
13．地域興しに人生を賭ける社会イノベーター（ケーススタディ）（兵土）
14．学びの旅を仕掛ける社会イノベーター（ケーススタディ）(兵土)
15．草の根ソーシャル・イノベーションに向けて（兵土）
（講義の順番や中身は進捗状況、外部講師の都合で変わる場合があります）

特別講義Ｅ「（ソーシャル・イノベーションⅠ）」

2019-4010000357-01

田村　馨、兵土美和子

◎商学:A-1

1.ソーシャルイノベーションについてイノベーションの定義を使って説明できる。　(A-1)

2.ソーシャルイノベーションが求められる経済社会的な状況を説明できる。(A-1)

3.ソーシャルイノベーションが解決すべき課題が何であるかを説明できる。(A-1)

4.ソーシャルイノベーションが進むべき方向について説明できる。　(A-1)

5.ソーシャルイノベーションの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.ソーシャルイノベーションについてイノベーションの定義を使って説明できる。　(A-1)

2.ソーシャルイノベーションが求められる経済社会的な状況を説明できる。(A-1)

3.ソーシャルイノベーションが解決すべき課題が何であるかを説明できる。(A-1)

4.ソーシャルイノベーションが進むべき方向について説明できる。　(A-1)

5.ソーシャルイノベーションの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｅ「（ソーシャル・イノベーションⅠ）」

2019-4010000357-01

田村　馨、兵土美和子

◎貿易:A-1

1.ソーシャルイノベーションについてイノベーションの定義を使って説明できる。　(A-1)

2.ソーシャルイノベーションが求められる経済社会的な状況を説明できる。(A-1)

3.ソーシャルイノベーションが解決すべき課題が何であるかを説明できる。(A-1)

4.ソーシャルイノベーションが進むべき方向について説明できる。　(A-1)

5.ソーシャルイノベーションの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｅ「（観光経済事情）」

2019-4010000357-02

町　孝

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：中級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・４時限　　試験時間割：2020/01/20　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

フランス、スペイン等の観光先進国では「観光」を、国のリーディング産業と位置づけ、観光振興や外国人観光客誘致に積極的に取り組み、教育機関での人材育成にも力を注いでいます。
遅まきながら、わが国も平成20年10月の「観光庁」設置以降、観光資源等のポテンシャルを活かし、世界の人たちを惹きつける「観光立国」実現のため　①日本ブランドの作り上げと発信　②ビザ要件の緩和等による訪日旅行の促進　③外国人旅行者の受入の改善　④国際会議等（ＭＩＣＥ）の誘致や投資の促進を図ることが重要であるとの「アクション・プログラム」等をまとめました。さらに平成28年3月には、観光先進国への新たな国づくりに向け「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」において「世界が訪れたくなる日本」を目指した観光ビジョンを策定しました。
これら観光庁の取り組みや九州独自で取り組んでいる観光産業活性化の取り組み等について、「九州観光推進機構」や「ななつ星in九州」「或る列車」等のＤＳ列車（観光列車）運転など、常に九州の観光産業をリードしてきたJR九州グループの現役経営幹部や各界で活躍中の有識者が、実務経験を活かし実際に携わった商品開発等の事例を参考に地域の観光に必要な知識や心構えについて講義します。
15回の講義を通じて、「観光」というこれからの日本・九州にとって有望視されている産業の「様々なビジネス・モデル事例」を一緒に学びましょう。
講師陣は皆さまの「コーディネーター」です。

講師紹介
町　　孝　　ＪＲ博多シティ顧問、政府観光庁 VISIT JAPAN大使
　　福岡市教育委員、元ＪＲ九州 常務取締役営業部長
　　旅行事業本部長
本郷　譲　　ＪＲ九州リテール(株)代表取締役社長
　　前ＪＲ九州専務取締役、元ＪＲパリ事務所次長
小濱 和彦　ＪＲ九州エージェンシー代表取締役社長
　　前ＪＲ九州ホテルズ㈱代表取締役社長
　　元九州旅客鉄道㈱　旅行事業本部副本部長
滝　悦子　　エッセイスト、ラジオ・テレビのパーソナリティー
伊豆美沙子　宗像市長

◎－－－　到達目標　－－－◎

観光に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
(知識・理解)

企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。
(知識・理解)

社会の一員として、地域や社会の発展に観光学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講師が配布するレジュメを十分に復習し、観光産業の専門用語の意味や講師実践録等を理解しておき、自分なりの観光活性化策を記載できるようにしておきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

○講義の到達目標の達成度を評価基準とします。
○定期試験により評価します。
観光の基礎用語を理解しているかどうか、講義で習得した知識をもとに、居住地もしくは故郷の観光活性化策や訪日外国人客の増加策等についての記述できるかを基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講師が、毎回レジュメを配布予定。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

① 観光の定義と歴史…町
② 交通革命Ⅰ鉄道と交通機関の歴史…町
③ 交通革命Ⅱ航空業界の現状と課題…小濱
④ 世界遺産を活かした街づくり…伊豆
⑤ 食と観光…滝
⑥ 宿泊、観光施設の現況と課題…町
⑦ 旅行エージェントの現況と課題…町
⑧ 訪日外国人受入れの現状と課題…町
⑨ 欧州観光の現況〔先進地事例〕…本郷
⑩「ななつ星in九州」等の観光列車と地域の連携…町
⑪ 地域バリューアップによる地域再生…町
⑫「久留米まち旅博覧会」成功の秘訣とは？…町
⑬ クルージング観光の現状と課題…町
⑭ 観光戦略成功のための広告…小濱
⑮ 講義のまとめ…町、小濱

特別講義Ｅ「（観光経済事情）」

2019-4010000357-02

町　孝

◎商学:A-1

1.観光に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
(A-1)

2.企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。
(A-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に観光学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.観光に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
(A-1)

2.企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。
(A-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に観光学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｅ「（観光経済事情）」

2019-4010000357-02

町　孝

◎貿易:A-1

1.観光に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
(A-1)

2.企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。
(A-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に観光学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｆ「（ソーシャル・イノベーションⅡ）」

2019-4010000358-01

田村　馨、兵土美和子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：中級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・２時限　　試験時間割：2020/01/25　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義の目的は、ソーシャル・イノベーションをキーワードに、企業や社会をめぐる今日的な状況を理解する、と同時に、新しい時代が求める企業や社会のあり方を展望することにあります。
20世紀初頭にヨゼフ・シュンペーターによってイノベーションという概念が提起されました。それから数えると既に100年がたち、デザイン・イノベーション、オープン・イノベーション、ＩＴイノベーションなど様々のタームでイノベーションが語られています。あるいは、「イノベーションのジレンマ」なる概念が近年注目を集め、「イノベーション＝企業や社会にとってプラスの動き」とは違う観点からイノベーションが論じられています。
講義では、まず、イノベーション概念の整理を行い、複数のイノベーション概念に共通のコンセプトとして「ソーシャル」を抽出します。次に、ソーシャル・イノベーションこそが新しい時代が求めるイノベーションであることを、企業や社会が直面する問題群とその解決策を通して明らかにします。さらに、ソーシャル・イノベーションが導く企業や社会を「創造的組織への転換」、「共通善の実現」という２つの指針から照らし出します。
講義は、机上の言葉遊びで終わらないように、事例や現実の課題を素材に、また、受講生が参加する双方向型で進めます。
講義は田村と兵土が担当します。現時点でお招きすることが決まっている外部講師は下記の小川氏ですが、それ以外のゲストも適宜、お招きする予定です。
小川勇人氏（株）小川の家代表取締役（子育て優先住宅専門店、長崎）
なお、次の講義の予告を毎回するので関連するサイトや文献を事前に学習し、講義中にお知らせするサイトや文献による事後学習をおすすめします。

【担当者が実務経験者の授業科目】
・中央官庁、民間のコンサルティングファームでの勤務経験を活かし、イノベーションをめぐる理論と実践の橋渡しがどのように行われるか、そしてソーシャルイノベーションの政策的、ビジネス的含意に関して解説します（田村）。
・NPOの経営、運営にかかわった実務経験を活かし、ソーシャルイノベーションの担い手、組織運営に関して現実的かつ実践的な側面を解説します（兵土）。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ソーシャルイノベーションについてイノベーションの定義を使って説明できる。(知識・理解)

ソーシャルイノベーションが求められる経済社会的な状況を説明できる。(知識・理解)

ソーシャルイノベーションが解決すべき課題が何であるかを説明できる。(知識・理解)

ソーシャルイノベーションが進むべき方向について説明できる。(知識・理解)

ソーシャルイノベーションの実践例を事例を素材に説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・グループディスカッションを基本に講義は進みます。それに伴い次のような予習、復習、課題提出が発生します。
・事前に文献や記事、事前ワークが求められます（180分）。
・事後的に学びきれなかったこと、講義時間中に完成しなかったワークに関する復習が求められます（180分）。
・ほぼ毎回課題（エッセイが中心）提出が求められます（180分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・定期試験、平常点を併せて評価します。
・割合は５０：５０です。
・定期試験は「設定した問題に対する理解度と説明力」、平常点は「講義中の発言回数とFBグループへのレポートの提出状況」で評価します。
・評価基準は「ソーシャル・イノベーションが求められる背景とそれが目指すところを、またソーシャル・イノベーションの特徴と新しさを従来のイノベーションとの違いをふまえて他者に解説できる」です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

『イノベーションの作法』(日経ビジネス人文庫)　ISBN 4532195225
『イノベーションの知恵』　ISBN 4822248291

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・本講義が想定する受講生は、社会の動きに興味をもち新しい社会的な動きに関与する意志をもつ学生です。
・教材共有、情報連絡にFacebookを使います。FBの利用を前提に講義は進むのでFBは必須です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イノベーションとは何？(田村・兵土)
２．イノベーションが求められる背景(田村・兵土)
３．イノベーション概念の変遷（ケーススタディ）（田村・兵土）
４．複数のイノベーション概念の整理（ケーススタディ）（兵土）
５．共通コンセプトとしてのソーシャルの抽出（兵土）
６．発展途上国が求めるソーシャル・イノベーション（兵土）
７．子育て家庭が必要とするソーシャル・イノベーション（兵土）
８．子育て優先のソーシャル・イノベーション（小川・兵土）
９．中学校に必要とされるソーシャル・イノベーション（兵土）
10．高校に必要とされるソーシャル・イノベーション（兵土）
11．企業のマーケティングに求められるソーシャル・イノベーション①（兵土）
12．企業のマーケティングに求められるソーシャル・イノベーション②（兵土）
13．企業の人材育成に求められるソーシャル・イノベーション（兵土）
14．ワークライフバランス（兵土）
15．ソーシャル・アントレプレナーとpro‐socialな仕組みのデザイン（兵土）

（講義の順番や中身は進捗状況、外部講師の都合で変わる場合があります）

◎－－－　URL　－－－◎

イノベーションの本質
(www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/sokai/kouen150.pdf)

特別講義Ｆ「（ソーシャル・イノベーションⅡ）」

2019-4010000358-01

田村　馨、兵土美和子

◎商学:A-1

1.ソーシャルイノベーションについてイノベーションの定義を使って説明できる。　(A-1)

2.ソーシャルイノベーションが求められる経済社会的な状況を説明できる。(A-1)

3.ソーシャルイノベーションが解決すべき課題が何であるかを説明できる。(A-1)

4.ソーシャルイノベーションが進むべき方向について説明できる。　(A-1)

5.ソーシャルイノベーションの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.ソーシャルイノベーションについてイノベーションの定義を使って説明できる。　(A-1)

2.ソーシャルイノベーションが求められる経済社会的な状況を説明できる。(A-1)

3.ソーシャルイノベーションが解決すべき課題が何であるかを説明できる。(A-1)

4.ソーシャルイノベーションが進むべき方向について説明できる。　(A-1)

5.ソーシャルイノベーションの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｆ「（ソーシャル・イノベーションⅡ）」

2019-4010000358-01

田村　馨、兵土美和子

◎貿易:A-1

1.ソーシャルイノベーションについてイノベーションの定義を使って説明できる。　(A-1)

2.ソーシャルイノベーションが求められる経済社会的な状況を説明できる。(A-1)

3.ソーシャルイノベーションが解決すべき課題が何であるかを説明できる。(A-1)

4.ソーシャルイノベーションが進むべき方向について説明できる。　(A-1)

5.ソーシャルイノベーションの実践例を事例を素材に説明できる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

特別講義Ｆ「（企業戦略におけるロジスティクスの現状と今後）」

2019-4010000358-02

村上　剛人、山口裕人、宮嵜務、山本研二、富永泰輔、園田剛介、山田英夫、原田典元、大島権人

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：中級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：2020/01/25　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

モノは生産から流通を経て消費者によって消費され、さらには消費されたモノはすべてではないが廃棄物として処分されています。その中にはリサイクルやリユースされるものもあります。このような流れから２つの物流が存在していることがわかります。一つはモノが生産者から消費者の手に流れていく動脈流通、もう一つは不要品あるいは廃棄物が流れていく静脈流通です。この講義では、この２つの流通の有り様について、とくに今問題視されている環境問題との関連のなかで、どのような現状があるのか、企業の方々に現場の状況および取り組みについて情報を提供してもらい、物流という場について何が問われているのか学生の皆さんと一緒に考えてみようという企画のもとで誕生した講座です。多くの企業の方に参画してもらっている講義です。

動脈流通に目をやると、利益の確保とサービスの向上を目指して、モノの移動時間をできるだけ短縮しようとの取り組みが加速度的に展開されています。ヤマト運輸などの取り組みはその最先端を実行しているといってもよいでしょう。モノの移動時間が短縮されることによって、生産と販売のリードタイムも短縮され、需要が発生する近い段階で商品の発注が可能になり、在庫水準も低く抑えられるという小売業者にとって大きなメリットを手にすることができます。今回は花王、ヤマエ久野、イオン九州、福岡運輸、園田陸運の各会社の物流分野の実務経験が豊富な方々にお越しいただき、現在の物流の視点からどのような変化が見られるのか、現在の情報を提供してもらう予定です。

他方で、こう言った取り組みは、物流と環境という問題を発生させています。企業は今後益々本業のビジネスに力を入れながらも、環境問題へ取り組むという社会貢献を同時に達成し、利益を確保していくことが求められています。どうやってそれらを両立させていくのか、そうした点を、モノの流れである動脈物流と静脈物流の両面に光を当てて考えていきたいと思います。特に静脈物流については今後益々重要な取り組み課題になってくると考えられ、現在率先して取り組まれている一般社団法人食品ロス・リボーンセンター、小寺油脂、大島産業のリサイクルの実務経験を豊富にお持ちの方にお越しいただき、現在の現場の状況の情報を提供したいと思っています。

この２つの物流を理解することを通して、モノの流れを全体的に把握していく能力をこの講座を通して身につけてもらえればと思います。

なお、講座の進捗状況に応じて、授業計画の内容を変更することがあるので、留意されたい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

（1）現在の取引のあり方を考察するうえで、物流が果たしている役割について理解できるようになる(知識・理解)

（2）近年のサプライチェーンマネジメントに代表される取り組みの実態をメーカー、卸売、小売の３段階で理解できるようになる(知識・理解)

（3）静脈物流について、実態がどのような状況にあるのかを理解するとともに、今後の課題が何か自ら考えることができるようになる(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

会社の方の講義については、事前に各会社の取り組みなどについてネット等の資料を探し、情報収集し、講義に臨んでもらいたい。(60分程度）会社の方の講義でないときは、事前に資料を配布するので、その内容を予習し、講義に臨んでもらいたい。（60分程度）

なお、会社の方の講義には、何が話されたのかについてのレポートを作成して、提出してもらうので、しっかり、メモを取り、復習した内容をレポートにしてください。(90分程度)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

まず外部講師が講義された時は、その都度レポートを作成し、提出してもらいます。レポートの評価は、その講義の概要および自分が関心や興味を持ったことについて書いてもらい、その内容を評価します。(９社の方に来ていただきますので、９回分のレポートの作成することになります。）また村上が担当する箇所についても、近年の取引のあり方がどのように変化してきているのか、それを理解したかを確認するレポートを１回作成してもらいます。合わせて１0回レポートの作成になります。試験については到達目標にあげた(1)~(3)の内容を中心にどの程度習得および応用できているかを評価します。

評価割合は、レポートが60点、試験40点で行います。なお、レポートはワードで作成し提出してもらいます。企業の方がレポートを見たいというケースがあるため、レポートの返却はしません。レポート点についてはできるだけその都度公表します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

基本的に使用しない。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・福岡大学の学生として恥ずかしくないよう、講義を受けるマナー（私語をしない。遅刻はしない。途中退場はしない。挨拶をする。）をしっかり守ってください。
・遅刻は認めませんから、時間管理はしっかり行ってください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1)イントロダクション（講義の概要説明）（村上）
2)CR(コンシューマリスポンス)の考え方（１）（村上）
3)花王のケース（山口）
4)ヤマエ久野のケース（白井）
5)イオン九州のケース（山本）
6)福岡運輸ホールディングスのケース（富永）7)園田陸運のケース（園田）
8)CR(コンシューマリスポンス)の考え方（２）と３PLのケース(村上）
9)CVSのケース（村上）
10)公共機関の備蓄食料のリサクル（一般社団法人食品ロス・リボーンセンター）のケース（山田）
11)紙のリサクルのケース（村上）
12)油のリサイクル（小寺油脂）のケース（原田）
13)食品リサイクル(大島産業)のケース（大島）
14)ネット通販の問題(村上）
15)総括（村上）
※　外部講師が担当するときは、村上が講義全体をコーディネートし、講師紹介から質疑応答までを担当すると同時に、レポート課題及びそのチェックについても村上が担当します。また講師の都合で日程が変更される場合もあるので注意してください。

特別講義Ｆ「（企業戦略におけるロジスティクスの現状と今後）」

2019-4010000358-02

村上　剛人、山口裕人、宮嵜務、山本研二、富永泰輔、園田剛介、山田英夫、原田典元、大島権人

◎商学:A-1

1.（1）現在の取引のあり方を考察するうえで、物流が果たしている役割について理解できるようになる　(A-1)

2.（2）近年のサプライチェーンマネジメントに代表される取り組みの実態をメーカー、卸売、小売の３段階で理解できるようになる　(A-1)

3.（3）静脈物流について、実態がどのような状況にあるのかを理解するとともに、今後の課題が何か自ら考えることができるようになる　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1

1.（1）現在の取引のあり方を考察するうえで、物流が果たしている役割について理解できるようになる　(A-1)

2.（2）近年のサプライチェーンマネジメントに代表される取り組みの実態をメーカー、卸売、小売の３段階で理解できるようになる　(A-1)

3.（3）静脈物流について、実態がどのような状況にあるのかを理解するとともに、今後の課題が何か自ら考えることができるようになる　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

特別講義Ｆ「（企業戦略におけるロジスティクスの現状と今後）」

2019-4010000358-02

村上　剛人、山口裕人、宮嵜務、山本研二、富永泰輔、園田剛介、山田英夫、原田典元、大島権人

◎貿易:A-1

1.（1）現在の取引のあり方を考察するうえで、物流が果たしている役割について理解できるようになる　(A-1)

2.（2）近年のサプライチェーンマネジメントに代表される取り組みの実態をメーカー、卸売、小売の３段階で理解できるようになる　(A-1)

3.（3）静脈物流について、実態がどのような状況にあるのかを理解するとともに、今後の課題が何か自ら考えることができるようになる　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-02

永星　浩一

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

最初に研究のイロハ（リサーチリテラシ）について学び、引き続き1人ないしグループでテーマについて調べて報告・討論を行います。テーマ例は「広告効果に関係する社会心理学の実験」「ネット・オークションで高く落札される方法」「テレビ・コマーシャルの効果」「ソーシャルメディアの新しいビジネス利用」など、ゼミのテーマに沿ったものをいくつか与えますので、そこから選んで取り組みます。市場分析や情報社会といった大テーマの範囲内であれば、自分たちで考えても構いません。グループワークで問題点の洗い出しをしたのち、各人で分担して資料を探して、皆で協力してテーマに沿った成果物を作り上げます。
どのタイミングかで、図書館で文献や統計データを調べる方法、それらを用いたレジュメの作成方法について実習してもらいます。また２回ほどパソコン教室に場所を移してプレゼンテーション資料の作成と実際のプレゼンテーションについて実習を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学に関連した問題関心を持ち、研究に取り組むことができる。(知識・理解)

グループワークに強調的かつ主体的に取り組み、グループに寄与できる。(技能)

必要な知識を積極的に学び、自分の研究内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションなど駆使して相手にわかりやすく説明できる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

報告担当者だけでなく、それ以外のメンバーも事前にテーマについて調べ、考えておきます。ネット情報のみに頼ることなく、図書館を利用しましょう。文献は報告に当たって各人最低1冊は図書館で借りて利用しましょう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

出席して積極的に意見を述べるなどの討論への参加状況50%、プレゼンテーションの出来30%、研究報告の内容20%、など総合して成績を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しません。必要に応じて資料を配付します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

演習科目ですから、出席して発言したり発表したりして積極的に参加することで評価されます。出席しただけでは評価されません。同様の理由で遅刻はしないでください。やむを得ない理由で遅刻、欠席するときは、極力前もって連絡し、後日、証明があれば提出してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

各人自己紹介とガイダンス

リサーチリテラシについて学ぶ

リサーチリテラシについて学ぶ

リサーチリテラシについて学ぶ

図書館の利用講習

電子データベースの利用

レジュメとプレゼン資料の作成

テーマ選択とグループ分け

グループ・ワーク

グループ・ワーク

グループ・ワーク

グループ・ワーク

グループ・ワーク

グループ別の報告

2年専門ゼミの総括

◎－－－　URL　－－－◎

永星研究室Webページ
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/)

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-02

永星　浩一

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.商学に関連した問題関心を持ち、研究に取り組むことができる。　(A-1)

2.グループワークに強調的かつ主体的に取り組み、グループに寄与できる。(B-1)

3.必要な知識を積極的に学び、自分の研究内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションなど駆使して相手にわかりやすく説明できる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.商学に関連した問題関心を持ち、研究に取り組むことができる。　(A-1)

2.グループワークに強調的かつ主体的に取り組み、グループに寄与できる。(B-1)

3.必要な知識を積極的に学び、自分の研究内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションなど駆使して相手にわかりやすく説明できる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-02

永星　浩一

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.商学に関連した問題関心を持ち、研究に取り組むことができる。　(A-1)

2.グループワークに強調的かつ主体的に取り組み、グループに寄与できる。(B-1)

3.必要な知識を積極的に学び、自分の研究内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションなど駆使して相手にわかりやすく説明できる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.商学に関連した問題関心を持ち、研究に取り組むことができる。　(A-1)

2.グループワークに強調的かつ主体的に取り組み、グループに寄与できる。(B-1)

3.必要な知識を積極的に学び、自分の研究内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションなど駆使して相手にわかりやすく説明できる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-03

笹川　洋平

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

2年ゼミは、流通とマーケティングの基礎知識を学ぶ場である。したがって、流通･マーケティングの基本的な知識が習得できるように、書籍だけでは理解がむずかしいと思われる点について教員が説明を加えながら、対話形式でゼミをすすめる。

なお、ゼミの総合的な運営については、学生が主体的に考えた要望(があれば)、担当教員に伝えてもらいたいと思う。対応できることなら対応したいと思う。

2年次は、大学生として大きく成長する大切な時期である。日頃から読書を通じて､本や自身との対話を通して、自分の意見がもてる人になってもらたい。自分の意見は時間とともに深められ、結果的に真逆の意見へと変わってもよいのです。時々、真逆の意見に乗り換えることを「変節」と批判されることもありますがが、若いときのそれは知的成長といいます。ああでもない、ここでもないと、意見を深め、「変節」して、別人へと成長してもらいたいと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.流通･マーケティングの基本知識を身に付ける。(知識・理解)

2.流通･マーケティングの知識から、現代企業や社会が直面している課題を発見し、理解することができる。(技能)

3.流通･マーケティングの視点から現代企業や社会が直面する問題への解決へ向けて、主体的に学ぶ姿勢を保持しつづけられる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

2年ゼミでは、レポートとプレゼンの繰り返しである。3回程度は順番がまわってくる。したがって、最低でも3冊の本を選書し、要約し、プレゼンすることになる。かなり速く感じられると思うが、がんばってほしい。レポートとプレゼンの準備が復習と予習になる。また、各回他のゼミ生が行ったプレゼンもノートに取り、自分のレポートやプレゼンに活かせれば、自分の考えに深みがでるだろう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

課題（ゼミノート、課題レポート）の提出状況とゼミへの参加度（グループ討論への貢献など）、プレゼンを評価基準とする。なお、提出期限内の提出物のみを評価対象とする。
（課題提出：40%、ゼミ参加度：40%、プレゼン：20%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

阿部誠『大学4年間のマーケティングが10時間でざっと学べる』(KADOKAWA)
ISBN-10：4046020156
ISBN-13：9784046020154

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回目～第15回目：
　教員が流通･マーケティングの基本知識を説明する中で、各自が選書した本の内容と照合しながら、疑問があれば質問をとおして解決していくという形式でゼミをすすめる。

また、最終回において、各自でテーマを選んで選書し、内容を要約したレポートの提出を求める。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-03

笹川　洋平

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.1.流通･マーケティングの基本知識を身に付ける。　(A-1)

2.2.流通･マーケティングの知識から、現代企業や社会が直面している課題を発見し、理解することができる。　(B-1)

3.3.流通･マーケティングの視点から現代企業や社会が直面する問題への解決へ向けて、主体的に学ぶ姿勢を保持しつづけられる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.1.流通･マーケティングの基本知識を身に付ける。　(A-1)

2.2.流通･マーケティングの知識から、現代企業や社会が直面している課題を発見し、理解することができる。　(B-1)

3.3.流通･マーケティングの視点から現代企業や社会が直面する問題への解決へ向けて、主体的に学ぶ姿勢を保持しつづけられる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-03

笹川　洋平

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.1.流通･マーケティングの基本知識を身に付ける。　(A-1)

2.2.流通･マーケティングの知識から、現代企業や社会が直面している課題を発見し、理解することができる。　(B-1)

3.3.流通･マーケティングの視点から現代企業や社会が直面する問題への解決へ向けて、主体的に学ぶ姿勢を保持しつづけられる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.1.流通･マーケティングの基本知識を身に付ける。　(A-1)

2.2.流通･マーケティングの知識から、現代企業や社会が直面している課題を発見し、理解することができる。　(B-1)

3.3.流通･マーケティングの視点から現代企業や社会が直面する問題への解決へ向けて、主体的に学ぶ姿勢を保持しつづけられる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-04

田村　馨

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　社会に出ると、自分の考えや思いを的確な表現と独自の視点で相手に伝えることが求められます。そのような力をつけると同時に、「企業や社会が必要とする人材像」と「自分はこうなりたいという将来の姿」を重ねるために何をすべきかをゼミを通じて学んで欲しいと思っています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学とは何をまなぶことかが説明できる。(知識・理解)

企業や産業と環境との関係を説明できる。(知識・理解)

企業や産業が取り組むべき課題について説明できる。(知識・理解)

企業や産業が発展するとはどういうことかが説明できる。(技能)

商学は実学であり、学ぶためには幅広い知識の習得が必要なことが説明できる。(態度・志向性)

企業や産業の課題を事例研究を通して発見できる。(態度・志向性)

自分が動くマイプロジェクトを企画し実践することができる。(態度・志向性)

グループワークにおいて主体的に意見を言うことができる。(態度・志向性)

必要な情報や記事をネットから探し出すことができる。(態度・志向性)

商学を学ぶことが地域や社会の発展につながることに気づけるようになる。(態度・志向性)

自ら学び続けることが地域や社会の発展につながることがイメージできるようになる。(態度・志向性)

他者との連携、協力なくして地域や社会の発展はないことを理解するようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講義中に紹介するネット上の記事、映像を含むコンテンツや書籍等に目を通すことを前提に講義は進めます。
・事前リーディング、事前打ち合わせ（予習180分）。
・グループごとにワークを進め次の発表や討議に備える（360分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　自己評価シート（自分の目標に照らした達成度とゼミに対する貢献度など。昨年度はゼミ生から評価項目を提案してもらい、それを素材に評価項目を作成しました）をもとに評価します。評価基準は「自分の評価を自分なりの物差しで評価しレポートする」です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　特定のテキストは使用しません。ただし、適宜（特に夏休み、冬休み、春休みには）、読むべき図書を指定します。ネット上の見るべきコンテンツは常時、案内します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１～３．商学部生らしさが伝わる問題発見力をきたえる
４～６．商学部生らしさが伝わる問題設定力、仮説構築力をきたえる
７～９．対話する力を自己点検し、きたえる
１０、１１．企画力をきたえる
１２．　プレゼン力をきたえる
１３～１５．他者と協力しプロジェクトを実現する力をきたえる

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-04

田村　馨

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.商学とは何をまなぶことかが説明できる。　(A-1)

2.企業や産業と環境との関係を説明できる。　(A-1)

3.企業や産業が取り組むべき課題について説明できる。　(A-1)

4.企業や産業が発展するとはどういうことかが説明できる。　(B-1)

5.商学は実学であり、学ぶためには幅広い知識の習得が必要なことが説明できる。　(C-2)

6.企業や産業の課題を事例研究を通して発見できる。　(C-2)

7.自分が動くマイプロジェクトを企画し実践することができる。　(C-2)

8.グループワークにおいて主体的に意見を言うことができる。　(C-2)

9.必要な情報や記事をネットから探し出すことができる。　(C-2)

10.商学を学ぶことが地域や社会の発展につながることに気づけるようになる。　(C-2)

11.自ら学び続けることが地域や社会の発展につながることがイメージできるようになる。　(C-2)

12.他者との連携、協力なくして地域や社会の発展はないことを理解するようになる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.商学とは何をまなぶことかが説明できる。　(A-1)

2.企業や産業と環境との関係を説明できる。　(A-1)

3.企業や産業が取り組むべき課題について説明できる。　(A-1)

4.企業や産業が発展するとはどういうことかが説明できる。　(B-1)

5.商学は実学であり、学ぶためには幅広い知識の習得が必要なことが説明できる。　(C-2)

6.企業や産業の課題を事例研究を通して発見できる。　(C-2)

7.自分が動くマイプロジェクトを企画し実践することができる。　(C-2)

8.グループワークにおいて主体的に意見を言うことができる。　(C-2)

9.必要な情報や記事をネットから探し出すことができる。　(C-2)

10.商学を学ぶことが地域や社会の発展につながることに気づけるようになる。　(C-2)

11.自ら学び続けることが地域や社会の発展につながることがイメージできるようになる。　(C-2)

12.他者との連携、協力なくして地域や社会の発展はないことを理解するようになる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-04

田村　馨

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.商学とは何をまなぶことかが説明できる。　(A-1)

2.企業や産業と環境との関係を説明できる。　(A-1)

3.企業や産業が取り組むべき課題について説明できる。　(A-1)

4.企業や産業が発展するとはどういうことかが説明できる。　(B-1)

5.商学は実学であり、学ぶためには幅広い知識の習得が必要なことが説明できる。　(C-2)

6.企業や産業の課題を事例研究を通して発見できる。　(C-2)

7.自分が動くマイプロジェクトを企画し実践することができる。　(C-2)

8.グループワークにおいて主体的に意見を言うことができる。　(C-2)

9.必要な情報や記事をネットから探し出すことができる。　(C-2)

10.商学を学ぶことが地域や社会の発展につながることに気づけるようになる。　(C-2)

11.自ら学び続けることが地域や社会の発展につながることがイメージできるようになる。　(C-2)

12.他者との連携、協力なくして地域や社会の発展はないことを理解するようになる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.商学とは何をまなぶことかが説明できる。　(A-1)

2.企業や産業と環境との関係を説明できる。　(A-1)

3.企業や産業が取り組むべき課題について説明できる。　(A-1)

4.企業や産業が発展するとはどういうことかが説明できる。　(B-1)

5.商学は実学であり、学ぶためには幅広い知識の習得が必要なことが説明できる。　(C-2)

6.企業や産業の課題を事例研究を通して発見できる。　(C-2)

7.自分が動くマイプロジェクトを企画し実践することができる。　(C-2)

8.グループワークにおいて主体的に意見を言うことができる。　(C-2)

9.必要な情報や記事をネットから探し出すことができる。　(C-2)

10.商学を学ぶことが地域や社会の発展につながることに気づけるようになる。　(C-2)

11.自ら学び続けることが地域や社会の発展につながることがイメージできるようになる。　(C-2)

12.他者との連携、協力なくして地域や社会の発展はないことを理解するようになる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-05

陶　怡敏

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミは、「交通経済・物流経営」をタイトルに掲げています。われわれは毎日、通勤・通学のためにさまざまな交通手段を利用しています。ショッピングに出かけたり、海外旅行をしたり、スポーツを楽しむために出かけたりすることも多いが、そのつど何らかの形で自動車・鉄道・航空機・船・バイク・自転車などの交通手段を利用しています。そして、たとえわれわれが一日中家にいたとしても、インターネットで情報を収集したり、電話で会話したり、宅配便などによって商品が世界各地から運ばれてきます。
研究に必要な分析方法を学ぶための導入として、まず2年次に卒論のテーマ選定のための作業として、交通経済・物流経営に関する基礎文献の講読などを通じて、専門用語・基礎概念を理解し、交通論に特有の基本的なものの見方・考え方を習得してもらいます。そして、4年次に２・３年次で習得した理論と実証手法をもとにして、各自卒論テーマを設定して本格的な研究報告を行い、全員がこれについて討論を行うことが義務づけられています。卒論は研究報告に基づいて作成され、卒論発表会で最終結果が披露されることになります。
もう1つ、ゼミ生に「自主性」を持ってもらうことも本ゼミの目的です。自ら疑問を投げかけ、何が問題なのか、なぜ問題なのか、どのような問題なのか、解決方法はあるのかを徹底して考え抜き、独自のものの考え方ができることをめざしています。というのは、企業はあらゆる階層の責任者に問題解決能力・コミュニケーション能力を強く求めているからです。

◎－－－　到達目標　－－－◎

交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。(知識・理解)

交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。

企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。

自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。(技能)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本ゼミの慣例に従って、予習と復習を確実に行ってもらうために毎回の授業に関連する提出課題(所要時間：約2時間)の提出をお願いします。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
交通経済や物流経営の基本概念を正確に理解し、かつ独自の考察があるかを評価基準とする。
②評価方法及び③割合
研究報告の内容(30%)、討論に対する参加態度(20%)、ゼミナール行事に対する参加態度(20%)、レポート等(30%)の評価項目における評点を総合して成績を判定する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

田邉勝巳『交通経済のエッセンス』 有斐閣。ISBN-13: 978-4641150492。

◎－－－　参考書　－－－◎

村上英樹・加藤一誠・高橋　望・榊原胖夫編著『航空の経済学』ミネルヴァ書房。ISBN-13: 978-4623045587。
藤井弥太郎・中条潮編『現代交通政策』東京大学出版会。ISBN-13: 978-4130720076。
衛藤卓也『交通経済論の展開』千倉書房。ISBN-13: 978-4805108277。
竹内健蔵『交通経済学入門』有斐閣。ISBN-13: 978-4641183681。
小淵洋一『現代の交通経済学』中央経済社。ISBN-13: 978-4502640957。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎時間の講義内容は、連続性をもっているので、欠席したり遅刻したりしないことが理解のためには重要である。板書内容だけでなく、口頭で伝えることもノートして理解に努めてもらいたい。教科書は必ず持参して、講義を受けること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　交通とは何か？
２　交通サービスの特徴と交通需要
３　交通の供給と費用
４　交通インフラの特徴
５　交通インフラの評価
６　費用便益分析の課題
７　交通インフラの財源と運営
８　交通サービスの規制と競争政策
９　交通サービスの運賃規制
１０　交通サービスの料金体系
１１　交通サービスの課税と補助
１２　規制緩和と残された課題
１３　人口減少・高齢化社会における地域交通のあり方
１４　物流・ロジスティクス・サプライチェーンマネジメント
１５　まとめ

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-05

陶　怡敏

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。　(A-1)

2.交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。

3.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。

4.自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。　(B-1)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

6.他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。　(A-1)

2.交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。

3.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。

4.自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。　(B-1)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

6.他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-05

陶　怡敏

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。　(A-1)

2.交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。

3.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。

4.自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。　(B-1)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

6.他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。　(A-1)

2.交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。

3.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。

4.自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。　(B-1)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

6.他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-07

弘津　真澄

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

最初に、Excelを使用して人生設計をしてもらいます。次に、マーケティングゲームを行います。ゲームをしながらゲームに必要な道具をExcelで作成し使用します。余裕があればゲーム内容の報告をレポートにまとめてもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

人生設計やマーケティングゲームを通して、流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに簡単な情報技術の活用方法について、基本的な知識を身につけることができる。(知識・理解)

マーケティングゲームに必要な事務処理、分析、意思決定を行う中で、企業が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

マーケティングゲームで実際に売上が上がり利益を出すことによって、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続ける必要性を感じ取ることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、ゲームの結果の分析や意思決定の作成は、事前にやっておくこと(90分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

人生設計やマーケティングゲームを通して、流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに簡単な情報技術の活用方法について、基本的な知識を身につけることができるできたかを評価の基準とする。
マーケティングゲームに必要な事務処理、分析、意思決定を行う中で、企業が取り組むべき課題を発見することができるできるようになったかを評価の基準とする。
マーケティングゲームで実際に売上が上がり利益を出すことによって、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続ける必要性を感じ取ることができるようになったかを評価の基準とする。

［平常点］×0.3
+［研究報告レポートの内容］×0.3
+［討論に対する参加態度］×0.3
+［平素の活動状況］×0.1

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストなし

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 人生設計-1
2 人生設計-2
3 マーケティングゲーム 1期
4 マーケティングゲーム 2期
5 マーケティングゲーム 3期
6 マーケティングゲーム 4期
7 マーケティングゲーム 5期
8 マーケティングゲーム 6期
9 マーケティングゲーム 7期
10 マーケティングゲーム 8期
11 マーケティングゲーム 9期
12 マーケティングゲーム 10期
13 マーケティングゲーム 報告書作成
14 マーケティングゲーム 報告-1
15 マーケティングゲーム 報告-2

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-07

弘津　真澄

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.　人生設計やマーケティングゲームを通して、流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに簡単な情報技術の活用方法について、基本的な知識を身につけることができる。　(A-1)

2.　マーケティングゲームに必要な事務処理、分析、意思決定を行う中で、企業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.　マーケティングゲームで実際に売上が上がり利益を出すことによって、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続ける必要性を感じ取ることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.　人生設計やマーケティングゲームを通して、流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに簡単な情報技術の活用方法について、基本的な知識を身につけることができる。　(A-1)

2.　マーケティングゲームに必要な事務処理、分析、意思決定を行う中で、企業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.　マーケティングゲームで実際に売上が上がり利益を出すことによって、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続ける必要性を感じ取ることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-07

弘津　真澄

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.　人生設計やマーケティングゲームを通して、流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに簡単な情報技術の活用方法について、基本的な知識を身につけることができる。　(A-1)

2.　マーケティングゲームに必要な事務処理、分析、意思決定を行う中で、企業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.　マーケティングゲームで実際に売上が上がり利益を出すことによって、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続ける必要性を感じ取ることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.　人生設計やマーケティングゲームを通して、流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに簡単な情報技術の活用方法について、基本的な知識を身につけることができる。　(A-1)

2.　マーケティングゲームに必要な事務処理、分析、意思決定を行う中で、企業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.　マーケティングゲームで実際に売上が上がり利益を出すことによって、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続ける必要性を感じ取ることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-09

村上　剛人

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　このゼミナールは、マーケティング・流通に関する現象を中心に、基本的知識を身につけるとともに、チームを結成し、チームで思考錯誤しながら、全体として意見をまとめ、プレゼンテーションをするといった一貫した学習ができるように設定しています。そのため、第一に、チーム学習のやり方について学習します。特にファシリテーションの方法を体験してもらい、単なるグループ学習ではない、異なる考えをもったメンバーが最終的に一つの意見に発展的にまとめ上げることができる能力を身につけてもらいます。第二に、その具体的活動として、ビジネス関連の記事を使って、チームで各自が重要と思ったキーワードを出し合いながら、テーマに基づいたキーワードのマップを作成することを体得してもらうようにします。例えば、同じ教材を使っているにもかかわらず、チームでの作成・プレゼンしたものが異なっていることを確認してもらい、その教材のどこにフォーカスするのかによって、理解の仕方、また論理の作り方が異なっていることを学習してもらいます。第三にチームそれぞれ自ら、ビジネスケースから何が課題かを見つけ、その課題についての答えとなぜその答えになったのかという論理プロセスを提示する活動を行ってもらいます。問題と結論、そしてその結論を導き出した論理思考の関連性をしっかり学習することで、レポートや論文作成のプロセスのベースを体得してもらいます。
　このようなプロセスを学習することで、チームビルディングを行うこと、チーム内での意見交換からの新しいアイデアを見出す楽しさ、そしてそれをいかにプレゼンで相手を納得させることができるか、３年生での学習を進めていくための基礎力を養っていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

チームで異なる意見をまとめ、新しい見解を見つけていく一つのやり方としてのファシリテーションの方法を学習し、基本構造を理解するとともに基本ができるようになること。

ビジネス教材を分析、チームで議論することを通して、真の問題が何か発見できるようになる。(技能)

課題資料からのチームの課題を設定し、その答えとその答えを導き出す論理プロセスを表現するキーワードマップの作成ができるようになること。(技能)

チーム内での議論を通して、自らの関心を広げ、さらに発展的に考えていく姿勢を身につけてもらう。(態度・志向性)

ビジネス教材の学習を通してマーケティングに関する基本的用語や知識を身につけ、説明ができるようなること。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　テーマごとの教材の事前学習を必ず実施してもらいます。自分であれば、その教材をどのようにまとめていくのか、事前学習があってこそチーム内での議論が活発になり、異なる意見をまとめるというプロセスを有益にすることができます。必要によってはチームごとで別の時間を使ってのサブゼミを実施してもらいます。またテーマが終了するごとに、いったいどこがうまくいかなかったのか、うまくいったのはどこなのか、振り返りを行ってもらいます。その振り返りをおこなうことで、次回のテーマでそれを改善できる取り組みにしていくことができます。（毎週90分程度）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　各グループでの活動状況を、発言、チーム内での役割、意見交換の結果作成したキーワードマップ、そして全員で行うプレゼンテーションなどの活動に分け、到達目標で設定している技能に関する項目についてどの程度達成できているかに基づいて評価します。また、チームでの振り返りにおいて、各自の関心領域がどのように変化してきているのか、どのようなことが説明できるようになっているのか、確認してもらいます。なお、チーム活動ならびにチームプレゼンなどの活動面を8割、各自の問題への取り組み状況を２割として評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・３年次で行われる全国討論大会には必ず参加しますので、ゼミに参加される学生はその点は了解しておいてください。
・遅刻、無断欠席は認めません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション
2 チーム学習の基本実習（１）ファシリテーション技法の体験（場づくりと発散プロセスの体験）をします。
3 チーム学習の基本実習（２）ファシリテーション技法の体験（収束プロセスの体験）をします。とくにキーワードマップの作成のポイントを確認します。
4 グループ学習の基本実習（３）ファシリテーション技法の体験（決定プロセスの体験）をします。
5 ～6 ケースを使ってのキーワードマップの作成をします。（1）：1回目の教材でキーワードマップの作成の実践を体験し、1回目の振り返りを行います。
7~8 ケースを使ってキーワードマップの作成（2）：2回目の教材を使ってのキーワードマップの作成のブラッシュアップを行います。
9 2回目のグループワークの振り返りを行います。
10~11ケースを使ってのキーワードマップの作成（3）：3回目の教材を使ってキーワードマップの作成およびそれに関する他の関連資料の探索も同時に行わせ、キーワードマップの完成度をアップさせていきます。
12 3回目の振り返りを行います。
13~14 ケースを使ってのキーワードマップの作成（4）：4回目の教材を使って課題そのものを見出すことを行って、キーワードマップを作成させます。
15 全体の振り返りを行います。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-09

村上　剛人

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.チームで異なる意見をまとめ、新しい見解を見つけていく一つのやり方としてのファシリテーションの方法を学習し、基本構造を理解するとともに基本ができるようになること。

2.ビジネス教材を分析、チームで議論することを通して、真の問題が何か発見できるようになる。　(B-1)

3.課題資料からのチームの課題を設定し、その答えとその答えを導き出す論理プロセスを表現するキーワードマップの作成ができるようになること。　(B-1)

4.チーム内での議論を通して、自らの関心を広げ、さらに発展的に考えていく姿勢を身につけてもらう。　(C-2)

5.ビジネス教材の学習を通してマーケティングに関する基本的用語や知識を身につけ、説明ができるようなること。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.チームで異なる意見をまとめ、新しい見解を見つけていく一つのやり方としてのファシリテーションの方法を学習し、基本構造を理解するとともに基本ができるようになること。

2.ビジネス教材を分析、チームで議論することを通して、真の問題が何か発見できるようになる。　(B-1)

3.課題資料からのチームの課題を設定し、その答えとその答えを導き出す論理プロセスを表現するキーワードマップの作成ができるようになること。　(B-1)

4.チーム内での議論を通して、自らの関心を広げ、さらに発展的に考えていく姿勢を身につけてもらう。　(C-2)

5.ビジネス教材の学習を通してマーケティングに関する基本的用語や知識を身につけ、説明ができるようなること。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

村上　剛人

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.チームで異なる意見をまとめ、新しい見解を見つけていく一つのやり方としてのファシリテーションの方法を学習し、基本構造を理解するとともに基本ができるようになること。

2.ビジネス教材を分析、チームで議論することを通して、真の問題が何か発見できるようになる。　(B-1)

3.課題資料からのチームの課題を設定し、その答えとその答えを導き出す論理プロセスを表現するキーワードマップの作成ができるようになること。　(B-1)

4.チーム内での議論を通して、自らの関心を広げ、さらに発展的に考えていく姿勢を身につけてもらう。　(C-2)

5.ビジネス教材の学習を通してマーケティングに関する基本的用語や知識を身につけ、説明ができるようなること。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.チームで異なる意見をまとめ、新しい見解を見つけていく一つのやり方としてのファシリテーションの方法を学習し、基本構造を理解するとともに基本ができるようになること。

2.ビジネス教材を分析、チームで議論することを通して、真の問題が何か発見できるようになる。　(B-1)

3.課題資料からのチームの課題を設定し、その答えとその答えを導き出す論理プロセスを表現するキーワードマップの作成ができるようになること。　(B-1)

4.チーム内での議論を通して、自らの関心を広げ、さらに発展的に考えていく姿勢を身につけてもらう。　(C-2)

5.ビジネス教材の学習を通してマーケティングに関する基本的用語や知識を身につけ、説明ができるようなること。　(A-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

二宮　麻里

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

2年専門ゼミナールでは、
１）流通・マーケティングに関する基礎的な文献を輪読する
２）レポートのテーマ選定をする
という２つの内容を並行しておこなうこととする。

１）文献の輪読はグループでおこなう。読解の基礎的な技法を学ぶとともに、専門用語を正しく理解する。また、グループでディスカッションをおこなう。グループ・ディスカッションを通じて、論点を出し、経済事象を自らの視点から分析できるようにする。

２）文献を収集し、キーコンセプトをもとに、短い文章を作成することからスタートする。それらの短い文章を総合し、章構成を大まかに決めていくこととする。文章表現についてもレクチャーをおこないながら、自ら文章を作成できる力を養成する。

サブゼミとして、産学連携のプロジェクトも実施する予定である。その場合には、連携組織の財務諸表の概要の理解、産業分析、リサーチが必須である。学習の機会を設定する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業概要を財務諸表を見て理解することができる(知識・理解)

特定産業のトップ企業のビジネスモデルを説明することができる(知識・理解)

特定産業の課題を発見することができる(知識・理解)

連携組織と経済環境との連環を分析することができる(知識・理解)

連携組織の歴史を説明することができる(知識・理解)

連携組織の課題を発見することができる(技能)

連携組織に対して適切なプロジェクトを提案することができる(技能)

グループワークの役割分担を決定することができる(態度・志向性)

提案する内容に対して、適切なリサーチを実施することができる(態度・志向性)

グループワークについて理解している(態度・志向性)

グループワークのスケジュールを管理することができる(態度・志向性)

グループメンバーとのコミュニケーションをとることができる(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回課題を自ら設定する。スケジュールを決め、自ら定めた達成水準をクリアすることを目指して、学習する。（予習・復習合わせて90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１）情報を十分に収集し、専門用語を正しく使って、論理的に構成されたレポートを作成できるかどうか
２）グループ討議に十分に参加できるかどうか
３）その他のゼミナール活動における活動状況（出席状況、共同研究における積極性、ゼミ活動への他のメンバーへの貢献度）

以上の評価項目の評点を総合して成績評価する。
１）が40%、２）が30%、３）が30%である。

◎－－－　テキスト　－－－◎

授業時に指定する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1オリエンテーション
2レポートテーマ選定について
3グループ学習
4プレゼンテーションについて
5レジュメの作成
6グループ・ディスカッション
7情報収集について
8テーマ設定
9～15テーマ報告、レポート提出

＊並行して、文献の輪読がおこなわれる。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-10

二宮　麻里

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.企業概要を財務諸表を見て理解することができる　(A-1)

2.特定産業のトップ企業のビジネスモデルを説明することができる　(A-1)

3.特定産業の課題を発見することができる　(A-1)

4.連携組織と経済環境との連環を分析することができる　(A-1)

5.連携組織の歴史を説明することができる　(A-1)

6.連携組織の課題を発見することができる　(B-1)

7.連携組織に対して適切なプロジェクトを提案することができる　(B-1)

8.グループワークの役割分担を決定することができる　(C-2)

9.提案する内容に対して、適切なリサーチを実施することができる　(C-2)

10.グループワークについて理解している　(C-2)

11.グループワークのスケジュールを管理することができる　(C-2)

12.グループメンバーとのコミュニケーションをとることができる　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.企業概要を財務諸表を見て理解することができる　(A-1)

2.特定産業のトップ企業のビジネスモデルを説明することができる　(A-1)

3.特定産業の課題を発見することができる　(A-1)

4.連携組織と経済環境との連環を分析することができる　(A-1)

5.連携組織の歴史を説明することができる　(A-1)

6.連携組織の課題を発見することができる　(B-1)

7.連携組織に対して適切なプロジェクトを提案することができる　(B-1)

8.グループワークの役割分担を決定することができる　(C-2)

9.提案する内容に対して、適切なリサーチを実施することができる　(C-2)

10.グループワークについて理解している　(C-2)

11.グループワークのスケジュールを管理することができる　(C-2)

12.グループメンバーとのコミュニケーションをとることができる　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-10

二宮　麻里

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.企業概要を財務諸表を見て理解することができる　(A-1)

2.特定産業のトップ企業のビジネスモデルを説明することができる　(A-1)

3.特定産業の課題を発見することができる　(A-1)

4.連携組織と経済環境との連環を分析することができる　(A-1)

5.連携組織の歴史を説明することができる　(A-1)

6.連携組織の課題を発見することができる　(B-1)

7.連携組織に対して適切なプロジェクトを提案することができる　(B-1)

8.グループワークの役割分担を決定することができる　(C-2)

9.提案する内容に対して、適切なリサーチを実施することができる　(C-2)

10.グループワークについて理解している　(C-2)

11.グループワークのスケジュールを管理することができる　(C-2)

12.グループメンバーとのコミュニケーションをとることができる　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.企業概要を財務諸表を見て理解することができる　(A-1)

2.特定産業のトップ企業のビジネスモデルを説明することができる　(A-1)

3.特定産業の課題を発見することができる　(A-1)

4.連携組織と経済環境との連環を分析することができる　(A-1)

5.連携組織の歴史を説明することができる　(A-1)

6.連携組織の課題を発見することができる　(B-1)

7.連携組織に対して適切なプロジェクトを提案することができる　(B-1)

8.グループワークの役割分担を決定することができる　(C-2)

9.提案する内容に対して、適切なリサーチを実施することができる　(C-2)

10.グループワークについて理解している　(C-2)

11.グループワークのスケジュールを管理することができる　(C-2)

12.グループメンバーとのコミュニケーションをとることができる　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-11

伊藤　豪

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

少子高齢社会、人口減少社会を迎えたわが国において、公・私にわたり保険が果たす役割はますます重要視されている。
しかし、公的保険（社会保険）においては、国民年金に対する不安が醸成され、制度そのもののあり方が問われているとともに、公的医療・介護保険もまた様々な問題を抱えているのが現状である。
一方、私的保険（民間保険）においては、熾烈な販売競争が繰り広げられ、TVにて保険のCMを見ない日はないぐらい各社は競い合っているとともに、銀行においても窓口にて全保険商品が取り扱えるようになった。また、生命保険会社が保険特有の会社形態である相互会社から株式会社に組織変更する動きもある。さらに保険の証券化や保険デリバティブの発展、金融持株会社を視野に入れた他の金融機関との動き、メガ損保の誕生など、保険をめぐる環境も大きく変化している。
そこで本ゼミでは、現代社会における公・私保険のあり方や保険制度および保険事業などが直面している諸問題などについて研究していくこととする。

◎－－－　到達目標　－－－◎

保険や商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

報告者は事前に他のゼミ生にどのようにしたら理解してもらえるかを考えながらレジュメを作成しなければならない。（120分）また、報告者以外は事前にテキストを読み、質問を考えてくることが必須となる。（60分）
これらを通して、学んだことを他人に説明できるように各自理解を深めることが必要となる。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

保険の基礎知識が修得できているかどうか、また、現代社会の諸問題を保険的立場から考察できるようになっているかどうかが評価基準となる。
評価方法としては、報告内容および討論に対する参加姿勢7割、ゼミナール行事に対する参加態度等3割を目安として総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

田畑康人・岡村国和編著『読みながら考える保険論〔増補改訂第3版〕』八千代出版/2018年4月/
ISBN978-4-8429-1714-6

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミ活動や行事（合宿、討論会、ゼミ旅行など）は基本的に全員参加が原則。
ゼミ運営上支障を来すため、無断欠席は許されない。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　オリエンテーション
2　輪読（１）
3　輪読（２）
4　輪読（３）
5　輪読（４）
6　輪読（５）
7　輪読（６）
8　ディスカッション（１）
9　輪読（７）
10 輪読（８）
11 輪読（９）
12 輪読（10）
13 輪読（11）
14 輪読（12）
15 ディスカッション（２）

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-11

伊藤　豪

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.保険や商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.保険や商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-11

伊藤　豪

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.保険や商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.保険や商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-12

杉本　宏幸

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　流通・マーケティング分野の理論的・実証的な研究をします。
　二年時は、一年時に学んだ内容を全員で共有すること、マーケティング戦略に関する知識をつけること、ゼミを進める上で必要なリテラシーを身につけることが目的になります。内容については、後日、配布される予定の「募集要項」も確認してください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

流通・マーケティングにおける課題および仮説を見出せること。(態度・志向性)

文献やデータを収集・整理し、重要なキーワードと仮説を見出せること。(技能)

事実、他者の意見、自分の意見を明確に分離し、適切に引用・参照して文章を書けること。(知識・理解)

情報技術を用いて、調べたデータや事実を整理でき、他者が理解可能な文章を書けること。(知識・理解)

周囲と協力し、問題意識に即して解答を出すために活動できること。(態度・志向性)

マーケティング戦略の基礎的な枠組みを理解でき、戦略代替案を立案できるようになること。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　ゼミの時間外の活動は、ゼミ生全員に必要です。
　ゼミナールでの内容を必ず復習し（30分）、課題をしてください（60分）。ゼミとは別に週一回時間（90分）をとって全員学んでいただきます（文献輪読や統計ソフトウェアの使い方等）。その時間は、2年前期中にゼミ全員で調整していただきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　成績評価基準は到達目標に準じ、ゼミへの貢献（ゼミでの発言等）：30%、課題及び報告：70%の評価を原則とします。
　ゼミナールで課題が提出されない場合、単位が認定されません。無断欠席で提出していない課題は、理由を問わず0点となります。到達目標に即して真剣に受講する意思がないと教員が判断した学生は、当該授業で評価が0点となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

マイケル・ソロモン 、『ソロモン 消費者行動論』、丸善出版，2015年、8800円（税抜）、ISBN 4621088777

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・ゼミの授業時間90分/週だけではゼミが終わりませんので、その時間を確保してください。
・学外での課外活動がある場合、受講生による金銭的負担が必要になります。
・ゼミでの研究に必要な知識ですから、特別な事情がない限り、3年終了時点までに以下の講義の単位を必ず修得してください。
（商学部開講科目）マーケティングリサーチ、消費者行動論、サービスマーケティング、サービスマネジメント、マーケティング戦略論（マーケティング論）、流通システム論、流通・マーケティング入門。
・理由が明らかでない欠席と遅刻、理由が明らかでも常識に照らして認められない欠席と遅刻については、無断欠席と判断し、受講する意思がないとみなします。
・他者の学びを妨げる等、ゼミナールの進行を妨げる行為は、到達目標に即して受講する意思がないものと判断し、教室からの退出を指示します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１ イントロダクション、グループ編成
２-14　研究報告
15 ゼミのまとめ

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-12

杉本　宏幸

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.流通・マーケティングにおける課題および仮説を見出せること。　(C-2)

2.文献やデータを収集・整理し、重要なキーワードと仮説を見出せること。　(B-1)

3.事実、他者の意見、自分の意見を明確に分離し、適切に引用・参照して文章を書けること。　(A-1)

4.情報技術を用いて、調べたデータや事実を整理でき、他者が理解可能な文章を書けること。　(A-1)

5.周囲と協力し、問題意識に即して解答を出すために活動できること。　(C-2)

6.マーケティング戦略の基礎的な枠組みを理解でき、戦略代替案を立案できるようになること。　(B-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.流通・マーケティングにおける課題および仮説を見出せること。　(C-2)

2.文献やデータを収集・整理し、重要なキーワードと仮説を見出せること。　(B-1)

3.事実、他者の意見、自分の意見を明確に分離し、適切に引用・参照して文章を書けること。　(A-1)

4.情報技術を用いて、調べたデータや事実を整理でき、他者が理解可能な文章を書けること。　(A-1)

5.周囲と協力し、問題意識に即して解答を出すために活動できること。　(C-2)

6.マーケティング戦略の基礎的な枠組みを理解でき、戦略代替案を立案できるようになること。　(B-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-12

杉本　宏幸

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.流通・マーケティングにおける課題および仮説を見出せること。　(C-2)

2.文献やデータを収集・整理し、重要なキーワードと仮説を見出せること。　(B-1)

3.事実、他者の意見、自分の意見を明確に分離し、適切に引用・参照して文章を書けること。　(A-1)

4.情報技術を用いて、調べたデータや事実を整理でき、他者が理解可能な文章を書けること。　(A-1)

5.周囲と協力し、問題意識に即して解答を出すために活動できること。　(C-2)

6.マーケティング戦略の基礎的な枠組みを理解でき、戦略代替案を立案できるようになること。　(B-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.流通・マーケティングにおける課題および仮説を見出せること。　(C-2)

2.文献やデータを収集・整理し、重要なキーワードと仮説を見出せること。　(B-1)

3.事実、他者の意見、自分の意見を明確に分離し、適切に引用・参照して文章を書けること。　(A-1)

4.情報技術を用いて、調べたデータや事実を整理でき、他者が理解可能な文章を書けること。　(A-1)

5.周囲と協力し、問題意識に即して解答を出すために活動できること。　(C-2)

6.マーケティング戦略の基礎的な枠組みを理解でき、戦略代替案を立案できるようになること。　(B-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-13

太宰　潮

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

※別途配布される「募集要項」も必ず参照してください。

当ゼミでは、マーケティングや消費者行動、またアンケートやデータ等を使ったマーケティングリサーチについて学んでいきますが、実務家に対するプレゼンテーションに主な主眼を置いています。

消費者の分析やマーケティング戦略を考える上で得た知識を、実際自分達が実践する中でさらに理解し、発表という形で相手に伝えることの“面白さ”を感じてもらうこと、勉強の成果が“他人への貢献”になる経験を積むことを大きな目的としています。

２年専門ゼミでは、書籍などを自ら進んで読み、課題を枠組みで考える習慣を身につけ、チームで討論して課題解決案をまとめゆく難しさを感じ、まとめた解決案を他人に発表していきます。チームに分かれ、課題に対して取り組んでいきますので、チーム単位で動くことが基本となります。

ゼミ生への要望は「能動的・積極的・自発的」に取り組むことです。自ら行動する気のない人は望みません。何事も積極的に取り組むと、かけがいのない「勉強の思い出」や、友人・経験を得ることができます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティングもしくは消費者行動の基本的な枠組みや知識を身に付ける。(知識・理解)

実務家へ向けたプレゼンテーションで、実務家の課題を解決したり、貢献する楽しさを理解できるようになる。(技能)

取材活動、大学・ゼミに関わらない学びの場に自ら出ること、先輩やOB・OG、社会人などとの交流から、異質な人とのコミュニケーションに慣れ、自分で世界を広げていけるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

班での活動がベースとなりますが、資料収集、取材活動、アンケート等の作成、分析、パワーポイント作成、プレゼン準備などは、全てゼミの際に、自分達で次週までの目標を定め、それをこなしてきます。ゼミの際はそれを共有し、さらにレベルの高いものに仕上げるために、今後どのようなことを行っていけばよいかを決定します。
従って、ゼミ活動自体に予習・復習は含まれています。

平均すれば１時間程度の予習復習は必要ですが、その時々で必要な時間は変わってきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

班への貢献度（ディスカッション時の積極性や発言内容、課題解決案をまとめていく上での行動力等）：80%
課題に対する報告内容：20%を基本として評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特定のテキストはありません。

◎－－－　参考書　－－－◎

参考資料は適宜指示します。ですが、太宰からの指示を待つのではなく、自ら進んでどんどん資料を探してきてください。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミなので出席は大前提です。他人に迷惑をかけるので無断欠席は厳禁します。また遅刻にも厳正に対処します。

ゼミの希望者は必ず相談日に研究室を訪ねてきてください。別途、３・４年のゼミの先輩にコンタクトをしてくれても構いません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション、アイスブレイク
２．簡易課題①
３．簡易課題②
４．ＰＣスキル、福大リソース紹介
５．課題説明
６．課題への取り組み（現状分析１）
７．課題への取り組み（現状分析２）
８．解決案のディスカッション①
９．解決案のディスカッション②
10. 中間発表
11. プレゼン資料作成①
12. プレゼン資料作成②
13. プレゼン仕上げ
14. 最終発表会
15. まとめ

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-13

太宰　潮

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.マーケティングもしくは消費者行動の基本的な枠組みや知識を身に付ける。　(A-1)

2.実務家へ向けたプレゼンテーションで、実務家の課題を解決したり、貢献する楽しさを理解できるようになる。　(B-1)

3.取材活動、大学・ゼミに関わらない学びの場に自ら出ること、先輩やOB・OG、社会人などとの交流から、異質な人とのコミュニケーションに慣れ、自分で世界を広げていけるようになる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.マーケティングもしくは消費者行動の基本的な枠組みや知識を身に付ける。　(A-1)

2.実務家へ向けたプレゼンテーションで、実務家の課題を解決したり、貢献する楽しさを理解できるようになる。　(B-1)

3.取材活動、大学・ゼミに関わらない学びの場に自ら出ること、先輩やOB・OG、社会人などとの交流から、異質な人とのコミュニケーションに慣れ、自分で世界を広げていけるようになる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-13

太宰　潮

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.マーケティングもしくは消費者行動の基本的な枠組みや知識を身に付ける。　(A-1)

2.実務家へ向けたプレゼンテーションで、実務家の課題を解決したり、貢献する楽しさを理解できるようになる。　(B-1)

3.取材活動、大学・ゼミに関わらない学びの場に自ら出ること、先輩やOB・OG、社会人などとの交流から、異質な人とのコミュニケーションに慣れ、自分で世界を広げていけるようになる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.マーケティングもしくは消費者行動の基本的な枠組みや知識を身に付ける。　(A-1)

2.実務家へ向けたプレゼンテーションで、実務家の課題を解決したり、貢献する楽しさを理解できるようになる。　(B-1)

3.取材活動、大学・ゼミに関わらない学びの場に自ら出ること、先輩やOB・OG、社会人などとの交流から、異質な人とのコミュニケーションに慣れ、自分で世界を広げていけるようになる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-14

中塚　晴雄

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　金融論の基本を学習します。２年ゼミは半期ですが、金融論の基本をテキストに沿って学びます。ゼミ生は、基礎ゼミで学んだ学習スキルをもとに、テキスト以外の文献や資料やデータを集め、レジュメを作成し、金融論の基本事項について発表します。また映像資料を用いて現実の社会と経済の動きを学びます。２年ゼミ終了時には、ゼミで学んだことを課題レポートとして文章でまとめ、３年専門ゼミの学習計画を作成します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業の生産と銀行との役割について説明できる。(知識・理解)

企業や銀行が地域や日本経済で取り組むべき課題（テーマ）を発見できる。(技能)

専門書やビジネス書を自ら選択して金融をはじめとして商学的な知識や多種多様な知識と見識を学び続けることができる。(知識・理解)

商学は実学であり、企業と金融に関する理論的実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(知識・理解)

企業や金融が地域で取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献など国内外の事例を収集し、課題解決な知見を研究レポートに抽出できる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　次回の授業範囲を予習し、教員の授業で示した専門用語の意味を調べ、理解しておくこと（60分）
　授業冒頭の映像資料から示される専門用語と解説および教員と受講生との間の対話とミニッツペーパーを中心に授業を進めるので、返却されたミニッツペーパーと映像資料で学んだことと、授業で示した専門用語を調べて、ノートに文章にまとめて理解すること。これは下記に記載する最終的な課題レポートの準備となります（60分）
　授業最終回に示される課題についてレポート（字数３千字以上）を作成すること（90分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　課題レポート（ワード様式３千字数以上：50%）と平常点と発表　（40%）、貢献度（10%）
　課題レポートは、企業の生産と銀行との役割について説明できるかを基準とします。企業や銀行が地域や日本経済で取り組むべき課題（テーマ）を発見ができるかを基準とします。専門書やビジネス書を自ら選択して金融をはじめとして商学的な知識や多種多様な見識を学び続けられるかを基準とします。商学は実学であり、企業と金融に関する理論的実践的な知識が用いられるべきであることを理解しているかを基準とします。企業や金融が地域で取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献など国内外の事例を収集し、課題解決な知見を研究レポートに抽出できるかを基準とします。平素の授業では受講生の適切な資料（レジュメ）に基づいた発表の内容を基準とします。平素の授業での報告以外の平常点は、報告に対する質疑応答、授業での発言、少人数授業全体におけるリーダーシップや協調性を基準とします。貢献度は、課外見学における積極的な参加や現地でのリーダーシップや積極的関与ならびに協調性を基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中塚晴雄『金融論－初心者にもわかるやさしい金融論－改訂版』（税務経理協会）2006年、ISBN4-419-04738-0

◎－－－　参考書　－－－◎

『新版　大学生のためのレポート論文術（講談社新書）』小笠原喜康著、2009年　ISBN 4062880210
日本経済新聞など

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　授業進行を妨げる行為（度重なる欠席、課題の未提出、私語、居眠り、虚偽の欠席届など少人数科目の実施を著しく妨げる学生の事由）は、授業の毎回毎回が知識と理論とスキル（学習技術）の習得の場であるため、当該受講生の学習到達度に支障をきたすことになります。また他の受講生の授業の学習到達度にも負の影響を与えます。専門科目（金融論）のより一層の深い研究をする場が専門ゼミナールです。少人数授業の常識ある態度を受講生には求めます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス
第2回　銀行と企業（テキスト第１章）
第3回　銀行の役割（テキスト第２章）
第4回　企業の役割（テキスト第３章①）
第5回　設備投資と設備資金（テキスト第３章②③）
第6回　株式の３つの性質（テキスト第８章①）
第7回　企業の所有者は誰か（テキスト第８章②③）
第8回　株主は何ができるのか(テキスト第８章④)
第9回　企業を所有することと企業を経営すること（テキスト第８章注と第９章）
第10回　企業を経営することと企業で働くこと（テキスト第９章）
第11回　企業はなぜ株式を発行するのか（テキスト第７章と第９章）
第12回　株主は市場で何ができるのか（テキスト第１０章）
第13回　証券会社は何をするのか（テキスト第９章と第１０章）
第14回　企業を売買できるのか（テキスト第２２章）
第15回　専門ゼミの研究計画の作成

※2019年度の経済情勢に応じて講義の内容と順番に、経済現象を対象とする２年ゼミ（金融論）の性質上、若干の変更がある可能性もあることは、予めご了承下さい。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-14

中塚　晴雄

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.企業の生産と銀行との役割について説明できる。　(A-1)

2.企業や銀行が地域や日本経済で取り組むべき課題（テーマ）を発見できる。　(B-1)

3.専門書やビジネス書を自ら選択して金融をはじめとして商学的な知識や多種多様な知識と見識を学び続けることができる。　(A-1)

4.商学は実学であり、企業と金融に関する理論的実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。　(A-1)

5.企業や金融が地域で取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献など国内外の事例を収集し、課題解決な知見を研究レポートに抽出できる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.企業の生産と銀行との役割について説明できる。　(A-1)

2.企業や銀行が地域や日本経済で取り組むべき課題（テーマ）を発見できる。　(B-1)

3.専門書やビジネス書を自ら選択して金融をはじめとして商学的な知識や多種多様な知識と見識を学び続けることができる。　(A-1)

4.商学は実学であり、企業と金融に関する理論的実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。　(A-1)

5.企業や金融が地域で取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献など国内外の事例を収集し、課題解決な知見を研究レポートに抽出できる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-14

中塚　晴雄

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.企業の生産と銀行との役割について説明できる。　(A-1)

2.企業や銀行が地域や日本経済で取り組むべき課題（テーマ）を発見できる。　(B-1)

3.専門書やビジネス書を自ら選択して金融をはじめとして商学的な知識や多種多様な知識と見識を学び続けることができる。　(A-1)

4.商学は実学であり、企業と金融に関する理論的実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。　(A-1)

5.企業や金融が地域で取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献など国内外の事例を収集し、課題解決な知見を研究レポートに抽出できる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.企業の生産と銀行との役割について説明できる。　(A-1)

2.企業や銀行が地域や日本経済で取り組むべき課題（テーマ）を発見できる。　(B-1)

3.専門書やビジネス書を自ら選択して金融をはじめとして商学的な知識や多種多様な知識と見識を学び続けることができる。　(A-1)

4.商学は実学であり、企業と金融に関する理論的実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。　(A-1)

5.企業や金融が地域で取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献など国内外の事例を収集し、課題解決な知見を研究レポートに抽出できる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-15

藤田　裕邦

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

ゼミテーマ「西洋社会経済史の諸問題」に関して、基本となる学習を行なう。このゼミナールでは、現代社会ではなく過去の社会が対象となるが、内容的には、産業部門としての「商業」に狭く限定せずに、社会・経済の動き全体に眼を向ける。卒業論文に直結する内容の授業は3年次から扱うが、2年次では準備段階として、調べ物をすることと、歴史に親しむことに重点を置く。

◎－－－　到達目標　－－－◎

歴史学の平易な論文の内容を適切に読み取ることができる。(知識・理解)

歴史史料を適切に読み取ることができる。(技能)

西洋の歴史を相対化して観察できる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

以下の「授業計画」中、５～７、12～14については、各回の予定進行箇所の予習をしておくこと（各回90分）。また、８～11については、各人に課した課題について、学習をしておくこと（合計300分程度）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価方法
①授業時の報告の内容（50%）
②授業時の質疑応答・討論・史料講読への参加状況（50%）
評価基準
評価方法①：課題について調査・考察した結果を適切に報告しているかどうかを、評価基準とする。
評価方法②：報告者の報告や講読する史料の内容について理解しているかどうか、また、質疑応答・討論にあたっては、自身が抱く意見や疑問点を適切に表明しているかどうかを、評価基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

教材を配付する。

◎－－－　参考書　－－－◎

野崎直治（編）『概説西洋社会史』有斐閣，1994年
ISBN 4-641-18221-3

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　開講にあたって
２～４　基本文献の紹介と図書館の利用（１）～（３）
５～７　史料講読（１）～（３）
８～11　個人報告（１）～（４）
12～14　史料講読（続き）（４）～（６）
15　むすび　―3年次以降のゼミ学習に向けて―

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-15

藤田　裕邦

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.歴史学の平易な論文の内容を適切に読み取ることができる。　(A-1)

2.歴史史料を適切に読み取ることができる。　(B-1)

3.西洋の歴史を相対化して観察できる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.歴史学の平易な論文の内容を適切に読み取ることができる。　(A-1)

2.歴史史料を適切に読み取ることができる。　(B-1)

3.西洋の歴史を相対化して観察できる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-15

藤田　裕邦

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.歴史学の平易な論文の内容を適切に読み取ることができる。　(A-1)

2.歴史史料を適切に読み取ることができる。　(B-1)

3.西洋の歴史を相対化して観察できる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.歴史学の平易な論文の内容を適切に読み取ることができる。　(A-1)

2.歴史史料を適切に読み取ることができる。　(B-1)

3.西洋の歴史を相対化して観察できる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-17

本村　希代

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　過去を振り返ることは、現代社会のあり方を見つめ直し、今後の展開へとつながるカギを見つけ出すことでもある。商業的事象はもちろんのこと、人物・地域・政治・文化など、さまざまな角度から日本社会を歴史的に検討していく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

テキストの輪読を通じて、さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解することができるようになる。(知識・理解)

テキスト内容の議論を通じて、企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出すことができるようになる。(技能)

歴史的視点から、地域や社会が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　報告者は報告内容をまとめたレジュメをゼミ時に配布すること（レジュメ作成90分）。ゼミ生全員、毎回、報告要旨をレポートとして提出すること（レポート作成60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　研究報告の内容30%、討論に対する参加態度30%、レポート40%（テキストの内容を理解し、その主旨と自身の見解を述べることができる）を目安として総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　ゼミ生と話し合いの上で決定する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　ゼミではゼミ生の主体的参加が重要となる。それゆえ他のゼミ生に迷惑となる行為（無断欠席・遅刻など）は厳禁とする。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　テキストの選定
2～15　テキストの輪読および討論

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-17

本村　希代

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.テキストの輪読を通じて、さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解することができるようになる。　(A-1)

2.テキスト内容の議論を通じて、企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出すことができるようになる。　(B-1)

3.歴史的視点から、地域や社会が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.テキストの輪読を通じて、さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解することができるようになる。　(A-1)

2.テキスト内容の議論を通じて、企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出すことができるようになる。　(B-1)

3.歴史的視点から、地域や社会が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-17

本村　希代

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.テキストの輪読を通じて、さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解することができるようになる。　(A-1)

2.テキスト内容の議論を通じて、企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出すことができるようになる。　(B-1)

3.歴史的視点から、地域や社会が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.テキストの輪読を通じて、さまざまな経済社会状況の歴史的背景を理解することができるようになる。　(A-1)

2.テキスト内容の議論を通じて、企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出すことができるようになる。　(B-1)

3.歴史的視点から、地域や社会が取り組むべき課題を見出すために、さらに深く学ぼうとする姿勢を身につけている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-18

鈴木　裕介

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

２年専門ゼミナールでは、グループ研究を中心に進めていきます。グループに分かれて「交通とまちづくり」「観光」に関する研究課題を見つけ出し、文献調査や実地調査などを通じて研究を行います。
講義内では、まず研究を進めていくうえでのディスカッションの仕方やデータや資料の分析の仕方などを習得します。その上で、グループに分かれて、グループ研究に取り組みます。講義内では途中経過の報告をしてもらいながら、研究課題に取り組み、研究をまとめていきます。そして最後に半期の研究成果についてプレゼンテーションを行ってもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済学、商学、経営学などの基本的な知識を習得している。(知識・理解)

様々な社会的事象を観察し、グループで協力して、その問題を見出すことができる。(技能)

グループ研究を通じて、地域社会の課題に向き合い、解決策を探す努力をすることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義内でのグループ研究の報告のために、時間外でも調査及びまとめる作業が必要になります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
・グループで適切にデータ収集及び分析が行える。
・積極的にディスカッションに参加できる。

②評価方法及び割合
グループ研究への参画（データの収集やディスカッションに対する積極性及び協調性）（70%）及び課題の提出（課題に対し、データなどを用いて考察はできるか）（30%）を評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

共通のものは使用しない。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義用のノート及びファイルを必ず持参すること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション
2.研究の手法：ディスカッションの仕方
3.研究の手法：データの取り扱い方
4.研究の手法：研究のまとめ方
5～14　グループワーク
・研究課題の決定
・調査活動
・研究進捗報告
15.研究成果のプレゼンテーション

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-18

鈴木　裕介

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経済学、商学、経営学などの基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.様々な社会的事象を観察し、グループで協力して、その問題を見出すことができる。　(B-1)

3.グループ研究を通じて、地域社会の課題に向き合い、解決策を探す努力をすることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.経済学、商学、経営学などの基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.様々な社会的事象を観察し、グループで協力して、その問題を見出すことができる。　(B-1)

3.グループ研究を通じて、地域社会の課題に向き合い、解決策を探す努力をすることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-18

鈴木　裕介

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.経済学、商学、経営学などの基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.様々な社会的事象を観察し、グループで協力して、その問題を見出すことができる。　(B-1)

3.グループ研究を通じて、地域社会の課題に向き合い、解決策を探す努力をすることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経済学、商学、経営学などの基本的な知識を習得している。　(A-1)

2.様々な社会的事象を観察し、グループで協力して、その問題を見出すことができる。　(B-1)

3.グループ研究を通じて、地域社会の課題に向き合い、解決策を探す努力をすることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-21

合力　知工

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

企業戦略とは、「ヒト・モノ・カネ・情報」という観点から、企業経営を円滑に促すような計画的・長期的方策を意味します。企業は、できるだけ多面的な角度から、「不確実な経営環境を背景に、どのような戦略を打ち立て、業績を維持・成長させていくか」を考えます。
3年次の演習では、教室で理論を学ぶだけでなく、学生が実際に企業や地域社会が抱える課題を発見し、それを改善し活性化する提案を行うという機会を設けています(Active Learning)。具体的には、中小企業の経営者団体が主催する「開物成務塾」と連携し、そこでマーケティング手法を学んだり、ゼミで習得したビジネスツールを活かして、企業に対して提案をしたりしています。
2年次の演習では、3年次の研究活動を有意義なものにするために、基礎的なことを学びます。具体的には、「ビジネス・フレームワーク」「マーケティングに必要な顧客心理の研究」「コーチング」「仕事を効率的に進める脳科学」についての理解を深めます。なお、「開物成務塾」には2年次より参加することになります。
また、ゼミ学年対抗スポーツ大会、学祭での模擬店出店、ＯＢ・ＯＧ会、謝恩会などのイベントの企画・運営を、ゼミ生主体で取り組んでもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。(知識・理解)

環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。(知識・理解)

経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。(知識・理解)

企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。(知識・理解)

有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。(技能)

柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。(技能)

企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。(技能)

企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。(技能)

企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。(態度・志向性)

講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。(態度・志向性)

研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。(態度・志向性)

研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習としては、テキストの予習のみならず、関連書籍や新聞、雑誌、ウェブなどにより十分知識を習得しておく必要があります。
事後学習としては、各自「振り返り」を行い、「研究ノート」に毎回の学びや気づいた点などを記し、定期的に担当教員である私に提出してもらいます。
また、当ゼミでは、グローバル社会に適応できる人材を育成しているので、全員がTOEICを受検し、4年次終了までに700点を取得してもらいます。そのための学習は、各自、授業時間外に行うことになります。

＊事前学習：2時間程度
事後学習：60分程度

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価方法：参加意欲、レポート作成により、総合的に評価します。
②割合：参加意欲（20%）、レポート作成（80%）
③評価基準：参加意欲（ただ出席するだけでなく、発言・提案ができているかどうか）、レポート作成（仮説の設定、検証、結論の流れができており、　かつそれらが根拠のある情報をもとに作成されているかどうか）

◎－－－　テキスト　－－－◎

堀公俊著『ビジネス・フレームワーク』2013、日経文庫、1000円（税抜）、ISBN：9784532119270
CTIジャパン著『マンガでやさしくわかるコーチング』2014年、日本能率協会マネジメントセンター、1500円（税抜）、ISBN：9784820718987

を使用します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミ登録者には「経営戦略論」、「企業戦略論」の履修を求めます。
また、イベント活動を含むすべてのゼミ活動に費やす時間とお金を「費用」ではなく、「投資」であると考えられる人しか受講できません。課外活動やアルバイトを最優先に考える人は当ゼミナールの履修は大変厳しいものとなります。
現時点での知識の有無、成績の良し悪しは問いませんが、知的好奇心の強い人、積極性のある人を希望します。研究活動は非常に厳しいので、それに十分に耐えられると思う人のみ応募してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　戦略立案のフレームワーク（3C、SWOT、PEST、バリューチェーンなど）
第2回　マーケティングのフレームワーク（STP、　ポジショニングマップ、4P、イノベー　ター理論など）
第3回　問題解決のフレームワーク（ギャップ分　析、ロジックツリー、SCAMPER、プロコ　ン表など）
第4回　マネジメントのフレームワーク（PDCA、　ハインリッヒの法則、SMARTの法則、　PREP法など）
第5回　組織開発のフレームワーク（欲求階層説、　ジョハリの窓、GROWモデル、ABC理論　ど）
第6回　マーケティングに必要な顧客心理①　ザイオンス効果、フレーミング効果、シャンパルティエ効果、ツァイガルニク効果、バーナム効果、文脈効果、クレショフ効果、一貫性の原理、返報性の原理など
第6回　マーケティングに必要な顧客心理②　ウィンザー効果、カリギュラ効果、ストループ効果、認知的不協和、初頭効果と新　近効果、ハロー効果、コントラスト効果、　アンカリング効果、松竹梅の法則など
第7回　マーケティングに必要な顧客心理③　テンション・リダクション効果、プロスペクト理論、コンコルド（サンクコスト）効　果、保有効果、ピーク・エンドの法則など
第8回　マーケティングに必要な顧客心理④　バンドワゴン効果、アンダードッグ効果、　スリーパー効果、カクテルパーティ効果、　ディドロ効果、スノッブ効果、ヴェブレン　効果など
第9回　コーチングとは何か
第10回 相手と向き合うスタンス（人の可能性を　信じる）
第11回 傾聴（内的傾聴・集中的傾聴・全方位的　傾聴）
第12回 拡大質問（オープン・クエスチョン）の　意義とやり方
第13回 脳の仕組み（熟考システムと自動システ　ム、防衛モードと発見モード）
第14回 脳とモチベーションの関連性
第15回 脳と生産性の関連性

合力　知工

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-1)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-1)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-1)

5.有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。　(B-1)

6.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

7.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-1)

8.企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。　(B-1)

9.企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。　(C-2)

10.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。　(C-2)

11.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

12.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-1)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-1)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-1)

5.有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。　(B-1)

6.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

7.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-1)

8.企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。　(B-1)

9.企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。　(C-2)

10.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。　(C-2)

11.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

12.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

合力　知工

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-1)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-1)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-1)

5.有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。　(B-1)

6.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

7.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-1)

8.企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。　(B-1)

9.企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。　(C-2)

10.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。
(C-2)

11.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

12.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-1)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-1)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-1)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-1)

5.有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。　(B-1)

6.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

7.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-1)

8.企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。　(B-1)

9.企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。　(C-2)

10.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。
(C-2)

11.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-2)

12.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-22

福山　博文

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　組織体のマネジメントを戦略および意思決定、組織の結びつきなどを考慮しながら、多面的に研究します。その際、組織体を企業組織に限定せず、自治体・NPO法人なども対象とします。マネジメント上の問題解決や経営計画の立案では、カンに頼るのではなくて、様々な組織体の事例を分析し、経営学や経営科学の理論に基づいて戦略を決定しなければなりません。そこで、本ゼミでは、興味ある組織体の事例研究を行ない、経営戦略及びビジネス・政策提案などを考えます。
　また年末には、３年生と合同発表会を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

指定した教科書の基本的な概念について説明できる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出し、その解決策を提案することができる。(技能)

企業、産業、地域の問題を日常的に考えるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習
・授業計画で示したテキストの該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。（90分）

事後学習
・その日の討論の論点を整理すること。（30分）
・ゼミノートを作成すること。（30分）
・グループワークが中心になるため、テーマに則した資料を準備すること。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
・他のゼミ生と協力して論文を作成することができる。
・ゼミの中で、ディスカッションやプレゼンテーションができる。
・調べた内容を自分の言葉で表現した報告要旨を作成できる。

評価方法
・原則として授業への貢献度を含む平常点50%、共同研究報告の内容30%、残り20%は討論などに対する参加態度による。

◎－－－　テキスト　－－－◎

上林・奥林・圍・関本・森田・竹林『経験から学ぶ経営学入門』第2版，2018年、有斐閣ISBN978-4-641-18443-5

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

特にありません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．顔合わせと活動計画の決定
２．共同論文のテーマの決定
３．個人またはグループでの報告及び討論
４．個人またはグループでの報告及び討論
５．個人またはグループでの報告及び討論
６．個人またはグループでの報告及び討論
７．個人またはグループでの報告及び討論
８．Financial Questを学ぶ
９．個人またはグループでの報告及び討論
１０．個人またはグループでの報告及び討論
１１．個人またはグループでの報告及び討論
１２．個人またはグループでの報告及び討論
１３．PowerPointによる発表練習
１４．PowerPointによる発表練習
１５．総括

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-22

福山　博文

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.指定した教科書の基本的な概念について説明できる。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出し、その解決策を提案することができる。　(B-1)

3.企業、産業、地域の問題を日常的に考えるようになる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.指定した教科書の基本的な概念について説明できる。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出し、その解決策を提案することができる。　(B-1)

3.企業、産業、地域の問題を日常的に考えるようになる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-22

福山　博文

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.指定した教科書の基本的な概念について説明できる。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出し、その解決策を提案することができる。　(B-1)

3.企業、産業、地域の問題を日常的に考えるようになる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.指定した教科書の基本的な概念について説明できる。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を見つけ出し、その解決策を提案することができる。　(B-1)

3.企業、産業、地域の問題を日常的に考えるようになる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

和田　剛明

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールは工業経営について知識を修得し、理解を深めることを目的とする。
工業経営は、読んで字のごとく、経営学の知識を工業（ものづくり）に適用したものであり、その基礎は組織論、戦略論、技術経営論などにある。必然的に、工業経営について理解を深めようとするならば、経営学の諸理論を学び、その実践的な活用法を身につける必要がある。
このため、ゼミナールの前半では工業経営に関連する、経営学の諸理論を解説し、その理論を用いて企業事例について分析・考察する演習を行う。その上で、後半では学生自身で興味のある企業について情報を収集し、前半で学んだ知識をもとに分析し、その内容を発表する演習を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

工業経営に関連する経営学の諸理論について、基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

工業経営に関連する経営学の諸理論を用いて、製造企業の活動を分析し、収益力を強化するための課題を発見することができる。(技能)

日常的に新聞や書籍で企業活動に関する情報を収集し、ゼミナールで得た知識をもとに分析し、学んだことの理解を深めることを心がけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

以下に、一週間の授業時間外の学習時間を示す。

第01回～第09回
・授業内容の復習（60分）
・新聞・書籍などで企業活動の情報を入手し、授業の内容をもとに分析・考察する（60分）

第10回～第15回
・授業内容の復習（60分）
・新聞・書籍などで企業活動の情報を入手し、授業の内容をもとに分析・考察する（60分）
・発表資料・レポートの作成（150分）

※全授業期間平均：一週間当たり180分

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

本講義は、学期末試験を実施せず、以下の要素によって評価する。

(1)ゼミナールでの討議・発言（20%）
発言の内容とともに、積極的に発言したか、他の参加者にとってプラスとなる意見を述べたかといった姿勢も評価する。

(2)発表の内容（30%）
しっかりと情報を収集し、分析・考察されているかとともに、オリジナリティ、プレゼンテーションとしての分かりやすさも評価する。

(3)レポート（50%）
しっかりと情報を収集し、分析・考察されているかとともに、文章としての構成・読みやすさも評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義において適宜配布する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミナールは、学生が意見を述べ、討議できることが特徴の授業である。よって、発言をしなければゼミナールを受講する意義がない。参加者には、積極的に意見を述べることを期待する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第01回　ガイダンス
第02回　製造企業の事業組織
第03回　競争状況の分析：SWOT
第04回　競争状況の分析：ファイブフォースモデル
第05回　製造における量産効果：規模の経済
第06回　製造における量産効果：部品共通化
第07回　製造における量産効果：経験効果
第08回　製造企業の差別化能力：VRIO
第09回　企業の基本戦略
第10回　グループ発表準備
第11回　グループ発表
第12回　個人発表準備
第13回　個人発表(1)
第14回　個人発表(2)
第15回　まとめ

※ゼミの参加人数、演習の進み具合に応じて授業計画を変更することがある。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-23

和田　剛明

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.工業経営に関連する経営学の諸理論について、基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.工業経営に関連する経営学の諸理論を用いて、製造企業の活動を分析し、収益力を強化するための課題を発見することができる。　(B-1)

3.日常的に新聞や書籍で企業活動に関する情報を収集し、ゼミナールで得た知識をもとに分析し、学んだことの理解を深めることを心がけている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.工業経営に関連する経営学の諸理論について、基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.工業経営に関連する経営学の諸理論を用いて、製造企業の活動を分析し、収益力を強化するための課題を発見することができる。　(B-1)

3.日常的に新聞や書籍で企業活動に関する情報を収集し、ゼミナールで得た知識をもとに分析し、学んだことの理解を深めることを心がけている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-23

和田　剛明

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.工業経営に関連する経営学の諸理論について、基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.工業経営に関連する経営学の諸理論を用いて、製造企業の活動を分析し、収益力を強化するための課題を発見することができる。　(B-1)

3.日常的に新聞や書籍で企業活動に関する情報を収集し、ゼミナールで得た知識をもとに分析し、学んだことの理解を深めることを心がけている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.工業経営に関連する経営学の諸理論について、基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.工業経営に関連する経営学の諸理論を用いて、製造企業の活動を分析し、収益力を強化するための課題を発見することができる。　(B-1)

3.日常的に新聞や書籍で企業活動に関する情報を収集し、ゼミナールで得た知識をもとに分析し、学んだことの理解を深めることを心がけている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-24

今野　孝

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

企業経営の史的分析をとおして、企業経営と社会経済の発展、我々の生活や文化とのかかわりなどを多面的に考察します。文献による学習にとどまらず、一次資料の解読や分析、資料調査や聴取調査など多彩な活動が可能です。ゼミに参加した成果は受講生自身の努力にかかっています。
この「2年専門ゼミナール」では、経営史に関する全般的・基本的な理解を深めるとともに、報告の仕方や資料の作成方法など、ゼミナール活動で必要なスキルを習得します。その上で次年度の「3年専門ゼミナール」に参加し、3年次後期からは各自卒論のテーマを設定して卒論研究に着手します。
ゼミナールでは、宇田川勝他編『マテリアル日本経営史』―江戸期から現在まで―(有斐閣)をテキストに日本の経営の発展の流れを学びます。
毎回、担当者は報告概要を記した資料を作成し、PowerPointを使って報告します。最初は何人かが同じ部分を担当して資料やプレゼンテーションのためのスライドの作成、報告のやり方等を学びます。それ以降はそれぞれ担当部分を決め、分担して報告と質疑をおこないながらゼミを進めていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営に関する基本的な知識を説明することができる。(知識・理解)

企業や産業、さらには地域がおかれている状況を経営史的知識を用いて説明することができる。(技能)

歴史的な知識を用いて、企業や産業及び地域が取り組むべき課題について説明することができる。(態度・志向性)

歴史的な知識を用いて、企業や産業、地域が発展する方向について説明することができる。(技能)

経営活動に歴史的知識・知見が用いられるものである理由を説明できる。(技能)

企業や産業、及び地域が取組むべき課題を発見することができる。(態度・志向性)

課題解決のために、経営に関する歴史的知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。(態度・志向性)

課題解決のための活動において、リーダーシップを発揮することができる。(態度・志向性)

課題解決のために必要な知見や事例を収集し抽出することができる。(技能)

地域や社会の発展に経営史的な見地から貢献する姿勢をもっている。(態度・志向性)

地域や社会の発展のため、経営史的知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

地域や社会の発展のため、主体的、協調的な行動をとることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

報告を担当する人は報告資料やスライド作成など万全な準備が必要です。ぶっつけ本番の報告ではなく、あらかじめ予行を行うなど十分に時間をかけて取り組んでください。(120分)
報告者以外の人も、必ず事前に次回の学習部分について十分にテキストを読んで学習しておかなければなりません。報告者に対する質問を準備し、受講者間で意見を交わすべき事項を探しておいてください。(30分)
毎回のゼミ終了後には、配付された資料等を整理し、その日の学習の要点および重要事項を必ずノートに整理してください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

報告の内容、報告資料やスライドの完成度、さらに討論への参加状況等を加点要素とし、総合的に評価します。ゼミは演習科目ですから毎回出席するだけでなく、自分で考え、自ら発言することが必要なことは言うまでもありません。
遅刻や無断欠席をすれば、ゼミ受講者としての評価は必然的に低下することになりますので注意してください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

宇田川勝他編『マテリアル日本経営史』―江戸期から現在まで―(有斐閣,2011年)。価格:2,600円。
ISBN-978-4641160538
テキストは開講時までに担当者が手配します。

◎－－－　参考書　－－－◎

山崎広明他編『日本経営史の基礎知識』(有斐閣，2004
ISBN 4641183104

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

報告担当者は、報告資料やスライドをあらかじめ準備して提出することにしていますから毎回準備を怠らないようにしてください。ＦＵポータルやＥメールの利用には十分に習熟しておいてください。
また、欠席は厳禁です。どうしても出席できない場合には、必ず連絡してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.はじめに ガイダンス―
2.報告の仕方及びスライド・資料作成について
3.江戸時代(1)
4.江戸時代(2)
5.江戸時代(3)
6.明治期(1)
7.明治期(2)
8.明治期(3)
9.大正・昭和期(1)
10.大正・昭和期(2)
11.大正・昭和期(3)
12.戦中・戦後初期(1)
13.戦中・戦後初期(2)
14.戦後期
15.まとめ(および3年専門ゼミナールⅠ・Ⅱに向けて)

◎－－－　URL　－－－◎

今野ゼミ専門ゼミナールのページ
(http://imano.comm.fukuoka-u.ac.jp/imano/senmon_semi.html)

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-24

今野　孝

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経営に関する基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.企業や産業、さらには地域がおかれている状況を経営史的知識を用いて説明することができる。　(B-1)

3.歴史的な知識を用いて、企業や産業及び地域が取り組むべき課題について説明することができる。　(C-2)

4.歴史的な知識を用いて、企業や産業、地域が発展する方向について説明することができる。　(B-1)

5.経営活動に歴史的知識・知見が用いられるものである理由を説明できる。(B-1)

6.企業や産業、及び地域が取組むべき課題を発見することができる。　(C-2)

7.課題解決のために、経営に関する歴史的知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(C-2)

8.課題解決のための活動において、リーダーシップを発揮することができる。(C-2)

9.課題解決のために必要な知見や事例を収集し抽出することができる。　(B-1)

10.地域や社会の発展に経営史的な見地から貢献する姿勢をもっている。(C-2)

11.地域や社会の発展のため、経営史的知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

12.地域や社会の発展のため、主体的、協調的な行動をとることができる。(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.経営に関する基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.企業や産業、さらには地域がおかれている状況を経営史的知識を用いて説明することができる。　(B-1)

3.歴史的な知識を用いて、企業や産業及び地域が取り組むべき課題について説明することができる。　(C-2)

4.歴史的な知識を用いて、企業や産業、地域が発展する方向について説明することができる。　(B-1)

5.経営活動に歴史的知識・知見が用いられるものである理由を説明できる。(B-1)

6.企業や産業、及び地域が取組むべき課題を発見することができる。　(C-2)

7.課題解決のために、経営に関する歴史的知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(C-2)

8.課題解決のための活動において、リーダーシップを発揮することができる。(C-2)

9.課題解決のために必要な知見や事例を収集し抽出することができる。　(B-1)

10.地域や社会の発展に経営史的な見地から貢献する姿勢をもっている。(C-2)

11.地域や社会の発展のため、経営史的知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

12.地域や社会の発展のため、主体的、協調的な行動をとることができる。(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-24

今野　孝

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.経営に関する基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.企業や産業、さらには地域がおかれている状況を経営史的知識を用いて説明することができる。　(B-1)

3.歴史的な知識を用いて、企業や産業及び地域が取り組むべき課題について説明することができる。　(C-2)

4.歴史的な知識を用いて、企業や産業、地域が発展する方向について説明することができる。　(B-1)

5.経営活動に歴史的知識・知見が用いられるものである理由を説明できる。(B-1)

6.企業や産業、及び地域が取組むべき課題を発見することができる。　(C-2)

7.課題解決のために、経営に関する歴史的知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(C-2)

8.課題解決のための活動において、リーダーシップを発揮することができる。(C-2)

9.課題解決のために必要な知見や事例を収集し抽出することができる。　(B-1)

10.地域や社会の発展に経営史的な見地から貢献する姿勢をもっている。(C-2)

11.地域や社会の発展のため、経営史的知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

12.地域や社会の発展のため、主体的、協調的な行動をとることができる。(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経営に関する基本的な知識を説明することができる。　(A-1)

2.企業や産業、さらには地域がおかれている状況を経営史的知識を用いて説明することができる。　(B-1)

3.歴史的な知識を用いて、企業や産業及び地域が取り組むべき課題について説明することができる。　(C-2)

4.歴史的な知識を用いて、企業や産業、地域が発展する方向について説明することができる。　(B-1)

5.経営活動に歴史的知識・知見が用いられるものである理由を説明できる。(B-1)

6.企業や産業、及び地域が取組むべき課題を発見することができる。　(C-2)

7.課題解決のために、経営に関する歴史的知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(C-2)

8.課題解決のための活動において、リーダーシップを発揮することができる。(C-2)

9.課題解決のために必要な知見や事例を収集し抽出することができる。　(B-1)

10.地域や社会の発展に経営史的な見地から貢献する姿勢をもっている。(C-2)

11.地域や社会の発展のため、経営史的知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

12.地域や社会の発展のため、主体的、協調的な行動をとることができる。(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-25

水野　博志

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

２，３，４年と続く、ゼミナールでは、２年後期は実践経営学の学習にあて、３年、４年は実践株式投資にあてる。わたしの専門は企業財務であるが、わたし自身は実際にビジネスをしてきたという意味で実践経営学の重要性を認識し、また実際に株式投資をしてきたという意味で実践株式投資の重要性を認識してきた。どちらも重要であり、皆さんにこの二つを教えるだけの知識を持っていると考えている。２年後期の実践経営学の内容は、自らの経験を踏まえて実践ビジネスを理論的に考える。
授業の進め方としては、わたしの経営する田園喫茶ワイルドベリーのケースを取り上げ、小さなビジネスを立ち上げ、継続させていくときの原理原則のようなものを解説する。具体的には、弱者の経営戦略、ビジネスを立ち上げる時のファイナンスの方法、ビジネスモデル、採算性の原理、将来性を考える時のポイント、採算性と収益性の両立等である。

経営の目的は、利益ではなく、社会的に意義のあるかたちで存続することであり、そのためには必要な利益を確保していかなければならないというのが、稲盛氏の哲学である。わたしはその哲学に共感し、わたしの実践を通じて皆さんに稲盛氏の哲学を伝えていきたいと考えている。

◎－－－　到達目標　－－－◎

損益分岐点の概念を説明できる。(知識・理解)

小さな企業の経営戦略を説明できる。(知識・理解)

収益性の高い産業の特徴を分析できる。(技能)

企業経営の方向性を説明できる。(技能)

実践経営のポイントと難しさを判断できる。(態度・志向性)

企業の目的についての哲学を持っている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習・復習として特に重要なのは、日経Webで、株式市場を中心にしたマーケットの動きを見ることである。毎日、株価、外国為替、ニュースを検索するのに30分程度の時間が必要と思われる。日経Webにはマーケットの動きに対する解説が書かれているのでそれを読むこと。さらに高度な予習・復習としては、「エコノミスト」や「東洋経済」によって、日経Webの記事よりも長いトレンドで経済を見る目を養うことである。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

研究報告の内容、討論に対する参加態度等で総合して成績を判定する。ゼミを履修する前に、歴史感覚を身につけるため司馬遼太郎著『竜馬がゆく』文集文庫（全8巻）を読破し、感想文（2000字以上）を提出のこと。また期末には稲盛和夫著「ガキの自叙伝」の感想文を書いてもらう。レポートも成績評価に加える。おおよその目安として、研究報告の内容80%、討論に対する参加態度20%で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

稲盛和夫著『心を高める、経営を伸ばす』（新装版）、ＰＨＰ出版2004、1000円　ISBN 4-569-63638-1
坂上仁志著『小さな会社こそが№1になるランチェスター経営戦略』明日香出版社、2009、1500円　ISBN 978-4-7569-1289-3

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

実践経営学に興味のある学生を希望する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　ビジネスを始める時の資金調達
2　小規模事業と大規模事業の経営戦略
3　ビジネスモデルの構築
4　稲盛氏の掲げる経営者の条件
5　損益分岐点分析
6　固定費の削り方
7　粗利益の産業別分析ベスト１０（１）
8　粗利益の産業別分析ベスト１０（２）
9　粗利益の産業別分析ワースト１０
10　これからの産業を考える
11　ビジネスを継続する条件
12～14　ビジネスの目的（１～３）
　　収益性と継続性、文化、ホスピタリティ
　　京セラのケース
　　ディズニーランドのケース
　　ワイルドベリーのケース
15　稲盛和夫氏の経営哲学

２年専門ゼミナール

水野　博志

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.損益分岐点の概念を説明できる。　(A-1)

2.小さな企業の経営戦略を説明できる。　(A-1)

3.収益性の高い産業の特徴を分析できる。　(B-1)

4.企業経営の方向性を説明できる。　(B-1)

5.実践経営のポイントと難しさを判断できる。　(C-2)

6.企業の目的についての哲学を持っている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.損益分岐点の概念を説明できる。　(A-1)

2.小さな企業の経営戦略を説明できる。　(A-1)

3.収益性の高い産業の特徴を分析できる。　(B-1)

4.企業経営の方向性を説明できる。　(B-1)

5.実践経営のポイントと難しさを判断できる。　(C-2)

6.企業の目的についての哲学を持っている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-25

水野　博志

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.損益分岐点の概念を説明できる。　(A-1)

2.小さな企業の経営戦略を説明できる。　(A-1)

3.収益性の高い産業の特徴を分析できる。　(B-1)

4.企業経営の方向性を説明できる。　(B-1)

5.実践経営のポイントと難しさを判断できる。　(C-2)

6.企業の目的についての哲学を持っている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.損益分岐点の概念を説明できる。　(A-1)

2.小さな企業の経営戦略を説明できる。　(A-1)

3.収益性の高い産業の特徴を分析できる。　(B-1)

4.企業経営の方向性を説明できる。　(B-1)

5.実践経営のポイントと難しさを判断できる。　(C-2)

6.企業の目的についての哲学を持っている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

森田　泰暢

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールは主に組織や集団、人間行動について研究を行います。
組織を対象とした研究の手法には様々なものがありますが、より対象に迫り、人間の行動を詳細に理解するという点から、フィールドリサーチを重視します。そこで、2年専門ゼミナールでは組織の調査において必要なインタビューと観察のスキルを学ぶことを目的とします。企業組織に所属する方々へのインタビューや企業が主催するワークショップの観察調査、その他のトレーニングを兼ねた行動観察などです。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会や企業が置かれてるサービス化という変化について説明できる(知識・理解)

フィールド調査の基本的手法であるインタビューと観察の基礎スキルと質的なデータ分析手法を身につけている(技能)

フィールド調査および分析についてのリフレクションおよび自己研鑽ができる(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各活動ごとにリフレクションを行いblogやレポートなどの形式で言語化を行う（60分）
次回のゼミに向けてテーマについてグループのメンバーと議論を行う（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

60点以上を合格とします。評価方法と割合は以下の通りです。
（1）ゼミへの取り組み状況（発言や課題への取り組み）：60%
（2）課題（適宜提示）：20%
（3）レポート（活動成果のまとめ）：20%

評価基準は到達目標の達成度を基準とします。
具体的には下記のポイントについて評価をします。
・インタビューおよび観察調査の手法
・インタビューや観察調査のデータの整理の方法
・調査目的・背景とデータを含めたレポート

各回ごとのリフレクション内容（書かれたblogやレポートなど）について教員から講義内でコメントをする形でフィードバックを行います。

【出席および欠席について】
出席は当然なので評価には加味しません。したがって、欠席は原則認めません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

受講生と相談の上決定します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業の性質上、欠席を認めません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. オリエンテーション
2. 観察とインタビューとは
3. 観察ワーク１
4. 観察ワーク2
5. 観察ワーク３
6. インタビューワーク１
7. インタビューワーク２
8. インタビューワーク３
9. 質的調査１
10. 質的調査２
11. 調査分析１
12. 調査分析２
13. 成果の共有１
14. 成果の共有２
15.まとめ

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-26

森田　泰暢

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.社会や企業が置かれてるサービス化という変化について説明できる　(A-1)

2.フィールド調査の基本的手法であるインタビューと観察の基礎スキルと質的なデータ分析手法を身につけている　(B-1)

3.フィールド調査および分析についてのリフレクションおよび自己研鑽ができる　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.社会や企業が置かれてるサービス化という変化について説明できる　(A-1)

2.フィールド調査の基本的手法であるインタビューと観察の基礎スキルと質的なデータ分析手法を身につけている　(B-1)

3.フィールド調査および分析についてのリフレクションおよび自己研鑽ができる　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-26

森田　泰暢

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.社会や企業が置かれてるサービス化という変化について説明できる　(A-1)

2.フィールド調査の基本的手法であるインタビューと観察の基礎スキルと質的なデータ分析手法を身につけている　(B-1)

3.フィールド調査および分析についてのリフレクションおよび自己研鑽ができる　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.社会や企業が置かれてるサービス化という変化について説明できる　(A-1)

2.フィールド調査の基本的手法であるインタビューと観察の基礎スキルと質的なデータ分析手法を身につけている　(B-1)

3.フィールド調査および分析についてのリフレクションおよび自己研鑽ができる　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-27

藤野　真

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

◎ゼミの目的
　企業は人間が生存するために必要不可欠な存在です。換言すれば、私たちの生活は企業との関わりなしには成り立たないといえます。
　したがって、ゼミでは、経営学のさまざまな先行研究を基礎に、社会と企業の関係に留意しながら、企業（とくに現代企業）の基本的特質と現代的課題を解明することを目的とします。

◎ゼミの内容
　創業体験プログラムへ参加します。創業体験プログラムへ参加する理由は、これまでに学んできた経営学を実践するためであると同時に、実践を通じて経営学を学ぶことの意味を問うことにあります。実践と座学を行ったり来たりしながら学びを深めてほしいと思っています。

◎ゼミに参加するにあたって
　創業体験プログラムは、多くの方の協力により成り立っています。したがって、責任ある行動をとることを求めます。学生だから、学生だからしょうがないよ、といった考え方を許容する気持ちは一切ありません。その点を十分認識してほしいと思います。
　また、ゼミは教員の名前で開講されますが、ゼミは藤野のものではなく、ゼミ生のものです（もちろん僕のものでもありますが）。ゼミやゼミの雰囲気を作り上げるのは学生自身です。ゼミが面白くなるかどうかはゼミ生にかかっています。明確な問題意識をもち、お互いを尊重し合える、そういったゼミ生を求めています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業計画を参照してください。進捗状況に合わせて事前（120分）・事後学習（120）の指示を行っています。
　課題図書一覧を配布しています。課題図書の書評を2冊/月行ってください。書評は、指定されたGoogleドライブにアップロードしてください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　60点以上を合格とします。評価は以下の基準で行います。
（1）ゼミへの取り組み状況（発言や課題への取り組み）：60%
（2）課題（適宜課される宿題）：20%
（3）論文（レポート）：20%

◎評価基準
　創業体験プログラムでの責任感ある行動、議論への積極的な関与を高く評価します。また、問題意識があり、緻密に研究を積み重ねている論文（レポート）を高く評価します。また、ゼミでの積極的な発言を高く評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

◎履修することを強く推奨する科目について
　「経営管理論」・「経営管理各論」を履修していること（すること）。試験日程との兼ね合いがあるとは思いますが、上記の科目は可能な限り2年生のときに履修するようにしてください。

◎課外活動について
　学期中または休暇中にゼミ合宿や工場見学、合評会、懇親会を予定しています。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１.ガイダンス（ゼミとは何か？）
２.創業体験プログラム（1）
３.創業体験プログラム（2）
４.創業体験プログラム（3）
５.創業体験プログラム（4）
６.創業体験プログラム（5）
７.創業体験プログラム（6）
８.創業体験プログラム（7）
９.創業体験プログラム（8）
１０.創業体験プログラム（9）
１１.創業体験プログラム（10）
１２.創業体験プログラム（11）
１３.創業体験プログラム（12）
１４.創業体験プログラム（13）
１５.創業体験プログラム（14）

◎－－－　URL　－－－◎

創業体験プログラム（Facebook）
(https://www.facebook.com/fuentrepreneurship)

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-27

藤野　真

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-27

藤野　真

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-1)

2.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-28

池田　健一

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

財務会計と簿記に関する重要項目を中心に、受講生の専門科目などの学習状況も考慮しながら、テーマごとに基礎的な内容から一般的な内容まで、講義とは少し違うゼミ形式で学習を進めていきます。授業の中で示す課題に取り組んで提出することが必要になります。詳細については別冊の「募集要項」を参照してください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。(知識・理解)

ゼミで学んだ会計学の知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。(技能)

グループで課題に取り組み、会計学の知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。(態度・志向性)

グループでプレゼンテーションをすることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

ゼミの時間中に示す課題に取り組み、指定された期日までに提出すること（めやす15分）。なお、課題がない回もあります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ゼミで調査した課題や他のゼミ生の報告などを通じて学習した内容の理解度やゼミおよび行事への積極的な参加、ゼミ運営への貢献度を評価基準とします。
評価方法およびその配分割合は、発表の内容(2割)、ゼミの授業および行事への参加状況、学習内容の理解度、ゼミ運営への貢献度などの平常点(7割)、課題など(1割)の評点を総合して成績を判定します。これらのうちゼミおよび行事への積極的な参加を特に重視して評価を行っていきます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし

◎－－－　参考書　－－－◎

必要に応じて、ゼミの時間中に指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

後期のゼミナールの中で、１人あたり１回程度、学習内容に関する報告をしてもらおうと考えています。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．オリエンテーション
２．グループワーク
３．論点の学習①
４．論点の学習②
５．報告①
６．報告②
７．論点の学習③
８．論点の学習④
９．報告③
１０．報告④
１１．論点の学習⑤
１２．論点の学習⑥
１３．報告⑤
１４．報告⑥
１５．まとめ

なお、講義日程や諸事情により授業計画を変更させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-28

池田　健一

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。　(A-1)

2.ゼミで学んだ会計学の知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。　(B-1)

3.グループで課題に取り組み、会計学の知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。　(C-2)

4.グループでプレゼンテーションをすることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。　(A-1)

2.ゼミで学んだ会計学の知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。　(B-1)

3.グループで課題に取り組み、会計学の知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。　(C-2)

4.グループでプレゼンテーションをすることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

池田　健一

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。　(A-1)

2.ゼミで学んだ会計学の知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。　(B-1)

3.グループで課題に取り組み、会計学の知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。　(C-2)

4.グループでプレゼンテーションをすることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。　(A-1)

2.ゼミで学んだ会計学の知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。　(B-1)

3.グループで課題に取り組み、会計学の知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。　(C-2)

4.グループでプレゼンテーションをすることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール（会計学の基礎を楽しく学ぶ！）

2019-4010000377-29

田坂　公

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

当ゼミでは，経営のための会計（＝管理会計）の立場から学びます。主として次の3点を通じて「会計」の楽しさを学びます。
(1)会計の勉強をすると，「数字の使い方が上手になる」ことを学びます。
(2)会計の勉強をすると，「生きていくのに役立つ」ことを学びます。
(3)会計の勉強をすると，「人を幸せにする」ことができることを学びます。
2年次は，会計学（管理会計）の基礎を学習し，3年次以降は管理会計の本格的論点に取り組んでいく予定です。
なお，ゼミ同士の親睦を深めるイベントを積極的に行います。たとえば，他大学とのゼミ交流会の実施，ゼミ合宿等です。これらのイベントを「ゼミ行事」として捉えたうえで，ゼミ生全員で役割分担して協力することが大切となります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

企業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

報告者は，グループ同士で話し合い，テキストをまとめ，資料をワードやパワーポイントを使って報告してもらいます。また，割り当てられた部分だけをまとめるのではなく，自分でいろいろ調べながら報告を行うことが望ましいです。
そのため，原則として予習に1.5時間，復習に1.5時間の準備学習を想定しておいてください。ただし準備学習には個人差があるのが通常であるため，各自考えて行動してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ゼミナール活動への積極的参加度20%，グループ報告の内容（会計学の基礎となるフレームワークが理解できているか）40%，グループワークにおける協調性・積極性30%，課題レポート等（体裁の整ったレポートおよびレジュメを作成できているか）10%を総合して評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

・山田真哉『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？－身近な疑問から始める会計学』光文社新書(ISBN:9784334032913)

◎－－－　参考書　－－－◎

櫻井通晴『管理会計・第六版』同文舘出版　ISBN 9784495161460

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

(1)ゼミ活動には積極的に参加できる（参加したい）方を希望します。
(2)「原価計算論」「簿記原理」および「会社簿記」の内容を事前に学習しておくことを希望します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　ゼミの進め方の説明，自己紹介
2　レジュメ・レポートの書き方
3　テキストの序章の解説
4　グループによるテキスト等の報告・討論
5　グループによるテキスト等の報告・討論
6　グループによるテキスト等の報告・討論
7　グループによるテキスト等の報告・討論
8　グループによるテキスト等の報告・討論
9　グループによるテキスト等の報告・討論
10　グループによるテキスト等の報告・討論
11　グループによるテキスト等の報告・討論
12　グループによるテキスト等の報告・討論
13　グループによるテキスト等の報告・討論
14　グループによるテキスト等の報告・討論
15　まとめ

２年専門ゼミナール（会計学の基礎を楽しく学ぶ！）

田坂　公

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール（会計学の基礎を楽しく学ぶ！）

田坂　公

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに社会科学についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.企業が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(B-1)

3.社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-30

中村　信博

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

企業の外部利害関係者（stakeholders）に対して会計情報を作成・伝達する事を目的とする財務会計の基本的諸概念および会社法、金融商品取引法に基づく会計制度の理解を深めると同時に、会計学の全体像を把握できるようにします。具体的には、「共通ビジネス言語」とも称される会計情報の中心をなす伝統的財務諸表である貸借対照表および損益計算書について、その基礎概念や各主要項目の内容について逐次検討・発表・討論・解説を行うことを通じて、"accounting mind" を身に付け、会計リテラシーの向上をはかります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計学の基礎的な用語や概念を説明できる。(知識・理解)

会計情報の基本的分析方法を企業の資金調達と関連させて説明できる。(技能)

会計制度の概要および諸問題について関心を持つことができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

当然のことですが、発表担当の有無にかかわらず、内容豊かな質疑応答が展開されるために必要となる周到な準備が、毎回求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

研究発表の内容40%、討論に対する参加態度40%、「卒業論文研究発表会」をはじめとするゼミナール行事に対する貢献度20%を目安として総合的に成績を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用せず、必要な資料を活用しながら進めていきます。

◎－－－　参考書　－－－◎

田中建二著『財務会計入門』第5版　中央経済社、2018、￥2,600、ISBN978-4-502-13611-5

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

簿記に関する基礎的な知識を有することが望ましい。演習科目ですから当然のことですが、無断欠席は厳禁です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１.はじめに（ゼミガイダンス）
２.進路ガイダンス
（『キャリアデザインガイド』利用）
３.社会人基礎力とゼミ
４.簿記と会計学(1)
５.簿記と会計学(2)
６.簿記と会計学(3)
７.会計学を学ぶ意味
８.会計の基本前提：会計制度
９.会計基準
１０.財務諸表の体系
１１.資産会計(1)
１２.資産会計(2)
１３.負債会計
１４.資本（純資産）会計
１５.損益会計

なお、1月下旬に開催される「卒論研究発表会」への出席が求められます。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-30

中村　信博

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.会計学の基礎的な用語や概念を説明できる。　(A-1)

2.会計情報の基本的分析方法を企業の資金調達と関連させて説明できる。(B-1)

3.会計制度の概要および諸問題について関心を持つことができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.会計学の基礎的な用語や概念を説明できる。　(A-1)

2.会計情報の基本的分析方法を企業の資金調達と関連させて説明できる。(B-1)

3.会計制度の概要および諸問題について関心を持つことができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-30

中村　信博

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.会計学の基礎的な用語や概念を説明できる。　(A-1)

2.会計情報の基本的分析方法を企業の資金調達と関連させて説明できる。(B-1)

3.会計制度の概要および諸問題について関心を持つことができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.会計学の基礎的な用語や概念を説明できる。　(A-1)

2.会計情報の基本的分析方法を企業の資金調達と関連させて説明できる。(B-1)

3.会計制度の概要および諸問題について関心を持つことができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-31

長束　航

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

企業会計に関する調査・報告・討論を行うというプロセスを通じて、ただ単に会計学の知識を学ぶだけではなく、アカウンティング・マインド（会計的思考）を身に付けることを目標とする。主として財務会計論および監査論の分野の研究を行う予定である。
2年次は単独でゼミを行うが、3年次および4年次は合同で行う。また、ゼミ生同士の親睦を深める行事を積極的に行っているが、企画から運営までゼミ生全員（全学年合同）で協力して行うので、これらの行事については原則として全員参加が前提となる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。(知識・理解)

会計学の基本的知識を用いて企業の会計的・財務的課題を発見することができる。(技能)

企業会計に関する文献を定期的に閲覧するなど、主体的に新たな会計トピックを学修する姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

グループ単位で調査・報告を行ってもらうので、そのための準備を授業前に行う必要がある（調査・報告担当回に5時間程度）。担当回以外においても討論の準備のための予習が必要となる（1時間程度）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

研究報告の内容、討論に対する参加態度、共同研究における積極性と協調性、レポート等の評価項目毎の評点を総合して成績を判定する。概ね研究報告の内容40%、討論に対する参加態度30%、共同研究における積極性と協調性20%、レポート10%の割合で評点を算出する。これらの評価項目については、会計学の基本的知識を用いて企業活動を把握・考察し課題を発見できるようになっているかどうか、さらにその会計学の基本的知識を主体的に更新していく学修姿勢があるかどうかを単位認定の判断基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

広瀬義州『財務会計』第13版　中央経済社／
ISBN978-4502163418
桜井久勝『財務諸表分析』第7版　中央経済社／
ISBN978-4502223518
その他必要と思われるテキストは適宜指定する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①ゼミ活動には積極的に参加すること（特に、ゼミ活動を大学生活の中心に据えようと考えている学生の履修を希望する）。
②「簿記原理」および「会社簿記」の内容を事前に学習しておくことが必要である。また、「会計学総論」および「監査論」も並行して履修すること。
③正当な理由なく欠席しないこと（正当な理由がある場合には事前に連絡・相談すること）。なお、無断欠席は、「討論に対する参加態度」および「共同研究における積極性と協調性」の減点対象となる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス
２　レジュメ・論文の作成方法
３　ゼミの進め方
４～１５
会計学の基礎的論点に関する調査・
報告・討論

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-31

長束　航

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。　(A-1)

2.会計学の基本的知識を用いて企業の会計的・財務的課題を発見することができる。　(B-1)

3.企業会計に関する文献を定期的に閲覧するなど、主体的に新たな会計トピックを学修する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。　(A-1)

2.会計学の基本的知識を用いて企業の会計的・財務的課題を発見することができる。　(B-1)

3.企業会計に関する文献を定期的に閲覧するなど、主体的に新たな会計トピックを学修する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-31

長束　航

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。　(A-1)

2.会計学の基本的知識を用いて企業の会計的・財務的課題を発見することができる。　(B-1)

3.企業会計に関する文献を定期的に閲覧するなど、主体的に新たな会計トピックを学修する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.会計学の基本的知識を学び、あらゆる企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになる。　(A-1)

2.会計学の基本的知識を用いて企業の会計的・財務的課題を発見することができる。　(B-1)

3.企業会計に関する文献を定期的に閲覧するなど、主体的に新たな会計トピックを学修する姿勢をもっている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-32

山内　進

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

税法に関する基礎的なテーマについて、学習します。私たちの普段の暮らしや企業で必要となる税金に関する知識の習得が到達目標です。
授業の進め方は、三年生の先輩と二年生がグループを組み、グループ学習を基本とします。また１１月の税務検定試験２級の全員合格を目指します。また大学簿記対抗試合にも出場する予定です。
税法に興味をもたせることと、税法の基本的能力を身に付けさせること並びに自分の意見を述べるとともに、グループで協力し合い、創りあげる喜びを得てほしい。ゼミの発表前には、二年生は、三年生の先輩の指導を受け、一緒に調べ研究し、それをまとめてプレゼンテーションするという準備が必要です。また発表で指摘された点を参考に、次回の発表に励んで欲しい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

税務は、経営と会計の知識が基本となっている。税務を知ることにより、同時に経営会計の知識を身に着けることができる。(知識・理解)

税制は政策手段としても利用され、企業の成長、産業の発展に繋がっていくという理解ができるようになる。

税務は実学であり、企業戦略に密着した経営管理に役立つ税務の知識を身に着けることができる。(技能)

ゼミナールではアクティブラーニングを取り入れているため、リーダーシップの能力を高めることができる。

積極的なゼミ活動を通じて、地域や社会に貢献できる人材となることができる。
(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業前に発表者は、前もって三年次生と協力したプレゼンテーションの準備が、それ以外の学生は、課題に合わせた予習が望まれます。授業後の復習としては、発表者はプレゼンテーションの反省、それ以外の学生はゼミで得た知識を自分なりにまとめあげる必要があります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ゼミ授業への貢献度(プレゼンテーションの技術と内容・ディベート能力・コミュニケーション能力・独創性等)(40%)、レポートの提出(20%)、検定試験の結果(40%)を加味しながら総合的に判断します。
個人及び法人における税法の基本的理解及び発表能力を評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山内ススム『所得税法要説』税務経理協会、6,200円、ISBN978-4-419-06357-3
山内ススム『法人税法要説』税務経理協会、改訂版作成中
山内ススム『相続税法要説』税務経理協会、4,400円、ISBN978-4-419-06454-9
山内ススム『消費税法要説』税務経理協会、5,200円、ISBN978-4-419-06489-1

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　活動のスケジュール等及びゼミ長の発表
２　グループの決定
３　グループ討議の練習〔１〕
４　グループ討議の練習〔２〕
５　税務検定対策〔１〕
６　税務検定対策〔２〕
７　税務検定対策〔３〕
８　プレゼンテーション準備
９　個人や企業に係る税金の発表〔１〕
１０　個人や企業に係る税金の発表〔２〕
１１　個人や企業に係る税金の発表〔３〕
１２　個人や企業に係る税金の発表〔４〕
１３　個人や企業に係る税金の発表〔５〕
１４　個人や企業に係る税金の発表〔６〕
１５　総括

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-32

山内　進

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.税務は、経営と会計の知識が基本となっている。税務を知ることにより、同時に経営会計の知識を身に着けることができる。　(A-1)

2.税制は政策手段としても利用され、企業の成長、産業の発展に繋がっていくという理解ができるようになる。

3.税務は実学であり、企業戦略に密着した経営管理に役立つ税務の知識を身に着けることができる。　(B-1)

4.ゼミナールではアクティブラーニングを取り入れているため、リーダーシップの能力を高めることができる。

5.積極的なゼミ活動を通じて、地域や社会に貢献できる人材となることができる。
(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.税務は、経営と会計の知識が基本となっている。税務を知ることにより、同時に経営会計の知識を身に着けることができる。　(A-1)

2.税制は政策手段としても利用され、企業の成長、産業の発展に繋がっていくという理解ができるようになる。

3.税務は実学であり、企業戦略に密着した経営管理に役立つ税務の知識を身に着けることができる。　(B-1)

4.ゼミナールではアクティブラーニングを取り入れているため、リーダーシップの能力を高めることができる。

5.積極的なゼミ活動を通じて、地域や社会に貢献できる人材となることができる。
(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-32

山内　進

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.税務は、経営と会計の知識が基本となっている。税務を知ることにより、同時に経営会計の知識を身に着けることができる。　(A-1)

2.税制は政策手段としても利用され、企業の成長、産業の発展に繋がっていくという理解ができるようになる。

3.税務は実学であり、企業戦略に密着した経営管理に役立つ税務の知識を身に着けることができる。　(B-1)

4.ゼミナールではアクティブラーニングを取り入れているため、リーダーシップの能力を高めることができる。

5.積極的なゼミ活動を通じて、地域や社会に貢献できる人材となることができる。
(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.税務は、経営と会計の知識が基本となっている。税務を知ることにより、同時に経営会計の知識を身に着けることができる。　(A-1)

2.税制は政策手段としても利用され、企業の成長、産業の発展に繋がっていくという理解ができるようになる。

3.税務は実学であり、企業戦略に密着した経営管理に役立つ税務の知識を身に着けることができる。　(B-1)

4.ゼミナールではアクティブラーニングを取り入れているため、リーダーシップの能力を高めることができる。

5.積極的なゼミ活動を通じて、地域や社会に貢献できる人材となることができる。
(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-33

飛田　努

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

「2年専門ゼミナール」では大きく分けて2つの取組みを行います。
1つは「企業経営の良し悪しを見極める方法を学ぶ」ことです。企業経営の良し悪しを見ていくには，（1）企業経営の仕組みを理解する「経営学の視点」と（2）仕組みが成果に結びついているのかを知るための「会計学の視点」という2つの視点が必要です。簡単に言えば，企業がどのようにして利益を得ているのか＝儲けているのかを知るには，経営学と会計学の双方から見ることが求められます。そのため，本ゼミでは（1）と（2）の双方を企業経営の事例をもとに効果的・効率的に学習しながら，「企業の仕組みをよく学び，経営を見る目を養う」ことを通じて，その良し悪しを見極める方法を学ぶことを目的とします。
もう1つは「創業体験プログラム」を通じた実践的な学びです。七隈祭における模擬店出店を，擬似的な株式会社を設立して行います。この中でゼミ生は福岡経済を担う社長，公認会計士，司法書士，ベンチャーキャピタリストなどの方々と交流を深め，社会を支える1個人としてのコミュニケーション能力を培ったり，ゼミ生と協力して1つの「企業」をマネジメントすることを通じて，企業経営に関する基本的な知識，考え方を実践の中で学習することになります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

創業体験プログラムを通じて，企業経営に必要な基本的な知識を身につける。(知識・理解)

創業体験プログラムによる企業経営の疑似体験を通じて，企業がもつ内外の環境与件を抽出し，検討することができるようになる。(知識・理解)

創業体験プログラムによる企業経営の疑似体験を通じて，企業や産業，地域の抱える課題を抽出し，検討することができるようになる。(知識・理解)

課題を「ジブンゴト」として捉えて解決に当たろうとするとともに，その解決によってどのような発展が望めるかについて説明することができる。(知識・理解)

形式的な知識のみならず，実践的な知識を組み合わせて課題解決にあたることができるようになる。(知識・理解)

学園祭という市場をもとに，起こりうる事象を想定し，経営上の課題を明らかにすることができる。(技能)

創業体験プログラムによる模擬店出店を通じて企画立案ができるようになる。(技能)

創業体験プログラムによる模擬店出店を通じて，組織内の他者のみならず，組織外部にいる協力者と連携して目標達成のためのリーダーシップを発揮することができるようになる。(技能)

模擬店出店における必要な情報を収集し，社会課題と照らし合わせて適宜応用して活用できるようになる。(技能)

創業体験プログラムを通じて，企業活動や事業活動が社会をより良い方向に導くために行われるものだと理解できるようになる。(態度・志向性)

模擬店の出店を通じて，課題の概念化，構造化，言語化をできるようになるとともに，必要な知識や情報を自らの意志で獲得できるようになる。(態度・志向性)

創業体験プログラムを通じて，他者と協力しながら課題を明らかにし，目標達成のために適切な手段・方法を選択できるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

グループによるプレゼンテーションをもとにディスカッションを行う。報告当番でない学生もテキストを予習しておくこと。また，プロジェクト報告等で毎週2-3時間ほどのミーティングが必要になる場合がある。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

グループ報告（30%），創業体験プログラムに関するレポート（30%），ディスカッション（20%），ゼミへの貢献度（20%）をもとに総合的に採点を行います。
グループ報告は報告内容，理解を深めるための工夫，ゼミ生の理解度を基準に，創業体験プログラムに関するレポートは同プログラムの理念を理解し，自ら何を学んだのかを表現できているか否かを，ディスカッションでは一方的に意見を述べること無く，議論を建設的に行い，相互理解を図ることができたかどうか，ゼミへの貢献度ではゼミでの学び，プロジェクトを進めていくために行った貢献度合いを測定し，評価を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

マイケル・ガーバー『はじめの一歩を踏み出そう』世界文化社（ISBN 978-4418036011）

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本ゼミでは会計学と経営学に関する理論を一から学びます。会計学あるいは経営学を全く学んだことがなくても構いません。積極的な発言ができる，リーダーシップがある，仲間を大事にする，人を笑わせることができるといったように，ゼミに何か1つでも貢献できる学生を歓迎します。
なお，「経営分析論」「意思決定会計論」の履修を強く推奨します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス（自己紹介・グループ決め）
第2回　創業体験プログラム出店準備
第3回　創業体験プログラム講義（経営戦略・計画に関する講義）
第4回　創業体験プログラム講義（事業計画の作成）
第5回　創業体験プログラム出店準備
第6回　創業体験プログラム講義（監査・会社設立に関する講義）
第7回　創業体験プログラム事業計画発表会
第8回　創業体験プログラム出店準備
第9回　創業体験プログラム出店後のふりかえり1（グループディスカッション）
第10回　創業体験プログラム（会計監査）
第11回　創業体験プログラム出店後のふりかえり2（グループディスカッション）
第12回　創業体験プログラムまとめ（株主総会）
第13回　テキスト輪読
第14回　テキスト輪読
第15回　講義のまとめ

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-33

飛田　努

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.創業体験プログラムを通じて，企業経営に必要な基本的な知識を身につける。　(A-1)

2.創業体験プログラムによる企業経営の疑似体験を通じて，企業がもつ内外の環境与件を抽出し，検討することができるようになる。　(A-1)

3.創業体験プログラムによる企業経営の疑似体験を通じて，企業や産業，地域の抱える課題を抽出し，検討することができるようになる。　(A-1)

4.課題を「ジブンゴト」として捉えて解決に当たろうとするとともに，その解決によってどのような発展が望めるかについて説明することができる。　(A-1)

5.形式的な知識のみならず，実践的な知識を組み合わせて課題解決にあたることができるようになる。　(A-1)

6.学園祭という市場をもとに，起こりうる事象を想定し，経営上の課題を明らかにすることができる。　(B-1)

7.創業体験プログラムによる模擬店出店を通じて企画立案ができるようになる。　(B-1)

8.創業体験プログラムによる模擬店出店を通じて，組織内の他者のみならず，組織外部にいる協力者と連携して目標達成のためのリーダーシップを発揮することができるようになる。　(B-1)

9.模擬店出店における必要な情報を収集し，社会課題と照らし合わせて適宜応用して活用できるようになる。　(B-1)

10.創業体験プログラムを通じて，企業活動や事業活動が社会をより良い方向に導くために行われるものだと理解できるようになる。　(C-2)

11.模擬店の出店を通じて，課題の概念化，構造化，言語化をできるようになるとともに，必要な知識や情報を自らの意志で獲得できるようになる。　(C-2)

12.創業体験プログラムを通じて，他者と協力しながら課題を明らかにし，目標達成のために適切な手段・方法を選択できるようになる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.創業体験プログラムを通じて，企業経営に必要な基本的な知識を身につける。　(A-1)

2.創業体験プログラムによる企業経営の疑似体験を通じて，企業がもつ内外の環境与件を抽出し，検討することができるようになる。　(A-1)

3.創業体験プログラムによる企業経営の疑似体験を通じて，企業や産業，地域の抱える課題を抽出し，検討することができるようになる。　(A-1)

4.課題を「ジブンゴト」として捉えて解決に当たろうとするとともに，その解決によってどのような発展が望めるかについて説明することができる。　(A-1)

5.形式的な知識のみならず，実践的な知識を組み合わせて課題解決にあたることができるようになる。　(A-1)

6.学園祭という市場をもとに，起こりうる事象を想定し，経営上の課題を明らかにすることができる。　(B-1)

7.創業体験プログラムによる模擬店出店を通じて企画立案ができるようになる。　(B-1)

8.創業体験プログラムによる模擬店出店を通じて，組織内の他者のみならず，組織外部にいる協力者と連携して目標達成のためのリーダーシップを発揮することができるようになる。　(B-1)

9.模擬店出店における必要な情報を収集し，社会課題と照らし合わせて適宜応用して活用できるようになる。　(B-1)

10.創業体験プログラムを通じて，企業活動や事業活動が社会をより良い方向に導くために行われるものだと理解できるようになる。　(C-2)

11.模擬店の出店を通じて，課題の概念化，構造化，言語化をできるようになるとともに，必要な知識や情報を自らの意志で獲得できるようになる。　(C-2)

12.創業体験プログラムを通じて，他者と協力しながら課題を明らかにし，目標達成のために適切な手段・方法を選択できるようになる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-33

飛田　努

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.創業体験プログラムを通じて，企業経営に必要な基本的な知識を身につける。　(A-1)

2.創業体験プログラムによる企業経営の疑似体験を通じて，企業がもつ内外の環境与件を抽出し，検討することができるようになる。　(A-1)

3.創業体験プログラムによる企業経営の疑似体験を通じて，企業や産業，地域の抱える課題を抽出し，検討することができるようになる。　(A-1)

4.課題を「ジブンゴト」として捉えて解決に当たろうとするとともに，その解決によってどのような発展が望めるかについて説明することができる。　(A-1)

5.形式的な知識のみならず，実践的な知識を組み合わせて課題解決にあたることができるようになる。　(A-1)

6.学園祭という市場をもとに，起こりうる事象を想定し，経営上の課題を明らかにすることができる。　(B-1)

7.創業体験プログラムによる模擬店出店を通じて企画立案ができるようになる。　(B-1)

8.創業体験プログラムによる模擬店出店を通じて，組織内の他者のみならず，組織外部にいる協力者と連携して目標達成のためのリーダーシップを発揮することができるようになる。　(B-1)

9.模擬店出店における必要な情報を収集し，社会課題と照らし合わせて適宜応用して活用できるようになる。　(B-1)

10.創業体験プログラムを通じて，企業活動や事業活動が社会をより良い方向に導くために行われるものだと理解できるようになる。　(C-2)

11.模擬店の出店を通じて，課題の概念化，構造化，言語化をできるようになるとともに，必要な知識や情報を自らの意志で獲得できるようになる。　(C-2)

12.創業体験プログラムを通じて，他者と協力しながら課題を明らかにし，目標達成のために適切な手段・方法を選択できるようになる。　(C-2)

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.創業体験プログラムを通じて，企業経営に必要な基本的な知識を身につける。　(A-1)

2.創業体験プログラムによる企業経営の疑似体験を通じて，企業がもつ内外の環境与件を抽出し，検討することができるようになる。　(A-1)

3.創業体験プログラムによる企業経営の疑似体験を通じて，企業や産業，地域の抱える課題を抽出し，検討することができるようになる。　(A-1)

4.課題を「ジブンゴト」として捉えて解決に当たろうとするとともに，その解決によってどのような発展が望めるかについて説明することができる。　(A-1)

5.形式的な知識のみならず，実践的な知識を組み合わせて課題解決にあたることができるようになる。　(A-1)

6.学園祭という市場をもとに，起こりうる事象を想定し，経営上の課題を明らかにすることができる。　(B-1)

7.創業体験プログラムによる模擬店出店を通じて企画立案ができるようになる。　(B-1)

8.創業体験プログラムによる模擬店出店を通じて，組織内の他者のみならず，組織外部にいる協力者と連携して目標達成のためのリーダーシップを発揮することができるようになる。　(B-1)

9.模擬店出店における必要な情報を収集し，社会課題と照らし合わせて適宜応用して活用できるようになる。　(B-1)

10.創業体験プログラムを通じて，企業活動や事業活動が社会をより良い方向に導くために行われるものだと理解できるようになる。　(C-2)

11.模擬店の出店を通じて，課題の概念化，構造化，言語化をできるようになるとともに，必要な知識や情報を自らの意志で獲得できるようになる。　(C-2)

12.創業体験プログラムを通じて，他者と協力しながら課題を明らかにし，目標達成のために適切な手段・方法を選択できるようになる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-34

渡辺　剛

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールは，3年次以降のゼミナールにおいて必要な財務会計に関する基礎知識を身につけることを目的としています。具体的には，「会計学総論」や「財務会計論」で学んだことを復習することになります。
ゼミは，講義および質疑応答形式で進めていきます。毎回，次回の講義テーマに関連する課題を出しますので，必ずやってきて下さい。
最後は，レポートを提出してもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

(1)財務会計の基礎的な事項について説明することができる。(知識・理解)

(2)会計制度が変更された場合の企業への影響を説明することができる。(技能)

(3)文献検索に習熟し，最新の文献を適切に引用することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義形式をとりますが，質疑応答を重視しますので，必ず次回予告に応じて予習して下さい(60分)。また，レベルアップのために毎回復習をして下さい(30分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

課題の内容(50%)，討論への参加度合(30%)およびレポートの内容(20%)を総合して，到達目標の達成度合により評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特定のテキストは使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎回課題を出しますが，それをやらないと討論に参加できませんので，必ずやってきて下さい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回：会計制度
第２回：資産会計(1)
第３回：資産会計(2)
第４回：資産会計(3)
第５回：資産会計(4)
第６回：資産会計(5)
第７回：負債会計(1)
第８回：負債会計(2)
第９回：純資産会計(1)
第１０回：純資産会計(2)
第１１回：純資産会計(3)
第１２回：損益会計(1)
第１３回：損益会計(2)
第１４回：損益会計(3)
第１５回：まとめ

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-34

渡辺　剛

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.(1)財務会計の基礎的な事項について説明することができる。　(A-1)

2.(2)会計制度が変更された場合の企業への影響を説明することができる。(B-1)

3.(3)文献検索に習熟し，最新の文献を適切に引用することができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.(1)財務会計の基礎的な事項について説明することができる。　(A-1)

2.(2)会計制度が変更された場合の企業への影響を説明することができる。(B-1)

3.(3)文献検索に習熟し，最新の文献を適切に引用することができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-34

渡辺　剛

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.(1)財務会計の基礎的な事項について説明することができる。　(A-1)

2.(2)会計制度が変更された場合の企業への影響を説明することができる。(B-1)

3.(3)文献検索に習熟し，最新の文献を適切に引用することができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.(1)財務会計の基礎的な事項について説明することができる。　(A-1)

2.(2)会計制度が変更された場合の企業への影響を説明することができる。(B-1)

3.(3)文献検索に習熟し，最新の文献を適切に引用することができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-35

飯塚　雄基

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールでは，プレゼンテーションとディスカッションの経験を積み，論文作成に必要な知識や能力を養うことを目的としています。
2年専門ゼミナールはゼミの本格的なスタートになりますが，まずは基本的なところを講義し，ゼミで学ぶべき事柄，論文とレポートの違い，問題意識の意味，レジュメの作成方法，プレゼンテーションとディスカッションの方法などを説明します。それらが理解できた後に，実際にプレゼンテーションとディスカッションを行って少しづつ経験を積んでいきましょう。特に問題意識を持つことができるようになることに重きを置いています。
取り扱う問題は，教員の専門である会計に限定することなく，商学の幅広い分野にわたります。それぞれが本当に考察したいと考えるテーマおよび論点を見つけ，主体的に考察していきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

レジュメの作り方や引用の仕方，問題意識の持ち方，プレゼンテーションやディスカッションに関する基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

問題意識を明らかにし，自らが検討したい課題を発見することができる。(技能)

企業および地域社会の問題解決に貢献するため，プレゼンテーションやディスカッションの方法，問題意識の持ち方等を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

ゼミで資料が配布された場合，次回の予習として，その資料の内容を十分に理解しておくこと（30分）。
ディスカッションで問題になったテーマや論点があった場合，関連する資料を読んで知識を補充するとともに，自らの考えをもう一度見直すこと（30分）。
その他，ゼミの時間に限らず日ごろから問題意識を持ち，必要な知識やデータを収集し，自らの見解を追い求める姿勢をもって，継続的に学習していきましょう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ゼミへの出席態度をもって評価します。具体的には，発表の内容（60%），ディスカッションの態度（20%），学習への意欲（20%）などを総合的に勘案して評価します。なお，ゼミでディスカッションの対象になった論点について全体の意見や考えがまとまらなかった場合には，その論点について教員がフィードバックを行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房，2008年　ISBN 4894763680
宇佐美寛編『作文の論理［わかる文章］の仕組み』東信堂，1998年　ISBN 4887133081

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

遅刻や欠席はゼミのプレゼンテーションやディスカッションに支障をきたすのでやめましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス
第2回　資料やデータの収集方法
第3回　論文とレポートの意義
第4回　プレゼンテーションの意義
第5回　ディスカッションの意義
第6回　問題意識の持ち方
第7回　レジュメの作成方法（1）
第8回　レジュメの作成方法（2）
第9回　グループ発表（1）
第10回　グループ発表（2）
第11回　グループ発表（3）
第12回　個人発表（1）
第13回　個人発表（2）
第14回　個人発表（3）
第15回　個人発表（4）

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-35

飯塚　雄基

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.レジュメの作り方や引用の仕方，問題意識の持ち方，プレゼンテーションやディスカッションに関する基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.問題意識を明らかにし，自らが検討したい課題を発見することができる。　(B-1)

3.企業および地域社会の問題解決に貢献するため，プレゼンテーションやディスカッションの方法，問題意識の持ち方等を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.レジュメの作り方や引用の仕方，問題意識の持ち方，プレゼンテーションやディスカッションに関する基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.問題意識を明らかにし，自らが検討したい課題を発見することができる。　(B-1)

3.企業および地域社会の問題解決に貢献するため，プレゼンテーションやディスカッションの方法，問題意識の持ち方等を学び続けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-35

飯塚　雄基

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.レジュメの作り方や引用の仕方，問題意識の持ち方，プレゼンテーションやディスカッションに関する基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.問題意識を明らかにし，自らが検討したい課題を発見することができる。　(B-1)

3.企業および地域社会の問題解決に貢献するため，プレゼンテーションやディスカッションの方法，問題意識の持ち方等を学び続けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.レジュメの作り方や引用の仕方，問題意識の持ち方，プレゼンテーションやディスカッションに関する基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.問題意識を明らかにし，自らが検討したい課題を発見することができる。　(B-1)

3.企業および地域社会の問題解決に貢献するため，プレゼンテーションやディスカッションの方法，問題意識の持ち方等を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-36

篠原　巨司馬

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　管理会計についてディスカッションをしながら学習していきます。入門的なテキストをグループごとに担当箇所を発表してもらい，それについて全員でディスカッションします。経営および管理会計の基礎知識を学びながらプレゼンテーション能力，問題発見能力，積極性，考える力などを身につけていくことを目的としています。
　また会社視察，企業調査も行います。これへの参加も単位修得のための必要要件です。
　最終的にはレポートを提出してもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

それぞれの管理会計技法の概要を説明できる(知識・理解)

管理会計の利用についての具体的な事例を挙げることができる(知識・理解)

具体的な事例から課題を発見することができる(技能)

自ら課題解決のための文献収集ができる(態度・志向性)

取り組むべき課題に対して必要な予習ができる(態度・志向性)

ゼミでの議論で建設的な発言ができる(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　参加者は議論をするために事前に資料を読みコメントを用意してくること。
目安として毎週3時間程度はプロジェクトに関する課題や思考に励むことを推奨する。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　発表，発言，質問の内容やゼミ運営，グループ運営への貢献度，積極性などを総合的に評価します(50%)。
　レポート提出(50%)は必須です。
　実地調査への参加は必須要件です。
　到達目標の到達度合を評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　いくつかのテキストの中から参加者と話し合って決定します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　積極的に発言することが重要です。そのために各自テキストを読んで疑問点や興味を持った点など考えてきてください。
　「原価計算論」，「管理会計論」，「経営分析論」を履修してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス
２　テキスト輪読（１）
３　テキスト輪読（２）
４　テキスト輪読（３）
５　研究報告
６　テキスト輪読（４）
７　テキスト輪読（５）
８　テキスト輪読（６）
９　研究報告
１０　テキスト輪読（７）
１１　テキスト輪読（８）
１２　テキスト輪読（９）
１３　研究報告
１４　テキスト輪読（１０）
１５　総括

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-36

篠原　巨司馬

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.それぞれの管理会計技法の概要を説明できる　(A-1)

2.管理会計の利用についての具体的な事例を挙げることができる　(A-1)

3.具体的な事例から課題を発見することができる　(B-1)

4.自ら課題解決のための文献収集ができる　(C-2)

5.取り組むべき課題に対して必要な予習ができる　(C-2)

6.ゼミでの議論で建設的な発言ができる　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.それぞれの管理会計技法の概要を説明できる　(A-1)

2.管理会計の利用についての具体的な事例を挙げることができる　(A-1)

3.具体的な事例から課題を発見することができる　(B-1)

4.自ら課題解決のための文献収集ができる　(C-2)

5.取り組むべき課題に対して必要な予習ができる　(C-2)

6.ゼミでの議論で建設的な発言ができる　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-36

篠原　巨司馬

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.それぞれの管理会計技法の概要を説明できる　(A-1)

2.管理会計の利用についての具体的な事例を挙げることができる　(A-1)

3.具体的な事例から課題を発見することができる　(B-1)

4.自ら課題解決のための文献収集ができる　(C-2)

5.取り組むべき課題に対して必要な予習ができる　(C-2)

6.ゼミでの議論で建設的な発言ができる　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.それぞれの管理会計技法の概要を説明できる　(A-1)

2.管理会計の利用についての具体的な事例を挙げることができる　(A-1)

3.具体的な事例から課題を発見することができる　(B-1)

4.自ら課題解決のための文献収集ができる　(C-2)

5.取り組むべき課題に対して必要な予習ができる　(C-2)

6.ゼミでの議論で建設的な発言ができる　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-37

石上　悦朗

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　2年半にわたるゼミ活動の開始であり、基本的な事項を確認しながら進めてゆく。アジア経済、開発経済に関する基本的な考え方・理論や対象となる地域・諸国が抱える諸問題を勉強します。その際、国際的な制度、日本とのかかわり、企業および市民から見た視点などを重視します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

世界経済、とくに発展途上国の経済開発に関する基本的な事項を理解できる。(知識・理解)

経済開発を理解するための基本概念を理解し、文献・統計資料などの検索と利用の仕方を理解できる。(技能)

　自ら関心のあるテーマと取り組み、レポートにまとめかつ発表することができる。
　発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。
　ゼミで取り上げたテーマを学習し討論することにより社会人としての基礎を作る。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・文献・資料輪読のために事前の読解と問題個所の洗い出し、発表の準備、さらには特定の課題についての資料の作成など事前の学習は必須である。（60分）
・講義時に課された課題への取り組みおよび参考文献との突合せなど事後の学習（復習）も求められる。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・毎回のゼミにおける課題への取り組み、各課題における基本的な知識の習得、事前・事後学習としてのレポートの提出などを到達目標で求めた水準に達しているかを評価の基準とする。
・具体的には、毎回の発表・討論（60%）、折々のレポート・課題（30%）およびゼミ行事への参加とリーダーシップ（10%）などを目安として評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

資料を配布します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.ゼミナールの進め方、今年度と来年度も展望して説明する。
2～15.文献・資料の輪読。
　ゼミ生による発表、討論、司会などを通じて、文章の理解力、発表力・プレゼン能力、議論の作法とその能力の向上、司会進行の役割とその実践などについて訓練する。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-37

石上　悦朗

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.世界経済、とくに発展途上国の経済開発に関する基本的な事項を理解できる。　(A-1)

2.経済開発を理解するための基本概念を理解し、文献・統計資料などの検索と利用の仕方を理解できる。　(B-1)

3.　自ら関心のあるテーマと取り組み、レポートにまとめかつ発表することができる。
　発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。
　ゼミで取り上げたテーマを学習し討論することにより社会人としての基礎を作る。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.世界経済、とくに発展途上国の経済開発に関する基本的な事項を理解できる。　(A-1)

2.経済開発を理解するための基本概念を理解し、文献・統計資料などの検索と利用の仕方を理解できる。　(B-1)

3.　自ら関心のあるテーマと取り組み、レポートにまとめかつ発表することができる。
　発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。
　ゼミで取り上げたテーマを学習し討論することにより社会人としての基礎を作る。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-37

石上　悦朗

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.世界経済、とくに発展途上国の経済開発に関する基本的な事項を理解できる。　(A-1)

2.経済開発を理解するための基本概念を理解し、文献・統計資料などの検索と利用の仕方を理解できる。　(B-1)

3.　自ら関心のあるテーマと取り組み、レポートにまとめかつ発表することができる。
　発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。
　ゼミで取り上げたテーマを学習し討論することにより社会人としての基礎を作る。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.世界経済、とくに発展途上国の経済開発に関する基本的な事項を理解できる。　(A-1)

2.経済開発を理解するための基本概念を理解し、文献・統計資料などの検索と利用の仕方を理解できる。　(B-1)

3.　自ら関心のあるテーマと取り組み、レポートにまとめかつ発表することができる。
　発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。
　ゼミで取り上げたテーマを学習し討論することにより社会人としての基礎を作る。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

2019-4010000377-38

猿渡　剛

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

1990年代半ば以降、アジアでは長らく、中国が突出して成長し続けてきました。しかし現在では東南アジア、南アジアにおいても、国ごとに発展段階は異なりながらも一斉に成長軌道に乗っています。
21世紀は国家が都市の成長を牽引する時代ではなく、都市が国家を先導し、経済構造の転換と成長の加速を促す時代なのです。このことを理解するために、この授業ではアジアの大都市のインフラ、ネットワーク、人材、教育等を検討していきます。そして、日本企業が直面する課題や今後直面するであろう課題を一緒に考えていきたいと思います。
授業では毎回、テキストを一緒に読んでいきます。2・3回目は教員、4回目以降は学生が報告を担当します。報告担当者にはスライドの作成を課しますし、担当者以外にも意見や質問を求めますので、事前にきちんと予習しておいてください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済発展をはじめとする商学の知識ならびにアジア各国の大都市についての基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

国、地域、都市が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

国、地域、都市の発展に貢献するために、多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回の報告担当者は事前にテキストをよく読んで、スライドを作成してください。(180分)
そのほかの受講者も、不明な箇所がないように予習しておいてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績は、(1)各自担当する部分の報告の内容25%、(2)平常点75%で評価します。
(1)については、グループ内で役割を適切に分担し、要旨を把握し、スライドを用いて口頭で発表できることを評価基準とします。
(2)については、発言の回数・内容等、授業に積極的に取り組む姿勢を評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

後藤康浩『アジア都市の成長戦略―「国の経済発展」の概念を変えるダイナミズム』慶應義塾大学出版会、2018年
ISBN 978-4766425246

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎回、出席状況を確認します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション(授業内容や発表の仕方等についての説明)
2-3. アジアの大都市の現況について(教員による発表、ディスカッション)
4-14. 人口移動と大都市圏の形成、中国にみるアジア大都市の成長メカニズム、インフラ整備が促すアジア都市経済の高度化、都市と産業立地ネットワーク等について(学生による発表、ディスカッション)
15. まとめ

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-38

猿渡　剛

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経済発展をはじめとする商学の知識ならびにアジア各国の大都市についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.国、地域、都市が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.国、地域、都市の発展に貢献するために、多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.経済発展をはじめとする商学の知識ならびにアジア各国の大都市についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.国、地域、都市が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.国、地域、都市の発展に貢献するために、多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-38

猿渡　剛

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.経済発展をはじめとする商学の知識ならびにアジア各国の大都市についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.国、地域、都市が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.国、地域、都市の発展に貢献するために、多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.経済発展をはじめとする商学の知識ならびにアジア各国の大都市についての基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.国、地域、都市が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

3.国、地域、都市の発展に貢献するために、多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール（アメリカ経済を学ぶ）

2019-4010000377-39

掛下　達郎

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

私は福岡大学では教員をしていますが、1999－2000年にアメリカに留学していたときには英語のクラスをとっていました。このときアメリカ流の教育に触れることができました。アメリカのクラスでは、教師が一方的に教えるのではなく、インタラクティブといって教師と生徒がお互いに参加することが重視されています。経済は眼に見えないところがありますが、なるべくビデオ、写真や図表を使って皆さんの頭の中に具体的なイメージが湧くようにしてみます。そこから皆さんの積極的なゼミへの参加が始まるでしょう。
　こうしたゼミナール活動の延長線上に卒業論文があります。ゼミナールで一度論文を書けば、学生各自が興味をもてることを勉強するときに大いに役に立ちます。就職してもレポートを書くのに必ず役に立ちます。
　ゼミ生に期待していることは、大学生の間に海外体験をしてもらうことです。海外体験をするチャンスは卒業旅行、ホームステイ、海外研修、海外語学研修、留学とたくさんあります。自分のレヴェルに合わせて若いうちに海外体験をしてもらいたいと考えています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

アメリカ経済の成長の理論、歴史、現状について学習する。(知識・理解)

ゼミナール大会で報告し課題を討論できるスキルを準備する。(技能)

全員がプレゼンテーションや発言を求められ、自ら学び続けることができるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

ゼミの前にテキストの該当部分を読んでおきましょう（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

平常点100%。演習における、グループワークによるプレゼンテーションや発言によって評価します。テキストを正確に理解し、自分の言葉で説明することが大事です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

ロバート・J・ゴードン『アメリカ経済 成長の終焉』（下）、日経BP社、2018年、3,800円、ISBN978-4822255770

◎－－－　参考書　－－－◎

ロバート・J・ゴードン『アメリカ経済 成長の終焉』（上）、日経BP社、2018年、3,600円　ISBN 978-4822255763

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

アメリカ経済論Ｉを履修していることが好ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

ゼミはゆくゆくは学生の運営に任せますが、当初は以下の文献を読むことから始めていきます。
１ イントロダクション
２ ファストフード、合成繊維、分譲住宅
３ シボレー、あるいは飛行機の窓からアメリカを眺める
４ 娯楽と通信
５ 小括1
６ コンピュータとインターネット
７ 抗生物質、CTスキャン、そして保健と医療の発達
８ 職場と家庭の労働環境、若者、退職後の暮らし
９ 成長の減速をどう理解するか
10 小括2
11 一九二〇年代から五〇年代の大躍進
12 イノベーション
13 格差とその他の逆風
14 小括3
15 まとめ：今後の展望

２年専門ゼミナール（アメリカ経済を学ぶ）

2019-4010000377-39

掛下　達郎

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.アメリカ経済の成長の理論、歴史、現状について学習する。　(A-1)

2.ゼミナール大会で報告し課題を討論できるスキルを準備する。　(B-1)

3.全員がプレゼンテーションや発言を求められ、自ら学び続けることができるようになる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.アメリカ経済の成長の理論、歴史、現状について学習する。　(A-1)

2.ゼミナール大会で報告し課題を討論できるスキルを準備する。　(B-1)

3.全員がプレゼンテーションや発言を求められ、自ら学び続けることができるようになる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール（アメリカ経済を学ぶ）

2019-4010000377-39

掛下　達郎

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.アメリカ経済の成長の理論、歴史、現状について学習する。　(A-1)

2.ゼミナール大会で報告し課題を討論できるスキルを準備する。　(B-1)

3.全員がプレゼンテーションや発言を求められ、自ら学び続けることができるようになる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.アメリカ経済の成長の理論、歴史、現状について学習する。　(A-1)

2.ゼミナール大会で報告し課題を討論できるスキルを準備する。　(B-1)

3.全員がプレゼンテーションや発言を求められ、自ら学び続けることができるようになる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-40

木幡　伸二

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

１．授業の内容
　中国は人口大国であるばかりか、GDPも世界第２位の経済大国となり、世界の経済や政治への影響力もますます増大しています。中所得国となった中国経済には、最近、高度成長に陰りが見え始め、経済の歪みも表面化してきました。
　本ゼミナールでは、２年半の活動のうち、まず、2年次および３年次の専門ゼミナールで開発経済学の分析手法を使って、主に中国経済の発展過程とその現状および課題について考えてゆきます。4年次の論文ゼミナールでは、それまで学んだ資料収集方法や分析手法などを生かしながら、各自が決めたテーマで研究を行い、卒業論文を完成させます。
　2年専門ゼミナールで取り扱う内容は、開発経済学の基礎と現代中国経済の歩みが中心となります。後者には、計画経済から市場経済への移行過程も含まれます。
２．授業の進め方
　まず、教材として使用する資料に関するグループワークを通して、開発経済学や中国経済の基礎知識について学びます。次に、３年次の活動に向けて、共同論文作成のためのグループ作りを行います。最後に、レポートの作成方法について確認しながら期末レポートを作成します。
　こうした活動によって、文献の読み方や発表方法をはじめ、グループワークの進め方、ゼミナールの運営方法などに習熟することができるでしょう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

開発経済学や中国経済に関する基本的な知識や理論を身につけるている。(知識・理解)

開発経済学や中国経済に関する知識や理論を用いて、開発途上国や中国経済に関する課題を自ら発見することができる。(技能)

開発経済学や中国経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　予習において、教材として使用する資料の当該部分を読み、その概要、論理構成、疑問点や論点について予めチェックしておいてください。（１２０分）
　復習では、報告者は、ゼミナールの討論で解決されなかった疑問点や論点について、レジュメや討論をもとにテキストの内容を整理し、必要に応じて関連文献を読んで理解を深めてください。（６０分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　成績評価の要素は、（１）授業への参加態度30%、（２）提出された課題の評価40%、（３）期末レポートの評価30%です。
　（１）授業への参加態度では、グループなどでの討論で積極的に発言したり、相手の意見を真剣に聞いたりする姿勢がみられるか、グループワークでは研究のとりまとめに向けて積極性と協調性に基づいた貢献が認められるか、を基準に評価します。（２）提出された課題の評価には、その都度出される課題の評価および発表で分担した部分のレジュメの評価が含まれます。（３）期末レポートの評価では、本講義を通して得られた開発経済学および中国経済の歩みに関する知識が生かされているか、その内容が十分に理解されているか、また、参考文献の明示や適切な注記といったレポートとしての形式上の要件を満たしているか、が含まれます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。授業に必要な教材は担当者が準備します。

◎－－－　参考書　－－－◎

戸堂康之『開発経済学入門』新世社、2015年　ISBN 9784883842315
南亮進、牧野文夫編『中国経済入門[第４版］高度成長の終焉と安定成長への途』日本評論社　ISBN 9784535558663

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　ゼミナールは、一般の多人数による講義とことなり、個人やグループで学生自身が主体となって活動することによって進められます。
　従って、欠席や遅刻については厳正に対処します。
　本ゼミナールの研究テーマと関連する科目は、「開発経済論A・B」、「アジア経済論A・B」、「国際協力論A・B」、「国際経営論」・「国際企業論」、「アジアの経済・経営A・B」などです。できる限りこれらの科目を受講することを推奨します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　授業概要
２　開発経済学の基礎的概念（１）
３　開発経済学の基礎的概念（２）
４　開発経済学の基礎的概念（３）
５　開発経済学の基礎的概念（４）
６　現代中国経済の歩み（１）
７　現代中国経済の歩み（２）
８　現代中国経済の歩み（３）
９　現代中国経済の歩み（４）
１０　計画経済から市場経済へ（１）
１１　計画経済から市場経済へ（２）
１２　計画経済から市場経済へ（３）
１３　計画経済から市場経済へ（４）
１４　期末レポート課題の提示
１５　まとめ

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-40

木幡　伸二

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.開発経済学や中国経済に関する基本的な知識や理論を身につけるている。(A-1)

2.開発経済学や中国経済に関する知識や理論を用いて、開発途上国や中国経済に関する課題を自ら発見することができる。　(B-1)

3.開発経済学や中国経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.開発経済学や中国経済に関する基本的な知識や理論を身につけるている。(A-1)

2.開発経済学や中国経済に関する知識や理論を用いて、開発途上国や中国経済に関する課題を自ら発見することができる。　(B-1)

3.開発経済学や中国経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-40

木幡　伸二

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.開発経済学や中国経済に関する基本的な知識や理論を身につけるている。(A-1)

2.開発経済学や中国経済に関する知識や理論を用いて、開発途上国や中国経済に関する課題を自ら発見することができる。　(B-1)

3.開発経済学や中国経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.開発経済学や中国経済に関する基本的な知識や理論を身につけるている。(A-1)

2.開発経済学や中国経済に関する知識や理論を用いて、開発途上国や中国経済に関する課題を自ら発見することができる。　(B-1)

3.開発経済学や中国経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-41

岡　陽子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

1.授業の内容
　現在、直接貿易はもとより間接貿易そして国内商取引においても、ある財やサービスが100%日本国内のみで完結しているものは皆無と言っても過言ではありません。この財やサービスを「ハード」と考えると、企業内の「ソフト」面、いわゆる「人材」においても、様々なバックグラウンドを持つ方々との協働がますます必要になり、それにより新しい弊害、時には政治問題にまで発展する問題も起きています。
　様々なバックグラウンドとは国籍、民族性に留まらず、日本人間においても存在する性別、宗教、性的指向、年代、教育、経済などのバックグラウンドの差異のことです。この差異の認識をないがしろにすることによる組織運営への悪影響が企業業績にも直結するほど一組織内でも多様化が進んでいるのが現状です。
　本ゼミナールでは、過去から現在の組織のあり方を異文化協働の視点から精査し、益々多様化そしてグローバル化する中での今後の組織のあり方、リーダーのあり方、コミュニケーションのあり方などを考え、３年次の専門ゼミナールへ繋がる基礎を学んでいきます。

2.授業の進め方
　課題図書を元にディスカッションを行います。その後、それぞれがあらゆる組織（企業に限らず部活動、サークルなど身近な”組織”でも可）のケースを探し、客観的にその組織の文化、リーダーシップ、問題があれば問題点などをまとめ発表します。各自の発表に基づいてさらにディスカッションを行います。
　この２年次のケーススタディを元に、３年次には社会理論から方法論を学び２年次のケースを改めて分析していきます。その後組織行動論などの理論を元に４年次の卒業論文執筆につなげていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

組織行動のあり方に学問的なアプローチができる基本的な知識を身につけることができる。(知識・理解)

先入観にとらわれず、多面的なものの見方により課題を発見することができる。(技能)

組織の発展のために必要な知識を習得することの大切さを学び、社会に貢献していこうという姿勢を身に付けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定した課題文献を読み、要点をまとめディスカッションに備える。
発表に備え、各自のテーマに即した資料等のまとめ。
各回90分から120分の予習・復習が必要です。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ディスカッションへの貢献度：40%
プレゼンテーションの完成度：30%
期末レポート：30%

◎－－－　テキスト　－－－◎

山本七平『「空気」の研究』文春文庫、1983
ISBN978-4167306038

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミナールは一般の講義形式の授業とは異なり学生自身が主体となるため、担当教員は授業が円滑に進められるようにファシリテーターの役目を担うに過ぎません。
出席するだけでなく、積極的な授業への「参加」が求められます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. 授業概要説明
2-6. 課題図書　ディスカッション
7. プレゼンテーション方法（講義）
8-13. 各自またはグループ発表及びディスカッション
14. レポート書き方（講義）
15. 総評及び３年次へ向けての課題

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-41

岡　陽子

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.組織行動のあり方に学問的なアプローチができる基本的な知識を身につけることができる。　(A-1)

2.先入観にとらわれず、多面的なものの見方により課題を発見することができる。　(B-1)

3.組織の発展のために必要な知識を習得することの大切さを学び、社会に貢献していこうという姿勢を身に付けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.組織行動のあり方に学問的なアプローチができる基本的な知識を身につけることができる。　(A-1)

2.先入観にとらわれず、多面的なものの見方により課題を発見することができる。　(B-1)

3.組織の発展のために必要な知識を習得することの大切さを学び、社会に貢献していこうという姿勢を身に付けることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

2019-4010000377-41

岡　陽子

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.組織行動のあり方に学問的なアプローチができる基本的な知識を身につけることができる。　(A-1)

2.先入観にとらわれず、多面的なものの見方により課題を発見することができる。　(B-1)

3.組織の発展のために必要な知識を習得することの大切さを学び、社会に貢献していこうという姿勢を身に付けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.組織行動のあり方に学問的なアプローチができる基本的な知識を身につけることができる。　(A-1)

2.先入観にとらわれず、多面的なものの見方により課題を発見することができる。　(B-1)

3.組織の発展のために必要な知識を習得することの大切さを学び、社会に貢献していこうという姿勢を身に付けることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-43

山本　和人

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　下記のテキストの序章と第１部を中心に、ゼミ生をグループに分け、グループごとにプレゼンテーションを行ってもらい、それに対して質問や意見を述べてもらいます。文献・資料・統計などの検索や利用の仕方、図書館の利用方法、レジュメの纏め方、プレゼテーションの方法、質問の仕方などについて学びます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現在の世界経済を学ぶ上での基本的なキーワードを理解できるようになる。(知識・理解)

世界経済に生じている事象に関する様々な資料やデータを収集し、それらをまとめ、プレゼンテーションできるようになる。(技能)

ゼミ生同士のプレゼンテーションや討論を通じて、世界経済に関する様々な考え方を身に着けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　テキストの各章について、発表に当たったグループは、レジュメを作成し、その他のグループは、その章を事前に読み、質問状を用意します。発表グループは、常に互いに連絡を取り合い、レジュメの作成にあたることが必要です。
　授業で解決できなかった質問や専門用語について、各自、図書館やネットを利用し、調べ、次の授業で説明できるように準備しましょう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　評価の内容と評価の割合は次の通りです。レジュメの内容（30%）、プレゼンテーションの内容（30%）、質問回数とその内容（20%）やディスカッションへの参加態度とその中身（20%）によって判断します。具体的には、レジュメの完成度および充実度、新聞記事、経済雑誌、ウェブなどを利用した情報収集能力、どの程度理解したうえで質問を行っているか、が評価の基準となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

西川潤『2030年未来への選択』日経プレミアムシリーズ、2018年　ISBN978-4-532-26364-5

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　新聞、経済誌、テレビの経済・政治特集などを毎日欠かさず読みまたは見る習慣をつけましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．自己紹介とグループ分け
２～３．レジュメの作成方法、文献・資料・統計類の検索と利用方法について学ぶ
４．図書館見学とその利用方法について学ぶ
５．貿易や世界経済に関する基礎的用語について学ぶ
６～８．西川潤『2030年未来への選択』日経プレミアムシリーズ、2018年の第1章「なぜ、いま未来論なのか？」を中心にプレゼンテーションとディスカッションを行う
9～11. 同書、第２章「高齢化が世界を覆う」を中心にプレゼンテーションとディスカッションを行う
12～14.第３章「エネルギー・資源・コモンズ」を中心にプレゼンテーションとディスカッションを行う
15. まとめと3年次生に向けての展望

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-43

山本　和人

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.現在の世界経済を学ぶ上での基本的なキーワードを理解できるようになる。　(A-1)

2.世界経済に生じている事象に関する様々な資料やデータを収集し、それらをまとめ、プレゼンテーションできるようになる。　(B-1)

3.ゼミ生同士のプレゼンテーションや討論を通じて、世界経済に関する様々な考え方を身に着けることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.現在の世界経済を学ぶ上での基本的なキーワードを理解できるようになる。　(A-1)

2.世界経済に生じている事象に関する様々な資料やデータを収集し、それらをまとめ、プレゼンテーションできるようになる。　(C-2)

3.ゼミ生同士のプレゼンテーションや討論を通じて、世界経済に関する様々な考え方を身に着けることができる。　(B-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-43

山本　和人

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.現在の世界経済を学ぶ上での基本的なキーワードを理解できるようになる。　(A-1)

2.世界経済に生じている事象に関する様々な資料やデータを収集し、それらをまとめ、プレゼンテーションできるようになる。　(B-1)

3.ゼミ生同士のプレゼンテーションや討論を通じて、世界経済に関する様々な考え方を身に着けることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.現在の世界経済を学ぶ上での基本的なキーワードを理解できるようになる。　(A-1)

2.世界経済に生じている事象に関する様々な資料やデータを収集し、それらをまとめ、プレゼンテーションできるようになる。　(B-1)

3.ゼミ生同士のプレゼンテーションや討論を通じて、世界経済に関する様々な考え方を身に着けることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-44

松永　達

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　これまで、多くの国が、貿易の拡大を通じて、経済成長を遂げ、豊かになってきました。しかし、昔から貿易を活発に行っているのに、貧困から抜け出せない国も数多くあります。この原因は、国による能力の違いでしょうか。それとも、貧しい国の力が及ばないところで、何か大きな力が働いているからでしょうか。
　途上国の貧困には、様々な要因が複雑に絡み合っていますが、ゼミでは、貿易のルールや、国際的な取引のメカニズムの問題点と途上国の貧困との関連に焦点を当てて分析し、その解決を目指す取り組みの現状と課題、今後の展望をみんなで考えていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

途上国の貿易の問題点や、それを解決するための民間の取り組みを考えるうえで、基本的な知識を身につける(知識・理解)

途上国の貿易の問題点と、それを解決するための民間の取り組みを見いだし、それを説明できる。(技能)

途上国の貿易に関する問題を解決する取り組みについて、発展させるべき方向について考えることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習（60分）
　事前にテキストや配布資料をよく読んでおく。
　必要に応じて関連する資料や文献を探し、読んでおく。
　論点に関する自分の考えをノートにまとめておく。

復習（30分）
　全体で討論した内容のまとめをよく読んでおく。
　各班の担当者は、ゼミの時間に班で討論した内容をまとめる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　毎回の課題について予習を済ませているかどうか、班内での討論や発表に貢献できたかどうか、班での報告の際は、班内で分担して準備し、到達目標に示された内容を説明できたかどうかが評価の基準となります。
　そして、班での討論の際の内容と積極性、全体での発表や発言の内容と積極性を対象として成績を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　二年次では、到達目標の内容に沿った基礎的な文献や資料を使います。

◎－－－　授業計画　－－－◎

　二年次では、まず基礎的な文献や資料を用います。事前に文献や資料を読んで、ゼミの時間にグループごとに討論や発表を行って、みんなで考えを出し合い、問題点を明確にした上で、その解決について考えます。

　全15回のスケジュールは、進行状況に応じて適宜調整します。

1　　オリエンテーション
2～14　各班での討論と全体での発表
15　　まとめ

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-44

松永　達

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.途上国の貿易の問題点や、それを解決するための民間の取り組みを考えるうえで、基本的な知識を身につける　(A-1)

2.途上国の貿易の問題点と、それを解決するための民間の取り組みを見いだし、それを説明できる。　(B-1)

3.途上国の貿易に関する問題を解決する取り組みについて、発展させるべき方向について考えることができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.途上国の貿易の問題点や、それを解決するための民間の取り組みを考えるうえで、基本的な知識を身につける　(A-1)

2.途上国の貿易の問題点と、それを解決するための民間の取り組みを見いだし、それを説明できる。　(B-1)

3.途上国の貿易に関する問題を解決する取り組みについて、発展させるべき方向について考えることができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-44

松永　達

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.途上国の貿易の問題点や、それを解決するための民間の取り組みを考えるうえで、基本的な知識を身につける　(A-1)

2.途上国の貿易の問題点と、それを解決するための民間の取り組みを見いだし、それを説明できる。　(B-1)

3.途上国の貿易に関する問題を解決する取り組みについて、発展させるべき方向について考えることができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.途上国の貿易の問題点や、それを解決するための民間の取り組みを考えるうえで、基本的な知識を身につける　(A-1)

2.途上国の貿易の問題点と、それを解決するための民間の取り組みを見いだし、それを説明できる。　(B-1)

3.途上国の貿易に関する問題を解決する取り組みについて、発展させるべき方向について考えることができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-45

林　裕

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

日本を取り巻く国際環境は急激な変化の中にある。世界の過去と今の理解は、政治のみならず経済活動や私たちの日常に大きな影響を与える諸要因への視座を与えてくれる。
本ゼミナールでは、２年半の活動のうち、まず、２年次の専門ゼミナールで国際開発の視座を体得し、現代世界の現状および課題について考える力を涵養します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

開発研究の基礎的な概念や国際問題に関する基礎知識について説明することができる。(知識・理解)

グループ活動を通じて目標達成に必要な役割を果たすことができる。(態度・志向性)

異なる社会背景や異なる意見をもつ人々との議論を通じて、相互理解を深めようとする姿勢をもっている。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習において、課題文献の当該部分を読み、その概要、論理構成、疑問点や論点について予めチェックしておいてください。
復習では、ゼミナールで議論された論点について、関連文献を読んで理解を深めてください。（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価の要素は、以下のとおりです。
（１）授業への参加態度30%、（２）提出された課題の評価70%

（１）授業への参加態度では、ゼミナールでの討論での積極的な発言、相手の意見に対する質問、積極性と協調性に基づいた貢献が認められるか、を基準に評価します。
（２）提出された課題の評価には、その都度出される課題の評価および発表等で分担した部分のレジュメの評価が含まれます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

斎藤文彦（2005）『国際開発論』日本評論社
ISBN 978-4535553194

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミナールは、個人やグループで学生自身が主体となって活動することによって進められます。
従って、欠席や遅刻については厳正に対処します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　授業概要
２　国際開発（１）
３　国際開発（２）
４　国際開発の基礎的概念（１）
５　国際開発の基礎的概念（２）
６　国際開発の基礎的概念（３）
７　国際開発の基礎的概念（４）
８　国際開発の基礎的概念（５）
９　国際開発の基礎的概念（６）
１０　国際開発の課題（１）
１１　国際開発の課題（２）
１２　国際開発の課題（３）
１３　国際開発の課題（４）
１４　国際開発の課題（５）
１５　まとめ

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-45

林　裕

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.開発研究の基礎的な概念や国際問題に関する基礎知識について説明することができる。　(A-1)

2.グループ活動を通じて目標達成に必要な役割を果たすことができる。　(C-2)

3.異なる社会背景や異なる意見をもつ人々との議論を通じて、相互理解を深めようとする姿勢をもっている。　(B-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,B-1,C-2

1.開発研究の基礎的な概念や国際問題に関する基礎知識について説明することができる。　(A-1)

2.グループ活動を通じて目標達成に必要な役割を果たすことができる。　(C-2)

3.異なる社会背景や異なる意見をもつ人々との議論を通じて、相互理解を深めようとする姿勢をもっている。　(B-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

２年専門ゼミナール

2019-4010000377-45

林　裕

◎貿易:A-1,B-1,C-2

1.開発研究の基礎的な概念や国際問題に関する基礎知識について説明することができる。　(A-1)

2.グループ活動を通じて目標達成に必要な役割を果たすことができる。　(C-2)

3.異なる社会背景や異なる意見をもつ人々との議論を通じて、相互理解を深めようとする姿勢をもっている。　(B-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,B-1,C-2

1.開発研究の基礎的な概念や国際問題に関する基礎知識について説明することができる。　(A-1)

2.グループ活動を通じて目標達成に必要な役割を果たすことができる。　(C-2)

3.異なる社会背景や異なる意見をもつ人々との議論を通じて、相互理解を深めようとする姿勢をもっている。　(B-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

日本商業史

2019-4010000608-01

本村　希代

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・２時限　　試験時間割：2019/07/27　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

人間の歴史は、財貨の交換行為の展開史、つまり流通・商業の変容過程であったといえる。それゆえ現代社会のあり方を問うには、今日にいたるまで連綿と続く商業活動を明らかにする必要がある。
本講義では近代商業の成立を明らかにするため、その前提となる近世期（江戸時代）の商業活動を中心に検討を加えていく。幕藩体制下における流通機構、商家経営、経済思想などを取り上げ、近代への歩みを見ていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。(知識・理解)

歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことがきるようになる。(知識・理解)

歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

歴史は得てして暗記するものだと思われがちだが、全体の大きな流れを理解することが大切である。それゆえ毎回の講義テーマごとに、なぜそのような姿にいたったのか、原因・結果など、歴史の流れを整理しておくこと（60分）。またそれが次回の講義の予習にもなる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験で評価する。講義内で取り上げたテーマについて、きちんと歴史の流れとして把握できているか、またそれらを自分の言葉で説明できているかを評価の基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

廣田誠他『日本商業史』　ISBN 9784641165069
石井寛治『日本流通史』　ISBN 9784641161696

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに
2　交換から売買へ
3　貨幣の鋳造
4　中世商業の展開
5　戦国大名と商品流通
6　幕藩制社会の成立
7　都市商業の発達
8　近世商家の経営組織と経営管理
9　経営理念の近世的特色
10　家訓の展開
11　近江商人の経営
12　幕藩制市場の変容
13　株仲間政策の展開
14　開国と国内流通の変化
15　まとめ

日本商業史

2019-4010000608-01

本村　希代

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことがきるようになる。　(A-3)

3.歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことがきるようになる。　(A-3)

3.歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

日本商業史

2019-4010000608-01

本村　希代

◎貿易:A-2,A-3

1.経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことがきるようになる。　(A-3)

3.歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3

1.経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことがきるようになる。　(A-3)

3.歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

日本商業史Ａ

2019-4010000329-01

本村　希代

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・２時限　　試験時間割：2019/07/27　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

人間の歴史は、財貨の交換行為の展開史、つまり流通・商業の変容過程であったといえる。それゆえ現代社会のあり方を問うには、今日にいたるまで連綿と続く商業活動を明らかにする必要がある。
本講義では近代商業の成立を明らかにするため、その前提となる近世期（江戸時代）の商業活動を中心に検討を加えていく。幕藩体制下における流通機構、商家経営、経済思想などを取り上げ、近代への歩みを見ていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。(知識・理解)

歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことができるようになる。(知識・理解)

歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

歴史は得てして暗記するものだと思われがちだが、全体の大きな流れを理解することが大切である。それゆえ毎回の講義テーマごとに、なぜそのような姿にいたったのか、原因・結果など、歴史の流れを整理しておくこと（60分）。またそれが次回の講義の予習にもなる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験で評価する。講義内で取り上げたテーマについて、きちんと歴史の流れとして把握できているか、またそれらを自分の言葉で説明できているかを評価の基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

廣田誠他『日本商業史』　ISBN 9784641165069
石井寛治『日本流通史』　ISBN 9784641161696

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに
2　交換から売買へ
3　貨幣の鋳造
4　中世商業の展開
5　戦国大名と商品流通
6　幕藩制社会の成立
7　都市商業の発達
8　近世商家の経営組織と経営管理
9　経営理念の近世的特色
10　家訓の展開
11　近江商人の経営
12　幕藩制市場の変容
13　株仲間政策の展開
14　開国と国内流通の変化
15　まとめ

日本商業史Ａ

2019-4010000329-01

本村　希代

◎商学

1.経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことができるようになる。(A-3)

3.歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

日本商業史Ｂ

2019-4010000330-01

本村　希代

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・２時限　　試験時間割：2020/01/22　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

人間の歴史は、財貨の交換行為の展開史、つまり流通・商業の変容過程であったといえる。それゆえ現代社会のあり方を問うには、今日にいたるまで連綿と続く商業活動を明らかにする必要がある。
本講義では明治期以降、近代から現代にかけての商業展開を明らかにしていく。幕末開港による世界市場への編入、両大戦期における流通機構の変容、そして戦後日本における流通の発展と変化を取り上げる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。(知識・理解)

歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことができるようになる。(知識・理解)

歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

歴史は得てして暗記するものだと思われがちだが、全体の大きな流れを理解することが大切である。それゆえ毎回の講義テーマごとに、なぜそのような姿にいたったのか、原因・結果など、歴史の流れを整理しておくこと（60分）。またそれが次回の講義の予習にもなる。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験で評価する。講義内で取り上げたテーマについて、きちんと歴史の流れとして把握できているか、またそれらを自分の言葉で説明できているかを評価の基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

廣田誠他『日本商業史』　ISBN 9784641165069
石井寛治『日本流通史』　ISBN 9784641161696

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

日本商業史Aの単位を修得済の者が望ましい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに
2　社会経済環境の変化
3　近代商業経営の成立
4　会社の誕生
5　百貨店の登場
6　都市型第三次産業の開拓
7　専門商社から総合商社へ
8　財閥の形成
9　戦後の百貨店経営
10　総合スーパーの発展
11　流通革新と消費の多様化
12　メーカーのマーケティング戦略①
13　メーカーのマーケティング戦略②
14　商業政策の広がり
15　まとめ

日本商業史Ｂ

2019-4010000330-01

本村　希代

◎商学

1.経済社会状況を歴史的背景から説明することができるようになる。　(A-2)

2.歴史的視点から、流通・商業の課題を見出すことができるようになる。(A-3)

3.歴史的視点から、流通・商業の今後の在り方について検討することができるようになる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

日本の流通

2019-4010000391-01

二宮　麻里

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・５時限　　試験時間割：2020/01/20　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

　福岡大学商学部の源流は、1934年に開講された福岡高等商業学校という、商学を学ぶ専門機関に遡ります。博多商人が、自分たちやその子供たちが、勉学に打ち込める場所を作ろうと、私財を投げ打って設立したのです。
　では、商学部は、いったい何を学ぶ学部なのでしょうか。経済学部や経営学部とどう異なるのでしょうか。みなさんは、すでに「マーケティング入門」をはじめ、「金融入門」「簿記原理」「貿易入門」「流通入門」「経営学総論」といった商学部の入門科目を受講しておられると思います。これらの科目は高度に専門的で、全く異なる経済事象を取り扱っているように見えるかもしれません。では、商学部の専門分野の基礎理論とは何なのでしょうか。
　商学は、主に企業間の取引を取り扱う学問分野です。そして、取引にはリスクが付きまといます。 リスクをうまく処理しなければ、取引そのものが広がりません。 商学とはリスクを社会的に処理する仕組みに関わる学問です。会社制度も金融や保険も、商業や物流もすべて、取引のリスクと関係します。
「日本の流通」では、流通・商業を中心として、「取引」と「リスク」を切り口に、専門科目を横断する講義を提供したいと思います。忽那氏は、長年、創業希望者への指導をおこなうとともに、株式会社イノベーション・アクセルと株式会社科学技術アントレプレナーシップの取締役・共同創業者であり、大学発ベンチャーの出資をおこなっている。その経験を踏まえ、金融制度を理論的に解説いただく。
　講義後半では、リスクと取引についてより深く考察するためにレポートを作成してもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学におけるリスクとは何かを説明することができる(知識・理解)

商学におけるリスクをなるべく少なくするために、整備された経済制度について説明することができる(知識・理解)

現在の経済事象と講義で述べられたリスクを関連させながら述べることができる(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講義前にはテキストを読み、講義後にはテキストを要約して復習し、ミニッツペーパーが課された場合には作成してください。
(予習30分　復習15分、ミニッツペーパー作成15分)
本講義では、知識を暗記することは要求しません。論理的な文章を読解し、ビジネスプランを作成することを目指します。ビジネスプランおよびレポートの作成には、120分以上必要であろう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　商学の基礎概念を理解し、「循環」および「リスク」というキー概念を用いながら、経済現象について理論的に論じられているかどうかを成績評価の基準とします。
　定期試験で100%成績評価します。レポートを学期途中に１回、A4用紙１枚作成してもらい、定期試験はそのレポート課題を応用して出題します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

石原武政・忽那憲治編著『商学への招待(有斐閣ブックス)』有斐閣2013年
ISBN 978-4-641-18417-6

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　遅刻は厳禁です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　イントロダクション―「商学」を学ぶ意味《二宮麻里》

２　事業を支える仕組み―貨幣という制度―お金とは何だろうか《神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科副研究科長・教授　兼　経営学研究科教授忽那憲治》

３　金融という制度―金融の役割とは何だろうか《忽那憲治》

４　会社という制度《藤野真》

５　競争と経営《二宮麻里》

６　リスクマネジメント《二宮麻里》

７　取引制度の意味《二宮麻里》

８　取引の信頼性の確保―どのように品質を保証し、価値を高めるのか《二宮麻里》

９　市場の拡大―市場はどのように成立し、どのような役割を果たしたのか《二宮麻里》

１０　資金と債権の管理―どのようにしてお金を管理するのか《経営学科：渡辺剛》

１１　事業を営むための仕組み―会社という制度《渡辺剛》

１２　産業の変化《二宮麻里》

１３　ケーススタディ《二宮麻里》

１４　改めて商学の意義を考える《二宮麻里》

１５　講義まとめ《二宮麻里》

日本の流通

2019-4010000391-01

二宮　麻里

◎商学

1.商学におけるリスクとは何かを説明することができる　(A-1)

2.商学におけるリスクをなるべく少なくするために、整備された経済制度について説明することができる　(A-2)

3.現在の経済事象と講義で述べられたリスクを関連させながら述べることができる　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

保険論「（隔週講義）」

2019-4010000400-01

石坂　元一

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・４時限, ５時限　　試験時間割：2020/01/25　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この講義では，保険論入門を踏まえて「保険」に係る時事的な話題・課題を取り上げて講義を行っていきます。
　具体的な進め方として，まず各テーマごとに数回，基礎的事項を解説します。その後，課題や問題点を考察します。なお，基礎的事項は保険論入門の内容と重複する部分もあります。取り上げるテーマとしては，保険の契約・保険の商品や販売・保険会社の経営・社会保険の４つです（できるだけその時に即した話題を取り上げたいので，授業計画の２～12回目については順序が若干入れ替わる可能性があります）。また，毎回講義冒頭にいくつかの新聞記事を紹介・解説します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

保険に関する基礎知識を修得している(知識・理解)

基礎知識を踏まえて，問題点を考察できる。(知識・理解)

公的・私的な面から課題を指摘できる。(技能)

諸問題に対して提案ができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・次回予定の講義内容について予習（保険論入門の復習）しておくこと。（60分）
・講義後に，各方面に与える影響を考察すること。（60分）
・扱った話題についてはその後の変化も追っておくこと。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・保険に係る諸問題の構造を理解できているかを基準とする。
・定期試験（100%）により評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

下和田功編『はじめて学ぶリスクと保険[第4版]』有斐閣　ISBN978-4-641-18420-6

◎－－－　参考書　－－－◎

『読みながら考える保険論(増補改訂第2版) 』八千代出版　ISBN 978-4842916729
『はじめての社会保障』有斐閣　ISBN 978-4-641-12437-0
その他，適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・講義開講日に注意してください。
・積極的な参加を望みます。
・先に「保険論入門」の履修をお薦めします。
・この講義に関連する科目として，「リスクマネジメント論」「生活保障論」があります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　イントロダクション：講義概要など
2　保険契約に係る話題（１）：契約の枠組み
3　保険契約に係る話題（２）：契約の当事者など
4　保険契約に係る諸問題
5　保険商品・販売に係る話題（１）：損害保険商品
6　保険商品・販売に係る話題（２）：生命保険商品
7　保険商品・販売に係る話題（３）：販売チャネル
8　保険商品・販売に係る諸問題
9　保険事業に係る話題（１）：保険経営
10　保険事業に係る話題（２）：保険規制
11　保険事業に係る諸問題
12　社会保険に係る話題（１）：生活保障システム
13　社会保険に係る話題（２）：年金保険，医療保険
14　社会保険に係る話題（３）：介護保険，労働保険
15　総括：時事的話題など

保険論「（隔週講義）」

2019-4010000400-01

石坂　元一

◎商学:A-2,A-3,B-1,C-2

1.保険に関する基礎知識を修得している　(A-2)

2.基礎知識を踏まえて，問題点を考察できる。　(A-3)

3.公的・私的な面から課題を指摘できる。　(B-1)

4.諸問題に対して提案ができる。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,C-2

1.保険に関する基礎知識を修得している　(A-2)

2.基礎知識を踏まえて，問題点を考察できる。　(A-3)

3.公的・私的な面から課題を指摘できる。　(B-1)

4.諸問題に対して提案ができる。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

保険論「（隔週講義）」

2019-4010000400-01

石坂　元一

◎貿易:A-2,A-3,B-1,C-2

1.保険に関する基礎知識を修得している　(A-2)

2.基礎知識を踏まえて，問題点を考察できる。　(A-3)

3.公的・私的な面から課題を指摘できる。　(B-1)

4.諸問題に対して提案ができる。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,C-2

1.保険に関する基礎知識を修得している　(A-2)

2.基礎知識を踏まえて，問題点を考察できる。　(A-3)

3.公的・私的な面から課題を指摘できる。　(B-1)

4.諸問題に対して提案ができる。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

保険論入門

2019-4010000195-01

根本　篤司

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・４時限　　試験時間割：2019/07/31　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

経済社会には、自然災害や交通事故、企業倒産のほか、人為的事故など様々なリスクが存在する。このようなリスクへの科学的・合理的な対応として、現代ではリスクマネジメントが発展しており、保険はその有効な対応手段として活用されている。

個人の生活設計の計画や企業のリスクマネジメントの策定では、適切な保険活用のために、保険の仕組みや種類をはじめ、制度運営のための原理・原則（ルール）を学び、保険を正しく理解していることが大切である。

そこで本講義では保険の基礎理論について講述する。具体的には、社会のなかのリスクを分類し、整理を加える。その上で、保険を体系的に分類し、保険料・保険金の点から保険の構造を分析する。さらには保険制度の成立に欠くことのできない原理・原則を解説する。これらの取り組みにより保険の経済的特徴を明らかにする。

また、経営的な観点からも保険制度の特徴を試みる。たとえば、保険事業を営む相互会社は保険業独自の企業形態であり、株式会社との比較を通じて、その特徴を明らかにされるだろう。保険制度の経営的特徴は、保険会社の収益構造や経営戦略の検討を通じても得られる。

その他、講義では簡易生命保険や共済についても取り上げる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

保険理論の基礎的内容を正しく理解することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、指定したテキストの範囲を事前に読み、わからないことを調べておくこと（90分）
復習として、板書の内容についてテキストを読み、講義内容の理解に努めること
（90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・評価基準：保険理論の基礎的な内容について、講義で取り上げた専門用語を適切に用いて正しく説明できているかを評価基準とする。具体的な内容は次のとおりである。
（1）保険料の構造をもとに保険制度運営に重要な原理原則の内容を適切に説明できているか。
（2）保険の経済的特徴を使って類似制度との比較を説明できているか。
（3）保険事業を営む経営体の特徴および二大収益の特徴を適切に説明できているか
（4）保険制度の運営が困難となる諸条件について適切に説明できているか。

・評価方法：定期試験を実施し、講義内での課題提出（ミニッツ・ペーパー）をその方法とする。

・割合：定期試験を90%、提出された課題の評価を10%として評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

田畑康人＝岡村国和（2018）『読みながら考える保険論』増補改訂第3版、八千代出版。
ISBN-10: 4842917148
ISBN-13: 978-4842917146

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

保険論、リスクマネジメント論などの関連科目の受講を期待したい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　現代社会における「リスク」と保険
2　リスクの概念と分類
3　保険の仕組み（1）
4　保険の仕組み（2）
5　保険制度の特徴
6　保険と類似制度の比較（1）
7　保険と類似制度の比較（2）
8　保険事業の経営体
9　相互会社と株式会社の比較
10　保険会社の二大収益
11　保険会社の経営戦略（1）
12　保険会社の経営戦略（2）
13　保険の限界とその対応（1）
14　保険の限界とその対応（2）
15　まとめ

※講義の進捗状況により授業計画を一部変更する場合がある。またニュースバリューの高い時事問題を優先的に取り上げる場合がある。

保険論入門

2019-4010000195-01

根本　篤司

◎経営:A-1

1.保険理論の基礎的内容を正しく理解することができる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎貿易:A-1

1.保険理論の基礎的内容を正しく理解することができる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

マルチメディア概論

2019-4010000349-02

川場　隆

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 3　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：中級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：2020/01/21　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　グラフィックス、ウェブ、MIDIについて、ソフトウェアを使って実習しながら総合的に学習します。理論と実習を通して、現代的なメディアの特徴を知ることができます。毎回、何かの作品を作成し、体験的に知識を積み上げていきます。

　講義レジュメの閲覧・ダウンロード、質問・応答、連絡などのために、学習支援システムPowercampusを利用します。24時間いつでも、大学及び自宅から、パソコン、スマートフォンでアクセスできます。
　また、課題提出機能を使って、作成した課題を提出してもらいます。グラフィックスの制作では、作品をフォーラムにアップロードし、全員で相互評価を行います。

　この講義を修了するとコンピュータで利用できる静止画、動画、音楽などの仕組みを説明でき、実際に自分でそれらの作品を製作できるようになります。また、それらを単体であるいは混合してウェブで公開することができるようになります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

多様なデジタル技術を応用して、情報を社会に発信できる(知識・理解)

HTMLとCSSの知識を通して、現代社会におけるウェブの役割と機能を理解し、応用できる(知識・理解)

グラフィックス、ウェブ、MIDIなど、現代的なデジタルコンテンツの仕組みを理解し、自分の言葉で説明できる(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：講義レジュメを読んで理解する（９０分）
復習：課題を作成する（９０分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
　グラフィックス、ウェブ、MIDの入門的な知識を持ち、かつ、それぞれの分野のソフトウェアを使って、基本的な作品を制作できる程度の技術を習得しているかどうかを評価します。

評価方法
　・毎回、講義の理解度を測るための制作課題を出題する
　・期末試験では、講義の全分野から出題する
割合
　1)講義時間に作成する課題と作品の平均点、2)定期試験の点数のそれぞれを70%、30%の比率で合計して成績とします。なお、1)については就職活動などやむをえない事情があった場合、期末の再提出、一括提出を認めています。

◎－－－　テキスト　－－－◎

学習支援システムで閲覧できるウェブテキストを使います。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　MIDIについての講義ではヘッドフォンやイヤフォーンを持参してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

　１.GIMP、EZHTML、CHERRYについて
　２.GIMPの基本操作
　３.さまざまな選択ツールと写真の加工
　４.選択ツールの高度な利用方法（１）
　５.選択ツールの高度な利用方法（２）
　６.レイヤーマスクを使う
　７.線画と彩色
　８.写真の合成
　９.デジタルアートの作成（１）
１０.デジタルアートの作成（２）
１１.HTMLとCSSの仕組み（１）
１２.HTMLとCSSの仕組み（２）
１３.WEB作成演習
１４.MIDIの基本
１５.楽曲の作成

◎－－－　URL　－－－◎

学習支援システム
(http://powercampus.kwassui.ac.jp/pc/top/)

マルチメディア概論

2019-4010000349-02

川場　隆

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.多様なデジタル技術を応用して、情報を社会に発信できる　(A-2)

2.HTMLとCSSの知識を通して、現代社会におけるウェブの役割と機能を理解し、応用できる　(A-3)

3.グラフィックス、ウェブ、MIDIなど、現代的なデジタルコンテンツの仕組みを理解し、自分の言葉で説明できる　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.多様なデジタル技術を応用して、情報を社会に発信できる　(A-2)

2.HTMLとCSSの知識を通して、現代社会におけるウェブの役割と機能を理解し、応用できる　(A-3)

3.グラフィックス、ウェブ、MIDIなど、現代的なデジタルコンテンツの仕組みを理解し、自分の言葉で説明できる　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

マルチメディア概論

2019-4010000349-02

川場　隆

◎貿易:A-2,A-3

1.多様なデジタル技術を応用して、情報を社会に発信できる　(A-2)

2.HTMLとCSSの知識を通して、現代社会におけるウェブの役割と機能を理解し、応用できる　(A-3)

3.グラフィックス、ウェブ、MIDIなど、現代的なデジタルコンテンツの仕組みを理解し、自分の言葉で説明できる　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

マルチメディア概論「（二部）」

2019-4010000349-03

川場　隆

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・二部１時限　　試験時間割：2020/01/23　夜１限

◎－－－　概要　－－－◎

　グラフィックス、ウェブ、MIDIについて、ソフトウェアを使って実習しながら総合的に学習します。理論と実習を通して、現代的なメディアの特徴を知ることができます。毎回、何かの作品を作成し、体験的に知識を積み上げていきます。

　講義レジュメの閲覧・ダウンロード、質問・応答、連絡などのために、学習支援システムPowercampusを利用します。24時間いつでも、大学及び自宅から、パソコン、スマートフォンでアクセスできます。
　また、課題提出機能を使って、作成した課題を提出してもらいます。グラフィックスの制作では、作品をフォーラムにアップロードし、全員で相互評価を行います。

　この講義を修了するとコンピュータで利用できる静止画、動画、音楽などの仕組みを説明でき、実際に自分でそれらの作品を製作できるようになります。また、それらを単体であるいは混合してウェブで公開することができるようになります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

多様なデジタル技術を応用して、情報を社会に発信できる(知識・理解)

HTMLとCSSの知識を通して、現代社会におけるウェブの役割と機能を理解し、応用できる(知識・理解)

グラフィックス、ウェブ、MIDIなど、現代的なデジタルコンテンツの仕組みを理解し、自分の言葉で説明できる(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：講義レジュメを読んで理解する（９０分）
復習：課題を作成する（９０分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
　グラフィックス、ウェブ、MIDの入門的な知識を持ち、かつ、それぞれの分野のソフトウェアを使って、基本的な作品を制作できる程度の技術を習得しているかどうかを評価します。

評価方法
　・毎回、講義の理解度を測るための制作課題を出題する
　・期末試験では、講義の全分野から出題する
割合
　1)講義時間に作成する課題と作品の平均点、2)定期試験の点数のそれぞれを70%、30%の比率で合計して成績とします。なお、1)については就職活動などやむをえない事情があった場合、期末の再提出、一括提出を認めています。

◎－－－　テキスト　－－－◎

学習支援システムで閲覧できるウェブテキストを使います。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　MIDIについての講義ではヘッドフォンやイヤフォーンを持参してください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

　１.GIMP、EZHTML、CHERRYについて
　２.GIMPの基本操作
　３.さまざまな選択ツールと写真の加工
　４.選択ツールの高度な利用方法（１）
　５.選択ツールの高度な利用方法（２）
　６.レイヤーマスクを使う
　７.線画と彩色
　８.写真の合成
　９.デジタルアートの作成（１）
１０.デジタルアートの作成（２）
１１.HTMLとCSSの仕組み（１）
１２.HTMLとCSSの仕組み（２）
１３.WEB作成演習
１４.MIDIの基本
１５.楽曲の作成

◎－－－　URL　－－－◎

学習支援システム Powecampous
(http://powercampus.kwassui.ac.jp/pc/top/)

マルチメディア概論「（二部）」

2019-4010000349-03

川場　隆

◎商学:A-2,A-3

1.多様なデジタル技術を応用して、情報を社会に発信できる　(A-2)

2.HTMLとCSSの知識を通して、現代社会におけるウェブの役割と機能を理解し、応用できる　(A-3)

3.グラフィックス、ウェブ、MIDIなど、現代的なデジタルコンテンツの仕組みを理解し、自分の言葉で説明できる　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

マーケティング戦略論「（CB・CF17台以降）」

2019-4010000393-03

村上　剛人

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：2019/07/25　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この科目では、まずマーケティングの問題についてどのような視点から考察することができるのか、まず自分がマーケティングや流通の現象を見るときのメガネを作ることの重要性を確認します。そして、これまでのマーケティングの見方であったSTPをベースとしたマーケティングの見方を確認したうえで、現在新たな見方として位置付けられているアメリカのマーケティング研究者のコトラーのマーケティング3.0~4.0の議論、デザイン思考の見方、Pine&Gilmoreによる経験価値の見方、そして 近年Vargo and Lusch によって、新しいマーケティングとしての視点として登場してきたService Dominant Logicの考え方を紹介していきます。今まさに、マーケティングの考え方のパラダイム・シフトが行われつつある状況にあります。このように、この講義では、企業のマーケティング戦略の考え方がどのように変化し、発展してきたのか、ビジネスケースを交えながら、現在求められているマーケティングの考え方とは何かについて考えていきます。
　そして、身につけたメガネを使って、マーケティング現象を考察していきます。ポイントは、「誰」に「何」を提供するのかを明確にしていく点です。それについてケースを使って考えていきます。また、川上昌直氏のビジネスモデル思考法を紹介しながら、マーケティング戦略を考察していくときのポイントを確認していきます。
　さらにサービスの視点からマーケティング戦略を考えてみると、どのようなことが必要なのかについても考察を進めていきます。
　全体を通して、企業のマーケティング戦略を考察する上で必要とする見方の学習とそれをビジネスケースを使って議論することでその見方の習得を図っていきたいと思います。
　なお、講義の進捗によって、また新しいケースが発生した場合は、講義の構成を一部変更して行うことがあります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日頃の買い物行動を通して「誰に」「何を」提供しようと企業はしているのか、絶えず考え、その背後で働いているビジネスの仕組みをイメージできるようになる。(知識・理解)

マーケティングの考え方としてどのようなものがあるのか理解し、企業の状況に当てはめ考えることができるようになる。(知識・理解)

ビジネスケースを説明できるようになる。(知識・理解)

チームでのケースの議論などを通して、そのケースから発展的に考えることができるようになる。

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講義の進め方は単元ごとにレジュメおよびビジネスケースを配布し、そのレジュメの中で提示している質問内容やビジネスケースについて事前に学習し、わからないところも調べ、そのうえで自分なりの解答を用意してください。(90分）また、講義の内容について、資料および講義での教員の説明、グループワークがあった時はグループの議論について必ず振り返りを行い、自分が理解できたところや理解できていないところを確認し、理解できていない点についてはさらに調べて理解できるようにする。(60分)
　２回ほどレポートを作成してもらう予定ですが、しっかり資料を読み、論理構造を明確にした上で、作成するようにしてください。（レポートの資料読み、レポート構成、レポート作成3~4時間）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　成績評価について、第一に各回最後に実施するミニッツペーパーに基づき、毎時間自分がどの程度理解できたか、振り返りを確認、評価します。第二に、グループワークを実施した時は、まずチームのメンバーがどの程度予習をしてきているのかを確認し、チームでどのような議論ができたのか書記が作成したシートの内容から確認し、評価を行います。またプレゼンがあった時はその成果について評価を行います。第三に必要に応じて実施するレポートの課題に対してどの程度目標に到達できているのかを評価します。レポートについてはできるだけコメントをつけて返却したいと思います。第四に全体の講義の内容についてどの程度理解でき、考えることができているか、定期試験で確認し、評価します。
　なお、評価の割合は、定期試験を65%、レポートならびにミニッツペーパー等の提出物を35%で実施します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使いません。

◎－－－　参考書　－－－◎

ジョブ理論　ISBN 4596551227
『コ・イノベーション経営』　ISBN 4492522085
『[新訳]経験経済』　ISBN 4478502579
　上記の文献以外に、授業のなかで、読んで欲しい文献を紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・16台以前の経営学科及び貿易学科の学生は「マーケティング論」で履修してください。また商学科で開講している「マーケティング戦略論」は履修しないでください。
・基本的に講義の時間に、グループ〔3～4名程度）の討議の時間を設定したいと考えています。率先して議論できる人の参加を望みます。また遅刻、欠席などしないように心掛けてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション:講義の進め方と マーケティング見るメガネについて
2マーケティング戦略の基本的枠組みの理解(1)：4Pのフレーム
3 マーケティング戦略の基本枠組みの理解 (2)：消費者にニーズとウォンツ
4マーケティング戦略の基本枠組みの理解 (3)： マーケティングの発展過程
5 利益の出し方について
6経験価値マーケティングについて
7 ケースから考察した経験価値戦略
8マーケティングの基本確認(誰に何を提供するのか)
9ビジネスモデル思考法の紹介
10デザイン思考とマーケティング
11SDLの考え方について
12 サービスから見たマーケティング戦略
13 サービス・インテンシティ・マトリックスの考え方
14 サービス・インテンシティ・マトリックのケース研究
15 総括
なお、進捗状況によっては構成を一部変更して行うことがあります。

マーケティング戦略論「（CB・CF17台以降）」

2019-4010000393-03

村上　剛人

◎経営:A-2,A-3

1.日頃の買い物行動を通して「誰に」「何を」提供しようと企業はしているのか、絶えず考え、その背後で働いているビジネスの仕組みをイメージできるようになる。　(A-2)

2.マーケティングの考え方としてどのようなものがあるのか理解し、企業の状況に当てはめ考えることができるようになる。　(A-3)

3.ビジネスケースを説明できるようになる。　(A-3)

4.チームでのケースの議論などを通して、そのケースから発展的に考えることができるようになる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎貿易:A-2,A-3

1.日頃の買い物行動を通して「誰に」「何を」提供しようと企業はしているのか、絶えず考え、その背後で働いているビジネスの仕組みをイメージできるようになる。　(A-2)

2.マーケティングの考え方としてどのようなものがあるのか理解し、企業の状況に当てはめ考えることができるようになる。　(A-3)

3.ビジネスケースを説明できるようになる。　(A-3)

4.チームでのケースの議論などを通して、そのケースから発展的に考えることができるようになる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

マーケティングデータ解析

2019-4010000613-01

太宰　潮

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・２時限　　試験時間割：2020/01/27　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義ではマーケティングリサーチの基礎力があることを前提とし、いわゆる「ビッグデータ」が世にあふれる時代において必要な分析力、統計的な知識、分析の経験、インターネットを踏まえた行動分析の行い方を学びます。

前半では現代において欠かせない、インターネット上の行動分析、いわゆるWEBアクセスログ分析を行います。現在大半の企業が行っていることと全く同様に、外部企業の分析サービスを利用することを想定します。そのサービス利用において登録等が必要となることを必ず了解の上で講義を受講してください。

後半では、決定木分析とクラスター分析という、非常にメジャーな２つの分析手法をグループで実習します。クラスター分析は、特に、消費者の心理的側面によるセグメンテーションを行う上で、非常によく用いられます。決定木分析は、大量データを扱う分析（データマイニング）の代表的な手法であり、こちらも広く実務で用いられています。

講義の進め方としては、チームになって行う実習に重点を置きます。各分析手法の解説、班分け（チーム分け）と分析テーマの決定、調査の実施と分析、分析結果の発表という流れで講義を進めます。チームで作業を進めるにあたり、前週にやったことの確認時間などを設けます。各自は、自分がやった作業をしっかりとチームの他のメンバーに説明することなど、コミュニケーションを取ることをよく意識していてください。

講義終盤では、企業に蓄積された大量データから優良顧客を具体的にどう班別しているのかを、実際に分析して体験をします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ビッグデータを分析し、プレゼンを行えるようになる。(技能)

インターネット時代のデータ分析を行い、消費者のネット上の行動を可視化し、説明できるようになる。(知識・理解)

行や列（変数）が多くとも、データ分析は難しくないことを知り、統計的な知識を使えばそれが分析できるようになる。(知識・理解)

データ分析の結果から、消費者もしくは顧客に対するアプローチをどう行っていけばよいかを提言できるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

チームで進める際には、必ずこれまでの進捗を確認してから作業を開始しますし、また講義終了前には、その日の作業進捗をチームで確認します。講義が始まる前までに、先週までに行ったことを確認しておいてください。講義でも非常に強調しますが、チームでのコミュニケーションを密に取ることを重要視してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

平常点、それから定期試験によって評価します。
定期試験：50%、平常点：50%を基準とします。平常点の比重が高いことに注意をしてください。

平常点は、チーム単位でのプレゼンテーションの内容の充実度や精度の高さ、チーム作業への積極性・発言内容等が主な評価基準となります。定期試験では、当然都度内容は変わりますが、基本的には因子分析・クラスター分析や決定木分析など、講義で学んだことについての知識や講義内で自らが行ったことについて、正確な言葉で説明したり設問に回答できるかどうかを主な評価の基準とします。

然るべき理由のない欠席を重ねる人に対しては、成績評価の前提が守れないという意味で厳正に対処します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません。必要資料は配布します。
必要となる文献があれば、講義中にお知らせします。

◎－－－　参考書　－－－◎

山浦直宏, 村山佑介, コガン・ポリーナ, 高田和資（2018）『いちばんやさしいGoogleアナリティクスの教本 人気講師が教えるWeb解析と広告計測の基本』インプレス
ISBN-10:4295003727

西牧洋一郎（2017）『実践 IBM SPSS Modeler~顧客価値を引き上げるアナリティクス』東京図書
ISBN-10:448902276X

荒川圭基（1995）『POSシステムの知識』日本経済新聞社
ISBN-10:4532013798

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

基本的にチームで作業を行うので、欠席しないようにしてください。

マーケティングリサーチや、太宰が担当する消費者行動論、またマーケティング関連科目（流通・マーケティング入門、マーケティング戦略論など）、商学のための数学・統計学Ⅰ及びⅡ、統計入門（共通教育科目）等を受講済みであるか、もしくは並行して受講すると、より理解が深まります。

なお、PC教室を利用した実習を行うため履修者数は制限されます。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション
２．インターネット上の行動分析(1)：解説
３．インターネット上の行動分析(2)：班分けと調査計画の立案
４．インターネット上の行動分析(3)：基礎集計
５．インターネット上の行動分析(4)：詳細分析の実施
６．インターネット上の行動分析(5)：分析とプレゼンテーション準備
７．インターネット上の行動分析(6)：分析とプレゼンテーション準備
８. インターネット上の行動分析(7)：分析結果の発表
９．決定木分析・クラスター分析(1)：解説
10. 決定木分析・クラスター分析(2)：班分けと調査計画の立案
11. 決定木分析・クラスター分析(3)：調査の実施と集計
12. 決定木分析・クラスター分析(4)：分析とプレゼンテーション準備
13. 決定木分析・クラスター分析(5)：分析結果の発表
14. データベースマーケティング・CRM
15. まとめ

マーケティングデータ解析

2019-4010000613-01

太宰　潮

◎商学:A-2,A-3,A-4,B-1

1.ビッグデータを分析し、プレゼンを行えるようになる。　(B-1)

2.インターネット時代のデータ分析を行い、消費者のネット上の行動を可視化し、説明できるようになる。　(A-2)

3.行や列（変数）が多くとも、データ分析は難しくないことを知り、統計的な知識を使えばそれが分析できるようになる。　(A-3)

4.データ分析の結果から、消費者もしくは顧客に対するアプローチをどう行っていけばよいかを提言できるようになる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1

1.ビッグデータを分析し、プレゼンを行えるようになる。　(B-1)

2.インターネット時代のデータ分析を行い、消費者のネット上の行動を可視化し、説明できるようになる。　(A-2)

3.行や列（変数）が多くとも、データ分析は難しくないことを知り、統計的な知識を使えばそれが分析できるようになる。　(A-3)

4.データ分析の結果から、消費者もしくは顧客に対するアプローチをどう行っていけばよいかを提言できるようになる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

マーケティングデータ解析

2019-4010000613-01

太宰　潮

◎貿易:A-2,A-3,B-1

1.ビッグデータを分析し、プレゼンを行えるようになる。　(B-1)

2.インターネット時代のデータ分析を行い、消費者のネット上の行動を可視化し、説明できるようになる。　(A-2)

3.行や列（変数）が多くとも、データ分析は難しくないことを知り、統計的な知識を使えばそれが分析できるようになる。　(A-3)

4.データ分析の結果から、消費者もしくは顧客に対するアプローチをどう行っていけばよいかを提言できるようになる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

マーケティング入門

2019-4010000197-01

二宮　麻里

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・５時限　　試験時間割：2020/01/21　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　マーケティングの基礎を紹介します。マーケティングは、製品を企画開発・生産・販売する際、企業の戦略的意思決定の基礎となるものです。マーケティングは、市場を分析し、需要をとらえ、販売に結びつけていく企業活動です。企業戦略と市場取引分析との双方にまたがる領域の学問分野で、ひろがりがあり、複雑で難しいのですが、だからこそ魅力があるともいえます。
　講義では、なるべく、マーケティングの具体的な製品、企業のケースを紹介しながら、マーケティングのプロセスを理論的に理解していきます。必要に応じて経済学・経営学の基礎概念についても学びます。
　講義後半では、実際にマーケティング戦略を立案してもらいます。特定産業の新商品開発を体験してもらいます。市場分析するために情報を収集し、リサーチ計画をたて、統合的なマーケティング戦略を策定します。
　第7回のゲストスピーカーは、I&S BBDOのエグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクターの上野達生氏です。過去2度、クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞を受賞された、日本を代表する広告産業におけるクリエイターです。広告的なコミュニケーションを通じた企業のマーケティング問題の解決について、最先端のマス広告の事例を紹介しながら語っていただきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティングの基礎的な概念について説明することができる(知識・理解)

マーケティングがどのような分野で効果的に用いられる考え方かを理解している(知識・理解)

特定企業の課題を、マーケティングの基礎的な概念を用いて分析することができる(知識・理解)

特定企業の課題について、データベース等を用いて情報収集をすることができる(知識・理解)

講義の内容についてレポートを作成することができる(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講義前には指定したテキストを読み、学習する。（15分）
講義後は専門用語についてまとめて、理解する（15分）
さらに、実際に小売店頭で商品を確かめたり、また講義で説明するマーケティングの基礎概念を整理してください。
レポートの作成には１２０分程度必要であろう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験で100%成績評価します。
１）特定企業のマーケティング戦略について専門用語を理解しているかどうか、
２）その専門用語を使って現在の企業行動を正確に分析できているかどうか、
３）自ら新たなマーケティング戦略を策定し、提案できるかどうか、
以上を成績評価の基準とします。
　定期試験はレポート課題を応用して出題します。レポートは学期途中に１回、A4用紙１枚程度です。レポートを作成しなければ、定期試験の問題を解くことはできません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

マーケティングをつかむ（新版）定価 2,268円（本体 2,100円）
ISBN 978-4-641-17725-3

◎－－－　参考書　－－－◎

１からのマーケティング　ISBN 4502665509
現代マーケティング新版　ISBN 4532134390
マーケティング　ISBN 4532110440

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　マーケティングを理解するには、実際の企業活動について「日々目を光らせる」という姿勢が不可欠です。教科書を読んでも、講義を聴いても、自らが「マーケター」の視点を持とうと努力をしなければ、まったく理解できないでしょう。新聞・テレビで報道される企業活動について「意識的に」情報を収集する習慣を身につけることが必要です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回　顧客の理解
　unit１　マーケティングとはなにか
第２回　消費者行動分析
　unit２　消費者の行動
　unit３　購買意思決定の影響要因
　unit４　マーケティング・リサーチ
第３回　マーケティング戦略の策定
　unit５　経営環境の把握
　unit６　セグメンテーション，ターゲティング，ポジショニング
第４回　製品政策
　unit７　製品と製品ミックス
　unit８　新製品開発
第５回　価格政策
　unit９　価格の設定
　unit10　戦略的価格
第６回　プロモーション政策
　unit11　プロモーションの理解
　unit12　プロモーションの手段
第７回　プロモーション政策の実際
I&S BBDO　エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター
ゲストスピーカー上野達生氏
第８回　流通政策
　unit13　マーケティング・チャネル
　unit14　メーカーと流通
第９回　マーケティング・ミックスの統合
　unit15　基本戦略
　unit16　製品ライフサイクル戦略
　unit17　市場地位別戦略
第10回　戦略的マーケティング
　unit18　事業領域と成長戦略
　unit19　資源展開
第11回　市場資源のマーケティング
　unit20　ブランド
　unit21　関係性マーケティング
第12回　マーケティングの拡張（１）
　unit22　サービス・マーケティング
　unit23　生産財マーケティング
第13回　マーケティングの拡張（２）
　unit24　グローバル・マーケティング
　unit25　ソーシャル・マーケティング
第14回　デジタル・マーケティング
第15回　講義まとめ

マーケティング入門

2019-4010000197-01

二宮　麻里

◎商学

1.マーケティングの基礎的な概念について説明することができる　(A-1)

2.マーケティングがどのような分野で効果的に用いられる考え方かを理解している　(A-2)

3.特定企業の課題を、マーケティングの基礎的な概念を用いて分析することができる　(A-3)

4.特定企業の課題について、データベース等を用いて情報収集をすることができる　(A-3)

5.講義の内容についてレポートを作成することができる　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

マーケティングリサーチ

2019-4010000394-01

杉本　宏幸

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・５時限　　試験時間割：2020/01/25　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義ではマーケティング・リサーチの基礎を学びます。マーケティング・リサーチのプロセスと基礎的な分析手法について、アンケート調査、データ分析、そしてクラスでのプレゼンテーションで実践していただきます。
ほぼ毎回、個人単位またはグループ単位でのレポートがあります。受講生によるグループで課題を設定し、必要なデータを自分たちで収集し、それを分析して最終的な結論を出していただきます。
本講義は、マーケティングリサーチの一分野としてのデータベースマーケティングも対象とします。企業や組織が収集する顧客データベースやID付POSデータ等をどのように活用すべきか、マーケティング情報システムの設計、管理を学びます。FSP（Frequent Shopper Program）の実施方法を中心に、データベース作成、情報検索の方法とデータベース・マーケティングの基礎について学びます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティング戦略における現実の課題を認識できること。(知識・理解)

認識した現実の課題を仮説として設計し、現実の課題を整理できること。 (知識・理解)

設計した仮説を検証するためにどのようなデータが必要か認識でき、適切な方法でこれを収集できること。(知識・理解)

収集したデータを使って、仮説を検証するためのデータ分析ができること。(知識・理解)

データ分析の結果から、マーケティング戦略における現実の課題を解決するために必要な情報を見出せること。(知識・理解)

問題意識、仮説の設計、調査手続き、分析、結果とインプリケーションを他人がわかるように説明し、報告できること。 (知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

受講生が構成するグループ単位でのフィールド・スタディを推進する(100分)ために、個人単位で講義資料の復習が毎回必要になります(40分)。データ分析に必要なパソコンを使った分析は、予め提示する講義資料で毎回予習して個人レポートとして提出していただき(40分)、個人レポートは後半の授業中のディスカッションに全員必要となります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価基準は到達目標に準じ、学期末の定期試験（30%）、グループ単位のレポート6～8回予定（40%）およびプレゼンテーション2回予定（10%）、個人レポート10～15回予定（20%）で評価します。提出期限を過ぎて提出されたレポートは、理由を問わず0点とします。
なお、グループ単位のレポートは全て提出しないと単位が認定されない仕組みになっていますので注意してください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

熊谷直樹,『図解データベースのしくみ』,株式会社ディー・アート,2002年，1,800円(税別) ISBN 4886486533
末吉正成他，『EXCELマーケティングリサーチ＆データ分析』，翔泳社，2014年，2570円（税込），ISBN 4798132411

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・第一回講義で数名のグループを編成していただきますので、必ず出席してください。事後で対応しません。
・マーケティング戦略論、サービスマーケティング、消費者行動論、商学のための数学・統計学Ⅱ、市場分析論は受講の前提知識になります。
・法学部の学生が受講する場合、共通教育科目の商学Aおよび商学B、統計入門は受講の前提知識になります。
・Excel、PowerPoint、ACCESSをwindowsで使用します。Excelでの数値入力、PowerPointの使用は講義受講の前提知識になります。
・上記知識が無く本講義を受講した場合、単位認定に至る知識を得られません。
・PC教室での実習を行うため履修者数は制限されます。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　イントロダクション、グループ編成
２　リサーチクエスチョンの設定
３　リサーチデザイン
４　仮説の設計
５　プレゼンテーション
６　質問票の作成
７　標本デザインとデータ収集
８　データ分析の解釈（1）：データ入力、編集、コード化
９　データ分析と解釈（2）：単純集計
１０　データ分析と解釈（3）：集計の可視化
１１　データ分析と解釈（4）：クロス集計分析
１２　データ分析と解釈（5）：平均値の差の検定
１３　プレゼンテーション
１４　データベース・マーケティング（1）：データベース作成と情報検索
１５　データベース・マーケティング（2）：マーケティング情報システムの設計と管理

マーケティングリサーチ

2019-4010000394-01

杉本　宏幸

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.マーケティング戦略における現実の課題を認識できること。　(A-2)

2.認識した現実の課題を仮説として設計し、現実の課題を整理できること。(A-3)

3.設計した仮説を検証するためにどのようなデータが必要か認識でき、適切な方法でこれを収集できること。　(A-2)

4.収集したデータを使って、仮説を検証するためのデータ分析ができること。(A-3)

5.データ分析の結果から、マーケティング戦略における現実の課題を解決するために必要な情報を見出せること。　(A-4)

6.問題意識、仮説の設計、調査手続き、分析、結果とインプリケーションを他人がわかるように説明し、報告できること。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.マーケティング戦略における現実の課題を認識できること。　(A-2)

2.認識した現実の課題を仮説として設計し、現実の課題を整理できること。(A-2)

3.設計した仮説を検証するためにどのようなデータが必要か認識でき、適切な方法でこれを収集できること。　(A-3)

4.収集したデータを使って、仮説を検証するためのデータ分析ができること。(A-3)

5.データ分析の結果から、マーケティング戦略における現実の課題を解決するために必要な情報を見出せること。　(A-3)

6.問題意識、仮説の設計、調査手続き、分析、結果とインプリケーションを他人がわかるように説明し、報告できること。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

マーケティングリサーチ

2019-4010000394-01

杉本　宏幸

◎貿易:A-2,A-3

1.マーケティング戦略における現実の課題を認識できること。　(A-2)

2.認識した現実の課題を仮説として設計し、現実の課題を整理できること。(A-2)

3.設計した仮説を検証するためにどのようなデータが必要か認識でき、適切な方法でこれを収集できること。　(A-3)

4.収集したデータを使って、仮説を検証するためのデータ分析ができること。　(A-3)

5.データ分析の結果から、マーケティング戦略における現実の課題を解決するために必要な情報を見出せること。　(A-3)

6.問題意識、仮説の設計、調査手続き、分析、結果とインプリケーションを他人がわかるように説明し、報告できること。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

マーケティング論「（17台以降）」

2019-4010000602-01

村上　剛人

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・２時限　　試験時間割：2020/01/20　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

この科目はEコマースマーケティング(16台以前）の科目との合併講義になるため、講義の内容においてEコマースに関わる内容が含められている点、留意してください。
この講義では、前期で開講されているマーケティング戦略論の内容を踏まえながら、マーケティングがどのように発展してきたのか、そのマーケティングの思考のロジックを中心に考察し、そのロジックがどのように形成されてきたのか、そしてその後うまく機能しなくなっていくのか、そのプロセスをマス・マーケティングから始まり、市場細分化、そしてマス・カスタマイゼーション、共創型マーケティングへの発展していく、ロジックの連鎖を明らかにしていきたいと考えています。
特に、市場細分化戦略以降、企業と消費者とのコミュニケーションのあり方が一人一人のニーズに対応するような状況へと変化し、2000年代にはone-to-one マーケティングとして顧客の管理問題へと発展するとともに、それがさらに企業と消費者との間で共創して商品開発等を行っていく状況へと発展しています。その過程はまさに1994年にインターネットが商業用として普及する過程に合わせ、企業と消費者との間でのコミュニケーションが消費者間でのコミュニケーションを中心としたネットワークへと発展し、そのことが同時にマーケティングの有り様にも多大な影響を与えたと考えられます。インターネットの普及のもとでの新たなマーケティングの展開とはどのようなものか、それについての考察をこの講義を通して行っていきたいと思います。そして現在のマーケティングの姿がどのようなものとして展開されようとしているのか、学生のみなさんと一緒に議論していきたいと思います。
なお、講義の進捗の度合いに応じて、内容を変更することがあります。ご了承ください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

一つ一つのマーケティング戦略のロジックが説明できるようになる。(知識・理解)

マーケティング戦略のロジックの間の関係性が説明できるようになる。(知識・理解)

ケースとして取り上げた企業などのマーケティングの考え方をロジックを通して説明できるようになる。(知識・理解)

企業の抱える問題が何かを理解し、それに対してどのようなマーケティングを考えらば良いのか発展的に考えることができるようになる。(知識・理解)

これからの時代の流れの中でのマーケティングがどのような位置付けになっているのか説明できるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義の進め方は単元ごとにレジュメおよびビジネスケースを配布し、そのレジュメの中で提示している質問内容やビジネスケースについて事前に学習し、わからないところも調べ、そのうえで自分なりの解答を用意してください。(90分）また、講義の内容について、資料および講義での教員の説明、グループワークがあった時はグループの議論について必ず振り返りを行い、自分が理解できたところや理解できていないところを確認し、理解できていない点についてはさらに調べて理解できるようにする。(60分)
２回ほどレポートを作成してもらう予定ですが、しっかり資料を読み、論理構造を明確にした上で、作成するようにしてください。（レポートの資料読み、レポート構成、レポート作成3~4時間）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価について、第一に各回最後に実施するミニッツペーパーに基づき、毎時間自分がどの程度理解できたか、振り返りを確認、評価します。第二に、グループワークを実施した時は、まずチームのメンバーがどの程度予習をしてきているのかを確認し、チームでどのような議論ができたのか書記が作成したシートの内容から確認し、評価を行います。またプレゼンがあった時はその成果について評価を行います。第3に必要に応じて実施するレポートの課題に対してどの程度目標に到達できているのかを評価します。なおレポートはチェックしてコメントをつけて返却したいと思います。第4に全体の講義の内容についてどの程度理解でき、考えることができているか、定期試験で確認し、評価します。
なお、評価の割合は、定期試験を65%、レポートならびにミニッツペーパー等の提出物を35%で実施します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使いません。

◎－－－　参考書　－－－◎

ゼミナール マーケティング入門 第2版　ISBN 4532134390
マス・カスタマイゼーション戦略のメカニズム　ISBN 4561661654
『ウィキノミクス マスコラボレーションによる開発・生産の世紀へ』　ISBN 482224587X
上記以外に、その都度読んでほしい文献を講義中に紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・グループ討議の時間を設定しますので、遅刻、欠席などしないように心掛けてください。積極的に議論するように心がけてください。
・17台以降の商学科の学生は前期のマーケティング戦略論（経営学科、貿易学科、経済学部、法学部の学生は経営学科に開講しているマーケティング戦略論）も受講していることが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション：これからのマーケティングは。
2 マス・マーケティングのロジック(1)
3 マス・マーケティングのロジック(2)
4 マス・マーケティングのロジックの限界
5 市場細分化戦略のロジック(1)
6 市場細分化戦略のロジック(2)
7 1980年代の市場細分化の問題性の考察
8 消費の自律性と他律性問題
9 市場細分化のロジックの限界(1)
10市場細分化のロジックの限界(2)
11マス・カスタマイゼーションのロジック
12モジュール戦略とインターネット
13共創型マーケティング
14インターネットを活用したマーケティングの事例研究
15講義のまとめ
なお、講義の内容を進捗に合わせて変更することがあります。

マーケティング論「（17台以降）」

2019-4010000602-01

村上　剛人

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.一つ一つのマーケティング戦略のロジックが説明できるようになる。　(A-2)

2.マーケティング戦略のロジックの間の関係性が説明できるようになる。
(A-3)

3.ケースとして取り上げた企業などのマーケティングの考え方をロジックを通して説明できるようになる。　(A-3)

4.企業の抱える問題が何かを理解し、それに対してどのようなマーケティングを考えらば良いのか発展的に考えることができるようになる。　(A-3)

5.これからの時代の流れの中でのマーケティングがどのような位置付けになっているのか説明できるようになる。　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.一つ一つのマーケティング戦略のロジックが説明できるようになる。　(A-2)

2.マーケティング戦略のロジックの間の関係性が説明できるようになる。
(A-3)

3.ケースとして取り上げた企業などのマーケティングの考え方をロジックを通して説明できるようになる。　(A-3)

4.企業の抱える問題が何かを理解し、それに対してどのようなマーケティングを考えらば良いのか発展的に考えることができるようになる。　(A-3)

5.これからの時代の流れの中でのマーケティングがどのような位置付けになっているのか説明できるようになる。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

マーケティング論「（17台以降）」

2019-4010000602-01

村上　剛人

◎貿易:A-2,A-3

1.一つ一つのマーケティング戦略のロジックが説明できるようになる。　(A-2)

2.マーケティング戦略のロジックの間の関係性が説明できるようになる。
(A-3)

3.ケースとして取り上げた企業などのマーケティングの考え方をロジックを通して説明できるようになる。　(A-3)

4.企業の抱える問題が何かを理解し、それに対してどのようなマーケティングを考えらば良いのか発展的に考えることができるようになる。　(A-3)

5.これからの時代の流れの中でのマーケティングがどのような位置付けになっているのか説明できるようになる。

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3

1.一つ一つのマーケティング戦略のロジックが説明できるようになる。　(A-2)

2.マーケティング戦略のロジックの間の関係性が説明できるようになる。
(A-3)

3.ケースとして取り上げた企業などのマーケティングの考え方をロジックを通して説明できるようになる。　(A-3)

4.企業の抱える問題が何かを理解し、それに対してどのようなマーケティングを考えらば良いのか発展的に考えることができるようになる。　(A-3)

5.これからの時代の流れの中でのマーケティングがどのような位置付けになっているのか説明できるようになる。

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

リスクマネジメント論「（隔週講義）」

2019-4010000402-01

石坂　元一

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・４時限, ５時限　　試験時間割：2019/07/26　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

近年，「リスク」あるいは「リスクマネジメント（リスク管理）」という言葉を頻繁に見聞きする機会があることでしょう。実際，個人・企業を問わず，日々の活動にリスクが存在しています。このリスクに対してどのように臨んでいけばよいのでしょうか？企業のリスクマネジメントにおける代表的な対処法として損害保険やデリバティブ（金融派生商品）があります。

そこで本講義では，リスクマネジメントを体系的に捉え，そこにおける損害保険やデリバティブの位置づけを確認した上で，どのようなリスクマネジメントを実施すべきかを学習します。また，適宜，必要となる数学やファイナンスの知識も復習・修得します。

テキストは3部構成で主として例題によって展開されています。講義でも，その流れに沿って解説していきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

リスクマネジメントを体系的に理解できている。(知識・理解)

リスクマネジメント実行の際の問題を指摘できる。(知識・理解)

各リスクに対する適切な対処法を提案できる。(技能)

ファイナンス論を基に，リスクマネジメントの実施を考察できる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・次回講義範囲を予習すること（専門用語など）。（60分）
・講義と関連する時事的話題に触れておくこと。（30分）
・講義で扱った例題を復習すること。（30分）
・関連する話題について講義を踏まえて考察すること。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・リスクマネジメントを体系的に理解できているか，その実施について適切な意思決定を行えるかを基準とする。
・定期試験（100%）により評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

柳瀬典由他，『リスクマネジメント（ベーシックプラス・シリーズ）』，中央経済社，2018年3月刊行予定，ISBN978-4-502-25691-2

◎－－－　参考書　－－－◎

『経営危機管理論』三恵社　ISBN 978-4864870603
『はじめて学ぶリスクと保険[第4版]』有斐閣　ISBN 978-4641184206
その他，講義参考資料を配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・講義開講日に注意してください。
・テキスト必携です。
・先に「保険論入門」および「保険論」の履修をお薦めします。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　リスクマネジメントとは
2　確率の基礎計算
3　保険の原理と保険料の決定
4　期待効用理論と保険市場の限界
5　デリバティブと代替的リスクファイナンス
6　ポートフォリオ理論と資本資産価格モデル
7　資本構成
8　企業価値と企業の投資決定
9　リスクマネジメントと企業価値
10　倒産コストとリスクマネジメント
11　資産代替問題とリスクマネジメント
12　過少投資問題とリスクマネジメント
13　税便益とリスクマネジメント
14　経営者のリスク回避性とリスクマネジメント
15　全社的リスクマネジメント

リスクマネジメント論「（隔週講義）」

2019-4010000402-01

石坂　元一

◎商学:A-1,A-3,B-2,C-1

1.リスクマネジメントを体系的に理解できている。　(A-1)

2.リスクマネジメント実行の際の問題を指摘できる。　(A-3)

3.各リスクに対する適切な対処法を提案できる。　(B-2)

4.ファイナンス論を基に，リスクマネジメントの実施を考察できる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-1,A-3,B-2,C-1

1.リスクマネジメントを体系的に理解できている。　(A-1)

2.リスクマネジメント実行の際の問題を指摘できる。　(A-3)

3.各リスクに対する適切な対処法を提案できる。　(B-2)

4.ファイナンス論を基に，リスクマネジメントの実施を考察できる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

リスクマネジメント論「（隔週講義）」

2019-4010000402-01

石坂　元一

◎貿易:A-1,A-3,B-2,C-1

1.リスクマネジメントを体系的に理解できている。　(A-1)

2.リスクマネジメント実行の際の問題を指摘できる。　(A-3)

3.各リスクに対する適切な対処法を提案できる。　(B-2)

4.ファイナンス論を基に，リスクマネジメントの実施を考察できる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

流通システム論

2019-4010000601-01

二宮　麻里、忽那　憲治、渡辺　剛、藤野　真

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・５時限　　試験時間割：2020/01/20　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

　福岡大学商学部の源流は、1934年に開講された福岡高等商業学校という、商学を学ぶ専門機関に遡ります。博多商人が、自分たちやその子供たちが、勉学に打ち込める場所を作ろうと、私財を投げ打って設立したのです。
　では、商学部は、いったい何を学ぶ学部なのでしょうか。経済学部や経営学部とどう異なるのでしょうか。みなさんは、すでに「流通・マーケティング入門」をはじめ、「金融入門」「簿記原理」「貿易入門」「流通入門」「経営学総論」といった商学部の入門科目を受講しておられると思います。これらの科目は高度に専門的で、全く異なる経済事象を取り扱っているように見えるかもしれません。では、商学部の専門分野の基礎理論とは何なのでしょうか。
　商学は、主に企業間の取引を取り扱う学問分野です。そして、取引にはリスクが付きまといます。 リスクをうまく処理しなければ、取引そのものが広がりません。 商学とはリスクを社会的に処理する仕組みに関わる学問です。会社制度も金融や保険も、商業や物流もすべて、取引のリスクと関係します。
　「流通システム論」では、流通・商業を中心として、「取引」と「リスク」を切り口に、専門科目を横断する講義を提供したいと思います。忽那氏は、長年、創業希望者への指導をおこなうとともに、株式会社イノベーション・アクセルと株式会社科学技術アントレプレナーシップの取締役・共同創業者であり、大学発ベンチャーの出資をおこなっている。その経験を踏まえ、金融制度を理論的に解説いただく。
　講義後半では、リスクと取引についてより深く考察するためにレポートを作成してもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学におけるリスクとは何かを説明することができる(知識・理解)

商学におけるリスクをなるべく少なくするために、整備された経済制度について説明することができる
(知識・理解)

現在の経済事象と講義で述べられたリスクを関連させながら述べることができる(知識・理解)

特定産業の課題を、情報収集しながら、分析することができる(知識・理解)

特定産業の歴史について論理的に記述することができる(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講義前にテキストを読み(15分）、講義後にはテキストを要約して復習し、専門用語をまとめて理解してください（15分）。
ミニッツペーパーが課された際には、専門用語を用いて作成すること（15分）
本講義では、知識を暗記することは要求しません。論理的な文章を読解し、ビジネスプランを作成することを目指します。ビジネスプランの作成およびレポートの作成には120分以上が必要。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　商学の基礎概念を理解し、「循環」および「リスク」というキー概念を用いながら、経済現象について理論的に論じられているかどうかを成績評価の基準とします。
　定期試験で100%成績評価します。レポートを学期途中に１回、A4用紙１枚作成してもらい、定期試験はそのレポート課題を応用して出題します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

石原武政・忽那憲治編著『商学への招待(有斐閣ブックス)』有斐閣2013年
ISBN 978-4-641-18417-6

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　遅刻は厳禁です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１イントロダクション
―「商学」を学ぶ意味《二宮麻里》

２取引と市場と信頼《二宮麻里》

３事業を支える仕組み―
貨幣という制度―お金とは何だろうか《神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科副研究科長・教授　兼　経営学研究科教授忽那憲治》

４金融という制度―金融の役割とは何だろうか
《忽那憲治》

５会社という制度《藤野真》

６競争と経営《二宮麻里》

７リスクとはなにか《二宮麻里》

８取引制度の意味《二宮麻里》

９取引の信頼性の確保―どのように品質を保証し、価値を高めるのか《二宮麻里》

１０市場の拡大―市場はどのように成立し、どのような役割を果たしたのか《二宮麻里》

１１資金と債権の管理―どのようにしてお金を管理するのか《経営学科：渡辺剛》

１２資金と債権の管理―どのようにしてお金を管理するのか(2)《渡辺剛》

１３　産業の変化《二宮麻里》

１４　ケーススタディ《二宮麻里》

１５　改めて商学の意義を考える《二宮麻里》まとめ

流通システム論

2019-4010000601-01

二宮　麻里、忽那　憲治、渡辺　剛、藤野　真

◎商学:A-2,A-3,A-4

1.商学におけるリスクとは何かを説明することができる　(A-2)

2.商学におけるリスクをなるべく少なくするために、整備された経済制度について説明することができる
(A-2)

3.現在の経済事象と講義で述べられたリスクを関連させながら述べることができる　(A-3)

4.特定産業の課題を、情報収集しながら、分析することができる　(A-4)

5.特定産業の歴史について論理的に記述することができる　(A-4)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.商学におけるリスクとは何かを説明することができる　(A-2)

2.商学におけるリスクをなるべく少なくするために、整備された経済制度について説明することができる
(A-2)

3.現在の経済事象と講義で述べられたリスクを関連させながら述べることができる　(A-3)

4.特定産業の課題を、情報収集しながら、分析することができる　(A-3)

5.特定産業の歴史について論理的に記述することができる　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

流通システム論

2019-4010000601-01

二宮　麻里、忽那　憲治、渡辺　剛、藤野　真

◎貿易:A-2,A-3

1.商学におけるリスクとは何かを説明することができる　(A-2)

2.商学におけるリスクをなるべく少なくするために、整備された経済制度について説明することができる
(A-2)

3.現在の経済事象と講義で述べられたリスクを関連させながら述べることができる　(A-3)

4.特定産業の課題を、情報収集しながら、分析することができる　(A-3)

5.特定産業の歴史について論理的に記述することができる　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3

1.商学におけるリスクとは何かを説明することができる　(A-2)

2.商学におけるリスクをなるべく少なくするために、整備された経済制度について説明することができる
(A-2)

3.現在の経済事象と講義で述べられたリスクを関連させながら述べることができる　(A-3)

4.特定産業の課題を、情報収集しながら、分析することができる　(A-3)

5.特定産業の歴史について論理的に記述することができる　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

流通政策

2019-4010000323-01

笹川　洋平

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・１時限　　試験時間割：2020/01/24　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

わが国社会が消費社会となったと言われて久しい。現代社会は、消費者があらゆる必要を市場において商品として適価で購入し解決できる社会である。しかし、現代は製品やサービスが複雑化・高度化し、消費者がその機能や正しい使用方法を完全に理解して購入、使いこなすことは簡単ではないのが実情である。

わが国においても、過去において製品やサービスが消費者の生命や健康を脅かした事例がすくなからず存在する。また、今日においても健康被害や経済的損失を被る消費者はあとを絶たないし、被害の原状回復は絶望的なのが実情(泣き寝入り)である。これらは「詐欺･瞞着」といった犯罪的な事例ではなく、純粋な経済取引の枠内で生じていることである。

それだけではない。事業者の中には、いまだに消費者は「操作の対象」であるという間違った認識に立つ者もいる。事業者の誤った姿勢は、消費者がその購買プロセス理性的に判断しようとする｢思考過程｣すら販売の障碍とみなし、このような理性的判断の機会すら奪おうとしているのではなかと理解しうる事例も存在する。

こうしてみると、私たちに豊かさの果実を提供するはずの消費社会は、別の面からみると、消費者が売手の耐えざる攻撃にさらされ、理性的な判断を攪乱される｢理不尽な｣社会であるともいえるかもしれない。

講義では、私たちの社会が「消費者利益の保護と促進」、「情報開示と格差の矯正」、「売手規制」、「消費者救済(制度)」などの枠組みの中においてすら、消費者問題がなくせないのはなぜなのか、この点を中心に、消費社会の成り立ち、消費者の購買過程、消費者問題の変遷、今日の消費者問題対策などを中心に行う予定である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.流通政策(消費者問題)の基本的知識を理解し、説明することができる。(知識・理解)

2.消費者として自らの購買過程を客観的に捉え、有意義な購買につなげる自覚をもつことができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義ノートを復習して前回の講義内容を理解し、「授業の流れ」を把握して授業に臨むこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（100%）によって目標達成度を評価する。なお､目標達成度の評価基準は､15回の授業全体の流れをどの程度まで理解できているかを問う形で行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

西村多嘉子『市場と消費の政治経済学』　ISBN 4589032767
廣瀬久和、河上正二『消費者法判例百選 (別冊ジュリスト No.200)』　ISBN 4641115001
坂東俊、矢細川幸一(2014)『18歳から考える消費者と法 第2版』　ISBN 4589036126
多田文明『悪徳商法 わざと引っかかってみました [文庫]』彩図社 ISBN 488392940X

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. 流通政策の課題--流通問題と消費者--
2. 生産と消費
3. 市場経済と消費
4. 産業社会と消費の大量化
5. 消費社会と消費の大量化
6. 都市型消費生活--消費の定型化--
7. 消費社会と消費者問題
8. 消費社会の購買過程(1)
9. 消費社会の購買過程(2)
10. わが国の消費者問題の歴史(1)
11. わが国の消費者問題の歴史(2)
12. わが国の消費者問題の歴史(3)
13. 消費者問題の救済制度
14. 最近の消費者問題
15. 復習

流通政策

2019-4010000323-01

笹川　洋平

◎商学:A-2,A-3

1.1.流通政策(消費者問題)の基本的知識を理解し、説明することができる。(A-2)

2.2.消費者として自らの購買過程を客観的に捉え、有意義な購買につなげる自覚をもつことができる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3

1.1.流通政策(消費者問題)の基本的知識を理解し、説明することができる。(A-2)

2.2.消費者として自らの購買過程を客観的に捉え、有意義な購買につなげる自覚をもつことができる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

流通政策

笹川　洋平

2019-4010000323-01

◎貿易:A-2,A-3

1.1.流通政策(消費者問題)の基本的知識を理解し、説明することができる。(A-2)

2.2.消費者として自らの購買過程を客観的に捉え、有意義な購買につなげる自覚をもつことができる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

流通入門「（16台以前）」

2019-4010000192-02

田村　馨

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：2020/01/16　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

　どのような産業、業種、企業であれ、商品やサービスを開発し、消費者に届け、買ってもらい、満足を得てもらう活動が不可欠です。たとえエンジニアであれ、研究者であれ、ビジネス社会で生きていく以上、そのような活動とは無縁で働くことは難しくなっています。
　そのような活動がどのようなものであり、そこにはどのようなメカニズムや仕組みがあるのかを、流通とマーケティングの２つの側面から学ぶのが本講義の目的です。
　具体的には、流通とは何か、流通がなぜ社会的に必要なのか、日本の流通の特徴は何か、日本の流通はいまどのように変化しているかを解説します。また、マーケティングについては、マーケティングとは何か、マーケティングが生まれた経緯と日本に入ってきた背景、時代とともに変わってきたマーケティングの変遷を解説します。
　コンビニやスーパー、ヒット商品、テレビ広告など具体的なケースを対象に、流通、マーケティングの果たす役割やメカニズム、仕組みが解説されていきます。
　次の講義の予告を毎回するので関連するサイトや文献を事前に学習し、講義中にお知らせするサイトや文献による事後学習をおすすめします。

【担当者が実務経験者の授業科目】
・中央官庁、民間のコンサルティングファームでの勤務経験を活かし、流通ビジネスをめぐる理論と実践の橋渡しがどのように行われるかを解説する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティングがなぜ必要であるかが説明できる。(知識・理解)

スーパーマーケットやコンビニエンスストアの成長を例に日本の流通の発展メカニズムを説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・次回の講義に向けて紹介するネット上の情報、記事、文献に目を通すことを前提に講義は進めます（予習180分）。
・講義中に素材にしたケースや理論に関する記事、文献、動画等を復習し講義を振り返ることが必要です（復習180分）。
・流通、マーケティングに関する概念、理論、フレームワークを文献や記事で継続的に学ぶことが求められます（通常学習180分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験で評価します。割合は１００％。流通、マーケティングとは何か、日本の流通、マーケティングの変化はどういったものであったか、その変化のメカニズムはどういうものだったか、流通とマーケティングの課題と可能性を理解しているか否かが評価基準となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　教科書は使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義は、通して受講することで理解が促されるように設計されているので、毎回受講されることを望みます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　流通とは何か
2　流通機能と流通産業
3　流通産業を構成する企業
4　流通の社会的存立意義
5　マーケティングとは何か
6　マーケティングの仕組み
7　マーケティングと時代の変化
8　コンビニの誕生と成長
9　なぜコンビニは多くの消費者に支持されたのか
10　コンビニが起こしたイノベーション
11　ヒット商品の秘密
12　消費者の買い物行動を解剖する
13　消費者の商品選択行動を解剖する
14　流通、マーケティングの最前線
15　未来に向けた流通、マーケティングの展望

流通入門「（16台以前）」

2019-4010000192-02

田村　馨

◎商学

1.マーケティングがなぜ必要であるかが説明できる。　(A-2)

2.スーパーマーケットやコンビニエンスストアの成長を例に日本の流通の発展メカニズムを説明できる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

流通・マーケティング入門

2019-4010000600-02

田村　馨

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：2020/01/16　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

　どのような産業、業種、企業であれ、商品やサービスを開発し、消費者に届け、買ってもらい、満足を得てもらう活動が不可欠です。たとえエンジニアであれ、研究者であれ、ビジネス社会で生きていく以上、そのような活動とは無縁で働くことは難しくなっています。
　そのような活動がどのようなものであり、そこにはどのようなメカニズムや仕組みがあるのかを、流通とマーケティングの２つの側面から学ぶのが本講義の目的です。
　具体的には、流通とは何か、流通がなぜ社会的に必要なのか、日本の流通の特徴は何か、日本の流通はいまどのように変化しているかを解説します。また、マーケティングについては、マーケティングとは何か、マーケティングが生まれた経緯と日本に入ってきた背景、時代とともに変わってきたマーケティングの変遷を解説します。
　コンビニやスーパー、ヒット商品、テレビ広告など具体的なケースを対象に、流通、マーケティングの果たす役割やメカニズム、仕組みが解説されていきます。
　次の講義の予告を毎回するので関連するサイトや文献を事前に学習し、講義中にお知らせするサイトや文献による事後学習をおすすめします。

【担当者が実務経験者の授業科目】
・中央官庁、民間のコンサルティングファームでの勤務経験を活かし、流通ビジネスをめぐる理論と実践の橋渡しがどのように行われるかを解説する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティングがなぜ必要であるかが説明できる。(知識・理解)

スーパーマーケットやコンビニエンスストアの成長を例に日本の流通の発展メカニズムを説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・次回の講義に向けて紹介するネット上の情報、記事、文献に目を通すことを前提に講義は進めます（予習180分）。
・講義中に素材にしたケースや理論に関する記事、文献、動画等を復習し講義を振り返ることが必要です（復習180分）。
・流通、マーケティングに関する概念、理論、フレームワークを文献や記事で継続的に学ぶことが求められます（通常学習180分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験で評価します。割合は１００％。流通、マーケティングとは何か、日本の流通、マーケティングの変化はどういったものであったか、その変化のメカニズムはどういうものだったか、流通とマーケティングの課題と可能性を理解しているか否かが評価基準となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　教科書は使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義は、通して受講することで理解が促されるように設計されているので、毎回受講されることを望みます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　流通とは何か
2　流通機能と流通産業
3　流通産業を構成する企業
4　流通の社会的存立意義
5　マーケティングとは何か
6　マーケティングの仕組み
7　マーケティングと時代の変化
8　コンビニの誕生と成長
9　なぜコンビニは多くの消費者に支持されたのか
10　コンビニが起こしたイノベーション
11　ヒット商品の秘密
12　消費者の買い物行動を解剖する
13　消費者の商品選択行動を解剖する
14　流通、マーケティングの最前線
15　未来に向けた流通、マーケティングの展望

流通・マーケティング入門

2019-4010000600-02

田村　馨

◎経営:A-1

1.マーケティングがなぜ必要であるかが説明できる。　(A-1)

2.スーパーマーケットやコンビニエンスストアの成長を例に日本の流通の発展メカニズムを説明できる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎貿易:A-1

1.マーケティングがなぜ必要であるかが説明できる。　(A-1)

2.スーパーマーケットやコンビニエンスストアの成長を例に日本の流通の発展メカニズムを説明できる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-01

永星　浩一

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

2年・3年で見つけた各人の卒業研究テーマを卒論の形にしていきます。はじめにテーマに沿って仮のシナリオを作成し、必要な文献を集めます。シナリオの順に小テーマごと報告を行い、内容及び形式についてゼミで指導を行います。卒論ゼミでは、論文の書き方の指導が中心になります。内容については、他のゼミ生からも報告後の質疑応答で意見を出してもらい、執筆者の参考にしてもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

全体の構成（シナリオ）にしたがって、現状把握に必要な資料を積極的に集めることができる。(知識・理解)

現代社会の諸課題から自分の研究テーマを社会の発展に寄与する商学的な見地から見出し組み立てることができる。(知識・理解)

現代社会の課題について調べたこと、考察したことを自分の言葉で文章化でき、引用は正しいルールに則って行うことができる。(技能)

現代社会の課題の解決策を論文執筆を通じて見出し、社会の健全な発展について考察することができる。(技能)

卒論作成にあたって、現代社会の発展に商学的見地から寄与することについて認識している。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

自分の卒論のテーマについて、常に頭に入れておき、アイデアが浮かんだらすぐにメモをとれるようにしましょう。必要な文献は自分で見つけておき、報告の際に紹介できるように事前に読んでおきましょう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

出席して積極的に他のゼミ生の卒論報告に意見を述べるなどの討論への参加状況30%、自分の卒論研究の取組30%および卒論自体の出来40%、など総合して成績を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しません。必要に応じて資料を配付します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

演習科目ですから、出席して発言したり発表したりして積極的に参加することで評価されます。出席しただけでは評価されません。同様の理由で遅刻はしないでください。やむを得ない理由で遅刻、欠席するときは、極力前もって連絡し、後日、証明があれば提出してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前　期
卒論テーマ作成

論文のシナリオ作成

卒論の形式

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

卒論中間報告会(1)

卒論中間報告会(2)

後　期
各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

各人の卒論報告

卒論最終報告会(1)

卒論最終報告会(2)

◎－－－　URL　－－－◎

永星研究室のWebページ
(http://star.comm.fukuoka-u.ac.jp/)

論文ゼミナール

2019-4010000303-01

永星　浩一

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.全体の構成（シナリオ）にしたがって、現状把握に必要な資料を積極的に集めることができる。　(A-2)

2.現代社会の諸課題から自分の研究テーマを社会の発展に寄与する商学的な見地から見出し組み立てることができる。　(A-3)

3.現代社会の課題について調べたこと、考察したことを自分の言葉で文章化でき、引用は正しいルールに則って行うことができる。　(B-1)

4.現代社会の課題の解決策を論文執筆を通じて見出し、社会の健全な発展について考察することができる。　(B-2)

5.卒論作成にあたって、現代社会の発展に商学的見地から寄与することについて認識している。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.全体の構成（シナリオ）にしたがって、現状把握に必要な資料を積極的に集めることができる。　(A-2)

2.現代社会の諸課題から自分の研究テーマを社会の発展に寄与する商学的な見地から見出し組み立てることができる。　(A-3)

3.現代社会の課題について調べたこと、考察したことを自分の言葉で文章化でき、引用は正しいルールに則って行うことができる。　(B-1)

4.現代社会の課題の解決策を論文執筆を通じて見出し、社会の健全な発展について考察することができる。　(B-2)

5.卒論作成にあたって、現代社会の発展に商学的見地から寄与することについて認識している。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-01

永星　浩一

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.全体の構成（シナリオ）にしたがって、現状把握に必要な資料を積極的に集めることができる。　(A-2)

2.現代社会の諸課題から自分の研究テーマを社会の発展に寄与する商学的な見地から見出し組み立てることができる。　(A-3)

3.現代社会の課題について調べたこと、考察したことを自分の言葉で文章化でき、引用は正しいルールに則って行うことができる。　(B-1)

4.現代社会の課題の解決策を論文執筆を通じて見出し、社会の健全な発展について考察することができる。　(B-2)

5.卒論作成にあたって、現代社会の発展に商学的見地から寄与することについて認識している。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.全体の構成（シナリオ）にしたがって、現状把握に必要な資料を積極的に集めることができる。　(A-2)

2.現代社会の諸課題から自分の研究テーマを社会の発展に寄与する商学的な見地から見出し組み立てることができる。　(A-3)

3.現代社会の課題について調べたこと、考察したことを自分の言葉で文章化でき、引用は正しいルールに則って行うことができる。　(B-1)

4.現代社会の課題の解決策を論文執筆を通じて見出し、社会の健全な発展について考察することができる。　(B-2)

5.卒論作成にあたって、現代社会の発展に商学的見地から寄与することについて認識している。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-02

笹川　洋平

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

4年次は、就職活動も重なるため、ゼミの最終目標である卒業論文の作成に焦点をしぼってゼミをすすめる。

4年次の前半では「卒論の仮テーマ」でのレポートの作成をめざして、論文の構成、文献の収集(図書館)、プレゼンを行い、教員のアドバイスを得ながら、必要な文献や資料を収集し、レポートの充実につとめながら、卒業論文の作成につながるよう、目的合理的なゼミの進行にこころがける。

夏休みから後期にかけては、教員のサポートを得ながら、卒論の執筆に取りかかる。各自のレポートのファイルはウェブ上で共有するので、365日24時間いつでも修正の際には教員の意見をもとめることができる。

論文執筆のために可能な限り、良好な環境を提供するつもりなので、学生にあっても達成感のある卒業論文を提出できるよう、日常から努力する姿勢をもってほしい。

卒業論文の最終目標は、作成者が自分たちの保護者あるいは大切な人に読んでもらたいと思う水準の卒業論文の完成をめざすことにある。同時に、これは論文ゼミの目標でもある。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.流通･マーケティングの知識を用いて、現代の経済状況を評価し、企業、産業、地域がおかれている状況を説明できる。(知識・理解)

2.の経済社会における課題を発見し、流通･マーケティングの観点からその発展の方向性を論理的に説明できる。(知識・理解)

3.流通･マーケティングの知識を用いて、現代の企業、産業、地域が直面する課題を客観的に把握できる。(技能)

4.流通･マーケティングの知識を用いて、企業、産業、地域が直面する課題解決へ向けての提案を立案できる。(技能)

5.流通･マーケティングの知識を用いて、現代社会や企業の課題に貢献する姿勢をもつようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

日頃から、図書館などで卒論に関する図書や資料を読み、ノートへ整理して、内容を充実させる取り組みを欠かさないように努力してもらいたい。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

卒業論文の内容とゼミへの貢献度（発表、発言）を評価の基準とする。
（卒業論文：70%、ゼミへの貢献度：30%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定しない。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回目～第10回目：
　グループ単位で、「卒論趣意書」を相互に吟味し合う。もらった意見やコメントは、各自の「卒論ノート」に書き留め保管し、何度も見直し、改善してゆく。「卒論ノート」に基づき、卒論の構成と「主張」をつめながら、卒論の内容の改善をはかる。

第11回目～第18回目：
　卒論提出までに、各自3回の卒論の予備発表を行うが、その中で卒論構成の弱点を確認･反省し、次回のプレゼン（予備発表）の改善につなげる。

第19回～第25回：
　卒論の2回目以降のプレゼン（全体発表）を行い、1回目のプレゼンでの改善点を確認し、その効果を相互評価する。その上で、予備の卒論を提出し、教員のチェックを受ける。

第26回～第30回：
　卒論の最終仕上げを行う。内容の論理一貫性はもとより、章･節･項目の構成の整合性がとれているか、文献リストの正誤チェック、脚注番号の整合性、目次と対応ページの正誤など、形式面でのチェックを行い、内容面でも形式面でも卒業論文として漏れのないように仕上げることをめざす。

論文ゼミナール

2019-4010000303-02

笹川　洋平

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.1.流通･マーケティングの知識を用いて、現代の経済状況を評価し、企業、産業、地域がおかれている状況を説明できる。　(A-2)

2.2.の経済社会における課題を発見し、流通･マーケティングの観点からその発展の方向性を論理的に説明できる。　(A-3)

3.3.流通･マーケティングの知識を用いて、現代の企業、産業、地域が直面する課題を客観的に把握できる。　(B-1)

4.4.流通･マーケティングの知識を用いて、企業、産業、地域が直面する課題解決へ向けての提案を立案できる。　(B-2)

5.5.流通･マーケティングの知識を用いて、現代社会や企業の課題に貢献する姿勢をもつようになる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.1.流通･マーケティングの知識を用いて、現代の経済状況を評価し、企業、産業、地域がおかれている状況を説明できる。　(C-1)

2.2.の経済社会における課題を発見し、流通･マーケティングの観点からその発展の方向性を論理的に説明できる。　(A-3)

3.3.流通･マーケティングの知識を用いて、現代の企業、産業、地域が直面する課題を客観的に把握できる。　(B-1)

4.4.流通･マーケティングの知識を用いて、企業、産業、地域が直面する課題解決へ向けての提案を立案できる。　(B-2)

5.5.流通･マーケティングの知識を用いて、現代社会や企業の課題に貢献する姿勢をもつようになる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-02

笹川　洋平

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.1.流通･マーケティングの知識を用いて、現代の経済状況を評価し、企業、産業、地域がおかれている状況を説明できる。　(C-1)

2.2.の経済社会における課題を発見し、流通･マーケティングの観点からその発展の方向性を論理的に説明できる。　(A-3)

3.3.流通･マーケティングの知識を用いて、現代の企業、産業、地域が直面する課題を客観的に把握できる。　(B-1)

4.4.流通･マーケティングの知識を用いて、企業、産業、地域が直面する課題解決へ向けての提案を立案できる。　(B-2)

5.5.流通･マーケティングの知識を用いて、現代社会や企業の課題に貢献する姿勢をもつようになる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.1.流通･マーケティングの知識を用いて、現代の経済状況を評価し、企業、産業、地域がおかれている状況を説明できる。　(C-1)

2.2.の経済社会における課題を発見し、流通･マーケティングの観点からその発展の方向性を論理的に説明できる。　(A-3)

3.3.流通･マーケティングの知識を用いて、現代の企業、産業、地域が直面する課題を客観的に把握できる。　(B-1)

4.4.流通･マーケティングの知識を用いて、企業、産業、地域が直面する課題解決へ向けての提案を立案できる。　(B-2)

5.5.流通･マーケティングの知識を用いて、現代社会や企業の課題に貢献する姿勢をもつようになる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-03

田村　馨

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

卒業論文の執筆に取り組んでいただきます。卒論はテーマの決定、仮説の構築、仮説を実証する文献、データの収集、文献、データによる仮説検証の順に段階的に進行します。各段階では他のメンバー、教員との議論が欠かせません。つまり、卒論はひとりで勝手に書くものではありません。卒論執筆はゴールですが、そこに至るもろもろの活動プロセスが大切であり、このプロセスから学ぶことが卒論ゼミの目標です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学で学ぶべき幅広い知識をベースに論文の構成が組める。(知識・理解)

企業や産業と環境との関係から仮説を抽出することができる。(知識・理解)

抽出した仮説と企業や産業が取り組むべき課題との間の整合的な関係を論文の中で説明することができる。(知識・理解)

過去の分析だけではなく、未来志向的な観点から論文を組み立てることができる。(技能)

論文から導かれる実践的なインプリケーションを説明することができる。(技能)

企業や産業の課題を事例研究や観察、ヒアリング調査を通して発見できる。(技能)

複数のメンバーで回すプロジェクトを企画し実践することができる。(技能)

プロジェクトの中で、企画から運営まで担えるリーダーシップを発揮できる。(技能)

課題解決に必要な情報をネットから探し出し課題解決に必要な知見を論文として表現することができる。(技能)

地域や社会の発展につながる観点から卒業後の進路選択を考えるようになる。(態度・志向性)

自ら学び続ける環境を求めて卒業後の進路選択を考えるようになる。(態度・志向性)

他者との連携、協力の場を求めて卒業後の進路選択を考えるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講義中に紹介する参考文献に目を通すこと、必要な統計データ、調査データを収集し分析することを前提に講義は進めます。
基本、論文執筆に必要な学習をステージに合わせて9時間をめどに行います。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　卒業論文の内容を評価基準とします。割合は１００％。設定されたテーマ、取り上げた仮説的な課題、課題を解明するロジック、ロジックを裏付ける構成と資料を対象に評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし

◎－－－　参考書　－－－◎

テーマに応じて参考書は紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

卒論執筆に至る段階とプロセスを踏まえることが求められます。ひとりで勝手に書き上げるものではないことに留意してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１～５．構想
６～１０．資料収集・調査設計
１１～１４．調査実施
１５～３０．執筆

論文ゼミナール

2019-4010000303-03

田村　馨

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学で学ぶべき幅広い知識をベースに論文の構成が組める。　(A-2)

2.企業や産業と環境との関係から仮説を抽出することができる。　(A-2)

3.抽出した仮説と企業や産業が取り組むべき課題との間の整合的な関係を論文の中で説明することができる。　(A-3)

4.過去の分析だけではなく、未来志向的な観点から論文を組み立てることができる。　(B-1)

5.論文から導かれる実践的なインプリケーションを説明することができる。(B-2)

6.企業や産業の課題を事例研究や観察、ヒアリング調査を通して発見できる。(B-1)

7.複数のメンバーで回すプロジェクトを企画し実践することができる。　(B-2)

8.プロジェクトの中で、企画から運営まで担えるリーダーシップを発揮できる。　(B-2)

9.課題解決に必要な情報をネットから探し出し課題解決に必要な知見を論文として表現することができる。　(B-2)

10.地域や社会の発展につながる観点から卒業後の進路選択を考えるようになる。　(C-1)

11.自ら学び続ける環境を求めて卒業後の進路選択を考えるようになる。(C-1)

12.他者との連携、協力の場を求めて卒業後の進路選択を考えるようになる。(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学で学ぶべき幅広い知識をベースに論文の構成が組める。　(A-2)

2.企業や産業と環境との関係から仮説を抽出することができる。　(A-2)

3.抽出した仮説と企業や産業が取り組むべき課題との間の整合的な関係を論文の中で説明することができる。　(A-3)

4.過去の分析だけではなく、未来志向的な観点から論文を組み立てることができる。　(B-1)

5.論文から導かれる実践的なインプリケーションを説明することができる。(B-2)

6.企業や産業の課題を事例研究や観察、ヒアリング調査を通して発見できる。(B-1)

7.複数のメンバーで回すプロジェクトを企画し実践することができる。　(B-2)

8.プロジェクトの中で、企画から運営まで担えるリーダーシップを発揮できる。　(B-2)

9.課題解決に必要な情報をネットから探し出し課題解決に必要な知見を論文として表現することができる。　(B-2)

10.地域や社会の発展につながる観点から卒業後の進路選択を考えるようになる。　(C-1)

11.自ら学び続ける環境を求めて卒業後の進路選択を考えるようになる。(C-1)

12.他者との連携、協力の場を求めて卒業後の進路選択を考えるようになる。(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-03

田村　馨

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学で学ぶべき幅広い知識をベースに論文の構成が組める。　(A-2)

2.企業や産業と環境との関係から仮説を抽出することができる。　(A-2)

3.抽出した仮説と企業や産業が取り組むべき課題との間の整合的な関係を論文の中で説明することができる。　(A-3)

4.過去の分析だけではなく、未来志向的な観点から論文を組み立てることができる。　(B-1)

5.論文から導かれる実践的なインプリケーションを説明することができる。(B-2)

6.企業や産業の課題を事例研究や観察、ヒアリング調査を通して発見できる。(B-1)

7.複数のメンバーで回すプロジェクトを企画し実践することができる。　(B-2)

8.プロジェクトの中で、企画から運営まで担えるリーダーシップを発揮できる。　(B-2)

9.課題解決に必要な情報をネットから探し出し課題解決に必要な知見を論文として表現することができる。　(B-2)

10.地域や社会の発展につながる観点から卒業後の進路選択を考えるようになる。　(C-1)

11.自ら学び続ける環境を求めて卒業後の進路選択を考えるようになる。(C-1)

12.他者との連携、協力の場を求めて卒業後の進路選択を考えるようになる。(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学で学ぶべき幅広い知識をベースに論文の構成が組める。　(A-2)

2.企業や産業と環境との関係から仮説を抽出することができる。　(A-2)

3.抽出した仮説と企業や産業が取り組むべき課題との間の整合的な関係を論文の中で説明することができる。　(A-3)

4.過去の分析だけではなく、未来志向的な観点から論文を組み立てることができる。　(B-1)

5.論文から導かれる実践的なインプリケーションを説明することができる。(B-2)

6.企業や産業の課題を事例研究や観察、ヒアリング調査を通して発見できる。(B-1)

7.複数のメンバーで回すプロジェクトを企画し実践することができる。　(B-2)

8.プロジェクトの中で、企画から運営まで担えるリーダーシップを発揮できる。　(B-2)

9.課題解決に必要な情報をネットから探し出し課題解決に必要な知見を論文として表現することができる。　(B-2)

10.地域や社会の発展につながる観点から卒業後の進路選択を考えるようになる。　(C-1)

11.自ら学び続ける環境を求めて卒業後の進路選択を考えるようになる。(C-1)

12.他者との連携、協力の場を求めて卒業後の進路選択を考えるようになる。(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-04

陶　怡敏

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミは、「交通経済・物流経営」をタイトルに掲げています。われわれは毎日、通勤・通学のためにさまざまな交通手段を利用しています。ショッピングに出かけたり、海外旅行をしたり、スポーツを楽しむために出かけたりすることも多いが、そのつど何らかの形で自動車・鉄道・航空機・船・バイク・自転車などの交通手段を利用しています。そして、たとえわれわれが一日中家にいたとしても、インターネットで情報を収集したり、電話で会話したり、宅配便などによって商品が世界各地から運ばれてきます。
研究に必要な分析方法を学ぶための導入として、まず2年次に卒論のテーマ選定のための作業として、交通経済・物流経営に関する基礎文献の講読などを通じて、専門用語・基礎概念を理解し、交通論に特有の基本的なものの見方・考え方を習得してもらいます。そして、4年次に２・３年次で習得した理論と実証手法をもとにして、各自卒論テーマを設定して本格的な研究報告を行い、全員がこれについて討論を行うことが義務づけられています。卒論は研究報告に基づいて作成され、卒論発表会で最終結果が披露されることになります。
もう1つ、ゼミ生に「自主性」を持ってもらうことも本ゼミの目的です。自ら疑問を投げかけ、何が問題なのか、なぜ問題なのか、どのような問題なのか、解決方法はあるのかを徹底して考え抜き、独自のものの考え方ができることをめざしています。というのは、企業はあらゆる階層の責任者に問題解決能力・コミュニケーション能力を強く求めているからです。

◎－－－　到達目標　－－－◎

交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。(態度・志向性)

交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。(知識・理解)

企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。(技能)

自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。(知識・理解)

他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本ゼミの慣例に従って、予習と復習を確実に行ってもらうために毎回の授業に関連する提出課題(所要時間：約2時間)の提出をお願いします。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
交通経済や物流経営の基本概念を正確に理解し、かつ独自の考察があるかを評価基準とする。
②評価方法及び③割合
卒業論文(60%)、研究報告の内容(20%)、討論に対する参加態度(10%)、ゼミナール行事に対する参加態度等(10%)の評価項目における評点を総合して成績を判定する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

田邉勝巳『交通経済のエッセンス』 有斐閣。ISBN-13: 978-4641150492。

◎－－－　参考書　－－－◎

村上英樹・加藤一誠・高橋　望・榊原胖夫編著『航空の経済学』ミネルヴァ書房。ISBN-13: 978-4623045587。
藤井弥太郎・中条潮編『現代交通政策』東京大学出版会。ISBN-13: 978-4130720076。
竹内健蔵『交通経済学入門』有斐閣。ISBN-13: 978-4641183681。
小淵洋一『現代の交通経済学』中央経済社。ISBN-13: 978-4502640957。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎時間の講義内容は、連続性をもっているので、欠席したり遅刻したりしないことが理解のためには重要である。教科書は必ず持参して、授業を受けること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
１　卒論仮テーマの発表①
２　卒論仮テーマの発表②
３　グループディスカッション①
４　グループディスカッション②
５　グループディスカッション③
６　グループディスカッション④
７　ディベート①
８　ディベート②
９　ディベート③
１０　ディベート④
１１　卒論中間発表①
１２　卒論中間発表②
１３　卒論中間発表③
１４　卒論中間発表④
１５　総括
後期
１　卒論に関する発表と討論①
２　卒論に関する発表と討論②
３　卒論に関する発表と討論③
４　卒論に関する発表と討論④
５　卒論に関する発表と討論⑤
６　卒論に関する発表と討論⑥
７　卒論に関する発表と討論⑦
８　卒論に関する発表と討論⑧
９　卒論に関する発表と討論⑨
１０　卒論に関する発表と討論⑩
１１　卒論に関する発表と討論⑪
１２　卒論に関する発表と討論⑫
１３　卒論最終報告会①
１４　卒論最終報告会②
１５　総括

論文ゼミナール

2019-4010000303-04

陶　怡敏

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。　(A-2)

3.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。　(B-2)

4.自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。　(A-2)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(A-3)

6.他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。(B-1)

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。　(A-2)

3.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。　(B-2)

4.自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。　(A-2)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(A-3)

6.他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。(B-1)

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-04

陶　怡敏

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。　(A-2)

3.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。　(B-2)

4.自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。　(A-2)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(A-3)

6.他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。(B-1)

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.交通経済と物流経営の専門用語や考え方を身につけ、経済社会において大きな役割を果たす交通と物流に対する関心を深めることができる。　(C-1)

2.交通経済と物流経営に関する新聞記事・研究学術論文・他人の意見を適切に理解し、自分の興味ある研究課題に沿った研究論文を検索できる。　(A-2)

3.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、交通経済と物流経営に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用した交通政策・物流戦略を提案することができる。　(B-2)

4.自分の研究結果及び意見を正確・簡潔にまとめ、効果的に発表し、他者の質問に論理的に答えることができる。　(A-2)

5.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例・データを収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。　(A-3)

6.他者の様々な研究発表を聞き、討論を行うためのコミュニケーション能力を身につけ、他者の発表内容に対して批判的な思考をもってコメントできる。(B-1)

7.社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、交通経済や物流経営のあり方や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-05

永田　裕司

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

４年次の前半では、ゼミ生各自が卒業論文のテーマを設定するためのガイダンスを行ったうえで、そのテーマに関する資料の検索・収集方法および論文の書き方について指導する。具体的なテーマとしては、次のような論点が主要な課題となる。
○銀行型システム（日本）と資本市場型システム（英米）の比較分析
○金融システムの変革を促す規制緩和、情報化、グローバル化の進展
○バブル崩壊後の不良債権の累積と金融機関の経営問題
○金融機関の業務多様化と業態の壁を超えた再編・統合の進展
○金融リスクの多様化と新たな金融規制の枠組みの形成
○預金者保護・投資家保護のための金融サービス法の制定
後半では、論文執筆についての具体的な指導を行うとともに、各自がゼミで自分のテーマについてプレゼンテーションを行い、ゼミ生全員でグループ・ディスカッションを行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

金融についての専門的な概念や知識を身につける。(知識・理解)

地域経済の再生に貢献できる銀行の役割について考察できる。(知識・理解)

社会人として必要な実践的な金融リテラシーを習得できる。(技能)

地域銀行が直面する課題について理解する。(技能)

地域に必要な銀行の役割と使命について考察する。(態度・志向性)

企業と地域社会に対する銀行の貢献について考える。

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

卒業論文を作成するための文献資料を収集し、論点を明確にするとともに、報告のための準備をしておくこと。特に４年生前半は就職活動が忙しくなるので、早めにテーマを設定しておくことが重要である。報告のための準備には２時間程度を必要とする。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

卒業論文(70%)、研究報告の内容(10%)、討論に対する参加態度(10%)、ゼミナール活動や行事に対する参加態度(10%)などを総合して成績を判定する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

藤井眞理子『金融革新と市場危機』日本経済新聞社ISBN 9784532353629

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

通常のゼミナールはもちろん各種の活動や行事にも積極的に参加すること。出席は最低限の義務であり、ゼミ運営上支障を来すため、無断欠席は原則として許されない。

◎－－－　授業計画　－－－◎

【前期】
１　グローバル金融危機（１）
２　グローバル金融危機（２）
３　金融危機の原因
４　金融危機のコスト
５　デリバティブ
６　証券化
７　金融イノベーションの意義
８　リスク管理の失敗
９　日本の不良債権問題（１）
１０　日本の不良債権問題（２）
１１　資産価格バブル（１）
１２　資産価格バブル（２）
１３　金融危機への対応
１４　金融規制と監督（１）
１５　金融規制と監督（２）

【後期】
１　卒論執筆のためのスケジュール設定
２　資料の検索・収集についての指導（１）
３　資料の検索・収集についての指導（２）
４　設定テーマの検討
５　グループ・ディスカッション
６　卒論の書き方（１）
７　卒論の書き方（２）
８　卒論概要の発表（１）
９　卒論概要の発表（２）
１０　卒論概要の発表（３）
１１　卒論概要の発表（４）
１２　卒論内容の添削（１）
１３　卒論内容の添削（２）
１４　卒論内容の添削（３）
１５　卒論についての講評

論文ゼミナール

2019-4010000303-05

永田　裕司

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.金融についての専門的な概念や知識を身につける。　(A-2)

2.地域経済の再生に貢献できる銀行の役割について考察できる。　(A-3)

3.社会人として必要な実践的な金融リテラシーを習得できる。　(B-1)

4.地域銀行が直面する課題について理解する。　(B-2)

5.地域に必要な銀行の役割と使命について考察する。　(C-1)

6.企業と地域社会に対する銀行の貢献について考える。

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.金融についての専門的な概念や知識を身につける。　(A-2)

2.地域経済の再生に貢献できる銀行の役割について考察できる。　(A-3)

3.社会人として必要な実践的な金融リテラシーを習得できる。　(B-1)

4.地域銀行が直面する課題について理解する。　(B-2)

5.地域に必要な銀行の役割と使命について考察する。　(C-1)

6.企業と地域社会に対する銀行の貢献について考える。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-05

永田　裕司

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.金融についての専門的な概念や知識を身につける。　(A-2)

2.地域経済の再生に貢献できる銀行の役割について考察できる。　(B-1)

3.社会人として必要な実践的な金融リテラシーを習得できる。　(B-1)

4.地域銀行が直面する課題について理解する。　(B-2)

5.地域に必要な銀行の役割と使命について考察する。　(C-1)

6.企業と地域社会に対する銀行の貢献について考える。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.金融についての専門的な概念や知識を身につける。　(A-2)

2.地域経済の再生に貢献できる銀行の役割について考察できる。　(A-3)

3.社会人として必要な実践的な金融リテラシーを習得できる。　(B-1)

4.地域銀行が直面する課題について理解する。　(B-2)

5.地域に必要な銀行の役割と使命について考察する。　(C-1)

6.企業と地域社会に対する銀行の貢献について考える。

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-06

弘津　真澄

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

各個人のテーマに従って論文を作成しながら、途中経過を発表してもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

卒業論文として取り組む課題を発見し、作業を開始できる。(技能)

卒業論文として取り組む課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用し、卒業論文の骨子を企画、立案することができる。(技能)

5000字単位の区切りで卒業論文の発表を行い、その発表に対する質問に答え、20000字の卒業論文を完成していく中で、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。(知識・理解)

商学的な見地から貢献しうる結論を導き出そうとする姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

発表の準備は事前にやっておくこと(90分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

卒業論文として取り組む課題を発見し、作業を開始できたかを評価の基準とする。
卒業論文として取り組む課題が何であるかについて説明することができたかを評価の基準とする。
商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用し、卒業論文の骨子を企画、立案することができたかを評価の基準とする。
5000字単位の区切りで卒業論文の発表を行い、その発表に対する質問に答え、20000字の卒業論文を完成していく中で、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができたかを評価の基準とする。
商学的な見地から貢献しうる結論を導き出そうとする姿勢をもっていたかを評価の基準とする。

［平常点］×0.3
+［研究報告・論文の内容］×0.6
+［平素の活動状況］×0.1

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストなし

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 論文作成に当たっての注意
2 発表準備
3 発表1回目 5000字-1
4 発表1回目 5000字-2
5 発表1回目 5000字-3
6 発表1回目 5000字-4
7 発表1回目 5000字-5
8 発表1回目 5000字-6
9 初回発表後の注意
10 発表2回目 10000字-1
11 発表2回目 10000字-2
12 発表2回目 10000字-3
13 発表2回目 10000字-4
14 発表2回目 10000字-5
15 発表2回目 10000字-6
16 発表3回目 15000字-1
17 発表3回目 15000字-2
18 発表3回目 15000字-3
19 発表3回目 15000字-4
20 発表3回目 15000字-5
21 発表3回目 15000字-6
22 最終的な注意
23 発表4回目 20000字-1
24 発表4回目 20000字-2
25 発表4回目 20000字-3
26 発表4回目 20000字-4
27 発表4回目 20000字-5
28 発表4回目 20000字-6
29 最終発表-1
30 最終発表-2

論文ゼミナール

2019-4010000303-06

弘津　真澄

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　卒業論文として取り組む課題を発見し、作業を開始できる。　(B-1)

2.　卒業論文として取り組む課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用し、卒業論文の骨子を企画、立案することができる。　(B-2)

4.　5000字単位の区切りで卒業論文の発表を行い、その発表に対する質問に答え、20000字の卒業論文を完成していく中で、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

5.　商学的な見地から貢献しうる結論を導き出そうとする姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　卒業論文として取り組む課題を発見し、作業を開始できる。　(B-1)

2.　卒業論文として取り組む課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用し、卒業論文の骨子を企画、立案することができる。　(B-2)

4.　5000字単位の区切りで卒業論文の発表を行い、その発表に対する質問に答え、20000字の卒業論文を完成していく中で、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

5.　商学的な見地から貢献しうる結論を導き出そうとする姿勢をもっている。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-06

弘津　真澄

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　卒業論文として取り組む課題を発見し、作業を開始できる。　(B-1)

2.　卒業論文として取り組む課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用し、卒業論文の骨子を企画、立案することができる。　(B-2)

4.　5000字単位の区切りで卒業論文の発表を行い、その発表に対する質問に答え、20000字の卒業論文を完成していく中で、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

5.　商学的な見地から貢献しうる結論を導き出そうとする姿勢をもっている。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　卒業論文として取り組む課題を発見し、作業を開始できる。　(B-1)

2.　卒業論文として取り組む課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用し、卒業論文の骨子を企画、立案することができる。　(B-2)

4.　5000字単位の区切りで卒業論文の発表を行い、その発表に対する質問に答え、20000字の卒業論文を完成していく中で、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

5.　商学的な見地から貢献しうる結論を導き出そうとする姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-07

太宰　潮

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

２年次・３年次に培った資料収集スキル、分析スキル、論理的思考力等を活かして、卒業論文を作成することが主な内容となります。

基本的には各自がひとつの卒業論文に取り組みますが、ゼミとして活動をする以上、協力をし合い、議論を重ねながら作成をすることが前提となります。個人だけが作成をすればよいというものではありませんし、執筆したものは太宰以外のゼミ生間で共有をします。

引用や参照は大いに結構ですが、自分の言葉が極端に少ないもの、感想レベルで思考をしていない文章は論文として当然認めません。

卒業論文執筆を通して、社会の問題や課題解決、機会発見や仮説検証などを行えるようになれることを目指します。それはつまり、企業活動や社会人の思考そのものを行うということです。

調査を行う予定の者は、序盤に調べたいことの概要を決め、早期に調査を実行できるようにスケジュールを立て、それを実行します。また、ゼミは４年生のものだけではありません。先輩・後輩との交流の機会も設けますが、そうしたイベントに参加をすることも前提となります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文献レビューを通じて理論枠組みを多く調べ、それを援用して現実を解説できるようになる。(知識・理解)

商学、マーケティングなどの知識から、企業や社会の課題、もしくはマーケティング課題をみつけ、取り組むことができる。(知識・理解)

調べたいリサーチクエスチョンに合わせ、現状分析や文献のレビューが非常に詳しいレベルで、かつ論理整合性をもって行えるようになる。(技能)

自ら設定したテーマや課題について、その課題や解決方法もしくは実証方法を、具体的に、また本質的に突き詰められるようになる。(技能)

自らリサーチクエスチョンを設定し、その中で仮説を設定し、実証を行って疑問や課題を解決していく楽しさや重要性を身に付ける。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

自ら進んで論の構成を考慮したり、資料収集や取材活動を行ったり、分析などを行うこと自体が予習です。また復習は執筆活動そのものとなります。
太宰からコメントを入れる形で各自の論文をチェックします。コメントを読み、それに従って修正を重ねていきます。

論文執筆や修正箇所の訂正などにかける時間は、各回少なくとも１時間以上であるが、締切前や、進捗が芳しくない場合はその限りではない。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

卒業論文の内容：５割
　（文書だけではなく、発表内容、提出までのスケジュール進行等、論文作成に関わる側面を考慮します）
ゼミ活動への貢献：５割
　（他者への協力度合い、ディスカッション時の発言、後輩との交流等）

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　就職活動が重なることで出席が難しくなることも多々ありますが、ゼミである以上、出席が大前提であることはこれまで通り変わりません。
　可能な限り調整して出席をすること、また欠席時の連絡を怠らないようにしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1～2．テーマ決定
3～8．資料収集・執筆の仕方学習
9～10．現状分析の発表
11～13．仮説・研究枠組みの構築
14～15．中間発表
16～20．執筆活動＜前半＞
21～22．中間発表
23～27．執筆活動＜後半＞
28～29．最終発表
30．ゼミ活動のまとめ

論文ゼミナール

2019-4010000303-07

太宰　潮

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.文献レビューを通じて理論枠組みを多く調べ、それを援用して現実を解説できるようになる。　(A-2)

2.商学、マーケティングなどの知識から、企業や社会の課題、もしくはマーケティング課題をみつけ、取り組むことができる。　(A-3)

3.調べたいリサーチクエスチョンに合わせ、現状分析や文献のレビューが非常に詳しいレベルで、かつ論理整合性をもって行えるようになる。　(B-1)

4.自ら設定したテーマや課題について、その課題や解決方法もしくは実証方法を、具体的に、また本質的に突き詰められるようになる。　(B-2)

5.自らリサーチクエスチョンを設定し、その中で仮説を設定し、実証を行って疑問や課題を解決していく楽しさや重要性を身に付ける。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.文献レビューを通じて理論枠組みを多く調べ、それを援用して現実を解説できるようになる。　(A-2)

2.商学、マーケティングなどの知識から、企業や社会の課題、もしくはマーケティング課題をみつけ、取り組むことができる。　(A-3)

3.調べたいリサーチクエスチョンに合わせ、現状分析や文献のレビューが非常に詳しいレベルで、かつ論理整合性をもって行えるようになる。　(B-1)

4.自ら設定したテーマや課題について、その課題や解決方法もしくは実証方法を、具体的に、また本質的に突き詰められるようになる。　(B-2)

5.自らリサーチクエスチョンを設定し、その中で仮説を設定し、実証を行って疑問や課題を解決していく楽しさや重要性を身に付ける。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-07

太宰　潮

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.文献レビューを通じて理論枠組みを多く調べ、それを援用して現実を解説できるようになる。　(A-2)

2.商学、マーケティングなどの知識から、企業や社会の課題、もしくはマーケティング課題をみつけ、取り組むことができる。　(A-3)

3.調べたいリサーチクエスチョンに合わせ、現状分析や文献のレビューが非常に詳しいレベルで、かつ論理整合性をもって行えるようになる。　(B-1)

4.自ら設定したテーマや課題について、その課題や解決方法もしくは実証方法を、具体的に、また本質的に突き詰められるようになる。　(B-2)

5.自らリサーチクエスチョンを設定し、その中で仮説を設定し、実証を行って疑問や課題を解決していく楽しさや重要性を身に付ける。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.文献レビューを通じて理論枠組みを多く調べ、それを援用して現実を解説できるようになる。　(A-2)

2.商学、マーケティングなどの知識から、企業や社会の課題、もしくはマーケティング課題をみつけ、取り組むことができる。　(A-3)

3.調べたいリサーチクエスチョンに合わせ、現状分析や文献のレビューが非常に詳しいレベルで、かつ論理整合性をもって行えるようになる。　(B-1)

4.自ら設定したテーマや課題について、その課題や解決方法もしくは実証方法を、具体的に、また本質的に突き詰められるようになる。　(B-2)

5.自らリサーチクエスチョンを設定し、その中で仮説を設定し、実証を行って疑問や課題を解決していく楽しさや重要性を身に付ける。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-08

村上　剛人

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

論文ゼミナールでは、２年および３年で学習したチーム学習のやり方、そして論文作成のプロセスの体験を生かして、卒業論文作成にかかわるテーマ設定、その結論、そして論理の流れの検討およびその論理の裏付けのための資料の提示というプロセスを１年かけて実施していきます。
もちろん就職活動が同時に行われています。これまで学習してきたファシリテーションの方法をさらにブラッシュアップするとともに、ディスカッションやプレゼンテーション能力のアップも卒業論文作成のためのチーム学習のなかでおこなってもらいます。
講義の進め方は、前期で３回ほど卒業論文のテーマについてのプレゼンとメンバーによる議論を行います。１回ごと、３名の学生のテーマについてのプレゼンテーションを行ってもらい、他のメンバーは関心のあるテーマの学生のところのチームに参加し、そのテーマについてブラッシュアップしていきます。この過程を前期で２回ほど実施します。その過程で、そのテーマの研究に必要な資料探しなども同時に指導し、前期においては卒業論文の骨子が確定できるようにします。
後期にはいると、論文の目次構成を確定するための作業を実施するとともに、論文作成のためのキーワードマップを完成させ、そのマップに基づいて論文作成を実施してもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

メンバーの協力を確保しながら、卒論のテーマの内容を広げたり、深掘りできたりできるようになる。(知識・理解)

卒論のテーマ設定から時代のニーズを読み取り、そのテーマを議論することで本来の課題はどこにあるのか、それをどのように解決していけるのか論理的に思考できるようになる。(技能)

ファシリテーションスキルを身につけることができるようになる。(態度・志向性)

卒業論文の作成を通して、多面的に問題を考察できるように、幅広い知識を身につけ、それを継続的に行っていくことが大切であると認識できるようになる。(知識・理解)

卒論のテーマに関連する様々な情報を収集し、課題設定に対してできるだけ最適な結論を導き出せるようになる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

自分のテーマの内容について、絶えず、資料探しを行うとともに、その資料の読み込みを行い、自分のテーマのキーワードマップの完成度を高めるように自宅学習において取り組んでもらいます。その進捗については、チェックシートにもとづいて確認しながら、行っていきます。（毎週120分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

(1)どの程度積極的にゼミ活動に参加したのか、特に論文ゼミナールでは、他の学生の卒論にかかわる発表時にどれくらいコメントをしているのかを重視します。
(2)卒業論文作成に指示した通りの、発表の準備、発表内容、その後の内容検討及び発表のプロセスが十分に行われているかを評価します。評価は卒業論文の内容が４割、卒業論文の発表準備・発表ならびにほかの学生の発表時の積極度を6割として評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

各自の学生の卒業論文の内容によって、読んでもらう資料が変わります。その都度、指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

就職活動のなかでの卒業論文作成です。ゼミナールの時間はできるだけ、出席するように、就職活動との調整をお願いします。

◎－－－　授業計画　－－－◎

卒業論文の作成を中心に指導します。前期中に卒論のテーマおよびその骨子を明確にしながら、そのテーマないし骨子を展開するにあたって必要な資料の収集と理解を行ってもらいます。前期中に２回はテーマについて報告してもらいます。後期に入って、最終の目次構成を確定し、実際に執筆作業に入ってもらいます。
【前期】
1 イントロダクション
2～6　第1回テーマについてのワークショップ（1回あたり、3名の問題提起者がメンバーを募集して、3つのグループになり、参加したメンバーの学生が質問を行い、何を問題にすべきなのか、考えるワークを行います。）
7~11 第2回のテーマについてのワークショップ（1回目でのワークショップで検討すべき点を練り直し、再度問題提起してもらい、ブラッシュアップを図ります。もちろん、基本資料を収集することはやった上で実施します）
12~15 これまで検討した点について各回3名づつがプレゼンテーションを行い、どういった課題があるのか意見を出してもらいます。（文献一覧と論文のテーマのキーワードマップを作成したうえでのプレゼンテーションです）

【夏休み中】資料の確認と基本文献を読み込むことを課題とします。

【後期】
1 イントロダクション
2~6　各自の論文の内容について、キーワードマップをブラッシュアップした結果について報告してもらいます。各回3名づつ行い、他の人から意見をもらいます。
7~8　意見をもらった後のキーワードマップの修正とその確認を行います。
9~10 最終目次についての確認を行い、執筆指導をします。
11~14 執筆指導をします。
15 各自の論文についてのプレゼンテーションを行い、振り返りを行います。

論文ゼミナール

2019-4010000303-08

村上　剛人

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.メンバーの協力を確保しながら、卒論のテーマの内容を広げたり、深掘りできたりできるようになる。　(A-2)

2.卒論のテーマ設定から時代のニーズを読み取り、そのテーマを議論することで本来の課題はどこにあるのか、それをどのように解決していけるのか論理的に思考できるようになる。　(B-1)

3.ファシリテーションスキルを身につけることができるようになる。　(C-1)

4.卒業論文の作成を通して、多面的に問題を考察できるように、幅広い知識を身につけ、それを継続的に行っていくことが大切であると認識できるようになる。　(A-3)

5.卒論のテーマに関連する様々な情報を収集し、課題設定に対してできるだけ最適な結論を導き出せるようになる。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.メンバーの協力を確保しながら、卒論のテーマの内容を広げたり、深掘りできたりできるようになる。　(A-2)

2.卒論のテーマ設定から時代のニーズを読み取り、そのテーマを議論することで本来の課題はどこにあるのか、それをどのように解決していけるのか論理的に思考できるようになる。　(B-1)

3.ファシリテーションスキルを身につけることができるようになる。　(C-1)

4.卒業論文の作成を通して、多面的に問題を考察できるように、幅広い知識を身につけ、それを継続的に行っていくことが大切であると認識できるようになる。　(A-3)

5.卒論のテーマに関連する様々な情報を収集し、課題設定に対してできるだけ最適な結論を導き出せるようになる。　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-08

村上　剛人

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.メンバーの協力を確保しながら、卒論のテーマの内容を広げたり、深掘りできたりできるようになる。　(A-2)

2.卒論のテーマ設定から時代のニーズを読み取り、そのテーマを議論することで本来の課題はどこにあるのか、それをどのように解決していけるのか論理的に思考できるようになる。　(B-1)

3.ファシリテーションスキルを身につけることができるようになる。　(C-1)

4.卒業論文の作成を通して、多面的に問題を考察できるように、幅広い知識を身につけ、それを継続的に行っていくことが大切であると認識できるようになる。　(A-3)

5.卒論のテーマに関連する様々な情報を収集し、課題設定に対してできるだけ最適な結論を導き出せるようになる。　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.メンバーの協力を確保しながら、卒論のテーマの内容を広げたり、深掘りできたりできるようになる。　(A-2)

2.卒論のテーマ設定から時代のニーズを読み取り、そのテーマを議論することで本来の課題はどこにあるのか、それをどのように解決していけるのか論理的に思考できるようになる。　(B-1)

3.ファシリテーションスキルを身につけることができるようになる。　(C-1)

4.卒業論文の作成を通して、多面的に問題を考察できるように、幅広い知識を身につけ、それを継続的に行っていくことが大切であると認識できるようになる。　(A-3)

5.卒論のテーマに関連する様々な情報を収集し、課題設定に対してできるだけ最適な結論を導き出せるようになる。　(B-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

伊藤　豪

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　少子高齢社会、人口減少社会を迎えたわが国において、公・私にわたり保険が果たす役割はますます重要視されている。
　しかし、公的保険（社会保険）においては、国民年金に対する不安が醸成され、制度そのもののあり方が問われているとともに、公的医療・介護保険もまた様々な問題を抱えているのが現状である。
　一方、私的保険（民間保険）においては、熾烈な販売競争が繰り広げられ、TVにて保険のCMを見ない日はないぐらい各社は競い合っているとともに、銀行においても窓口にて全保険商品が取り扱えるようになった。また、生命保険会社が保険特有の会社形態である相互会社から株式会社に組織転換する動きもある。さらに保険の証券化や保険デリバティブの発展、金融持株会社を視野に入れた他の金融機関との動き、メガ損保の誕生など、保険をめぐる環境も大きく変化している。
　そこで本ゼミでは、現代社会における公・私保険のあり方や保険制度および保険事業などが直面している諸問題などについて研究していくこととする。

◎－－－　到達目標　－－－◎

保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。(知識・理解)

保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　報告者は事前に他のゼミ生にどのようにしたら理解してもらえるかを考えながらレジュメを作成しなければならない。（120分）そして、次の研究報告に備え、さらなる研究が必要となる。（120分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　今まで学んだ保険の基礎知識を生かし、設定した研究課題に対し、保険的立場から考察し、卒業論文を書き上げることが評価基準となる。
　評価方法としては、卒業論文および報告内容8割、討論に対する姿勢、ゼミナール行事に対する参加態度等2割を目安として総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　ゼミ活動や行事（合宿、討論会、ゼミ旅行など）は基本的に全員参加が原則。
　ゼミ運営上支障を来すため、無断欠席は許されない。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.オリエンテーション
2.第1回研究報告会（1）
3.第1回研究報告会（2）
4.第1回研究報告会（3）
5.第1回研究報告会（4）
6.第1回研究報告会（5）
7.第1回研究報告会（6）
8.第1回研究報告会（7）
9.第1回研究報告会（8）
10.第2回研究報告会（1）
11.第2回研究報告会（2）
12.第2回研究報告会（3）
13.第2回研究報告会（4）
14.第2回研究報告会（5）
15.第2回研究報告会（6）
16.第2回研究報告会（7）
17.第2回研究報告会（8）
18.第3回研究報告会（1）
19.第3回研究報告会（2）
20.第3回研究報告会（3）
21.第3回研究報告会（4）
22.第3回研究報告会（5）
23.第3回研究報告会（6）
24.第3回研究報告会（7）
25.第3回研究報告会（8）
26.卒業論文報告会（1）
27.卒業論文報告会（2）
28.卒業論文報告会（3）
29.卒業論文報告会（4）
30.卒業論文報告会（5）

論文ゼミナール

2019-4010000303-10

伊藤　豪

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

2.保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

2.保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-10

伊藤　豪

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

2.保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。　(A-2)

2.保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、保険や商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-11

杉本　宏幸

期別：通年　　単位数：6　　開講年次： 4　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　論文ゼミナールでは、2-3年のゼミナールでの研究を基礎に、個々人が卒業論文でマーケティングを研究します。
　卒業論文は個人で進めます。各自が扱うべきと考える題材をマーケティングの観点から整理し、問題を設定した上で各自の解答を論文にしていただきます。 卒業論文では、事実と根拠を基礎にロジックを組み立て、それら事実や根拠が信頼に足るか否かを判断できる能力を養っていただきます。
　卒業論文を仕上げるには自分と真剣に向き合う必要があります。この仕上がりは、あなたの社会人としての職務遂行能力をそのまま示しています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティングの理論を基礎に問題意識をもって仮説を導出し、これらを第三者に説明できること。(知識・理解)

情報技術と自身の観察から文献やデータを収集・整理し、事実、他者の意見を正確に把握できること。(知識・理解)

事実、他者の意見、自分の意見を明確に分離し、適切に引用・参照して、主従関係が明らかな文章を書けること。(技能)

仮説を導出する情報、仮説を検証する情報を明確に分離し、仮説または検証結果を第三者に説明できること。(技能)

問題意識、仮説、仮説検証結果について、周囲とのディスカッションを通じてアップデートできること。(態度・志向性)

現実の企業や地域に対し、仮説と検証結果は具体的にどのような意義があり、それは実行可能か、第三者に説明できること。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　毎日新聞を読むこと（70分）、問題意識に即して現実を観察すること（20分）、データと文献を探すこと（20分）、探した文献を読んで整理すること（60分）、参考文献リストを作成すること（10分）を全員毎週していただきます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　成績評価基準は到達目標に準じ、ゼミでの課題と卒業論文（報告および提出）：65%、ゼミへの貢献（他ゼミ生へのコメント等）：35%での評価を原則とします。ゼミで指定した期日以降の卒業論文およびその他必要な提出物の提出を認めません。
　他人の報告時に指摘された事項が、自分の論文・課題で反映されていないゼミ生の提出物は、ゼミへの貢献・参加が不十分と判断し、課題を受理しません（0点）。
　無断欠席で提出していない課題は、理由を問わず0点となります。到達目標に即して真剣に受講する意思がないと教員が判断した学生は、当該授業で評価が0点となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

Philip Kotler and Kevin Lane Keller, 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編 第3版』, 丸善出版, 2014年, 4104円（税込）, ISBN 4621066137
戸田山和久, 『新版 論文の教室―レポートから卒論まで』, 日本放送出版協会, 2012年, 1296円（税込）, ISBN 4140911948
マイケル・ソロモン , 『ソロモン 消費者行動論』, 丸善出版, 2015年, 8800円（税抜）, ISBN 4621088777

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・就職活動は、欠席の理由になりません。
・理由が明らかでない欠席と遅刻、理由が明らかでも担当教員が不適切と判断する欠席と遅刻は、無断欠席と判断し、受講する意思がないとみなします。
・他者の学びを妨げる等、ゼミナールの進行を妨げる行為は、到達目標に即して受講する意思がないものと判断し、教室からの退出を指示します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．卒論構想の提出
２-13．途中段階の提出、卒論報告
14-21．途中段階の提出、提出者報告
22-25．卒業論文提出、提出者報告
26-29．卒業論文最終報告
30．ゼミの総括

論文ゼミナール

2019-4010000303-11

杉本　宏幸

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.マーケティングの理論を基礎に問題意識をもって仮説を導出し、これらを第三者に説明できること。　(A-2)

2.情報技術と自身の観察から文献やデータを収集・整理し、事実、他者の意見を正確に把握できること。　(A-3)

3.事実、他者の意見、自分の意見を明確に分離し、適切に引用・参照して、主従関係が明らかな文章を書けること。　(B-1)

4.仮説を導出する情報、仮説を検証する情報を明確に分離し、仮説または検証結果を第三者に説明できること。　(B-1)

5.問題意識、仮説、仮説検証結果について、周囲とのディスカッションを通じてアップデートできること。　(C-1)

6.現実の企業や地域に対し、仮説と検証結果は具体的にどのような意義があり、それは実行可能か、第三者に説明できること。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.マーケティングの理論を基礎に問題意識をもって仮説を導出し、これらを第三者に説明できること。　(A-2)

2.情報技術と自身の観察から文献やデータを収集・整理し、事実、他者の意見を正確に把握できること。　(A-3)

3.事実、他者の意見、自分の意見を明確に分離し、適切に引用・参照して、主従関係が明らかな文章を書けること。　(B-1)

4.仮説を導出する情報、仮説を検証する情報を明確に分離し、仮説または検証結果を第三者に説明できること。　(B-1)

5.問題意識、仮説、仮説検証結果について、周囲とのディスカッションを通じてアップデートできること。　(C-1)

6.現実の企業や地域に対し、仮説と検証結果は具体的にどのような意義があり、それは実行可能か、第三者に説明できること。　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-11

杉本　宏幸

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.マーケティングの理論を基礎に問題意識をもって仮説を導出し、これらを第三者に説明できること。　(A-2)

2.情報技術と自身の観察から文献やデータを収集・整理し、事実、他者の意見を正確に把握できること。　(A-3)

3.事実、他者の意見、自分の意見を明確に分離し、適切に引用・参照して、主従関係が明らかな文章を書けること。　(B-1)

4.仮説を導出する情報、仮説を検証する情報を明確に分離し、仮説または検証結果を第三者に説明できること。　(B-1)

5.問題意識、仮説、仮説検証結果について、周囲とのディスカッションを通じてアップデートできること。　(C-1)

6.現実の企業や地域に対し、仮説と検証結果は具体的にどのような意義があり、それは実行可能か、第三者に説明できること。　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.マーケティングの理論を基礎に問題意識をもって仮説を導出し、これらを第三者に説明できること。　(A-2)

2.情報技術と自身の観察から文献やデータを収集・整理し、事実、他者の意見を正確に把握できること。　(A-3)

3.事実、他者の意見、自分の意見を明確に分離し、適切に引用・参照して、主従関係が明らかな文章を書けること。　(B-1)

4.仮説を導出する情報、仮説を検証する情報を明確に分離し、仮説または検証結果を第三者に説明できること。　(B-1)

5.問題意識、仮説、仮説検証結果について、周囲とのディスカッションを通じてアップデートできること。　(C-1)

6.現実の企業や地域に対し、仮説と検証結果は具体的にどのような意義があり、それは実行可能か、第三者に説明できること。　(B-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-13

中塚　晴雄

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　金融論の卒論研究をします。各自のテーマに沿って、前期と後期の授業と春休みや夏休みの課外研修（ゼミ合宿）を利用して、中間報告をしていきます。その際に、必ず、教員のコメントと指導があります。また卒業研究の進展にしたがって企業見学などのフィールドスタディも実施します。最終的には、ゼミ生は、卒業研究を卒業論文として提出します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

金融をはじめとする商学の知識ならびに社会科学について基本的知識と構造について身に着けている。(知識・理解)

金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が置かれている経済社会状況を説明することができる。(知識・理解)

金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題が何であるかを説明することができる。(技能)

受講生の力で、先行研究を参考にしながら、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

社会の一員として、日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に金融をはじめとする商学的見地から貢献する姿勢と意欲をもっている。(態度・志向性)

社会の一員として、日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に貢献するために、自ら成長し、金融をはじめとする商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。(態度・志向性)

日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者者と協働する行動をとることができる。(態度・志向性)

日本経済、企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、金融をはじめとした商学に関する理論的・歴史的な知識を応用した卒業研究を計画して卒論論文に執筆できる。(技能)

銀行、金融市場、企業、日本全国各地あるいは地域社会が取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献等を用いて国内外の先行研究や事例を収集し、課題解決に必要な知見を卒論にとりまとめられる。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　次回の授業範囲を、授業計画に沿って当該授業のテーマについて調べ、テーマについての専門研究を深め、すなわち専門用語や制度を調べる、専門書やビジネス書を読む、わかったところとわからないところを明確にしておくこと（90分）。
　授業計画で示された中間報告では、受講生一人ひとりの卒業論文の研究テーマについての報告を中心に授業を進めるため、あらかじめテーマに即した資料（レジュメ形式）をまとめておくこと（120分）。
　授業最終回に示される受講生一人ひとりの卒業論文の研究テーマについて、本文１章（字数５千字以上）を作成すること（90分×３＝270分）。
　夏季課外授業（於：福岡大学やまなみ荘）で、受講生一人ひとりのテーマについて、前期セメスターにおける中間報告と教員と受講生の対話および教員の専門研究の詳細なコメントを踏まえて、卒業論文１章（字数５千字数以上）を作成すること（90分×３＝270分）。
後期セメスターにおいて学部の決められた卒業論文提出期限に、受講生一人ひとりの研究テーマに沿って卒業論文（字数１万８千字以上）を執筆し、提出すること。卒業論文本稿を商学部事務室に本提出するまえに必ず推敲と加筆と修正についての指導を受けるために11月中に第一稿を指導教官に提出することが望ましい（90分×15回：1350分）。※第一稿の推敲・加筆・修正の指導を経ないで指導教員の提出承認印がない場合は成績評価を行うことはできませんので注意してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

卒業論文（50%）、卒論指導と平常点（40%）、貢献度（10%）
　卒業論文では、金融をはじめとする商学の知識ならびに社会科学について基本的知識と構造について身に着けているかを基準とします。金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が置かれている経済社会状況を説明することができるかを基準とします。金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が取りしますべき課題が何であるかを説明することができるかを基準とします。受講生の力で、先行研究を参考にしながら、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題を発見できるかを基準とします。日本経済、企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、金融をはじめとした商学に関する理論的・歴史的な知識を応用した卒業研究を計画して卒論論文に執筆できるかを基準とします。銀行、金融市場、企業、日本全国各地あるいは地域社会が取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献等を用いて国内外の先行研究や事例を収集し、課題解決に必要な知見を卒論にとりまとめられるかを基準とします。卒論指導と平素の授業では受講生の適切な資料（レジュメ）に基づいた卒論中間報告（前期１回、夏季課外授業１回、後期２回：40%）の内容を基準とします。平素の授業での報告以外の平常点は、報告に対する質疑応答、授業での発言、少人数授業全体におけるリーダーシップや協調性を基準とします。貢献度は、課外授業における積極的な参加や現地でのリーダーシップや積極的関与ならびに協調性を基準とします。
　卒業論文・研究では、全国水準として大学生に最低限求められる論文の形式：①執筆力（自分の手で書く、コピ&ペーストはしない）、②調査力（参考文献を適切に調べ、適切に引用し、明確に提示する）、③読解力（参考文献をきちんと読み込んでいるか）、④チーム力（コミュニケーション力を踏まえて学習チームを実際に運用できるか）、⑤報告力（自分の手でスライドを作成する、自分の言葉で話す、聴衆に発表内容を伝えられる）の到達度を報告と論文を通じて審査します。また研究テーマに沿った研究内容が、全国水準としての大学生に最低限求められる内容、すなわち金融論の理論と学説に批判的検討がなされているか、現状分析が正しいデータで求められているか、そして自説が根拠をもって明らかにされているか、について全国的な大学生の標準度に到達しているかを報告と論文を通じて審査します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中塚晴雄『金融論－初心者にもわかるやさしい金融論－改訂版－』（税務経理協会）2011年、ISBN 4-419-04738-0

◎－－－　参考書　－－－◎

河村小百合『中央銀行は持ちこたえられるのか』（集英社新書）ISBN 4087208583
白井さゆり『超金融緩和からの脱却』（日本経済新聞出版社）ISBN 45327061
小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート論文術』（講談社新書）　ISBN 4062880210

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　卒業研究を文章で取りまとめたものが、卒業論文です。４年ゼミは卒業研究を行い、卒業論文を執筆する場です。卒業研究を進め、卒業論文を書くために、授業を行います。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　卒論ガイダンス
第2回　卒論計画報告Ⅰ
第3回　卒論計画報告Ⅱ
第4回　映像資料「米大領選挙　トランプ現象」（NHK制作）
第5回　白井さゆり『超金融緩和からの脱却』「日銀審議委員からみた景気と金融政策」
第6回　同『超金融緩和からの脱却』「金融政策をめぐる環境の大きな変化」
第7回　同『超金融緩和からの脱却』「なぜ世界の主要中央銀行は２％の物価安定目標を目指すのか」
第8回　映像資料「格差社会」（フランス制作）
第9回　第一回卒論中間報告
第10回　河村小百合『中央銀行は持ちこたえられるか』第３章「欧米諸国と日本「財政・金融政策」比較
第11回　同『中央銀行は持ちこたえられるか』第６章「財政破綻のリアル１‐欧州債務危機の経験から-」
第12回　同『中央銀行は持ちこたえられるか』第７章「財政破綻のリアル２-戦後日本の経験から-」
第13回　同『中央銀行は持ちこたえられるか』第８章「蓄積されるリスクと遠のく正常化」
第14回　第２回卒論中間報告
第15回　第３回卒論中間報告
第16回　映像資料「欲望の資本主義２０１７前編」（NHK制作）
第17回　同『中央銀行は持ちこたえられるか』第９章「なぜ掟破りの政権運営は「放置」されてきたか」
第18回　第４回卒論中間報告
第19回　第５回卒論中間報告
第20回　白井さゆり『超金融緩和からの脱却』「正常化に向かう米FRBの規制策」
第21回　同『超金融緩和からの脱却』「異次元金融緩和を継続する日本銀行」第十回
第22回　第６回卒論中間報告
第23回　第７回卒論中間報告
第24回　映像資料「欲望の資本主義２０１７後編」（NHK制作）
第25回　第８回卒論中間報告
第26回　卒論第一稿提出
第27回　卒論第一稿批評
第28回　卒論第二稿提出
第29回　卒論第二稿批評
第30回　卒論提出稿の報告

※　2019年度の経済情勢に応じて講義の内容と順番に、経済現象を対象とし、かつ卒論執筆者の研究の進度に応じて、論文ゼミ（金融論）の性質上、若干の変更がある可能性もあることは、予めご了承下さい。

論文ゼミナール

2019-4010000303-13

中塚　晴雄

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.金融をはじめとする商学の知識ならびに社会科学について基本的知識と構造について身に着けている。　(A-2)

2.金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-3)

3.金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題が何であるかを説明することができる。　(B-1)

4.受講生の力で、先行研究を参考にしながら、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に金融をはじめとする商学的見地から貢献する姿勢と意欲をもっている。　(C-1)

6.社会の一員として、日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に貢献するために、自ら成長し、金融をはじめとする商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-1)

7.日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者者と協働する行動をとることができる。　(C-1)

8.日本経済、企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、金融をはじめとした商学に関する理論的・歴史的な知識を応用した卒業研究を計画して卒論論文に執筆できる。　(B-1)

9.銀行、金融市場、企業、日本全国各地あるいは地域社会が取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献等を用いて国内外の先行研究や事例を収集し、課題解決に必要な知見を卒論にとりまとめられる。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.金融をはじめとする商学の知識ならびに社会科学について基本的知識と構造について身に着けている。　(A-2)

2.金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-3)

3.金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題が何であるかを説明することができる。　(B-1)

4.受講生の力で、先行研究を参考にしながら、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に金融をはじめとする商学的見地から貢献する姿勢と意欲をもっている。　(C-1)

6.社会の一員として、日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に貢献するために、自ら成長し、金融をはじめとする商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-1)

7.日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者者と協働する行動をとることができる。　(C-1)

8.日本経済、企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、金融をはじめとした商学に関する理論的・歴史的な知識を応用した卒業研究を計画して卒論論文に執筆できる。　(B-1)

9.銀行、金融市場、企業、日本全国各地あるいは地域社会が取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献等を用いて国内外の先行研究や事例を収集し、課題解決に必要な知見を卒論にとりまとめられる。　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-13

中塚　晴雄

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.金融をはじめとする商学の知識ならびに社会科学について基本的知識と構造について身に着けている。　(A-2)

2.金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-3)

3.金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題が何であるかを説明することができる。　(B-1)

4.受講生の力で、先行研究を参考にしながら、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に金融をはじめとする商学的見地から貢献する姿勢と意欲をもっている。　(C-1)

6.社会の一員として、日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に貢献するために、自ら成長し、金融をはじめとする商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-1)

7.日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者者と協働する行動をとることができる。　(C-1)

8.日本経済、企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、金融をはじめとした商学に関する理論的・歴史的な知識を応用した卒業研究を計画して卒論論文に執筆できる。　(B-1)

9.銀行、金融市場、企業、日本全国各地あるいは地域社会が取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献等を用いて国内外の先行研究や事例を収集し、課題解決に必要な知見を卒論にとりまとめられる。　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.金融をはじめとする商学の知識ならびに社会科学について基本的知識と構造について身に着けている。　(A-2)

2.金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が置かれている経済社会状況を説明することができる。　(A-3)

3.金融をはじめとする商学の知識を用いて、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題が何であるかを説明することができる。　(B-1)

4.受講生の力で、先行研究を参考にしながら、日本経済、銀行、金融市場、企業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に金融をはじめとする商学的見地から貢献する姿勢と意欲をもっている。　(C-1)

6.社会の一員として、日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に貢献するために、自ら成長し、金融をはじめとする商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。　(C-1)

7.日本全国各地で、あるいは地域社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者者と協働する行動をとることができる。　(C-1)

8.日本経済、企業、地域が取り組むべき課題を解決するために、金融をはじめとした商学に関する理論的・歴史的な知識を応用した卒業研究を計画して卒論論文に執筆できる。　(B-1)

9.銀行、金融市場、企業、日本全国各地あるいは地域社会が取り組むべき課題を解決するために、情報技術や文献等を用いて国内外の先行研究や事例を収集し、課題解決に必要な知見を卒論にとりまとめられる。　(B-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-14

藤田　裕邦

期別：通年　　単位数：6　　開講年次： 4　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

3年次での学習をさらに発展させて、各人が設定したテーマによる卒業論文作成に本格的に取り組む。
教室での授業においては、報告、担当教員や他のゼミ学生との意見交換・討論が中心となる。そのための準備や指摘を受けた点についての手直しなどの授業外学習も、当授業においては必須である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代の社会・経済の状況について、商業史研究の立場から説明することができる。(知識・理解)

現代の社会・経済が取り組むべき課題について、商業史研究の立場から説明することができる。(知識・理解)

専門的分野の研究・調査に必要な情報を充分に収集することができる。(技能)

専門的分野の研究・調査結果を文章で取りまとめることができる。(技能)

他の人の報告から、有益な情報や方法を学び取ることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

平素から、卒論作成のための学習（文献調査・収集、文献講読、情報の整理、卒論の下書き、など）を進めておくこと（1週間あたり300分）。
加えて、報告を担当する際には、そのための事前準備学習をしておくこと（1回あたり90分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価方法
①授業時の報告の内容（30%）
②授業時の質疑応答・討論への参加状況（30%）
③卒業論文（40%）
評価基準
評価方法①：卒業論文に関して必要な調査がなされているか、調査・考察した結果を適切に報告しているかどうかを、評価基準とする。
評価方法②：報告者の報告内容について理解しているかどうか、また、自身が抱く意見や疑問点を適切に表明しているかどうかを、評価基準とする。
評価方法③：卒業論文の構成と議論の展開が調査・考察内容に鑑みて適切であるかどうかを、評価基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
１　前期開始にあたって
２～５　3年次学年末休業中の学習成果報告（１）～（４）
６～10　卒論研究指導 ―個別論点の報告と意見交換―（１）～（５）
11～14　卒論作成前期分中間報告（１）～（４）
15　前期のまとめ　―夏季休業中の学習について―

後期
16　後期開始にあたって
17～20　卒論作成夏季休業学習中間報告（１）～（４）
21～25　卒論研究指導 ―個別論点の報告と意見交換―（続き）（６）～（10）
26～29　卒論最終報告（１）～（４）
30　まとめ

論文ゼミナール

2019-4010000303-14

藤田　裕邦

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.現代の社会・経済の状況について、商業史研究の立場から説明することができる。　(A-2)

2.現代の社会・経済が取り組むべき課題について、商業史研究の立場から説明することができる。　(A-3)

3.専門的分野の研究・調査に必要な情報を充分に収集することができる。　(B-1)

4.専門的分野の研究・調査結果を文章で取りまとめることができる。　(B-2)

5.他の人の報告から、有益な情報や方法を学び取ることができる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.現代の社会・経済の状況について、商業史研究の立場から説明することができる。　(A-2)

2.現代の社会・経済が取り組むべき課題について、商業史研究の立場から説明することができる。　(A-3)

3.専門的分野の研究・調査に必要な情報を充分に収集することができる。　(B-1)

4.専門的分野の研究・調査結果を文章で取りまとめることができる。　(B-2)

5.他の人の報告から、有益な情報や方法を学び取ることができる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-14

藤田　裕邦

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.現代の社会・経済の状況について、商業史研究の立場から説明することができる。　(A-2)

2.現代の社会・経済が取り組むべき課題について、商業史研究の立場から説明することができる。　(A-3)

3.専門的分野の研究・調査に必要な情報を充分に収集することができる。　(B-1)

4.専門的分野の研究・調査結果を文章で取りまとめることができる。　(B-2)

5.他の人の報告から、有益な情報や方法を学び取ることができる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.現代の社会・経済の状況について、商業史研究の立場から説明することができる。　(A-2)

2.現代の社会・経済が取り組むべき課題について、商業史研究の立場から説明することができる。　(A-3)

3.専門的分野の研究・調査に必要な情報を充分に収集することができる。　(B-1)

4.専門的分野の研究・調査結果を文章で取りまとめることができる。　(B-2)

5.他の人の報告から、有益な情報や方法を学び取ることができる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-15

二宮　麻里

期別：後期　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・３時限, 金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

４年論文ゼミナールでは、卒業論文のテーマ選定をして文献を解読する。

１）文献を収集し、キーコンセプトをもとに、短い文章を作成することからスタートする。それらの短い文章を総合し、章構成を大まかに決めていくこととする。文章表現についてもレクチャーをおこないながら、自ら文章を作成できる力を養成する。

２）卒業論文について、報告をおこない、研究課題について議論をおこなう。

３）議論した内容に基づき、卒業論文を書き進める。

◎－－－　到達目標　－－－◎

卒業論文のリサーチクエスチョンを設定することができる(知識・理解)

卒業論文で分析する産業や地域について概況を分析することができる(知識・理解)

リサーチクエスチョンに関連して必要なデータを収集することができる(知識・理解)

分析対象の今後の課題について説明できる(技能)

卒業論文の論理構成について説明できる(技能)

分析対象について収集したデータを分析できる(技能)

分析概念を説明できる(技能)

ゼミメンバーの卒業論文について議論できる(態度・志向性)

データベースを適切に利用して、データを収集できる(技能)

適切なテーマを選び取ることができる(技能)

フィールド調査を実施することができる(技能)

ゼミメンバーと協力してプレゼンテーションをすることができる(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回課題を自ら設定し予習をする（６０分以上）。卒論作成のスケジュールを決め、自ら定めた達成水準をクリアすることを目指して、学習する。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１）情報を十分に収集し、専門用語を正しく使って、論理的に構成された卒業論文を作成できるかどうか
２）卒業論文について口頭で報告し、その内容について議論ができるかどうか
３）その他のゼミナール活動における活動状況（出席状況、共同研究における積極性、ゼミ活動への他のメンバーへの貢献度）

以上の評価項目の評点を総合して成績評価する。
１）が40%、２）が30%、３）が30%である。

◎－－－　テキスト　－－－◎

授業時に指定する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1オリエンテーション
2卒業論文テーマ選定について
3グループ学習
4プレゼンテーションについて
5レジュメの作成
6グループ・ディスカッション
7情報収集について
8テーマ設定
9～29テーマ報告、卒業論文作成
30卒業論文報告

論文ゼミナール

2019-4010000303-15

二宮　麻里

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.卒業論文のリサーチクエスチョンを設定することができる　(A-2)

2.卒業論文で分析する産業や地域について概況を分析することができる　(A-2)

3.リサーチクエスチョンに関連して必要なデータを収集することができる　(A-3)

4.分析対象の今後の課題について説明できる　(B-1)

5.卒業論文の論理構成について説明できる　(B-1)

6.分析対象について収集したデータを分析できる　(B-1)

7.分析概念を説明できる　(B-1)

8.ゼミメンバーの卒業論文について議論できる　(C-1)

9.データベースを適切に利用して、データを収集できる　(B-1)

10.適切なテーマを選び取ることができる　(B-2)

11.フィールド調査を実施することができる　(B-2)

12.ゼミメンバーと協力してプレゼンテーションをすることができる　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.卒業論文のリサーチクエスチョンを設定することができる　(A-2)

2.卒業論文で分析する産業や地域について概況を分析することができる　(A-2)

3.リサーチクエスチョンに関連して必要なデータを収集することができる　(A-3)

4.分析対象の今後の課題について説明できる　(B-1)

5.卒業論文の論理構成について説明できる　(B-1)

6.分析対象について収集したデータを分析できる　(B-1)

7.分析概念を説明できる　(B-1)

8.ゼミメンバーの卒業論文について議論できる　(C-1)

9.データベースを適切に利用して、データを収集できる　(B-1)

10.適切なテーマを選び取ることができる　(B-2)

11.フィールド調査を実施することができる　(B-2)

12.ゼミメンバーと協力してプレゼンテーションをすることができる　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-15

二宮　麻里

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.卒業論文のリサーチクエスチョンを設定することができる　(A-2)

2.卒業論文で分析する産業や地域について概況を分析することができる　(A-2)

3.リサーチクエスチョンに関連して必要なデータを収集することができる　(A-3)

4.分析対象の今後の課題について説明できる　(B-1)

5.卒業論文の論理構成について説明できる　(B-1)

6.分析対象について収集したデータを分析できる　(B-1)

7.分析概念を説明できる　(B-1)

8.ゼミメンバーの卒業論文について議論できる　(C-1)

9.データベースを適切に利用して、データを収集できる　(B-1)

10.適切なテーマを選び取ることができる　(B-2)

11.フィールド調査を実施することができる　(B-2)

12.ゼミメンバーと協力してプレゼンテーションをすることができる　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.卒業論文のリサーチクエスチョンを設定することができる　(A-2)

2.卒業論文で分析する産業や地域について概況を分析することができる　(A-2)

3.リサーチクエスチョンに関連して必要なデータを収集することができる　(A-3)

4.分析対象の今後の課題について説明できる　(B-1)

5.卒業論文の論理構成について説明できる　(B-1)

6.分析対象について収集したデータを分析できる　(B-1)

7.分析概念を説明できる　(B-1)

8.ゼミメンバーの卒業論文について議論できる　(C-1)

9.データベースを適切に利用して、データを収集できる　(B-1)

10.適切なテーマを選び取ることができる　(B-2)

11.フィールド調査を実施することができる　(B-2)

12.ゼミメンバーと協力してプレゼンテーションをすることができる　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-16

鈴木　裕介

期別：通年　　単位数：6　　開講年次： 4　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：月・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　論文ゼミナールでは、卒業論文の執筆に向けて、個人研究を中心に進めていきます。具体的な研究活動では、文献調査、データ分析、現地調査などを必要に応じて行ってもらいます。。
　また講義時間では、研究の途中経過の報告をしてもらいます。その中で報告資料の作成方法や報告の仕方などを身に着けていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

様々な社会的事象を観察し、研究課題を探し出すことができる。(知識・理解)

様々な社会的事象を観察し、その背景や課題を説明することができる。(知識・理解)

多様な先行研究を探し出し、研究課題に関する考察に結び付けることができる。(技能)

社会における議論を整理し、受講生や社会人と議論し、解決策を見出すことができる。(技能)

わが国や地域が抱える課題を分析し、自分なりの解決策を提案することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講義内での個人研究の報告を行うため、講義時間外でも調査及びまとめる作業が必要になります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
　・適切にデータ収集及び分析が行える。
　・積極的にディスカッションに参加できる。

②評価方法及び割合
　研究活動の姿勢（データ・文献収集・分析への積極性及び成果）（30%）及び課題の提出（卒業論文及び途中経過報告資料）（70%）を評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。適宜、研究課題に必要な資料や文献を入手してもらいます。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義用のノート及びファイルを準備すること

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション
2～14　個人研究報告
15.個人研究課題整理（夏休みに向けて）

夏期研究報告会
　個人研究の夏期課題の経過報告

16～20　個人研究報告
21. 卒業論文の作成方法の確認
22~29　論文作成及び経過報告
30.　まとめ：卒業論文の完成報告

論文ゼミナール

2019-4010000303-16

鈴木　裕介

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.様々な社会的事象を観察し、研究課題を探し出すことができる。　(A-3)

2.様々な社会的事象を観察し、その背景や課題を説明することができる。(A-2)

3.多様な先行研究を探し出し、研究課題に関する考察に結び付けることができる。　(B-1)

4.社会における議論を整理し、受講生や社会人と議論し、解決策を見出すことができる。　(B-2)

5.わが国や地域が抱える課題を分析し、自分なりの解決策を提案することができる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.様々な社会的事象を観察し、研究課題を探し出すことができる。　(A-3)

2.様々な社会的事象を観察し、その背景や課題を説明することができる。(A-2)

3.多様な先行研究を探し出し、研究課題に関する考察に結び付けることができる。　(B-1)

4.社会における議論を整理し、受講生や社会人と議論し、解決策を見出すことができる。　(B-2)

5.わが国や地域が抱える課題を分析し、自分なりの解決策を提案することができる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-16

鈴木　裕介

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.様々な社会的事象を観察し、研究課題を探し出すことができる。　(A-3)

2.様々な社会的事象を観察し、その背景や課題を説明することができる。(A-2)

3.多様な先行研究を探し出し、研究課題に関する考察に結び付けることができる。　(B-1)

4.社会における議論を整理し、受講生や社会人と議論し、解決策を見出すことができる。　(B-2)

5.わが国や地域が抱える課題を分析し、自分なりの解決策を提案することができる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.様々な社会的事象を観察し、研究課題を探し出すことができる。　(A-3)

2.様々な社会的事象を観察し、その背景や課題を説明することができる。(A-2)

3.多様な先行研究を探し出し、研究課題に関する考察に結び付けることができる。　(B-1)

4.社会における議論を整理し、受講生や社会人と議論し、解決策を見出すことができる。　(B-2)

5.わが国や地域が抱える課題を分析し、自分なりの解決策を提案することができる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-18

福山　博文

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

各自，選択したテーマに沿って個人研究をすすめ，経過報告を繰り返し，卒業論文を完成させます.

◎－－－　到達目標　－－－◎

各自が興味ある問題に取り組み，その解決のための研究を行い，卒業論文を完成させる．(知識・理解)

卒業論文のテーマに関して、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる(技能)

経営学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。(技能)

問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・資料の収集を行う。（30分）
・卒業論文の進捗状況を記録として残しておくこと（卒業論文ノートの作成）。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準・方法
・卒業論文の完成度（60%）
・中間報告の内容（40%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

ありません.

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

特にありません.

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
第１回　卒業論文のガイダンス
第２回～第１４回　中間報告
第１５回　前期のまとめ

後期
第１回　卒業論文の発表と討論
第２回～第１４回　中間報告
第１５回　後期のまとめ

論文ゼミナール

2019-4010000303-18

福山　博文

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.各自が興味ある問題に取り組み，その解決のための研究を行い，卒業論文を完成させる．　(A-2)

2.卒業論文のテーマに関して、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる　(B-1)

4.経営学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

5.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.各自が興味ある問題に取り組み，その解決のための研究を行い，卒業論文を完成させる．　(A-2)

2.卒業論文のテーマに関して、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる　(B-1)

4.経営学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

5.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-18

福山　博文

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.各自が興味ある問題に取り組み，その解決のための研究を行い，卒業論文を完成させる．　(A-2)

2.卒業論文のテーマに関して、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる　(B-1)

4.経営学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

5.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.各自が興味ある問題に取り組み，その解決のための研究を行い，卒業論文を完成させる．　(A-2)

2.卒業論文のテーマに関して、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる　(B-1)

4.経営学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

5.問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-19

森田　泰暢

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールは主に組織や集団および人間行動について研究を行い、卒業論文を執筆します。論文ゼミナールでは2年次、３年次に学んだインタビューと観察のスキルを基にして、各自で論文のテーマ設定と調査・分析・考察を行います。質的調査の技法を基本としますが、適宜定量的調査も含めて多面的な検討もまた行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

興味や関心のある内容について先行研究を十分検討できる(知識・理解)

自身の興味および整理した先行研究と商学に関する理論との関係性を示すことができる(知識・理解)

先行研究の十分な検討から、教員およびゼミのメンバーとともにテーマ設定ができる(技能)

自身が定めた研究テーマに対する調査・分析の方法を教員およびゼミのメンバーとともに考えることができる(技能)

調査および分析の結果が商学に関連する理論の発展に貢献がある(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各活動ごとにリフレクションを行いblogやレポートなどの形式で言語化を行う（45分）
発表の担当回には自身の調査および分析内容を整理し資料としてまとめること（120分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

60点以上を合格とします。評価は以下の基準で行います。
（1）ゼミへの取り組み状況（発言や課題への取り組み。各回3名ずつを目安に途中経過をプレゼンテーションしてもらいます）
（2）リサーチクエスチョンの設定に向けた先行研究の検討は十分か
（3）調査方法が適切に選択できているか
（4）調査結果の分析は適切に行われているか
（5）分析結果についての考察は妥当なものであるか
（6）論理的な文章が書けているか

各回のリフレクション内容（書かれたblogやレポートなど）について教員から講義内でコメントをする形でフィードバックを行います。

【出席および欠席について】
出席は当然なので評価には加味しません。したがって、欠席は原則認めません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

教員が改めて指示をします。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業の性質上、欠席を認めません

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. オリエンテーション
2. 調査テーマ設定についての説明
3. 先行研究の調査方法について
4. 先行研究の調査とプレゼンテーションおよびディスカッション1
5. 先行研究の調査とプレゼンテーションおよびディスカッション2
6. 先行研究の調査とプレゼンテーションおよびディスカッション3
7. 先行研究の調査とプレゼンテーションおよびディスカッション4
8. 先行研究の調査とプレゼンテーションおよびディスカッション5
9. 先行研究の調査とプレゼンテーションおよびディスカッション6
10.調査テーマ設定のプレゼンテーションとディスカッション1
11.調査テーマ設定のプレゼンテーションとディスカッション2
12.調査テーマ設定のプレゼンテーションとディスカッション3
13.調査テーマ設定のプレゼンテーションとディスカッション4
14.調査テーマ設定のプレゼンテーションとディスカッション5
15.調査テーマ設定のプレゼンテーションとディスカッション6
16.調査分析について
17.調査の経過についてプレゼンテーションとディスカッション1
18.調査の経過についてプレゼンテーションとディスカッション2
19.調査の経過についてプレゼンテーションとディスカッション3
20.調査の経過についてプレゼンテーションとディスカッション4
21.調査の経過についてプレゼンテーションとディスカッション5
22.調査の経過についてプレゼンテーションとディスカッション6
23.調査の経過についてプレゼンテーションとディスカッション7
24.調査結果についてプレゼンテーションとディスカッション1
25.調査結果についてプレゼンテーションとディスカッション2
26.調査結果についてプレゼンテーションとディスカッション3
27.卒業論文の概要についてプレゼンテーションと共有
28.卒業論文の修正1
29.卒業論文の修正2
30.まとめ

論文ゼミナール

2019-4010000303-19

森田　泰暢

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.興味や関心のある内容について先行研究を十分検討できる　(A-2)

2.自身の興味および整理した先行研究と商学に関する理論との関係性を示すことができる　(A-3)

3.先行研究の十分な検討から、教員およびゼミのメンバーとともにテーマ設定ができる　(B-1)

4.自身が定めた研究テーマに対する調査・分析の方法を教員およびゼミのメンバーとともに考えることができる　(B-2)

5.調査および分析の結果が商学に関連する理論の発展に貢献がある　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.興味や関心のある内容について先行研究を十分検討できる　(A-2)

2.自身の興味および整理した先行研究と商学に関する理論との関係性を示すことができる　(A-3)

3.先行研究の十分な検討から、教員およびゼミのメンバーとともにテーマ設定ができる　(B-1)

4.自身が定めた研究テーマに対する調査・分析の方法を教員およびゼミのメンバーとともに考えることができる　(B-2)

5.調査および分析の結果が商学に関連する理論の発展に貢献がある　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-19

森田　泰暢

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.興味や関心のある内容について先行研究を十分検討できる　(A-2)

2.自身の興味および整理した先行研究と商学に関する理論との関係性を示すことができる　(A-3)

3.先行研究の十分な検討から、教員およびゼミのメンバーとともにテーマ設定ができる　(B-1)

4.自身が定めた研究テーマに対する調査・分析の方法を教員およびゼミのメンバーとともに考えることができる　(B-2)

5.調査および分析の結果が商学に関連する理論の発展に貢献がある　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.興味や関心のある内容について先行研究を十分検討できる　(A-2)

2.自身の興味および整理した先行研究と商学に関する理論との関係性を示すことができる　(A-3)

3.先行研究の十分な検討から、教員およびゼミのメンバーとともにテーマ設定ができる　(B-1)

4.自身が定めた研究テーマに対する調査・分析の方法を教員およびゼミのメンバーとともに考えることができる　(B-2)

5.調査および分析の結果が商学に関連する理論の発展に貢献がある　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-20

合力　知工

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本演習では、2年専門ゼミナール、3年専門ゼミナールで体得したことをベースにして、卒業論文を作成してもらいます。卒業論文のテーマは、2年次、3年次に自分が追いかけてきたことでもいいし、4年次になって新しく関心を持ったことでも構いません。原則として、論文作成は個人単位で行います。中間発表会を数回行うことにより、教員やフロアからの意見を参考にして内容を見直しながら、論文を仕上げていきます。論文作成までの流れは以下のようになります。

（1）テーマを決める（但し、「タイトル」は最後に決める）。
（2）仮説（直感や経験による推論）を立てる。
（3）仮説を検証する。
　①本（理論や学説などを知るのに利用する。情報に関しては新しいものほど良い）
　②雑誌（情報が新鮮：日経ビジネス、週刊ダイヤモンド、週刊東洋経済、プレジデントなど）
　③インターネット（新聞社のサイト、Yahooなどの新着記事）及びデータベース（日経テレコンなど）
　④アンケート調査（数字は仮説を裏付ける重要なデータになるが、あくまで「参考」ということを忘れずに。自分の仮説に都合の良いデータばかりを集めないようにする。数字を絶対視しないように注意する）
　⑤企業へのヒアリング
（4）結論（仮説が間違いであっても良い。無理に正当化しないようにする）
（5）参考文献・引用文献（別紙参照）
（6）その他の留意点
　・事実を述べるだけでなく、論理を構築して自分の意見も交える。
　・「骨組み」をしっかりとし、後から「肉付け」をする。
　・オリジナリティを出す。
　・論理に一貫性を持たせる。
　・参考文献、引用文献を充実させる（事例紹介、先行研究などを示し、それと自分のものがどの部分で異なり、新規性があるかということを示す。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。(知識・理解)

環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。(知識・理解)

経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。(知識・理解)

企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。(知識・理解)

有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。(技能)

柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。(技能)

企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。(技能)

企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。(技能)

企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。(態度・志向性)

講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。(態度・志向性)

研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。(態度・志向性)

研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

本演習において、授業中には、論文作成の手順の説明と中間発表会しか行わないので、テーマに則った「情報収集」「分析」「論理の組み立て」「提案」はすべて、個別に授業時間外に行うことになります。

＊事前学習：2時間程度
　事後学習：60分程度

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価方法：中間発表の内容、他の人の発表に対するコメント、そして卒業論文の内容により、総合的に評価します。
②割合：中間発表の内容（30%）、他の人の発表に対するコメント（10%）、卒業論文の内容（60%）
③評価基準：中間発表の内容（オリジナリティ性と論理性があるかどうか、また提案が含まれているかどうか、パワーポイントなど発表のための資料作りと発表の仕方が適切であるかどうか）、他の人の発表に対するコメント（他の人の発表を真剣に聞き、生産的なアドバイスができているかどうか）、卒業論文の内容（中間発表を踏まえ、最終的に、オリジナリティ性と論理性があるかどうか、また提案が含まれているかどうか）

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に無し。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミ登録者には「経営戦略論」、「企業戦略論」の履修を強く推奨します。
また、イベント活動を含むすべてのゼミ活動に費やす時間とお金を「費用」ではなく、「投資」であると考えられる人のみが受講できます。課外活動やアルバイトを最優先する人は当ゼミナールの履修は大変厳しいものとなります。
現時点での知識の有無、成績の良し悪しは問いませんが、知的好奇心の強い人、積極性のある人を希望します。研究活動は非常に厳しいので、それに十分に耐えられると思う人のみ応募してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．オリエンテーション
2．テーマの決め方
3．仮説の立て方
4．仮説の検証の仕方①
5．仮説の検証の仕方②
6．仮説の検証の仕方③
7．仮説の検証の仕方④
8．仮説の検証の仕方⑤
9．参考文献、引用文献の書き方
10．OB、OGの卒業論文の紹介①
11．OB、OGの卒業論文の紹介②
12．OB、OGの卒業論文の紹介③
13．OB、OGの卒業論文の紹介④
14．「良い」論文と「悪い」論文の比較
15．卒業論文の書き方についての総括
16～29．ゼミ生による中間発表
30．総括

論文ゼミナール

2019-4010000303-20

合力　知工

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-2)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。　(B-1)

6.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

7.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

8.企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。　(B-2)

9.企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。　(C-1)

10.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。
(C-1)

11.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-1)

12.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-2)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。　(B-1)

6.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

7.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

8.企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。　(B-2)

9.企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。　(C-1)

10.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。
(C-1)

11.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-1)

12.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-20

合力　知工

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-2)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。　(B-1)

6.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

7.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

8.企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。　(B-2)

9.企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。　(C-1)

10.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。
(C-1)

11.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-1)

12.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営戦略の定義や経営の要素（ヒト・モノ・カネ・情報など）について説明できる。　(A-2)

2.環境の変化とともに重視すべき経営の要素も変化していくということを説明できる。　(A-2)

3.経営において、利益ではなく、ヒトを重視する戦略が最も重要であるということを説明できる。　(A-3)

4.企業はオープンシステムであり、社会との共生を目指していく存在であるということを説明できる。　(A-3)

5.有効な経営戦略策定には、柔軟な「モノの見方」が重要であるということを理解している。　(B-1)

6.柔軟な「モノの見方」で、企業や社会の課題発見できる。　(B-1)

7.企業や社会の課題を解決するための提案を考えることができる。　(B-2)

8.企業や社会の課題解決のためのプランを、チームで調整しながら考え、発表することができる。　(B-2)

9.企業や社会の課題解決のためのプランを、インターネットだけでなく、企業ヒアリングやアンケート調査なども駆使して作成することができる。　(C-1)

10.講義だけでなく、研究に関係する課外活動にも積極的に参加できる。
(C-1)

11.研究に関する課外活動において、学生だけでなく社会人とのネットワークを広げることにも関心がある。　(C-1)

12.研究に関する課外活動を通じて、派生する新たな課題を追究することができる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-24

水野　博志

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

３年専門ゼミでは、株式投資の仮想トレードを行い報告してきた。４年論文ゼミでは、それを継続してもらい、２年間にわたる仮想トレードの結果を卒論として提出してもらう。
特に強調したいのは、２年ゼミで学んだ実践経営学と３、４年ゼミで学んだ実践株式投資の関係である。わたしが特に強調したいのは、稲盛和夫氏の言うように、汗を流して働くことの重要性である。ゼミ生は実験株式投資でリスクの減らし方を学んでも、株式投資で生活するようなことはせずに、自分の魂を高めるために働くことの重要性を感じてもらいたい。したがって、安易に株式投資で儲ける考え方には絶対反対である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

毎週の仮想トレードを通じて、リスク低減の方法を実践できる。(知識・理解)

論文の作成を通じて、自分の研究を説明できる。(知識・理解)

論文の作成を通じて、問題解決の方法を身に着ける。(技能)

論文作成を通じて、ディスカッションの方法を身に着ける。(態度・志向性)

論文作成を通じて、情報検索の方法を学ぶ。(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

仮想トレードの銘柄探しとレポートの作成。とくに重要なのは、なぜその銘柄を選んだのかを説明できるようにすること。またうまくいかなかった場合、なぜうまくいかなかったのかを説明すること。
日経Webで、株式市場を中心にしたマーケットの動きを見ることである。毎日、株価、外国為替、ニュースを検索するのに30分程度の時間が必要と思われる。日経Webにはマーケットの動きに対する解説が書かれているのでそれを読むこと。さらに高度な予習・復習としては、「エコノミスト」や「東洋経済」によって、日経Webの記事よりも長いトレンドで経済を見る目を養うこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

仮想トレードの成績と報告の質と量が、極めて重要である。なぜうまくいったのか、うまくいかなかったのかを説明できること。就職等でゼミを休まざるをえなかった時の連絡、その場合でも仮想トレードを続けているかによって評価が変わってくる。おおよその目安として、研究報告の内容80%、討論に対する参加態度20%で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

矢口新著『生き残りのディーリング』パンローリング、2001、2800円、ISBN978-4-939103-2

◎－－－　参考書　－－－◎

水野博志著『日本の個人投資家』愛育社、2008、2800円
ISBN ISBN978-4-7500-0341-2

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「経営財務論Ａ，Ｂ」を履修すること。この授業を取ることによって株価に対する見方が定まってくる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1回　ガイダンス
2～27回　ゼミ生全員の仮想トレードの結果報告
28～29回　卒論報告会
30回　まとめ

論文ゼミナール

2019-4010000303-24

水野　博志

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.毎週の仮想トレードを通じて、リスク低減の方法を実践できる。　(A-3)

2.論文の作成を通じて、自分の研究を説明できる。　(A-2)

3.論文の作成を通じて、問題解決の方法を身に着ける。　(B-1)

4.論文作成を通じて、ディスカッションの方法を身に着ける。　(C-1)

5.論文作成を通じて、情報検索の方法を学ぶ。　(B-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.毎週の仮想トレードを通じて、リスク低減の方法を実践できる。　(A-3)

2.論文の作成を通じて、自分の研究を説明できる。　(A-2)

3.論文の作成を通じて、問題解決の方法を身に着ける。　(B-1)

4.論文作成を通じて、ディスカッションの方法を身に着ける。　(C-1)

5.論文作成を通じて、情報検索の方法を学ぶ。　(B-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-24

水野　博志

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.毎週の仮想トレードを通じて、リスク低減の方法を実践できる。　(A-3)

2.論文の作成を通じて、自分の研究を説明できる。　(A-2)

3.論文の作成を通じて、問題解決の方法を身に着ける。　(B-1)

4.論文作成を通じて、ディスカッションの方法を身に着ける。　(C-1)

5.論文作成を通じて、情報検索の方法を学ぶ。　(B-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.毎週の仮想トレードを通じて、リスク低減の方法を実践できる。　(A-3)

2.論文の作成を通じて、自分の研究を説明できる。　(A-2)

3.論文の作成を通じて、問題解決の方法を身に着ける。　(B-1)

4.論文作成を通じて、ディスカッションの方法を身に着ける。　(C-1)

5.論文作成を通じて、情報検索の方法を学ぶ。　(B-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-25

藤野　真

期別：通年　　単位数：6　　開講年次： 4　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

◎ゼミの目的
　企業は人間が生存するために必要不可欠な存在です。換言すれば、私たちの生活は企業との関わりなしには成り立たないといえます。
　したがって、ゼミでは、経営学のさまざまな先行研究を基礎に、社会と企業の関係に留意しながら、企業（とくに現代企業）の基本的特質と現代的課題を解明することを目的とします。

◎ゼミの内容
　卒業論文の制作。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。(知識・理解)

経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。(知識・理解)

経営学の知識を用い企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業計画を参照してください。進捗状況に合わせて事前（120分）・事後学習（120）の指示を行っています。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

◎評価法方法と評価割合
　卒業論文：80%、議論への参加：20%

◎評価基準
　問題意識があり、緻密に研究を積み重ねている卒業論文を高く評価します。また、ゼミでの積極的な発言を高く評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　指定しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

バーバラ・ミント『考える技術・書く技術―問題解決力を伸ばすピラミッド原則』ダイヤモンド社　ISBN 978-4478490273
伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣　ISBN 978-4641076495

◎－－－　授業計画　－－－◎

１回～５回：論文の構想
　卒業論文のテーマ・構想の報告

６回～２５回：論文の執筆
　目次の報告、各章の執筆とゼミでの報告

２６回～３０回：論文の仕上げ
　卒業論文の修正と清書

論文ゼミナール

2019-4010000303-25

藤野　真

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-2)

2.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-3)

3.経営学の知識を用い企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-2)

2.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-3)

3.経営学の知識を用い企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-25

藤野　真

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-2)

2.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-3)

3.経営学の知識を用い企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-2)

2.経営学の知識を用いて企業、産業、地域が取り組むべき課題を説明できる。　(A-3)

3.経営学の知識を用い企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-26

飯塚　雄基

期別：通年　　単位数：6　　開講年次： 4　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールでは，2年次および3年次におけるプレゼンテーションおよびディスカッションの経験を踏まえ，卒業論文の作成に取り組むことを目的としています。
具体的には，自らの関心のある問題について，それを解決するための提案ができるように自ら考え，プレゼンテーションとディスカッションを行います。とくに問題意識をしっかりと持つことができているか，プレゼンテーションやディスカッションを通じてお互いに確かめ合いながらじっくりと進めていくことに重きを置いています。問題意識を持つといっても，それほど容易なことではなく，また，一人で能力を養うことは困難です。お互いに切磋琢磨し，ときに支え合いながらしっかりと能力を養っていきましょう。
取り扱う問題は，教員の専門である会計に限定することなく，商学の幅広い分野にわたります。それぞれが本当に考察したいと考えるテーマおよび論点を見つけ，主体的に考察していきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計その他の分野について問題意識を持つことができる。(知識・理解)

自らの問題意識の内容を他のゼミ生に説明できる。(知識・理解)

卒業論文で取り扱う課題を発見することができる。(技能)

卒業論文で取り扱う課題を解決するための提案をすることができる。(技能)

社会的に意義のある課題を発見し，その解決策を提案しようとする姿勢がみられる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

ゼミで資料が配布された場合，次回の予習として，その資料の内容を十分に理解しておくこと（30分）。
ディスカッションで問題になったテーマや論点があった場合，関連する資料を読んで知識を補充するとともに，自らの考えをもう一度見直すこと（30分）。
その他，ゼミの時間に限らず日ごろから問題意識を持ち，必要な知識やデータを収集し，自らの見解を追い求める姿勢をもって，継続的に学習していきましょう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ゼミへの出席態度をもって評価します。具体的には，発表の内容（60%），ディスカッションの態度（20%），学習への意欲（20%）などを総合的に勘案して評価します。なお，ディスカッションの対象になった論点について全体の意見や考えがまとまらなかった場合には，その論点について教員がフィードバックを行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房，2008年　ISBN 4894763680
宇佐美寛編『作文の論理［わかる文章］の仕組み』東信堂，1998年　ISBN 4887133081

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

遅刻や欠席はゼミのプレゼンテーションやディスカッションに支障をきたすのでやめましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス
第2回　資料やデータの収集方法の復習
第3回　論文の作成方法の復習
第4回　個人発表（1）
第5回　個人発表（2）
第6回　個人発表（3）
第7回　個人発表（4）
第8回　個人発表（5）
第9回　教員によるフィードバック
第10回　個人発表（6）
第11回　個人発表（7）
第12回　個人発表（8）
第13回　個人発表（9）
第14回　個人発表（10）
第15回　総括
第16回　個人発表（11）
第17回　個人発表（12）
第18回　個人発表（13）
第19回　個人発表（14）
第20回　個人発表（15）
第21回　教員によるフィードバック
第22回　個人発表（16）
第23回　個人発表（17）
第24回　個人発表（18）
第25回　個人発表（19）
第26回　個人発表（20）
第27回　教員によるフィードバック
第28回　最終発表（1）
第29回　最終発表（2）
第30回　総括

論文ゼミナール

2019-4010000303-26

飯塚　雄基

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.会計その他の分野について問題意識を持つことができる。　(A-2)

2.自らの問題意識の内容を他のゼミ生に説明できる。　(A-3)

3.卒業論文で取り扱う課題を発見することができる。　(B-1)

4.卒業論文で取り扱う課題を解決するための提案をすることができる。　(B-2)

5.社会的に意義のある課題を発見し，その解決策を提案しようとする姿勢がみられる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.会計その他の分野について問題意識を持つことができる。　(A-2)

2.自らの問題意識の内容を他のゼミ生に説明できる。　(A-3)

3.卒業論文で取り扱う課題を発見することができる。　(B-1)

4.卒業論文で取り扱う課題を解決するための提案をすることができる。　(B-2)

5.社会的に意義のある課題を発見し，その解決策を提案しようとする姿勢がみられる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-26

飯塚　雄基

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.会計その他の分野について問題意識を持つことができる。　(A-2)

2.自らの問題意識の内容を他のゼミ生に説明できる。　(A-3)

3.卒業論文で取り扱う課題を発見することができる。　(B-1)

4.卒業論文で取り扱う課題を解決するための提案をすることができる。　(B-2)

5.社会的に意義のある課題を発見し，その解決策を提案しようとする姿勢がみられる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.会計その他の分野について問題意識を持つことができる。　(A-2)

2.自らの問題意識の内容を他のゼミ生に説明できる。　(A-3)

3.卒業論文で取り扱う課題を発見することができる。　(B-1)

4.卒業論文で取り扱う課題を解決するための提案をすることができる。　(B-2)

5.社会的に意義のある課題を発見し，その解決策を提案しようとする姿勢がみられる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール（会計学の知識で論文を書いてみる！）

2019-4010000303-27

田坂　公

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　卒業論文を作成し，完成することが目的です。内容は管理会計に関するものを前提としますが，各自の就職の進路等を勘案して，管理会計以外のテーマを認めることもあります。
　授業の進め方は，前提として，報告者はパワーポイントによる資料を作成して中間発表を行っていきます。したがって，報告者は事前に資料を収集し，論文（レジュメ）を作成していくことが必要となります。
　2年次は単独でゼミを行いました。3年次および4年次は合同でゼミを行います。勉学を通じて交流を深めていただきます。
　ゼミ行事も随時行います。勉学以外の面でも，交流を深めてください。なおゼミ行事が，企画から運営までゼミ生全員で協力して行います。したがって，ゼミ行事は原則として全員参加が前提です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。(知識・理解)

会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。(知識・理解)

先入観にとらわれずに、企業、産業が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。(技能)

社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

卒業論文の中間発表として，1年を通じて複数回の報告機会があります。報告は事前の準備がすべてといえます。毎週6～10時間の学習時間を確保してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・卒業論文の完成度：50%
・リサーチ能力（資料の完成度）：10%
・プレゼン能力：10%
・コミュニケーション能力（討論への参加態度）：10%
・ゼミナール行事への参加度：10%
・ゼミナールへの貢献度：10%
これらの項目を総合的に勘案して評価を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

武脇誠・森口毅彦・青木章通・平井裕之『管理会計』，新世社。ISBN 9784883841271

◎－－－　参考書　－－－◎

櫻井通晴『管理会計第六版』　ISBN
ISBN978-4-495-16146-0

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1. ゼミ活動には積極的に参加してください。
2. ほうれんそう（報告連絡相談）をしっかり守り，人としての常識を守ってください。
3. 「2年専門ゼミナール」および「3年専門ゼミナール」において学習した内容が基礎となっていきます。忘れたと感じる方はしっかり復習してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

【前期】
1　ガイダンス
2～8　卒業論文作成方法の確認
9～15　各自卒業論文テーマの発表
【夏季】
卒業論文の章立てを発表
【後期】
16～24　卒業論文中間発表
25　卒業論文仮提出
26～29　卒業論文修正指導
30　卒業論文最終提出，講評

論文ゼミナール（会計学の知識で論文を書いてみる！）

2019-4010000303-27

田坂　公

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。(A-2)

2.会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。(A-2)

2.会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール（会計学の知識で論文を書いてみる！）

田坂　公

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。 (A-2)

2.会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。 (A-2)

2.会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.企業、産業が取り組むべき課題を解決するために、会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。　(B-2)

5.社会の一員として、地域や社会の発展に会計学的な見地から貢献する姿勢をもっている。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

渡辺　剛

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本ゼミナールは，3年次までに学んだ財務会計に関する知識をもとに卒業論文を作成することを目的としています。
論文のテーマは，各自が自由に決めて下さい(会計関連)。大きく分けて，「経営分析」と「文献研究」があります。「経営分析」では，有価証券報告書を用いて，企業(2社)の経営分析を行います。「文献研究」では，リース，収益の計上基準，会計基準のコンバージェンス（統合）など、財務会計に関する様々なテーマを自由に選び，できるだけ多くの文献を用いて論じます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

(1)有価証券報告書を利用して企業の現在の財政状態および経営成績を説明することができる。(知識・理解)

(2)有価証券報告書を利用して企業の財政状態および経営成績の課題を説明することができる。(知識・理解)

(3)分析指標を用いて企業の課題を説明することができる。(技能)

(4)分析指標を用いて企業の課題を解決する策を提案することができる。(技能)

(5)他のゼミ生とのディスカッションにおいて積極的に自らの意見を明らかにし，問題解決を促進することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回，論文の進捗度をチェックしますので，進捗状況を報告できるように準備してゼミに参加して下さい(60分)。 また、ゼミの内容を毎回復習して下さい(30分)。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

卒業論文の内容(50%)および討論への参加の度合(50%)により総合的に評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特定のテキストは用いません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

就職活動があっても，ゼミナールは，遅刻・欠席をしないことが評価の前提となりますので，注意して下さい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回：卒業論文のテーマ設定
第２回から第３０回までは，卒業論文の進捗度に応じて報告および質疑応答

論文ゼミナール

2019-4010000303-28

渡辺　剛

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.(1)有価証券報告書を利用して企業の現在の財政状態および経営成績を説明することができる。　(A-2)

2.(2)有価証券報告書を利用して企業の財政状態および経営成績の課題を説明することができる。　(A-3)

3.(3)分析指標を用いて企業の課題を説明することができる。　(B-1)

4.(4)分析指標を用いて企業の課題を解決する策を提案することができる。
(B-2)

5.(5)他のゼミ生とのディスカッションにおいて積極的に自らの意見を明らかにし，問題解決を促進することができる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.(1)有価証券報告書を利用して企業の現在の財政状態および経営成績を説明することができる。　(A-2)

2.(2)有価証券報告書を利用して企業の財政状態および経営成績の課題を説明することができる。　(A-3)

3.(3)分析指標を用いて企業の課題を説明することができる。　(B-1)

4.(4)分析指標を用いて企業の課題を解決する策を提案することができる。
(B-2)

5.(5)他のゼミ生とのディスカッションにおいて積極的に自らの意見を明らかにし，問題解決を促進することができる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-28

渡辺　剛

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.(1)有価証券報告書を利用して企業の現在の財政状態および経営成績を説明することができる。　(A-2)

2.(2)有価証券報告書を利用して企業の財政状態および経営成績の課題を説明することができる。　(A-3)

3.(3)分析指標を用いて企業の課題を説明することができる。　(B-1)

4.(4)分析指標を用いて企業の課題を解決する策を提案することができる。(B-2)

5.(5)他のゼミ生とのディスカッションにおいて積極的に自らの意見を明らかにし，問題解決を促進することができる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.(1)有価証券報告書を利用して企業の現在の財政状態および経営成績を説明することができる。　(A-2)

2.(2)有価証券報告書を利用して企業の財政状態および経営成績の課題を説明することができる。　(A-3)

3.(3)分析指標を用いて企業の課題を説明することができる。　(B-1)

4.(4)分析指標を用いて企業の課題を解決する策を提案することができる。(B-2)

5.(5)他のゼミ生とのディスカッションにおいて積極的に自らの意見を明らかにし，問題解決を促進することができる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-29

池田　健一

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　卒業論文の作成に向けた指導を行っていきます。さらに、財務会計・国際会計および簿記に関する重要項目について、３年次に引き続き、テーマごとに基礎的な内容からやや難しい内容までゼミ形式で学習を進めていきます。授業の中で示す課題に取り組んで提出することが必要になる場合があります。詳細については別冊の「募集要項」を参照してください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。(知識・理解)

ゼミで学んだ会計学の専門知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。(知識・理解)

グループで課題に取り組み、会計学の専門知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。(技能)

グループでテーマを決めて主体的に取り組むことができる。(技能)

取り組んだ成果についてプレゼンテーションすることができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　卒業論文の作成に向けた学習を積極的に進めていくこと（めやす30分）。また、ゼミの時間中に示す課題に取り組んで提出すること（めやす15分）。
なお、課題がない回もあります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　ゼミの成績評価基準は、商学部での４年間の専門科目の学習およびゼミでの２年半の学習をふまえた質の高い卒業論文をまとめることができたかどうかを評価基準とします。
　評価方法およびその配分割合は、卒業論文および経過報告の内容（５割）、ゼミおよびゼミ行事への参加状況（３割）、課題などの評点（２割）を総合して成績を判定します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　なし

◎－－－　参考書　－－－◎

　必要に応じて、ゼミの時間中に示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　できれば前期と後期にそれぞれ１回程度、卒業論文に関する報告をしてもらおうと考えております。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．オリエンテーション
２．卒業論文の概要
３．論点の学習①
４．論点の学習②
５．論点の学習③
６．論点の学習④
７．論点の学習⑤
８．論点の学習⑥
９．論点の学習⑦
10．論点の学習⑧
11．論点の学習⑨
12．論点の学習⑩
13．卒業論文作成上の留意点
14．テーマ報告①
15．テーマ報告②
16．テーマ報告③
17．論点の学習⑪
18．論点の学習⑫
19．論点の学習⑬
20．論点の学習⑭
21．論点の学習⑮
22．卒業論文の提出概要の説明
23．経過報告①
24．経過報告②
25．経過報告③
26．経過報告④
27．経過報告⑤
28．内容の検討①
29．内容の検討②
30．まとめ

　なお、講義日程や諸事情により授業計画が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

論文ゼミナール

2019-4010000303-29

池田　健一

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。　(A-2)

2.ゼミで学んだ会計学の専門知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。　(A-3)

3.グループで課題に取り組み、会計学の専門知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。　(B-1)

4.グループでテーマを決めて主体的に取り組むことができる。　(B-2)

5.取り組んだ成果についてプレゼンテーションすることができる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。　(A-2)

2.ゼミで学んだ会計学の専門知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。　(A-3)

3.グループで課題に取り組み、会計学の専門知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。　(B-1)

4.グループでテーマを決めて主体的に取り組むことができる。　(B-2)

5.取り組んだ成果についてプレゼンテーションすることができる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-29

池田　健一

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。　(A-2)

2.ゼミで学んだ会計学の専門知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。　(A-3)

3.グループで課題に取り組み、会計学の専門知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。　(B-1)

4.グループでテーマを決めて主体的に取り組むことができる。　(B-2)

5.取り組んだ成果についてプレゼンテーションすることができる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.講義で学んだ会計学の知識をゼミで生かすことができる。　(A-3)

2.ゼミで学んだ会計学の専門知識をもとに企業活動や財務活動やあるべき経営管理を説明できる。　(A-2)

3.グループで課題に取り組み、会計学の専門知識をもとにグループとしての考えをまとめることができる。　(B-1)

4.グループでテーマを決めて主体的に取り組むことができる。　(B-2)

5.取り組んだ成果についてプレゼンテーションすることができる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-30

中村　信博

期別：通年　　単位数：6　　開講年次： 4　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

「3年専門ゼミナール」における発表・討論を通じて興味を持った課題を発展させ熟慮した上で、各人が主体的に決定した卒業論文研究テーマの発表が最初に行われます。その後、各研究テーマに基づいた中間発表および討論ならびに個別指導を繰り返しながら、卒業論文の作成を進め、12月上旬に完成させます。
なお、論文作成を通じて得られた研究成果に関しては、１月下旬に開催される「卒業論文研究発表会」において発表を行い、すべてのゼミ生による質問に的確に答えることが求められます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

卒業論文作成過程での発表・議論を通じて、会計学の意義および限界を理解する。(知識・理解)

主体的に選択した卒業論文テーマにおける最新の課題を発見・理解する。(知識・理解)

卒業論文の作成・発表を通じて、社会におけるジェネリックスキルの重要性および自らの問題点を認識する。(技能)

会計制度の課題を指摘できる技能が身につく。(技能)

ジェネリックスキルを常に向上させる姿勢が身につく。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

当然のことですが、発表担当の有無にかかわらず、内容豊かな質疑応答が展開されるために必要となる周到な準備が、毎回求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

完成した卒業論文50%、研究経過報告の内容20%、討論に対する参加態度および「卒業論文研究発表会」をはじめとしたゼミナール行事に対する貢献度30%を目安として総合的に成績を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

ありません（各自が主体的に決定した卒論テーマに関する文献・資料がテキストとなります）。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

演習科目ですから当然のことですが、無断欠席は厳禁です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

[前期]
1.卒論研究ガイダンス
2～4. テーマ発表・討論
5～8. 個別指導
9～14.各人発表・討論
15.前期報告のまとめ

[後期]
1.後期ガイダンス
2～14.各人発表・討論
15.まとめ

完成卒業論文の内容に関しては、２年及び３年ゼミ生も参加して1月下旬に開催される「卒業論文研究発表会」において、一人当たり30分の最終発表を行う。

論文ゼミナール

2019-4010000303-30

中村　信博

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.卒業論文作成過程での発表・議論を通じて、会計学の意義および限界を理解する。　(A-2)

2.主体的に選択した卒業論文テーマにおける最新の課題を発見・理解する。　(A-3)

3.卒業論文の作成・発表を通じて、社会におけるジェネリックスキルの重要性および自らの問題点を認識する。　(B-1)

4.会計制度の課題を指摘できる技能が身につく。　(B-2)

5.ジェネリックスキルを常に向上させる姿勢が身につく。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.卒業論文作成過程での発表・議論を通じて、会計学の意義および限界を理解する。　(A-2)

2.主体的に選択した卒業論文テーマにおける最新の課題を発見・理解する。　(A-3)

3.卒業論文の作成・発表を通じて、社会におけるジェネリックスキルの重要性および自らの問題点を認識する。　(B-1)

4.会計制度の課題を指摘できる技能が身につく。　(B-2)

5.ジェネリックスキルを常に向上させる姿勢が身につく。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-30

中村　信博

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.卒業論文作成過程での発表・議論を通じて、会計学の意義および限界を理解する。　(A-2)

2.主体的に選択した卒業論文テーマにおける最新の課題を発見・理解する。(A-3)

3.卒業論文の作成・発表を通じて、社会におけるジェネリックスキルの重要性および自らの問題点を認識する。　(B-1)

4.会計制度の課題を指摘できる技能が身につく。　(B-2)

5.ジェネリックスキルを常に向上させる姿勢が身につく。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.卒業論文作成過程での発表・議論を通じて、会計学の意義および限界を理解する。　(A-2)

2.主体的に選択した卒業論文テーマにおける最新の課題を発見・理解する。(A-3)

3.卒業論文の作成・発表を通じて、社会におけるジェネリックスキルの重要性および自らの問題点を認識する。　(B-1)

4.会計制度の課題を指摘できる技能が身につく。　(B-2)

5.ジェネリックスキルを常に向上させる姿勢が身につく。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-31

長束　航

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

企業会計に関する調査・報告・討論を行うというプロセスを通じて、ただ単に会計学の知識を学ぶだけではなく、アカウンティング・マインド（会計的思考）を身に付けることを目標とする。主として財務会計論および監査論の分野の研究を行う予定である。
2年次は単独でゼミを行うが、3年次および4年次は合同で行う。また、ゼミ生同士の親睦を深める行事を積極的に行っているが、企画から運営までゼミ生全員（全学年合同）で協力して行うので、これらの行事については原則として全員参加が前提となる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的状況を説明することができる。(知識・理解)

修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題を説明することができる。(知識・理解)

修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題を発見することができる。(技能)

修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題に対する解決策を提案することができる。(技能)

企業活動を会計的・財務的にに把握・考察しその成果を他者に伝達するために、「論文」を作成することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

卒業論文の作成過程において、複数回の中間報告を行ってもらうので、そのための準備を授業前に行う必要がある（報告担当回に5時間程度）。担当回以外においても討論の準備のための予習が必要となる（1時間程度）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

卒業論文、研究報告の内容、討論に対する参加態度、ゼミ合宿等のゼミナール行事に対する参加態度、レポート等の評価項目における評点を総合して成績を判定する。概ね卒業論文50%、研究報告の内容10%、討論に対する参加態度20%、ゼミナール行事に対する参加態度10%、レポート10%の割合で評点を算出する。これらの評価項目については、企業活動を会計的な観点から把握・考察できるようになっているかどうか、およびその成果を適切に他者に伝達するための「論文」作成能力を身につけているかどうかを単位認定の判断基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

広瀬義州『財務会計』第13版　中央経済社／ISBN978-4502163418
桜井久勝『財務諸表分析』第7版　中央経済社／ISBN978-4502223518
その他必要と思われるテキストは適宜指定する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

①ゼミ活動には積極的に参加すること（特に、ゼミ活動を大学生活の中心に据えようと考えている学生の履修を希望する）。
②「2年専門ゼミナール」、「3年専門ゼミナール」において学習した内容が前提となるので、しっかりと復習しておくこと。
③正当な理由なく欠席しないこと（正当な理由がある場合には事前に連絡・相談すること）。なお、無断欠席は、「討論に対する参加態度」および「ゼミナール行事に対する参加態度」の減点対象となる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
１　ガイダンス
２～８　卒業論文作成方法の確認
９～１５　卒業論文テーマ発表

夏季勉強会
卒業論文章立て発表

後期
１６～２４　卒業論文章立て修正等指導
２５　卒業論文仮提出
２６～２９　卒業論文修正指導
３０　卒業論文講評

論文ゼミナール

2019-4010000303-31

長束　航

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的状況を説明することができる。　(A-2)

2.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題を説明することができる。　(A-3)

3.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題を発見することができる。　(B-1)

4.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

5.企業活動を会計的・財務的にに把握・考察しその成果を他者に伝達するために、「論文」を作成することができる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的状況を説明することができる。　(A-2)

2.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題を説明することができる。　(A-3)

3.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題を発見することができる。　(B-1)

4.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

5.企業活動を会計的・財務的にに把握・考察しその成果を他者に伝達するために、「論文」を作成することができる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-31

長束　航

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的状況を説明することができる。　(A-2)

2.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題を説明することができる。　(A-3)

3.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題を発見することができる。　(B-1)

4.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

5.企業活動を会計的・財務的にに把握・考察しその成果を他者に伝達するために、「論文」を作成することができる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的状況を説明することができる。　(A-2)

2.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題を説明することができる。　(A-3)

3.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題を発見することができる。　(B-1)

4.修得した会計学の知識を用いて、企業の会計的・財務的課題に対する解決策を提案することができる。　(B-2)

5.企業活動を会計的・財務的にに把握・考察しその成果を他者に伝達するために、「論文」を作成することができる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

山内　進

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

卒業論文の作成を目的とします。論文の内容は税法に関するものを基本としますが、学生の就職の進路等に合わせ、それ以外のテーマも認めています。授業の進め方は、まずパワーポイントを使用し中間発表１　中間発表２を実施します。その後、毎年度末に、卒論発表大会を行います。卒論発表大会には、ゼミの後輩である２年生３年生をはじめ、父兄の参加も予定しています。
同時に、就職試験の体験等の発表や、ＯＢの経験等を加え、ゼミ生同士の就職活動の活性化を図っています。
論文作成には、ゼミの発表前の事前のプレゼンテーションの準備だけでなく、研究目的に合わせた、日頃から資料の収集、論文作成が望まれます。またプレゼンテーションで指摘された点を考慮し、論文を完成させて下さい。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山内ススム『所得税法要説』税務経理協会、6,200円、ISBN978-4-419-06357-3
山内ススム『法人税法要説』税務経理協会、改訂版作成中
山内ススム『相続税法要説』税務経理協会、4,400円、ISBN978-4-419-6454-9
山内ススム『消費税法要説』税務経理協会、5,200円、ISBN978-4-419-06489-1

◎－－－　到達目標　－－－◎

税務は、経営、会計の知識が基本となっている。税務を知ることで経営会計の知識を身に着けることができる。(知識・理解)

税制は産業政策手段としても利用され、わが国の企業の成長、産業の発展を促すものであるという仕組みを理解できるようになる。(知識・理解)

ゼミナールでは、アクティブラーニング方式を取り入れ、税務の知識のみならずリーダーシップ力を高めることができる。(技能)

積極的なゼミ活動を通じて、地域、社会に貢献できる人材に成長することができる。(技能)

税を納めるの意義についての理解している。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前に自分の研究計画に合わせた調査研究が必要です。発表後は、指摘された点を今後の研究に応用し研究を進めていく必要があります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

論文の内容(論文構成と独創力)(70%)、論文発表のプレゼンテーションの技術(20%)、ゼミ授業への貢献度(質問回数と内容・コミュニケーション能力等)(10%)を加味しながら総合的に判断します。
以上、論文の構成力、分析力、独創性、発表能力等を評価基準とします。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前　期
１　前期スケジュールの発表
２　各人の卒業論文の研究テーマの発表
３　中間発表１〔１〕
４　中間発表１〔２〕
５　中間発表１〔３〕
６　中間発表１〔４〕
７　中間発表１〔５〕
８　進路指導等
９　中間発表１〔６〕
１０　中間発表２〔１〕
１１　中間発表２〔２〕
１２　中間発表２〔３〕
１３　中間発表２〔４〕
１４　中間発表２〔５〕
１５　総括及び進路指導等

後　期
１　後期スケジュールの発表
２　各人の研究の状況及び就職活動の発表
３　中間発表２〔６〕
４　中間発表２〔７〕
５　中間発表２〔８〕
６　最終発表〔１〕
７　最終発表〔２〕
８　最終発表〔３〕
９　最終発表〔４〕
１０　最終発表〔５〕
１１　最終発表〔６〕
１２　最終発表〔７〕
１３　卒論発表大会
１４　卒論発表大会
１５　卒論発表大会

論文ゼミナール

2019-4010000303-32

山内　進

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　税務は、経営、会計の知識が基本となっている。税務を知ることで経営会計の知識を身に着けることができる。　(A-2)

2.　税制は産業政策手段としても利用され、わが国の企業の成長、産業の発展を促すものであるという仕組みを理解できるようになる。　(A-3)

3.　ゼミナールでは、アクティブラーニング方式を取り入れ、税務の知識のみならずリーダーシップ力を高めることができる。　(B-1)

4.　積極的なゼミ活動を通じて、地域、社会に貢献できる人材に成長することができる。　(B-2)

5. 税を納めるの意義についての理解している。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　税務は、経営、会計の知識が基本となっている。税務を知ることで経営会計の知識を身に着けることができる。　(A-2)

2.　税制は産業政策手段としても利用され、わが国の企業の成長、産業の発展を促すものであるという仕組みを理解できるようになる。　(A-3)

3.　ゼミナールでは、アクティブラーニング方式を取り入れ、税務の知識のみならずリーダーシップ力を高めることができる。　(B-1)

4.　積極的なゼミ活動を通じて、地域、社会に貢献できる人材に成長することができる。　(B-2)

5. 税を納めるの意義についての理解している。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-32

山内　進

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　税務は、経営、会計の知識が基本となっている。税務を知ることで経営会計の知識を身に着けることができる。　(A-2)

2.　税制は産業政策手段としても利用され、わが国の企業の成長、産業の発展を促すものであるという仕組みを理解できるようになる。　(A-3)

3.　ゼミナールでは、アクティブラーニング方式を取り入れ、税務の知識のみならずリーダーシップ力を高めることができる。　(B-1)

4.　積極的なゼミ活動を通じて、地域、社会に貢献できる人材に成長することができる。　(B-2)

5. 税を納めるの意義についての理解している。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　税務は、経営、会計の知識が基本となっている。税務を知ることで経営会計の知識を身に着けることができる。　(A-2)

2.　税制は産業政策手段としても利用され、わが国の企業の成長、産業の発展を促すものであるという仕組みを理解できるようになる。　(A-3)

3.　ゼミナールでは、アクティブラーニング方式を取り入れ、税務の知識のみならずリーダーシップ力を高めることができる。　(B-1)

4.　積極的なゼミ活動を通じて、地域、社会に貢献できる人材に成長することができる。　(B-2)

5. 税を納めるの意義についての理解している。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-33

飛田　努

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

「論文ゼミナール」では大きく分けて2つの取組みを行います。
1つは，テキストの輪読を通じた「確かな洞察力の養成」です。まず，事業を推進し，拡大していくために必要な人材像はどのような要素を持っているのかを学びます。その要素とは，関連付ける力，質問力，観察力，ネットワーク力，実験力から構成されます。すなわち，これまで学習してきた理論を用いて，目の前の課題から問題を抽出し，その解決策を策定し，実行することが求められます。「2年専門ゼミナール」「3年専門ゼミナール」で得た実践的な学びを理論的に理解することが求められます。続いて，「フィールドワーク」と呼ばれる質的調査を行う研究手法を学習することによって，現実の問題に対してどのようにアプローチし，問題を掘り出していくのかについて学習します。ここでの学習はゼミが立ち上げたプロジェクト，または企業と連携して行うプロジェクトから得られる学習をより深堀りするための理論的なフレームワークを得ることになります。
もう1つは，卒業論文の作成です。テーマは管理会計に限らず，広く企業経営に関わるものをテーマとし，ケーススタディ・実証など科学的な手法を用いて，自ら設定した研究課題にアプローチすることを求めます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経営学や会計学を中心とした基本的な知識に基づいて卒業論文の執筆ができる。(知識・理解)

卒業論文の執筆を通じて，経営学や会計学の知識を用いて，自ら取り組むテーマがいかに現在の社会経済状況と関連しているのかを説明することができる。(知識・理解)

経営学や会計学に関連した知識を用いて，自らの卒業論文テーマが企業，産業，地域が取り組むべき課題と関連していることを説明することができる。(知識・理解)

経営学や会計学に関連した知識を用いて，自らの卒業論文テーマが企業，産業，地域が発展する方向と関連していることを説明することができる。(知識・理解)

卒業論文の執筆を通じて，経営学や会計学が企業実務（実践）にいかに適用可能かを想定し，理論と実践の双方への理解が重要であることを理解する。(知識・理解)

卒業論文の執筆を通じて，事象に対して先入観を持つのではなく，理論的な考察を行うことで取り組むべき課題を明らかにすることができる。(技能)

卒業論文の執筆を通じて，自らの論文だけでなく，ゼミに参加する他者の報告にも耳を傾け，理論や事象に基づいた建設的な意見を述べることができる。(技能)

卒業論文の執筆を通じて，国内外の事例を収集し，その事例を理論的に分析することができるようになる。(技能)

卒業論文の執筆を通じて，理論的な研究活動を行うことの社会的意義への理解を示すとともに，学んだ知識を現実社会に適用できる方法論を自ら構築できる。(技能)

卒業論文の執筆を通じて，理論を学習するとともに，理論を用いて事象を説明することを通じて，多様な知識や見識を身につける志向を得る。(態度・志向性)

卒業論文の執筆を通じて，自らが考える課題を理論的に説明できるようになるとともに，調査研究を通じて他者が抱える課題に対してアプローチし，建設的な提案ができるようになる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

グループによるプレゼンテーションをもとにディスカッションを行う。報告当番でない学生もテキストを予習しておくこと。また，論文報告等で毎週2-3時間ほどのミーティングが必要になる場合がある。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

グループ・論文報告（50%），ディスカッション（30%），ディスカッションへの貢献度（20%）をもとに総合的に評価します。
グループあるいは論文報告は報告内容，理解を深めるための工夫，ゼミ生の理解度を基準に，ディスカッションでは一方的に意見を述べること無く，議論を建設的に行い，相互理解を図ることができたかどうか，ゼミへの貢献度ではゼミでの学び，プロジェクトを進めていくために行った貢献度合いを測定し，評価を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

1.田所雅之『起業の科学 スタートアップサイエンス』（ISBN 978-4822259754）
2.佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社（ISBN 978-4788507883）

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「経営分析論Ⅰ」「経営分析論Ⅱ」の履修を強く推奨します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　ガイダンス
第2回　テキスト1　1. 機会発見とは何か？ / 2. 機会発見のプロセス
第3回　テキスト1　3. 課題リフレーミング / 4. 日記調査とデプスインタビュー
第4回　テキスト1　5. エスノグラフィ調査 / 6. 情報の共有と整理
第5回　テキスト1　7. 機会フレーミング / 8. 機会コミュニケーション
第6回　卒業論文構想報告（1）
第7回　卒業論文構想報告（2）
第8回　卒業論文構想報告（3）
第9回　テキスト2　暴走族から現代演劇へ～体験としてのフィールドワーク
第10回　テキスト2　他者との出会いと別れ～人間関係としてのフィールドワーク
第11回　テキスト2　「正しい答え」と「適切な問い」～問題構造化作業としてのフィールドワーク
第12回　テキスト2　フィールドノートをつける～「物書きモード」と複眼的視点
第13回　テキスト2　聞き取りをする～「面接」と「問わず語り」のあいだ
第14回　テキスト2　民族誌を書く～漸次構造化法のすすめ
第15回 前期終了ガイダンス（課題提示）
第16回 後期開始ガイダンス
第17回 卒業論文テーマ報告（1）
第18回 卒業論文テーマ報告（2）
第19回 卒業論文テーマ報告（3）
第20回 卒業論文テーマ報告（4）
第21回 卒業論文中間報告（1）
第22回 卒業論文中間報告（2）
第23回 卒業論文中間報告（3）
第24回 卒業論文中間報告（4）
第25回 卒業論文中間報告（5）
第26回 卒業論文経過報告（1）
第27回 卒業論文経過報告（2）
第28回 卒業論文経過報告（3）
第29回 卒業論文経過報告（4）
第30回 講義のまとめ

論文ゼミナール

2019-4010000303-33

飛田　努

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営学や会計学を中心とした基本的な知識に基づいて卒業論文の執筆ができる。　(A-2)

2.卒業論文の執筆を通じて，経営学や会計学の知識を用いて，自ら取り組むテーマがいかに現在の社会経済状況と関連しているのかを説明することができる。(A-2)

3.経営学や会計学に関連した知識を用いて，自らの卒業論文テーマが企業，産業，地域が取り組むべき課題と関連していることを説明することができる。(A-3)

4.経営学や会計学に関連した知識を用いて，自らの卒業論文テーマが企業，産業，地域が発展する方向と関連していることを説明することができる。　(A-3)

5.卒業論文の執筆を通じて，経営学や会計学が企業実務（実践）にいかに適用可能かを想定し，理論と実践の双方への理解が重要であることを理解する。　(A-3)

6.卒業論文の執筆を通じて，事象に対して先入観を持つのではなく，理論的な考察を行うことで取り組むべき課題を明らかにすることができる。　(B-1)

7.卒業論文の執筆を通じて，自らの論文だけでなく，ゼミに参加する他者の報告にも耳を傾け，理論や事象に基づいた建設的な意見を述べることができる。(B-2)

8.卒業論文の執筆を通じて，国内外の事例を収集し，その事例を理論的に分析することができるようになる。　(B-2)

9.卒業論文の執筆を通じて，理論的な研究活動を行うことの社会的意義への理解を示すとともに，学んだ知識を現実社会に適用できる方法論を自ら構築できる。　(B-2)

10.卒業論文の執筆を通じて，理論を学習するとともに，理論を用いて事象を説明することを通じて，多様な知識や見識を身につける志向を得る。　(C-1)

11.卒業論文の執筆を通じて，自らが考える課題を理論的に説明できるようになるとともに，調査研究を通じて他者が抱える課題に対してアプローチし，建設的な提案ができるようになる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営学や会計学を中心とした基本的な知識に基づいて卒業論文の執筆ができる。　(A-2)

2.卒業論文の執筆を通じて，経営学や会計学の知識を用いて，自ら取り組むテーマがいかに現在の社会経済状況と関連しているのかを説明することができる。(A-2)

3.経営学や会計学に関連した知識を用いて，自らの卒業論文テーマが企業，産業，地域が取り組むべき課題と関連していることを説明することができる。(A-3)

4.経営学や会計学に関連した知識を用いて，自らの卒業論文テーマが企業，産業，地域が発展する方向と関連していることを説明することができる。　(A-3)

5.卒業論文の執筆を通じて，経営学や会計学が企業実務（実践）にいかに適用可能かを想定し，理論と実践の双方への理解が重要であることを理解する。(A-3)

6.卒業論文の執筆を通じて，事象に対して先入観を持つのではなく，理論的な考察を行うことで取り組むべき課題を明らかにすることができる。　(B-1)

7.卒業論文の執筆を通じて，自らの論文だけでなく，ゼミに参加する他者の報告にも耳を傾け，理論や事象に基づいた建設的な意見を述べることができる。(B-2)

8.卒業論文の執筆を通じて，国内外の事例を収集し，その事例を理論的に分析することができるようになる。　(B-2)

9.卒業論文の執筆を通じて，理論的な研究活動を行うことの社会的意義への理解を示すとともに，学んだ知識を現実社会に適用できる方法論を自ら構築できる。　(B-2)

10.卒業論文の執筆を通じて，理論を学習するとともに，理論を用いて事象を説明することを通じて，多様な知識や見識を身につける志向を得る。　(C-1)

11.卒業論文の執筆を通じて，自らが考える課題を理論的に説明できるようになるとともに，調査研究を通じて他者が抱える課題に対してアプローチし，建設的な提案ができるようになる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-33

飛田　努

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営学や会計学を中心とした基本的な知識に基づいて卒業論文の執筆ができる。　(A-2)

2.卒業論文の執筆を通じて，経営学や会計学の知識を用いて，自ら取り組むテーマがいかに現在の社会経済状況と関連しているのかを説明することができる。(A-2)

3.経営学や会計学に関連した知識を用いて，自らの卒業論文テーマが企業，産業，地域が取り組むべき課題と関連していることを説明することができる。(A-3)

4.経営学や会計学に関連した知識を用いて，自らの卒業論文テーマが企業，産業，地域が発展する方向と関連していることを説明することができる。　(A-3)

5.卒業論文の執筆を通じて，経営学や会計学が企業実務（実践）にいかに適用可能かを想定し，理論と実践の双方への理解が重要であることを理解する。　(A-3)

6.卒業論文の執筆を通じて，事象に対して先入観を持つのではなく，理論的な考察を行うことで取り組むべき課題を明らかにすることができる。　(B-1)

7.卒業論文の執筆を通じて，自らの論文だけでなく，ゼミに参加する他者の報告にも耳を傾け，理論や事象に基づいた建設的な意見を述べることができる。(B-2)

8.卒業論文の執筆を通じて，国内外の事例を収集し，その事例を理論的に分析することができるようになる。　(B-2)

9.卒業論文の執筆を通じて，理論的な研究活動を行うことの社会的意義への理解を示すとともに，学んだ知識を現実社会に適用できる方法論を自ら構築できる。　(B-2)

10.卒業論文の執筆を通じて，理論を学習するとともに，理論を用いて事象を説明することを通じて，多様な知識や見識を身につける志向を得る。　(C-1)

11.卒業論文の執筆を通じて，自らが考える課題を理論的に説明できるようになるとともに，調査研究を通じて他者が抱える課題に対してアプローチし，建設的な提案ができるようになる。　(C-1)

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.経営学や会計学を中心とした基本的な知識に基づいて卒業論文の執筆ができる。　(A-2)

2.卒業論文の執筆を通じて，経営学や会計学の知識を用いて，自ら取り組むテーマがいかに現在の社会経済状況と関連しているのかを説明することができる。(A-2)

3.経営学や会計学に関連した知識を用いて，自らの卒業論文テーマが企業，産業，地域が取り組むべき課題と関連していることを説明することができる。(A-3)

4.経営学や会計学に関連した知識を用いて，自らの卒業論文テーマが企業，産業，地域が発展する方向と関連していることを説明することができる。　(A-3)

5.卒業論文の執筆を通じて，経営学や会計学が企業実務（実践）にいかに適用可能かを想定し，理論と実践の双方への理解が重要であることを理解する。(A-3)

6.卒業論文の執筆を通じて，事象に対して先入観を持つのではなく，理論的な考察を行うことで取り組むべき課題を明らかにすることができる。　(B-1)

7.卒業論文の執筆を通じて，自らの論文だけでなく，ゼミに参加する他者の報告にも耳を傾け，理論や事象に基づいた建設的な意見を述べることができる。(B-2)

8.卒業論文の執筆を通じて，国内外の事例を収集し，その事例を理論的に分析することができるようになる。　(B-2)

9.卒業論文の執筆を通じて，理論的な研究活動を行うことの社会的意義への理解を示すとともに，学んだ知識を現実社会に適用できる方法論を自ら構築できる。　(B-2)

10.卒業論文の執筆を通じて，理論を学習するとともに，理論を用いて事象を説明することを通じて，多様な知識や見識を身につける志向を得る。　(C-1)

11.卒業論文の執筆を通じて，自らが考える課題を理論的に説明できるようになるとともに，調査研究を通じて他者が抱える課題に対してアプローチし，建設的な提案ができるようになる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-35

石上　悦朗

期別：通年　　単位数：6　　開講年次： 4　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：金・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

2，3年次におけるゼミナール活動の集大成の学年である。前期は卒業論文のテーマに関連したいくつかの論文・文献を取り上げこれらを輪読、討論する。これ以降は担当教員の助言を受けながら卒業論文の作成が中心となる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

　経済開発・アジア経済などに関して基本的な事項を理解でき、かつ論文のテーマについてを理解を深めること。(知識・理解)

 世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析することができる。(知識・理解)

広い意味での社会が直面している問題、課題に前向きに取り組むことができる。(技能)

　進行中および完成後の論文を的確にプレゼンテーションし、討論に参加できること。(技能)

 発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。 他のゼミ生が取り上げたテーマについても学習し討論することにより社会人としての基礎作りに役立つ。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・論文作成が中心であるので事前学習は当然である。（６０分）
・また、中間発表を経て、事後の学習も重要である。（６０分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・卒業論文の評価が中心となるが、討論に対する参加態度、ゼミナール行事に対する参加態度等の評価項目における評点を総合して成績を判定する。
・評価の目安は中間発表・完成論文発表と討論（30%）、ゼミでの発言・討論などへの参加（20%）、論文の評価（50%）とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストはなし。必要な資料は随時配布する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.論文ゼミナールの進め方について説明。
2～10.資料（文献）の輪読と討論
11～15.論文の中間発表
16～28.論文の中間発表とゼミ生による討論。担当教員による論文作成指導。
29,30.卒業論文の提出。担当教員による講評

論文ゼミナール

2019-4010000303-35

石上　悦朗

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　経済開発・アジア経済などに関して基本的な事項を理解でき、かつ論文のテーマについてを理解を深めること。　(A-2)

2. 世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析することができる。　(A-3)

3.広い意味での社会が直面している問題、課題に前向きに取り組むことができる。　(B-1)

4.　進行中および完成後の論文を的確にプレゼンテーションし、討論に参加できること。　(B-2)

5. 発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。 他のゼミ生が取り上げたテーマについても学習し討論することにより社会人としての基礎作りに役立つ。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　経済開発・アジア経済などに関して基本的な事項を理解でき、かつ論文のテーマについてを理解を深めること。　(A-2)

2. 世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析することができる。　(A-3)

3.広い意味での社会が直面している問題、課題に前向きに取り組むことができる。　(B-1)

4.　進行中および完成後の論文を的確にプレゼンテーションし、討論に参加できること。　(B-2)

5. 発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。 他のゼミ生が取り上げたテーマについても学習し討論することにより社会人としての基礎作りに役立つ。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-35

石上　悦朗

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　経済開発・アジア経済などに関して基本的な事項を理解でき、かつ論文のテーマについてを理解を深めること。　(A-2)

2. 世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析することができる。　(A-3)

3.広い意味での社会が直面している問題、課題に前向きに取り組むことができる。　(B-1)

4.　進行中および完成後の論文を的確にプレゼンテーションし、討論に参加できること。　(B-2)

5. 発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。 他のゼミ生が取り上げたテーマについても学習し討論することにより社会人としての基礎作りに役立つ。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.　経済開発・アジア経済などに関して基本的な事項を理解でき、かつ論文のテーマについてを理解を深めること。　(A-2)

2. 世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析することができる。　(A-3)

3.広い意味での社会が直面している問題、課題に前向きに取り組むことができる。　(B-1)

4.　進行中および完成後の論文を的確にプレゼンテーションし、討論に参加できること。　(B-2)

5. 発表者と司会進行をともに経験することによりゼミを通じたグループ討論の進行ができる。 他のゼミ生が取り上げたテーマについても学習し討論することにより社会人としての基礎作りに役立つ。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-36

井上　伊知郎

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

２年専門ゼミナールおよび３年専門ゼミナール、また各自の卒業論文のテーマに関する調査・研究をふまえて、卒業論文を完成してもらいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ゼミナールに積極的に参加する姿勢を身につけている。(態度・志向性)

プレゼンテーションの方法、討論の方法を身につけている。(技能)

研究テーマを体系的に説明できる。(技能)

研究テーマにふさわしい文献を発見し、内容を整理することができる。(知識・理解)

研究内容を秩序だって体系的に叙述できる。(知識・理解)

研究内容を実証できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

報告予定者は研究結果を報告レポートにまとめて事前に提出しておくこと。報告者以外の諸君は、報告者の報告予定レポートを事前に読んでおき、コメントする内容を考えておくこと。報告予定者は、コメントされた内容について卒論に反映できるよう事後的に工夫すること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

各自の研究テーマに関して十分な文献・統計資料を消化しているか、考察を深め、論理一貫した叙述ができているか、その論理を実証できているか、論文内容を自分の言葉でわかりやすく叙述できているか、書式を踏まえているか、等、卒業論文の完成度に75%、論文内容に関するメンバーからのコメントに対して適切な応答ができたか、メンバーの論文内容に対して有益なコメントをすることができたか等、卒業論文作成準備過程での内容に25%のウエイトをもって評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

各自で選定した研究書籍、統計資料、聞き取り調査の結果など。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

夏休み中には手許原稿を完成できるように、早めに取り組むこと。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに－卒業論文の体裁について－
2　素稿に関する報告と質疑応答（1）
3　素稿に関する報告と質疑応答（2）
4　素稿に関する報告と質疑応答（3）
5　素稿に関する報告と質疑応答（4）
6　素稿に関する報告と質疑応答（5）
7　素稿に関する報告と質疑応答（6）
8　素稿に関する報告と質疑応答（7）
9　素稿に関する報告と質疑応答（8）
10　素稿に関する報告と質疑応答（9）
11　素稿に関する報告と質疑応答（10）
12　素稿に関する報告と質疑応答（11）
13　素稿に関する報告と質疑応答（12）
14　素稿に関する報告と質疑応答（13）
15　素稿に関する報告と質疑応答（14）
16　論文構成や叙述に関する質疑応答（1）
17　論文構成や叙述に関する質疑応答（2）
18　論文構成や叙述に関する質疑応答（3）
19　論文構成や叙述に関する質疑応答（4）
20　論文構成や叙述に関する質疑応答（5）
21　論文構成や叙述に関する質疑応答（6）
22　論文構成や叙述に関する質疑応答（7）
23　完成稿に関する報告と質疑応答（1）
24　完成稿に関する報告と質疑応答（2）
25　完成稿に関する報告と質疑応答（3）
26　完成稿に関する報告と質疑応答（4）
27　完成稿に関する報告と質疑応答（5）
28　完成稿に関する報告と質疑応答（6）
29　完成稿に関する報告と質疑応答（7）
30　論文提出にあたっての諸注意

論文ゼミナール

2019-4010000303-36

井上　伊知郎

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.ゼミナールに積極的に参加する姿勢を身につけている。　(C-1)

2.プレゼンテーションの方法、討論の方法を身につけている。　(B-2)

3.研究テーマを体系的に説明できる。　(B-1)

4.研究テーマにふさわしい文献を発見し、内容を整理することができる。(A-3)

5.研究内容を秩序だって体系的に叙述できる。　(A-2)

6.研究内容を実証できる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.ゼミナールに積極的に参加する姿勢を身につけている。　(C-1)

2.プレゼンテーションの方法、討論の方法を身につけている。　(B-2)

3.研究テーマを体系的に説明できる。　(B-1)

4.研究テーマにふさわしい文献を発見し、内容を整理することができる。(A-3)

5.研究内容を秩序だって体系的に叙述できる。　(A-2)

6.研究内容を実証できる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-36

井上　伊知郎

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.ゼミナールに積極的に参加する姿勢を身につけている。　(C-1)

2.プレゼンテーションの方法、討論の方法を身につけている。　(B-2)

3.研究テーマを体系的に説明できる。　(B-1)

4.研究テーマにふさわしい文献を発見し、内容を整理することができる。(A-3)

5.研究内容を秩序だって体系的に叙述できる。　(A-2)

6.研究内容を実証できる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.ゼミナールに積極的に参加する姿勢を身につけている。　(C-1)

2.プレゼンテーションの方法、討論の方法を身につけている。　(B-2)

3.研究テーマを体系的に説明できる。　(B-1)

4.研究テーマにふさわしい文献を発見し、内容を整理することができる。(A-3)

5.研究内容を秩序だって体系的に叙述できる。　(A-2)

6.研究内容を実証できる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

木幡　伸二

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

学生は自ら決定したテーマに基づき、指導教員のアドバイスを受けながら、次のような手順で報告等を行うことによって、卒業論文を完成させます。
１．章別構成報告
３年終了時に報告した卒論のテーマ（仮）をもとに、テーマに関する問題意識、その時点で想定している章別構成、論文作成に際して主に参考に使用とする文献のリストについて報告します。
２．主要参考文献報告
論文作成に際して主に参考に使用としている文献の中から、最も興味のある文献の内容について報告します。
３．章別節別構成報告
論文の章別構成に加え、節まで想定した構成について報告します。
４．構成レジュメ報告
ここで「構成レジュメ」とは、節レベルより詳しい構成を想定したレジュメのことをさしますが、この段階では、最も準備の整った一つの章の構成について報告します。なお、これについては、必要に応じて夏期休暇中に行う予定です。
５．中間報告
準備の最も進んでいる一つの章について、構成レジュメの形あるいはドラフトの形で報告します。
６．最終報告
準備中の論文の章の中で、中間報告のものとは異なるもう一つの章について、構成レジュメの形あるいはドラフトの形で報告します。
７．個別指導
注や参考文献の書き方含む論文の形式的な部分の確認と内容の大まかなチェックを行い、各学生の論文執筆の促進を援助します。
８．口頭試問
論文提出後、その要旨を論文の目次及び参考文献リストとともに報告し、それに対する指導教員の質問等に答える形で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが置かれている現状について理解し、卒業論文の中で説明することができる。(知識・理解)

商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題について理解し、卒業論文の中で説明することができる。(知識・理解)

商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題の解決策を自ら提案することができる。(技能)

企業、産業、地域などが取り組むべき課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

概要の指示に従って各自の報告の準備を行ってください。（120分）
報告終了後は、報告に対するアドバイスに従い、次の報告に向けた準備を進めてください。（120分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価の要素は、（１）授業への参加態度30%、（２）提出された課題や報告の評価30%、（３）卒業論文の評価40%です。
（１）授業への参加態度では、ほかの学生の卒業論文作成過程での報告について真剣に聞いたり、アドバイスしたりするなどの積極的な姿勢がみられるかを基準に評価します。（２）提出された課題や報告の評価には、その都度出される課題の評価および卒業論文に関する様々な報告に関する評価が含まれます。（３）卒業論文の評価では、論文としての形式上の要件を満たしているか、論文の内容や主張が十分な資料の検討に基づいた妥当なものであるか、を基準に評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　前期の授業計画
２　論文の書き方
３　章別構成報告（１）
４　章別構成報告（２）
５　章別構成報告（３）
６　主要参考文献報告（１）
７　主要参考文献報告（２）
８　主要参考文献報告（３）
９　主要参考文献報告（４）
１０　主要参考文献報告（５）
１１　主要参考文献報告（６）
１２　主要参考文献報告（７）
１３　章別節別構成報告（１）
１４　章別節別構成報告（２）
１５　前期のまとめ
１６　後期の授業計画
１７　中間報告（１）
１８　中間報告（２）
１９　中間報告（３）
２０　中間報告（４）
２１　最終報告（１）
２２　最終報告（２）
２３　最終報告（３）
２４　最終報告（４）
２５　個別指導（１）
２６　個別指導（２）
２７　個別指導（３）
２８　個別指導（４）
２９　口頭試問
３０　後期のまとめ

論文ゼミナール

2019-4010000303-39

木幡　伸二

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが置かれている現状について理解し、卒業論文の中で説明することができる。　(A-2)

2.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題について理解し、卒業論文の中で説明することができる。　(A-3)

3.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題の解決策を自ら提案することができる。　(B-2)

5.企業、産業、地域などが取り組むべき課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが置かれている現状について理解し、卒業論文の中で説明することができる。　(A-2)

2.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題について理解し、卒業論文の中で説明することができる。　(A-3)

3.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題の解決策を自ら提案することができる。　(B-2)

5.企業、産業、地域などが取り組むべき課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-39

木幡　伸二

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが置かれている現状について理解し、卒業論文の中で説明することができる。　(A-2)

2.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題について理解し、卒業論文の中で説明することができる。　(A-3)

3.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題の解決策を自ら提案することができる。　(B-2)

5.企業、産業、地域などが取り組むべき課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが置かれている現状について理解し、卒業論文の中で説明することができる。　(A-2)

2.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題について理解し、卒業論文の中で説明することができる。　(A-3)

3.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.商学部で学んだ理論的・歴史的知識を用いて、企業、産業、地域などが取り組むべき課題の解決策を自ら提案することができる。　(B-2)

5.企業、産業、地域などが取り組むべき課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-40

佐々木　昇

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：木・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

２年専門ゼミナールおよび３年専門ゼミナールをふまえて、卒業論文の作成をおこないます。前半は、論文作成上の指導を行いますが、後半では、ゼミ生各自の卒論のテーマについて発表して、内容についての討論をします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

直接投資や多国籍企業について歴史的・理論的・実証的に説明することができる。(知識・理解)

直接投資や多国籍企業についての知識を用いて国際間や取引について課題を理解し、説明することができる(知識・理解)

直接投資や多国籍企業についての知識や理論を用いて国際間における取引の課題を発見できる。(技能)

直接投資や多国籍企業について情報や事例を収集し、課題解決策を提案することができる。(技能)

直接投資や多国籍企業について課題解決のために積極的に貢献しようとする態度を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各自卒論のテーマを決めて、自主的に卒論の作成に取り組む。（120分）
発表の際には、レジュメ等を事前に準備して発表する。(90分）
討論をふまえて、自分の論文の改善に努める。(90分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義の到達目標の達成度を評価基準とします。
研究報告の内容20%、討論に対する参加態度20%、卒業論文等の評価60%の割合で成績を判定します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミナールでは積極的に発言するすることを心掛けてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．授業の概要と説明
２．卒業論文作成の指導
３．卒業論文作成の指導
４．卒業論文作成の指導
５．卒業論文作成の指導
６．卒業論文作成の指導
７．卒業論文作成の指導
８．卒業論文作成の指導
９．卒業論文作成の指導
10. 卒業論文作成の指導
11. 卒業論文作成の指導
12. 卒業論文作成の指導
13. 卒業論文作成の指導
14. 卒業論文作成の指導
15. 卒業論文作成の指導
16. 卒業論文内容の発表と討論
17. 卒業論文内容の発表と討論
18. 卒業論文内容の発表と討論
19. 卒業論文内容の発表と討論
20. 卒業論文内容の発表と討論
21. 卒業論文内容の発表と討論
22. 卒業論文内容の発表と討論
23. 卒業論文内容の発表と討論
24. 卒業論文内容の発表と討論
25. 卒業論文内容の発表と討論
26. 卒業論文内容の発表と討論
27. 卒業論文内容の発表と討論
28. 卒業論文内容の発表と討論
29. 卒業論文内容の発表と討論
30. 授業の総括

論文ゼミナール

2019-4010000303-40

佐々木　昇

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.直接投資や多国籍企業について歴史的・理論的・実証的に説明することができる。　(A-2)

2.直接投資や多国籍企業についての知識を用いて国際間や取引について課題を理解し、説明することができる　(A-3)

3.直接投資や多国籍企業についての知識や理論を用いて国際間における取引の課題を発見できる。　(B-1)

4.直接投資や多国籍企業について情報や事例を収集し、課題解決策を提案することができる。　(B-2)

5.直接投資や多国籍企業について課題解決のために積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.直接投資や多国籍企業について歴史的・理論的・実証的に説明することができる。　(A-2)

2.直接投資や多国籍企業についての知識を用いて国際間や取引について課題を理解し、説明することができる　(A-3)

3.直接投資や多国籍企業についての知識や理論を用いて国際間における取引の課題を発見できる。　(B-1)

4.直接投資や多国籍企業について情報や事例を収集し、課題解決策を提案することができる。　(B-2)

5.直接投資や多国籍企業について課題解決のために積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-40

佐々木　昇

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.直接投資や多国籍企業について歴史的・理論的・実証的に説明することができる。　(A-2)

2.直接投資や多国籍企業についての知識を用いて国際間や取引について課題を理解し、説明することができる　(A-3)

3.直接投資や多国籍企業についての知識や理論を用いて国際間における取引の課題を発見できる。　(B-1)

4.直接投資や多国籍企業について情報や事例を収集し、課題解決策を提案することができる。　(B-2)

5.直接投資や多国籍企業について課題解決のために積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.直接投資や多国籍企業について歴史的・理論的・実証的に説明することができる。　(A-2)

2.直接投資や多国籍企業についての知識を用いて国際間や取引について課題を理解し、説明することができる　(A-3)

3.直接投資や多国籍企業についての知識や理論を用いて国際間における取引の課題を発見できる。　(B-1)

4.直接投資や多国籍企業について情報や事例を収集し、課題解決策を提案することができる。　(B-2)

5.直接投資や多国籍企業について課題解決のために積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-41

服部　彰

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

１．ゼミナール参加者が、「経済」、「政治」などに関する重要なテーマを自分で選択し、報告し、質疑応答を行います。報告者以外はメモをとります。報告、質疑応答後、メモに基づいて、報告テーマに関して、解説の文章を作成します。
２．報告、質疑応答、文章作成能力を養います。
３．定期的に教師が重要な課題に関する資料を提供し、十分理解しているかどうかの確認作業を、課題に関する説明文書作成という形で行います。
４．以上の作業を行いながら卒業論文のテーマを決定します。
５．卒業論文の作成方法を指導します。
６．同時に可能な範囲で、就職指導を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。(知識・理解)

商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。(知識・理解)

先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。(技能)

地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。(技能)

国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

１．予習：ゼミナールで事前に指摘する学習範囲を予習し、何が問題であり、その問題の解決策としてどのようなものが想定できるか考えておくこと。
２．復習：ゼミナール終了後、ゼミナールで取り上げた課題と課題解決策について、自分自身の意見を反映した文書を作成して提出し、復習が十分なされたかどうか確認作業を行います。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　卒業論文（１００％）の完成度から、上記到達目標達成度の評価を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　テーマ選択の参考になる資料を事前に配布するか、どのようなテーマを選択したらよいのか事前に説明します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．ゼミナール運営の説明
２．報告・質疑応答・文書作成
３．報告・質疑応答・文書作成
４．報告・質疑応答・文書作成
５．報告・質疑応答・文書作成
６．報告・質疑応答・文書作成
７．報告・質疑応答・文書作成
８．報告・質疑応答・文書作成
９．報告・質疑応答・文書作成
１０．報告・質疑応答・文書作成
１１．報告・質疑応答・文書作成
１２．卒業論文テーマ検討会
１３．卒業論文テーマ検討会
１４．ゼミナール反省会（１）
１５．ゼミナール反省会（２）
１６．卒業論文作成作業
１７．卒業論文作成作業
１８．卒業論文作成作業
１９．卒業論文作成作業
２０．卒業論文作成作業
２１．卒業論文作成作業
２２．卒業論文作成作業
２３．卒業論文作成作業
２４．卒業論文作成検討会
２５．卒業論文作成検討会
２６．卒業論文作成検討会
２７．卒業論文作成検討会
２８．まとめ（１）
２９．まとめ（２）
３０．ゼミナール反省会（３）

論文ゼミナール

2019-4010000303-41

服部　彰

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。　(A-2)

2.商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。　(B-2)

5.国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。　(A-2)

2.商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。　(B-2)

5.国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-41

服部　彰

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。　(A-2)

2.商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。　(B-2)

5.国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明できる。　(A-2)

2.商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。　(A-3)

3.先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。　(B-1)

4.地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。　(B-2)

5.国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-42

山本　和人

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：火・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

　卒業論文の作成を次の順序で行います。１．テーマの決定、２．そのテーマに関連する文献・資料の検索と収集、３．章別構成の検討、４．各章の節構成の検討、５．中間発表（３回以上）、６．執筆と脱稿。

◎－－－　到達目標　－－－◎

2年次、3年次のゼミナールで培った商学や経済に関する様々な知識を駆使し、自己の見解を筋道を立てて説明する能力と文章力を身に着けることができる。(知識・理解)

卒業論文執筆に必要な様々な資料やデータを収集し、それらをもとに自らの見解をまとめ、プレゼンテーションすることができるようになる。(知識・理解)

論文の執筆を通じて、商学、経営、貿易に関して、各分野の特定の問題に焦点を絞る能力が培われる。(技能)

特定の問題に焦点を当て、その問題を追及することで、社会の全体像を見る目が養われえる。(技能)

論文の作成を通じて、社会の状況を理解し、社会と関わる意識が培われる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　テーマの設定から完成まで、教師やその他のゼミ生の指摘した点を参考にしながら、図書館やネットを利用し、文献の収集と読解、それらをもとにして論文の構成を考え、執筆へと進みます。したがって授業以外の学習時間が相当必要になります。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　評価の方法とその配分割合は次の通りです。授業への貢献度（10%）、卒業論文に関する報告とプレゼンテーション能力（20%）、卒業論文の内容（70%）によって判断します。具体的には、どれだけ多くの資料や文献にあたって卒業論文を作成したのか、卒業論文には問題意識がしっかり示され、論理の筋道が通っているか、が主な評価の基準となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　卒業論文の作成とそれに伴う一連の発表が中心となるので、テキストは用いません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期：
１．テーマの決定
２～４．文献・資料の検索と収集
５～８．章別構成の検討と発表
９～12．各章の節別構成の検討と発表
13～15．梗概の提出と発表

後期：
１～13．中間発表（各自3回以上）
14～15．卒業論文に対する論評

論文ゼミナール

2019-4010000303-42

山本　和人

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.2年次、3年次のゼミナールで培った商学や経済に関する様々な知識を駆使し、自己の見解を筋道を立てて説明する能力と文章力を身に着けることができる。　(A-2)

2.卒業論文執筆に必要な様々な資料やデータを収集し、それらをもとに自らの見解をまとめ、プレゼンテーションすることができるようになる。　(A-3)

3.論文の執筆を通じて、商学、経営、貿易に関して、各分野の特定の問題に焦点を絞る能力が培われる。　(B-1)

4.特定の問題に焦点を当て、その問題を追及することで、社会の全体像を見る目が養われえる。　(B-2)

5.論文の作成を通じて、社会の状況を理解し、社会と関わる意識が培われる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.2年次、3年次のゼミナールで培った商学や経済に関する様々な知識を駆使し、自己の見解を筋道を立てて説明する能力と文章力を身に着けることができる。　(A-2)

2.卒業論文執筆に必要な様々な資料やデータを収集し、それらをもとに自らの見解をまとめ、プレゼンテーションすることができるようになる。　(A-3)

3.論文の執筆を通じて、商学、経営、貿易に関して、各分野の特定の問題に焦点を絞る能力が培われる。　(B-1)

4.特定の問題に焦点を当て、その問題を追及することで、社会の全体像を見る目が養われえる。　(B-2)

5.論文の作成を通じて、社会の状況を理解し、社会と関わる意識が培われる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-42

山本　和人

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.2年次、3年次のゼミナールで培った商学や経済に関する様々な知識を駆使し、自己の見解を筋道を立てて説明する能力と文章力を身に着けることができる。　(A-2)

2.卒業論文執筆に必要な様々な資料やデータを収集し、それらをもとに自らの見解をまとめ、プレゼンテーションすることができるようになる。　(A-3)

3.論文の執筆を通じて、商学、経営、貿易に関して、各分野の特定の問題に焦点を絞る能力が培われる。　(B-1)

4.特定の問題に焦点を当て、その問題を追及することで、社会の全体像を見る目が養われえる。　(B-2)

5.論文の作成を通じて、社会の状況を理解し、社会と関わる意識が培われる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.2年次、3年次のゼミナールで培った商学や経済に関する様々な知識を駆使し、自己の見解を筋道を立てて説明する能力と文章力を身に着けることができる。　(A-2)

2.卒業論文執筆に必要な様々な資料やデータを収集し、それらをもとに自らの見解をまとめ、プレゼンテーションすることができるようになる。　(A-3)

3.論文の執筆を通じて、商学、経営、貿易に関して、各分野の特定の問題に焦点を絞る能力が培われる。　(B-1)

4.特定の問題に焦点を当て、その問題を追及することで、社会の全体像を見る目が養われえる。　(B-2)

5.論文の作成を通じて、社会の状況を理解し、社会と関わる意識が培われる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-43

松永　達

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

卒業論文の作成のための分析視角の設定、文献・資料収集の方法、文献・資料の読解とまとめ、論文構成の計画と決定、論文の執筆と順をおって指導を行います。
前期では、各人が論文構想を少なくとも４回報告します。毎回のゼミで４～５人が報告します。
後期では、必要に応じて論文構想を１～２回報告してから、論文作成に取りかかります。論文作成中は、随時指導を行います。
卒論提出後、論文発表会を実施します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題の現状やその背景を説明することができる。(知識・理解)

世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題について、論文で探求する課題を見いだすことができる。(技能)

世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題について、論点を設定することができる。(技能)

設定した論点について、必要となる知見に基づいて論証し、一本の論文にまとめることができる。(知識・理解)

論文で設定した論点や得られた結論について、その社会的意義を説明することができる。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

前期および後期の最初は、自分の論文構想報告の準備を計画的に行い、ゼミで発表した後は、必要に応じて、指摘された部分を修正した報告を準備すること（90分）。
後期は、論文執筆に取りかかり、計画的に作成していくこと（90分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

主に、上記の到達目標が達成されているかどうかが成績評価の基準となります。そのほか、前期と後期の論文構想報告の内容、ゼミでの発表や質疑応答に取り組む積極性を総合して成績評価を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

全体に共通するテキストはありません。

◎－－－　参考書　－－－◎

まず文献や資料の収集の方法を指導します。そして、必要に応じて、それぞれのテーマごとに参照すべき文献を指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

卒論執筆までの各段階のスケジュールを設定します。
それぞれの期日までに、自分で着実に準備をこなすことが重要です。
今までゼミで勉強してきたことを踏まえて、自分で納得のいく卒論を仕上げてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

前期
1～4　　論文構想報告（１回目）
5～8　　論文構想報告（２回目）
9～12　論文構想報告（３回目）
13～15　論文構想報告（４回目）

後期
16～22　論文構想報告（５～６回目）
23～28　論文執筆
29～30　論文発表会

論文ゼミナール

2019-4010000303-43

松永　達

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題の現状やその背景を説明することができる。　(A-2)

2.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題について、論文で探求する課題を見いだすことができる。　(B-1)

3.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題について、論点を設定することができる。　(B-2)

4.設定した論点について、必要となる知見に基づいて論証し、一本の論文にまとめることができる。　(A-3)

5.論文で設定した論点や得られた結論について、その社会的意義を説明することができる。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題の現状やその背景を説明することができる。　(A-2)

2.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題について、論文で探求する課題を見いだすことができる。　(B-1)

3.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題について、論点を設定することができる。　(B-2)

4.設定した論点について、必要となる知見に基づいて論証し、一本の論文にまとめることができる。　(A-3)

5.論文で設定した論点や得られた結論について、その社会的意義を説明することができる。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-43

松永　達

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題の現状やその背景を説明することができる。　(A-2)

2.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題について、論文で探求する課題を見いだすことができる。　(B-1)

3.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題について、論点を設定することができる。　(B-2)

4.設定した論点について、必要となる知見に基づいて論証し、一本の論文にまとめることができる。　(A-3)

5.論文で設定した論点や得られた結論について、その社会的意義を説明することができる。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題の現状やその背景を説明することができる。　(A-2)

2.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題について、論文で探求する課題を見いだすことができる。　(B-1)

3.世界の貿易や途上国の経済社会に関する諸問題について、論点を設定することができる。　(B-2)

4.設定した論点について、必要となる知見に基づいて論証し、一本の論文にまとめることができる。　(A-3)

5.論文で設定した論点や得られた結論について、その社会的意義を説明することができる。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-44

田代　安彦

期別：通年　　単位数：6　　開講年次：４　　授業形態：演習　　実務経験：　　科目水準：上級　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・３時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

物や人、お金、知財などのサービスや仕組みに関する国際貿易は、アジアや日本にとって大変重要です。特に自分が興味ある貿易分野について、歴史、現状、今後の環境変化について体系的にフォローし、その分野における専門知識と関連する理論を修得し、プレゼンテーションを通じて、これらを簡潔に説明して、理解を得たうえで、自身が設定した未来の課題やアイデアについて、簡潔に説明できるようにします。さらにグループ討議を自らリードし、他メンバーからの多面的な見方や意見を取り入れ、提案内容を高めるプロセスを修得して、卒論につなげます。

１．様々な貿易分野、業界のことを知る。（２年ゼミ実施済）
（１）今後の環境変化と気になる貿易分野、企業についての研究、発表
（２）選択した貿易分野や企業についての研究・発表、レポート
（３）物流ターミナルほか見学

２．選択した貿易分野の業務の流れと今後の環境変化、ニーズや取り組み課題（地域社会、国際貢献を含む）について、研究し、考え、発表する。また、メンバーとの討議を通じ、新たな気づきを得ながら、興味ある貿易分野での戦略的な企画提案をまとめる。（３年ゼミ実施済）
＜取り上げる環境変化例＞
国際化・自由化の進展と競争の激化
人口増加と資源の希少性、環境問題など持続可能性・共存ニーズ増加
中間所得層の増加とサービス需要の増加、
ＩＴ、情報、ロボット、医療、再生などの技術革新、
日本の少子高齢化とＩＯＴ，ロボット革命、付加ニーズの価値など

３．自分で選択した産業界や企業の歴史、現状を分析し、未来の環境変化を見据え、現在の強みを活かしながら、利益を増やし、さらに地域・国際貢献できる実践企画を策定し、簡潔に発表し理解を得る。同時に、他のメンバーによる気づきやアドバイスをとりいれた改善策を加え、論文にまとめる。
（４年本ゼミ）
必要に応じ、合宿を実施する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

選んだ企業、産業、地域を取り巻く環境変化のポイントを人、物、お金、サービスの視点で整理し説明できる。(知識・理解)

選んだ企業、産業の今後の環境変化と具体的対応策をまとめることが出来る。(知識・理解)

企業、産業、地域で取り組むべき将来の具体的課題をプロジェクトとして、実践できるよう自身の企画を説明できる。(技能)

上記課題解決の方法をグループ討議にて、より良い対応策を導き出すため、チーム討議課題の設定、役割分担、司会などで討議をリードできる。(技能)

上記グループ討議のまとめを具体的事例などをもとに理論的に整理し、一つの戦略企画として論文にまとめ、発表することが出来る。(態度・志向性)

企業、産業、地域の課題とその解決策に具体的社会貢献、地域貢献案を他メンバーの意見を取り入れて、盛り込むことが出来る。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義で取り上げた課題について、幅広く書籍、雑誌、新聞から、英語、日本語を問わず関連する知識やニュース、分析記事の内容を吸収・理解する時間を最低３０分毎日持ち、自分の意見をまとめ、さらに意見交換できるようにポイントを５分で話せるように整理しましょう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

研究テーマの①発表、②討議への取り組み姿勢、③卒業論文の完成度を見て、目標レベルに達しているかどうか(①25%②25%③50%)で評価します。
①発表では、学んだ基礎知識や用語を理解して、適切な事前準備をしたか、　歴史や現況を踏まえた上で、起きている環境変化と対応のポイントを的確に整理し、自身の視点を加え発表できたかどうか、パワーポイントでまとめて、解りやすく発表できたかどうかを評価の基準とします。②討議への取り組み姿勢では、テーマへの考察をより高い次元に高めるべく討議をリードできたか、討議に積極的に参加し、新しい気づきや視点を与えることができたかどうかを評価基準とし、③卒業論文の完成度は、①、②を通じて得られた知見を貿易や商取引に如何に活かすか、また社会貢献にどのように繋げるかについて、自分の考察を解りやすく論文として完成できたかどうかを見て評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。参考資料を都度配布およびアドバイスします。

◎－－－　参考書　－－－◎

『２０３０年世界はこう変わる』（講談社）　ISBN 9784062183765
都度必要に応じアドバイスします。その他会社四季報、日経新聞

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

自分の選択した興味あるテーマについて、常に未来の課題は何か？すべき対応は何かを考えまとめてみる習慣を身につけましょう。そのうえで、ゼミメンバー、グループ内で相互に意見交換し、新たな気づきを踏まえて自分の考えをグレードアップするよう心がけます。自分の選んだテーマと違う分野について自分も考え、アドバイスすることで自分の関連した分野での新たな気づきが得られることを積極的に体験しましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１～７回
未来の貿易と社会貢献、国際貢献を考える視点とゼミメンバーの研究、論文課題、論点確認
第８回　今後の進め方、まとめ方の確認
第９回～１５回
各人　レポート進捗状況発表
意見交換
（選択分野での必要知識まとめ、各分野でどのような未来の環境変化があり、自分の選択分野でどのような課題や改善が可能か更に、地域・社会、国際貢献のためにどのような最終的目標をおくことが望ましいかについて自分の考える方向性を発表し、メンバーで意見交換する。その際の集団討議を効率よく進めるよう準備し、討議をリードして、良い意見を企画に盛り込む）
第１６回～２９回
まとめの作成と発表、論文提出
第３０回　総括

論文ゼミナール

2019-4010000303-44

田代　安彦

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.選んだ企業、産業、地域を取り巻く環境変化のポイントを人、物、お金、サービスの視点で整理し説明できる。　(A-2)

2.選んだ企業、産業の今後の環境変化と具体的対応策をまとめることが出来る。　(A-3)

3.企業、産業、地域で取り組むべき将来の具体的課題をプロジェクトとして、実践できるよう自身の企画を説明できる。　(B-1)

4.上記課題解決の方法をグループ討議にて、より良い対応策を導き出すため、チーム討議課題の設定、役割分担、司会などで討議をリードできる。　(B-2)

5.上記グループ討議のまとめを具体的事例などをもとに理論的に整理し、一つの戦略企画として論文にまとめ、発表することが出来る。　(C-1)

6.企業、産業、地域の課題とその解決策に具体的社会貢献、地域貢献案を他メンバーの意見を取り入れて、盛り込むことが出来る。　(C-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。
(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

◎経営:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.選んだ企業、産業、地域を取り巻く環境変化のポイントを人、物、お金、サービスの視点で整理し説明できる。　(A-2)

2.選んだ企業、産業の今後の環境変化と具体的対応策をまとめることが出来る。　(A-3)

3.企業、産業、地域で取り組むべき将来の具体的課題をプロジェクトとして、実践できるよう自身の企画を説明できる。　(B-1)

4.上記課題解決の方法をグループ討議にて、より良い対応策を導き出すため、チーム討議課題の設定、役割分担、司会などで討議をリードできる。　(B-2)

5.上記グループ討議のまとめを具体的事例などをもとに理論的に整理し、一つの戦略企画として論文にまとめ、発表することが出来る。　(C-1)

6.企業、産業、地域の課題とその解決策に具体的社会貢献、地域貢献案を他メンバーの意見を取り入れて、盛り込むことが出来る。　(C-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

論文ゼミナール

2019-4010000303-44

田代　安彦

◎貿易:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.選んだ企業、産業、地域を取り巻く環境変化のポイントを人、物、お金、サービスの視点で整理し説明できる。　(A-2)

2.選んだ企業、産業の今後の環境変化と具体的対応策をまとめることが出来る。　(A-3)

3.企業、産業、地域で取り組むべき将来の具体的課題をプロジェクトとして、実践できるよう自身の企画を説明できる。　(B-1)

4.上記課題解決の方法をグループ討議にて、より良い対応策を導き出すため、チーム討議課題の設定、役割分担、司会などで討議をリードできる。　(B-2)

5.上記グループ討議のまとめを具体的事例などをもとに理論的に整理し、一つの戦略企画として論文にまとめ、発表することが出来る。　(C-1)

6.企業、産業、地域の課題とその解決策に具体的社会貢献、地域貢献案を他メンバーの意見を取り入れて、盛り込むことが出来る。　(C-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3,B-1,B-2,C-1

1.選んだ企業、産業、地域を取り巻く環境変化のポイントを人、物、お金、サービスの視点で整理し説明できる。　(A-2)

2.選んだ企業、産業の今後の環境変化と具体的対応策をまとめることが出来る。　(A-3)

3.企業、産業、地域で取り組むべき将来の具体的課題をプロジェクトとして、実践できるよう自身の企画を説明できる。　(B-1)

4.上記課題解決の方法をグループ討議にて、より良い対応策を導き出すため、チーム討議課題の設定、役割分担、司会などで討議をリードできる。　(B-2)

5.上記グループ討議のまとめを具体的事例などをもとに理論的に整理し、一つの戦略企画として論文にまとめ、発表することが出来る。　(C-1)

6.企業、産業、地域の課題とその解決策に具体的社会貢献、地域貢献案を他メンバーの意見を取り入れて、盛り込むことが出来る。　(C-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

アジア経済論Ａ

2019-4030000400-01

木幡　伸二

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：2020/01/21　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

１．授業内容
　中国経済を開発経済学の視点から分析します。
　第１に、中国経済の発展過程とその特徴について、第２に、中国における工業化について、第３に、中国の国有企業改革の到達点について、第４に、中国の農村と農業について、第5に、中国の人口動態と労働市場について、第６に、中国の経済発展における貿易・外資の役割について、第７に、日中（経済）関係について検討を行います。
２．授業の進め方
　授業はテキストを使って、（１）テキストにおける筆者の主張と担当教員の見解の説明、（２）経済学的な解説など関連事項の説明、（３）質問と解説の順番で進めます。また、テキスト各章または項目の説明終了後に小テストを行い、基本的な概念などの確認を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

中国経済の発展過程や主要な分野に関する基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

中国経済の発展過程や主要な分野の現状を理解し、説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　予習では、テキストの当該部分を読み、その概要について確認してください（30分）。
　復習では、テキストや配付資料に基づいてノートを整理し、不明の点があれば参考書などで確認してください（60分）。それでも解決できない場合は、オフィスアワー等を利用して遠慮なく質問してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　成績評価の対象となる要素は、定期試験の成績と小テストの評価です。
　小テストでは、中国経済に関する基本的な知識を身につけているかどうかを基準に評価します。定期試験では、中国経済現状について理解しているかどうかを基準にして評価します。
　定期試験の成績65%、小テストの評価35%をとして総合的に評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

南亮進、牧野文夫編『中国経済入門[第４版］高度成長の終焉と安定成長への途』日本評論社、2016年　ISBN 9784535558663

◎－－－　参考書　－－－◎

劉敬文、任雲、肖厳華著『現代中国経済』朝日出版社、2015年　ISBN 9784255008318
21世紀中国総研編『中国情報ハンドブック[2018年版]』蒼蒼社、2015年　ISBN 978488360137
中兼和津次著『開発経済学と現代中国』名古屋大学出版会、2012年　ISBN 9784815807108

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　受講者は、開発経済学の基礎について学ぶ「開発経済論A」の受講を強く推奨します。
　また、関連する授業として、「開発経済論B」、「アジア経済論B」、「国際協力論A」及び「国際協力論B」を受講することを推奨します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　　授業概要
２　　中国の経済発展過程
３　　中国の経済発展の特徴と課題
４　　産業構造の変化と中国の工業化
５　　中国の工業成長の要因
６　　中国の国有企業改革の経緯
７　　中国の国有企業改革の到達点
８　　中国の農業・農村改革
９　　中国農村・農業の現状と課題
１０　中国の人口構造の変化
１１　中国の労働市場と社会保障の再構築
１２　中国の貿易と経済発展
１３　中国の外資導入と経済発展
１４　日中関係の変化と展望
１５　まとめ

アジア経済論Ａ

2019-4030000400-01

木幡　伸二

◎貿易:A-1,A-2

1.中国経済の発展過程や主要な分野に関する基本的な知識を身につけている。(A-1)

2.中国経済の発展過程や主要な分野の現状を理解し、説明することができる。(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.中国経済の発展過程や主要な分野に関する基本的な知識を身につけている。(A-1)

2.中国経済の発展過程や主要な分野の現状を理解し、説明することができる。(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

アジア経済論Ａ

2019-4030000400-01

木幡　伸二

◎経営:A-1,A-2

1.中国経済の発展過程や主要な分野に関する基本的な知識を身につけている。(A-1)

2.中国経済の発展過程や主要な分野の現状を理解し、説明することができる。(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

アジア経済論Ｂ

2019-4030000401-01

石上　悦朗

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・３時限　　試験時間割：2020/01/16　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　インド・南アジア経済は世界の中でいま最も注目を集めているといって過言ではない。
　本講義は右に示したテキストを教材として用いる。本講義は15億人以上の人口を持つインド・南アジア諸国を対象として、経済発展の経緯と現状および課題などについて多面的に学習する。開発経済論Ｂでもふれたが、インド・南アジア諸国はサブサハラ（サハラ砂漠以南のアフリカ）とともに長い間、世界の貧困問題したがって開発問題の焦点となっている地域である。しかし、前者は近年、高成長とともに変化も著しい。「成長のインド・南アジア」という側面を産業発展に重点を置いて学習する。また、講義に際しては東アジア諸国の経済発展・産業発展との比較検討という視点も重視する。
　受講生はテキストについて指示した章・節などに関して事前・事後の学習が求められる。受講生はこのためにあわせて数回のレポートを提出する。
　入手可能な最新の統計データ、政策文書等は講義時に資料として別途配布する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

インドと南アジア諸国の人間開発の状況を国際社会の中に位置づけるとともに、基本的な特徴とそれぞれの国の開発の背景を理解することができる。(知識・理解)

インドの産業発展について、東アジア諸国のそれと比較しながら、開発戦略および主要な産業部門の特徴を理解し、人間開発に対する含意を考えることができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・授業の進度に合わせ、毎回事前にテキストの該当箇所の学習が求められる。（60分）
・その他資料（ウェブサイトを含む）の閲覧・学習等を指示する。（20分）
・特定のトピックおよびテキストの指定した章について数回レポートを作成する。（各90分）
・講義終了後、該当章を復習、理解の深化のために再度読むことが求められる。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・到達目標に記した内容の理解度を基準とする。
・定期試験における成績を６割、レポートを４割考慮し、総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　石上悦朗・佐藤隆広編『現代インド・南アジア経済論』ミネルヴァ書房、2011年刊。（本体3500円）
ISBN:9784623058716。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　木幡先生担当のアジア経済論Aを併せ履修することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. 講義案内―経済開発と産業発展におけるインド・南アジア
2.インド・南アジアの経済開発と人間開発
3.インドの農業と農村
4.インドの財政と財政制度
5.インドの金融システム
6.インドの国際貿易と資本移動
7.インドの産業政策の展開
8.インドの鉄鋼業
9.インドの自動車産業
10.繊維産業と製薬産業
11.ICT（情報通信技術）産業
12.インドの財閥について
13.パキスタンの経済発展
14.バングラデシュの経済発展
15.スリランカとネパールの経済発展
　・授業のまとめ

　以上の講義計画の一部を受講生のテキストでの自習とレポート作成に委ねることがある。

アジア経済論Ｂ

2019-4030000401-01

石上　悦朗

◎貿易:A-1,A-2

1.インドと南アジア諸国の人間開発の状況を国際社会の中に位置づけるとともに、基本的な特徴とそれぞれの国の開発の背景を理解することができる。(A-1)

2.インドの産業発展について、東アジア諸国のそれと比較しながら、開発戦略および主要な産業部門の特徴を理解し、人間開発に対する含意を考えることができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.インドと南アジア諸国の人間開発の状況を国際社会の中に位置づけるとともに、基本的な特徴とそれぞれの国の開発の背景を理解することができる。(A-1)

2.インドの産業発展について、東アジア諸国のそれと比較しながら、開発戦略および主要な産業部門の特徴を理解し、人間開発に対する含意を考えることができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

アジア経済論Ｂ

2019-4030000401-01

石上　悦朗

◎経営:A-1,A-2

1.インドと南アジア諸国の人間開発の状況を国際社会の中に位置づけるとともに、基本的な特徴とそれぞれの国の開発の背景を理解することができる。(A-1)

2.インドの産業発展について、東アジア諸国のそれと比較しながら、開発戦略および主要な産業部門の特徴を理解し、人間開発に対する含意を考えることができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

アメリカ経済論Ⅰ（成長の基盤）

2019-4030000396-01

掛下　達郎

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・２時限　　試験時間割：2019/07/29　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

現在の日本経済を語るには、アメリカ経済を理解することが重要です。通常、アメリカ経済は自由競争の側面が紹介されています。講義では、自由競争を支える消費社会、軍需産業、福祉国家を取り上げます。そして、それらを含むアメリカ・モデル全体の普遍性と特殊性にも目を向けて、アメリカ経済の構造を考えてみたいと思います。マクロ経済学のフレームの中で、アメリカ型経済、パックス・アメリカーナ、持続的成長を学ぶことによって、これらの問題を考えていきたいと思います。その中で、経済理論と現実の関係を扱っていきたいと思います。なるべくビデオ、写真、図表を使って皆さんの頭の中に具体的なイメージが湧くようにしてみます。本講義全体から、経済学の有効性と限界を感じてもらえたら有難いと考えています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

アメリカ型経済の特徴を理解している。(知識・理解)

アメリカ経済の世界的な影響力を理解している。(知識・理解)

基礎的な経済理論を使って経済成長の限界を説明することができる。(知識・理解)

金融が経済成長をどのように促進するかについて説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義前にテキストの該当部分を読んでおきましょう。参考書まで読むことができれば評価が上がります（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験では、アメリカ経済の世界的な影響力と経済成長を自分の言葉で正確に説明できているかを評価の基準とする。
小テストではアメリカ型経済の特徴を自分の言葉で正確に説明できているかを評価の基準とする。
定期試験の成績を70%、小論文形式の小テストの評価を30%で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

河﨑信樹・吉田健三・田村太一・渋谷博史『現代アメリカの経済社会：理念とダイナミズム』東京大学出版会、2018年、2,800円、ISBN978-4130421492

◎－－－　参考書　－－－◎

河村哲二『現代アメリカ経済』有斐閣アルマ、2003年、2,300円　ISBN 978-4641121706
渋谷博史『アメリカ・モデルの企業と金融：グローバル化とITとウォール街』昭和堂、2011年、3,000円　ISBN 978-4812211311
ロバート・J・ゴードン『アメリカ経済 成長の終焉』（上・下）、日経BP社、2018年、3,600円、3,800円　ISBN 978-4822255763

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

アメリカ経済論IIと併せて受講すると良いでしょう。また国際貿易論I/II、国際金融論I/II、開発経済論A/Bなどと併せて受講するとより理解が深まります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション
2 アメリカ経済社会の理念
3 アメリカ経済社会の基本構造
4 アメリカ型経済の形成
5 世界的インパクトの源泉としてのアメリカ
6 戦後パックス・アメリカーナの確立
7 戦後アメリカ経済の基本構造
8 小テスト
9 戦後パックス・アメリカーナの衰退と転換
10 持続的成長システムの限界の顕在化
11 医療保険改革と課題
12 経済活性化の模索と金融的発展
13 新自由主義とアメリカ化
14 経常収支赤字の原因
15 まとめ：次なる課題

アメリカ経済論Ⅰ（成長の基盤）

2019-4030000396-01

掛下　達郎

◎貿易:A-1,A-2

1.アメリカ型経済の特徴を理解している。　(A-1)

2.アメリカ経済の世界的な影響力を理解している。　(A-1)

3.基礎的な経済理論を使って経済成長の限界を説明することができる。　(A-2)

4.金融が経済成長をどのように促進するかについて説明できる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.アメリカ型経済の特徴を理解している。　(A-1)

2.アメリカ経済の世界的な影響力を理解している。　(A-1)

3.基礎的な経済理論を使って経済成長の限界を説明することができる。　(A-2)

4.金融が経済成長をどのように促進するかについて説明できる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

アメリカ経済論Ⅰ（成長の基盤）

2019-4030000396-01

掛下　達郎

◎経営:A-1,A-2

1.アメリカ型経済の特徴を理解している。　(A-1)

2.アメリカ経済の世界的な影響力を理解している。　(A-1)

3.基礎的な経済理論を使って経済成長の限界を説明することができる。　(A-2)

4.金融が経済成長をどのように促進するかについて説明できる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.アメリカ型経済の特徴を理解している。　(A-1)

2.アメリカ経済の世界的な影響力を理解している。　(A-1)

3.基礎的な経済理論を使って経済成長の限界を説明することができる。　(A-2)

4.金融が経済成長をどのように促進するかについて説明できる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

アメリカ経済論Ⅱ（成長の終焉）

2019-4030000397-01

掛下　達郎

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・２時限　　試験時間割：2020/01/23　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

アメリカ経済論Iに続いてアメリカ・モデルについて考えます。日本経済と比べると、アメリカ経済は自由競争が特徴です。講義では、その自由競争に注目してアメリカの産業構造を考えてみたいと思います。たとえば、自由競争を支える自動車産業、ICT産業、農業です。これらの産業がグローバル化や金融化の中でどのように変質しているかを取り上げます。それによって、ミクロ経済学のフレームの中で、アメリカ企業の強さとアメリカ・モデルの現代的トピックスを紹介していきます。その中で、経済理論と現実の関係を扱っていきたいと思います。なるべくビデオ、写真、図表を使って皆さんの頭の中に具体的なイメージが湧くようにしてみます。本講義全体から、経済学の有効性と限界を感じてもらえたら有難いと考えています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

アメリカ企業の強さを理解している。(知識・理解)

経済成長におけるベンチャー企業の役割を理解している。(知識・理解)

経済成長について標準的なマクロ経済学を用いて説明できる。(知識・理解)

グローバル化、新自由主義、アメリカ化についてその関連を説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義前にテキストの該当部分を読んでおきましょう。参考書まで読むことができれば評価が上がります（60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験では、ベンチャー企業、世界経済危機、グローバル化、新自由主義、アメリカ化を自分の言葉で正確に説明できているかを評価の基準とする。
小テストではアメリカ企業の強さを自分の言葉で正確に説明できているかを評価の基準とする。
定期試験の成績を70%、小論文形式の小テストの評価を30%で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

河﨑信樹・吉田健三・田村太一・渋谷博史『現代アメリカの経済社会：理念とダイナミズム』東京大学出版会、2018年、2,800円、ISBN978-4-13-042149-2

◎－－－　参考書　－－－◎

渋谷博史『アメリカ・モデルの企業と金融：グローバル化とITとウォール街』昭和堂、2011年、3,000円　ISBN 978-4812211311
ロバート・J・ゴードン『アメリカ経済 成長の終焉』（上・下）、日経BP社、2018年、3,600円、3,800円　ISBN 978-4822255763
河村哲二『現代アメリカ経済』有斐閣アルマ、2003年、2,300円　ISBN 978-4641121706

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

アメリカ経済論Ⅰを履修していることが好ましい。国際貿易論I/II、国際金融論I/II、開発経済論A/Bなどを履修するとより理解が深まります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション
2 貿易・国際金融構造の変化
3 国際経済政策:アメリカ・モデルのグローバル展開
4 再編と転換の時代としての1980年代
5 1990年代のアメリカ経済
6 IBMの事業再編とグローバル展開
7 航空規制緩和のインパクト
8 小テスト
9 自動車産業の再生
10 農業大国アメリカ
11 グローバル化の推進軸としてのICT産業
12 構造変化が生み出すサービス産業の拡大
13 成長の減速
14 格差の拡大
15 まとめ：市場経済をみる眼

アメリカ経済論Ⅱ（成長の終焉）

2019-4030000397-01

掛下　達郎

◎貿易:A-1,A-2

1.アメリカ企業の強さを理解している。　(A-1)

2.経済成長におけるベンチャー企業の役割を理解している。　(A-1)

3.経済成長について標準的なマクロ経済学を用いて説明できる。　(A-2)

4.グローバル化、新自由主義、アメリカ化についてその関連を説明できる。(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.アメリカ企業の強さを理解している。　(A-1)

2.経済成長におけるベンチャー企業の役割を理解している。　(A-1)

3.経済成長について標準的なマクロ経済学を用いて説明できる。　(A-2)

4.グローバル化、新自由主義、アメリカ化についてその関連を説明できる。(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

アメリカ経済論Ⅱ（成長の終焉）

2019-4030000397-01

掛下　達郎

◎経営:A-1,A-2

1.アメリカ企業の強さを理解している。　(A-1)

2.経済成長におけるベンチャー企業の役割を理解している。　(A-1)

3.経済成長について標準的なマクロ経済学を用いて説明できる。　(A-2)

4.グローバル化、新自由主義、アメリカ化についてその関連を説明できる。(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.アメリカ企業の強さを理解している。　(A-1)

2.経済成長におけるベンチャー企業の役割を理解している。　(A-1)

3.経済成長について標準的なマクロ経済学を用いて説明できる。　(A-2)

4.グローバル化、新自由主義、アメリカ化についてその関連を説明できる。(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

海外直接投資論

2019-4030000711-01

猿渡　剛

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・３時限　　試験時間割：2019/07/27　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　世界の貿易や雇用からみても明らかなように、グローバル企業の規模は年々、拡大しています。海外直接投資論では、主に企業の意思決定とその背後にある経済理論の学習を通じて、グローバル企業が行う直接投資に対する理解を深めてもらいます。
　この授業は3つのテーマから構成されています。第1のテーマは国内外の直接投資のトレンドとその特徴です。最新の直接投資統計に触れ、基本認識を確認してもらいます。
　第2のテーマは海外直接投資が行われるメカニズムです。海外直接投資の決定理論に関しては、これまでに多くの経済学者が提唱してきました。この授業では特に有益と思われるハイマー、ヴァーノン、ニッカバッカー、バックレー、カッソン、ラグマン、ケイブス、ダニングらの理論を説明していきます。これらの諸説に繰り返し触れることで、理論的な説明が可能になります。
　第3のテーマは海外直接投資が国や人々に与える影響です。海外直接投資は受入国・送出国の双方にさまざまな影響を与えます。種々のデメリットを踏まえた上で、直接投資の恩恵を最大化するためには何をすればよいのか、一緒に考えていきたいと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

海外直接投資の現状をはじめとする商学の知識や理論を身につけている。(知識・理解)

海外直接投資が、なぜ、どこへ、いつ、どのようにして行われるのかを説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　授業終了後には、配布資料をよく読んで内容を十分に理解できているのか、確認してください。疑問点や不明点があれば参考書やオフィス・アワーを利用してください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　成績は、(1)期末に行う定期試験70%、(2)平常点(随時行う小テスト、発言の回数・内容等)30%で評価します。
　(1)については、海外直接投資が行われるメカニズムを正しく理解していること、直接投資が与える影響等について自分の考えを述べることを評価基準とします。
　(2)については、近年の直接投資のトレンドと特徴等についての理解に加え、発言の回数・内容等、授業に積極的に取り組む姿勢を評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　授業各回の冒頭に、テキストとなる資料を配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

グラツィア・イエット・ギリエス(井上博監訳、磯谷玲・岸田未来・田村考司・藤本共一・十河利明訳)『多国籍企業と国際生産：概念・理論・影響』同文館出版、2012年　ISBN 978-4495441012
清田耕造『拡大する直接投資と日本企業』NTT出版、2015年　ISBN 978-4757123199

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　授業中に配布資料内の空欄を埋める必要があります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション(授業内容や成績評価等についての説明)
2. 海外直接投資の種類
3-4. データで見る直接投資
5. なぜ直接投資が行われるのか
6. 直接投資にパターンはあるのか
7. なぜ連続的に直接投資が行われるのか
8-9. なぜ企業は大規模化を志向するのか
10-11. なぜ企業は拠点を分散するのか
12. 直接投資を受け入れるためには何をすべきか
13-14. 直接投資の受け入れは何をもたらすのか
15. まとめ

海外直接投資論

2019-4030000711-01

猿渡　剛

◎貿易:A-1,A-2

1.海外直接投資の現状をはじめとする商学の知識や理論を身につけている。(A-1)

2.海外直接投資が、なぜ、どこへ、いつ、どのようにして行われるのかを説明することができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.海外直接投資の現状をはじめとする商学の知識や理論を身につけている。(A-1)

2.海外直接投資が、なぜ、どこへ、いつ、どのようにして行われるのかを説明することができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

海外直接投資論

2019-4030000711-01

猿渡　剛

◎経営:A-1,A-2

1.海外直接投資の現状をはじめとする商学の知識や理論を身につけている。(A-1)

2.海外直接投資が、なぜ、どこへ、いつ、どのようにして行われるのかを説明することができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.海外直接投資の現状をはじめとする商学の知識や理論を身につけている。(A-1)

2.海外直接投資が、なぜ、どこへ、いつ、どのようにして行われるのかを説明することができる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

海上保険論

2019-4030000117-01

五十部　沢

期別：通年　　単位数：4　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：通年：木・４時限　　試験時間割：2019/07/30　３時限,　2020/01/24　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

海上保険（外航貨物海上保険）は国際間を輸送される貨物を対象として、その輸送中に発生する様々な損害を填補する保険であり、国際貿易を行う企業が業務を遂行する上で必要不可欠な存在である。
また、単なる損害の補償のみならず、国際貿易システムの中に組み込まれており、貿易の決済実務においては、必須の存在になっている。
従って、将来、何らかの形で国際貿易実務に携わる者にとって、海上保険の理論的・実務的知識を持っておくことは非常に重要である。

本講義は、海上保険の成り立ちや仕組みの理論的な側面を理解した上でそれが具体的な貿易実務においてどのように機能しているかをできるだけ多くの実例を通じて学ぶことを目的とする。これにより海上保険の重要性についての認識を深めるとともに、将来、社会人になった際に実務において一定の会話が出来るレベルになることを目指す。

長年に亘って携わってきた海上保険の実務経験を活かし、理論的な面のみならず、実際に発生した事例を多く取り上げ、生きている経済活動の実態について講義する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。(知識・理解)

海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

配布資料の予習と復習、専門用語が多数出てくるので、十分に理解しておくこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

海上保険の基本的な仕組みや考え方、貿易実務における機能・活用方法につき、自分自身の言葉で正確に説明できるかを評価の基準とする。

定期テスト80%、小テスト20%で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

各章ごとにレジュメを配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

海上保険の理論と実務　ISBN 9784335354754

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講義は、保険、国際貿易、物流、に関する専門用語が頻出する。これらの用語を十分に理解した上で講義に臨むことが求められる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.危険と保険（序論）
2.危険と保険（危険とは？）
3.危険と保険（保険の種類①）
4.危険と保険（保険の種類②）
5.損害保険概論（損害保険の定義）
6.損害保険概論（損害保険の仕組み）
7.損害保険概論（損害保険契約の性格）
8.損害保険概論（損害保険の効用と弊害）
9.海上保険概論（海上保険の対象①）
10.海上保険概論（海上保険の対象②）
11.海上保険概論（海上保険の特徴と役割①）
12.海上保険概論（海上保険の特徴と役割②）
13.海上保険概論（海上保険の関係者①）
14.海上保険概論（海上保険の関係者②）
15.まとめ

1.海上保険概論（海上保険の定義と準拠法①）
2.海上保険概論（海上保険の定義と準拠法②）
3.海上保険概論（海上保険の種類①）
4.海上保険概論（海上保険の種類②）
5.外航貨物海上保険の概要（貿易条件①）
6.外航貨物海上保険の概要（貿易条件②）
7.外航貨物海上保険の概要（貿易決済①）
8.外航貨物海上保険の概要（貿易決済②）
9.外航貨物海上保険（保険証券と約款①）
10.外航貨物海上保険（保険証券と約款②）
11.SGフォーム、MARフォーム
12.戦争保険
13.共同海損
14.損害査定
15.まとめ

海上保険論

2019-4030000117-01

五十部　沢

◎貿易

1.企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。　(A-1)

2.海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

海上保険論A

2019-4030000600-01

五十部　沢

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：2019/07/30　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

海上保険（外航貨物海上保険）は国際間を輸送される貨物を対象として、その輸送中に発生する様々な損害を填補する保険であり、国際貿易を行う企業が業務を遂行する上で必要不可欠な存在である。
また、単なる損害の補償のみならず、国際貿易システムの中に組み込まれており、貿易の決済実務においては、必須の存在になっている。
従って、将来、何らかの形で国際貿易実務に携わる者にとって、海上保険の理論的・実務的知識を持っておくことは非常に重要である。

本講義は、海上保険の成り立ちや仕組みの理論的な側面を理解した上でそれが具体的な貿易実務においてどのように機能しているかをできるだけ多くの実例を通じて学ぶことを目的とする。これにより海上保険の重要性についての認識を深めるとともに、将来、社会人になった際に実務において一定の会話が出来るレベルになることを目指す。

長年に亘って携わってきた海上保険の実務経験を活かし、理論的な面のみならず、実際に発生した事例を多く取り上げ、生きている経済活動の実態について講義する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。(知識・理解)

海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。
(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

配布資料の予習と復習、専門用語が多数出てくるので、十分に理解しておくこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

海上保険の基本的な仕組みや考え方、貿易実務における機能・活用方法につき、自分自身の言葉で正確に説明できるかを評価の基準とする。

定期テスト80%、小テスト20%で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

各章ごとにレジュメを配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

海上保険の理論と実務　ISBN 9784335354754

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講義は、保険、国際貿易、物流、に関する専門用語が頻出する。これらの用語を十分に理解した上で講義に臨むことが求められる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.危険と保険（序論）
2.危険と保険（危険とは？）
3.危険と保険（保険の種類①）
4.危険と保険（保険の種類②）
5.損害保険概論（損害保険の定義）
6.損害保険概論（損害保険の仕組み）
7.損害保険概論（損害保険契約の性格）
8.損害保険概論（損害保険の効用と弊害）
9.海上保険概論（海上保険の対象①）
10.海上保険概論（海上保険の対象②）
11.海上保険概論（海上保険の特徴と役割①）
12.海上保険概論（海上保険の特徴と役割②）
13.海上保険概論（海上保険の関係者①）
14.海上保険概論（海上保険の関係者②）
15.まとめ

海上保険論Ａ

2019-4030000600-01

五十部　沢

◎貿易:A-1,A-2

1.企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。　(A-1)

2.海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。
(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。　(A-1)

2.海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。
(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

海上保険論A

2019-4030000600-01

五十部　沢

◎経営:A-1,A-2

1.企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。　(A-1)

2.海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。
(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。　(A-1)

2.海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。
(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

海上保険論Ｂ

2019-4030000601-01

五十部　沢

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：2020/01/24　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

海上保険（外航貨物海上保険）は国際間を輸送される貨物を対象として、その輸送中に発生する様々な損害を填補する保険であり、国際貿易を行う企業が業務を遂行する上で必要不可欠な存在である。
また、単なる損害の補償のみならず、国際貿易システムの中に組み込まれており、貿易の決済実務においては、必須の存在になっている。
従って、将来、何らかの形で国際貿易実務に携わる者にとって、海上保険の理論的・実務的知識を持っておくことは非常に重要である。

本講義は、海上保険の成り立ちや仕組みの理論的な側面を理解した上でそれが具体的な貿易実務においてどのように機能しているかをできるだけ多くの実例を通じて学ぶことを目的とする。これにより海上保険の重要性についての認識を深めるとともに、将来、社会人になった際に実務において一定の会話が出来るレベルになることを目指す。

長年に亘って携わってきた海上保険の実務経験を活かし、理論的な面のみならず、実際に発生した事例を多く取り上げ、生きている経済活動の実態について講義する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。(知識・理解)

海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。 (知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

配布資料の予習と復習、専門用語が多数出てくるので、十分に理解しておくこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

海上保険の基本的な仕組みや考え方、貿易実務における機能・活用方法につき、自分自身の言葉で正確に説明できるかを評価の基準とする。

定期テスト80%、小テスト20%で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

各章ごとにレジュメを配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

海上保険の理論と実務　ISBN 9784335354754

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

本講義は、保険、国際貿易、物流、に関する専門用語が頻出する。これらの用語を十分に理解した上で講義に臨むことが求められる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.海上保険概論（海上保険の定義と準拠法①）
2.海上保険概論（海上保険の定義と準拠法②）
3.海上保険概論（海上保険の種類①）
4.海上保険概論（海上保険の種類②）
5.外航貨物海上保険の概要（貿易条件①）
6.外航貨物海上保険の概要（貿易条件②）
7.外航貨物海上保険の概要（貿易決済①）
8.外航貨物海上保険の概要（貿易決済②）
9.外航貨物海上保険（保険証券と約款①）
10.外航貨物海上保険（保険証券と約款②）
11.SGフォーム、MARフォーム
12.戦争保険
13.共同海損
14.損害査定
15.まとめ

海上保険論Ｂ

2019-4030000601-01

五十部　沢

◎貿易:A-1,A-2

1.企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。　(A-1)

2.海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。
(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。　(A-1)

2.海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。
(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

海上保険論Ｂ

2019-4030000601-01

五十部　沢

◎経営:A-1,A-2

1.企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。　(A-1)

2.海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。
(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.企業が国際貿易において直面する様々なリスクを理解し、その損害を填補する海上保険の機能（対象、特徴、役割）を説明できるようになる。　(A-1)

2.海上保険の基本的な仕組みを理解し、国際貿易の実務において海上保険を有効に活用するための方法、考え方を説明することができるようになる。
(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

開発経済論Ａ

2019-4030000398-01

木幡　伸二

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・２時限　　試験時間割：2019/07/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

１．授業の内容
　開発経済学の基礎理論について学び、開発途上国の経済発展に関連する主な要因や発展過程で生じるさまざまな課題について検討します。
　まず、開発経済学の基礎理論については、第１に、開発途上国の経済発展の姿を1人当たりＧＤＰを手がかりに考えます。また、経済発展を考える上で重要な経済成長理論について簡単に説明します。第２に、低所得国における「貧困の罠」について検討します。第３に、最近注目を集める「中所得国の罠」という現象について整理します。
　次に、開発途上国の経済発展をうながす主な要因について検討します。第１に、国際貿易と海外直接投資の役割について考えます。第２に、「産業集積」が経済発展に与える影響及びそれを生かすために途上国はどのような政策をすすめるべきかにについて述べます。第３に、開発と民主主義の関わりについても説明する予定です。

２．授業の進め方
　授業は、（１）テキストの当該部分の要点の説明、（２）経済学的な解説など関連事項の説明、（３）質問と解説の順番で進めます。また、テキスト各章の説明終了後に小テストを行い、基本的な概念などの確認を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

開発経済学の基本的な知識を身につけている。(知識・理解)

開発途上国の現状を理解し、説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　予習では、テキストの当該部分を読み、その概要について確認してください（30分）。
　復習では、テキストや配付資料に基づいてノートを整理し、不明の点があれば参考書などで確認してください（60分）。それでも解決できない場合は、オフィスアワー等を利用して遠慮なく質問してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　成績評価の対象となる要素は、定期試験の成績と小テストの評価です。
　小テストでは、開発経済論に関する基本的な知識を身につけているかどうかを基準に評価します。定期試験では、開発途上国の現状について理解しているかどうかを基準にして評価します。
　定期試験の成績65%、小テストの評価35%をとして総合的に評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

戸堂康之『開発経済学入門』新世社、2015年、ISBN 9784883842315（本体価格2,700円）

◎－－－　参考書　－－－◎

渡辺利夫著『開発経済学入門（第３版）』東洋経済新報社、2010年　ISBN 9784492443644
ジェトロ・アジア経済研究所ほか編『テキストブック開発経済学〈第3版〉』有斐閣、2015年　ISBN 9784641184220
渡辺利夫、佐々木郷里編『開発経済学事典』弘文堂、2004年　ISBN 4335450249

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　関連する授業として、「開発経済論B」、「アジア経済論A」、「アジア経済論B」、「国際協力論A」及び「国際協力論B」を受講することを推奨します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　　授業概要
２　　途上国の経済発展（１）
３　　途上国の経済発展（２）
４　　経済成長理論の概要
５　　貧困の罠（１）
６　　貧困の罠（２）
７　　中所得国の罠（１）
８　　中所得国の罠（２）
９　　貿易・投資と途上国（１）
１０　貿易・投資と途上国（２）
１１　途上国と産業集積（１）
１２　途上国と産業集積（２）
１３　民主主義と経済発展（１）
１４　民主主義と経済発展（２）
１５　まとめ

開発経済論Ａ

2019-4030000398-01

木幡　伸二

◎貿易:A-1,A-2

1.開発経済学の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.開発途上国の現状を理解し、説明することができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.開発経済学の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.開発途上国の現状を理解し、説明することができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

開発経済論Ａ

2019-4030000398-01

木幡　伸二

◎経営:A-1,A-2

1.開発経済学の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.開発途上国の現状を理解し、説明することができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.開発経済学の基本的な知識を身につけている。　(A-1)

2.開発途上国の現状を理解し、説明することができる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

開発経済論Ｂ

2019-4030000399-01

石上　悦朗

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・３時限　　試験時間割：2019/07/24　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　発展途上国の開発に伴って人々や社会が直面している諸問題を取り上げ、その歴史的、制度的、政治経済的背景および地域・諸国の特性などの視点から理解し認識を深めることをめざす。具体的には、貧困、教育、寿命・健康、子どもや女性差別・ジェンダー、環境問題さらに経済的地位向上のための諸措置などを取り上げる。また、人々（地域住民・市民）、政府、NGO/NPO、企業、国際機関の役割についても検討する。
　これらの項目を包括的に理解する概念として国連・国連開発計画などが「人間開発」「人間開発指数」を提示しかつ進化させてきた。これらは世界で上記の問題に関心を持つ者の共有・共通の尺度となっているので、授業でも、まずこれらの概念の理解をすすめ、つねに「人間開発」とは何か、「豊かさ、貧しさとは何か」という問題意識を忘れずに一緒に勉強したい。
　講義ではこれらの問題をかかえ、課題に取り組んでいる発展途上諸国を取り上げるが、その際、インドを中心に南アジア諸国の現状と各種事例が中心となる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

発展途上国の開発に関わる基本的概念、開発の軌跡の概要、直面する課題について理解できる。(知識・理解)

上記の課題について、南アジア諸国及びアフリカを事例としてその原因および解決策の手がかりを考えることができる。(知識・理解)

発展途上国の開発に関わる問題について、それらが固有の文化的背景およびグローバル化の影響を受けていることを理解できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

・指定する資料を自らダウンロードあるいは閲覧して予習すること（60分）。
講義内容に関わる復習と特定の課題兼ねた長短のレポートを課す（平均60分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　到達目標に記した内容の理解度を基準とする。
　定期試験における成績を6割、レポート・小テストなどを4割考慮し評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

国際機関の資料（pdf、映像資料ファイルなど）、J-STAGE掲載の論文等を指定するので受講者は自らダウンロードして準備すること。その他必要な資料は講義時に随時配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

石上悦朗・佐藤隆広編『現代インド・南アジア経済論』ミネルヴァ書房、2011年　ISBN 4623058719
黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣、2016年　ISBN 4641150346

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1.アジア経済論Bと同時受講することが望ましい。
2.テキスト欄に書いた資料の件（資料を自分でダウンロード、プリント）を承知しておくこと。
　石上担当のアジア経済論B、木幡先生担当の開発経済論Aとアジア経済論Aおよび国際協力論A・Bを併せ履修することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. 講義案内―開発と貧困：発展途上国の人々の現状
2. いくつかの国々・地域の事例
3. 「人間開発」「人間開発指数」について―「豊かさとは何か」「貧しいとはどういうことだろうか」
4. 「国連ミレニアム開発目標」について
5. アフリカにおける人間開発の現状について
6. 南アジアにおける人間開発の現状について（その一）
7. 南アジアにおける人間開発の現状について（その二）
8. 南アジアにおける人間開発の現状について（その三）
9. 現状改善のために政府はどう取り組んできたか（産業政策：その一）
10. 現状改善のために政府はどう取り組んできたか（産業政策：その二）
11. 現状改善のために政府はどう取り組んできたか（産業政策：その三）
12. 現状改善のために人々はどう取り組んでいるか（マイクロファイナンス：その一）
13. 現状改善のために人々はどう取り組んでいるか（マイクロファイナンス：その二）
14. 貧困層とビジネス：企業は何ができるか
15. 授業のまとめ

開発経済論Ｂ

2019-4030000399-01

石上　悦朗

◎貿易:A-1,A-2

1.発展途上国の開発に関わる基本的概念、開発の軌跡の概要、直面する課題について理解できる。　(A-1)

2.上記の課題について、南アジア諸国及びアフリカを事例としてその原因および解決策の手がかりを考えることができる。　(A-2)

3.発展途上国の開発に関わる問題について、それらが固有の文化的背景およびグローバル化の影響を受けていることを理解できる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.発展途上国の開発に関わる基本的概念、開発の軌跡の概要、直面する課題について理解できる。　(A-1)

2.上記の課題について、南アジア諸国及びアフリカを事例としてその原因および解決策の手がかりを考えることができる。　(A-2)

3.発展途上国の開発に関わる問題について、それらが固有の文化的背景およびグローバル化の影響を受けていることを理解できる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

開発経済論Ｂ

2019-4030000399-01

石上　悦朗

◎経営:A-1,A-2

1.発展途上国の開発に関わる基本的概念、開発の軌跡の概要、直面する課題について理解できる。　(A-1)

2.上記の課題について、南アジア諸国及びアフリカを事例としてその原因および解決策の手がかりを考えることができる。　(A-2)

3.発展途上国の開発に関わる問題について、それらが固有の文化的背景およびグローバル化の影響を受けていることを理解できる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.発展途上国の開発に関わる基本的概念、開発の軌跡の概要、直面する課題について理解できる。　(A-1)

2.上記の課題について、南アジア諸国及びアフリカを事例としてその原因および解決策の手がかりを考えることができる。　(A-2)

3.発展途上国の開発に関わる問題について、それらが固有の文化的背景およびグローバル化の影響を受けていることを理解できる。　(A-1)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

外国為替論「17台以前」

2019-4030000325-01

服部　彰

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・１時限　　試験時間割：2019/07/26　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

毎日テレビのニュースを見ていると、ニュースの最後によく為替相場と株価の動向が示されます。為替相場は、われわれの日常生活や企業の業績、さらには日本経済全体に大きな影響を与えます。また、それぞれの国の経済状況をよく反映している価格の一種ともいえます。

為替相場を理解するためには、外国為替とは何かを理解する必要があります。また、為替相場および外国為替取引の理解を深める必要があります。そのために、為替相場および外国為替取引に関するデータベースと情報検索方法を講義の中で必要に応じて説明します。さらに、とくに為替相場の変動とその予測および為替リスク対策に関してデータベースおよび情報システムの設計・管理がどのように行われているかについて具体的な事例を取り上げます。

外国為替論は、情報収集分析学としての一面をもっています。情報収集分析知識・活用能力も養います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

国際貿易に関する知識の土台として、人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を活用できる。(知識・理解)

世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

１．予習：指摘する授業範囲について事前に学習し、また関連した情報を入手し、分析する努力をしてください。
２．復習：授業後、５００字程度の受講講義ノートを文章形式で作成してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．評価の方法：原則として定期筆記試験で判断します。
２．評価基準：試験テーマに関する「考える力」（３０％）、「読む力」（聞く力）（３０％）、「書く力」（４０％）から、上記到達目標達成度で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

小口幸伸『入門外国為替のしくみ』日本実業出版社、２０１８年3月（3刷）、ＩＳＢＮ：９７８－４－５３４－０５１０８－０，本体価格：１，４００円
＊事前に購入してください。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義および講義資料について、ＦＵポータルサイトを使いますので、利用方法について学んでください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　外国為替とは何かー情報収集分析学ー
２　外国為替市場の仕組みと情報収集分析
３　外国為替相場の決まり方と情報収集分析
４　外国為替市場と金融市場の関係と情報収　　集分析
５　リスクとヘッジの仕組みと情報収集分析
６　外国為替取引とリスクと情報収集分析
７　リスク管理とヘッジの方法と情報収集分　　析
８　ディーリングの手法と情報収集分析
９　市場介入とは何かと情報収集分析
１０　代表的な通貨の特徴と情報収集分析
１１　通貨オプション取引の仕組みと情報収集分　析
１２　為替相場の動きの読み方と情報の利用方　法
１３　まとめ
１４　質疑応答
１５　質疑応答

外国為替論「17台以前」

2019-4030000325-01

服部　彰

◎貿易

1.国際貿易に関する知識の土台として、人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を活用できる。　(A-1)

2.世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析できる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

グローバル企業論

2019-4030000712-01

猿渡　剛

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：2020/01/22　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

今後の日本は、少子高齢化が進み内需が縮小していくことが確実視されています。これからの日本企業は海外市場で積極的に事業展開を行い、欧米や韓国、中国といった他国の企業と競争していく必要があります。グローバル企業論では、輸出や直接投資を行う企業とその背後にある経済理論の学習を通じて、国際ビジネスに対する理解を深めてもらいます。

この授業は4つのテーマから構成されています。第1のテーマは、グローバリゼーションの進展です。貿易・投資障壁が低下し、技術革新が進むにつれて、もはや多くの企業が一国の市場、一国での生産にとどまらずグローバル市場、グローバル生産へと歩を進めています。この事実をきちんと認識してもらいます。

第2のテーマは、現代のグローバル企業が直面する諸課題です。共産主義の崩壊はグローバル企業のさらなる成長を促し、企業はますます生産体制を変化させてコスト削減や品質向上を目指してきましたが、その一方でグローバル企業がもたらす雇用や賃金、環境への影響を懸念視する向きも少なくありません。直近のグローバル企業についての議論を学び、理解してもらいます。

第3のテーマは、グローバル企業の戦略に関する意思決定と決定に至るまでの論理です。企業が貿易を行う理由は、依然として現存する国家間の違いに求めることができます。また、輸出やライセンシングには限界があるため、企業は自国での生産だけでなく直接投資を通じた海外生産を行います。本テーマではこうした経済理論を理解し、自ら説明できるようになることを目指していきます。

第4のテーマは、近年進展してきた地域経済統合とグローバル企業との関係です。経済統合によって多くの国で貿易・投資障壁がますますなくなりつつあります。このことは、グローバル企業にどのような影響を与えてきたのでしょうか。EU(欧州連合)やASEAN(東南アジア諸国連合)を事例として、考えていきたいと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

グローバリゼーションの進捗状況やグローバリゼーションがもたらす便益、困難について説明することができる。(知識・理解)

グローバル企業の行動を理論的に説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業終了後には、配布資料をよく読んで内容を十分に理解できているのか、確認してください。疑問点や不明点があれば参考書やオフィス・アワーを利用してください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績は、(1)期末に行う定期試験70%、(2)平常点(随時行う小テスト、発言の回数・内容等)30%で評価します。

(1)については、グローバル企業がとる行動(貿易や直接投資、アウトソーシング等)について、企業と国それぞれのメリットとコストを理解していること、自分の考えを述べられることを評価基準とします。

(2)については、グローバル化やグローバル企業についての基礎知識に加え、発言の回数・内容等、授業に積極的に取り組む姿勢を評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

授業各回の冒頭に、テキストとなる資料を配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

チャールズ・W・L・ヒル(鈴木泰雄・藤野るり子・山崎恵理子訳)『国際ビジネス(1) グローバル化と国による違い』楽工社、2013年　ISBN 978-4903063591
チャールズ・W・L・ヒル(鈴木泰雄・藤野るり子・山崎恵理子訳)『国際ビジネス(2) 経営環境と金融システム』楽工社、2013年　ISBN 978-4903063607
チャールズ・W・L・ヒル(鈴木泰雄・藤野るり子・山崎恵理子訳)『国際ビジネス(3) 企業戦略と事業運営』楽工社、2014年　ISBN 978-4903063614

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業中に配布資料内の空欄を埋める必要があります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション(授業内容や成績評価等についての説明)
2-3. グローバリゼーションについて考える
4. グローバル企業への関心の高まり
5. グローバル企業による生産体制とロジスティクスの整備
6-8. なぜグローバル企業は貿易を行うのか
9-10. グローバル貿易の趨勢
11-12. グローバル企業による直接投資
13-14. グローバル企業と地域経済統合
15. まとめ

グローバル企業論

2019-4030000712-01

猿渡　剛

◎貿易:A-2

1.グローバリゼーションの進捗状況やグローバリゼーションがもたらす便益、困難について説明することができる。　(A-2)

2.グローバル企業の行動を理論的に説明することができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2

1.グローバリゼーションの進捗状況やグローバリゼーションがもたらす便益、困難について説明することができる。　(A-2)

2.グローバル企業の行動を理論的に説明することができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

グローバル企業論

2019-4030000712-01

猿渡　剛

◎経営:A-2

1.グローバリゼーションの進捗状況やグローバリゼーションがもたらす便益、困難について説明することができる。　(A-2)

2.グローバル企業の行動を理論的に説明することができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2

1.グローバリゼーションの進捗状況やグローバリゼーションがもたらす便益、困難について説明することができる。　(A-2)

2.グローバル企業の行動を理論的に説明することができる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際協力論A「（英語クラス）」

2019-4030000451-01

林　裕

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・５時限　　試験時間割：2019/08/01　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

1. Course Outline
This course is delivered in English only.

The course will consider "Global Issues" that are essential to understand global development. The course covers not only the theories and history of international relations but also the theories and practices of international assistance and global environmental issues. It aims to give students overviews in the field of global development.

2. Approach
Lectures are the main manner of delivery for this course. Students are expected to read articles specified by the lecturer, write and submit papers. If conditions allow, group works and guest speakers can be arranged.

◎－－－　到達目標　－－－◎

To understand the global issues not excluding those of Japan　(知識・理解)

To establish own opinions on the global issues　(態度・志向性)

To understand the differences of cultural background and living　(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to read through the designated articles. it is also necessary to follow the current global issues through news reports. (30 min)

Paper submission on time is a must. (60 min)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Grading will be done by:
(1)final exam: 60%
(2)papers: 40%

Successful completion grade of this course is over 60%

1. Final exam and papers are evaluated based on the basic knowledge of global issues and presentation of own analysis, ideas and opinions.

2. Additional achievements, i.e. TOEFL/TOEIC, can be positively evaluated and added on top of the final grade.

◎－－－　テキスト　－－－◎

No designated text. Reading materials are given by the lecturer.

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Apart from given reading materials, additional readings are highly recommended.

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Introduction: 21st century and our world
2. Development of international relations
3. Theories of international relations
4. Conflict and peace-building
5. Guest speaker(1)
6. Development assistance in retrospect
7. Development assistance and its actors
8. Recipient of assistance
9. Conflict and development
10. Group work: development assistance
11. Global environment issues
12. Culture and gender
13. Guest speaker(2)
14. International community and indigenous community
15. World, state, society and people

国際協力論Ａ「（英語クラス）」

2019-4030000451-01

林　裕

◎貿易:A-1,C-1,C-4

1.To understand the global issues not excluding those of Japan　(A-1)

2.To establish own opinions on the global issues　(C-1)

3.To understand the differences of cultural background and living　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,C-1

1.To understand the global issues not excluding those of Japan　(A-1)

2.To establish own opinions on the global issues　(C-1)

3.To understand the differences of cultural background and living

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際協力論Ａ「（英語クラス）」

2019-4030000451-01

林　裕

◎経営:A-1,C-1

1.To understand the global issues not excluding those of Japan　(A-1)

2.To establish own opinions on the global issues　(C-1)

3.To understand the differences of cultural background and living

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,C-1

1.To understand the global issues not excluding those of Japan　(A-1)

2.To establish own opinions on the global issues　(C-1)

3.To understand the differences of cultural background and living

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際協力論Ａ

2019-4030000451-03

林　裕

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・２時限　　試験時間割：2019/08/01　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

１．授業内容
　本講義では、国際協力を考えるうえで必須となる、Global Issuesを検討します。国際政治理論や国際政治史のみならず、国際援助や環境問題までを含む理論と実践を理解し、国際協力の関連分野を含む俯瞰的視座の獲得を目指します。

２．授業の進め方
　担当者が提示する種々の課題についての講義と、各学生による参考文献読破、レポート作成によって理解を深めます。内容によっては、グループワーク、ゲストスピーカーの講演と質疑応答も行われます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本を含む世界の現状に関する主要な出来事についての知識をもっている。(知識・理解)

日本を含む世界の現状に関する主要な出来事について自らの意見をもっている。(態度・志向性)

異なる文化背景を持つ人々の生の在り方を理解する。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習では、参考文献に目を通すことを期待しています。同時に、日常的に報道等を通じて国際状況の現状に関心を払ってください。（30分）
　復習では、授業および配付資料等をもとに講義概要を振り返るとともに、授業で出された課題（宿題、レポート等）に真剣に取り組み、必ず、期限までに提出してください。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　評価は、定期試験（60%）、課題の評価(40%)を総合して行い、60点以上を合格とします。
　（１）定期試験や提出された課題の評価は、基本的知識の理解と同時に、各人の努力を評価します。課題においては、各人で練り上げた考えを高く評価します。
　（２）TOEFL/TOEIC等への取り組みは、課題の評価の中で肯定的な評価対象とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。授業に必要な教材は担当者が準備します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

課題文献を多数課しますが、各自が自発的に他の文献などに目を通すことを推奨します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　イントロダクション：私たちが生きている21世紀世界
２　国際政治の史的展開
３　国際政治を見る視座
４　紛争と平和構築
５　ゲストスピーカー（１）
６　国際開発の歩み
７　国際援助とその行為主体
８　援助の受け手
９　紛争と開発
１０　グループワーク：国際援助を考える
１１　国際環境問題
１２　文化とジェンダー
１３　ゲストスピーカー（２）
１４　国際社会と現地社会
１５　まとめ：世界、国家、社会、そして人々

国際協力論Ａ

2019-4030000451-03

林　裕

◎貿易:A-1,C-1,C-4

1.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事について自らの意見をもっている。　(C-1)

3.異なる文化背景を持つ人々の生の在り方を理解する。　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,C-1

1.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事について自らの意見をもっている。　(C-1)

3.異なる文化背景を持つ人々の生の在り方を理解する。

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際協力論A

2019-4030000451-03

林　裕

◎経営:A-1,C-1

1.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事について自らの意見をもっている。　(C-1)

3.異なる文化背景を持つ人々の生の在り方を理解する。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,C-1

1.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事について自らの意見をもっている。　(C-1)

3.異なる文化背景を持つ人々の生の在り方を理解する。

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際協力論Ｂ「（英語クラス）」

2019-4030000452-01

林　裕

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・５時限　　試験時間割：2020/01/27　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

1. Course Outline
This course is delivered in English only.

The course will examine "Global development" that are essential to understand international development assistance. The course covers development assistance as a form of international cooperation. At the same time, referring to the complex issues surrounding the development, it will highlight both the positive and negative aspect of development.

2. Approach
Lectures are the main manner of delivery for this course. Students are expected to read articles specified by the lecturer, write and submit papers. If conditions allow, group works and guest speakers can be arranged.

◎－－－　到達目標　－－－◎

To understand the global issues not excluding those of Japan(知識・理解)

To establish own opinions on the global issues(態度・志向性)

To understand the differences of cultural background and living(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to read through the designated articles. it is also necessary to follow the current global issues through news reports. (30 min)

Paper submission on time is a must. (60 min)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Grading will be done by:
(1)final exam: 60%
(2)papers: 40%

Successful completion grade of this course is over 60%

1. Final exam and papers are evaluated based on the basic knowledge of global issues and presentation of own analysis, ideas and opinions.

2. Additional achievements, i.e. TOEFL/TOEIC, can be positively evaluated and added on top of the final grade.

◎－－－　テキスト　－－－◎

No designated text. Reading materials are given by the lecturer.

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Apart from given reading materials, additional readings are highly recommended.

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Introduction: current status of the world
2. Poverty: what is it?
3. Development studies and global development
4. Globalization and development
5. Group work: global development
6. Development assistance and its actors
7. Identifying the needs for development assistance
8. Global development assistance
9. Development assistance project
10. Group work: planning of a development assistance project
11. Conflict and development
12. Culture and development
13. Guest speaker
14. Security measures
15. Challenges for development

国際協力論Ｂ「（英語クラス）」

2019-4030000452-01

林　裕

◎貿易:A-1,C-1,C-4

1.To understand the global issues not excluding those of Japan　(A-1)

2.To establish own opinions on the global issues　(C-1)

3.To understand the differences of cultural background and living　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,C-1

1.To understand the global issues not excluding those of Japan　(A-1)

2.To establish own opinions on the global issues　(C-1)

3.To understand the differences of cultural background and living

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際協力論Ｂ「（英語クラス）」

2019-4030000452-01

林　裕

◎経営:A-1,C-1

1.To understand the global issues not excluding those of Japan　(A-1)

2.To establish own opinions on the global issues　(C-1)

3.To understand the differences of cultural background and living

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,C-1

1.To understand the global issues not excluding those of Japan　(A-1)

2.To establish own opinions on the global issues　(C-1)

3.To understand the differences of cultural background and living

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際協力論Ｂ

2019-4030000452-02

林　裕

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：2020/01/27　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

１．授業内容
　本講義では、国際協力を考えるうえで必須となる、「開発」を中心に検討します。国際協力における開発とそれを取り巻く様々な問題にも目を向けつつ、開発の持つ肯定的および否定的影響についても考察します。

２．授業の進め方
　担当者が提示する種々の課題についての講義と、各学生による参考文献読破、レポート作成によって理解を深めます。内容によっては、グループワーク、ゲストスピーカーの講演と質疑応答も行われます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本を含む世界の現状に関する主要な出来事についての知識をもっている。(知識・理解)

日本を含む世界の現状に関する主要な出来事について自らの意見をもっている。(態度・志向性)

異なる文化背景を持つ人々の生の在り方と直面する課題を理解している。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習では、参考文献に目を通すことを期待しています。同時に、日常的に報道等を通じて国際状況の現状に関心を払ってください。（30分）
　復習では、授業および配付資料等をもとに講義概要を振り返るとともに、授業で出された課題（宿題、レポート等）に真剣に取り組み、必ず、期限までに提出してください。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価は、定期試験（60%）、課題の評価(40%)を総合して行い、60点以上を合格とします。
　（１）定期試験や提出された課題の評価は、基本的知識の理解と同時に、各人の努力を評価します。課題においては、各人で練り上げた考えを高く評価します。
　（２）TOEFL/TOEIC等への取り組みは、課題の評価の中で肯定的な評価対象とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。授業に必要な教材は担当者が準備します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

課題文献を多数課しますが、各自が自発的に他の文献などに目を通すことを推奨します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　イントロダクション：世界の現状と私達
２　貧困とは何か？
３　開発学と国際援助の展開
４　グローバリゼーションと開発
５　グループワーク：国際開発を考える
６　開発の主体
７　開発課題の特定
８　国際開発援助
９　開発プロジェクト
１０　グループワーク：プロジェクトを立案する
１１　紛争と開発
１２　文化と開発
１３　ゲストスピーカー
１４　安全対策
１５　まとめ：開発の課題

国際協力論Ｂ

2019-4030000452-02

林　裕

◎貿易:A-1,C-1,C-4

1.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事について自らの意見をもっている。　(C-1)

3.異なる文化背景を持つ人々の生の在り方と直面する課題を理解している。　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,C-1

1.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事について自らの意見をもっている。　(C-1)

3.異なる文化背景を持つ人々の生の在り方と直面する課題を理解している。

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際協力論Ｂ

2019-4030000452-02

林　裕

◎経営:A-1,C-1

1.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事について自らの意見をもっている。　(C-1)

3.異なる文化背景を持つ人々の生の在り方と直面する課題を理解している。

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,C-1

1.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本を含む世界の現状に関する主要な出来事について自らの意見をもっている。　(C-1)

3.異なる文化背景を持つ人々の生の在り方と直面する課題を理解している。

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

井上　伊知郎

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・３時限　　試験時間割：2020/01/20　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では銀行の国際金融業務について説明します。貿易金融業務、貸付や証券投資、これらのための資金調達についてとりあげます。その際、銀行が国際金融業務で活躍するための舞台装置、例えば、国際金融市場としての「ユーロ市場」、リスク管理のための「デリバティブ市場」、「自己資本比率規制」などの経済的環境（前提諸条件）と国際金融業務との関係に注意を払います。以上が基礎編にあたります。
応用編では、邦銀の不良債権問題やアジア金融・通貨危機、米国のサブプライムローン問題、EUの債務・通貨危機などによって、銀行の国際金融業務がどのような影響を受けたか、現在どのように変化しつつあるかについて説明します。
実際の講義では、国際金融業務の基礎編にあたる一般的・抽象的な内容から説明に入るよりも、まず、近年の国際金融業務が当面してきた具体的な問題点について理解を深めた方が、基礎編への興味や理解も一層増すと考えるので、今年度は、応用編から講義を始める予定にしています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

銀行の国際金融業務について説明できる。(知識・理解)

「ユーロ市場」、「デリバティブ」、「自己資本比率規制」について説明できる。(知識・理解)

経済のバブル化およびその原因について説明できる。(知識・理解)

我が国やアジア諸国経済のバブル化とその崩壊の原因について説明できる。(知識・理解)

バブル経済の崩壊が国際金融業務にもたらした影響について説明できる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

配布するテキストや講義録の講義予定個所を事前に予習して下さい。講義では、テキストや講義録の内容について解説しますが、記載内容について更に詳細に説明したり、様々な事例を紹介して例解したりしますので、講義の後でそれらを含めて復習して下さい。また、講義内容と関係の深い新聞記事などを講義中に配布しますが、普段に新聞を読んだり、ニュースを聞くように努めてください。紹介した参考書も事前に読むことを勧めます。一科目当たり15回の講義では、その講義内容をよく理解できるようになるために、最低30回分の（45時間分の）予習・復習をしておくことが必要とされています。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

到達目標を自分の言葉で正確に達成できているかを評価の基準とします。定期試験の結果によります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義録の他、自著「アジア通貨取引とタイ、インドネシアの為替相場制度変更（上・下）」（『月刊金融ジャーナル』、1997年2月・3月、雑誌コード02885、所収）「アジア金融・通貨危機の原因をめぐって－タイを焦点に－」）」（『月刊金融ジャーナル』、1998年8月、所収）「アジア金融・通貨危機以後の現地通貨の利用拡大に関する実証的・理論的研究：タイの事例を中心に」（Ministry of Finance Japan,Public Policy Review,March 2005, ISSN18800955,所収）に基づいて講義をします。講義録の他、自著テキストの一部分のコピー、資料などを授業中に配布します。テキストを購入する必要はありません。

◎－－－　参考書　－－－◎

宮崎義一著『複合不況』、中央公論社、1992年6月　ISBN 4121010787
また、授業中に適宜指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義を聞くだけでなく、テキストや講義録の予習・復習に努めてください。授業中にテキストのコピー・講義録・資料などを随時配布しますので、講義には必ず出席するように努めてください。また、本講義は専門的な内容になりますので、貿易学科に所属されている先生方の講義の他、金融、銀行、証券関係の講義を聴講しておくと、より理解しやすくなると思います。「国際金融論Ⅱ」を聴講する予定の皆さんは、前期の「国際金融論Ⅰ」を聴講しておくことを勧めます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに－講義の目的－
2　バブル経済の崩壊と邦銀の不良債権問題
3　ドル資金の調達困難-ジャパンプレミアム-
4　アジア金融・通貨危機
5　アジア金融・通貨危機と現地通貨の利用拡大
6　米国のサブプライムローン問題と金融恐慌
7　EUの債務・通貨危機
8　銀行の国際金融業務　1
9　銀行の国際金融業務　2
10　銀行の国際金融業務　3
11　銀行の国際金融業務　4
12　ユーロ市場
13　デリバティブ市場
14　国際決済銀行（BIS）の自己資本比率規制
15　むすび

国際金融論Ⅱ

2019-4030000408-01

井上　伊知郎

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.銀行の国際金融業務について説明できる。　(A-1)

2.「ユーロ市場」、「デリバティブ」、「自己資本比率規制」について説明できる。　(A-1)

3.経済のバブル化およびその原因について説明できる。　(A-1)

4.我が国やアジア諸国経済のバブル化とその崩壊の原因について説明できる。　(A-2)

5.バブル経済の崩壊が国際金融業務にもたらした影響について説明できる。　(A-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.銀行の国際金融業務について説明できる。　(A-1)

2.「ユーロ市場」、「デリバティブ」、「自己資本比率規制」について説明できる。　(A-1)

3.経済のバブル化およびその原因について説明できる。　(A-1)

4.我が国やアジア諸国経済のバブル化とその崩壊の原因について説明できる。　(A-2)

5.バブル経済の崩壊が国際金融業務にもたらした影響について説明できる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際金融論Ⅱ

2019-4030000408-01

井上　伊知郎

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.銀行の国際金融業務について説明できる。　(A-1)

2.「ユーロ市場」、「デリバティブ」、「自己資本比率規制」について説明できる。　(A-1)

3.経済のバブル化およびその原因について説明できる。　(A-1)

4.我が国やアジア諸国経済のバブル化とその崩壊の原因について説明できる。　(A-2)

5.バブル経済の崩壊が国際金融業務にもたらした影響について説明できる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.銀行の国際金融業務について説明できる。　(A-1)

2.「ユーロ市場」、「デリバティブ」、「自己資本比率規制」について説明できる。　(A-1)

3.経済のバブル化およびその原因について説明できる。　(A-1)

4.我が国やアジア諸国経済のバブル化とその崩壊の原因について説明できる。　(A-2)

5.バブル経済の崩壊が国際金融業務にもたらした影響について説明できる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際政治経済学

2019-4030000326-01

服部　彰

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　　試験時間割：2020/01/21　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　現在、日本の一人当たり国内総生産（ＧＤＰ）が低下し、日本の世界経済での存在感が低下しているということが問題になっています。これまで日本は「経済大国」だという前提でいろいろな議論が行われてきましたが、経済のグローバル化が進んでいるなかで、日本の世界への影響力が低下しているという重大な問題が生じているということになります。こうしたことがわれわれの生活にどのような影響を与えるかについては、国際経済と国際政治の相互作用＝経済と政治の相互作用とは何か、現在の国際社会が抱える問題とは何かについての理論、歴史、事例研究を学ぶことが重要になります。
　一般的にいえば、グローバリゼーションの全体像をどのように理解するかが重要になります。
　本講義は「国際政治経済学」の視点から、テキスト「国際政治経済学入門」を使って、国際社会で日本がどのような問題を抱えているかについて学習します。

　テキストにしたがって、主として以下のことを学び、グローバルな視点を
養います。
　１．国際政治経済学の理論と歴史
　２．国際政治経済体制の動態
　３．国際政治経済秩序の模索

◎－－－　到達目標　－－－◎

国際貿易に関する知識の土台として、人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を活用できる。(知識・理解)

世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析できる。(知識・理解)

異質な他者との対話によって、論理的考察力を高め、相互理解を深めることができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

１．予習：指摘する授業範囲について事前に学習し、また関連した情報を入手し、分析する努力をしてください。
２．復習：授業後、５００字程度の受講講義ノートを文章形式で作成してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．評価方法：原則として定期筆記試験の結果で判断します。
２．評価基準：試験テーマに関する「考える力」（３０％）、「読む力」（聞く力）（３０％）、「書く力」（４０％）という視点から、上記到達目標達成度で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

野林健・大芝亮・納家正嗣・山田敦・長尾悟著『第3版国際政治経済学・入門』有斐閣（１２刷）、本体価格：２０００円、ＩＳＢＮ：９７８－４－６４１－１２３３３－５
＊事前に購入してください。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　ＦＵポータルサイトを使いますので、利用方法について学んでください。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．「経済」の論理と「政治」の論理
２．国際政治経済の見方
３．力の構造と国際経済体制
４．安全保障と経済
５．貿易と政治経済
６．金融グローバル化の構図
７．科学技術と現代国際関係
８．移民をめぐる政治と経済
９．経済発展と人権および民主化
１０．地球環境をめぐる政治経済
１１．新しい国際秩序の模索
１２．国際政治経済学的視点の将来
１３．まとめ
１４．質疑応答
１５．質疑応答

国際政治経済学

2019-4030000326-01

服部　彰

◎貿易:A-1,A-2

1.国際貿易に関する知識の土台として、人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を活用できる。　(A-1)

2.世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析できる。　(A-2)

3.異質な他者との対話によって、論理的考察力を高め、相互理解を深めることができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.国際貿易に関する知識の土台として、人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を活用できる。　(A-1)

2.世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析できる。　(A-2)

3.異質な他者との対話によって、論理的考察力を高め、相互理解を深めることができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際政治経済学

2019-4030000326-01

服部　彰

◎経営:A-1,A-2

1.国際貿易に関する知識の土台として、人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を活用できる。　(A-1)

2.世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析できる。　(A-2)

3.異質な他者との対話によって、論理的考察力を高め、相互理解を深めることができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.国際貿易に関する知識の土台として、人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を活用できる。　(A-1)

2.世界で生じている経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析できる。　(A-2)

3.異質な他者との対話によって、論理的考察力を高め、相互理解を深めることができる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際物流論Ａ

2019-4030000333-01

森下　隆夫

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・４時限　　試験時間割：2019/07/29　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　日本は貿易立国であり、資源に乏しい事から原料・燃料は言うまでも無く、
食料までもが輸入に頼らなくてはならない現実があり、その一方、世界中に
優れた製品を輸出し国を潤して来たという事実があります。近年その構造
自体が変化し、日系企業の海外生産活動や製品の逆輸入といった事象が増えている中、「今後、日本はどう進むべきか」との選択を迫られています。
　この様な状況下において、日本全体の国際化推進は急務であり、中でも
貿易の重要性は以前にも増して高まっております。

　海外との貿易取引を行う上では、単なる商品知識や英文契約内容の知識だけではなく、「金融」、「保険」、そして「国際物流」に関する知識が必要不可欠です。本講義は貿易における「金融」「保険」との関連性も含めた「国際物流」の基礎知識の修得を目指します。

　国際物流論Ａ（前期）は、貿易における「国際物流」を学ぶ上で必要な理論およびその概要、そして最低限必要な専門基礎知識の修得を目標として
行われます。具体的には、最初はマクロの視点から入り、貿易全体における「国際物流」の仕組み、及び「金融」「保険」との関連性について学び、次第に国際物流の「専門知識」およびその「英語を含む専門用語」等の基礎知識の修得を目指します。

　本講義は、担当教員が企業において３０数年に渡る国際物流業務（そのうち、１６年は海外勤務）の実務経験を活かし、そこで習得した知識と実践方法に基づいた授業を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関する基礎的な知識を身につけている。(知識・理解)

貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関して説明する事が出来る。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　講義内容が連続しているので、毎回受講後に復習を繰り返し行う事が必要です。特に英語を含む専門用語を都度・都度覚えないと、次の講義の内容が理解できなくなり、結果的に授業に付いて行けなくなります。

　受講後、最低６０分の復習を行い、授業内容の理解に努めて下さい。また、次の授業の直前に３０分程度前回内容をリビューし、受講する事を
お勧めします。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験の結果（６０％）、及び授業への取り組み姿勢・発言点（２０％、
　【注】＝＝「出席点」ではありません＝＝）と、必要に応じて行われる
「小テスト」の結果（２０％）などを総合的に勘案し、国際物流の基礎知識に
対する理解度、及び上記目標の達成度を評価基準として判定致します。

「出席点」は考慮しませんので、試験さえ良ければと考える人がいるかも
知れませんが、講義を聞かないで合格点を取る事は、ほぼ不可能に近い内容になっています。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　講義毎にプリントを配布し、パワーポイントやＯＨＣを使用して講義を進めます。

◎－－－　参考書　－－－◎

ISBN 978-4822411626
日本貿易振興機構編集『ジェトロ貿易ハンドブック』　ジェトロ発行

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　国際物流論Ａ（前期）では、前述の国際物流の理論や基礎知識・専門用語等々を学び、続いて国際物流論Ｂ（後期）では、前期で学んだ事を全て修得済みとの前提で、「基本的な実践内容」へと進みます。
　従い、国際物流論ＡとＢの両講義の連続受講を薦めます。
　国際物流論Ｂを先に受講する事は、かなり難しいです。

◎－－－　授業計画　－－－◎

０１．講義の目的
０２．貿易と国際物流の歴史
０３．国際物流の変貌（１）
０４．国際物流の変貌（２）
０５．国際物流の変貌（３）
０６．貿易取引と海上輸送
０７．運送に関する国際ルール（１）
０８．運送に関する国際ルール（２）
０９．運送に関する国際ルール（３）
１０．貿易関連書類（１）
１１．貿易関連書類（２）
１２．貿易関連書類（３）
１３．国際複合輸送（１）
１４．国際複合輸送（２）
１５．まとめ

国際物流論Ａ

2019-4030000333-01

森下　隆夫

◎貿易:A-1,A-2

1.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関する基礎的な知識を身につけている。　(A-1)

2.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関して説明する事が出来る。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関する基礎的な知識を身につけている。　(A-1)

2.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関して説明する事が出来る。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際物流論Ａ

2019-4030000333-01

森下　隆夫

◎経営:A-1,A-2

1.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関する基礎的な知識を身につけている。　(A-1)

2.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関して説明する事が出来る。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際物流論Ｂ

2019-4030000334-01

森下　隆夫

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・４時限　　試験時間割：2020/01/23　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　前期で学んだ貿易における国際物流の理論やその仕組み、および貿易の基礎知識や専門用語の修得から更に深く掘り下げ、基礎的な実践内容に踏み込みます。後期はマクロの視点から各々の項目におけるミクロの視点に移行し、現状の把握と実務内容の基礎を学びます。

　具体的な内容としては、国際物流の現状と実務、国際的な経済グループ
と経済連携協定、フォワーダー協会、輸出入業務と関連する法令、および
海外の物流事情まで、全般の基礎知識を学びます。

　本講義は、担当教員が企業において３０数年に渡る国際物流業務（そのうち、１６年は海外勤務）の実務経験を活かし、そこで習得した知識と実践方法に基づいた授業を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関する基礎的な知識を身につけている。(知識・理解)

貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関して説明する事が出来る。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　国際物流論Ａを受講している事が前提ですので、本講受講の前に、国際
物流論Ａの全体の復習を薦めます。

国際物流論Ｂに関しては、講義内容が連続しているので、毎回受講後に
必ず復習を繰り返し行う事が必要です。特に英語を含む専門用語を都度・
都度覚えて行かないと、次の講義の内容が理解できなくなり、結果として
授業に付いて行けなくなります。

　受講後、最低６０分の復習を行い、授業内容の理解に努めて下さい。
また、次の授業の直前に３０分程度前回内容をリビューし、受講する事を
お勧めします。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験の結果（６０％）、及び授業への取り組み姿勢・発言点（２０％、
　【注】＝＝「出席点」ではありません＝＝）と、必要に応じて行われる
「小テスト」の結果（２０％）などを総合的に勘案し、国際物流の基礎知識に
対する理解度、及び上記目標の達成度を評価基準として判定致します。

「出席点」は考慮しませんので、試験さえ良ければと考える人がいるかも
知れませんが、講義を聞かないで合格点を取る事は、ほぼ不可能に近い
内容になっています。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　講義毎にプリントを配付し、パワーポイントやＯＨＣを使用して講義を進めます。

◎－－－　参考書　－－－◎

ISBN 978-4822411626
日本貿易振興機構編集　『ジェトロ貿易ハンドブック』　ジェトロ発行

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　国際物流論Ａ（前期）の受講を強く推奨します。

　国際物流論Ｂ（後期）は、前期で学んだ国際物流の基礎知識や専門用語を修得済みである事を前提として、講義を進めます。従い、前期で学んだ内容が理解できていないと、履修はかなり難しいです。全く分からない状況で受講しても、授業に付いて来れません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

０１．講義の目的
０２．フォワーダー業務の概要（１）
０３．フォワーダー業務の概要（２）
０４．フォワーダー業務の概要（３）
０５．輸出入業務の概要（１）
０６．輸出入業務の概要（２）
０７．輸出入業務の概要（３）
０８．輸出業務の実践（１）
０９．輸出業務の実践（２）
１０．輸入業務の実践（１）
１１．輸入業務の実践（２）
１２．輸入業務の実践（３）
１３．アセアン物流事情（１）
１４．アセアン物流事情（２）
１５．まとめ

国際物流論Ｂ

2019-4030000334-01

森下　隆夫

◎貿易:A-1,A-2

1.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関する基礎的な知識を身につけている。　(A-1)

2.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関して説明する事が出来る。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関する基礎的な知識を身につけている。　(A-1)

2.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関して説明する事が出来る。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際物流論Ｂ

2019-4030000334-01

森下　隆夫

◎経営:A-1,A-2

1.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関する基礎的な知識を身につけている。　(A-1)

2.貿易に関する国際商取引において、物流関連の基本的な仕組みと内容に関して説明する事が出来る。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際貿易論Ⅰ

2019-4030000391-01

松永　達

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・３時限　　試験時間割：2019/07/24　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

この授業の目的は、国際貿易に関する基礎的理論を把握したうえで、自由貿易の意味と現実の貿易構造の変化を理解することにある。
授業は、前半と後半に分かれている。前半では、自由貿易がもたらす利益について説明する理論を学ぶ。最初に、一国の中で労働生産性が相対的に高い産業が、国によって異なることに着目する比較生産費説を取り上げる。次に、国による要素賦存の相違と比較優位との関連について説明する。そして、労働生産性も要素賦存も同じ程度の国同士が行う工業製品の貿易を説明する理論として、「規模の経済」を入れた理論を説明する。
後半では、前半で学んだ理論を念頭に置きながら、現実の変化を考える。まず、一国の貿易構造が経済発展とともにどのように変化してきたかについて、日本と近隣諸国を中心に説明する。続いて、多国籍企業の展開がどのように貿易を変えてきたかについて説明する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

比較優位の正確な意味とその理論の概要を説明することができる。(知識・理解)

自由貿易がもたらす貿易の利益、並びにそれに付随する問題点を説明することができる。(知識・理解)

経済発展に伴う貿易構造の変化とその理由を説明することができる。(知識・理解)

多国籍企業の行動が貿易構造をどのように変化させているか説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回の授業の理解は、前回までの授業の理解が前提となる。受講の前に、前回の授業でとったノートの内容を復習しておくこと（60分）。
また、近年、東アジアを中心に各国の貿易構造は急激に変化している。日本の貿易の変化や、新興国の主力輸出品の変化に関するメディアの報道などに積極的に接して、その理解に努めておくこと（30分）。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

上記の到達目標の達成度を測る問題を定期試験で出題し、その点数で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しない。授業で表示するスライドおよび口頭での説明を参考にして、自分のノートをしっかり作ることが必須である。
必要に応じて資料を配付する。

◎－－－　参考書　－－－◎

『国際経済学』『国際貿易論』などと題された本なら、たいてい授業で扱う内容の一部が含まれている。
参考書として、特に以下の本を挙げる。いずれも図書館にある。
高増明・野口旭、『国際経済学』、ナカニシヤ出版、1997年。ISBN:978-4-8884-8326-1（絶版。図書館にある。）
高橋信弘、『国際経済学入門　改訂第二版』、ナカニシヤ出版、2015年。ISBN:978-4-7795-0923-0
リチャード Ｅ．ケイブズほか、伊藤隆敏監訳、『国際経済学入門Ⅰ』、日本経済新聞社、2003年。ISBN:4-532-13249-5

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに
2　リカードの比較生産費説１
3　リカードの比較生産費説２
4　リカードの比較生産費説３
5　自由貿易に関する論争
6　要素賦存と比較優位１
7　要素賦存と比較優位２
8　「規模の経済」と貿易１
9　「規模の経済」と貿易２
10　経済発展と貿易構造の変化１
11　経済発展と貿易構造の変化２
12　経済発展と貿易構造の変化３
13　多国籍企業の展開と貿易の変容１
14　多国籍企業の展開と貿易の変容２
15　まとめ

国際貿易論Ⅰ

2019-4030000391-01

松永　達

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.比較優位の正確な意味とその理論の概要を説明することができる。　(A-1)

2.自由貿易がもたらす貿易の利益、並びにそれに付随する問題点を説明することができる。　(A-3)

3.経済発展に伴う貿易構造の変化とその理由を説明することができる。　(A-2)

4.多国籍企業の行動が貿易構造をどのように変化させているか説明することができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.比較優位の正確な意味とその理論の概要を説明することができる。　(A-1)

2.自由貿易がもたらす貿易の利益、並びにそれに付随する問題点を説明することができる。　(A-3)

3.経済発展に伴う貿易構造の変化とその理由を説明することができる。　(A-2)

4.多国籍企業の行動が貿易構造をどのように変化させているか説明することができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際貿易論Ⅰ

松永　達

2019-4030000391-01

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.比較優位の正確な意味とその理論の概要を説明することができる。　(A-1)

2.自由貿易がもたらす貿易の利益、並びにそれに付随する問題点を説明することができる。　(A-3)

3.経済発展に伴う貿易構造の変化とその理由を説明することができる。　(A-2)

4.多国籍企業の行動が貿易構造をどのように変化させているか説明することができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際貿易論Ⅱ

2019-4030000392-01

松永　達

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：2020/01/16　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

国際貿易論Ⅱでは、国家による通商政策と、それがもたらす帰結や国家間の対立と協調について学ぶ。
まず、一国の通商政策の効果や問題点と、それに伴う国際ルールの形成を取り上げる。国家は関税・輸入割当・輸出補助金によって、自国産業を保護・育成してきたが、それが自国と貿易相手国の経済に様々な影響を及ぼし、国家間の対立を招いたこと、その解決のため国際ルールが形成されたこと、そして、こうした政策やルールが経済環境の変化に伴って変容し、さらにサービス貿易、対外投資、知的財産権といった新たな領域が通商政策において重視されるようになったことについて説明する。
そして、近年、WTOの下での貿易自由化が停滞する一方で、特定の国家間で貿易自由化を推進する自由貿易協定や経済連携協定が盛んになっていること、この狙いの一つは新たな領域でのルール形成の推進であることについて説明し、今後の国際貿易の動向を考える。

◎－－－　到達目標　－－－◎

自国産業保護や輸出促進を図る通商政策の内容と問題点を説明することができる。(知識・理解)

上記の通商政策の問題点を解決するため形成された国際的なルールについて説明することができる。(知識・理解)

途上国の一次産品輸出に関する問題点を説明することができる。(知識・理解)

近年重要性を増している新たな領域での通商政策の登場と、その背景について説明することができる。(知識・理解)

自由貿易協定や経済連携協定の狙いと、その背景について説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回の授業の理解は、前回までの授業の理解が前提となる。受講の前に、前回の授業でとったノートの内容を把握しておくこと（60分）。
また、企業の国際的な事業展開、内外の貿易自由化や通商摩擦の動向など、授業内容と密接に関わる最新の情勢について、メディアの報道などに積極的に接して、その理解に努めておくこと（30分）。最新の動きについては、講義中にも適宜紹介する。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

上記の到達目標の達成度を測る問題を定期試験で出題し、その点数で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しない。授業で表示するスライドおよび口頭での説明を参考にして、自分のノートをしっかり作ることが必須である。
必要に応じて資料を配付する。

◎－－－　参考書　－－－◎

高橋信弘、『国際経済学入門　改訂第二版』、ナカニシヤ出版、2015年。ISBN:978-4-7795-0923-0
リチャード Ｅ．ケイブズほか、伊藤隆敏監訳、『国際経済学入門Ⅰ』、日本経済新聞社、2003年。ISBN:4-532-13249-5
中川淳司、『WTO』（岩波新書）、岩波書店、2013年。ISBN:978-4-00-431416-5

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「国際貿易論Ⅰ」で扱う、自由貿易がもたらす貿易の利益とそれに付随する問題点、並びに多国籍企業の展開と貿易の変容について理解しておくことが望ましい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに
2　関税・輸入割当と国内産業の保護１
3　関税・輸入割当と国内産業の保護２
4　関税・輸入割当と国内産業の保護３
5　関税・輸入割当と国内産業の保護４
6　輸出補助金と輸出促進政策
7　一次産品問題と通商政策
8　直接投資と通商政策１
9　直接投資と通商政策２
10 サービス貿易と通商政策
11 知的財産権と通商政策
12 自由貿易協定と経済連携協定１
13 自由貿易協定と経済連携協定２
14 自由貿易協定と経済連携協定３
15 まとめ

国際貿易論Ⅱ

2019-4030000392-01

松永　達

◎貿易:A-1,A-2,A-3

1.自国産業保護や輸出促進を図る通商政策の内容と問題点を説明することができる。　(A-1)

2.上記の通商政策の問題点を解決するため形成された国際的なルールについて説明することができる。　(A-2)

3.途上国の一次産品輸出に関する問題点を説明することができる。　(A-3)

4.近年重要性を増している新たな領域での通商政策の登場と、その背景について説明することができる。　(A-2)

5.自由貿易協定や経済連携協定の狙いと、その背景について説明することができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2,A-3

1.自国産業保護や輸出促進を図る通商政策の内容と問題点を説明することができる。　(A-1)

2.上記の通商政策の問題点を解決するため形成された国際的なルールについて説明することができる。　(A-2)

3.途上国の一次産品輸出に関する問題点を説明することができる。　(A-3)

4.近年重要性を増している新たな領域での通商政策の登場と、その背景について説明することができる。　(A-2)

5.自由貿易協定や経済連携協定の狙いと、その背景について説明することができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際貿易論Ⅱ

2019-4030000392-01

松永　達

◎経営:A-1,A-2,A-3

1.自国産業保護や輸出促進を図る通商政策の内容と問題点を説明することができる。　(A-1)

2.上記の通商政策の問題点を解決するため形成された国際的なルールについて説明することができる。　(A-2)

3.途上国の一次産品輸出に関する問題点を説明することができる。　(A-3)

4.近年重要性を増している新たな領域での通商政策の登場と、その背景について説明することができる。　(A-2)

5.自由貿易協定や経済連携協定の狙いと、その背景について説明することができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際マーケティング論Ａ

2019-4030000329-01

山口　夕妃子

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・５時限　　試験時間割：2019/07/27　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は、国際マーケティングとグローバル・マーケティングの理論の理解ができることを主目的として進めていきます。
企業のマーケティング活動のグローバルな展開を理解し、それが企業活動全体としてどのような意味をもつのか、グローバル市場において、どのような役割を果たしているのかを考察していきます。
適時、企業の事例を紹介しながら、理論的理解が深まるように講義を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定はありません。

◎－－－　参考書　－－－◎

大石芳弘・山口夕妃子編『グローバル・マーケティングの新展開』白桃書房2013年　ISBN 978-4561662006
大石芳弘編『グローバル・マーケティング零（ゼロ）』白桃書房2017年　ISBN 978-4561652236
その他参考書は講義中に適時紹介します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

国際マーケティングやグローバル・マーケティングの基礎理論を理解する。(知識・理解)

近年の市場のグローバル化といった市場の変化や社会的背景をもとに企業活動のグローバルな展開を理解する。(知識・理解)

さまざまな企業の取り組みをグローバルな視点で捉えることができ、学んだ専門用語を用いて説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：事前に資料教材を配布するので、読んでくること。また各自関連する事柄については事前に調べること。
復習：講義で学んだテーマの中で自分の関心のあるところはさらに深く理解できるよう、関連する文献を読むこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義の到達目標の達成度を評価基準とします。
定期試験（70%）と課題・中間テスト（30%）で評価します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

マーケティング論に関する科目を受講していることが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. ガイダンス
2. マーケティングの基礎理論
3. 市場のグローバル化とセグメンテーション戦略
4. グローバル製品戦略
5. グローバル価格戦略
6. グローバル流通戦略
7. グローバル・コミュニケーション戦略
8. 小括・中間テスト
9. グローバル・マーケティングの特徴
10. グローバル・ブランド戦略
11. ケーススタディ（１）：コカコーラ
12. ケーススタディ（２）：GAFA
13. Eコマースのグローバル展開
14. 小売業のグローバル・マーケティング戦略
15. 総括

国際マーケティング論Ａ

2019-4030000329-01

山口　夕妃子

◎貿易:A-1,A-2

1.国際マーケティングやグローバル・マーケティングの基礎理論を理解する。　(A-1)

2.近年の市場のグローバル化といった市場の変化や社会的背景をもとに企業活動のグローバルな展開を理解する。　(A-2)

3.さまざまな企業の取り組みをグローバルな視点で捉えることができ、学んだ専門用語を用いて説明することができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.国際マーケティングやグローバル・マーケティングの基礎理論を理解する。　(A-1)

2.近年の市場のグローバル化といった市場の変化や社会的背景をもとに企業活動のグローバルな展開を理解する。　(A-2)

3.さまざまな企業の取り組みをグローバルな視点で捉えることができ、学んだ専門用語を用いて説明することができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際マーケティング論Ａ

2019-4030000329-01

山口　夕妃子

◎経営:A-1,A-2

1.国際マーケティングやグローバル・マーケティングの基礎理論を理解する。　(A-1)

2.近年の市場のグローバル化といった市場の変化や社会的背景をもとに企業活動のグローバルな展開を理解する。　(A-2)

3.さまざまな企業の取り組みをグローバルな視点で捉えることができ、学んだ専門用語を用いて説明することができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

国際マーケティング論Ｂ

2019-4030000330-01

山口　夕妃子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・５時限　　試験時間割：2020/01/22　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

　国際マーケティングやグローバル・マーケティング研究において主に対象とされてきた企業は製造業である。モノづくり企業の国際化・グローバル化のプロセスや進出国への参入戦略などが議論され、理論化されてきた。
　本講義では国際マーケティング論Aを受講してきたことを前提に「小売業の国際化」を中心とした内容で講義を行う。製造業とは異なる戦略はどこであるのか、どのように独自課題をもっているのかをケースを中心に理解を深められるように講義を進めていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

国際マーケティングやグローバル・マーケティングで用いられる専門用語を理解する。(知識・理解)

身近な小売業の国際的な展開プロセスを理解する。(知識・理解)

各国ごとに異なる市場理解とその市場で小売企業がどのように活動しているのかを理解する。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：事前に資料教材を配布するので、読んでくること。また各自関連する事柄については事前に調べること。
復習：講義で学んだテーマの中で自分の関心のあるところはさらに深く理解できるよう、関連する文献を読むこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義の到達目標の達成度を評価基準とする。
定期試験（70%）と課題・中間テスト（30%）で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

佐々木保幸・鳥羽達郎編『欧米小売企業の国際戦略』中央経済社

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

国際マーケティングAを受講した上で本講義を履修することが望ましいが、小売業に関心のある学生はこの限りではない。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．ガイダンス
2．小売業の国際化プロセス（1）
3．小売業の国際プロセス（2）
4．ウォルマート（アメリカ）
5．カルフール（イギリス）
6．テスコ（イギリス）
7．マークス＆スペンサー（イギリス）
8．アルディ（ドイツ）
9．トイザらス（アメリカ）
10．コストコ（アメリカ）
11．イケア（スウェーデン）
12．ヘネス＆マウリッツ（スウェーデン）
13．アマゾン（アメリカ）
14．キッザニア（メキシコ）
15．総括

国際マーケティング論Ｂ

2019-4030000330-01

山口　夕妃子

◎貿易:A-1,A-2

1.国際マーケティングやグローバル・マーケティングで用いられる専門用語を理解する。　(A-1)

2.身近な小売業の国際的な展開プロセスを理解する。　(A-2)

3.各国ごとに異なる市場理解とその市場で小売企業がどのように活動しているのかを理解する。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.国際マーケティングやグローバル・マーケティングで用いられる専門用語を理解する。　(A-1)

2.身近な小売業の国際的な展開プロセスを理解する。　(A-2)

3.各国ごとに異なる市場理解とその市場で小売企業がどのように活動しているのかを理解する。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

国際マーケティング論Ｂ

山口　夕妃子

◎経営:A-1,A-2

1.国際マーケティングやグローバル・マーケティングで用いられる専門用語を理解する。　(A-1)

2.身近な小売業の国際的な展開プロセスを理解する。　(A-2)

3.各国ごとに異なる市場理解とその市場で小売企業がどのように活動しているのかを理解する。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.国際マーケティングやグローバル・マーケティングで用いられる専門用語を理解する。　(A-1)

2.身近な小売業の国際的な展開プロセスを理解する。　(A-2)

3.各国ごとに異なる市場理解とその市場で小売企業がどのように活動しているのかを理解する。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

世界経済論「18台」

2019-4030000335-01

山本　和人

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・２時限　　試験時間割：2019/07/26　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

　第2次大戦後の世界経済の枠組みは、通貨の側からはIMF（「国際通貨基金」）、貿易の側からはGATT（「関税と貿易に関する一般協定」）を両輪として形成されました。もっとも、国際機関であるIMFと比較して、GATTは、各国の対立が強く、正式な協定を成立させることができず、暫定的な取決めとしての出発を余儀なくされました。こうした不完全な特徴をもつGATTが、戦後貿易のルールを提供してきたのです。そして漸く、1995年に正式の国際機関であるWTO（「世界貿易機関」）がGATTを包摂する形で発足し、現代に至っています。
　そこで本講義では、第1次大戦から第2次大戦勃発まで（「両大戦間期」）の世界経済の実態、第2次大戦期から大戦終結直後に至るアメリカとイギリスの戦後世界貿易構想への関わりを分析することを通じて、当初の戦後貿易システム形成の目的とその意義、さらにその変遷を明らかにすることを通じて、戦後の世界経済編成の論理と特徴について説明を加えたいと思います。
　テキスト『多国間通商協定GATTの誕生プロセス－戦後世界貿易システム成立史研究－』（増補版）の章別通りに講義は進行しますので、予め、配付する要約プリントを参考にしながら、次回の進行範囲を読んでおくと講義の理解度は高まります。
　こうした歴史分析を通じて、21世紀に入り、特に2008年のリーマン・ショック後、そうした構想が具体化された世界貿易システム（WTO）が機能不全陥っている現状把握、米中貿易戦争によって世界経済がますます不透明さを増す中で、WTOの存在意義とそれへの処方箋を模索する手がかりを提示できればと思っています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現在の貿易システムの原則と仕組みについて説明できるようになる。(知識・理解)

現在の貿易システムの形成過程について説明できるようになる。(知識・理解)

現代の貿易システムの問題点について説明できるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　予習として、教科書の指定した部分と予め配付する教科書を要約したプリントを読んでおいてください。
　復習として、要約プリントの各まとめの部分にある理解度テストに挑戦してください。その答え合わせは翌週の講義の初めに行います。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　評価方法とそれらの配分割合は次の通りです。定期試験（80%）と講義中に行う１、２回の小テストの結果（20%）で判断します。具体的には、現在の貿易システムの原則、その歴史的起源と意義について自分の言葉でどの程度まで正確に説明できるかが評価基準となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山本和人『多国間通商協定GATTの誕生プロセス―戦後世界貿易システム成立史研究（増補版）』ミネルヴァ書房、2019年3月刊行　ISBN978-4-623-08567-5
　大部の教科書なので、内容を要約したプリントを配付します。

◎－－－　参考書　－－－◎

山本和人『戦後世界貿易秩序の形成―英米の協調と角逐―』ミネルヴァ書房、1999年　ISBN 4-623-03045-8
山崎勇治/嶋田巧編『世界経済危機における日系企業ー多様化する状況への新たな戦略―』ミネルヴァ書房、2012年の第5章「多国間通商協定GATTの構想と誕生プロセス」（山本和人稿）　ISBN 978-4-623-06281-2
　その他、講義中に、参考文献を指摘しますので、図書館や書店で調べてください。また毎日欠かさず、新聞の経済・政治欄に目を通す習慣をつけることが重要です。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　世界経済システムとくに世界貿易システムに関する歴史分析を主とする本講義の理解を深めるためには、貿易理論と世界経済の現状についての知識が不可欠です。毎日、新聞やテレビのニュースを読んだり、見たりする習慣をつけ、最新の世界経済の動向に目を配ってください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．はじめにー 産業革命から現代にいたる世界経　済の移り変わり
２．両大戦間期世界経済： パクス・ブリタニカか　ら多極化の世界へー保護主義・貿易摩擦の時代
３．大恐慌の勃発と貿易政策の質的変化
４．大恐慌後の米英の貿易政策
５．ブロック経済の帰結
６．第2次世界大戦の勃発と戦後世界経済構想の起点
７．戦後世界経済に関する理念ー大西洋憲章第4、第5パラグラフと相互援助協定第7条
８．戦後世界貿易システムの形成過程（1）ー戦後　貿易案(多国間貿易機構：ミード案)の発表
９．ワシントン原則の合意
10．戦後世界貿易システムの形成過程（2）ーアメリカのイニシアティブの確立
11．戦後世界貿易システムの形成過程（3）ー「ツー・トラック・アプローチ」の提起
12．戦後世界貿易システムの形成過程（4）―米英の二国間協議から多国間協議へ
13．戦後貿易システムの形成過程（5）ーGATTの成立とITOの挫折
14．GATTの構造ー多国間主義の意義と限界
15．おわりにーGATTからWTOへ

世界経済論「18台」

2019-4030000335-01

山本　和人

◎貿易:A-1,A-2

1.現在の貿易システムの原則と仕組みについて説明できるようになる。　(A-1)

2.現在の貿易システムの形成過程について説明できるようになる。　(A-1)

3.現代の貿易システムの問題点について説明できるようになる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.現在の貿易システムの原則と仕組みについて説明できるようになる。　(A-1)

2.現在の貿易システムの形成過程について説明できるようになる。　(A-2)

3.現代の貿易システムの問題点について説明できるようになる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

世界経済論「18台」

山本　和人

2019-4030000335-01

◎経営:A-1,A-2

1.現在の貿易システムの原則と仕組みについて説明できるようになる。　(A-1)

2.現在の貿易システムの形成過程について説明できるようになる。　(A-1)

3.現代の貿易システムの問題点について説明できるようになる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

世界経済論「17台以前」

2019-4030000335-03

川合　研

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・４時限　　試験時間割：2019/07/24　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は、学生に国際経済の基礎理論と戦後の世界経済の歩みについての基礎知識を与えることである。
国際経済の基礎理論には、国際分業の理論と貿易の所得理論といわれるものがあり、本講義でも主としてこの二つの理論を紹介する。
また、戦後の世界経済の歩みについては、アメリカが世界経済の中心であった大戦終了時から１９７０年代初めまでの時期と、アメリカの力が相対的に弱体化したそれ以降の時期に分けて説明する。前者の時期は、パックス・アメリカーナと呼ばれ、戦後圧倒的な経済力を誇ったアメリカが中心になって世界経済が再編された時期である。パックス・アメリカーナの中心機構はドル体制と呼ばれるものであり、これはドルが国際通貨となったことを意味する。講義では、戦争直後のドル不足期からドル過剰期を経て、ドル危機に至るまでの戦後の世界経済秩序の変化をアメリカ経済の弱体化との関係で説明する。
１９７０年代以降の時期は、それまでのアメリカ中心の世界経済秩序から日本やドイツなどの先進工業国が世界経済の中心に躍り出てきた時代である。特に１９８０年代以降はアジア各国の発展が著しく、世界経済秩序は米、欧、アジアを中心とする多極化の時代を迎えた。
この時期はまた２度の石油ショックによって世界経済が激変した時期でもある。世界的インフレ、不況、経常収支構造の変化など世界経済に及ぼした石油ショックの影響は大きいものがあった。講義では、２度の石油ショックとその後の世界経済の再編について世界経済の多極化の観点から説明する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

貿易の原理や国民所得と貿易の関係について説明できる。(知識・理解)

ブレトンウッズ協定、ニクソンの新経済政策、石油危機、プラザ合意などについて説明できる。(知識・理解)

各国経済が金利、為替相場、貿易、国際資本移動を通じて相互に関連し合っていることを説明できる。(知識・理解)

両大戦間の世界不況と第二次大戦後の自由貿易体制の経験を理解することによって、今日の世界経済の抱える問題について考えることができる。(知識・理解)

新聞やネットの記事を読むことによって、最新の世界経済情勢を日常的に考えるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

前回授業について必ず復習しておくこと。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
世界経済を理解するために必要な理論と歴史を正確に理解した上で、今日の　経済問題について自分の考えを述べることができているかを評価基準とする。
②評価方法
定期試験によって評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しないが、プリントを配付する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

プロジェクターで講義しますので、ノートをしっかりとるようにしてください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　国際収支の考え方
2　国際間の決済と外国為替１
3　国際間の決済と外国為替２
4　国際分業と貿易１
5　国際分業と貿易２
6　貿易と所得１
7　貿易と所得２
8　IMFとGATT体制１
9　IMFとGATT体制２
10　ドル危機１
11　ドル危機２
12　石油危機と国際金融不安１
13　石油危機と国際金融不安２
14　世界経済の多極化１
15　世界経済の多極化２

世界経済論「17台以前」

2019-4030000335-03

川合　研

◎貿易:A-1,A-2

1.貿易の原理や国民所得と貿易の関係について説明できる。　(A-2)

2.ブレトンウッズ協定、ニクソンの新経済政策、石油危機、プラザ合意などについて説明できる。　(A-1)

3.各国経済が金利、為替相場、貿易、国際資本移動を通じて相互に関連し合っていることを説明できる。　(A-2)

4.両大戦間の世界不況と第二次大戦後の自由貿易体制の経験を理解することによって、今日の世界経済の抱える問題について考えることができる。　(A-1)

5.新聞やネットの記事を読むことによって、最新の世界経済情勢を日常的に考えるようになる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.貿易の原理や国民所得と貿易の関係について説明できる。　(A-2)

2.ブレトンウッズ協定、ニクソンの新経済政策、石油危機、プラザ合意などについて説明できる。　(A-1)

3.各国経済が金利、為替相場、貿易、国際資本移動を通じて相互に関連し合っていることを説明できる。　(A-2)

4.両大戦間の世界不況と第二次大戦後の自由貿易体制の経験を理解することによって、今日の世界経済の抱える問題について考えることができる。　(A-1)

5.新聞やネットの記事を読むことによって、最新の世界経済情勢を日常的に考えるようになる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

世界経済論「17台以前」

2019-4030000335-03

川合　研

◎経営:A-1,A-2

1.貿易の原理や国民所得と貿易の関係について説明できる。　(A-2)

2.ブレトンウッズ協定、ニクソンの新経済政策、石油危機、プラザ合意などについて説明できる。　(A-1)

3.各国経済が金利、為替相場、貿易、国際資本移動を通じて相互に関連し合っていることを説明できる。　(A-2)

4.両大戦間の世界不況と第二次大戦後の自由貿易体制の経験を理解することによって、今日の世界経済の抱える問題について考えることができる。　(A-1)

5.新聞やネットの記事を読むことによって、最新の世界経済情勢を日常的に考えるようになる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

日本経済論A

2019-4030000321-01

深川　博史

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・１時限　　試験時間割：2019/07/30　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

現在の日本経済を理解するためには、その成り立ちを知る必要があります。日本経済論Aでは、日本の近代化の歴史について学ぶことで、日本の経済発展の経緯を把握するとともに、日本に固有の経済構造が如何にして構築されてきたか学習します。
先ず、発展途上国段階の明治期日本の経済課題とは何であり、それはどのような政策によって解決されたか把握します。具体的には、明治政府主導の産業育成政策や技術導入政策、およびその後の工業化政策です。併せて、地主小作制下の農業政策についても学習します。
次に、途上国日本が経済発展することで生じた農工間不均等発展などの問題が、欧米諸国や近隣アジア諸国との経済関係に如何なる影響を与えたか学びます。それは具体的には、欧米との貿易構造や、植民地貿易構造、大恐慌後のブロック経済等です。
さらに、敗戦を経験した日本経済が短期間に復興を遂げた背景には、如何なる経済政策が存在したか、高度経済成長により生じた問題は如何にして克服されてきたか、日本企業の競争力向上の産物たる貿易摩擦は、如何なる国際交渉により解決されてきたか、学習します。それらは、農地改革、傾斜生産方式、日本列島改造論、日米貿易摩擦等です。併せて、それら日本経済の遭遇した問題は、如何なる経済の仕組みとして把握されてきたか学んでいきます。
授業はパワーポイントを用いて説明します。授業冒頭に、パワーポイントの内容を紙媒体の資料で配布します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本経済の主な出来事についての知識をもっている。(知識・理解)

日本経済の主要な事象を、様々なデータに基づいて論理的に分析することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業後に、授業内容の要点をまとめておくこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の成績70%、平素の成績30%で評価します。
定期試験には、学習内容の理解度を測る問題を出題します。
平素の成績は、ミニレポート等により評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

パワーポイントの説明資料を配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

現代の経済は歴史の産物です。過去の経済活動の堆積物として、現在の経済は存在しています。現代史の学習は、今を知る上で大切です。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. 国土構造と歴史背景
2. 明治政府の産業育成政策
3. 20世紀前半の貿易構造
4. 植民地政策の展開
5. 地主制と日本の工業化
6. 昭和恐慌下の日本経済
7. 世界恐慌下の日本経済
8. 地主制の後退と農地改革
9. 傾斜生産方式
10. 朝鮮戦争と朝鮮特需
11. 1960年代の高度経済成長
12. ニクソンショックと日本列島改造論
13. オイルショックと不況からの脱却
14. 日米貿易摩擦とプラザ合意
15. まとめ

日本経済論Ａ

2019-4030000321-01

深川　博史

◎貿易:A-1,A-2

1.日本経済の主な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本経済の主要な事象を、様々なデータに基づいて論理的に分析することができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.日本経済の主な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本経済の主要な事象を、様々なデータに基づいて論理的に分析することができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

日本経済論Ａ

2019-4030000321-01

深川　博史

◎経営:A-1,A-2

1.日本経済の主な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本経済の主要な事象を、様々なデータに基づいて論理的に分析することができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.日本経済の主な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本経済の主要な事象を、様々なデータに基づいて論理的に分析することができる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

日本経済論Ｂ

深川　博史

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　　試験時間割：2020/01/24　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

日本の高度経済成長後の歩みを概観した後、現在の日本が抱えている経済問題について学びます。
日本は1960年代の高度経済成長をへて、70年代の低成長を克服し、80年代には日米貿易摩擦や円高不況を経験しました。また、円高不況対策としての金融緩和政策は、その後のバブル経済の一因となりました。バブル経済の崩壊から回復した日本は、少子高齢化に直面しており、少子化対応の一環として今、働き方改革を進めています。
本講義では、高度経済成長からバブル経済崩壊への流れについて解説した後に、身近な話題である少子高齢化や働き方改革について説明します。働き方改革は、皆さんの進路や生き方にかかわる話ですので、興味を持って聞いて頂けると思います。そして、最後に、今後の日本経済が直面するグローバル化について説明します。これからの日本で生きようとする皆さんにも、海外との経済交流が大切であることを理解して頂きます。
高度経済成長後の日本は、オイルショック、日米貿易摩擦、バブル経済崩壊等の問題を抱えてきました。日本は、それらの問題に取り組み、問題を解決する毎に、新たな問題に直面してきました。その経験は、現在の問題の解決にもヒントを与えてくれます。例えば、1980年代前半のレーガン政権下の日米貿易摩擦は、今の米国発の保護主義の流れに状況が少し似ています。当時の日本企業は貿易摩擦を回避するために現地生産を拡大させました。今後の日本も、経済活動を海外に展開させ、一層のグローバル化を進めることになるでしょう。
このグローバル化の流れには、少子高齢化もかかわっています。生産年齢人口の減少や、少子化の進む日本では、将来の国内需要の縮小は避けられません。日本経済は成長を持続させるために、経済活動を一層、海外に展開することになるでしょう。そういう状況において、皆さんは、どのような生き方を選び、また、どのような働き方が可能なのでしょうか。この講義では、少子化対策としての働き方改革の現状について紹介し、AI時代における働き方や、海外への経済活動の展開などについて考えていきます。
講義はパワーポイントを用いて説明します。講義の冒頭に、パワーポイントの内容を紙媒体の資料で配布します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本経済に関する現在の主な出来事についての知識をもっている。(知識・理解)

日本経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業前に、少子高齢化や働き方改革等の、日本経済に関わる問題について、マスメディアの情報に接しておくこと。
授業後には、それらの経済問題が、如何なるメカニズムの下で生起しているか、整理しておくこと。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の成績70%、平素の成績30%で評価します。
定期試験には、学習内容の理解度を測る問題を出題します。
平素の成績は、ミニレポート等により評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

パワーポイントの説明資料を配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「日本経済論A」を併せて受講することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. ガイダンス（高度経済成長後の日本経済）
2. 日米貿易摩擦とプラザ合意
3. バブル経済の発生
4. バブル経済の国内要因：土地神話
5. 失われた10年
6. 少子高齢化
7. 働き方改革
8. 働き方改革の行方
9. 限定正社員という生き方
10. AI時代を如何に生きるか？
11. 日本経済のグローバル化
12. 自由貿易体制下の日本経済の進路
13. 日本の市場開放
14. 保護主義の台頭と日本の対外戦略
15. 市場開放と国土環境保全

日本経済論Ｂ

2019-4030000322-01

深川　博史

◎貿易:A-1,A-2

1.日本経済に関する現在の主な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析することができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.日本経済に関する現在の主な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析することができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

日本経済論Ｂ

2019-4030000322-01

深川　博史

◎経営:A-1,A-2

1.日本経済に関する現在の主な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析することができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.日本経済に関する現在の主な出来事についての知識をもっている。　(A-1)

2.日本経済に関わる事象を、様々な証拠に基づいて論理的に分析することができる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-01

ヤング，シャーリー

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

Business English Conversation Elementary is a year-long communication skills course for first year students. Students will develop confidence in understanding and speaking English at a functional level in a business context. Using a combination of authentic materials and a content-based textbook, students will be introduced to the English vocabulary and practices of the workplace environment. In addition, they will do basic research on Japan ’ s trade with other countries.

Speaking and listening will be the main skills focus in class with additional reading and writing tasks to be done outside of class time. The use of basic business terminology will secure student ’ s confidence in using the language. Such activities will include projects comprised of group work, brainstorming, describing things, the language of comparison and at least one presentation. A range of materials drawn from British, American, Australian and Asian contexts will be used.

Lastly, dr awing on my 10 year ’ s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’ s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

これは年間を通した学習を通して、一年次のみなさんにヒ シ ネス英語に よるコミュニケーション・スキルを修得してもらうための授業て す。英語 のヒ シネス環境て 会話を理解し、話すことに対する自信の形成か その狙い て す。実用的な教材とコンテンツ主体の教科書を用いた指導により、みな さんはヒ シネスの現場て 実際に使われている英語に接することになりま す。更に日本の貿易についても調へ ることか 求められます。毎週の授業て は聞くことと話すことに焦点か おかれますか 、読むことと書くことも宿題 として課せられます。ヒ シ ネスに固有の英語を使った会話学習か 、それを 使いこなすことへの自信につなか ります。これは更に、批評と意思決定を 必要とする演習により、一層深まることになるて しょう。演習には年間を 通して取り組むひとつのフ ロシ ェクトか 含まれます。これはク ルーフ 学 習、フ レーンストーミンク 、事案説明と少なくとも1回のフ レセ ンテー ションによって構成されています。この授業て は英国、米国、オーストラ リア、アシ ア諸国の教材か 用いられます。
なお、この講義では、オーストラリア税関における10年間の実務経験を生かして、国際貿易関連法規を順守させる上での政府の役割およびビジネスへの影響について実例に基づいて説明する予定です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.(態度・志向性)

Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.(技能)

Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as complete weekly homework tasks.
　積極的に授業に参加することに加え、毎週課せられる宿題を全てやりこなすことが求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(Project 40%: two group presentations in English of an acceptable quality, Homework 20%: complete a specified weekly quantity of listening and comprehension questions, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Listening 10%, Class Contribution 10%: how often student asks and answers questions with teacher and classmates).

全期を通した取組み姿勢をもとに評価する。期末試験は実施しない。(フ ロシ ェクト40%:ク ルーフ フ レセ ンテーションをする。英語て 、他の国 と日本の貿易関係を説明する、宿題20%:理解の質問、ホ キャフ ラリー 20%:100以上のヒ シ ネス用語、聞き取り10%、授業への貢献1 0%:発言の頻度)
授業形態: 講義(外国語による)期別:

◎－－－　テキスト　－－－◎

Buckingham, A., & Whitney, N. (2002). Passport to work. Oxford: Oxford University Press. ISBN978-0-19-457364-1

◎－－－　参考書　－－－◎

978-0-19-　ISBN 457364-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Effective communication is the principle focus of this course and language skills require practice. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities, as well as complete the homework assignments. Poor English when spoken is an act of communication and sharing; perfect English when unspoken is not.

Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher (Moodle), and ask for help at any time they need it. This is most important for the success of each individual student.
　この授業の焦点は効率的なコミュニケーションにありますが、その語学能力を養しなうためには練習を必要とします。ですから、みなさんにはクラスでの会話学習に積極的に参加してもらった上で、宿題をきちんとこなすことが求められます。不完全な英語であっても構いません。それが実際に使われればコミュニケーションの道具としての役割を十分果たすからです。完璧な英語であっても使われなければ何の意味もなしません。また自分の進歩を常に意識しながら学習し、分からないところは必ず教員に聞く習慣をつけることが必要です。こうすれば必ず成果が上がります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

Spring (前期)
1. Introduction to course
授業概要
2. Job titles + company organization
Unit 1: 役職と企業組織
3. Job descriptions + department names
Unit 2: 業務内容と部課名
4. Describing locations
Unit 3: 指示を出す
5. Giving Instructions
Unit 4: 指示の出し方
6. Making requests
Unit 6: 要望の出し方
7. Project: overview
フ ロシ ェクト概要
8. Project: topics & research
フ ロシ ェクトのテーマと調査
9. Project - research
フ ロシ ェクトの構築
10. Presentation: main idea
11. Presentation structure
フ レセ ンテーション:構造
12. Acronyms
略語の活用
13. Presentation: elements for introduction
フ レセ ンテーションの基礎知識
14. Presentation: pronunciation
フ レセ ンテーションのための発音練習
15. Presentation: recording audio
オーテ ィオ機器の利用
Autumn (後期)
1. Project: introduction + note-taking
フ ロシ ェクトの基礎知識とノート取り
2. Assessing sources
情報源の評価
3. Presentation structure: review
フ レセ ンテーションの構造のリヒ ュ
4. Presentation: language of comparison
フ レセ ンテーションのための言語表現
5. Poster design
掲示板のテ サ イン
6. Presentation: aids
フ レセ ンテーションのための補完的ツール
7. Presentation: delivery
フ レセ ンテーションの伝達
8. Presentation: practice
フ レセ ンテーションの練習
9. Presentations
フ レセ ンテーション全般
10. Presentations
フ レセ ンテーション全般
11. Talking about sales and numbers
Unit 8: 販売実績に関する発表
12. Discussing future plans, talking about yourself
Units 10 & 11: 事業計画の打ち合わせ
13. Dealing with inquiries
Unit 12: 業務内容の背景説明
14. Predicting and making comparisons
Unit 13: 比較をする
15. Vocabulary & listening tests, Review
テスト、復習

◎－－－　URL　－－－◎

2019 ビジネス英会話初級：ヤング
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-01

ヤング，シャーリー

◎貿易:B-3,C-4

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(C-4)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-01

ヤング，シャーリー

◎経営:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-02

ヤング，シャーリー

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・１時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

Business English Conversation Elementary is a year-long communication skills course for first year students. Students will develop confidence in understanding and speaking English at a functional level in a business context. Using a combination of authentic materials and a content-based textbook, students will be introduced to the English vocabulary and practices of the workplace environment. In addition, they will do basic research on Japan ’ s trade with other countries.

Speaking and listening will be the main skills focus in class with additional reading and writing tasks to be done outside of class time. The use of basic business terminology will secure student ’ s confidence in using the language. Such activities will include projects comprised of group work, brainstorming, describing things, the language of comparison and at least one presentation. A range of materials drawn from British, American, Australian and Asian contexts will be used.

Lastly, dr awing on my 10 year ’ s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’ s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

これは年間を通した学習を通して、一年次のみなさんにヒ シ ネス英語に よるコミュニケーション・スキルを修得してもらうための授業て す。英語 のヒシ ネス環境て 会話を理解し、話すことに対する自信の形成か その狙い て す。実用的な教材とコンテンツ主体の教科書を用いた指導により、みな さんはヒ シ ネスの現場て 実際に使われている英語に接することになりま す。更に日本の貿易についても調へ ることか 求められます。毎週の授業て は聞くことと話すことに焦点か おかれますか 、読むことと書くことも宿題 として課せられます。ヒ シ ネスに固有の英語を使った会話学習か 、それを 使いこなすことへの自信につなか ります。これは更に、批評と意思決定を 必要とする演習により、一層深まることになるて しょう。演習には年間を 通して取り組むひとつのフ ロシ ェクトか 含まれます。これはク ルーフ 学 習、フ レーンストーミンク 、事案説明と少なくとも1回のフ レセ ンテー ションによって構成されています。この授業て は英国、米国、オーストラ リア、アシ ア諸国の教材か 用いられます。
なお、この講義では、オーストラリア税関における10年間の実務経験が生かして、国際貿易関連法規を順守させる上での政府の役割およびビジネスへの影響について実例に基づいて説明する予定です。

◎－－－　到達目標　－－－◎

To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.(態度・志向性)

Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.(技能)

Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as complete weekly homework tasks.
積極的に授業に参加することに加え、毎週課せられる宿題を全てやりこなすことが求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(Project 40%: two group presentations in English of an acceptable quality, Homework 20%: complete a specified weekly quantity of listening and comprehension questions, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Listening 10%, Class Contribution 10%: how often student asks and answers questions with teacher and classmates).

全期を通した取組み姿勢をもとに評価する。期末試験は実施しない。(フ ロシ ェクト40%:ク ルーフ フ レセ ンテーションをする。英語て 、他の国 と日本の貿易関係を説明する、宿題20%:理解の質問、ホ キャフ ラリー 20%:100以上のヒ シ ネス用語、聞き取り10%、授業への貢献1 0%:発言の頻度)
授業形態: 講義(外国語による)期別:

◎－－－　テキスト　－－－◎

Buckingham, A., & Whitney, N. (2002). Passport to work. Oxford: Oxford University Press.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-0-19-　ISBN 457364-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Effective communication is the principle focus of this course and language skills require practice. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities, as well as complete the homework assignments. Poor English when spoken is an act of communication and sharing; perfect English when unspoken is not.

Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher (Moodle), and ask for help at any time they need it. This is most important for the success of each individual student.
　この授業の焦点は効率的なコミュニケーションにありますが、その語学能力を養しなうためには練習を必要とします。ですから、みなさんにはクラス での会話学習に積極的に参加してもらった上で、宿題をきちんとこなすことが求められます。不完全な英語であっても構いません。それが実際に使われればコ ミュニケーションの道具としての役割を十分果たすからです。完璧な英語であっても使われなければ何の意味もなしません。また自分の進歩を常に意識しながら 学習し、分からないところは必ず教員に聞く習慣をつけることが必要です。こうすれば必ず成果が上がります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

Spring (前期)
1. Introduction to course
授業概要
2. Job titles + company organization
Unit 1: 役職と企業組織
3. Job descriptions + department names
Unit 2: 業務内容と部課名
4. Describing locations
Unit 3: 指示を出す
5. Giving Instructions
Unit 4: 指示の出し方
6. Making requests
Unit 6: 要望の出し方
7. Project: overview
フ ロシ ェクト概要
8. Project: topics & research
フ ロシ ェクトのテーマと調査
9. Project - research
フ ロシ ェクトの構築
10. Presentation: main idea
11. Presentation structure
フ レセ ンテーション:構造
12. Acronyms
略語の活用
13. Presentation: elements for introduction
フ レセ ンテーションの基礎知識
14. Presentation: pronunciation
フ レセ ンテーションのための発音練習
15. Presentation: recording audio
オーテ ィオ機器の利用
Autumn (後期)
1. Project: introduction + note-taking
フ ロシ ェクトの基礎知識とノート取り
2. Assessing sources
情報源の評価
3. Presentation structure: review
フ レセ ンテーションの構造のリヒ ュ
4. Presentation: language of comparison
フ レセ ンテーションのための言語表現
5. Poster design
掲示板のテ サ イン
6. Presentation: aids
フ レセ ンテーションのための補完的ツール
7. Presentation: delivery
フ レセ ンテーションの伝達
8. Presentation: practice
フ レセ ンテーションの練習
9. Presentations
フ レセ ンテーション全般
10. Presentations
フ レセ ンテーション全般
11. Talking about sales and numbers
Unit 8: 販売実績に関する発表
12. Discussing future plans, talking about yourself
Units 10 & 11: 事業計画の打ち合わせ
13. Dealing with inquiries
Unit 12: 業務内容の背景説明
14. Predicting and making comparisons
Unit 13: 比較をする
15. Vocabulary & listening tests, Review
テスト、復習

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話初級:ヤング
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp)

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-02

ヤング，シャーリー

◎貿易:B-3,C-4

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(C-4)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-02

ヤング，シャーリー

◎経営:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-03

スカンロン，アラン

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・１時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

Business English Conversation Elementary is a year-long communication skills course for first year students. Students will develop confidence in understanding and speaking English at a functional level in a business context. Using a combination of authentic materials and a content-based textbook, students will be introduced to the English vocabulary and practices of the workplace environment. In addition, they will do basic research on Japan ’ s trade with other countries.

Speaking and listening will be the main skills focus in class with additional reading and writing tasks to be done outside of class time. The use of basic business terminology will secure student ’ s confidence in using the language. Such activities will include projects comprised of group work, brainstorming, describing things, the language of comparison and at least one presentation. A range of materials drawn from British, American, Australian and Asian contexts will be used.

これは年間を通した学習を通して、一年次のみなさんにヒ シ ネス英語によるコミュニケーション・スキルを修得してもらうための授業て す。英語のヒ シ ネス環境て 会話を理解し、話すことに対する自信の形成か その狙い て す。実用的な教材とコンテンツ主体の教科書を用いた指導により、みな さんはヒ シ ネスの現場て 実際に使われている英語に接することになりま す。更に日本の貿易についても調へ ることか 求められます。毎週の授業て は聞くことと話すことに焦点か おかれますか 、読むことと書くことも宿題 として課せられます。ヒ シ ネスに固有の英語を使った会話学習か 、それを 使いこなすことへの自信につなか ります。これは更に、批評と意思決定を 必要とする演習により、一層深まることになるて しょう。演習には年間を 通して取り組むひとつのフ ロシ ェクトか 含まれます。これはク ルーフ 学 習、フ レーンストーミンク 、事案説明と少なくとも1回のフ レセ ンテー ションによって構成されています。この授業て は英国、米国、オーストラ リア、アシ ア諸国の教材か 用いられます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

To describe in English various international trade organizations and the import/ export trade of Japan with various countries.(態度・志向性)

Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.(技能)

Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as complete weekly homework tasks.
　積極的に授業に参加することに加え、毎週課せられる宿題を全てやりこなすことが求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(Project 40%: two group presentations in English of an acceptable quality, Homework 20%: complete a specified weekly quantity of listening and comprehension questions, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Listening 10%, Class Contribution 10%: how often student asks and answers questions with teacher and classmates).

全期を通した取組み姿勢をもとに評価する。期末試験は実施しない。(フ ロシ ェクト40%:ク ルーフ フ レセ ンテーションをする。英語て 、他の国と日本の貿易関係を説明する、宿題20%:理解の質問、ホ キャフ ラリー20%:100以上のヒ シ ネス用語、聞き取り10%、授業への貢献1 0%:発言の頻度)
授業形態: 講義(外国語による)期別:

◎－－－　テキスト　－－－◎

Buckingham, A., & Whitney, N. (2002). Passport to work. Oxford: Oxford University Press. ISBN978-0-19-457364-1

◎－－－　参考書　－－－◎

978-0-19-　ISBN 457364-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Effective communication is the principle focus of this course and language skills require practice. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities, as well as complete the homework assignments. Poor English when spoken is an act of communication and sharing; perfect English when unspoken is not.

Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher (Moodle), and ask for help at any time they need it. This is most important for the success of each individual student.
　この授業の焦点は効率的なコミュニケーションにありますが、その語学能力を養うためには練習を必要とします。ですから、みなさんにはクラスでの会話学習に積極的に参加してもらった上で、宿題をきちんとこなすことが求められます。不完全な英語であっても構いません。それが実際に使われればコミュニケーションの道具としての役割を十分果たすからです。完璧な英語であっても使われなければ何の意味もなしません。また自分の進歩を常に意識しながら学習し、分からないところは必ず教員に聞く習慣をつけることが必要です。こうすれば必ず成果が上がります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

Spring (前期)
1. Introduction to course
授業概要
2. Job titles + company organization
Unit 1: 役職と企業組織
3. Job descriptions + department names
Unit 2: 業務内容と部課名
4. Describing locations
Unit 3: 指示を出す
5. Giving Instructions
Unit 4: 指示の出し方
6. Making requests
Unit 6: 要望の出し方
7. Project: overview
フ ロシ ェクト概要
8. Project: topics & research
フ ロシ ェクトのテーマと調査
9. Project - research
フ ロシ ェクトの構築
10. Presentation: main idea
11. Presentation structure
フ レセ ンテーション:構造
12. Acronyms
略語の活用
13. Presentation: elements for introduction
フ レセ ンテーションの基礎知識
14. Presentation: pronunciation
フ レセ ンテーションのための発音練習
15. Presentation: recording audio
オーテ ィオ機器の利用
Autumn (後期)
1. Project: introduction + note-taking
フ ロシ ェクトの基礎知識とノート取り
2. Assessing sources
情報源の評価
3. Presentation structure: review
フ レセ ンテーションの構造のリヒ ュ
4. Presentation: language of comparison
フ レセ ンテーションのための言語表現
5. Poster design
掲示板のテ サ イン
6. Presentation: aids
フ レセ ンテーションのための補完的ツール
7. Presentation: delivery
フ レセ ンテーションの伝達
8. Presentation: practice
フ レセ ンテーションの練習
9. Presentations
フ レセ ンテーション全般
10. Presentations
フ レセ ンテーション全般
11. Talking about sales and numbers
Unit 8: 販売実績に関する発表
12. Discussing future plans, talking about yourself
Units 10 & 11: 事業計画の打ち合わせ
13. Dealing with inquiries
Unit 12: 業務内容の背景説明
14. Predicting and making comparisons
Unit 13: 比較をする
15. Vocabulary & listening tests, Review
テスト、復習

◎－－－　URL　－－－◎

2019 ビジネス英会話初級：ヤング
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-03

スカンロン，アラン

◎貿易:B-3,C-4

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(C-4)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-03

スカンロン，アラン

◎経営:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-04

スカンロン，アラン

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

Business English Conversation Elementary is a year-long communication skills course for first year students. Students will develop confidence in understanding and speaking English at a functional level in a business context. Using a combination of authentic materials and a content-based textbook, students will be introduced to the English vocabulary and practices of the workplace environment. In addition, they will do basic research on Japan ’ s trade with other countries.

Speaking and listening will be the main skills focus in class with additional reading and writing tasks to be done outside of class time. The use of basic business terminology will secure student ’ s confidence in using the language. Such activities will include projects comprised of group work, brainstorming, describing things, the language of comparison and at least one presentation. A range of materials drawn from British, American, Australian and Asian contexts will be used.

これは年間を通した学習を通して、一年次のみなさんにヒ シ ネス英語によるコミュニケーション・スキルを修得してもらうための授業て す。英語 のヒ シ ネス環境て 会話を理解し、話すことに対する自信の形成か その狙い て す。実用的な教材とコンテンツ主体の教科書を用いた指導により、みな さんはヒ シ ネスの現場て 実際に使われている英語に接することになりま す。更に日本の貿易についても調へ ることか 求められます。毎週の授業て は聞くことと話すことに焦点か おかれますか 、読むことと書くことも宿題 として課せられます。ヒ シ ネスに固有の英語を使った会話学習か 、それを 使いこなすことへの自信につなか ります。これは更に、批評と意思決定を 必要とする演習により、一層深まることになるて しょう。演習には年間を 通して取り組むひとつのフ ロシ ェクトか 含まれます。これはク ルーフ 学 習、フ レーンストーミンク 、事案説明と少なくとも1回のフ レセ ンテー ションによって構成されています。この授業ては英国、米国、オーストラ リア、アシ ア諸国の教材か 用いられます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.(態度・志向性)

Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.(技能)

Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as complete weekly homework tasks.
積極的に授業に参加することに加え、毎週課せられる宿題を全てやりこなすことが求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(Project 40%: two group presentations in English of an acceptable quality, Homework 20%: complete a specified weekly quantity of listening and comprehension questions, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Listening 10%, Class Contribution 10%: how often student asks and answers questions with teacher and classmates).

全期を通した取組み姿勢をもとに評価する。期末試験は実施しない。(フロシ ェクト40%:ク ルーフ フ レセ ンテーションをする。英語て 、他の国と日本の貿易関係を説明する、宿題20%:理解の質問、ホ キャフ ラリー20%:100以上のヒ シ ネス用語、聞き取り10%、授業への貢献1 0%:発言の頻度)
授業形態: 講義(外国語による)期別:

◎－－－　テキスト　－－－◎

Buckingham, A., & Whitney, N. (2002). Passport to work. Oxford: Oxford University Press.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-0-19-　ISBN 457364-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Effective communication is the principle focus of this course and language skills require practice. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities, as well as complete the homework assignments. Poor English when spoken is an act of communication and sharing; perfect English when unspoken is not.

Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher (Moodle), and ask for help at any time they need it. This is most important for the success of each individual student.
　この授業の焦点は効率的なコミュニケーションにありますが、その語学能力を養うためには練習を必要とします。ですから、みなさんにはクラス での会話学習に積極的に参加してもらった上で、宿題をきちんとこなすことが求められます。不完全な英語であっても構いません。それが実際に使われればコ ミュニケーションの道具としての役割を十分果たすからです。完璧な英語であっても使われなければ何の意味もなしません。また自分の進歩を常に意識しながら 学習し、分からないところは必ず教員に聞く習慣をつけることが必要です。こうすれば必ず成果が上がります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

Spring (前期)
1. Introduction to course
授業概要
2. Job titles + company organization
Unit 1: 役職と企業組織
3. Job descriptions + department names
Unit 2: 業務内容と部課名
4. Describing locations
Unit 3: 指示を出す
5. Giving Instructions
Unit 4: 指示の出し方
6. Making requests
Unit 6: 要望の出し方
7. Project: overview
フ ロシ ェクト概要
8. Project: topics & research
フ ロシ ェクトのテーマと調査
9. Project - research
フ ロシ ェクトの構築
10. Presentation: main idea
11. Presentation structure
フ レセ ンテーション:構造
12. Acronyms
略語の活用
13. Presentation: elements for introduction
フ レセ ンテーションの基礎知識
14. Presentation: pronunciation
フ レセ ンテーションのための発音練習
15. Presentation: recording audio
オーテ ィオ機器の利用
Autumn (後期)
1. Project: introduction + note-taking
フ ロシ ェクトの基礎知識とノート取り
2. Assessing sources
情報源の評価
3. Presentation structure: review
フ レセ ンテーションの構造のリヒ ュ
4. Presentation: language of comparison
フ レセ ンテーションのための言語表現
5. Poster design
掲示板のテ サ イン
6. Presentation: aids
フ レセ ンテーションのための補完的ツール
7. Presentation: delivery
フ レセ ンテーションの伝達
8. Presentation: practice
フ レセ ンテーションの練習
9. Presentations
フ レセ ンテーション全般
10. Presentations
フ レセ ンテーション全般
11. Talking about sales and numbers
Unit 8: 販売実績に関する発表
12. Discussing future plans, talking about yourself
Units 10 & 11: 事業計画の打ち合わせ
13. Dealing with inquiries
Unit 12: 業務内容の背景説明
14. Predicting and making comparisons
Unit 13: 比較をする
15. Vocabulary & listening tests, Review
テスト、復習

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話初級:ヤング
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp)

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-04

スカンロン，アラン

◎貿易:B-3,C-4

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(C-4)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-04

スカンロン，アラン

◎経営:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-05

ライカーズ　アレクサンダー

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・１時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

Business English Conversation Elementary is a year-long communication skills course for first year students. Students will develop confidence in understanding and speaking English at a functional level in a business context. Using a combination of authentic materials and a content-based textbook, students will be introduced to the English vocabulary and practices of the workplace environment. In addition, they will do basic research on Japan ’ s trade with other countries.

Speaking and listening will be the main skills focus in class with additional reading and writing tasks to be done outside of class time. The use of basic business terminology will secure student ’ s confidence in using the language. Such activities will include projects comprised of group work, brainstorming, describing things, the language of comparison and at least one presentation. A range of materials drawn from British, American, Australian and Asian contexts will be used.

これは年間を通した学習を通して、一年次のみなさんにビジネス英語によるコミュニケーション・スキルを修得してもらうための授業です。英語 のビジネス環境で会話を理解し、話すことに対する自信の形成がその狙い です。実用的な教材とコンテンツ主体の教科書を用いた指導により、みな さんはビジネスの現場で実際に使われている英語に接することになりま す。更に日本の貿易についても調べることが求められます。毎週の授業で は聞くことと話すことに焦点がおかれますが、読むことと書くことも宿題 として課せられます。ビジネスに固有の英語を使った会話学習が、それを 使いこなすことへの自信につながります。これは更に、批評と意思決定を 必要とする演習により、一層深まることになるでしょう。演習には年間を 通して取り組むひとつのプロジェクトが含まれます。これはグループ学 習、ブレーンストーミング、事案説明と少なくとも1回のプレゼンテー ションによって構成されています。この授業では英国、米国、オーストラ リア、アジア諸国の教材が用いられます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.(態度・志向性)

Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.(技能)

Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as complete weekly homework tasks.
積極的に授業に参加することに加え、毎週課せられる宿題を全てやりこなすことが求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course. (Project 40%: two group presentations in English of an acceptable quality, Homework 20%: complete a specified weekly quantity of listening and comprehension questions, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Listening 10%, Class Contribution 10%: how often student asks and answers questions with teacher and classmates).
全期を通した取組み姿勢をもとに評価する。期末試験は実施しない。(プロジェクト40%:グループプレゼンテーションをする。英語で、他の国 と日本の貿易関係を説明する、宿題20%:理解の質問、ボキャブラリー20%:100以上のビジネス用語、聞き取り10%、授業への貢献1 0%:発言の頻度)
授業形態: 講義(外国語による)期別:

◎－－－　テキスト　－－－◎

Buckingham, A., & Whitney, N. (2002). Passport to work. Oxford: Oxford University Passport to Work (workbook). (2002). Oxford: Oxford University Press.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-0-19-　　ISBN 457364-1
978-0-19-　ISBN 457334-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher (Moodle), and ask for help at any time they need it. This is most important for the success of each individual student.
　この授業の焦点は効率的なコミュニケーションにありますが、その語学能力を養うためには練習を必要とします。ですから、みなさんにはクラスでの会話学習に積極的に参加してもらった上で、宿題をきちんとこなすことが求められます。不完全な英語であっても構いません。それが実際に使われればコミュニケーションの道具としての役割を十分果たすからです。完璧な英語であっても使われなければ何の意味もなしません。また自分の進歩を常に意識しながら学習し、分からないところは必ず教員に聞く習慣をつけることが必要です。こうすれば必ず成果が上がります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

Spring (前期)
1. Introduction to course
授業概要
2. Job titles + company organization
Unit 1: 役職と企業組織
3. Job descriptions + department names
Unit 2: 業務内容と部課名
4. Describing locations
Unit 3: 指示を出す
5. Giving Instructions
Unit 4: 指示の出し方
6. Making requests
Unit 6: 要望の出し方
7. Project: overview
プロジェクト概要
8. Project: topics & research
プロジェクトのテーマと調査
9. Project - research
プロジェクトの構築
10. Presentation: main idea
11. Presentation structure
プレゼンテーション:構造
12. Acronyms
略語の活用
13. Presentation: elements for introduction
プレゼンテーションの基礎知識
14. Presentation: pronunciation
プレゼンテーションのための発音練習
15. Presentation: recording audio
オーディオ機器の利用
Autumn (後期)
1. Project: introduction + note-taking
プロジェクトの基礎知識とノート取り
2. Assessing sources
情報源の評価
3. Presentation structure: review
プレゼンテーションの構造のリビュ
4. Presentation: language of comparison
プレゼンテーションのための言語表現
5. Poster design
掲示板のデザイン
6. Presentation: aids
プレゼンテーションのための補完的ツール
7. Presentation: delivery
プレゼンテーションの伝達
8. Presentation: practice
プレゼンテーションの練習
9. Presentations
プレゼンテーション全般
10. Presentations
プレゼンテーション全般
11. Talking about sales and numbers
Unit 8: 販売実績に関する発表
12. Discussing future plans, talking about yourself
Units 10 & 11: 事業計画の打ち合わせ
13. Dealing with inquiries
Unit 12: 業務内容の背景説明
14. Predicting and making comparisons
Unit 13: 比較をする
15. Vocabulary & listening tests, Review
テスト、復習

◎－－－　URL　－－－◎

2019 ビジネス英会話初級：ライカーズ、リーバー
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-05

ライカーズ　アレクサンダー

◎貿易:B-3,C-4

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(C-4)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-05

ライカーズ　アレクサンダー

◎経営:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-06

ライカーズ　アレクサンダー

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

Business English Conversation Elementary is a year-long communication skills course for first year students. Students will develop confidence in understanding and speaking English at a functional level in a business context. Using a combination of authentic materials and a content-based textbook, students will be introduced to the English vocabulary and practices of the workplace environment. In addition, they will do basic research on Japan ’ s trade with other countries.

Speaking and listening will be the main skills focus in class with additional reading and writing tasks to be done outside of class time. The use of basic business terminology will secure student ’ s confidence in using the language. Such activities will include projects comprised of group work, brainstorming, describing things, the language of comparison and at least one presentation. A range of materials drawn from British, American, Australian and Asian contexts will be used.

これは年間を通した学習を通して、一年次のみなさんにビジネス英語に よるコミュニケーション・スキルを修得してもらうための授業です。英語 のビジネス環境で会話を理解し、話すことに対する自信の形成がその狙い です。実用的な教材とコンテンツ主体の教科書を用いた指導により、みな さんはビジネスの現場で実際に使われている英語に接することになりま す。更に日本の貿易についても調べることが求められます。毎週の授業で は聞くことと話すことに焦点がおかれますが、読むことと書くことも宿題 として課せられます。ビジネスに固有の英語を使った会話学習が、それを 使いこなすことへの自信につながります。これは更に、批評と意思決定を 必要とする演習により、一層深まることになるでしょう。演習には年間を 通して取り組むひとつのプロジェクトが含まれます。これはグループ学 習、ブレーンストーミング、事案説明と少なくとも1回のプレゼンテー ションによって構成されています。この授業では英国、米国、オーストラ リア、アジア諸国の教材が用いられます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.(態度・志向性)

Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.(技能)

Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as complete weekly homework tasks.
積極的に授業に参加することに加え、毎週課せられる宿題を全てやりこなすことが求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course. (Project 40%: two group presentations in English of an acceptable quality, Homework 20%: complete a specified weekly quantity of listening and comprehension questions, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Listening 10%, Class Contribution 10%: how often student asks and answers questions with teacher and classmates).
全期を通した取組み姿勢をもとに評価する。期末試験は実施しない。(プ ロジェクト40%:グループプレゼンテーションをする。英語で、他の国 と日本の貿易関係を説明する、宿題20%:理解の質問、ボキャブラリー 20%:100以上のビジネス用語、聞き取り10%、授業への貢献1 0%:発言の頻度)
授業形態: 講義(外国語による)期別:

◎－－－　テキスト　－－－◎

Buckingham, A., & Whitney, N. (2002). Passport to work. Oxford: Oxford University
Passport to Work (workbook). (2002). Oxford: Oxford University Press.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-0-19-　ISBN 457364-1
978-0-19-　ISBN 457334-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher (Moodle), and ask for help at any time they need it. This is most important for the success of each individual student.
　この授業の焦点は効率的なコミュニケーションにありますが、その語学能力を養うためには練習を必要とします。ですから、みなさんにはクラスでの会話学習に積極的に参加してもらった上で、宿題をきちんとこなすことが求められます。不完全な英語であっても構いません。それが実際に使われればコミュニケーションの道具としての役割を十分果たすからです。完璧な英語であっても使われなければ何の意味もなしません。また自分の進歩を常に意識しながら学習し、分からないところは必ず教員に聞く習慣をつけることが必要です。こうすれば必ず成果が上がります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

Spring (前期)
1. Introduction to course
授業概要
2. Job titles + company organization
Unit 1: 役職と企業組織
3. Job descriptions + department names
Unit 2: 業務内容と部課名
4. Describing locations
Unit 3: 指示を出す
5. Giving Instructions
Unit 4: 指示の出し方
6. Making requests
Unit 6: 要望の出し方
7. Project: overview
プロジェクト概要
8. Project: topics & research
プロジェクトのテーマと調査
9. Project - research
プロジェクトの構築
10. Presentation: main idea
11. Presentation structure
プレゼンテーション:構造
12. Acronyms
略語の活用
13. Presentation: elements for introduction
プレゼンテーションの基礎知識
14. Presentation: pronunciation
プレゼンテーションのための発音練習
15. Presentation: recording audio
オーディオ機器の利用
Autumn (後期)
1. Project: introduction + note-taking
プロジェクトの基礎知識とノート取り
2. Assessing sources
情報源の評価
3. Presentation structure: review
プレゼンテーションの構造のリビュ
4. Presentation: language of comparison
プレゼンテーションのための言語表現
5. Poster design
掲示板のデザイン
6. Presentation: aids
プレゼンテーションのための補完的ツール
7. Presentation: delivery
プレゼンテーションの伝達
8. Presentation: practice
プレゼンテーションの練習
9. Presentations
プレゼンテーション全般
10. Presentations
プレゼンテーション全般
11. Talking about sales and numbers
Unit 8: 販売実績に関する発表
12. Discussing future plans, talking about yourself
Units 10 & 11: 事業計画の打ち合わせ
13. Dealing with inquiries
Unit 12: 業務内容の背景説明
14. Predicting and making comparisons
Unit 13: 比較をする
15. Vocabulary & listening tests, Review
テスト、復習

◎－－－　URL　－－－◎

2019 ビジネス英会話初級：ライカーズ、リーバー
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-06

ライカーズ　アレクサンダー

◎貿易:B-3,C-4

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(C-4)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-06

ライカーズ　アレクサンダー

◎経営:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-07

リーバー　ソーレン

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・１時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

Business English Conversation Elementary is a year-long communication skills course for first year students. Students will develop confidence in understanding and speaking English at a functional level in a business context. Using a combination of authentic materials and a content-based textbook, students will be introduced to the English vocabulary and practices of the workplace environment. In addition, they will do basic research on Japan ’s trade with other countries.

Speaking and listening will be the main skills focus in class with additional reading and writing tasks to be done outside of class time. The use of basic business terminology will secure student ’s confidence in using the language. Such activities will include projects comprised of group work, brainstorming, describing things, the language of comparison and at least one presentation. A range of materials drawn from British, American, Australian and Asian contexts will be used.

これは年間を通した学習を通して、一年次のみなさんにビジネス英語に よるコミュニケーション・スキルを修得してもらうための授業です。英語 のビジネス環境で会話を理解し、話すことに対する自信の形成がその狙い です。実用的な教材とコンテンツ主体の教科書を用いた指導により、みな さんはビジネスの現場で実際に使われている英語に接することになりま す。更に日本の貿易についても調べることが求められます。毎週の授業で は聞くことと話すことに焦点がおかれますが、読むことと書くことも宿題 として課せられます。ビジネスに固有の英語を使った会話学習が、それを 使いこなすことへの自信につながります。これは更に、批評と意思決定を 必要とする演習により、一層深まることになるでしょう。演習には年間を 通して取り組むひとつのプロジェクトが含まれます。これはグループ学習、ブレーンストーミング、事案説明と少なくとも1回のプレゼンテー ションによって構成されています。この授業では英国、米国、オーストラ リア、アジア諸国の教材が用いられます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.(態度・志向性)

Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.(技能)

Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as complete weekly homework tasks.
積極的に授業に参加することに加え、毎週課せられる宿題を全てやりこなすことが求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course. (Project 40%: two group presentations in English of an acceptable quality, Homework 20%: complete a specified weekly quantity of listening and comprehension questions, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Listening 10%, Class Contribution 10%: how often student asks and answers questions with teacher and classmates).
全期を通した取組み姿勢をもとに評価する。期末試験は実施しない。(プ ロジェクト40%:グループプレゼンテーションをする。英語で、他の国 と日本の貿易関係を説明する、宿題20%:理解の質問、ボキャブラリー 20%:100以上のビジネス用語、聞き取り10%、授業への貢献10%:発言の頻度)
授業形態: 講義(外国語による)期別:

◎－－－　テキスト　－－－◎

Buckingham, A., & Whitney, N. (2002). Passport to work. Oxford: Oxford University
Passport to Work (workbook). (2002). Oxford: Oxford University Press.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-0-19-　ISBN 457364-1
978-0-19-　ISBN 457334-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher (Moodle), and ask for help at any time they need it. This is most important for the success of each individual student.
　この授業の焦点は効率的なコミュニケーションにありますが、その語学能力を養うためには練習を必要とします。ですから、みなさんにはクラスでの会話学習に積極的に参加してもらった上で、宿題をきちんとこなすことが求められます。不完全な英語であっても構いません。それが実際に使われればコミュニケーションの道具としての役割を十分果たすからです。完璧な英語であっても使われなければ何の意味もなしません。また自分の進歩を常に意識しながら学習し、分からないところは必ず教員に聞く習慣をつけることが必要です。こうすれば必ず成果が上がります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

Spring (前期)
1. Introduction to course
授業概要
2. Job titles + company organization
Unit 1: 役職と企業組織
3. Job descriptions + department names
Unit 2: 業務内容と部課名
4. Describing locations
Unit 3: 指示を出す
5. Giving Instructions
Unit 4: 指示の出し方
6. Making requests
Unit 6: 要望の出し方
7. Project: overview
プロジェクト概要
8. Project: topics & research
プロジェクトのテーマと調査
9. Project - research
プロジェクトの構築
10. Presentation: main idea
11. Presentation structure
プレゼンテーション:構造
12. Acronyms
略語の活用
13. Presentation: elements for introduction
プレゼンテーションの基礎知識
14. Presentation: pronunciation
プレゼンテーションのための発音練習
15. Presentation: recording audio
オーディオ機器の利用
Autumn (後期)
1. Project: introduction + note-taking
プロジェクトの基礎知識とノート取り
2. Assessing sources
情報源の評価
3. Presentation structure: review
プレゼンテーションの構造のリビュ
4. Presentation: language of comparison
プレゼンテーションのための言語表現
5. Poster design
掲示板のデザイン
6. Presentation: aids
プレゼンテーションのための補完的ツール
7. Presentation: delivery
プレゼンテーションの伝達
8. Presentation: practice
プレゼンテーションの練習
9. Presentations
プレゼンテーション全般
10. Presentations
プレゼンテーション全般
11. Talking about sales and numbers
Unit 8: 販売実績に関する発表
12. Discussing future plans, talking about yourself
Units 10 & 11: 事業計画の打ち合わせ
13. Dealing with inquiries
Unit 12: 業務内容の背景説明
14. Predicting and making comparisons
Unit 13: 比較をする
15. Vocabulary & listening tests, Review
テスト、復習

◎－－－　URL　－－－◎

2019 ビジネス英会話初級：ライカーズ、リーバー
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-07

リーバー　ソーレン

◎貿易:B-3,C-4

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(C-4)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-07

リーバー　ソーレン

◎経営:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-08

リーバー　ソーレン

期別：通年　　単位数：4　　開講年次：１　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：通年：水・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

Business English Conversation Elementary is a year-long communication skills course for first year students. Students will develop confidence in understanding and speaking English at a functional level in a business context. Using a combination of authentic materials and a content-based textbook, students will be introduced to the English vocabulary and practices of the workplace environment. In addition, they will do basic research on Japan ’s trade with other countries.

Speaking and listening will be the main skills focus in class with additional reading and writing tasks to be done outside of class time. The use of basic business terminology will secure student ’s confidence in using the language. Such activities will include projects comprised of group work, brainstorming, describing things, the language of comparison and at least one presentation. A range of materials drawn from British, American, Australian and Asian contexts will be used.

これは年間を通した学習を通して、一年次のみなさんにビジネス英語に よるコミュニケーション・スキルを修得してもらうための授業です。英語 のビジネス環境で会話を理解し、話すことに対する自信の形成がその狙い です。実用的な教材とコンテンツ主体の教科書を用いた指導により、みな さんはビジネスの現場で実際に使われている英語に接することになりま す。更に日本の貿易についても調べることが求められます。毎週の授業で は聞くことと話すことに焦点がおかれますが、読むことと書くことも宿題 として課せられます。ビジネスに固有の英語を使った会話学習が、それを 使いこなすことへの自信につながります。これは更に、批評と意思決定を 必要とする演習により、一層深まることになるでしょう。演習には年間を 通して取り組むひとつのプロジェクトが含まれます。これはグループ学習、ブレーンストーミング、事案説明と少なくとも1回のプレゼンテー ションによって構成されています。この授業では英国、米国、オーストラ リア、アジア諸国の教材が用いられます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.(態度・志向性)

Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.(技能)

Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as complete weekly homework tasks.
積極的に授業に参加することに加え、毎週課せられる宿題を全てやりこなすことが求められます。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course. (Project 40%: two group presentations in English of an acceptable quality, Homework 20%: complete a specified weekly quantity of listening and comprehension questions, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Listening 10%, Class Contribution 10%: how often student asks and answers questions with teacher and classmates).
全期を通した取組み姿勢をもとに評価する。期末試験は実施しない。(プ ロジェクト40%:グループプレゼンテーションをする。英語で、他の国 と日本の貿易関係を説明する、宿題20%:理解の質問、ボキャブラリー 20%:100以上のビジネス用語、聞き取り10%、授業への貢献1 0%:発言の頻度)
授業形態: 講義(外国語による)期別:

◎－－－　テキスト　－－－◎

Buckingham, A., & Whitney, N. (2002). Passport to work. Oxford: Oxford University
Passport to Work (workbook). (2002). Oxford: Oxford University Press.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-0-19-　ISBN 457364-1
978-0-19-　ISBN 457334-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher (Moodle), and ask for help at any time they need it. This is most important for the success of each individual student.
　この授業の焦点は効率的なコミュニケーションにありますが、その語学能力を養うためには練習を必要とします。ですから、みなさんにはクラスでの会話学習に積極的に参加してもらった上で、宿題をきちんとこなすことが求められます。不完全な英語であっても構いません。それが実際に使われればコミュニケーションの道具としての役割を十分果たすからです。完璧な英語であっても使われなければ何の意味もなしません。また自分の進歩を常に意識しながら学習し、分からないところは必ず教員に聞く習慣をつけることが必要です。こうすれば必ず成果が上がります。

◎－－－　授業計画　－－－◎

Spring (前期)
1. Introduction to course
授業概要
2. Job titles + company organization
Unit 1: 役職と企業組織
3. Job descriptions + department names
Unit 2: 業務内容と部課名
4. Describing locations
Unit 3: 指示を出す
5. Giving Instructions
Unit 4: 指示の出し方
6. Making requests
Unit 6: 要望の出し方
7. Project: overview
プロジェクト概要
8. Project: topics & research
プロジェクトのテーマと調査
9. Project - research
プロジェクトの構築
10. Presentation: main idea
11. Presentation structure
プレゼンテーション:構造
12. Acronyms
略語の活用
13. Presentation: elements for introduction
プレゼンテーションの基礎知識
14. Presentation: pronunciation
プレゼンテーションのための発音練習
15. Presentation: recording audio
オーディオ機器の利用
Autumn (後期)
1. Project: introduction + note-taking
プロジェクトの基礎知識とノート取り
2. Assessing sources
情報源の評価
3. Presentation structure: review
プレゼンテーションの構造のリビュ
4. Presentation: language of comparison
プレゼンテーションのための言語表現
5. Poster design
掲示板のデザイン
6. Presentation: aids
プレゼンテーションのための補完的ツール
7. Presentation: delivery
プレゼンテーションの伝達
8. Presentation: practice
プレゼンテーションの練習
9. Presentations
プレゼンテーション全般
10. Presentations
プレゼンテーション全般
11. Talking about sales and numbers
Unit 8: 販売実績に関する発表
12. Discussing future plans, talking about yourself
Units 10 & 11: 事業計画の打ち合わせ
13. Dealing with inquiries
Unit 12: 業務内容の背景説明
14. Predicting and making comparisons
Unit 13: 比較をする
15. Vocabulary & listening tests, Review
テスト、復習

◎－－－　URL　－－－◎

2019 ビジネス英会話初級：ライカーズ、リーバー
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-08

リーバー　ソーレン

◎貿易:B-3,C-4

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(C-4)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(C-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ビジネス英会話　初級

2019-4030000409-08

リーバー　ソーレン

◎経営:B-3

1.To describe in English various international trade organizations and the import/export trade of Japan with various countries.　(B-3)

2.Confidently research, plan and make a short presentation in English, as part of a small group project.　(B-3)

3.Become familiar with the multi-cultural environment of the business world today and learn some trade-related vocabulary.　(B-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　上級Ⅰ

2019-4030000604-01

ヤング，シャーリー

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long communication skills course for third year students and above, building on the vocabulary and language skills laid down in ビジネス英会話　中級. At this level, students will focus on a more practical aspect of business communication. There will be ongoing practice of how to effectively participate in a discussion. Students will expand their vocabulary to include job specific language, such as that used by personnel, as well as become familiar with conditions they are likely to encounter in an international workplace environment. Situations such as: making a proposal, reporting back on a project, participating in or chairing a meeting. The course will be valuable to students seeking to work in a local or international business that requires English language skills.

Speaking and listening skills will continue to be emphasized in addition to a focus on expanding specific workplace vocabulary. Additional reading and writing tasks will be done outside of class time. Various roleplay exercises will give students a chance to apply vocabulary and skills in a contextual framework. A range of materials drawn from European, American, Australian and Asian contexts will be used.

Lastly, dr awing on my 10 year’s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government’s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Research a range of trade-related topics to be discussed during class time.(技能)

Use TED talks from a range of cultural perspectives to discuss controversial issues and develop discussion skills.(技能)

Further expand vocabulary, including the language of discussion, in order to clearly express thoughts, opinions and ideas in English.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly assessable homework tasks. At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester: there will be no final exam for this course.

(Assignments 50%: practical application of skills and vocabulary in simulated "meetings", Homework 20%: research company information and acronyms, Vocabulary 20%: 100+ discussion and business related words, Class contribution 10%: level of active participation in listening/speaking in class)

◎－－－　テキスト　－－－◎

Materials will be provided by the teacher or guidance given for student’s own research.

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

The pre-requisite for this course is ビジネス英会話II（中級) with a grade of 80% or more. If you are a Commerce Faculty student and have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.
この講義の履修条件は「ビジネス英会話　中級」の評価がいずれか80点以上です。履修希望者で過去1年以内にこの条件を満たしていない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡し、面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided　(Moodle).

The most effective learning technique for the majority of students is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at anytime they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of 15 students. このクラスは15人が上限です。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction chairing a meeting

2. Language of discussion
3. Meeting procedure
4. Research sources: review
5. Evaluating sources
6. Describing companies
7. Mission statements
8. Human Resources
9. Job descriptions
10. Acronyms
11. Making a proposal
12. Supporting proposals
13. Challenging proposals
14. Further business
15. Course evaluation and review

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話I 上級
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp)

ビジネス英会話　上級Ⅰ

2019-4030000604-01

ヤング，シャーリー

◎貿易:B-1,B-4,C-3

1.Research a range of trade-related topics to be discussed during class time.　(B-1)

2.Use TED talks from a range of cultural perspectives to discuss controversial issues and develop discussion skills.　(B-4)

3.Further expand vocabulary, including the language of discussion, in order to clearly express thoughts, opinions and ideas in English.　(C-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:B-1,C-3

1.Research a range of trade-related topics to be discussed during class time.　(B-1)

2.Use TED talks from a range of cultural perspectives to discuss controversial issues and develop discussion skills.　(B-1)

3.Further expand vocabulary, including the language of discussion, in order to clearly express thoughts, opinions and ideas in English.　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ビジネス英会話　上級Ⅰ

2019-4030000604-01

ヤング，シャーリー

◎経営:B-1,C-3

1.Research a range of trade-related topics to be discussed during class time.　(B-1)

2.Use TED talks from a range of cultural perspectives to discuss controversial issues and develop discussion skills.　(B-1)

3.Further expand vocabulary, including the language of discussion, in order to clearly express thoughts, opinions and ideas in English.　(C-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　上級II

2019-4030000605-01

ヤング，シャーリー

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long course further developing the skills and goals set in ビジネス英会話　上級I. Students will practise communications skills through an ongoing international trade simulation. Throughout this they will research and use basic documentation common in business and export transactions. They will also practise discussing proposals, expressing their own opinions, making supporting arguments and meeting procedure, in English.

Leading a discussion, as well as reporting on factual research as a member of the discussion group, will be a significant component of this course. The course will be valuable to students seeking to work in a local or international business where they will be expected to interact with English speakers.

Lastly, dr awing on my 10 year’s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government’s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

To describe in English; a budget, payment methods and different currencies.(技能)

To further practise discussion and meeting skills, in English.(技能)

To describe the basic elements of an international trade transaction in English.(技能)

To further expand business vocabulary, particularly in the are of export documentation.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly assessable homework tasks. At this level, students need to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester: there will be no final exam for this course.

(Project 50%: includes describing trade documentation、conducting and participating in discussions, Homework 20%: demonstrate an understanding of research procedure and suitable source materials, Vocabulary 20%: 100+ export related words, Class contribution 10%: level of active participation in listening/speaking in class).

◎－－－　テキスト　－－－◎

Materials will be provided by the teacher or guidance given for student’s own research.

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

The pre-requisite for this course is ビジネス英会話（中級) with a grade of 80% or more. If you are a Commerce Faculty student and have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.
この講義の履修条件は「ビジネス英会話　中級」の評価がいずれか80点以上です。履修希望者で過去1年以内にこの条件を満たしていない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡し、面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided. The most effective learning technique for the majority of students is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at any time they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

＊This class is limited to a maximum of 15 students.
　このクラスは15人が上限です。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction
2. Payment methods
3. International payment documentation: research
4. Comparing products and services
5. Foreign currency
6. Import/export documentation: research
7. Describing e-commerce
8. Describing e-commerce transaction process
9. Import/export documentation: uses
10. Discussion
11. Discussion
12. Discussion
13. Language of economic indicators
14. Reporting trends
15. Discussion & review

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話　上級II
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp)

ビジネス英会話　上級Ⅱ

2019-4030000605-01

ヤング，シャーリー

◎貿易:B-1,B-4,C-3

1.To describe in English; a budget, payment methods and different currencies.　(B-1)

2.To further practise discussion and meeting skills, in English.　(B-4)

3.To describe the basic elements of an international trade transaction in English.　(B-1)

4.To further expand business vocabulary, particularly in the are of export documentation.　(C-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:B-1,C-3

1.To describe in English; a budget, payment methods and different currencies.　(B-1)

2.To further practise discussion and meeting skills, in English.　(B-1)

3.To describe the basic elements of an international trade transaction in English.　(B-1)

4.To further expand business vocabulary, particularly in the are of export documentation.　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ビジネス英会話　上級Ⅱ

2019-4030000605-01

ヤング，シャーリー

◎経営:B-1,C-3

1.To describe in English; a budget, payment methods and different currencies.　(B-1)

2.To further practise discussion and meeting skills, in English.　(B-1)

3.To describe the basic elements of an international trade transaction in English.　(B-1)

4.To further expand business vocabulary, particularly in the are of export documentation.　(C-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ビジネス英会話　上級Ａ

2019-4030000412-01

ヤング，シャーリー

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long communication skills course for third year students and above, building on the vocabulary and language skills laid down in ビジネス英会話　中級. At this level, students will focus on a more practical aspect of business communication. There will be ongoing practice of how to effectively participate in a discussion. Students will expand their vocabulary to include job specific language, such as that used by personnel, as well as become familiar with conditions they are likely to encounter in an international workplace environment. Situations such as: making a proposal, reporting back on a project, participating in or chairing a meeting. The course will be valuable to students seeking to work in a local or international business that requires English language skills.

Speaking and listening skills will continue to be emphasized in addition to a focus on expanding specific workplace vocabulary. Additional reading and writing tasks will be done outside of class time. Various roleplay exercises will give students a chance to apply vocabulary and skills in a contextual framework. A range of materials drawn from European, American, Australian and Asian contexts will be used.

Lastly, dr awing on my 10 year’s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government’s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Research a range of trade-related topics to be discussed during class time.(技能)

Use TED talks from a range of cultural perspectives to discuss controversial issues and develop discussion skills.(技能)

Further expand vocabulary, including the language of discussion, in order to clearly express thoughts, opinions and ideas in English.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly assessable homework tasks. At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester: there will be no final exam for this course.

(Assignments 50%: practical application of skills and vocabulary in simulated "meetings", Homework 20%: research company information and acronyms, Vocabulary 20%: 100+ discussion and business related words, Class contribution 10%: level of active participation in listening/speaking in class)

◎－－－　テキスト　－－－◎

Materials will be provided by the teacher or guidance given for student’s own research.

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

The pre-requisite for this course is ビジネス英会話II（中級) with a grade of 80% or more. If you are a Commerce Faculty student and have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.
この講義の履修条件は「ビジネス英会話　中級」の評価がいずれか80点以上です。履修希望者で過去1年以内にこの条件を満たしていない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡し、面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided　(Moodle).

The most effective learning technique for the majority of students is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at anytime they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of 15 students.このクラスは15人が上限です。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction chairing a meeting

2. Language of discussion
3. Meeting procedure
4. Research sources: review
5. Evaluating sources
6. Describing companies
7. Mission statements
8. Human Resources
9. Job descriptions
10. Acronyms
11. Making a proposal
12. Supporting proposals
13. Challenging proposals
14. Further business
15. Course evaluation and review

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話I 上級
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp)

ビジネス英会話　上級Ａ

2019-4030000412-01

ヤング，シャーリー

◎貿易

1.Research a range of trade-related topics to be discussed during class time.　(B-1)

2.Use TED talks from a range of cultural perspectives to discuss controversial issues and develop discussion skills.　(B-4)

3.Further expand vocabulary, including the language of discussion, in order to clearly express thoughts, opinions and ideas in English.　(C-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ビジネス英会話　上級Ｂ

2019-4030000413-01

ヤング，シャーリー

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：３　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：中級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long course further developing the skills and goals set in ビジネス英会話　上級I. Students will practise communications skills through an ongoing international trade simulation. Throughout this they will research and use basic documentation common in business and export transactions. They will also practise discussing proposals, expressing their own opinions, making supporting arguments and meeting procedure, in English.

Leading a discussion, as well as reporting on factual research as a member of the discussion group, will be a significant component of this course. The course will be valuable to students seeking to work in a local or international business where they will be expected to interact with English speakers.

Lastly, dr awing on my 10 year ’s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

To describe in English; a budget, payment methods and different currencies.(技能)

To further practise discussion and meeting skills, in English.(技能)

To describe the basic elements of an international trade transaction in English.(技能)

To further expand business vocabulary, particularly in the are of export documentation.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly assessable homework tasks. At this level, students need to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

Assessment is continuous throughout the semester: there will be no final exam for this course.

(Project 50%: includes describing trade documentation、conducting and participating in discussions, Homework 20%: demonstrate an understanding of research procedure and suitable source materials, Vocabulary 20%: 100+ export related words, Class contribution 10%: level of active participation in listening/speaking in class).

◎－－－　テキスト　－－－◎

Materials will be provided by the teacher or guidance given for student ’s own research.

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

The pre-requisite for this course is ビジネス英会話（中級) with a grade of 80% or more. If you are a Commerce Faculty student and have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.
この講義の履修条件は「ビジネス英会話　中級」の評価がいずれか80点以上です。履修希望者で過去1年以内にこの条件を満たしていない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡し、面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided. The most effective learning technique for the majority of students is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at any time they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

＊This class is limited to a maximum of 15 students.
　このクラスは15人が上限です。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction
2. Payment methods
3. International payment documentation: research
4. Comparing products and services
5. Foreign currency
6. Import/export documentation: research
7. Describing e-commerce
8. Describing e-commerce transaction process
9. Import/export documentation: uses
10. Discussion
11. Discussion
12. Discussion
13. Language of economic indicators
14. Reporting trends
15. Discussion & review

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話　上級II
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp)

ビジネス英会話　上級Ｂ

2019-4030000413-01

ヤング，シャーリー

◎貿易

1.To describe in English; a budget, payment methods and different currencies.　(B-1)

2.To further practise discussion and meeting skills, in English.　(B-4)

3.To describe the basic elements of an international trade transaction in English.　(B-1)

4.To further expand business vocabulary, particularly in the are of export documentation.　(C-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ビジネス英会話　中級Ｉ「(International Trade)」

2019-4030000602-01

ヤング，シャーリー

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long communication skills course for second year students and above, building on the language foundations laid in ビジネス英会話　初級. Students will further develop confidence in understanding and speaking English in a business context. Using a combination of authentic materials and content-based resources, students will extend their business vocabulary and research types of businesses. They will also examine the basic elements of the supply chain and how to talk about that in English.

Speaking and listening skills will continue to be emphasized, and further developed to include giving opinions and extended conversation. Additional reading and writing tasks will be done outside of class time. Basic business terminology will be built on through presentation and group work. This will be honed through critical thinking and decision-making activities. Most materials will be drawn from real company examples and data sources online.

Lastly, dr awing on my 10 year ’s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Use personal consumer experience as a metaphor to describe in English the basic stages of the supply chain.(技能)

Research the historical effects of major technological developments on international trade.(態度・志向性)

Develop group decision-making processes through task based activities.(態度・志向性)

Enable students to effectively voice their opinions in English.(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly assessable homework tasks. At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

This is a skills-based course and assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(Project 30%, includes: use specific language patterns given in class, a presentation in English demonstrating an understanding of the supply chain, show an understanding of how to cite sources, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Homework: 20%, Speaking: 20%, Class Contribution 10%: questions/answers/ discussion between teacher and classmates)

◎－－－　テキスト　－－－◎

Racine, J. P., & Nakanishi, T. (2016). Vocabulary for Economics, Management, and International Business. Tokyo: Nan'un-do Co.,Ltd. ISBN 978-4-523-17819-4
Additional materials will be provided by the teacher or guidance given for student ’s own research.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-4-523-　ISBN 17819-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話　初級is a pre-requisite for this course. Faculty of Commerce students who have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.

本講義を履修する前に「ビジネス英会話　初級」を履修しておくことが望ましいです。履修希望者で過去1年以内に「ビジネス英会話　初級」を履修していない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡して面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Language skills require daily practice if there is to be genuine progress made. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided. The most effective learning technique for the majority is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at anytime they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of ２０ students.
　このクラスは２０人が上限です。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction & project topics
2. Business types, making questions
3. Business examples, researching data
4. Vocabulary 1, note-taking
5. Supply chain, brainstorming
6. Supply chain, identifying sources
7. Supply chain, descriptions
8. Supply chain, comparisons
9. Vocabulary 2, stating opinions
10. Importing/exporting, citing sources
11. Globalization, describing graphs
12. Inventions & trade, giving reasons
13. Vocabulary 3, review presentation structure & aids
14. Presentation, identifying your audience
15. Submit presentations, course evaluation

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話　中級I:Young
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　中級Ⅰ「(International Trade)」

2019-4030000602-01

ヤング，シャーリー

◎貿易:B-4,C-4

1.Use personal consumer experience as a metaphor to describe in English the basic stages of the supply chain.　(B-4)

2.Research the historical effects of major technological developments on international trade.　(C-4)

3.Develop group decision-making processes through task based activities.　(C-4)

4.Enable students to effectively voice their opinions in English.　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ビジネス英会話　中級Ｉ「(International Trade)」

2019-4030000602-02

ヤング，シャーリー

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long communication skills course for second year students and above, building on the language foundations laid in ビジネス英会話　初級. Students will further develop confidence in understanding and speaking English in a business context. Using a combination of authentic materials and content-based resources, students will extend their business vocabulary and research types of businesses. They will also examine the basic elements of the supply chain and how to talk about that in English.

Speaking and listening skills will continue to be emphasized, and further developed to include giving opinions and extended conversation. Additional reading and writing tasks will be done outside of class time. Basic business terminology will be built on through presentation and group work. This will be honed through critical thinking and decision-making activities. Most materials will be drawn from real company examples and data sources online.

Lastly, dr awing on my 10 year ’s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Use personal consumer experience as a metaphor to describe in English the basic stages of the supply chain.(技能)

Research the historical effects of major technological developments on international trade.(態度・志向性)

Develop group decision-making processes through task based activities.(態度・志向性)

Enable students to effectively voice their opinions in English.(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly assessable homework tasks. At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

This is a skills-based course and assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(Project 30%, includes: use specific language patterns given in class, a presentation in English demonstrating an understanding of the supply chain, show an understanding of how to cite sources, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Homework: 20%, Speaking: 20%, Class Contribution 10%: questions/answers/ discussion between teacher and classmates)

◎－－－　テキスト　－－－◎

Racine, J. P., & Nakanishi, T. (2016). Vocabulary for Economics, Management, and International Business. Tokyo: Nan'un-do Co.,Ltd. ISBN 978-4-523-17819-4
Additional materials will be provided by the teacher or guidance given for student ’s own research.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-4-523-　ISBN 17819-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話　初級is a pre-requisite for this course. Faculty of Commerce students who have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.

本講義を履修する前に「ビジネス英会話　初級」を履修しておくことが望ましいです。履修希望者で過去1年以内に「ビジネス英会話　初級」を履修していない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡して面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Language skills require daily practice if there is to be genuine progress made. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided.

The most effective learning technique for the majority is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at anytime they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of ２０ students.
　このクラスは２０人が上限です。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction & project topics
2. Business types, making questions
3. Business examples, researching data
4. Vocabulary 1, note-taking
5. Supply chain, brainstorming
6. Supply chain, identifying sources
7. Supply chain, descriptions
8. Supply chain, comparisons
9. Vocabulary 2, stating opinions
10. Importing/exporting, citing sources
11. Globalization, describing graphs
12. Inventions & trade, giving reasons
13. Vocabulary 3, review presentation structure & aids
14. Presentation, identifying your audience
15. Submit presentations, course evaluation

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話　中級I:Young
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　中級Ⅰ「(International Trade)」

2019-4030000602-02

ヤング，シャーリー

◎貿易:B-4,C-4

1.Use personal consumer experience as a metaphor to describe in English the basic stages of the supply chain.　(B-4)

2.Research the historical effects of major technological developments on international trade.　(C-4)

3.Develop group decision-making processes through task based activities.　(C-4)

4.Enable students to effectively voice their opinions in English.　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ビジネス英会話　中級Ⅱ「(International Trade)」

2019-4030000603-01

ヤング，シャーリー

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long communication skills course for second year students and above, building on the language foundations laid in ヒシ ネス英会話 初級 and 中級-I. Students will further develop confidence in understanding and speaking English in a business context. They will extend their research skills to examine how business is reported on in the media.

Speaking and listening skills will be given focus by making weekly oral summaries of contemporary news items. Students will research and summarize news related to trade between Japan and other countries. Later in the semester they will "report from different regions" on news items in a “ newscast ” format to be uploaded online. Business terminology will be built on through these weekly tasks.

Lastly, dr awing on my 10 year ’ s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’ s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Discuss in English a range of topics including current trade issues. (技能)

Challenge students to expand their knowledge of current affairs, both domestic and international, and express those ideas clearly in English.(態度・志向性)

Extend trade-related vocabulary.(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly homework tasks.　At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

This is a skills-based course and assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(News items 20%: demonstrate research skills by reporting in English on current news topics, Newscasts 30%: oral reporting on news items, Writing 10%: note taking and paragraph writing styles, Vocabulary 20%: 100+ trade related words, Critique 10%: peer assessment of newscasts, Class Contribution 10%: level of active interaction with teacher and classmates).

◎－－－　テキスト　－－－◎

Racine, J. P., & Nakanishi, T. (2016). Vocabulary for Economics, Management, and International Business. Tokyo: Nan'un-do Co.,Ltd. ISBN 978-4-523-17819-4
Additional materials will be provided by teacher or guidance given for student ’ s own research.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-4-523-　ISBN 17819-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話　中級I is a pre-requisite for this course. Commerce Faculty students who have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.

本講義を履修する前に「ビジネス英会話　中級Ｉ」を履修しておくことが望ましいです。履修希望者で過去1年以内に「ビジネス英会話　中級Ｉ」を履修していない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡して面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Language skills require daily practice if there is to be genuine progress made. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided.

The most effective learning technique for the majority is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at any time they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of ２０ students.
　このクラスは２０人が上限です。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction & paragraph writing (1)
2. Language of comparison
3. Understanding bias & note-taking
4. News sources & NHK World
5. Language of trade & discussion
6. Acronyms (organizations + companies)
7. Summarizing
8. Paragraph writing (2)
9. Reporting
10. Pronunciation + speech fluency
11. Newscast (practice)
12. Newscast #1
13. Newscast #2
14. Newscast #3
15. Tests & course evaluation

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話　中級II:Young
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　中級Ⅱ「(International Trade)」

2019-4030000603-01

ヤング，シャーリー

◎貿易:B-4,C-4

1.Discuss in English a range of topics including current trade issues.　(B-4)

2.Challenge students to expand their knowledge of current affairs, both domestic and international, and express those ideas clearly in English.　(C-4)

3.Extend trade-related vocabulary.　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ビジネス英会話　中級Ⅱ「(International Trade)」

2019-4030000603-02

ヤング，シャーリー

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long communication skills course for second year students and above, building on the language foundations laid in ヒシ ネス英会話 初級 and 中級-I. Students will further develop confidence in understanding and speaking English in a business context. They will extend their research skills to examine how business is reported on in the media.

Speaking and listening skills will be given focus by making weekly oral summaries of contemporary news items. Students will research and summarize news related to trade between Japan and other countries. Later in the semester they will "report from different regions" on news items in a “ newscast ” format to be uploaded online. Business terminology will be built on through these weekly tasks.

Lastly, dr awing on my 10 year ’ s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’ s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Discuss in English a range of topics including current trade issues.(技能)

Challenge students to expand their knowledge of current affairs, both domestic and international, and express those ideas clearly in English.(態度・志向性)

Extend trade-related vocabulary.(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly homework tasks.　At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

This is a skills-based course and assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(News items 20%: demonstrate research skills by reporting in English on current news topics, Newscasts 30%: oral reporting on news items, Writing 10%: note taking and paragraph writing styles, Vocabulary 20%: 100+ trade related words, Critique 10%: peer assessment of newscasts, Class Contribution 10%: level of active interaction with teacher and classmates).

◎－－－　テキスト　－－－◎

Racine, J. P., & Nakanishi, T. (2016). Vocabulary for Economics, Management, and International Business. Tokyo: Nan'un-do Co.,Ltd. ISBN 978-4-523-17819-4
Additional materials will be provided by teacher or guidance given for student ’ s own research.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-4-523-　ISBN 17819-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話　中級I is a pre-requisite for this course. Commerce Faculty students who have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.

本講義を履修する前に「ビジネス英会話　中級Ｉ」を履修しておくことが望ましいです。履修希望者で過去1年以内に「ビジネス英会話　中級Ｉ」を履修していない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡して面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Language skills require daily practice if there is to be genuine progress made. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided.

The most effective learning technique for the majority is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at any time they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of ２０ students.
　このクラスは２０人が上限です。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction & paragraph writing (1)
2. Language of comparison
3. Understanding bias & note-taking
4. News sources & NHK World
5. Language of trade & discussion
6. Acronyms (organizations + companies)
7. Summarizing
8. Paragraph writing (2)
9. Reporting
10. Pronunciation + speech fluency
11. Newscast (practice)
12. Newscast #1
13. Newscast #2
14. Newscast #3
15. Tests & course evaluation

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話　中級II:Young
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　中級Ⅱ「(International Trade)」

2019-4030000603-02

ヤング，シャーリー

◎貿易:B-4,C-4

1.Discuss in English a range of topics including current trade issues.　(B-4)

2.Challenge students to expand their knowledge of current affairs, both domestic and international, and express those ideas clearly in English.　(C-4)

3.Extend trade-related vocabulary.　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ビジネス英会話　中級Ａ「(General Business)」

2019-4030000410-01

ヤング，シャーリー

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long communication skills course for second year students and above, building on the language foundations laid in ビジネス英会話　初級. Students will further develop confidence in understanding and speaking English in a business context. Using a combination of authentic materials and content-based resources, students will extend their business vocabulary and research types of businesses. They will also examine the basic elements of the supply chain and how to talk about that in English.

Speaking and listening skills will continue to be emphasized, and further developed to include giving opinions and extended conversation. Additional reading and writing tasks will be done outside of class time. Basic business terminology will be built on through presentation and group work. This will be honed through critical thinking and decision-making activities. Most materials will be drawn from real company examples and data sources online.

Lastly, dr awing on my 10 year ’s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Use personal consumer experience as a metaphor to describe in English the basic stages of the supply chain.(技能)

Research the historical effects of major technological developments on international trade.(態度・志向性)

Develop group decision-making processes through task based activities.(態度・志向性)

Enable students to effectively voice their opinions in English.(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly assessable homework tasks. At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

This is a skills-based course and assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(Project 30%, includes: use specific language patterns given in class, a presentation in English demonstrating an understanding of the supply chain, show an understanding of how to cite sources, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Homework: 20%, Speaking: 20%, Class Contribution 10%: questions/answers/ discussion between teacher and classmates)

◎－－－　テキスト　－－－◎

Racine, J. P., & Nakanishi, T. (2016). Vocabulary for Economics, Management, and International Business. Tokyo: Nan'un-do Co.,Ltd. ISBN 978-4-523-17819-4
Additional materials will be provided by the teacher or guidance given for student ’s own research.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-4-523-　ISBN 17819-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話　初級is a pre-requisite for this course. Faculty of Commerce students who have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.

本講義を履修する前に「ビジネス英会話　初級」を履修しておくことが望ましいです。履修希望者で過去1年以内に「ビジネス英会話　初級」を履修していない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡して面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Language skills require daily practice if there is to be genuine progress made. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided.

The most effective learning technique for the majority is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at anytime they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of ２０ students.
　このクラスは２０人が上限です。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction & project topics
2. Business types, making questions
3. Business examples, researching data
4. Vocabulary 1, note-taking
5. Supply chain, brainstorming
6. Supply chain, identifying sources
7. Supply chain, descriptions
8. Supply chain, comparisons
9. Vocabulary 2, stating opinions
10. Importing/exporting, citing sources
11. Globalization, describing graphs
12. Inventions & trade, giving reasons
13. Vocabulary 3, review presentation structure & aids
14. Presentation, identifying your audience
15. Submit presentations, course evaluation

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話　中級I:Young
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　中級Ａ「(General Business)」

2019-4030000410-01

ヤング，シャーリー

◎貿易

1.Use personal consumer experience as a metaphor to describe in English the basic stages of the supply chain.　(B-4)

2.Research the historical effects of major technological developments on international trade.　(C-3)

3.Develop group decision-making processes through task based activities.　(C-3)

4.Enable students to effectively voice their opinions in English.　(C-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ビジネス英会話　中級Ａ「(General Business)」

2019-4030000410-02

ヤング，シャーリー

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long communication skills course for second year students and above, building on the language foundations laid in ビジネス英会話　初級. Students will further develop confidence in understanding and speaking English in a business context. Using a combination of authentic materials and content-based resources, students will extend their business vocabulary and research types of businesses. They will also examine the basic elements of the supply chain and how to talk about that in English.

Speaking and listening skills will continue to be emphasized, and further developed to include giving opinions and extended conversation. Additional reading and writing tasks will be done outside of class time. Basic business terminology will be built on through presentation and group work. This will be honed through critical thinking and decision-making activities. Most materials will be drawn from real company examples and data sources online.

Lastly, dr awing on my 10 year ’s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Use personal consumer experience as a metaphor to describe in English the basic stages of the supply chain.(技能)

Research the historical effects of major technological developments on international trade.(態度・志向性)

Develop group decision-making processes through task based activities.(態度・志向性)

Enable students to effectively voice their opinions in English.(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly assessable homework tasks. At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

This is a skills-based course and assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(Project 30%, includes: use specific language patterns given in class, a presentation in English demonstrating an understanding of the supply chain, show an understanding of how to cite sources, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Homework: 20%, Speaking: 20%, Class Contribution 10%: questions/answers/ discussion between teacher and classmates)

◎－－－　テキスト　－－－◎

Racine, J. P., & Nakanishi, T. (2016). Vocabulary for Economics, Management, and International Business. Tokyo: Nan'un-do Co.,Ltd. ISBN 978-4-523-17819-4
Additional materials will be provided by the teacher or guidance given for student ’s own research.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-4-523-　ISBN 17819-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話　初級is a pre-requisite for this course. Faculty of Commerce students who have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.

本講義を履修する前に「ビジネス英会話　初級」を履修しておくことが望ましいです。履修希望者で過去1年以内に「ビジネス英会話　初級」を履修していない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡して面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Language skills require daily practice if there is to be genuine progress made. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided.

The most effective learning technique for the majority is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at anytime they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of ２０ students.
　このクラスは２０人が上限です。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction & project topics
2. Business types, making questions
3. Business examples, researching data
4. Vocabulary 1, note-taking
5. Supply chain, brainstorming
6. Supply chain, identifying sources
7. Supply chain, descriptions
8. Supply chain, comparisons
9. Vocabulary 2, stating opinions
10. Importing/exporting, citing sources
11. Globalization, describing graphs
12. Inventions & trade, giving reasons
13. Vocabulary 3, review presentation structure & aids
14. Presentation, identifying your audience
15. Submit presentations, course evaluation

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話　中級I:Young
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　中級Ａ「(General Business)」

2019-4030000410-02

ヤング，シャーリー

◎貿易

1.Use personal consumer experience as a metaphor to describe in English the basic stages of the supply chain.　(B-4)

2.Research the historical effects of major technological developments on international trade.　(C-3)

3.Develop group decision-making processes through task based activities.　(C-3)

4.Enable students to effectively voice their opinions in English.　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ビジネス英会話　中級Ｂ「(General Business)」

2019-4030000411-01

ヤング，シャーリー

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long communication skills course for second year students and above, building on the language foundations laid in ヒシ ネス英会話 初級 and 中級-I. Students will further develop confidence in understanding and speaking English in a business context. They will extend their research skills to examine how business is reported on in the media.

Speaking and listening skills will be given focus by making weekly oral summaries of contemporary news items. Students will research and summarize news related to trade between Japan and other countries. Later in the semester they will "report from different regions" on news items in a “ newscast ” format to be uploaded online. Business terminology will be built on through these weekly tasks.

Lastly, dr awing on my 10 year ’ s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’ s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Discuss in English a range of topics including current trade issues.(技能)

Challenge students to expand their knowledge of current affairs, both domestic and international, and express those ideas clearly in English.(態度・志向性)

Extend trade-related vocabulary.(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly homework tasks.　At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

This is a skills-based course and assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(News items 20%: demonstrate research skills by reporting in English on current news topics, Newscasts 30%: oral reporting on news items, Writing 10%: note taking and paragraph writing styles, Vocabulary 20%: 100+ trade related words, Critique 10%: peer assessment of newscasts, Class Contribution 10%: level of active interaction with teacher and classmates).

◎－－－　テキスト　－－－◎

Racine, J. P., & Nakanishi, T. (2016). Vocabulary for Economics, Management, and International Business. Tokyo: Nan'un-do Co.,Ltd. ISBN 978-4-523-17819-4
Additional materials will be provided by teacher or guidance given for student ’ s own research.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-4-523-　ISBN 17819-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話　中級Ａis a pre-requisite for this course. Commerce Faculty students who have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.

本講義を履修する前に「ビジネス英会話　中級Ａ」を履修しておくことが望ましいです。履修希望者で過去1年以内に「ビジネス英会話　中級Ａ」を履修していない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡して面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Language skills require daily practice if there is to be genuine progress made.　Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided.

The most effective learning technique for the majority is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at any time they need it.　Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of ２０ students.
　このクラスは２０人が上限です。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction & paragraph writing (1)
2. Language of comparison
3. Understanding bias & note-taking
4. News sources & NHK World
5. Language of trade & discussion
6. Acronyms (organizations + companies)
7. Summarizing
8. Paragraph writing (2)
9. Reporting
10. Pronunciation + speech fluency
11. Newscast (practice)
12. Newscast #1
13. Newscast #2
14. Newscast #3
15. Tests & course evaluation

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話　中級II:Young
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　中級Ｂ「(General Business)」

2019-4030000411-01

ヤング，シャーリー

◎貿易

1.Discuss in English a range of topics including current trade issues.　(B-4)

2.Challenge students to expand their knowledge of current affairs, both domestic and international, and express those ideas clearly in English.　(C-3)

3.Extend trade-related vocabulary.　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ビジネス英会話　中級Ｂ「(General Business)」

2019-4030000411-02

ヤング，シャーリー

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義(外国語による)　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・５時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This is a semester-long communication skills course for second year students and above, building on the language foundations laid in ヒシ ネス英会話 初級 and 中級-I. Students will further develop confidence in understanding and speaking English in a business context. They will extend their research skills to examine how business is reported on in the media.

Speaking and listening skills will be given focus by making weekly oral summaries of contemporary news items. Students will research and summarize news related to trade between Japan and other countries. Later in the semester they will "report from different regions" on news items in a “ newscast ” format to be uploaded online. Business terminology will be built on through these weekly tasks.

Lastly, dr awing on my 10 year ’ s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’ s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Discuss in English a range of topics including current trade issues. (技能)

Challenge students to expand their knowledge of current affairs, both domestic and international, and express those ideas clearly in English.(態度・志向性)

Extend trade-related vocabulary.(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly homework tasks.　At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

This is a skills-based course and assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(News items 20%: demonstrate research skills by reporting in English on current news topics, Newscasts 30%: oral reporting on news items, Writing 10%: note taking and paragraph writing styles, Vocabulary 20%: 100+ trade related words, Critique 10%: peer assessment of newscasts, Class Contribution 10%: level of active interaction with teacher and classmates).

◎－－－　テキスト　－－－◎

Racine, J. P., & Nakanishi, T. (2016). Vocabulary for Economics, Management, and International Business. Tokyo: Nan'un-do Co.,Ltd. ISBN 978-4-523-17819-4
Additional materials will be provided by teacher or guidance given for student ’ s own research.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-4-523-　ISBN 17819-4

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ビジネス英会話　中級Ａ is a pre-requisite for this course. Commerce Faculty students who have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.

本講義を履修する前に「ビジネス英会話　中級Ａ」を履修しておくことが望ましいです。履修希望者で過去1年以内に「ビジネス英会話　中級Ａ」を履修していない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡して面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Language skills require daily practice if there is to be genuine progress made. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided.

The most effective learning technique for the majority is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at any time they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of ２０ students.
　このクラスは２０人が上限です。

　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction & paragraph writing (1)
2. Language of comparison
3. Understanding bias & note-taking
4. News sources & NHK World
5. Language of trade & discussion
6. Acronyms (organizations + companies)
7. Summarizing
8. Paragraph writing (2)
9. Reporting
10. Pronunciation + speech fluency
11. Newscast (practice)
12. Newscast #1
13. Newscast #2
14. Newscast #3
15. Tests & course evaluation

◎－－－　URL　－－－◎

2019ビジネス英会話　中級II:Young
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp/)

ビジネス英会話　中級Ｂ「(General Business)」

2019-4030000411-02

ヤング，シャーリー

◎貿易

1.Discuss in English a range of topics including current trade issues.　(B-4)

2.Challenge students to expand their knowledge of current affairs, both domestic and international, and express those ideas clearly in English.　(C-3)

3.Extend trade-related vocabulary.　(B-4)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

ペイメントシステム論「17台以前」

2019-4030000336-01

川合　研

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・４時限　　試験時間割：2020/01/16　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

「ペイメントシステム」とは耳慣れない言葉だが、簡単に言うと取引において代金を支払う仕組みのことである。最もなじみの深いペイメントシステムは「現金（紙幣と硬貨）」である。「小切手」も企業間でよく利用されるペイメントシステムである。

以上のような伝統的なペイメントシステム以外に、「クレジットカード」、「自動振込」、「自動引落」、「電子マネー」、「ATM」といった情報通信ネットワークを利用するシステムもある。「現金」以外のペイメントシステムは、銀行に置かれた預金（当座預金や普通預金）の振替で支払いがなされる。また預金の振替の結果必要となる銀行間決済は中央銀行の準備金の振替で最終決済が行われる。ペイメントシステムとは、こういった振替を行う機構の総体のことであり、今日では様々な通信ネットワークをインフラとして利用している。

上で見た各種のペイメントシステムは１回の支払いが小口から中口の取引に利用されるが、「日銀ネット」や「外国為替円決済制度」といった、１回の支払いが何億・何十億に達する大口の取引に用いられるペイメントシステムもある。これらは主に銀行間決済に利用されており、システミックリスクの管理が重要となる。

本講義では、これらの多様なペイメントシステムの具体的な内容・仕組みについてわが国のシステムを中心に説明するとともに、各国のペイメントシステムの現状についてもみていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商取引に欠かせない代金支払の仕組みについて説明できる。
(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前にテキストを読んでおくこと。（60分）
毎回授業の内容について復習しておくこと。（60分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
経済のインフラとしてのペイメントシステムの役割について十分理解しているかどうかを評価基準とする。
②評価方法
定期試験により評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

川合研著『ペイメントシステム論講義』、予定価格７００円（税込）を用います。

◎－－－　参考書　－－－◎

川合研著『アメリカ決済システムの展開』東洋経済新報社
ISBN 4-492-68112-4
箕輪重則著『「日本の決済システム』経済法令研究会
ISBN 4-7668-1316-2

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

テキストを使いますが、パワーポイントを使って説明しますので、ノートをしっかりとるようにしてください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　ペイメントシステムとは何か
2　ペイメントシステムにおける銀行の役割
3　小切手決済システム
4　振替・振込システム
5　デビットカード
6　ATM
7　クレジットカード
8　電子マネー
9　仮想通貨（ビットコインなど）
10　日銀ネットと外国為替円決済制度
11　決済システムの二つのタイプ
12　決済リスクとシステミックリスク
13　信用秩序の維持政策
14　各国におけるﾍﾟｲﾒﾝﾄｼｽﾃﾑの現状１
15　各国におけるﾍﾟｲﾒﾝﾄｼｽﾃﾑの現状２

ペイメントシステム論「17台以前」

川合　研

2019-4030000336-01

◎貿易

1.商取引に欠かせない代金支払の仕組みについて説明できる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

貿易史

2019-4030000395-01

内田　寛樹

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・４時限　　試験時間割：2019/07/24　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　この講義では、まず貿易史を勉強する上での基本的な研究方法について知ることを目的とし、次に貿易史も歴史学の一分野であるがゆえに最近の新しい歴史理論の概要を学習します。そしてこの講義の焦点としての歴史は日本の幕末から近代における対外貿易の歴史であり、幕末から近代への日本経済の過渡期の中で、外国（欧米）との貿易がどのようなものであったかをみていきます。この時代は欧米から刺激を受けて日本は近代化を達成したという見方もありますが、アジア主体の近代化という考え方もあり、貿易動向がいかにその影響を受けたか、その辺も取り混ぜて説明していきたいと思います。また、今年度から戦国時代から近世初期の貿易史を博多商人の歴史から概観し、近世から近代へのつながりも見ていきたいと思っています。
　学生の皆様が事前にできることは、この時代の歴史を、文学でも研究書でもいいので、少し目を通して大体のこの期間の歴史的な流れを知っておくことです。表面的なものでもいいので、それをわかっておけば、この講義の理解の助けになると思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

貿易の歴史を通して、国際貿易の構造について理解する。(知識・理解)

貿易の歴史に登場する、経済組織について（ギルドなど）説明できる。(知識・理解)

貿易の歴史を見ることによって、世界的な影響を持った経済上の出来事を理解する。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　概要でも記したとおり、勉強対象となる時代の歴史についての書物を読み、少しでもキーワードを覚えたり、文章化できるようにすること。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１日本の近代の貿易の歴史の概要をある程度述べることができるか。
２東アジア地域圏を近代の貿易の歴史の中で確認することができたか。
３近代の日本を中心とした東アジアの貿易史に、現代のアジアに繋がる要素があることを認識することができたか。

などが成績の評価基準です。成績の評価方法は主に定期試験など(定期試験80%、取り組み姿勢20%）です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

武野要子編『商業史概論』有斐閣ブックス、1993、2160yen
ISBN4-641-08525-0 C1363
オンデマンド定価3672yen(本体3400yen)
オンデマンドISBN4-641-90571-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　使用するテキストは、オンデマンド出版ですので、学内の書籍販売店で一人ひとり注文していただくかたちになります。　　※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１、貿易史を学ぶにあたって①
２、貿易史を学ぶにあたって②
３、最近の歴史理論（ロストウの経済成長論）①
４、最近の歴史理論（ロストウの経済成長論）②
５、最近の歴史理論（アナール学派）①
６、最近の歴史理論（アナール学派）②
７、幕末開港後の貿易①
８、幕末開港後の貿易②
９、幕末開港後の貿易③
１０、幕末～明治期の横浜港・長崎港①
１１、幕末～明治期の横浜港・長崎港②
１２、初期豪商の概念について
１３、博多商人・神屋宗湛
１４、宗湛と秀吉、茶の湯とその商取引
１５、近世から近代へ―アジア貿易史の展望

貿易史

2019-4030000395-01

内田　寛樹

◎貿易:A-1

1.貿易の歴史を通して、国際貿易の構造について理解する。　(A-1)

2.貿易の歴史に登場する、経済組織について（ギルドなど）説明できる。(A-1)

3.貿易の歴史を見ることによって、世界的な影響を持った経済上の出来事を理解する。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1

1.貿易の歴史を通して、国際貿易の構造について理解する。　(A-1)

2.貿易の歴史に登場する、経済組織について（ギルドなど）説明できる。(A-1)

3.貿易の歴史を見ることによって、世界的な影響を持った経済上の出来事を理解する。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易史

内田　寛樹

2019-4030000395-01

◎経営:A-1

1.貿易の歴史を通して、国際貿易の構造について理解する。　(A-1)

2.貿易の歴史に登場する、経済組織について（ギルドなど）説明できる。(A-1)

3.貿易の歴史を見ることによって、世界的な影響を持った経済上の出来事を理解する。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

貿易商務論Ａ

2019-4030000016-01

田代　安彦

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　　試験時間割：2019/08/01　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義を担当する教員は、エネルギー関連（原油、石油製品、ガス、石油化学製品）の貿易実務、各種プロジェクト、アドバイザー契約、特許取得等を海外駐在の11年間（英国、中東、シンガポール）を含めて約27年間経験しています。貿易商務に関する実務基礎知識の修得から海外法人副社長や供給副本部長、国内法人の支店長、社長を経験し修得したマネージメントとしての実践的経営ノウハウを貿易を切り口に学ぶことができます。また、本教員は中東での人質体験や早期解放を経験しており、異文化、海外の人々との相互理解のために何が重要なのか、貿易商務の重要な意義を実践経験から講義します。
本講義では、契約から実行までの基礎用語、きめ細かい手続き、貿易商務の実践的ノウハウの修得だけでなく、その背景にある理論や環境変化を見る目を養い、未来への課題を自ら考え、対応を企画、実行していく基礎力を養成することが目的です
輸出入の契約をする際は、取引条件をしっかり取り決める必要があります。約束しても証拠となる文書が残っていないと、後々トラブルが発生した時に、なかなか簡単には解決しません。我々が常識と思っていることも世界では通じないということもあります。問題が起きると、その解決のための訴訟や仲裁に大変な労力と費用がかかります。こうしたトラブルを避けるためには、国際的なルールや海外での法律、しっかりとした契約知識やノウハウを修得していることが不可欠です。 また、国際人としての各国政治、経済状況、異文化理解も欠かせません。
貿易は、国境を越えた人、モノ、お金、技術・ノウハウ、サービスの流れを生む国際的な商取引で、国の経済を支える必要不可欠な活動の一つです。この講義では、現在の貿易がどのような状況にあるのかを理解し、将来どのように変化していくのかを見極める眼とそれら環境変化に、皆さんが今後対応していくための方策を考える基礎能力を身に付けているレベルが到達目標です。貿易商務の基礎用語、基礎知識を修得し、貿易商務に関連する実践的な応用ができるような実務能力の醸成を目指します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

国際商取引契約の対象、種類、流れと手続を理解している。(知識・理解)

自由貿易推進理論と市場原理と需給、市況の関係を理解し、貿易を取り巻く環境変化と意義の変遷について、説明できる。(知識・理解)

世界の政治、経済情勢の変化が、国際商取引にどのような影響を及ぼすかを分析して、ポイントを整理して説明できる。(技能)

世界各国の文化、習慣、歴史認識、法律の違いを認識し、相互理解する努力の姿勢を常に保つことが出来る。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

自国のこと（歴史、文化、政治・経済、企業活動）や海外の情勢について、講義テーマに関係することを事前に学び、考える時間を日本経済新聞やネットの英語ニュース、各種分析記事講読等を通じて持ちます。（予習３０分）
また、講義で学んだ基礎知識、気づきや視点を整理し、ノウハウを活かして、自分の興味ある分野で将来何ができるのか、重要な課題は何かをまとめ、社会貢献する方法について、他の人と意見交換できるようにポイントを整理し、説明できるように復習をします。（復習４５分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験結果６０％、授業への参加姿勢（講義小テスト、レポート、討議への参加姿勢など）４０％とします。
貿易の契約から輸送、支払までの流れを正しく理解しているか、貿易商務に係わる基礎知識を修得し、関連用語を正しく理解しているか、現在や今後の貿易環境変化、リスクを捉え、未来の課題と対応などを自分なりに考え、文章で明確に表現し、人に伝えることができるかどうかで評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。プリントを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

『実践貿易実務第１２版（ジェトロ）』　ISBN 978-4-8224-1156-5
その他　都度紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「貿易商務論A」（前期）と「貿易商務論B」（後期）は、それぞれに完結した独立の講義ですが、Aでは基礎知識を中心とし、BではAを修得したうえでの交渉、先物ヘッジなどを含めた実践、応用力を養います。従って、Bの受講前にAを受講することが望ましいです。講義では、講義テーマを事前に考えるミニッツや振り返りレビューを実施します。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．貿易の流れと対象
　　ペティ＝クラークの法則と貿易商務
２．貿易の目的と意義の歴史的変遷
３．貿易と市場
　（１）需給変化と市況変動
　　リカードの比較優位と市場価値変動
４．　（２）日本市場の特徴
５．　（３）中東市場の特徴Ⅰ
６．　（４）中東市場の特徴Ⅱ
７．　（５）米国市場の特徴
８．　（６）中国市場の特徴
９．　（７）アジア市場の特徴
10.貿易商務の基礎知識
　（１）海外取引と国内取引の違い
11.　（２）国際商品売買契約
12.　（３）国際物流　船舶とインコタームス
　　滞船料
13.　（４）輸出入事務
　　Ｂ／Ｌ、ＩＮＶＯＩＣＥ，Ｌ／Ｃ
　　検査、保険、免責状（L/I、L/G）
　　通関、輸出入規制
14.　（５）クレーム、係争（裁判、仲裁
　　フォースマジュール（不可抗力）
15.貿易を取り巻く環境変化と未来
　まとめ

貿易商務論Ａ

2019-4030000016-01

田代　安彦

◎貿易:A-2,B-1,C-2

1.国際商取引契約の対象、種類、流れと手続を理解している。　(A-2)

2.自由貿易推進理論と市場原理と需給、市況の関係を理解し、貿易を取り巻く環境変化と意義の変遷について、説明できる。　(A-2)

3.世界の政治、経済情勢の変化が、国際商取引にどのような影響を及ぼすかを分析して、ポイントを整理して説明できる。　(B-1)

4.世界各国の文化、習慣、歴史認識、法律の違いを認識し、相互理解する努力の姿勢を常に保つことが出来る。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,B-1,C-2

1.国際商取引契約の対象、種類、流れと手続を理解している。　(A-2)

2.自由貿易推進理論と市場原理と需給、市況の関係を理解し、貿易を取り巻く環境変化と意義の変遷について、説明できる。　(A-2)

3.世界の政治、経済情勢の変化が、国際商取引にどのような影響を及ぼすかを分析して、ポイントを整理して説明できる。　(B-1)

4.世界各国の文化、習慣、歴史認識、法律の違いを認識し、相互理解する努力の姿勢を常に保つことが出来る。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易商務論Ａ

2019-4030000016-01

田代　安彦

◎経営:A-2,B-1,C-2

1.国際商取引契約の対象、種類、流れと手続を理解している。　(A-2)

2.自由貿易推進理論と市場原理と需給、市況の関係を理解し、貿易を取り巻く環境変化と意義の変遷について、説明できる。　(A-2)

3.世界の政治、経済情勢の変化が、国際商取引にどのような影響を及ぼすかを分析して、ポイントを整理して説明できる。　(B-1)

4.世界各国の文化、習慣、歴史認識、法律の違いを認識し、相互理解する努力の姿勢を常に保つことが出来る。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

貿易商務論A

2019-4030000016-02

岡　陽子

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・３時限　　試験時間割：2019/07/29　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

　貿易は、様々な商取引が国境を越えて行われるということで様々な制約がかかってきます。そのような制約があるにもかかわらず、現在身の回りの品で、貿易でなく100%国内で生産されたものを探すというのは至難の技です。それほど国の経済の根幹を担っているものの一つが貿易であると言っても過言ではありません。
　この講義では、フォワーディング業務に長年携わってきた実務経験を元に、私たちが普段生活していく上で利用している様々な物品が、過去どのような経緯を経て国内に入ってくるようになり、そして現在どのようにして国内に入ってきているのかを、各国の政策や実際のケースを紹介し分析しながら講義を進め、今後の国際ビジネスのあり方を考えていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。(知識・理解)

貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。(技能)

国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各授業回の内容は、随時Moodleにおいて公開されます。次回の授業範囲を予習し、わからない言葉や専門用語などを調べておくこと。（60分）
貿易に関するニュースは新聞に必ず掲載されます。新聞で貿易に関する部分は毎日読み、わからない部分は授業において質問できるようにしておくこと。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準としては、講義の内容を正確・十分に理解し消化しているかを基準とします。評価方法は、授業内容全般の理解度を測るため、定期試験を含め２回の試験（中間テスト（50%）、定期試験（50%））により判定します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布プリント

◎－－－　参考書　－－－◎

『貿易実務アドバンストマニュアル』日本貿易実務検定協会編
『クルーグマン国際経済学：上・貿易編』P.R.クルーグマン他　山形浩生訳

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　主にパワーポイントによる講義を行います。ノートをしっかり取るようにしてください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.オリエンテーション/ 貿易の意義
2.貿易の歴史と市場、業界
3.貿易の概観①（貿易理論、要素、貿易産業・非貿易産業）
4.貿易の概観②（企業の対応：ダンピング、多国籍企業、アウトソーシング、オフショア化）
5.貿易の概観③（貿易協定）
6.貿易の概観④（対中国）
7.貿易の概観⑤（対米国）
8.中間テスト
9-10.貿易実務①（海上貨物輸送　仕組み・書類）
11-12.貿易実務②（航空貨物輸送　仕組み・書類）
13-14.貿易実務③（国際複合一貫輸送　仕組み・書類）
15. まとめ

貿易商務論Ａ

2019-4030000016-02

岡　陽子

◎貿易:A-2,B-1,C-2

1.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。　(A-2)

2.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。　(B-1)

3.国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,B-1,C-2

1.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。　(A-2)

2.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。　(B-1)

3.国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易商務論Ａ

2019-4030000016-02

岡　陽子

◎経営:A-2,B-1,C-2

1.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。　(A-2)

2.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。　(B-1)

3.国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,B-1,C-2

1.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。　(A-2)

2.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。　(B-1)

3.国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

貿易商務論Ｂ

2019-4030000017-01

田代　安彦

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・３時限　　試験時間割：2020/01/27　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義を担当する教員は、エネルギー関連（原油、石油製品、ガス、石油化学製品）の貿易実務、各種プロジェクト、アドバイザー契約、特許取得等を海外駐在の11年間（英国、中東、シンガポール）を含めて約27年間経験しています。貿易商務に関する実務基礎知識の修得から海外法人副社長や供給副本部長、国内法人の支店長、社長を経験し修得したマネージメントとしての実践的経営ノウハウを貿易を切り口に学ぶことができます。また、本教員は中東での人質体験、アジア全域の貿易、トレーディング、プロジェクト統括実務を経験しており、貿易商務の実践的応用ノウハウを実務経験をもとに講義します。

本講義では、貿易商務論Ａで学んだ貿易実務の基礎用語、手続き、実務の基礎、理論や環境変化を見る目を活かし、日本やアジアが抱えている未来貿易への課題を自ら考え、対応していく貿易における実践的応用力を養成することが目的です。貿易は、国境を越えた人、モノ、お金、技術・ノウハウ、サービスの流れを生む国際的な商取引ですが、特にペティクラークの法則に従って，国が豊かになり、産業構造が1次から2次、2次から３次へとシフトしていく過程で、貿易取引の対象も単に物から物＋コト、サービスや仕組みなど知財取引や国境を越えたプロジェクトに発展していくことに注目し、そうした国際取引の意義、メリット、リスクなどの理解を深めます。

この講義では、時間とともに物の価値や価格が変わる時代となった中で、市況の乱高下に左右されない、より高度な契約交渉・海外戦略構築ノウハウ、先物ヘッジ方法、オプションの利用、付加価値ＵＰなどの具体的方法を、時間軸の設定の中で行うＦＵ3次元、4次元、5次元交渉術をはじめ、上流、中流、下流部門の垂直統合、ヴァリューチェーンの構築、特許、フランチャイズ、フラグメンテーション、ネット・ＩＯＴの利用などなど貿易商務の未来対応を実践上のリスクを想定しながら考える力を修得するのが到達目標です。

貿易商務の知識修得を通じて、企業活動の利益目標達成に貢献できる力を養うだけではなく、国際社会貢献、地域貢献のあり方、世界や日本が抱えている課題（紛争解決、貧困と富の再配分、人口増加と資源獲得の新たな方法、省資源、再生、情報活用、新技術活用、超高齢化社会への対応など）を自身で考え、対応策を模索できる貿易商務の経営応用への素養を身に付けます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

国際貿易交渉の対象及び工夫のポイントとなる項目（７Ｐ３Ｑ＋１）について理解し、説明することができる。(知識・理解)

ＢＡＴＮＡ，ＺＯＰＡ，ＶＡＬＩＤＩＴＹ，パレート最適について理解し、内容を説明することができる。(知識・理解)

ＯＰＴＩＯＮ，先物活用理論、フローの拡大と組合せの活用など３次元、４次元、５次元交渉・戦略企画術について理解し、市場変動への具体的対応、活用方法を理解し、活用のための説明が出来る。(知識・理解)

情報化、国際化、自由化の進展の中で、市場変動にどう対応するか、メリット、リスクを考え、貧富の格差などのねじれの解消、ＳＤＧＳの具体策について、討議の論点を整理し、自分の考えを伝え、相手の意見の良いところを取り入れて、考えをまとめることが出来る。(技能)

国際貿易のあり方に関し、幅広い人と意見交換して、更なる課題の発掘、対応策のブラッシュアップや社会貢献策を模索・提案できる素養と姿勢を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

国際ビジネスを行う上で、どのような環境変化が起きているか、講義テーマの５つのメガ・トレンドについて、新聞などの記事から理解し、自分なりの課題を見つけます。（予習３０分）このような環境変化に、どのように対応すべきか、講義で学んだ貿易実務の知識やノウハウを整理し、活用する方法を考え、社会貢献する方法を探究します。（復習４５分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験結果６０%、授業への参加姿勢（講義小テスト、レポート、討議への参加姿勢など）４０%とします。

貿易の契約から輸送、支払に係わる基礎知識だけでなく、それらを高度に応用できる契約交渉や先物ヘッジなどの専門知識を理解し、更に活用できるノウハウを修得できているか、また貿易を取り巻く環境変化やリスクを的確に捉え、今後の対応策を深く自分なりに考えて、解りやすい文章などで伝える力（貿易戦略企画の基礎力）を修得したかどうかで評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

講義毎にプリントを配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

JETROビデオ、船主協会ビデオ、新刊本など講義で都度紹介します。福大商学論叢　論文『４次元交渉術と日本の未来』（田代）
その他　『実践！交渉学』　ISBN 978-4-480-06542-1
『国際商取引契約（英国法にもとづく分析）』　ISBN 4-641-04623-9
『紛争の心理学』　ISBN 4-06-149570-4 など。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

貿易商務論Aを受講後が望ましい。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．～８．貿易商務の実践知識と応用
（１）貿易商務の目的と意義
（２）貿易交渉・戦略企画　基礎
（３）貿易交渉・戦略企画　応用
（５つのメガ・トレンドと
ＦＵ3,4,5次元交渉・戦略企画術）
（４）貿易のリスクと対応
①地政学的リスク、取引先リスク
（５）②市場変化と市況変動リスク
ア）現物取引と先物取引
（６）　イ）さまざまなヘッジ手法
（７）③事故、トラブル対応　Ⅰ
（８）　事故・トラブル対応　Ⅱ
９～１４.貿易商務と海外プロジェクト
（１）海外プロジェクトの流れ　および
買収、統合
（２）研究・技術開発、知財・特許
（３）資源開発、原料調達
（４）物流（輸送、配送）
（５）製造・販売,トレーディング
（６）アドバイザー契約,ライセンス契約
１５．未来の貿易を考える
貿易の経営展開と地域・国際社会貢献
（資源、ＭＯＰ，少子高齢化、ＩＯＴ他）
まとめ

貿易商務論Ｂ

2019-4030000017-01

田代　安彦

◎貿易:A-3,B-2,C-3

1.国際貿易交渉の対象及び工夫のポイントとなる項目（７Ｐ３Ｑ＋１）について理解し、説明することができる。　(A-3)

2.ＢＡＴＮＡ，ＺＯＰＡ，ＶＡＬＩＤＩＴＹ，パレート最適について理解し、内容を説明することができる。　(A-3)

3.ＯＰＴＩＯＮ，先物活用理論、フローの拡大と組合せの活用など３次元、４次元、５次元交渉・戦略企画術について理解し、市場変動への具体的対応、活用方法を理解し、活用のための説明が出来る。　(A-3)

4.情報化、国際化、自由化の進展の中で、市場変動にどう対応するか、メリット、リスクを考え、貧富の格差などのねじれの解消、ＳＤＧＳの具体策について、討議の論点を整理し、自分の考えを伝え、相手の意見の良いところを取り入れて、考えをまとめることが出来る。　(B-2)

5.国際貿易のあり方に関し、幅広い人と意見交換して、更なる課題の発掘、対応策のブラッシュアップや社会貢献策を模索・提案できる素養と姿勢を身につけている。　(C-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-3,B-2,C-3

1.国際貿易交渉の対象及び工夫のポイントとなる項目（７Ｐ３Ｑ＋１）について理解し、説明することができる。　(A-3)

2.ＢＡＴＮＡ，ＺＯＰＡ，ＶＡＬＩＤＩＴＹ，パレート最適について理解し、内容を説明することができる。　(A-3)

3.ＯＰＴＩＯＮ，先物活用理論、フローの拡大と組合せの活用など３次元、４次元、５次元交渉・戦略企画術について理解し、市場変動への具体的対応、活用方法を理解し、活用のための説明が出来る。　(A-3)

4.情報化、国際化、自由化の進展の中で、市場変動にどう対応するか、メリット、リスクを考え、貧富の格差などのねじれの解消、ＳＤＧＳの具体策について、討議の論点を整理し、自分の考えを伝え、相手の意見の良いところを取り入れて、考えをまとめることが出来る。　(B-2)

5.国際貿易のあり方に関し、幅広い人と意見交換して、更なる課題の発掘、対応策のブラッシュアップや社会貢献策を模索・提案できる素養と姿勢を身につけている。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易商務論Ｂ

2019-4030000017-01

田代　安彦

◎経営:A-3,B-2,C-3

1.国際貿易交渉の対象及び工夫のポイントとなる項目（７Ｐ３Ｑ＋１）について理解し、説明することができる。　(A-3)

2.ＢＡＴＮＡ，ＺＯＰＡ，ＶＡＬＩＤＩＴＹ，パレート最適について理解し、内容を説明することができる。　(A-3)

3.ＯＰＴＩＯＮ，先物活用理論、フローの拡大と組合せの活用など３次元、４次元、５次元交渉・戦略企画術について理解し、市場変動への具体的対応、活用方法を理解し、活用のための説明が出来る。　(A-3)

4.情報化、国際化、自由化の進展の中で、市場変動にどう対応するか、メリット、リスクを考え、貧富の格差などのねじれの解消、ＳＤＧＳの具体策について、討議の論点を整理し、自分の考えを伝え、相手の意見の良いところを取り入れて、考えをまとめることが出来る。　(B-2)

5.国際貿易のあり方に関し、幅広い人と意見交換して、更なる課題の発掘、対応策のブラッシュアップや社会貢献策を模索・提案できる素養と姿勢を身につけている。　(C-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-3,B-2,C-3

1.国際貿易交渉の対象及び工夫のポイントとなる項目（７Ｐ３Ｑ＋１）について理解し、説明することができる。　(A-3)

2.ＢＡＴＮＡ，ＺＯＰＡ，ＶＡＬＩＤＩＴＹ，パレート最適について理解し、内容を説明することができる。　(A-3)

3.ＯＰＴＩＯＮ，先物活用理論、フローの拡大と組合せの活用など３次元、４次元、５次元交渉・戦略企画術について理解し、市場変動への具体的対応、活用方法を理解し、活用のための説明が出来る。　(A-3)

4.情報化、国際化、自由化の進展の中で、市場変動にどう対応するか、メリット、リスクを考え、貧富の格差などのねじれの解消、ＳＤＧＳの具体策について、討議の論点を整理し、自分の考えを伝え、相手の意見の良いところを取り入れて、考えをまとめることが出来る。　(B-2)

5.国際貿易のあり方に関し、幅広い人と意見交換して、更なる課題の発掘、対応策のブラッシュアップや社会貢献策を模索・提案できる素養と姿勢を身につけている。　(C-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

貿易商務論Ｂ

2019-4030000017-02

岡　陽子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・３時限　　試験時間割：2020/01/23　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

　貿易は、様々な商取引が国境を越えて行われるということで様々な制約がかかってきます。そのような制約があるにもかかわらず、現在身の回りの品で、貿易でなく100%国内で生産されたものを探すというのは至難の技です。それほど国の経済の根幹を担っているものの一つが貿易であると言っても過言ではありません。
　この講義では、フォワーディング業務に長年携わってきた実務経験を元に、様々なものが生産され、組み立てられ、運ばれてくるにあたり、どのような障害、問題があるのかということを各国の政策や実際のケースを紹介し分析しながら講義を進め、今後の国際ビジネスのあり方を考えていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。(知識・理解)

貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。(技能)

国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各授業回の内容は、随時Moodleにおいて公開されます。次回の授業範囲を予習し、わからない言葉や専門用語などを調べておくこと。（60分）
貿易に関するニュースは新聞に必ず掲載されます。新聞で貿易に関する部分は毎日読み、わからない部分は授業において質問できるようにしておくこと。（30分）

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準としては、講義の内容を正確・十分に理解し消化しているかを基準とします。評価方法は、授業内容全般の理解度を測るため、定期試験を含め２回の試験（中間テスト（50%）、定期試験（50%））により判定します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布プリント

◎－－－　参考書　－－－◎

『貿易実務アドバンストマニュアル』日本貿易実務検定協会編
『クルーグマン国際経済学：上・貿易編』P.R.クルーグマン他　山形浩生訳

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　主にパワーポイントによる講義を行います。ノートをしっかり取るようにしてください。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.後期説明
2-3.貿易政策：輸入税制、輸出補助金、輸入割当、非関税障壁、特恵関税
4.自由貿易支持vs.国内産業保護
5.貿易実務①輸出入マーケティング戦略
6.貿易実務②クレーム種類、各対応
7-8.,貿易実務③貿易決済・輸入金融
9.貿易実務④保税とは？保税蔵置場種類・意義
10.中間テスト
11.ケーススタディ　洋服が手元に届くまで
12.ケーススタディ　iPhoneが手元に届くまで
13.グローバル化問題　『トゥルーコスト：ファストファッション真の代償』
14.国際ビジネスの展望
15.まとめ

貿易商務論Ｂ

岡　陽子

2019-4030000017-02

◎貿易:A-3,B-2,C-3

1.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。　(A-3)

2.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。　(B-2)

3.国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-3)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-3,B-2,C-3

1.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。　(A-3)

2.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。　(B-2)

3.国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易商務論Ｂ

岡　陽子

2019-4030000017-02

◎経営:A-3,B-2,C-3

1.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。　(A-3)

2.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。　(B-2)

3.国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-3,B-2,C-3

1.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。　(A-3)

2.貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。　(B-2)

3.国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。　(C-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

貿易政策「18台」

2019-4030000710-01

山本　和人

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・２時限　　試験時間割：2020/01/21　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

18世紀末から19世紀初期にかけてイギリスで起こった産業革命によって、それまで基本的に自給自足を主としていた世界の各国・地域は、貿易を通じて、一つに結び付けられた。こうして国際分業体制が成立したのである。以後、約200年間、世界は、紆余曲折を経て、さらに結びつきを強め、1990年代以降、国を超えて地球(世界)が一体化しつつあるという認識から「グローバリゼーション」という言葉が生み出されるようになった。

しかし、現実をみれば、ことはそう単純ではない。米中貿易摩擦(戦争）、イギリスのEU離脱、アメリカを筆頭とする各国の保護貿易主義の台頭など、グローバリゼーションに逆行する動きが顕著である。

本講義では、産業革命後の主要国(イギリス、アメリカ）の貿易政策を具体的に跡付けることで、世界をどのように編成しようとしたのかを検討することにする。

次にグローバリゼーション誕生の経緯を歴史的、経済的、政治的な視角から分析したうえで、それを推進させるためにアメリカが中心となって作ったWTO（「世界貿易機関」）に焦点を当てる。とくに2008年の世界金融危機（リーマン・ショック）に端を発した不況下での各国の貿易政策とそれに対するWTOの対応や役割とその限界について説明する。

第3に、WTOのもとでの交渉が難航し、それを主導したアメリカ自身がトランプ政権下で、二国間貿易政策さらには一方的貿易政策に傾斜していること、それが中国との激しい貿易摩擦（戦争）を引き起こしていることを重視し、米中貿易摩擦の実態とのそのゆくえを考えることにしたい。

テキスト『世界経済――グローバリゼーションの歴史と現実――』とテキストを補足するプリント通りに講義は進行しますので、予め次回の進行範囲を読んでおくと講義の理解度は高まります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代の貿易システムの基本的構造について説明できるようになる。(知識・理解)

産業革命以降、特に第2次大戦後の世界貿易、貿易政策の移り変わりについて理解できるようになる。(知識・理解)

現代世界経済の構造変化、貿易システムの機能不全、主要国の貿易政策の転換について説明できるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として　教科書の指定した部分とそれを要約したプリントを予め読んでおいてください。

復習として、要約プリントの各まとめの部分にある理解度テストに挑戦してください。答え合わせは翌週の講義の初めに行います。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価の方法とそれらの配分割合は次の通りです。定期試験（80%）と講義中に行う１、２回の小テストの結果（20%）で判断します。具体的には、第2次大戦を契機に構築された貿易システムの特徴とその歴史的変質過程について、どの程度まで正確に説明できるかが評価基準となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山本和人・鳥谷一生編著『世界経済――グローバリゼーションの歴史と現実――』ミネルヴァ書房、2019年8月刊行予定

◎－－－　参考書　－－－◎

山本和人『多国間通商協定GATTの誕生プロセス―戦後世界貿易システム成立史研究（増補版）』ミネルヴァ書房、2019年　ISBN 978-4-623-08567-5
山本和人『戦後世界貿易秩序の形成―英米の協調と角逐―』ミネルヴァ書房、1999年　ISBN 4-623-03045-8
山崎勇治/嶋田巧編『世界経済危機における日系企業ー多様化する状況への新たな戦略ー』ミネルヴァ書房、2012年の第5章「多国間通商協定GATTの構想と誕生プロセス」（山本和人稿）　ISBN 978-4-623-06281-2

その他、講義中に、参考文献を指摘しますので、図書館や書店で調べてください。また毎日欠かさず、新聞の経済・政治欄に目を通す習慣をつけることが重要です。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義の性格上、前期に「世界経済論」を履修することを強く推奨します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．はじめにー講義の要約
２．産業資本主義の誕生とイギリス中心の世界経済――19世紀イギリス貿易政策の実態
３．第2次大戦と世界経済――イギリスからアメリカ中心の世界経済へ
４．多国間通商協定GATTの成立とアメリカ貿易政策――戦後世界貿易システムの形成（1）
５．多国間通商協定GATTの成立とアメリカ貿易政策――戦後世界貿易システムの形成（2）
６．世界貿易システム（GATT体制）の展開（1）――欧州統合問題を中心に
７．世界貿易システム（GATT体制）の展開（2）――南北問題を中心に
８．世界貿易システム（GATT体制）の変貌（1）――日米貿易摩擦を中心に
９．世界貿易システム（GATT体制）の変貌（2）――新自由主義の台頭
10．新自由主義・グローバリゼーションの進行とWTOの成立
11．WTOの解剖(1)――サービス貿易・知的財産権・投資措置に関する取決め
12．WTOの解剖(2)――難航するドーハラウンドとFTAの急増
13．中国の台頭――WTO加盟とその貿易政策
14．米中貿易戦争――二国間貿易政策への回帰
15．まとめ

貿易政策「18台」

2019-4030000710-01

山本　和人

◎貿易:A-2,A-3

1.現代の貿易システムの基本的構造について説明できるようになる。　(A-2)

2.産業革命以降、特に第2次大戦後の世界貿易、貿易政策の移り変わりについて理解できるようになる。　(A-3)

3.現代世界経済の構造変化、貿易システムの機能不全、主要国の貿易政策の転換について説明できるようになる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-2,A-3

1.現代の貿易システムの基本的構造について説明できるようになる。　(A-2)

2.産業革命以降、特に第2次大戦後の世界貿易、貿易政策の移り変わりについて理解できるようになる。　(A-2)

3.現代世界経済の構造変化、貿易システムの機能不全、主要国の貿易政策の転換について説明できるようになる。　(A-3)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易政策「18台」

2019-4030000710-01

山本　和人

◎経営:A-2,A-3

1.現代の貿易システムの基本的構造について説明できるようになる。　(A-2)

2.産業革命以降、特に第2次大戦後の世界貿易、貿易政策の移り変わりについて理解できるようになる。　(A-2)

3.現代世界経済の構造変化、貿易システムの機能不全、主要国の貿易政策の転換について説明できるようになる。　(A-3)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-2,A-3

1.現代の貿易システムの基本的構造について説明できるようになる。　(A-2)

2.産業革命以降、特に第2次大戦後の世界貿易、貿易政策の移り変わりについて理解できるようになる。　(A-2)

3.現代世界経済の構造変化、貿易システムの機能不全、主要国の貿易政策の転換について説明できるようになる。　(A-3)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

貿易政策Ⅰ「17台以前」

2019-4030000402-01

山本　和人

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・２時限　　試験時間割：2019/07/26　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

　第2次大戦後の世界経済の枠組みは、通貨の側からはIMF（「国際通貨基金」）、貿易の側からはGATT（「関税と貿易に関する一般協定」）を両輪として形成されました。もっとも、国際機関であるIMFと比較して、GATTは、各国の対立が強く、正式な協定を成立させることができず、暫定的な取決めとしての出発を余儀なくされました。こうした不完全な特徴をもつGATTが、戦後貿易のルールを提供してきたのです。そして漸く、1995年に正式の国際機関であるWTO（「世界貿易機関」）がGATTを包摂する形で発足し、現代に至っています。
　そこで本講義では、第1次大戦から第2次大戦勃発まで（「両大戦間期」）の世界経済の実態、第2次大戦期から大戦終結直後に至るアメリカとイギリスの戦後世界経済構想への関わりを分析することを通じて、当初の戦後貿易システム形成の目的とその意義、さらにその変遷を明らかにすることを通じて、戦後の世界経済編成の論理と特徴について説明を加えたいと思います。
　テキスト『多国間通商協定GATTの誕生プロセス－戦後世界貿易システム成立史研究－』（増補版）の章別通りに講義は進行しますので、予め、配付する要約プリントを参考にしながら、次回の進行範囲を読んでおくと講義の理解度は高まります。
　こうした歴史分析を通じて、21世紀に入り、特に2008年のリーマン・ショック後、そうした構想が具体化された世界貿易システム（WTO）が機能不全陥っている現状把握、米中貿易戦争によって世界経済がますます不透明さを増す中で、WTOの存在意義とそれへの処方箋を模索する手がかりを提示できればと思っています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現在の貿易システムの原則と仕組みについて説明できるようになる。(知識・理解)

現在の貿易システムの形成過程について説明できるようになる。(知識・理解)

現代の貿易システムの問題点について説明できるようになる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　予習として、教科書の指定した部分と予め配付する教科書を要約したプリントを読んでおいてください。
　復習として、要約プリントの各まとめの部分にある理解度テストに挑戦してください。その答え合わせは翌週の講義の初めに行います。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　評価方法とそれらの配分割合は次の通りです。定期試験（80%）と講義中に行う１、２回の小テストの結果（20%）で判断します。具体的には、現在の貿易システムの原則、その歴史的起源と意義について自分の言葉でどの程度まで正確に説明できるかが評価基準となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山本和人『多国間通商協定GATTの誕生プロセス―戦後世界貿易システム成立史研究（増補版）』ミネルヴァ書房、2019年3月刊行　ISBN978-4-623-08567-5
　大部の教科書なので、内容を要約したプリントを配付します。

◎－－－　参考書　－－－◎

山本和人『戦後世界貿易秩序の形成―英米の協調と角逐―』ミネルヴァ書房、1999年　ISBN 4-623-03045-8
山崎勇治/嶋田巧編『世界経済危機における日系企業ー多様化する状況への新たな戦略―』ミネルヴァ書房、2012年の第5章「多国間通商協定GATTの構想と誕生プロセス」（山本和人稿）　ISBN 978-4-623-06281-2
その他、講義中に、参考文献を指摘しますので、図書館や書店で調べてください。また毎日欠かさず、新聞の経済・政治欄に目を通す習慣をつけることが重要です。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　世界経済システムとくに世界貿易システムに関する歴史分析を主とする本講義の理解を深めるためには、貿易理論と世界経済の現状についての知識が不可欠です。毎日、新聞やテレビのニュースを読んだり、見たりする習慣をつけ、最新の世界経済の動向に目を配ってください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．はじめにー 産業革命から現代にいた　る世界経済の移り変わり
２．両大戦間期世界経済： パクス・ブリ　タニカから多極化の世界へー保護主　　義・貿易摩擦の時代
３．大恐慌の勃発と貿易政策の質的変化
４．大恐慌後の米英の貿易政策
５．ブロック経済の帰結
６．第2次世界大戦の勃発と戦後世界経済　構想の起点
７．戦後世界経済に関する理念ー大西洋　憲章第4、第5パラグラフと相互援助協　定第7条
８．戦後世界貿易システムの形成過程（1）ー戦後　貿易案(多国間貿易機構：　ミード案)の発表
９．ワシントン原則の合意
10．戦後世界貿易システムの形成過程（2）ーアメリカのイニシアティブの確立
11．戦後世界貿易システムの形成過程（3）ー「ツー・トラック・アプローチ」の提起
12．戦後世界貿易システムの形成過程（4）―米英の二国間協議から多国間協議　へ
13．戦後貿易システムの形成過程（5）ーG　ATTの成立とITOの挫折
14．GATTの構造ー多国間主義の意義と限　界
15．おわりにーGATTからWTOへ

貿易政策Ⅰ「17台以前」

山本　和人

2019-4030000402-01

◎貿易

1.現在の貿易システムの原則と仕組みについて説明できるようになる。　(A-1)

2.現在の貿易システムの形成過程について説明できるようになる。　(A-1)

3.現代の貿易システムの問題点について説明できるようになる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

山本　和人

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・２時限　　試験時間割：2020/01/21　５時限

◎－－－　概要　－－－◎

18世紀末から19世紀初期にかけてイギリスで起こった産業革命によって、それまで基本的に自給自足を主としていた世界の各国・地域は、貿易を通じて、一つに結び付けられた。こうして国際分業体制が成立したのである。以後、約200年間、世界は、紆余曲折を経て、さらに結びつきを強め、1990年代以降、国を超えて地球(世界)が一体化しつつあるという認識から「グローバリゼーション」という言葉が生み出されるようになった。

しかし、現実をみれば、ことはそう単純ではない。米中貿易摩擦(戦争）、イギリスのEU離脱、アメリカを筆頭とする各国の保護貿易主義の台頭など、グローバリゼーションに逆行する動きが顕著である。

本講義では、産業革命後の主要国(イギリス、アメリカ）の貿易政策を具体的に跡付けることで、世界をどのように編成しようとしたのかを検討することにする。

次にグローバリゼーション誕生の経緯を歴史的、経済的、政治的な視角から分析したうえで、それを推進させるためにアメリカが中心となって作ったWTO（「世界貿易機関」）に焦点を当てる。とくに2008年の世界金融危機（リーマン・ショック）に端を発した不況下での各国の貿易政策とそれに対するWTOの対応や役割とその限界について説明する。

第3に、WTOのもとでの交渉が難航し、それを主導したアメリカ自身がトランプ政権下で、二国間貿易政策さらには一方的貿易政策に傾斜していること、それが中国との激しい貿易摩擦（戦争）を引き起こしていることを重視し、米中貿易摩擦の実態とのそのゆくえを考えることにしたい。

テキスト『世界経済――グローバリゼーションの歴史と現実――』とテキストを補足するプリント通りに講義は進行しますので、予め次回の進行範囲を読んでおくと講義の理解度は高まります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代の貿易システムの基本的構造について説明できるようになる（知識・理解）

産業革命以降、とくに第2次大戦後の世界経済、貿易政策の移り変わりについて理解できるようになる（知識・理解）

現代世界経済の構造変化、貿易システムの機能不全、主要国の貿易政策の転換について説明できるようになる（知識・理解）

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として　教科書の指定した部分とそれを要約したプリントを予め読んでおいてください。

復習として、要約プリントの各まとめの部分にある理解度テストに挑戦してください。答え合わせは翌週の講義の初めに行います。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価の方法とそれらの配分割合は次の通りです。定期試験（80%）と講義中に行う１、２回の小テストの結果（20%）で判断します。具体的には、第2次大戦を契機に構築された貿易システムの特徴とその歴史的変質過程について、どの程度まで正確に説明できるかが評価基準となります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山本和人・鳥谷一生編著『世界経済――グローバリゼーションの歴史と現実――』ミネルヴァ書房、2019年8月刊行予定

◎－－－　参考書　－－－◎

山本和人『多国間通商協定GATTの誕生プロセス―戦後世界貿易システム成立史研究（増補版）』ミネルヴァ書房、2019年　ISBN 978-4-623-08567-5
山本和人『戦後世界貿易秩序の形成―英米の協調と角逐―』ミネルヴァ書房、1999年　ISBN 4-623-03045-8
山崎勇治/嶋田巧編『世界経済危機における日系企業ー多様化する状況への新たな戦略ー』ミネルヴァ書房、2012年の第5章「多国間通商協定GATTの構想と誕生プロセス」（山本和人稿）　ISBN 978-4-623-06281-2
その他、講義中に、参考文献を指摘しますので、図書館や書店で調べてください。また毎日欠かさず、新聞の経済・政治欄に目を通す習慣をつけることが重要です。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義の性格上、前期に「貿易政策Ⅰ」を履修することを強く推奨します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．はじめにー講義の要約
２．産業資本主義の誕生とイギリス中心の世界経済――19世紀イギリス貿易政策の実態
３．第2次大戦と世界経済――イギリスからアメリカ中心の世界経済へ
４．多国間通商協定GATTの成立とアメリカ貿易政策――戦後世界貿易システムの形成（1）
５．多国間通商協定GATTの成立とアメリカ貿易政策――戦後世界貿易システムの形成（2）
６．世界貿易システム（GATT体制）の展開（1）――欧州統合問題を中心に
７．世界貿易システム（GATT体制）の展開（2）――南北問題を中心に
８．世界貿易システム（GATT体制）の変貌（1）――日米貿易摩擦を中心に
９．世界貿易システム（GATT体制）の変貌（2）――新自由主義の台頭
10．新自由主義・グローバリゼーションの進行とWTOの成立
11．WTOの解剖(1)――サービス貿易・知的財産権・投資措置に関する取決め
12．WTOの解剖(2)――難航するドーハラウンドとFTAの急増
13．中国の台頭――WTO加盟とその貿易政策
14．米中貿易戦争――二国間貿易政策への回帰
15．まとめ

貿易政策Ⅱ「17台以前」

山本　和人

2019-4030000403-01

◎貿易

1.現代の貿易システムの基本的構造について説明できるようになる（知識・理解）

2.産業革命以降、とくに第2次大戦後の世界経済、貿易政策の移り変わりについて理解できるようになる（知識・理解）

3.現代世界経済の構造変化、貿易システムの機能不全、主要国の貿易政策の転換について説明できるようになる（知識・理解）

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

貿易特別講義Ａ（韓国経済の理解）

2019-4030000405-01

李　錦東

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：2020/01/21　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

　戦後、韓国の政治や経済、社会は、ドラマチックな変貌を成し遂げてきた。戦後、朝鮮半島は日本から解放され、冷戦構造の中で韓国と北朝鮮に分断される。その後、朝鮮半島では、1950年6月に朝鮮戦争が勃発し、1953年7月に休戦協定が成立するまで、約3年間戦場となり、全土が廃墟化した。1950年代世界の最貧国の一つであった。しかし、今日、韓国はOECD加盟国であり、GDP規模が2018年世界12番、一人当たり実質GDPが32,000ﾄﾞﾙを超えている。また、スマホなどの最先端機器の輸出国、K-Popなどの韓流発信地でもある。韓国経済の特徴として、輸出志向型工業化、財閥（大企業）中心の発展、急速な経済成長や産業構造の変化などなどがあげられる。このクラスは、戦後から今日に至るまでの韓国の政治及び経済の変化を社会科学の観点から探っていく。また、この授業を受講することで、韓国のみならず日本やアジアの近隣国の経済、社会的事情についても考える機会が増える。

◎－－－　到達目標　－－－◎

①戦後から今日に至るまでの韓国経済の変貌を説明できる(知識・理解)

②主な政治・経済の変化について一つ以上の観点をもてる(知識・理解)

③経済開発計画、輸出主導工業化について説明できる(知識・理解)

④高度成長の要因と歴史的条件について説明できる(知識・理解)

⑤財閥の成長、韓国経済に対する光と影を理解する(知識・理解)

⑥韓国の政治経済における1987年の意味を振り返る(知識・理解)

⑦グローバル化と1997年の東アジア通貨危機以降の社会変化を理解できる(知識・理解)

⑧韓国で深刻に進む少子化・高齢化の問題への取り組みを理解できる(知識・理解)

⑨韓国の将来について考え、自分の意見をもてるようになる(朝鮮半島の統一問題など)(知識・理解)

⑩韓国社会がドラマチックに変化する背景には何があるのかを自分の意見をもてる(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

　予習としては、できるだけ指定範囲を事前に、調べ・読んで下さい（30分）。授業中に指定された内容についてインターネットなどを活用して、関連するデータを調べること、授業後には、しっかり復習してください。授業時間外の学習は、授業中のノートをもとにして、予習で調べたデータの含意する意味を理解することです(60分)。韓国経済に関する基本知識を吸収しながら、講師の論理の筋を理解し、自国（主に日本）の状況と比べてみましょう。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

※ 期末テストで、本シラバスに提示している到達目標がどの程度達成されているかを確認します。評価は、原則的に定期試験（70%）と授業中のノートテイキング、質疑応答、発言回数などの積極的な授業参加態度（30%）を総合して行い、60点以上を合格とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

とくになし。講師作成のpptを利用します。

◎－－－　参考書　－－－◎

1. 韓洪九『韓洪九の韓国現代史 韓国とはどういう国か』平凡社、2003/12/17
2. 韓洪九『韓洪九の韓国現代史〈2〉負の歴史から何を学ぶのか』平凡社、2005/07/01
3. 小倉紀蔵『現代韓国を学ぶ』有斐閣選書、2012/3/26
4. 金 美徳『図解 韓国四大財閥早わかり (1時間でわかる)』、2012/6/16
5. 木宮正史『韓国―民主化と経済発展のダイナミズム』ちくま新書、2003/8
6. 渡辺 利夫 (著), 金 昌男 (著, 原著)『韓国経済発展論』、1996/3　　など。
7. 裵海善『韓国経済がわかる20講』明石書店、2014/6
8. 百本和弘、李海昌（編著）『韓国経済の基礎知識』、2012/2
9. また、必要に応じて参考文献を授業中に紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

経済学や政治学に関心を持ち、日々のニュースをチェックすることと、知らないところは、積極的に調べる習慣をつけるように努力しましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

※授業は、基本的に授業計画に沿って進めますが、限界的な変化は必至です。

第1回 オリエンテーション（授業の進め方・韓国という国・戦後の大統領など）。
第2回 韓国の経済成長（基本データ）、政治体制の変革①
第3回 政治体制の変革② 50年代までの初期工業化の成果と問題
第4回 1960年の学生市民革命と民主党政権の改革 1961年の軍事クーデタと経済開発計画の作成
第5回 経済開発5カ年計画の作成と方法、 第1次、２次、3次、4次経済開発計画
第6回 経済開発計画と資金・技術問題：外国資本と借款の導入、海外技術導入
第7回 経済開発計画と工業化戦略 70年代の重化学工業化の成果と問題
第8回　韓国の財閥（その特徴と問題）第5次、６次、７次経済開発計画
第9回 1980年代の民主化と開発経済政策の変容：韓国映画『1987』（2017年作）
第10回 グローバル化と新自由主義(市場開放と規制緩和)、1997年東アジア通貨危機
第11回 1997年の東アジア通貨危機以降の社会変化を理解できる、格差社会、韓流と国家ブランド戦略
第12回 学歴社会のしわ寄せ：高学歴の若年層の高い失業率
第13回 直接民主主義と「ロウソク（キャンドル）」、インターネットと韓国政治
第14回 外国人受け入れ政策：多文化共生主義、3K職種の人手不足、結婚移民者
第15回 世界経済における韓国経済の位置づけ、将来について(朝鮮半島の統一問題など)考える。

貿易特別講義Ａ（韓国経済の理解）

2019-4030000405-01

李　錦東

◎貿易:A-1

1.①戦後から今日に至るまでの韓国経済の変貌を説明できる　(A-1)

2.②主な政治・経済の変化について一つ以上の観点をもてる　(A-1)

3.③経済開発計画、輸出主導工業化について説明できる　(A-1)

4.④高度成長の要因と歴史的条件について説明できる　(A-1)

5.⑤財閥の成長、韓国経済に対する光と影を理解する　(A-1)

6.⑥韓国の政治経済における1987年の意味を振り返る　(A-1)

7.⑦グローバル化と1997年の東アジア通貨危機以降の社会変化を理解できる　(A-1)

8.⑧韓国で深刻に進む少子化・高齢化の問題への取り組みを理解できる　(A-1)

9.⑨韓国の将来について考え、自分の意見をもてるようになる(朝鮮半島の統一問題など)　(A-1)

10.⑩韓国社会がドラマチックに変化する背景には何があるのかを自分の意見をもてる　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1

1.①戦後から今日に至るまでの韓国経済の変貌を説明できる　(A-1)

2.②主な政治・経済の変化について一つ以上の観点をもてる　(A-1)

3.③経済開発計画、輸出主導工業化について説明できる　(A-1)

4.④高度成長の要因と歴史的条件について説明できる　(A-1)

5.⑤財閥の成長、韓国経済に対する光と影を理解する　(A-1)

6.⑥韓国の政治経済における1987年の意味を振り返る　(A-1)

7.⑦グローバル化と1997年の東アジア通貨危機以降の社会変化を理解できる　(A-1)

8.⑧韓国で深刻に進む少子化・高齢化の問題への取り組みを理解できる　(A-1)

9.⑨韓国の将来について考え、自分の意見をもてるようになる(朝鮮半島の統一問題など)　(A-1)

10.⑩韓国社会がドラマチックに変化する背景には何があるのかを自分の意見をもてる　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易特別講義Ａ（韓国経済の理解）

2019-4030000405-01

李　錦東

◎経営:A-1

1.①戦後から今日に至るまでの韓国経済の変貌を説明できる　(A-1)

2.②主な政治・経済の変化について一つ以上の観点をもてる　(A-1)

3.③経済開発計画、輸出主導工業化について説明できる　(A-1)

4.④高度成長の要因と歴史的条件について説明できる　(A-1)

5.⑤財閥の成長、韓国経済に対する光と影を理解する　(A-1)

6.⑥韓国の政治経済における1987年の意味を振り返る　(A-1)

7.⑦グローバル化と1997年の東アジア通貨危機以降の社会変化を理解できる　(A-1)

8.⑧韓国で深刻に進む少子化・高齢化の問題への取り組みを理解できる　(A-1)

9.⑨韓国の将来について考え、自分の意見をもてるようになる(朝鮮半島の統一問題など)　(A-1)

10.⑩韓国社会がドラマチックに変化する背景には何があるのかを自分の意見をもてる　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

貿易特別講義Ｂ（商社のアントレプレナーシップと日本貿易）

2019-4030000406-01

保田　明子

期別：集中後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：集中後期　　試験時間割：2019/09/06　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

日本特有の企業といわれる「商社」について、日本貿易と併せて学ぶ講義です。

講義では、商社の業界団体において研究に従事してきた実務経験を活かし、商社の成立と発展の歴史とともに創業者のアントレプレナーシップ（起業家精神）を取り上げます。また、現代の商社機能ならびに各社の戦略についても、具体的な事例とともにわかり易く紹介します。

商社は大学生の就職希望ランキングで常に上位を占めていますが、受講生の皆さんには、各商社の企業風土・組織文化とそれらが形成された背景を理解し、業界研究に役立てていただきたいと思います。さらに、商社が世界経済・日本経済において、どのような役割を果たしているのか、私たちの生活とどのように関わっているのか、商社の本質についても理解していただきたいと思います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商社の歴史・基本的特徴・現代のビジネス展開について、日本貿易の発展プロセスと併せて理解することにより、世界経済・日本経済に対する新たな視点を養うことができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、日頃から新聞・雑誌の経済欄を読んでください。
復習として、配付資料をよく読んで講義概要を振り返り内容を十分に理解できているか確認してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

商社と日本貿易の概要について理解できているかを評価の基準とし、定期試験５０％、講義に対する積極性などの平常点５０％を目安に総合的に判断します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

資料はすべて配付します。

◎－－－　参考書　－－－◎

参考となる書籍等は講義の中で紹介します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

０１．はじめに～商社とは何か
０２．商社の成立と発展①明治
０３．商社の成立と発展②昭和
０４．商社の成立と発展③平成
０５．商社をつくった人々①
（益田孝・岩崎弥太郎ほか）
０６．商社をつくった人々②
（伊藤忠兵衛・兼松房治郎ほか）
０７．商社をつくった人々③
（大倉喜八郎・森村市左衛門ほか）
０８．商社の７機能
０９．商社の活動事例①旧財閥系
１０．商社の活動事例②非財閥系
１１．商社の活動事例③九州
１２．商社のエネルギー戦略
１３．商社のコンビニ戦略
１４．商社のダイバーシティ戦略
１５．まとめ

◎－－－　URL　－－－◎

一般社団法人日本貿易会
(http://www.jftc.or.jp/)

貿易特別講義Ｂ（商社のアントレプレナーシップと日本貿易）

2019-4030000406-01

保田　明子

◎貿易:A-1

1.　商社の歴史・基本的特徴・現代のビジネス展開について、日本貿易の発展プロセスと併せて理解することにより、世界経済・日本経済に対する新たな視点を養うことができる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1

1.　商社の歴史・基本的特徴・現代のビジネス展開について、日本貿易の発展プロセスと併せて理解することにより、世界経済・日本経済に対する新たな視点を養うことができる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易特別講義Ｂ（商社のアントレプレナーシップと日本貿易）

2019-4030000406-01

保田　明子

◎経営:A-1

1.　商社の歴史・基本的特徴・現代のビジネス展開について、日本貿易の発展プロセスと併せて理解することにより、世界経済・日本経済に対する新たな視点を養うことができる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

貿易特別講義Ｃ「（International Communication Program Ⅰ）」

2019-4030000037-01

ヤング，シャーリー

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This course is the first of a two-part International Communication Exchange Program. The program is a collaboration between Fukuoka University and Ubon Ratchathani University in Thailand. The purpose is to give students an opportunity to improve their English speaking skills by talking one-to-one with a peer of a similar level via Skype. Additionally, it is a chance for students to build a friendship and network with someone in the Asian region outside Japan.

In spring students will learn techniques for how to effectively communicate with another non-native English speaker. Activities will include intercultural awareness and a better understanding of Japanese culture as well as Thai. Students will also explore the trade relationship between Japan and Thailand to prepare them for conversation topics in the autumn semester. Lastly, working in small groups, they will produce some short video materials to be shared with their Thai partners.

Due to the different timing of the Thai and Japanese academic calendars, talking with Thai partners will be limited to 3～4 classes this semester.

Lastly, dr awing on my 10 year’s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government’s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Prepare students for communicating in English in an authentic setting, and develop effective listening skills and communication strategies.(知識・理解)

Build confidence through improved vocabulary, develop a clear speaking voice, and use English to communicate with other non-native speakers. (知識・理解)

Challenge students to think more consciously about their own cultural norms and behaviour as a means to better intercultural communication.(知識・理解)

Research information about the trade relationship between Japan and Thailand.(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly homework tasks. At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

This is a skills-based course and assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(Homework 20%: written assignments, Project 20%: report on research, demonstrate listening and speaking skills, Skype Diary 15%: written reports on talks with Thai partner, Speaking 15%: in-class conversations, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Class contribution 10%: questions/answers/discussion between teacher and classmates)

◎－－－　テキスト　－－－◎

Gordenker, A., & Rucynski, J. (2015). Working in Japan- Video interviews with 14 professionals. Tokyo: Cengage Learning K.K.
ISBN 978-4-86312-248-2
Additional materials will be provided by the teacher or guidance given for student’s own research.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-4-　ISBN 86312-248-2

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

Business English Conversation Elementary is a pre-requisite for this course. Commerce Faculty students who have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.
本講義を履修する前に「ビジネス英会話　初級」を履修しておくことが望ましいです。履修希望者で過去1年以内に「ビジネス英会話　初級」を履修していない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡して面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Language skills require daily practice if there is to be genuine progress made. Students are expected to actively participate in classroom discussions and activities as well as encouraged to use their English wherever possible outside of the classroom. Links to online resources for this purpose will be provided.

The most effective learning technique for the majority of people is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at anytime they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

* This class is limited to a maximum of 25 students.
　このクラスは２５人が上限です。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction & project topics
2. Vocabulary #1, making questions
3. Giving opinions, language of comparison
4. Effective listening #1
5. What do you know about Thailand?
   Brainstorming, identifying research sources
6. Different cultural behaviour: examples
7. What is it to be Japanese?
   Vocabulary #2
8. Effective Listening #2
9. Language of description & introduction
10. Effective communication techniques
11. Using Skype/other software
12. Introduction to Thai partners
13. Skype exchange
14. Skype exchange
15. Project & course evaluation

◎－－－　URL　－－－◎

2019貿易特別講義C:YOUNG
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp)

貿易特別講義Ｃ「（International Communication Program Ⅰ）」

2019-4030000037-01

ヤング，シャーリー

◎貿易:A-1

1.Prepare students for communicating in English in an authentic setting, and develop effective listening skills and communication strategies.　(A-1)

2.Build confidence through improved vocabulary, develop a clear speaking voice, and use English to communicate with other non-native speakers.　(A-1)

3.Challenge students to think more consciously about their own cultural norms and behaviour as a means to better intercultural communication.　(A-1)

4.Research information about the trade relationship between Japan and Thailand. (A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1

1.Prepare students for communicating in English in an authentic setting, and develop effective listening skills and communication strategies.　(A-1)

2.Build confidence through improved vocabulary, develop a clear speaking voice, and use English to communicate with other non-native speakers.　(A-1)

3.Challenge students to think more consciously about their own cultural norms and behaviour as a means to better intercultural communication.　(A-1)

4.Research information about the trade relationship between Japan and Thailand. (A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易特別講義Ｃ「（International Communication Program Ⅰ）」

2019-4030000037-01

ヤング，シャーリー

◎経営:A-1

1.Prepare students for communicating in English in an authentic setting, and develop effective listening skills and communication strategies.　(A-1)

2.Build confidence through improved vocabulary, develop a clear speaking voice, and use English to communicate with other non-native speakers.　(A-1)

3.Challenge students to think more consciously about their own cultural norms and behaviour as a means to better intercultural communication.　(A-1)

4.Research information about the trade relationship between Japan and Thailand. (A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

貿易特別講義Ｃ「（隔週講義）」（九州経済と商社）

2019-4030000037-02

保田　明子、長谷川　公一、山岸　豊生、本間　隆行、河辺　博之、伊地知　俊一、能見　尚子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：２　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・３時限, ４時限　　試験時間割：2020/01/16　２時限

◎－－－　概要　－－－◎

現役の商社パーソンがグローバルな実務経験をもとに、商社とは何か、商社の情報収集活動、内外情勢の見方、九州における取組み、求める人材像などについてオムニバス形式で講義します。

商社は大学生の就職希望ランキングで常に上位を占めていますが、あまり身近に感じられる存在ではありません。受講生の皆さんには、商社そのものに対する理解を深めていただくだけでなく、商社パーソンがどのような問題意識を持ち、どのような活動をしているのかについても併せて理解していただきたいと思います。

※本講義は、東京からの出張講義が中心となるため、１回２講義、基本的に隔週の開講となります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

商社の基本的特徴と現代のビジネス展開について、多角的な問題意識を理解することにより、世界経済・日本経済・九州経済に対する新たな視点を養うことができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、日頃から新聞・雑誌の経済欄を読んでください。
復習として、配付資料をよく読んで講義概要を振り返り内容を十分に理解できているか確認してください。

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

商社の概要について理解できているかを評価の基準とし、定期試験５０％、講義に対する積極性などの平常点５０％を目安に総合的に判断します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

資料はすべて配付します。

◎－－－　参考書　－－－◎

参考となる書籍等は講義の中で紹介します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

０１・０２　９月１８日
　総論（イントロダクション）
　　担当　保田　明子（日本貿易会）
０３・０４　１０月０２日
　各論（商社の情報収集活動）
　　担当　長谷川公一（三井物産戦略研究所）
０５・０６　１０月１６日
　各論（総合商社の新興国における取組み）
　　担当　山岸　豊生（豊田通商）
０７・０８　１０月３０日
　各論（商社と国際商品市況）
　　担当　本間　隆行（住友商事グローバルリサーチ）
０９・１０　１１月２０日
　総論（商社の成立と発展）
　　担当　保田　明子（前掲）
１１・１２　１１月２７日
　　各論（専門商社の取組みと求める人材像）
　　担当　河辺　博之（森村商事）
１３・１４　１２月１１日
　　各論（九州法人の取組みと求める人材像）
　　担当　伊地知俊一・能見　尚子（双日九州）
１５　１２月１８日
　　総論（まとめ）
　　担当　保田　明子（前掲）

※日程・講師・登壇順は変更となる場合がありますので注意してください。

◎－－－　URL　－－－◎

一般社団法人日本貿易会
(http://www.jftc.or.jp/)

貿易特別講義Ｃ「（隔週講義）」（九州経済と商社）

2019-4030000037-02

保田　明子、長谷川　公一、山岸　豊生、本間　隆行、河辺　博之、伊地知　俊一、能見　尚子

◎貿易:A-1

1.　商社の基本的特徴と現代のビジネス展開について、多角的な問題意識を理解することにより、世界経済・日本経済・九州経済に対する新たな視点を養うことができる。　(A-1)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1

1.　商社の基本的特徴と現代のビジネス展開について、多角的な問題意識を理解することにより、世界経済・日本経済・九州経済に対する新たな視点を養うことができる。　(A-1)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易特別講義Ｃ「（隔週講義）」（九州経済と商社）

2019-4030000037-02

保田　明子、長谷川　公一、山岸　豊生、本間　隆行、河辺　博之、伊地知　俊一、能見　尚子

◎経営:A-1

1.　商社の基本的特徴と現代のビジネス展開について、多角的な問題意識を理解することにより、世界経済・日本経済・九州経済に対する新たな視点を養うことができる。　(A-1)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

貿易特別講義Ｄ「（International Communication ProgramⅡ）」

2019-4030000038-01

ヤング，シャーリー

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：初級　　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

This course is the second of a two-part International Communication Exchange Program collaboration between Fukuoka University and Ubon Ratchathani University in Thailand. The aim of the program is to give students an opportunity to improve their English-speaking skills by talking one-to-one with a peer of a similar level. It is also a chance for them to build a friendship and network with someone in the Asian region outside Japan.

Students from the International Trade Department will be paired with those from the International Management Program at Ubon Ratchathani University and will use Skype technology to discuss a range of topics. Beginning with general content, students will progress to business related topics as both groups adapt to the other ’s style of English, and become more confident in understanding each other.

Emphasis will be on practising intercultural communication in an authentic context to improve listening, speaking, pronunciation and vocabulary. Students will apply the skills and techniques learned in 貿易特別講義C to further develop effective communication with their Thai partners and collaborate on a project to be presented at the end of the semester.

Due to the different timing of the Thai and Japanese academic calendars, talking with Thai partners will be limited to 7 ~ 8 classes this semester.

Lastly, dr awing on my 10 year ’s experience in the Australian Customs Service, I will give practical instruction on the government ’s role in administering and enforcing the laws regulating trade between countries, and how those laws affect business.

◎－－－　到達目標　－－－◎

Further develop student confidence to use their English in an authentic setting.(知識・理解)

Motivate students to use their own English by talking with a peer on topics of their choice.(知識・理解)

Through practical application, have students identify effective communication skills that suit their own learning style. (知識・理解)

In English, make a presentation on a trade exchange between Japan and Thailand.(知識・理解)

To have students experience an international friendship.(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

Students are expected to actively participate in the classroom as well as do weekly assessable homework tasks. At this level, students are expected to show initiative both in the classroom and project activities.

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

This is a skills-based course and assessment is continuous throughout the semester. There will be no final exam for this course.

(Projects 40%: report on research, demonstrate listening and speaking skills, Skype Diary 20%: written reports on talks with Thai partner, Speaking 10%: in-class conversations, Vocabulary 20%: 100+ business related words, Class contribution 10%: questions/answers/discussion between teacher and classmates)

◎－－－　テキスト　－－－◎

Gordenker, A., & Rucynski, J. (2015). Working in Japan- Video interviews with 14 professionals. Tokyo: Cengage Learning K.K.
ISBN 978-4-86312-248-2
Additional materials will be provided by the teacher or guidance given for student ’s own research.

◎－－－　参考書　－－－◎

978-4-　ISBN 86312-248-2

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

貿易特別講義C is a pre-requisite for this course. Commerce Faculty students who have NOT successfully completed the pre-requisite within the last 12 months, contact the course teacher directly BEFORE REGISTERING for this course. This is to check your English language level and ensure enrollment in the most suitable class.
本講義を履修する前に「貿易特別講義Ｃ（International Communication ProgramⅡ）」を履修しておくことが望ましいです。履修希望者で過去1年以内に「貿易特別講義Ｃ（International Communication ProgramⅡ）」を履修していない場合は、登録前に直接講義担当者に連絡して面接を受けてください。この面接は、履修希望者の英語レベルを確認し、最も適したクラスでの履修を確実にするためのものです。
　担当者のemail: young@fukuoka-u.ac.jp

Language skills require daily practice if there is to be genuine progress made. Students are encouraged to build a relationship with their Thai partner and talk with them on Skype outside of class hours. Additionally, links to online resources will be provided to aid in listening practice.

The most effective learning technique for the majority is persistence and regularity. Students should also monitor their own progress throughout the semester, with the help of tools provided by the teacher, and ask for help at any time they need it. Personal responsibility is key for the success of each individual student.

＊This class is limited to a maximum of 25 students. このクラスは２５人が上限です。

※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. Course introduction & Skype information
2. Effective communication techniques review
3. Introduction to Thai partners & project topics
4. Exchange via skype
5. Exchange via skype: Vocabulary #1
6. Trade between Thailand and Japan
7. Barriers to beneficial trade
8. Exchange via skype
9. Exchange via skype
10. Exchange via skype, Vocabulary #2
11. Exchange via skype
12. Presentation: review structure
13. Presentations: delivery & aids
14. Presentations
15. Presentations & course evaluation

* The order of "exchange" classes may change depending on each university's schedule.

◎－－－　URL　－－－◎

2019貿易特別講義D:YOUNG
(https://moodle.cis.fukuoka-u.ac.jp)

貿易特別講義Ｄ「（International Communication Program Ⅱ）」

2019-4030000038-01

ヤング，シャーリー

◎貿易:A-1

1.Further develop student confidence to use their English in an authentic setting. (A-1)

2.Motivate students to use their own English by talking with a peer on topics of their choice. (A-1)

3.Through practical application, have students identify effective communication skills that suit their own learning style. (A-1)

4.In English, make a presentation on a trade exchange between Japan and Thailand. (A-1)

5.To have students experience an international friendship. (A-1)

◎ 国際貿易 ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ 【知識・理解】

A-1 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4 経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ 【技能】

B-1 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3 国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4 異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5 グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ 【態度・志向性】

C-1 国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2 国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3 国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4 国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1

1.Further develop student confidence to use their English in an authentic setting. (A-1)

2.Motivate students to use their own English by talking with a peer on topics of their choice. (A-1)

3.Through practical application, have students identify effective communication skills that suit their own learning style. (A-1)

4.In English, make a presentation on a trade exchange between Japan and Thailand. (A-1)

5.To have students experience an international friendship. (A-1)

◎ 商学 ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ 【知識・理解】

A-1 流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5 商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ 【技能】

B-1 先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ 【態度・志向性】

C-1 社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2 社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3 地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

貿易特別講義Ｄ「（International Communication Program Ⅱ）」

2019-4030000038-01

ヤング，シャーリー

◎経営:A-1

1.Further develop student confidence to use their English in an authentic setting. (A-1)

2.Motivate students to use their own English by talking with a peer on topics of their choice. (A-1)

3.Through practical application, have students identify effective communication skills that suit their own learning style. (A-1)

4.In English, make a presentation on a trade exchange between Japan and Thailand. (A-1)

5.To have students experience an international friendship. (A-1)

◎ 経営学　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ 【知識・理解】

A-1 経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2 経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3 経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4 経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ 【技能】

B-1 経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2 経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3 組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4 問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ 【態度・志向性】

C-1 問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2 常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3 組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ヨーロッパ経済論Ⅰ

2019-4030000393-01

佐々木　昇

期別：前期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・４時限　　試験時間割：2019/07/27　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

戦後、ECSC（ヨーロッパ石炭・鉄鋼共同体）からEEC（ヨーロッパ経済共同体）の結成として始まったヨーロッパ統合の動きは、その後さらにマーストリヒト条約による現在のEU（ヨーロッパ連合）へと発展しました。統合の過程は関税同盟から1992年末の市場統合の完成を経て、欧州中央銀行の創設と単一通貨ユーロの導入へと進みましたが、ギリシャ危機、ユーロ危機、さらにはイギリスのEU離脱問題など、最近のヨーロッパ経済は大きな問題を抱え、統合も順調に進んでいません。またイギリス、フランス、ドイツなどヨーロッパ諸国は、それぞれの個別の歴史と利害関係をもっており、ヨーロッパ経済を理解するにはこれら諸国の利害の共通性と対立関係を十分に認識しておく必要があります。
この講義では、戦後ヨーロッパ経済の発展と統合の過程を、歴史的に、また主要国の対立と協調の関係にも焦点を当てながら、さらに世界経済との関連を明らかにしながら、関税同盟、共通農業政策、市場統合の完成、および通貨統合などEU経済の主要問題を考察していきます。なお、ヨーロッパ経済論Ⅰでは、これらのうちの共通農業政策までの前半部分をあつかいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ヨーロッパ経済の戦後の過程やそこでの主要な出来事について基本的な知識をもっている。(知識・理解)

国際貿易や国際経済の理論や知識を用いてヨーロッパ経済についての現状を理解し説明することができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習としては、テキストに代わる講義概要をあらかじめ配布しますので、よく読んでおくこと。(60分)
講義の後に内容の確認と整理をすること。(60分)
参考書としてあげている文献などでさらに知識を深める。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ヨーロッパ経済の現状について、基本的な経済的出来事についてどの程度理解を深めているのか、またそれについて自分の言葉で説明できるのかということを評価基準とします。
評価方法は、基本的に学期末の試験によりますが、小テストも評価に加味します。配点の比率は定期試験８割、小テスト２割とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

とくに指定したテキストは使用しませんが、講義概要のプリントを適宜配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

現代ヨーロッパ経済　ISBN 9784641220270
EUの知識（14版）　ISBN 9784532112905

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

国際経済や貿易に興味を持って新聞や雑誌を読んでください。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　ヨーロッパ経済の概要
2　戦後体制とヨーロッパ
3　マーシャル援助とヨーロッパの復興
4　ドイツの戦後復興(1)
5　ドイツの戦後復興(2)
6　小テスト
7　ECSCからEECへ
8　EECの成立
9　EECの関税同盟(1)
10　EECの関税同盟(2)
11　ヨーロッパの対外直接投資
12　小テスト
13　共通農業政策(1)
14　共通農業政策(2)
15　講義の総括

ヨーロッパ経済論Ⅰ

2019-4030000393-01

佐々木　昇

◎貿易:A-1,A-2

1.ヨーロッパ経済の戦後の過程やそこでの主要な出来事について基本的な知識をもっている。　(A-1)

2.国際貿易や国際経済の理論や知識を用いてヨーロッパ経済についての現状を理解し説明することができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.ヨーロッパ経済の戦後の過程やそこでの主要な出来事について基本的な知識をもっている。　(A-1)

2.国際貿易や国際経済の理論や知識を用いてヨーロッパ経済についての現状を理解し説明することができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ヨーロッパ経済論Ⅰ

2019-4030000393-01

佐々木　昇

◎経営:A-1,A-2

1.ヨーロッパ経済の戦後の過程やそこでの主要な出来事について基本的な知識をもっている。　(A-1)

2.国際貿易や国際経済の理論や知識を用いてヨーロッパ経済についての現状を理解し説明することができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

ヨーロッパ経済論Ⅱ

2019-4030000394-01

佐々木　昇

期別：後期　　単位数：2　　開講年次： 2　　授業形態：講義　　実務経験：　　科目水準：初級　　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・４時限　　試験時間割：2020/01/22　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

戦後、ECSC（ヨーロッパ石炭・鉄鋼共同体）からEEC（ヨーロッパ経済共同体）の結成として始まったヨーロッパ統合の動きは、その後さらにマーストリヒト条約による現在のEU（ヨーロッパ連合）へと発展しました。統合の過程は関税同盟から1992年末の市場統合の完成を経て、欧州中央銀行の創設と単一通貨ユーロの導入へと進みましたが、ギリシャ危機、ユーロ危機、さらにはイギリスのEU離脱問題など、最近のヨーロッパ経済は大きな問題を抱え、統合も順調に進んでいません。またイギリス、フランス、ドイツなどヨーロッパ諸国は、それぞれの個別の歴史と利害関係をもっており、ヨーロッパ経済を理解するにはこれら諸国の利害の共通性と対立関係を十分に認識しておく必要があります。
この講義では、戦後ヨーロッパ経済の発展と統合の過程を、歴史的に、また主要国の対立と協調の関係にも焦点を当てながら、さらに世界経済との関連を明らかにしながら、関税同盟、共通農業政策、市場統合の完成、および通貨統合などEU経済の主要問題を考察していきます。なお、ヨーロッパ経済論Ⅱでは、これらのうちの通貨統合以後の後半部分をあつかいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ヨーロッパ経済の戦後の過程やそこでの主要な出来事について基本的な知識をもっている。(知識・理解)

国際貿易や国際経済の知識や理論を用いてヨーロッパ経済についての現状を理解し説明することががができる。(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習としては、テキストに代わる講義概要をあらかじめ配布しますので、よく読んでおくこと。(60分)
講義の後に内容の確認と整理をすること。(60分)
参考書としてあげている文献などでさらに知識を深める。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ヨーロッパ経済の現状について、基本的な経済的出来事についてどの程度理解を深めているのか、またそれについて自分の言葉で説明できるのかということを評価基準とします。
評価方法は、基本的に学期末の試験によりますが、小テストも評価に加味します。配点の比率は定期試験８割、小テスト２割とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

とくに指定したテキストは使用しませんが、講義概要のプリントを適宜配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

現代ヨーロッパ経済　ISBN 9784641220270
EUの知識（14版）　ISBN 9784532112905

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

国際経済や貿易に興味を持って新聞や雑誌を読んでください。
※登録については、『学修ガイド』の「登録制限科目について」を参照してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　この講義の概要
2　国際通貨危機とEC通貨統合
3　スネークからEMS(1)
4　スネークからEMS(2)
5　フランス経済
6　小テスト
7　1992年末市場統合の完成(1)
8　1992年末市場統合の完成(2)
9　イギリス経済
10　単一通貨ユーロの導入(1)
11　単一通貨ユーロの導入(2)
12　ユーロと「安定成長協定」
13　小テスト
14　ドイツの統一
15　講義の総括

ヨーロッパ経済論Ⅱ

2019-4030000394-01

佐々木　昇

◎貿易:A-1,A-2

1.ヨーロッパ経済の戦後の過程やそこでの主要な出来事について基本的な知識をもっている。　(A-1)

2.国際貿易や国際経済の知識や理論を用いてヨーロッパ経済についての現状を理解し説明することがができる。　(A-2)

◎　国際貿易　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる
A-3　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。
A-4　経済に関して世界的な影響を持つ現在および過去の主な出来事についての知識をもっている。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。
B-2　貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。
B-3　国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を発揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。
B-4　異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。
B-5　グループで目標の設定とその達成に必要な行動を行う際、意思決定に貢献し、目標達成に必要な役割を果たすことができる。（2018年度）

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。
C-2　国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。
C-3　国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
C-4　国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

◎商学:A-1,A-2

1.ヨーロッパ経済の戦後の過程やそこでの主要な出来事について基本的な知識をもっている。　(A-1)

2.国際貿易や国際経済の知識や理論を用いてヨーロッパ経済についての現状を理解し説明することがができる。　(A-2)

◎　商学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
A-3　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
A-4　商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。
A-5　商学は実学であり、多種多様な知識、見識とともに商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識が用いられるべきであることを理解している。(2018年度)

Ｂ　【技能】

B-1　先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
B-2　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
B-3　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
B-4　企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
C-2　社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
C-3　地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

ヨーロッパ経済論Ⅱ

2019-4030000394-01

佐々木　昇

◎経営:A-1,A-2

1.ヨーロッパ経済の戦後の過程やそこでの主要な出来事について基本的な知識をもっている。　(A-1)

2.国際貿易や国際経済の知識や理論を用いてヨーロッパ経済についての現状を理解し説明することがができる。　(A-2)

◎　経営学　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。
A-3　経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。
A-4　経営学および会計学の知識を用いて企業の財務活動を説明することができる。（2018年度）

Ｂ　【技能】

B-1　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。
B-2　経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。
B-3　組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

◎商学:A-1,A-2

1.ヨーロッパ経済の戦後の過程やそこでの主要な出来事について基本的な知識をもっている。　(A-1)

2.国際貿易や国際経済の知識や理論を用いてヨーロッパ経済についての現状を理解し説明することがができる。　(A-2)

◎　商学（第二部）　　ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）

Ａ　【知識・理解】

A-1　流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の知識ならびに人文科学、社会科学および自然科学についての基本的な知識を身につけている。
A-2　商学の知識を用いて企業および地域が置かれている社会経済的状況(内外の環境与件) を理解できる。
A-3　商学の知識を用いて企業および地域が解決すべき経済的・社会的課題を説明することができる。

Ｂ　【技能】

B-1　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題を自ら発見できる。
B-2　商学の知識･理解を用いて企業および地域社会における課題の解決策を自ら考え提案することができる。
B-3　協働して企業および地域における課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を活用することができる。
B-4　企業および地域社会において求められる情報処理能力を身につけている。

Ｃ　【態度・志向性】

C-1　企業および地域社会の発展に積極的に取り組み、貢献する姿勢をもっている。
C-2　常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。
C-3　企業および地域社会において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。